MAZDA ATENZA

“Zoom-Zoom”・・・

それは英語で「ブー、ブー」という車の走行音をあらわす、子供言葉です。
誰でも、子供の頃は、動くことに対するあこがれがありました。
車のエンジン音が響くと、ドキドキする感じ。
カラダがビュンビュン流れる時の、快感。
めまいがするようなうれしさ。

きっと、みんな知っていたはずです。
でも、大人になると、ちょっと忘れていたりする。
それを、マツダは忘れません。
それが、私たちの“Zoom-Zoom”の意味。

小さい時に知っていた、
ウズウズするような走る喜びを忘れていない皆様のために、
素晴らしいクルマを作り続けます、という
私たちの新しいブランド・パーソナリティのコア・エッセンスです。

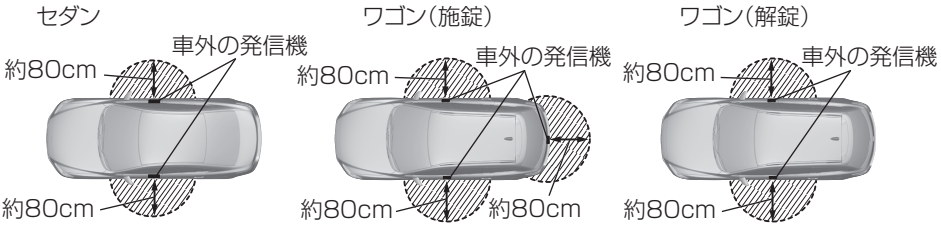
運転する前に

アドバンストキー

●アドバンストキーの作動範囲

ドア、リアゲート/トランクの施錠/解錠

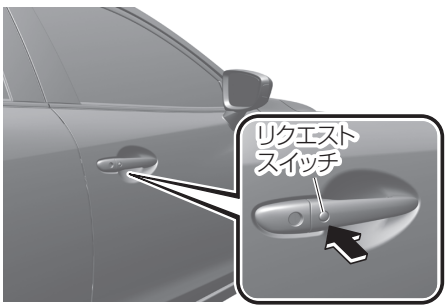
の範囲で操作ができます。



●ドア、リアゲートの施錠/解錠

フロントドア
キーを携帯し、フロントドアのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リアゲート/トランクが施錠/解錠します。
リアゲート (ワゴン 施錠のみ)
キーを携帯し、リアゲートのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リアゲートが施錠します。

フロントドア



リアゲート(ワゴン施錠のみ)

リクエストスイッチを押して施錠/解錠できます。

	施錠時	解錠時
非常点滅灯/チャイム	1回作動	2回作動

2 詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

シート、シートベルトの調節

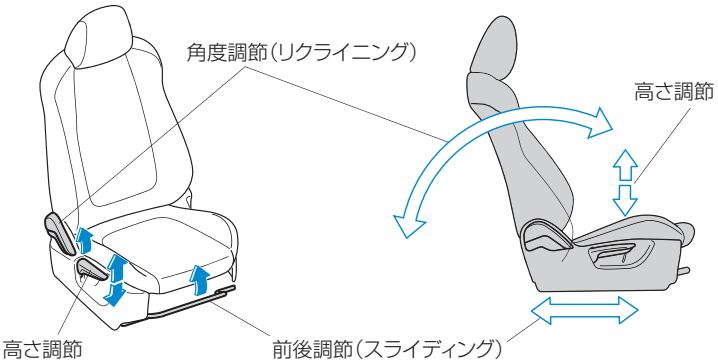
●シート

運転席の操作

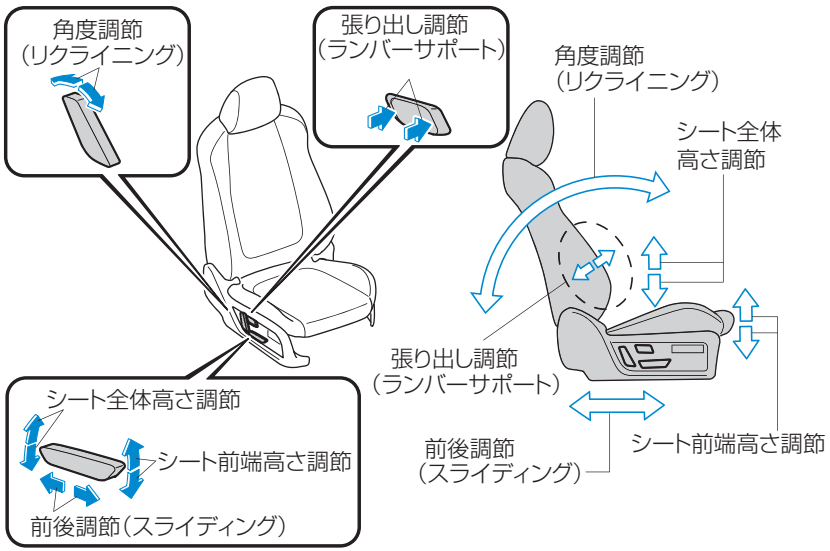
マツダが推奨するドライビングポジションにするには、次の手順で調節します。

1. ハンドルとシートを初期位置へ移動する。
2. シートの背もたれの角度を調節する。
3. シートの前後位置を調節する。
4. シートの高さを調節する。
5. ハンドルの位置を調節する。
6. ヘッドレストの位置を調節する。

マニュアルシート



パワーシート



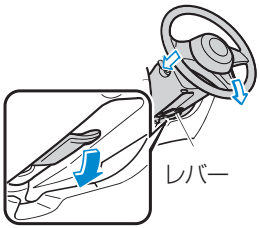
詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

運転する前に

マツダが推奨するドライビングポジションに調節する前に

ハンドルの初期位置への移動のしかた

レバーを下げて、ハンドルの高さを一番下の位置にし、奥まで押し下げます。



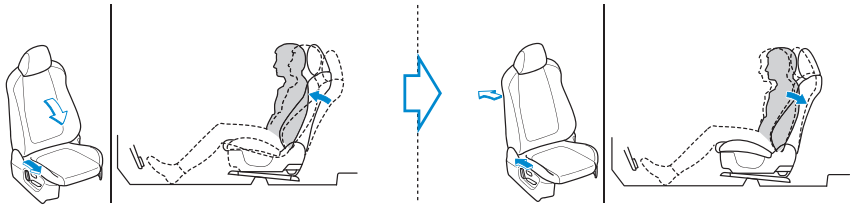
シートの初期位置への移動のしかた

1. シートを一番後ろに下げます。
2. シートの高さを一番下まで下げます。
3. シートに深く腰かけて、背もたれと背中を密着させます。

マツダが推奨するドライビングポジションへの調節手順

シートの背もたれの角度を調節する（リクライニング）

楽な姿勢で座れる角度にシートの背もたれを調節します。

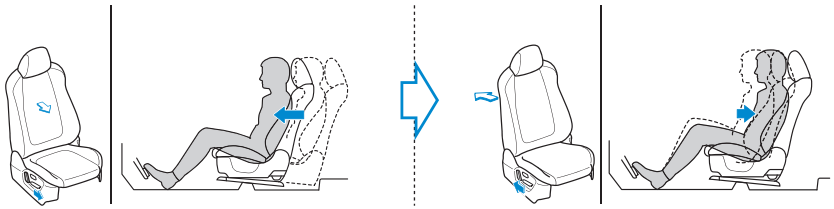


少し前かがみの姿勢で、お腹まわりが窮屈と感じる角度まで背もたれを起こします。

お腹まわりに窮屈な感じがなく、楽に座れる姿勢まで背もたれを倒します。

シートの前後位置を調節する（スライディング）

ペダルが操作しやすい位置に調節します。



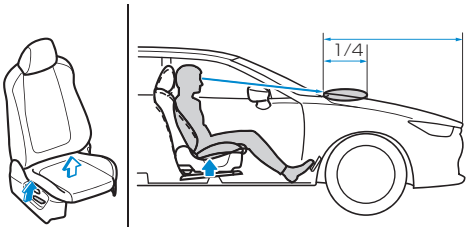
アクセルペダルとブレーキペダルの中間に右足のかかとを置きます。かかとを床につけた状態でブレーキペダルに右足を乗せシートをできるだけ前へ動かします。

ブレーキペダルに右足を乗せたまま、足首が窮屈と感じなくなるまでシートを後ろへ動かします。詳細は本編に記載しています。

詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

シートの高さを調節する

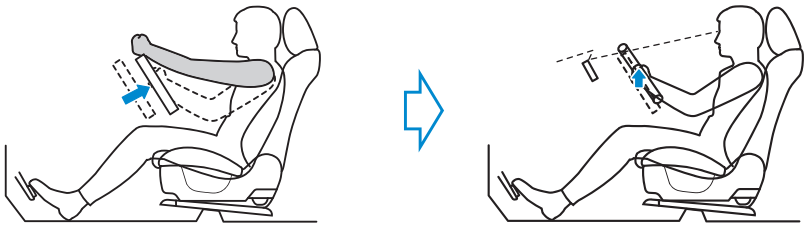
前が見やすく、運転しやすい高さに調節します。



背もたれに背中を密着させた状態で、ボンネットの後端から1/4が確認できる高さにシートの高さを調節します。マニュアルシートはシートの高さを上げると、前方へシートが移動します。前後調節をもう一度行なってください。

ハンドルの位置を調節する

運転操作がしやすく、メーターが見える位置に調節します。

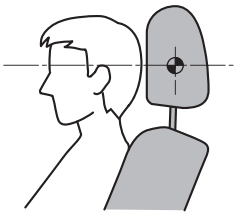


背もたれに背中を密着させた状態で、両腕をのばし、ハンドル上部に両手を置いて、手首の位置までハンドルを引き寄せます。

メーター類がしっかり見えるように、ハンドルの高さを調節します。
レバーを引き上げてハンドルを固定します。

ヘッドレストの位置を調節する

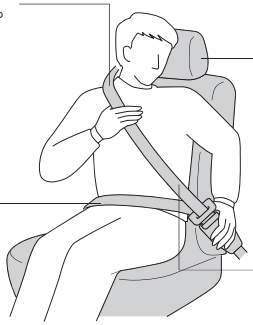
ヘッドレストの中央が、耳の上部と同じ高さになるように調節してください。



詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

運転する前に

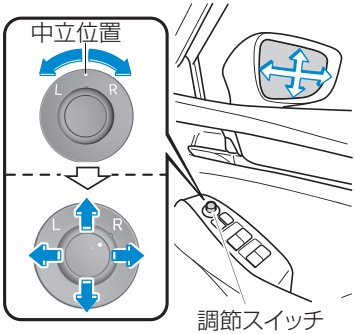
●シートベルト



詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

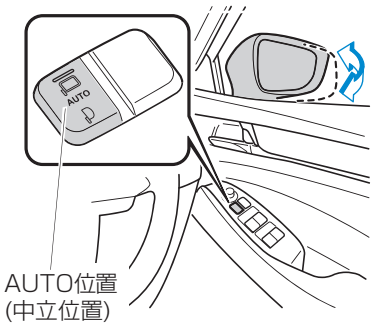
ミラーの調節

●ドアミラー



1 調節スイッチを助手席側（L）または運転席側（R）のどちらか調節したいミラー側にまわします。

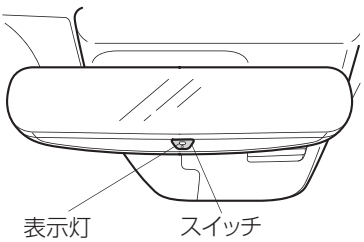
2 調節スイッチを操作して、後方が十分確認できるように調節します。



自動格納機構

電源ポジションがOFFまたはACCのときに作動します。
自動格納ドアミラースイッチをAUTOの位置（中立位置）にすると、ドアの施錠/解錠に連動して自動でドアミラーが格納/展開します。
また、電源ポジションをONまたはエンジンを始動させるとドアミラーが自動で展開します。

●ルームミラー（自動防眩機能）



電源ポジションがONのとき、後続車からのヘッドランプの光を自動で軽減します。

スイッチを押すごとにON、OFFが切り替わります。
スイッチがONのときは表示灯が点灯します。

電源ポジションがONのときチェンジレバー/セレクトレバーをRの位置にすると防眩機能は一時停止します。

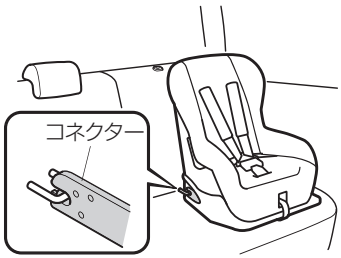
詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

ISOFIX対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

- リアシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使用してください。選択の目安表は本文を参照してください。

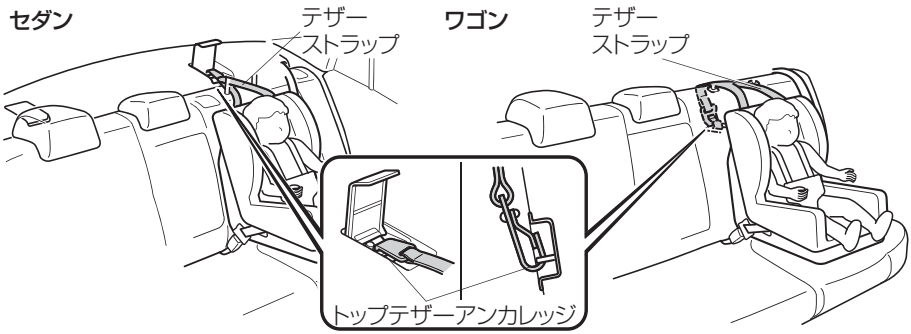
1. チャイルドシートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。
2. フロントおよびリアシートが確実に固定されていることを確認します。

3. チャイルドシートロアアンカレッジのカバーを取りはずし、ロアアンカレッジの位置を確認します。



4. ヘッドレストを取りはずします。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。
5. チャイルドシートのコネクターをロアアンカレッジに取り付けます。

6. チャイルドシートのテザーストラップをイラストのようにトップテザーアンカレッジにかけます。

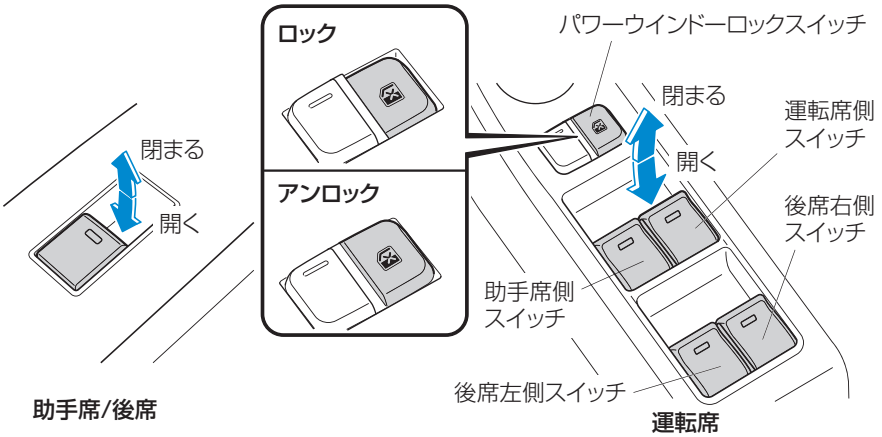


7. テザーストラップがたるまないように調節します。
8. チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

8 詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

窓ガラスの開閉

電源ポジションがONのとき、スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。
助手席、後席の窓ガラスは運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているとき開閉できます。

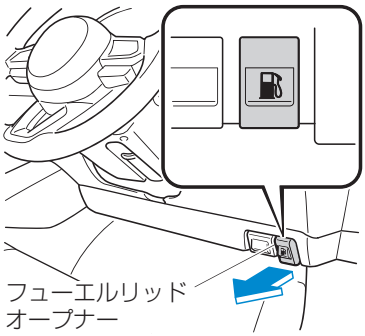


詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

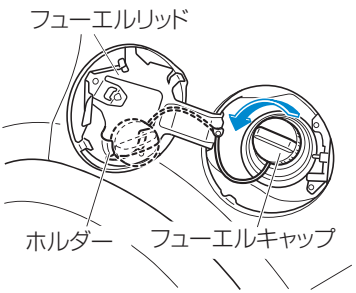
運転する前に

給油するとき

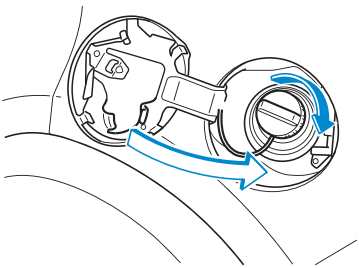
項目			サービスデータ
使用燃料	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5		無鉛レギュラーガソリン
	SKYACTIV-D 2.2		低硫黄軽油
タンク容量 (参考値)	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5		62 L
	SKYACTIV-D 2.2	2WD車	62 L
		4WD車	52 L



1. 運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開きます。
フューエルリッドは車の左側後方にあります。



2. フューエルキャップをゆっくり左に回して開けます。
3. フューエルキャップをフューエルリッドのホルダーにかけます。
4. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油します。給油が自動で停止したら、ノズルを抜きます。



5. フューエルキャップを右に回し、カチッと 1 回音がするまで締め付けます。
6. フューエルリッドが確実にロックするまで押しつけて閉めます。

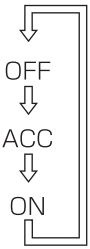
詳しくは第1章「運転する前に」をお読みください。

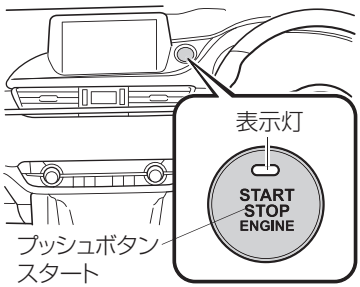
エンジンの始動と停止

● 電源ポジション (エンジンスイッチ)

マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏まない状態で、プッシュボタンスタートを押すごとにOFF、ACC、ONの順に電源ポジションが切り替わります。ONからもう一度、プッシュボタンスタートを押すとOFFへもどります。

電源ポジションの切り替わり





● エンジンをかけるとき

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。
3. キーを携帯していることを確認します。
4. 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
5. 次のペダルを踏みながら、プッシュボタンスタートを押してエンジンを始動させます。
   マニュアル車:ブレーキペダル、クラッチペダル
   オートマチック車:ブレーキペダル

冷間始動時の知識 (SKYACTIV-D 2.2)

- 予熱表示灯が消灯するまで、スターターは回りません。

- 予熱が終了したあと、電源ポジションがONのままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行い予熱表示灯が点灯する場合があります。
- エンジンがかかる前にマニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを放した場合は、再度マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏み込みプッシュボタンスタートを押してエンジンを始動してください。

● エンジンを停止するとき

1. マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。
2. プッシュボタンスタートを押します。エンジンが停止し、電源ポジションがOFFになります。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

i-stop (アイ・ストップ)

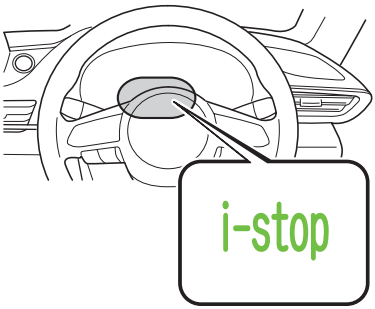
●i-stopとは

i-stopは、燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、信号待ちや渋滞などで車両を停止させたとき、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

●アイドリングストップ・再始動

知識

・次の条件のときに、i-stop 表示灯 (緑) が点灯します。
　・アイドリングストップ中のとき



・エンジンが再始動すると、i-stop 表示灯 (緑) が消灯します。

アイドリングストップ・再始動の条件は、使用しているシステムによって異なります。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●i-stop表示灯/i-stop警告灯

i-stop警告灯 (橙)

i-stop

電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。
i-stop OFFスイッチを押してシステムを解除すると点灯します。

i-stop表示灯 (緑)

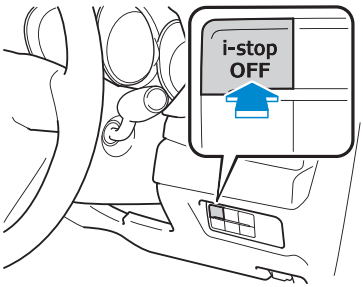
i-stop

アイドリングストップ中に点灯し、エンジンが再始動すると消灯します。

●i-stop警告チャイム

アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り、アイドリングストップ中であることをお知らせします。
運転席ドアを閉めると止みます。

●i-stop OFFスイッチ



i-stopの解除
- スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけます。
- メーター内のi-stop警告灯 (橙) が点灯します。

i-stopの作動
- スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけます。
- メーター内のi-stop警告灯 (橙) が消灯します。

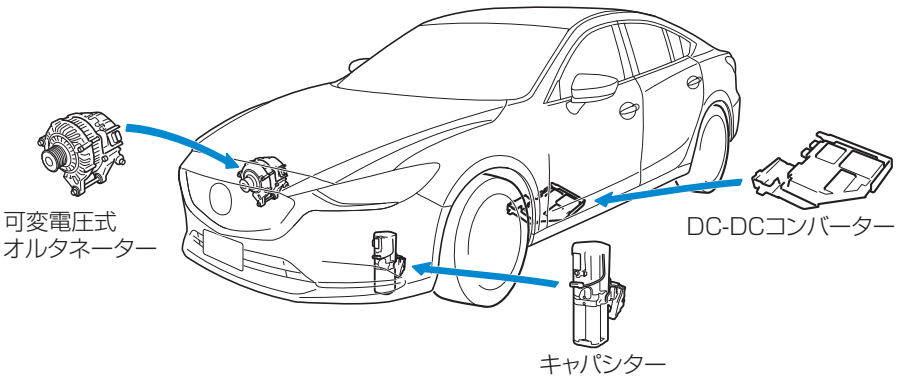
詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

運転するときに

i-ELOOP

● i-ELOOPとは

車が減速する際に発生する運動エネルギーを利用して発電を行うことで、発電に使うエンジン負荷をおさえ、走りの性能と燃費の向上に貢献するシステムです。
大量の電気を瞬時に蓄え、適時に無駄なく電装品の電源として活用します。



⚠ 注意

禁止

次のものには高電流が流れているため触れないでください。
- **可変電圧式オルタネーター**
- **DC-DCコンバーター**
- **キャパシター**

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●状態表示

センターディスプレイにi-ELOOPのエネルギー回生状況を表示することができます。

① 減速エネルギーを利用して発電した電気の量と、発電した電気が蓄電器に流れている状態を表示します。表示は発電量が増えると太くなります。
② 蓄電器に蓄えている電気の量を表示します。
③ 蓄電器に蓄えられた電気を電装品に供給している状態を表示します。(車全体が同時に発光します。)

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

警告表示/警告灯

	ブレーキ警告灯
	充電警告表示/警告灯
	オイル警告灯
	高水温警告表示
	電動パワーステアリング警告表示
	マスター警告表示
	ABS警告灯
	電動パーキングブレーキ (EPB) 警告表示/警告灯
	エンジン警告灯
(橙)	i-stop警告灯
	i-ELOOP警告表示
	オートマチックトランスミッション 警告表示
	4WD警告表示
	エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯
	アクティブボンネット警告灯
(橙/白)	KEY警告表示
	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告表示
(橙)	アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯

	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム警告表示
(橙)	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 警告表示
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示
(橙)	ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 警告表示
	LEDヘッドランプ警告灯
(橙)	スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示
	燃料残量警告表示/警告灯
	エンジンオイルレベル警告灯
	シートベルト警告灯
	ウォッシャー液残量警告表示
	半ドア警告表示
	トランク開警告表示
	リアゲート開警告表示
	半ドア警告灯

警告表示/警告灯は、メーターのタイプや車両の仕様によって異なります。
メーター内にマスター警告表示が表示されたときは、ディスプレイに故障･異常状態などのメッセージ情報が表示されます。ディスプレイに表示されたメッセージをご確認ください。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

表示/表示灯

	セキュリティ表示灯
	予熱表示灯
	DPF表示
	レンチ表示
(緑)	i-stop表示灯
	セレクトレバー位置表示
	車幅灯表示/表示灯
	ヘッドランプ上向き表示灯
	方向指示/非常点滅表示灯
	リアフォグランプ表示灯
	電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯
	オートホールド作動表示灯
	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示灯
	TCS/DSC作動表示灯
	DSC OFF表示灯
	ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF表示灯

(緑)	アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 表示灯
	レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システムOFF表示灯
	レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示
(白)	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) メイン表示
	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) メイン表示
(緑)	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) セット表示
	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) セット表示
(橙)	スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 表示
	スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) OFF表示灯
(白)	ドライバー・アテンション・アラート (DAA) 表示

表示/表示灯は、メーターのタイプや車両の仕様によって異なります。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

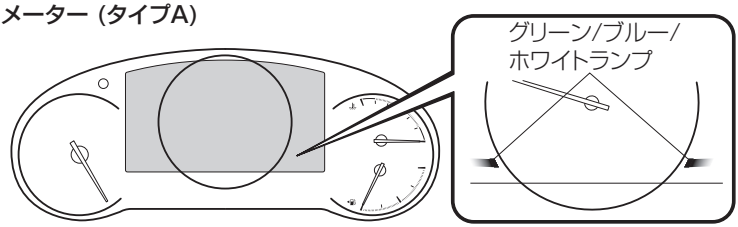
● i-DMとは

i-DMはマツダ車の「走る歓び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。乗員全員が車両との一体感を感じながら爽快なドライブを楽しめるようになる運転技量の習得/向上をサポートします。

● インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) ランプ

走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の状態を診断し、ランプの色で運転者に運転操作の状況を知らせます。(コーチング機能)

メーター (タイプA)



運転操作の状況は、次のように表示されます。

ランプの種類	内容
グリーンランプ	やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費の良い運転です。
ブルーランプ	しなやかな運転を示します。特に次の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちの良い運転です。 走行タイプ1 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。 走行タイプ2 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。
ホワイトランプ	体が揺れる運転を示します。やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまりよくない運転です。

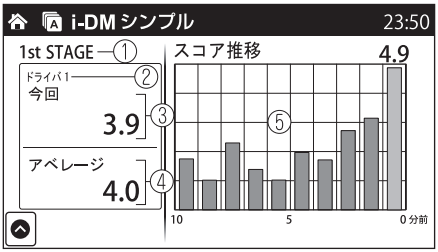
詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●i-DM表示

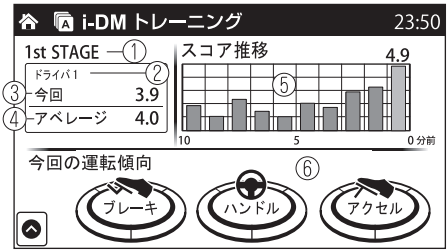
運転の評価をスコア（点数）で表示します。スコアに応じてステージが決まります。ステージは1stステージから3rdステージまであり、ステージが上がるとスコアの診断が厳しくなります。運転技量が上がり、現在のステージでアベレージスコアを高く保てるようになると、次のステージへ上がります。逆に、低いアベレージスコアが続くとステージが下がります。

i-DMの情報をセンターディスプレイに表示します。表示にはシンプルモードとトレーニングモードの2種類あります。

（シンプルモード）



（トレーニングモード）

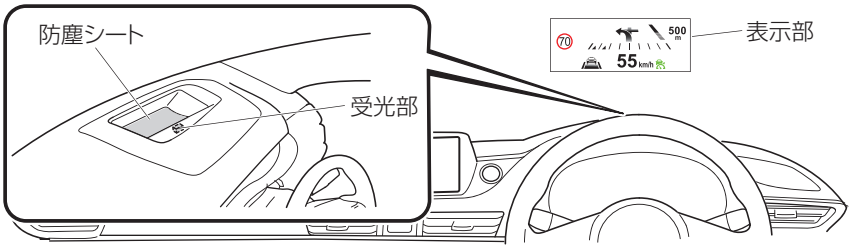


① 現在のステージを表示します。
② ドライバ名を表示します。
③ 今回のスコアを表示します。
④ アベレージスコアを表示します。
⑤ スコアの推移を棒グラフで表示します。各グラフは1分間のスコアを示し、過去10分間の記録を表示します。最新のグラフは右側にハイライト表示されます。信号待ちや一定速走行など運転操作が無かった場合はゼロのグラフが表示されます。
⑥ 今回の運転操作傾向を表示します。ブレーキ、ハンドル、アクセルの操作それぞれを表示します。白のゲージはやや急な運転の多さを示し、青のゲージはしなやかな運転の多さを示します。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ

アクティブ･ドライビング･ディスプレイは車速やシステムの作動状態、警告を表示します。



⚠警告

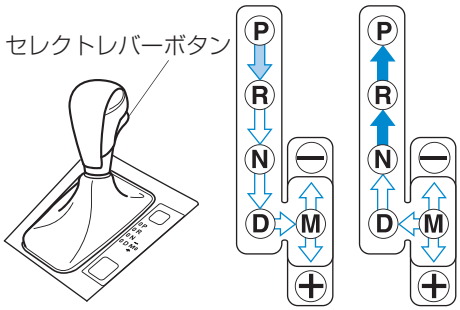
ディスプレイの明るさや位置の調節は必ず車両を停止した状態で行なう

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

オートマチックトランスミッション

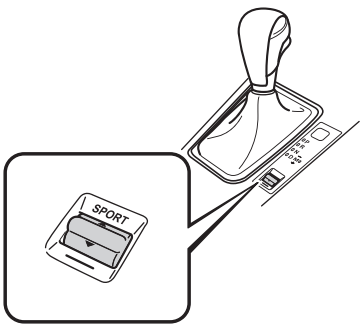
● セレクトレバーの操作



レバー操作	
⇨	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーボタンを押して操作します。
⇨	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作します。
➡	セレクトレバーボタンを押して操作します。

ドライブセレクション

ドライブセレクションとは、車両の走行モードを切り替えることができるシステムです。
より安全に高速道路に合流したり、追い越したりしたいときにご使用ください。



ドライブセレクションスイッチを **SPORT**側（前方）に押すと、スポーツモードになります。
ドライブセレクションスイッチを ——側（手前）に引くと、スポーツモードが解除されます。

● セレクトモードインジケーター

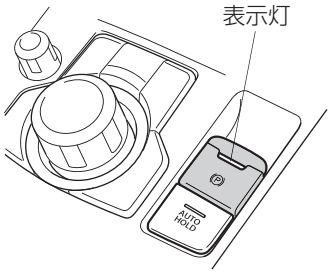
スポーツモードを選択しているときに、メーター内のセレクトモードインジケーターが点灯します。

SPORT

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

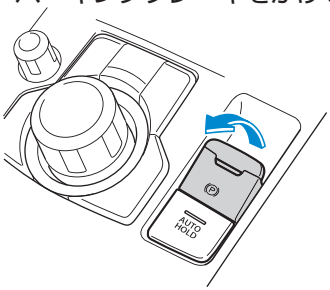
運転するときに

電動パーキングブレーキ (EPB)



EPBとは、電気モーターでパーキングブレーキをかける装置です。
スイッチの表示灯は、パーキングブレーキをかけると点灯し、解除すると消灯します。
EPBスイッチ操作中は、スイッチの表示灯が点滅します。

●パーキングブレーキをかけるとき

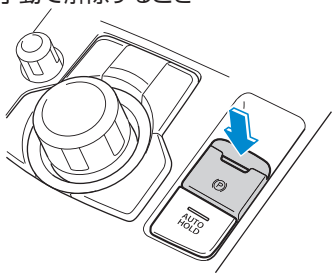


電源ポジションに関係なく、パーキングブレーキをかけることができます。
ブレーキペダルをしっかりと踏み込み、EPBスイッチを引き上げます。
パーキングブレーキがかかり、メーター内のEPB表示灯およびEPBスイッチの表示灯が点灯します。

●パーキングブレーキを解除するとき

電源ポジションがONまたはエンジン回転中に解除できます。パーキングブレーキを解除するとメーター内のEPB表示灯およびEPBスイッチの表示灯が消灯します。

手動で解除するとき



ブレーキペダルをしっかりと踏み込み、EPBスイッチを押します。

自動で解除するとき

パーキングブレーキがかかっている状態で、次の条件をすべて満たしているときにアクセルペダルを踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。

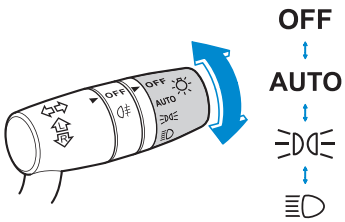
- エンジン回転中のとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- (マニュアル車)
  - チェンジレバーがニュートラル位置以外のとき
  - 半クラッチ操作をしているとき
- (オートマチック車)
  - セレクトレバーがD、M、Rの位置のとき

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

スイッチの使いかた

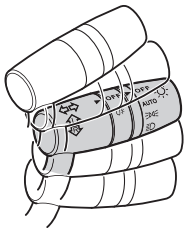
●ヘッドランプ/方向指示器

ヘッドランプ



OFF
↕
AUTO
↕

方向指示器

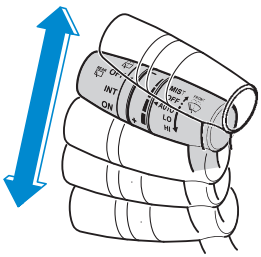


左折
↕
左に
車線変更
↕
OFF
↕
右に
車線変更
↕
右折

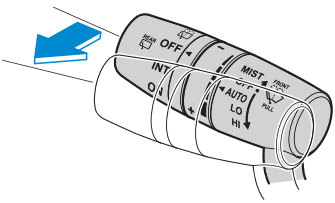
●ワイパー/ウォッシャー

フロントワイパー

MIST
↕
OFF
↕
AUTO
↕
LO
↕
HI



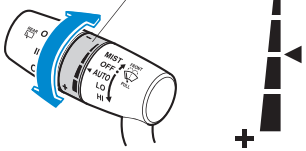
フロントウォッシャー



オートワイパー機能

雨に反応しにくい

スイッチ



雨に反応しやすい

レバーをAUTOの位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、雨量に応じて、ワイパーが自動で作動します。スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

運転するときに

i-ACTIVSENSEについて

● i-ACTIVSENSEとは

i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブセンス）とは、フォワードセンシングカメラ（FSC）やレーダーセンサーなどの検知システムを利用したマツダの先進安全・運転支援システムの総称です。これらのシステムは、アクティブセーフティ技術とプリクラッシュセーフティ技術で構成されています。

これらのシステムはあくまで、ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、運転負荷や事故被害の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。

アクティブセーフティ技術とは

アクティブセーフティ技術とは、安全・安心な運転を支援し、事故を未然に防止する技術です。

認知支援システム

夜間視界

・アダプティブフロントライティングシステム (AFS)
・ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)
・アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)

左右側面・後側方認知

・車線逸脱警報システム
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)

標識認知

・交通標識認識システム (TSR)

車間認知

・車間認知支援システム

運転者疲労検知

・ドライバー・アテンション・アラート (DAA)

駐車場発進時後方認知

・リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA)

全周囲認知

・360° ビュー・モニター

運転支援システム

車間距離

・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))

車線逸脱

・レーンキープ・アシスト・システム (LAS)

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

プリクラッシュセーフティ技術とは

プリクラッシュセーフティ技術とは、事故が避けづらい状況での衝突回避、避けられず衝突した際の被害低減を図る技術です。

衝突回避支援・被害軽減

前進時

・アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンストSCBS)
・AT誤発進抑制制御 [前進時]
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

後退時

・スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)
・AT誤発進抑制制御 [後退時]

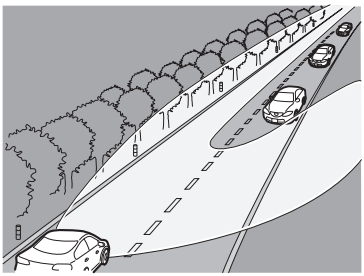
詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

運転するときに

●アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) とは

ALHは、ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を次のように制御し、前方車や対向車を眩惑することなく運転者の視界確保を支援します。

グレアフリー (防眩) ハイビーム

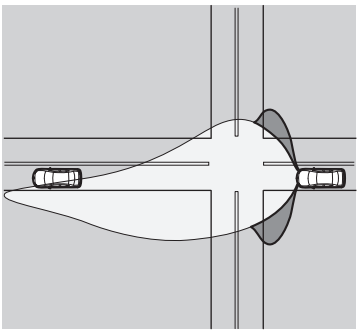


ヘッドランプ上向き (ハイビーム) の配光を前方車の部分だけ減光して照射します。
車速約30 km/h以上で作動します。車速が約20 km/h未満になると、下向き (ロービーム) に切り替わります。

知識

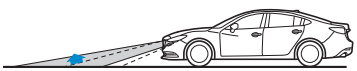
ヘッドランプが上向き (ハイビーム) のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

ワイド配光ロービーム



車速約40 km/h未満で走行中に、ヘッドランプ下向き (ロービーム) の照射範囲を拡大して照射します。

ハイウェイモード



高速走行時にヘッドランプの照射角度を上方向へ移動して照射します。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

作動させるとき

電源ポジションがONの状態でランプスイッチがAUTOの位置のときにヘッドランプを上向き(ハイビーム) にすると作動します。

⚠注意

システムを過信せず、常に周囲の状況に注意を払い、必要に応じて、上向き (ハイビーム) と下向き(ロービーム) を手動で切り替えるなど、安全運転に心がけてください。
その他詳細は本文に記載しています。

知識

次のような状況では、ALHが正常に作動しない場合があります。

・周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき
・周囲に反射板や標識などの反射物があるとき
・雨、雪、霧などで視界が悪いとき
・カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき

その他、詳細は本文に記載しています。

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 表示灯 (緑)

ALHが作動しているとき、メーター内のALH表示灯 (緑) が点灯します。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

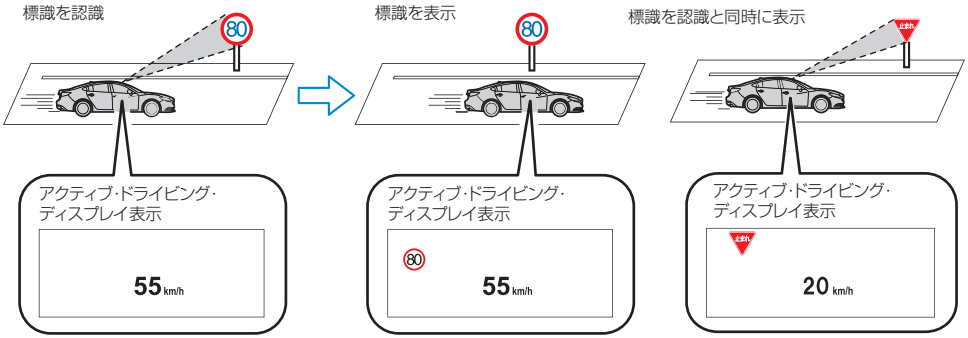
運転するときに

●交通標識認識システム (TSR) とは

TSRは、走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) が認識した交通標識を、アクティブ·ドライビング·ディスプレイに表示することで、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。
TSRは、最高速度標識 (補助標識も含む)、車両進入禁止標識、一時停止標識、および追越しのための右側部分はみ出し禁止標識の交通標識を表示します。
走行中、アクティブ·ドライビング·ディスプレイに表示した最高速度標識の速度を、自車の速度が超えているときは、アクティブ·ドライビング·ディスプレイの表示および警報音で運転者にお知らせします。

最高速度標識、車両進入禁止標識、追越しのための右側部分はみ出し禁止標識

一時停止標識



⚠警告

走行中は必ず目視にて交通標識を確認する。

TSRは、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。天候状況や交通標識に問題がある場合など、交通標識を認識できないまたは実際の状況とは異なる交通標識を表示することがあります。交通標識の確認を怠ると思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず運転者の責任において、実際の交通標識を確認してください。

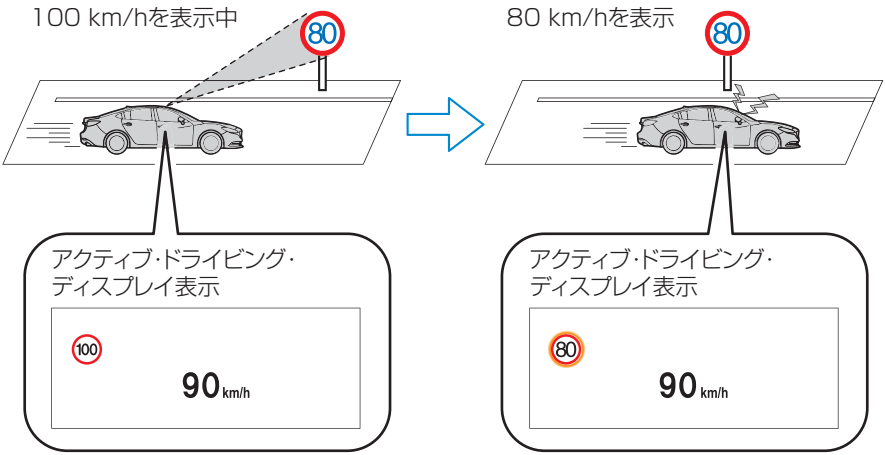
知識

フォワードセンシングカメラ (FSC) に異常がある場合、TSRは作動しません。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

速度超過警報

アクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示している最高速度標識より自車の速度が超えるとアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示している最高速度標識のまわりが橙色に3回点滅し、同時に警報音が3回吹鳴します。速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルを踏むなどの操作をし、法定速度内に減速してください。



詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは

MRCC (全車速追従機能付) は、レーダーセンサー (フロント) が前方車を検知することで、運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度での定速走行や、前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つ追従走行ができるシステムです。
また、追従走行時に前方車が急ブレーキをかけたときなど、前方車に接近したときは、警報音と同時にディスプレイに警告を表示し、車間距離を十分確保するようお知らせします。
前方車に追従して停車したときは、自動で停車状態を保持 (停車保持制御) し、運転者がRESスイッチを押すなどの発進操作を行うと、追従走行を再開します。

⚠警告

MRCC (全車速追従機能付) を過信しない

MRCC (全車速追従機能付) は運転者の負担を軽減するために、走行速度を一定に保つ、あるいは、前方車を検知して前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つシステムですが、前方車の種類や状態、天候状況、道路状況等によっては前方車の検知に限界があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保し、安全運転に心がけてください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような場所では使用しない

- **自動車専用道路以外の一般道**
- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分に取れない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路**
- **高速道路などでインターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに侵入するなど本線から出るとき**
- **凍結路や積雪路など滑りやすい路面**
- **長い下り坂**
- **勾配が急な坂**

その他、詳細は本文に記載しています。

知識

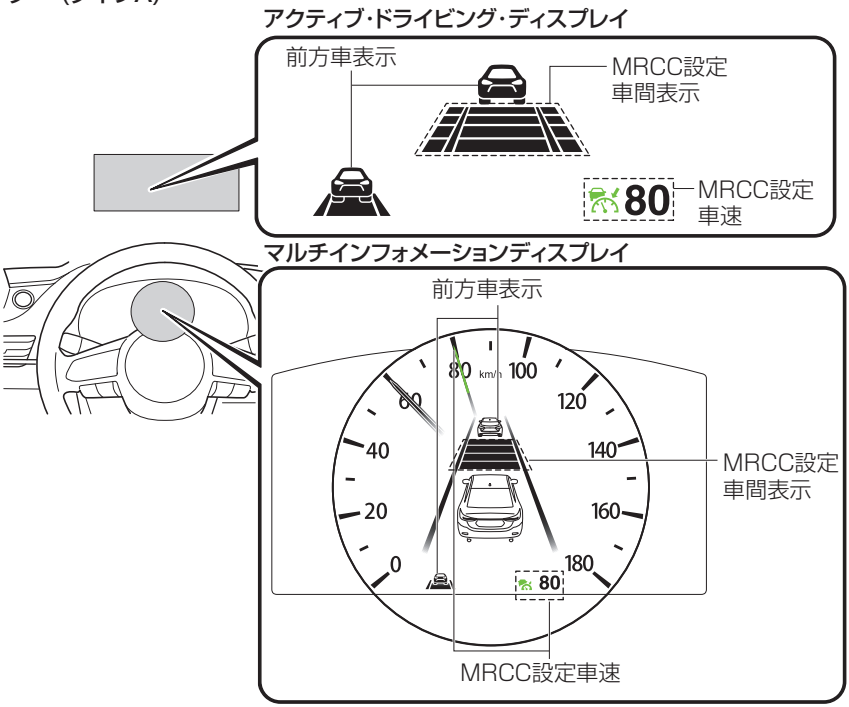
MRCC (全車速追従機能付) は、次の対象物については、対象物として検知しません。
・対向車両
・歩行者
・静止物 (停車車両、障害物等)
・前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないときがあります。
その他、詳細は本文に記載しています。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール（全車速追従機能付）（MRCC（全車速追従機能付））ディスプレイ表示

MRCC（全車速追従機能付）の設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイ、またはアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。

メーター（タイプA）



接近警報

追従走行時に前方車が急制動を行ったときなど前方車に接近したときは、警報音が鳴り、ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の安全を確認してブレーキペダルを踏むなど、前方車との車間距離を十分に確保してください。また、後続車との車間距離も確保してください。

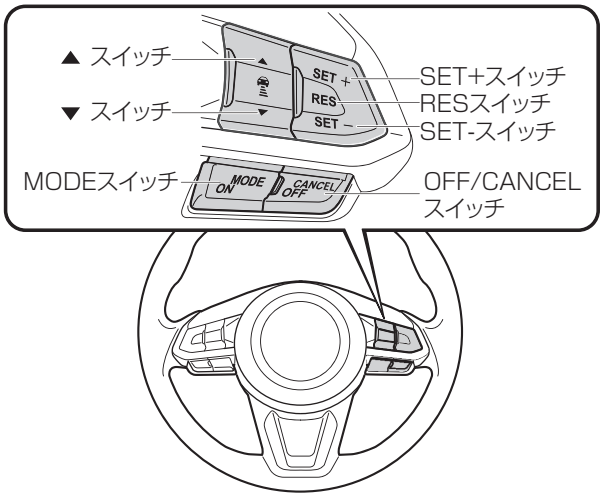
ブレーキ！

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

設定するとき

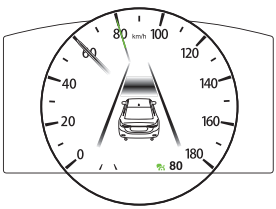
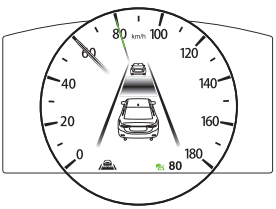
ONする

MODEスイッチを1回押すと、MRCC (全車速追従機能付) がONになり、MRCC (全車速追従機能付) メイン表示 (白) が点灯し、速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になります。
また同時に、MRCC (全車速追従機能付) ディスプレイ表示がマルチインフォメーションディスプレイ、およびアクティブ·ドライビング·ディスプレイに表示されます。



速度を設定する

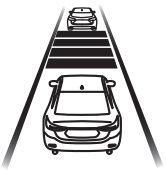
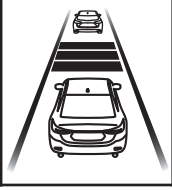
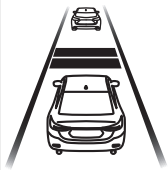
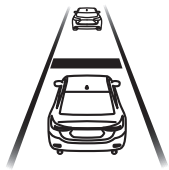
1. アクセルペダルの操作で設定したい速度に調節します。
2. SET+またはSET−スイッチを押すと定速走行をはじめます。ディスプレイに設定速度が表示され、車間距離の白線表示が白色の塗りつぶし表示に変わります。同時にMRCC (全車速追従機能付) メイン表示 (白色) からMRCC (全車速追従機能付) セット表示 (緑色) に変わり、チャイムが1回鳴ります。

走行状態	定速走行時	追従走行時
アクティブ·ドライビング·ディスプレイ表示	80	80
マルチインフォメーションディスプレイ (メーター(タイプA)) 表示		

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

追従走行時の車間距離を設定する

▼ スイッチを押すことにより車間距離を短く設定します。▲ スイッチを押すことにより車間距離を長く設定します。車間距離は長、中、短、極短の4段階で設定できます。

車間距離の目安 (約80 km/h走行時)	長 (約50 m)	中 (約40 m)	短 (約30 m)	極短 (約25 m)
アクティブ·ドライビング·ディスプレイ表示				
マルチインフォメーションディスプレイ (メーター(タイプA)) 表示				

設定速度を変更する

スイッチで加速/減速するとき

SET + スイッチを押すと加速し、SET - スイッチを押すと減速します。

- 短押し:5 km/h
- 長押し:10 km/h

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏んで、希望の速度になったところで、SET + スイッチまたはSET - スイッチを押し、手を放します。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

OFFする

MRCC (全車速追従機能付) が作動中に、OFF/CANCELスイッチを2回押すと、MRCC (全車速追従機能付) がOFFになります。

停車保持制御

HOLD

MRCC (全車速追従機能付) で追従走行中に前方車が停車すると、追従して自車も停車します。停車して停車保持制御が作動すると、MRCC (全車速追従機能付) 表示灯が点灯します。

再発進するとき

停車保持制御中に、前方車が発進した後、RESスイッチを押す、またはアクセルペダルを踏み込むと、停車保持制御が解除され、車両が発進します。

発進報知

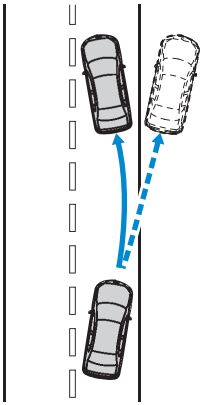
停車保持制御中に、前方車が発進した後、しばらく再発進操作を行わないと、マルチインフォメーションディスプレイの前方車表示が点滅し、運転者に発進を促します。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

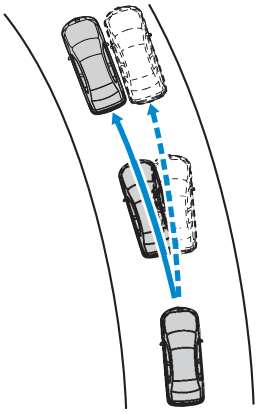
●レーンキープ·アシスト·システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは

LAS&車線逸脱警報システムは、自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせるとともに、ハンドル操作をアシストすることにより車線からの逸脱回避を支援する装置です。
LAS&車線逸脱警報システムのハンドル操作をアシストするタイミングには「遅い」と「早い」があり、設定を変更できます。詳細は本文内の「設定変更 (カスタマイズ機能)」に記載しています。

「遅い」



「早い」



⚠警告

LAS&車線逸脱警報システムを過信しない。

- **LAS&車線逸脱警報システムは、自動運転システムではありません。**
- **LAS&車線逸脱警報システムの機能には限界があります。常にハンドルの操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。**

その他詳細は本文に記載しています。

知識

LAS&車線逸脱警報システムは白線 (黄線) の検知状態や道路環境によっては正常に作動しない場合がありますが、故障ではありません。
その他詳細は本文に記載しています。

作動させるとき

電源ポジションをONにするとLAS&車線逸脱警報システムは待機状態になります。システム待機状態で車線の中央付近を走行します。次の条件をすべて満たすと、システム作動状態になります。

- エンジンがかかっているとき
- 車速が約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 車線の白線 (黄線) を検知しているとき
- 運転者がハンドルを持ち操作しているとき
- 車線の幅が狭くないとき、または広くないとき

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

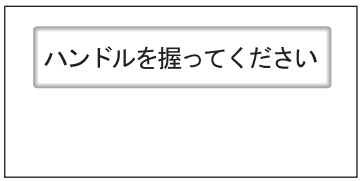
知識

運転者がハンドルから手をはなしたとき (ハンドルを保持していないとき) は、警報チャイムが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ·ドライビング·ディスプレイにメッセージが表示されます。

マルチインフォメーション ディスプレイ

ハンドルを
持ってください

アクティブ·ドライビング· ディスプレイ



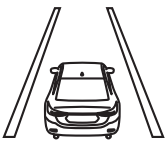
車線表示

LAS &車線逸脱警報システムが待機状態になると、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が表示されます。

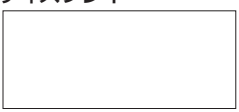
左右両方の車線の白線 (黄線) を検知し、作動状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車線表示が白色に変わり、アクティブ·ドライビング·ディスプレイに車線表示が表示されます。

(待機状態)

マルチインフォメーション ディスプレイ

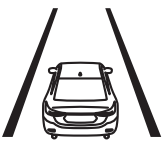


アクティブ·ドライビング· ディスプレイ

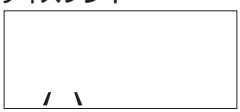


(作動状態)

マルチインフォメーション ディスプレイ



アクティブ·ドライビング· ディスプレイ



詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンストSCBS)/スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) とは

アドバンストSCBS

アドバンストSCBSは、車速が約4 km/h～約80 km/h (対象が前方車のとき)/約10 km/h～約80 km/h (対象が歩行者のとき)で走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) が前方車や歩行者へ衝突する可能性があると判断したときに、ディスプレイや警報音により運転者に対して衝突の危険性を知らせます。さらに衝突を回避できないと判断したときには、ブレーキ制御 (アドバンストSCBSブレーキ) を行なう装置で、衝突時の被害を軽減します。また、運転者がブレーキペダルを踏んだときは、ブレーキが素早く確実にかかるよう補助します。(ブレーキアシスト (アドバンストSCBS ブレーキアシスト))

SCBS R

SCBS Rは車速が約2 km/h～約8 km/hで後退中に後方の障害物を超音波センサーが検知し、衝突を回避できないと判断したときに、ブレーキ制御 (SCBS Rブレーキ) を行なう装置で、衝突時の被害を軽減します。

⚠警告

システムを過信しない。

- **アドバンストSCBS/SCBS Rは、あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **アドバンストSCBSは、前方車および歩行者に対して作動するシステムです。2輪車や動物、壁に対しては作動保障しません。**
- **SCBS Rの超音波センサー (リア) はリアバンパーに設置され、AT 誤発進抑制制御 [後退時] と共用しています。SCBS Rの正しい作動のため、次のことをお守りください。**
  - **超音波センサー (リア) にステッカー (透明なものを含む) などを貼り付けないでください。**
  - **超音波センサー (リア) の分解などを行なわないでください。**
  - **飛び石などで超音波センサー (リア) 周辺に傷などが認められるときは、ただちにSCBS Rの使用を停止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。**
  - **リアバンパーを交換する際は、マツダ販売店に相談してください。**

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

知識

●アドバンストSCBS

アドバンストSCBSは次の条件のとき作動します。

・エンジンがかかっているとき
・スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されていないとき
・**(対象が前方車のとき)**
車速が約4 km/h～約80 km/hのとき
・**(対象が歩行者のとき)**
車速が約10 km/h～約80 km/hのとき
・アドバンストSCBSを停止していないとき

●SCBS R

SCBS Rは、次の条件のとき作動します。

・エンジンがかかっているとき
・チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) をRの位置にしているとき
・スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) 警告表示 (橙) が表示されていないとき
・マルチインフォメーションディスプレイ (タイプA) に「SCBS後退時作動しません」と表示されていないとき
・車速が約2 km/h～約8 km/hのとき
・アドバンストSCBSを停止していないとき
・DSCが故障状態でないとき

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●AT誤発進抑制制御 [前進時]/AT誤発進抑制制御 [後退時] とは

AT誤発進抑制制御は、車両が徐行中 (約10 km/h以下) や停車時、前方または後方に車や壁などの障害物があるにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた (アクセルペダルを踏み間違えたと判断した) ときに、エンジン出力を抑制することで、衝突時の被害を軽減します。システム作動中は、AT誤発進抑制制御表示で作動中をお知らせすると同時に、警報音で運転者に警告します。

知識

●(AT誤発進抑制制御 [前進時])

次のようなときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が障害物を検知できず、AT誤発進抑制制御 [前進時] が作動しない場合があります。

- 障害物の高さが低いとき (低い壁、低いガードレール、トレーラーなどの後部)
- 障害物が小さい、細いのいずれかのとき
- 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
- 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両、キャリアカーなど、特殊な形状をした車両

その他詳細は本文に記載しています。

●(AT誤発進抑制制御 [後退時])

次のようなときは、超音波センサー (リア) が障害物を検知できず、AT誤発進抑制制御 [後退時] が作動しない場合があります。

- 障害物が車両や壁のように大きくないとき
- 標識のポールなど、障害物が細いとき
- 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
- 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
- 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
- 障害物が凹凸のある形状をしているとき

その他詳細は本文に記載しています。

詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●スマート･ブレーキ･サポート (SBS) とは

SBSは、車速が約15 km/h以上でレーダーセンサー (フロント) およびフォワードセンシングカメラ (FSC) が前方車に衝突する可能性があると判断したときに、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ･ドライビング･ディスプレイへの警告表示、および警報音により運転者に対して衝突の危険性を知らせます。さらに衝突を回避できないと判断したときには、自動ブレーキ制御を行うことで衝突時の被害を軽減します。また、運転者がブレーキペダルを踏んだときは、ブレーキが素早く確実にかかるよう補助します。

⚠警告

SBSを過信しない。

SBSは衝突時の被害を軽減するシステムであり、対象物、天候状況、道路状況等によっては対象物の検知に限界があります。このためアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

知識

次のような状態のときは、SBSが作動しないときがあります。

- 前方車と部分的な接触の可能性があるとき
- 前方車と同程度の速度で走行しているとき
- ブレーキペダル、ハンドル、セレクトレバー、方向指示器を操作しているとき

その他、詳細は本文に記載しています。

システムの作動対象は4輪車両ですが、次のような検知対象物は、レーダーセンサー (フロント) が障害物と判断し、SBSが作動する場合があります。

- カーブ入り口に路側物があるとき (ガードレール、雪壁等も含む)
- コーナーを曲がるときやカーブですれ違うときに対向車両があるとき
- 狭い鉄橋、低いゲートやトンネル、狭いゲート、地下駐車場の入り口を通過するとき
- 路面上に金属物、段差または突起物があるとき
- バイク、自転車などの2輪車、歩行者、立ち木など

その他、詳細は本文に記載しています。

衝突警報

前方車と衝突する可能性がある場合、警報音が鳴り続け、アクティブ･ドライビング･ディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイに警報が表示されます。

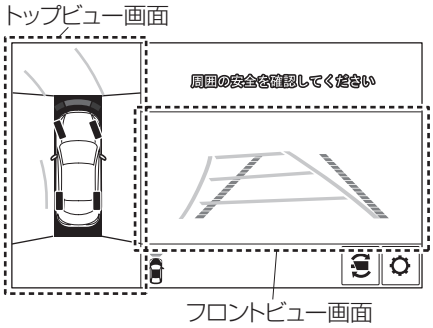
詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

●360° ビュー・モニターとは

360° ビュー・モニターは、センターディスプレイの表示や各種警報により、低速走行時や駐車時に車両周辺の確認を支援するシステムです。

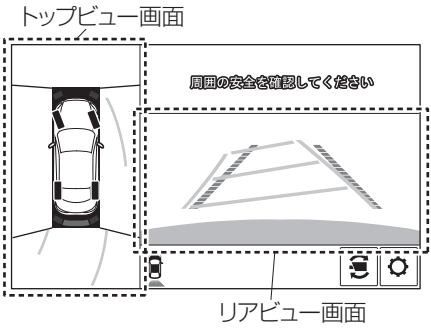
トップビュー/フロントビュー

車両周辺および車両前方の映像を表示します。



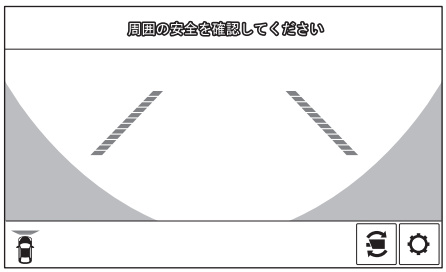
トップビュー/リアビュー

車両周辺および車両後方の映像を表示します。



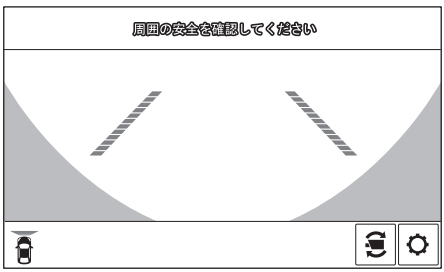
フロントワイドビュー

車両前方（広域）の映像を表示します。



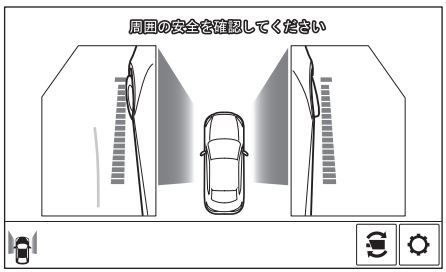
リアワイドビュー

車両後方（広域）の映像を表示します。



サイドビュー

車両左右前側面の映像を表示します。



詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

使用するとき

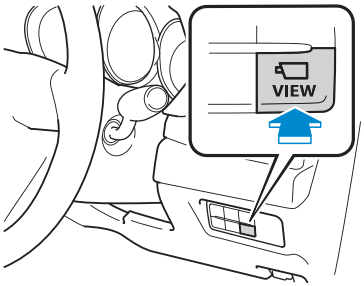
トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビュー

表示

次の条件をすべて満たしているときに360° ビュー・モニター・スイッチを押すと画面に映像を表示します。

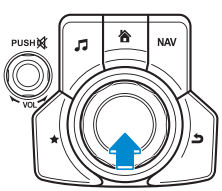
・電源ポジションがONのとき

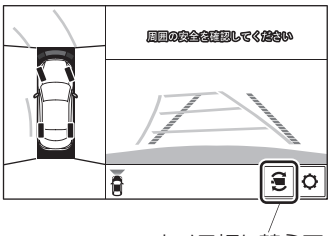
・チェンジレバー/セレクトレバーをR以外の位置にしているとき



表示の切り替え

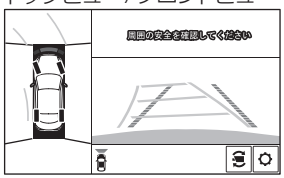
トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビューの表示中にコマンダーノブを押す、または画面のカメラ切り替えアイコンにタッチすることで、表示する画面を切り替えることができます。



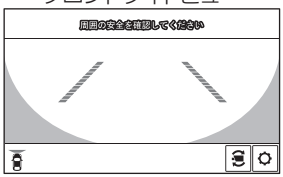


カメラ切り替えアイコン

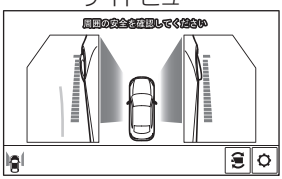
トップビュー/フロントビュー



フロントワイドビュー



サイドビュー



詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

運転するときに

トップビュー/リアビュー、リアワイドビュー

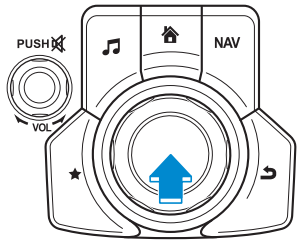
次の条件をすべて満たしているときに作動します。

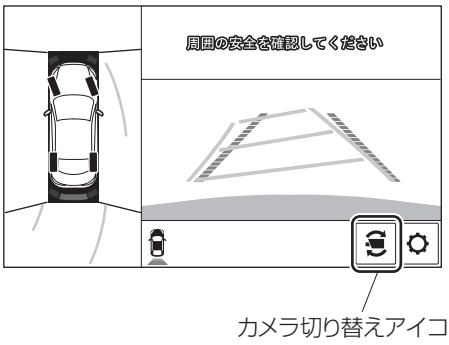
・電源ポジションがONのとき

・チェンジレバー/セレクトレバーをRの位置にしているとき

表示の切り替え

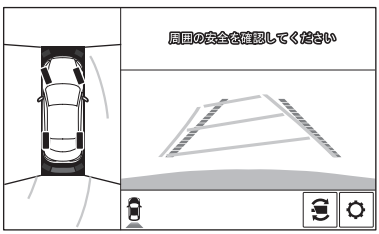
トップビュー/リアビュー、リアワイドビューの表示中にコマンダーノブを押す、または画面のカメラ切り替えアイコンにタッチすることで、表示する画面を切り替えることができます。



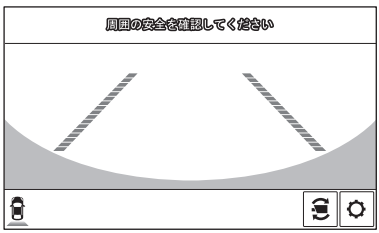


カメラ切り替えアイコン

トップビュー/リアビュー

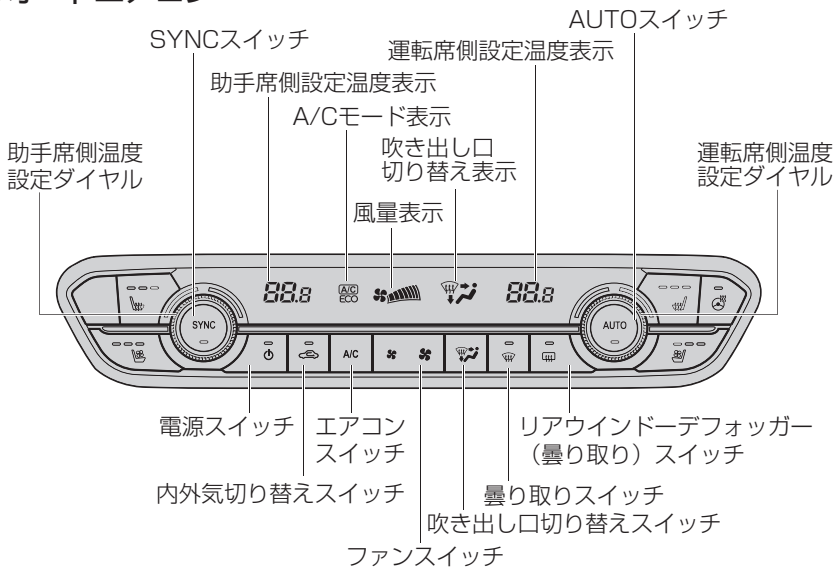


リアワイドビュー



詳しくは第2章「運転するときに」をお読みください。

フルオートエアコン

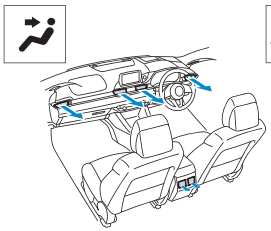


●通常の使いかた

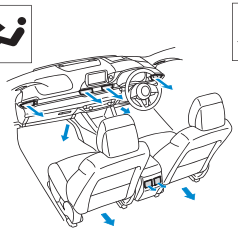
1 AUTOスイッチを押します。吹き出し口、内外気切り替え、吹き出し風量が自動的に調整されます。
2 温度設定ダイヤルを操作して希望温度にあわせます。
運転席と助手席の設定温度を独立して調節するときは、SYNCスイッチを押す、または助手席側温度設定ダイヤルをまわして独立モードにします。
3 作動を停止したいときは、電源スイッチを押します。

●吹き出し口の選択

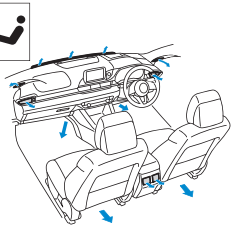
上半身に送風するとき



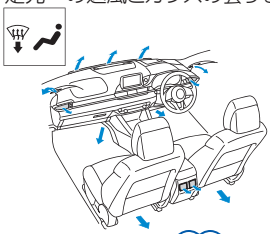
上半身、足元に送風するとき



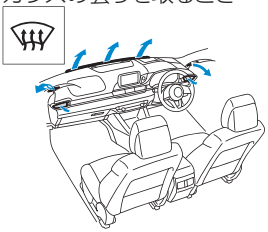
主に足元に送風するとき



足元への送風とガラスの曇りを取るとき



ガラスの曇りを取るとき



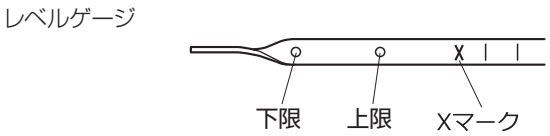
詳しくは第3章「快適装備の使いかた」をお読みください。

エンジンオイルの点検、補充　(SKYACTIV-D 2.2)

ディーゼルエンジン車は、排気ガスに含まれる粒子状物質のほとんどを捕集し除去するディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) が装備されており、排出ガス処理能力を向上させています。

DPFに堆積した粒子状物質が自動で除去されるとき、エンジンオイルに燃料が混ざり、油量が増えることがあります。

エンジンオイルがレベルゲージの×の位置を超えている場合はオイル交換をしてください。エンジンオイルの量を点検するときは、オイルレベルゲージをひねらずまっすぐに抜いてください。また、オイルレベルゲージを差すときは、必ずオイルレベルゲージの×マークを車両前方に向けてひねらずまっすぐ差し込んでください。



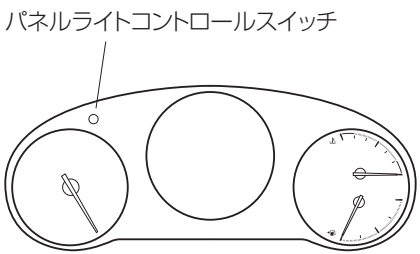
オイル交換後は、マツダ販売店などの整備工場で記憶値の初期化 (オイルデータリセット) を行なうか、次の手順で記憶値の初期化を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示灯またはオイル警告灯が点灯することがあります。

知識

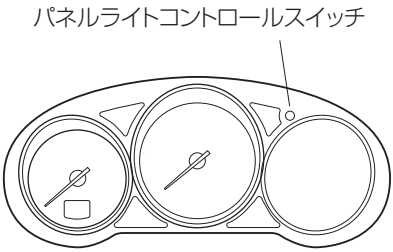
記憶値の初期化 (オイルデータリセット) は次の手順でも行なうことができます。

1. 電源ポジションをOFFにします。
2. パネルライトコントロールスイッチを押したまま、電源ポジションをONにし、マスター警告表示 ⚠ が点滅するまで、パネルライトコントロールスイッチを約5秒間押し続けます。

タイプA



タイプB



3.マスター警告表示 ⚠ が数秒間点滅したら、初期化は完了です。

詳しくは第4章「お手入れのしかた」をお読みください。

日常点検

日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

● エンジンルームをのぞいて

・エンジンオイルの量
・冷却水の量
・ウォッシャー液の量
・ブレーキ液の量
・バッテリー液の量

● 全体を見まわして

・ウォッシャー液の噴射状態
・ワイパーの払拭状態
・灯火装置および方向指示器の点灯または点滅具合、汚れ、破損
・タイヤの空気圧、き裂、損傷、異常磨耗、溝の深さなど

● 運転席にすわって

・ブレーキペダルの踏みしろ (踏み込んだときのフロアマットとのすき間)
・ブレーキの効き
・エンジンのかかり具合、異音
・エンジンの低速および加速の状態

ランプ類、電気装置が作動しない

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

詳しくは第4章「お手入れのしかた」または、別冊のメンテナンスノート「日常点検整備のしかた」をお読みください。

MEMO

MEMO

MEMO

目次

イラスト目次　2 ページ

詳細目次　10 ページ

1 ***運転する前に*** 19 ページ

運転する前に必要な操作と取り扱い

2 ***運転するときに*** 115 ページ

運転するときに必要な操作と取り扱い

3 ***快適装備の使いかた*** 415 ページ

ドライブをより快適にする装備の操作と取り扱い

4 ***お手入れのしかた*** 571 ページ

手入れの方法、真冬の取り扱いなど

5 ***トラブルが起きたら*** 617 ページ

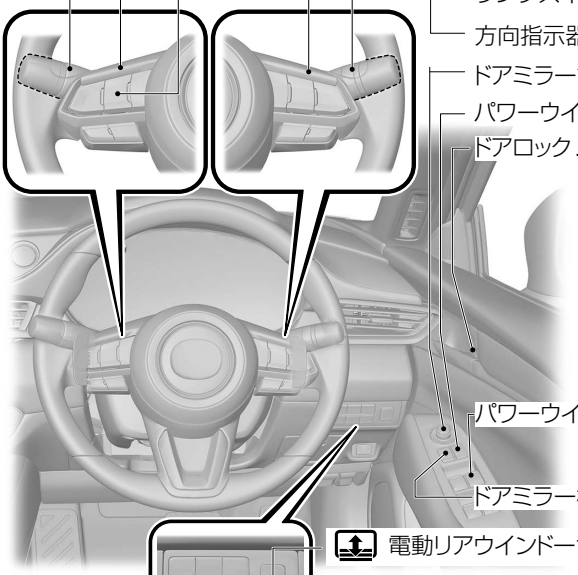
車が故障したとき、事故にあったときの処置

車両スペック　677 ページ

さくいん　705 ページ

イラスト目次

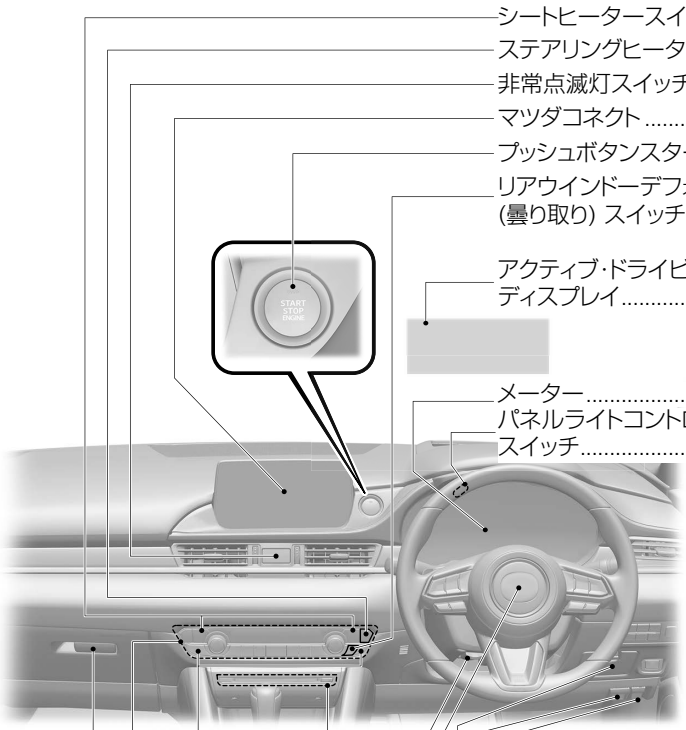
ハンドルまわり



ワイパー/ウォッシャースイッチ 237
オーディオリモートコントロールスイッチ 453
INFOスイッチ 156 175
クルーズコントロールスイッチ 307 386
ランプスイッチ 293 229
方向指示器 235
ドアミラー調節スイッチ 68
パワーウインドーロックスイッチ 87
ドアロック 35
パワーウインドースイッチ 87
ドアミラー格納スイッチ 69
電動リアウインドーサンシェードスイッチ 568
i-stop OFFスイッチ 144
DSC OFFスイッチ 250
車線逸脱警報システムOFFスイッチ 262
レーンキープ・アシスト・システム(LAS) & 車線逸脱警報システムOFFスイッチ 326
パーキングセンサースイッチ 399
360° ビュー・モニター・スイッチ 353

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

運転席まわり

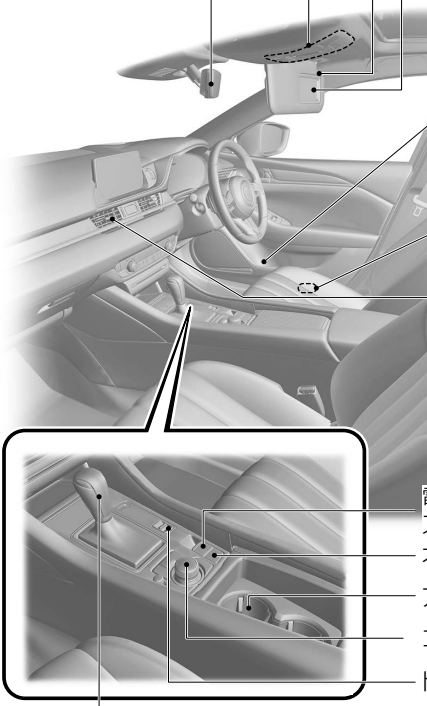


シートヒータースイッチ..... 64
ステアリングヒータースイッチ..... 66
非常点滅灯スイッチ 236
マツダコネクト 458
プッシュボタンスタート 129
リアウインドーデフォッガー
(曇り取り) スイッチ 242
アクティブ・ドライビング・
ディスプレイ 200
メーター..... 154
パネルライトコントロール
スイッチ..... 161
180
フューエルリッドオープナー..... 93
ボンネットオープナー 576
コインボックス 562
ホーン 244
ハンドル調節レバー..... 48
CD/DVDプレーヤー..... 470
476
シートベンチレーションスイッチ 66
エアコン..... 416
グローブボックス 562

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

イラスト目次

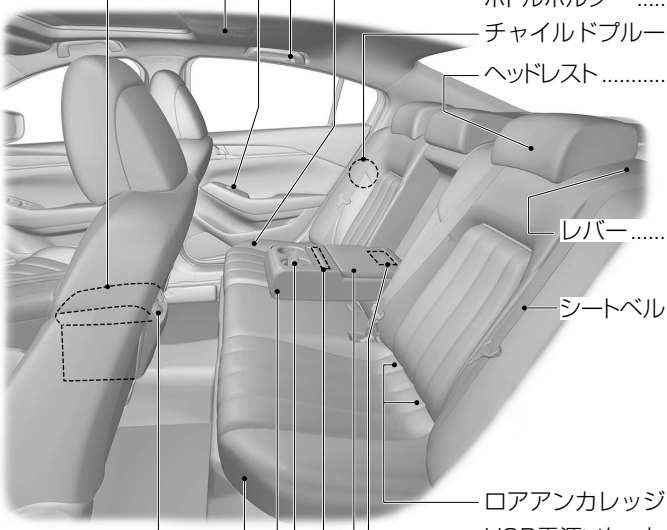
室内（前）



ルームミラー 70
ルームランプ 550
オーバーヘッドコンソール..... 563
サンルーフスイッチ 90
サンバイザー 549
バニティミラー 549
ボトルホルダー 561
シートベルト..... 72
ヘッドレスト 62
ドアカーテシランプ..... 550
吹き出し口 416
フロントシート..... 48
電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチ..... 220
オートホールドスイッチ 225
アジャスター機能付カップホルダー 560
コマンダースイッチ 449
ドライブセレクションスイッチ..... 219
チェンジレバー/セレクトレバー..... 203 206

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

室内（後）



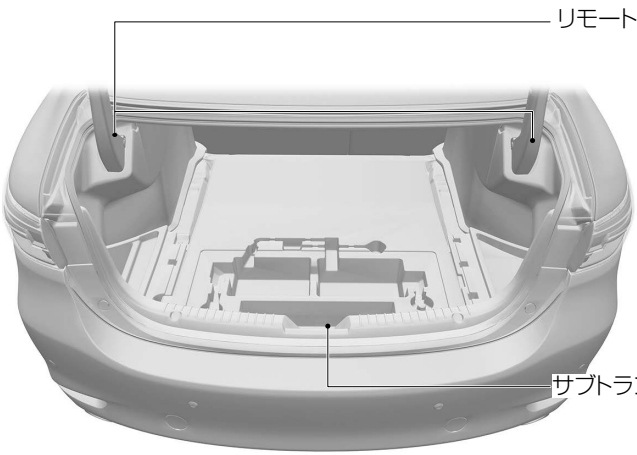
大型コンソールボックス 563
USB端子 487
AUX端子 508
電源ソケット 556
マップランプ 552
パワーウインドースイッチ 87
リアコートフック 567
ボトルホルダー 561
チャイルドプルーフ 36
ヘッドレスト 62
レバー 58
シートベルト 72
ロアアンカレッジ 84
USB電源ソケット 558
アームレストボックス 564
シートヒータースイッチ 64
アジャスター機能付
カップホルダー 560
アームレスト 57
リアシート 57
吹き出し口 416

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

イラスト目次

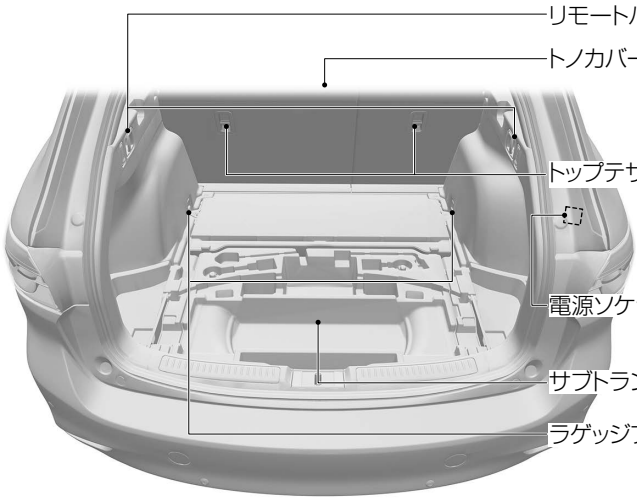
トランクルーム/ラゲッジルーム

セダン



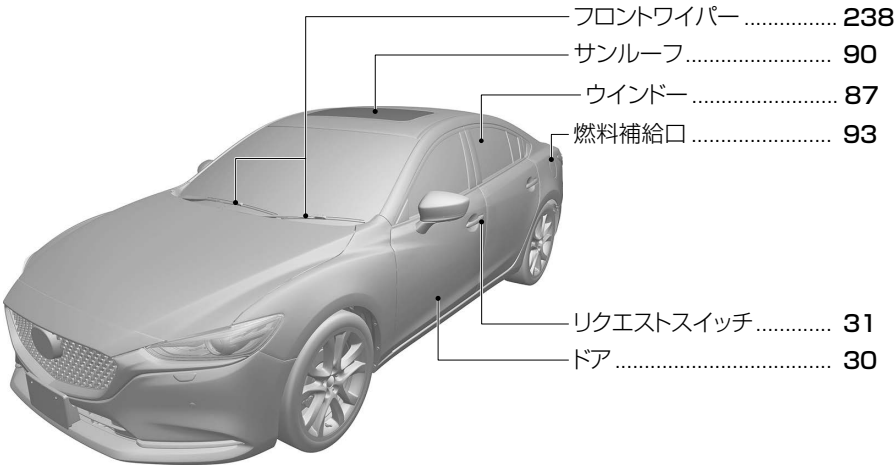
グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

ワゴン



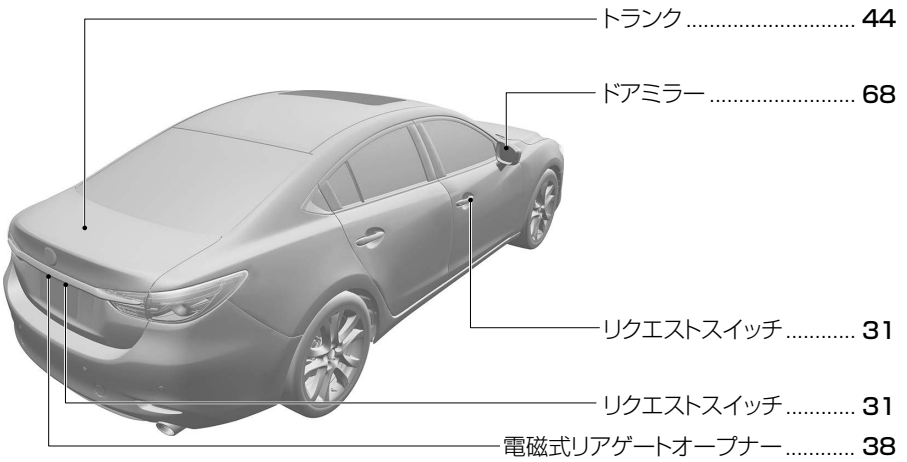
グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

フロント外観（セダン）



グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

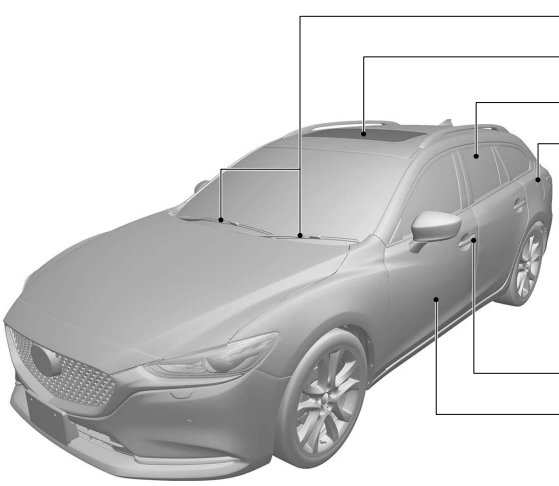
リア外観（セダン）



グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

イラスト目次

フロント外観（ワゴン）



フロントワイパー 238
サンルーフ 90
ウインドー 87
燃料補給口 93
リクエストスイッチ 31
ドア 30

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

リア外観（ワゴン）

リアワイパー 241
リアゲート 37
ドアミラー 68
リクエストスイッチ 31
リクエストスイッチ 31
電磁式リアゲートオープナー 38

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

MEMO

詳細目次

1 運転する前に

安全なドライブのために 22
お出かけ前に....22
お子さまを乗せるとき....24
安全装備について....24

キー 25
キーについて....25

ドア 30
ドアの開閉....30

リアゲート 37
リアゲートの開閉....37

トノカバー (ワゴン) 41
トノカバーの使いかた....41

トランク 44
トランクの開閉....44

シート 47
シート使用上の注意....47
フロントシート....48
リアシートの操作....57
ヘッドレストの使いかた....62
シートヒーター/シートベンチレーション/ステアリングヒーター....64

ドアミラー 68
ドアミラーの操作....68

ルームミラー 70
ルームミラーの操作....70
自動防眩機能....70

シートベルト 72
シートベルトの種類....72
シートベルトの正しい着用のしかた....73
3 点式シートベルト....75
お子さまの安全 78
お子さま専用シートについて....78
チャイルドシートを固定するとき....84
ウインドー 87
窓ガラスの開閉....87
電動スライドガラスサンルーフ 90
電動スライドガラスサンルーフの操作....90
燃料補給口 93
給油するとき....93
盗難防止システム 97
イモビライザーシステム....97
SRS エアバッグシステム 99
SRS エアバッグシステムについて....99
エアバッグの種類....99
エアバッグの注意点....101
アクティブボンネット 110
アクティブボンネットについて....110
安全に運転をしていただくために 113
積雪、寒冷時の取り扱い....113

2 運転するときに

安全なドライブのために 120
運転するとき....120

運転装置について....122
こんなことにも注意....123
駐停車するとき....127
お子さまを乗せるとき....128

エンジンの始動と停止 129
電源ポジション (エンジンスイッチ)....129
エンジンの始動....130
エンジンの停止....137
i-stop について....138

i-ELOOP について 147
i-ELOOP とは....147

燃費モニター 149
燃費モニター....149

メーター、警告灯、表示灯の見方 153
メーター、表示....153
メーター (タイプ A)....154
メーター (タイプ B)....174
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)....194
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ....200

マニュアルトランスミッションの使いかた 203
マニュアルトランスミッション....203

オートマチックトランスミッションの使いかた 205
オートマチック車の特性....205
各位置の働き....206
シフトロック装置....207
セレクトレバーの操作....208
マニュアルモード....209
ダイレクトモード....213
オートマチック車を運転するときに....214

ドライブセレクションについて 218
ドライブセレクションとは 218
ブレーキ 220
ブレーキの操作 220
オートホールド 223
i-ACTIV AWD 228
i-ACTIV AWD について 228
スイッチの使いかた 229
ヘッドランプスイッチ 229
方向指示器 235
非常点滅灯スイッチ 236
リアフォグランプスイッチ 237
ワイパー/ウォッシャースイッチ 237
ヘッドランプウォッシャースイッチ 241
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ 242
ホーン 244
ABS について 245
ABS とは 245
ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) について 246
ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは 246
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について 247
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは 247
トラクションコントロールシステム (TCS) について 248
TCS とは 248
ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) について 249
DSC とは 249

i-ACTIVSENSE について 252

i-ACTIVSENSE とは..... 252
AFS (アダプティブフロントライティングシステム) について... 255
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) とは.....255
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) とは.....258
車線逸脱警報システムとは..... 260
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは..... 267
交通標識認識システム (TSR) とは..... 273
車間認知支援システムとは..... 280
ドライバー･アテンション･アラート (DAA) とは.....284
リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは.....286
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは.....290
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは.....302
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは..... 317
アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) とは.....329
AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは (オートマチック車)..... 333
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) とは 337
AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは (オートマチック車)..... 342
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは.....345
360° ビュー･モニターとは..... 347
フォワードセンシングカメラ (FSC) について..... 374
レーダーセンサー (フロント) について..... 379
レーダーセンサー (リア) について..... 382
超音波センサー (フロント) について..... 383
超音波センサー (リア) について..... 384
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ..... 385

クルーズコントロールについて 386

クルーズコントロールとは..... 386

駐車支援システムについて 391

駐車支援システムとは..... 391

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について 408
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは....408
メンテナンスモニター 409
メンテナンスモニター....409
様々な状況での運転のときは 411
悪天候での運転....411
環境保護のために 413
経済的な運転....413

3 快適装備の使いかた

空調 416
エアコンの上手な使いかた....416
吹き出し口....418
フルオートエアコン....420
マツダコネクト 426
マツダコネクトでできること....426
マツダコネクト４つの操作方法....428
マツダコネクトをご使用の前に....430
アンテナ....447
マツダコネクトの操作方法....448
マツダコネクトの設定....457
オーディオソースの使いかた....458
Bluetooth®をご使用の前に....511
Bluetooth®ハンズフリー....523
トラブルシューティング....543
室内装備 549
サンバイザー....549
室内照明....549
電源ソケット....556

USB 電源ソケット.....558
アジャスター機能付カップホルダー.....560
ボトルホルダー.....561
収納.....562
電動リアウインドーサンシェード.....568

4 お手入れのしかた

車と上手につきあうために 572
必ずまもる.....572
お車に触れるときはけがに注意する.....573

点検、整備 574
点検整備について.....574
定期点検.....576
日常点検の前に.....576
日常点検.....579
その他の手入れ.....588

ヒューズ切れ、電球切れのとき 589
ヒューズの受け持つ装置.....589
ランプ類、電気装置が作動しないとき.....595

電池交換 603
電池を交換するときは.....603

車の手入れ 606
外装の手入れ.....606
内装の手入れ.....610

季節の準備 613
冬にそなえて.....613
夏にそなえて.....615

環境保護のために 616
廃棄物を処理するときは.....616

5 トラブルが起きたら

故障したとき 620

路上で動けなくなったとき....620
スタックしたとき....621
踏切内で動けなくなったとき....622

緊急用具の取り扱い 623

発炎筒....623
工具、ジャッキの格納場所....623
ジャッキの取り扱い....625

パンクしたとき 632

タイヤパンク応急修理キット....632

バッテリーがあがったとき 641

バッテリーあがりについて....641

エンジンが始動しないとき 645

燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 2.2)....645

オーバーヒートしたとき 646

オーバーヒートについて....646

アドバンストキーが作動しないとき 648

キー一時停止機能....648

けん引について 649

けん引してもらうとき....649
故障車をけん引するとき....651

万一事故が起きたとき 653

警告灯/表示灯 654

警告灯が点灯、点滅したときは....654
マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは....665

センターディスプレイにメッセージが表示されたときは..... 667
警報チャイム 669
チャイムがなったときは..... 669
リアゲート 674
リアゲートが開けられなくなったとき..... 674
トランク 675
トランクが開けられなくなったとき..... 675
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ 676
アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき..... 676

1 運転する前に

安全なドライブのために 22
お出かけ前に....22
お子さまを乗せるとき....24
安全装備について....24
キー 25
キーについて....25
ドア 30
ドアの開閉....30
リアゲート 37
リアゲートの開閉....37
トノカバー (ワゴン) 41
トノカバーの使いかた....41
トランク 44
トランクの開閉....44
シート 47
シート使用上の注意....47
フロントシート....48
リアシートの操作....57
ヘッドレストの使いかた....62
シートヒーター/シートベンチレーション/ステアリングヒーター....64
ドアミラー 68
ドアミラーの操作....68
ルームミラー 70
ルームミラーの操作....70
自動防眩機能....70
シートベルト 72
シートベルトの種類....72
シートベルトの正しい着用のしかた....73

1 運転する前に

3 点式シートベルト.....75

お子さまの安全 78

お子さま専用シートについて.....78
チャイルドシートを固定するとき.....84

ウインドー 87

窓ガラスの開閉.....87

電動スライドガラスサンルーフ 90

電動スライドガラスサンルーフの操作.....90

燃料補給口 93

給油するとき.....93

盗難防止システム 97

イモビライザーシステム.....97

SRS エアバッグシステム 99

SRS エアバッグシステムについて.....99
エアバッグの種類.....99
エアバッグの注意点.....101

アクティブボンネット 110

アクティブボンネットについて.....110

安全に運転をしていただくために 113

積雪、寒冷時の取り扱い.....113

MEMO

お出かけ前に

日常点検は必ず実施する

574 ページの「点検整備について」をよくお読みください。

日常点検としてバッテリー液の量を定期的に点検する

586 ページの「バッテリーの点検」をよくお読みください。

日常点検としてタイヤを定期的に点検する

583 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない

93 ページの「給油するとき」をよくお読みください。

燃料補給時の注意

93 ページの「給油するとき」をよくお読みください。

ルーフやルーフレールの上に直接荷物を積まない

ルーフやルーフレールの上に直接荷物を積まないでください。荷くずれを起こすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷物を積むときは固定する

58 ページの「荷室を作るとき」、37 ページの「リアゲートの開閉」をよくお読みください。

可燃物、危険物は積まない

燃料の入った容器やスプレー缶は積まないでください。爆発、火災につながるおそれがあり危険です。

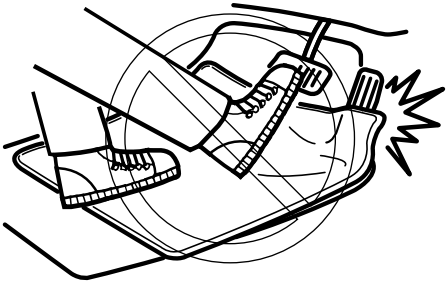
運転席足元には物を置かない

運転席足元にあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると、ペダルを正しく操作できなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

収納スペース使用時の注意

フタのついていない収納スペースに物を入れるときは、収納のしかたに注意してください。収納の状態により、急加速時に内部の物が飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアマットは車に合ったものを使用する



フロアマットは純正品を使用することをおすすめします。
フロアマットは車に合ったものを使用し、大きすぎるフロアマットを使用しないでください。
フロアマットを車に敷くときは次の点を守ってください。

- フロアマットは重ねて使用しない。
- フロアカーペットの上のフックでしっかり固定して使用する。

守られていないと、フロアマットがすべったり、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかるなど、ペダル操作のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

キーは運転者が携帯する

28 ページの「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」、30 ページの「ドアの開閉」をよくお読みください。

正しい運転姿勢に調節する

48 ページの「運転席の操作」をよくお読みください。

シートベルトは全員着用する

73 ページの「シートベルトの正しい着用のしかた」をよくお読みください。

外気取り入れ口をふさがない

416 ページの「エアコンを使用する前に」をよくお読みください。

お子さまを乗せるとき

お子さまはリアシートに乗せる

78 ページの「お子さまの安全」をよくお読みください。

お子さまにもシートベルトを着用させる

73 ページの「シートベルトの正しい着用のしかた」、101 ページの「エアバッグの注意点」をよくお読みください。

チャイルドシートは正しく取り付ける

78 ページの「お子さまの安全」をよくお読みください。

ドア、窓ガラス、サンルーフの開閉やシートなどの調節は大人が操作する

30 ページの「ドアの開閉」、36 ページの「チャイルドプルーフの使いかた」、90 ページの「電動スライドガラスサンルーフの操作」、57 ページの「アームレストの使いかた (リアシート) 」をよくお読みください。 グレード/仕様別装備

窓から手や顔を出させない

87 ページの「窓ガラスの開閉」をよくお読みください。

安全装備について

SRS エアバッグシステムの注意

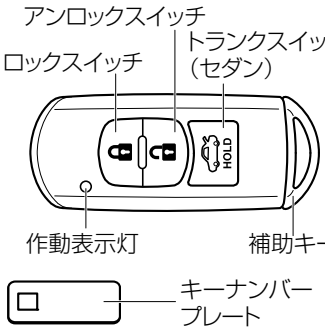
99 ページの「SRS エアバッグシステム」をよくお読みください。

キーについて

キー

知識

キーは必ず運転者が携帯してください。



キーを携帯することにより、キーを取り出すことなく次の操作ができます。

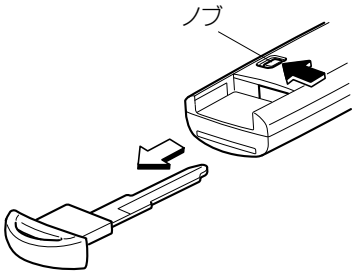
- エンジンを始動/停止する。
- ドア、リアゲート/トランクを施錠/解錠する。
- リアゲート/トランクを開ける。

またリモートコントロールの操作にも使用します。
キーは 2 本あります。

補助キー

キーに内蔵されています。
ドア、リアゲート/トランクの施錠/解錠に使用します。

補助キーの取りはずしかた



ノブを押したまま、補助キーを引き出します。

キーナンバープレート

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーをもとに、マツダ販売店で補助キーを作ることができます。

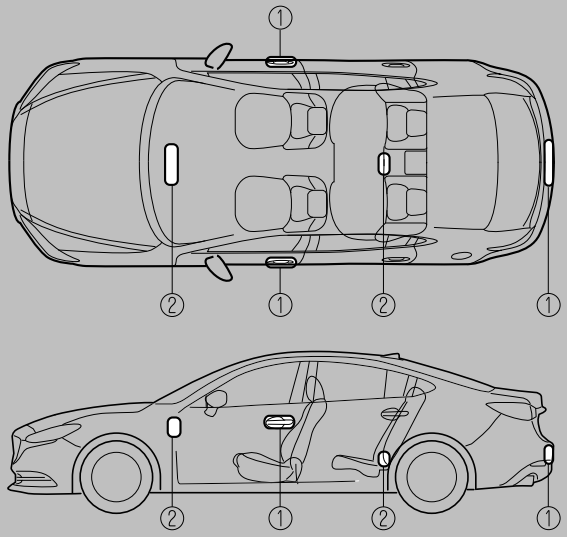
- 車両以外の安全な場所に大切に保管してください。
- お客様以外の方にキーナンバーを知られないようにしてください。

キーの注意点

⚠警告

禁止

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方は車内・車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。



①車外のアンテナ　②車内のアンテナ

必ず守る

次にある以外の医療用機器を使用している方は、キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。

- **植込み型心臓ペースメーカー**
- **植込み型除細動器**

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

必ず守る

プッシュボタンスタートシステム機能、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。
ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。
また、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠注意

必ず守る **キーは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはキーが正常に作動しないことがあります。**

- **携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき**
- **金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき**
- **パソコンなどの電化製品の近くに置いたとき**
- **純正品以外の電子機器を取り付けたとき**
- **近くに電波を発する設備があるとき**

禁止 **キーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。**

必ず守る **キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。**

- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **分解しないでください。**
- **重い物を上に置かないでください。**
- **直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。**
- **磁石や金属などの磁気を帯びた製品を近づけないでください。**
- **システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。**

禁止 **航空機内ではキーを操作しないでください。**
キーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。また、かばんやポケットなどで保管する場合は、キーのスイッチが容易に押されないように注意してください。

知識

- **<u>電池の寿命について</u>**
  電池の寿命は、約 1 年程度です。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示した場合は、新しい電池と交換してください。
  電池の消耗度合いによっては KEY 警告表示が表示しない場合もありますので、1 年を目安に電池の交換をおすすめします。

知識

- **キーの紛失について**
  キーを紛失された場合は、盗難、事故などを防ぐため、マツダ販売店にご相談ください。
- **キーを追加するときは**
  別売りのキーを購入される場合、お手持ちのキーとあわせて、同じ車両で 6 個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。

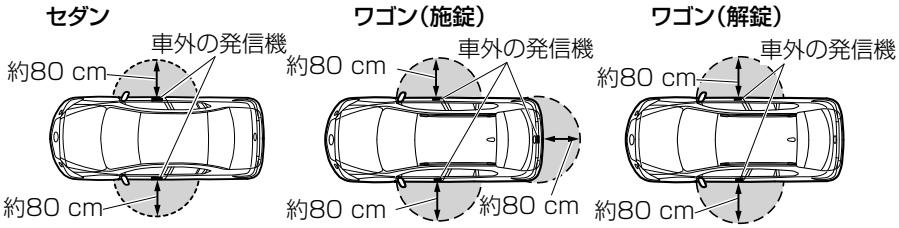
アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムはキーを取り出すことなく、ドア、リアゲート/トランクの施錠/解錠、エンジンの始動/停止をすることができます。また、リモートコントロール機能により、キーのスイッチを押して、ドア、リアゲート/トランクの施錠/解錠ができます。
→31 ページ「キーによる施錠/解錠」

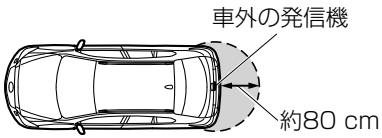
機能の作動範囲

キーを携帯し、車内および車外の作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

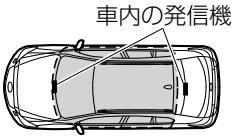
ドア、リアゲート/トランクの施錠/解錠



リアゲート/トランクの解錠



エンジンの始動



作動範囲

知識

- 次の場合、キーの作動範囲がせまくなったり、作動しない場合があります。
  - 電池が消耗しているとき
    電池交換の目安は 27 ページをお読みください。
  - 強い電波、ノイズのある場所
  - 窓ガラスやドアハンドル、リアゲート/トランクに近づきすぎた場合
- 次のような場所にキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
  - リアパッケージトリムの上 (セダン)
- 次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
  - リアパッケージトリムの上 (セダン)
  - 携帯電話などの通信機器の近く
- ラゲッジルーム/トランクは作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
  車外でも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。

ドアの開閉

⚠警告

必ず守る **ドアを閉めたあとは、確実に閉まっていることを確認する。**
半ドアのまま走行すると、不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **お子さまにドアの開閉をさせない。**
手、足、首などをはさみ重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **半ドア警告表示が表示したまま走行しない。**
走行中に、ドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る **ドアを開閉するときは、強風や傾斜地等周囲の状況を確認して開閉してください。**
指をはさんだり、ドアが通行人に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- **車から離れるときは**
  必ずエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。
- 次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
  - リアパッケージトリムの上 (セダン)
  - 携帯電話などの通信機器の近く
- **衝撃感知ドアロック解除システム**
  事故などで乗員が車両に閉じ込められることなく、すぐに乗員を救出できるよう自動的にドアおよびリアゲートを解錠するシステムです。電源ポジションが ON のとき、エアバッグが展開するほどの強い衝撃を受けると、約 6 秒後にすべてのドアおよびリアゲートが自動的に解錠します。衝撃の加わり方や強さ、事故の状況によってはドアおよびリアゲートが自動的に解錠されないことがあります。

キーによる施錠/解錠

知識

施錠/解錠するときにチャイムが鳴ります。チャイムが鳴らないように設定を変更することができます。また、音量を変更することができます。
→697 ページ「その他の装備・機能」

リクエストスイッチ

知識

施錠について

- 次の場合は施錠しません。
  - 電源ポジションが OFF 以外のとき
  - いずれかのドア、リアゲート/トランクが開いているとき
- リクエストスイッチで施錠したあとは、ドアが確実に施錠されたことを確認してください。
  リアゲート/トランクについては電磁式リアゲート/トランクオープナーを押さずにリアゲート/トランクを動かし、閉まっていることを確認してください。

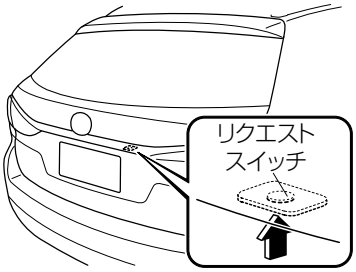
解錠について

リクエストスイッチを押してからドアが解錠されるまでに、数秒かかることがあります。

フロントドア

キーを携帯し、フロントドアのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リアゲート/トランクが施錠/解錠します。

リアゲート (ワゴン 施錠のみ)



キーを携帯し、リアゲートのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リアゲートが施錠します。

施錠したとき
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動します。
解錠したとき
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 2 回作動します。

知識

- リクエストスイッチを押さずに、自動的に施錠するように設定を変更することができます。
→697 ページ「その他の装備・機能」
オートロック機能
キーを携帯してすべてのドア、リアゲートを閉めると、チャイムが 1 回鳴ります。そのまま作動範囲から出ると約 3 秒後に自動的にすべてのドア、リアゲート/トランクを施錠します(作動範囲から出ない場合でも約 30 秒後、自動的に施錠します)。 ただし、次のようなときは施錠されません。
  - 車内に別のキーがあるとき。
  - ドア、リアゲート/トランクが完全に閉まる前に作動範囲を出たとき。
- リクエストスイッチを押して解錠したあと、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  - いずれかのドアまたはリアゲート/トランクを開ける。
  - 電源ポジションを OFF 以外にする。

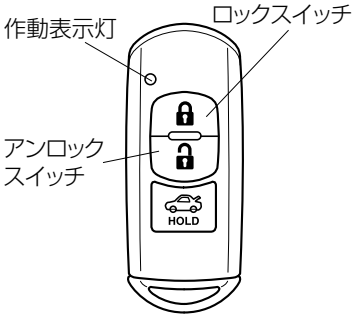
  施錠されるまでの時間を変更することができます。
→697 ページ「その他の装備・機能」

リモートコントロール機能

キーのスイッチを押すと、すべてのドア、リアゲート/トランクの施錠/解錠ができます。

知識

- スイッチはゆっくりと確実に押してください。
- 次の場合はリモートコントロール機能は作動しません。
  - 電源ポジションが OFF 以外のとき
  - いずれかのドア、リアゲート/トランクが開いているとき
- リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。



施錠するとき
ロックスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動します。
解錠するとき
アンロックスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 2 回作動します。

知識

- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  施錠されるまでの時間を変更することができます。
  →697 ページ「その他の装備・機能」
  - いずれかのドアまたはリアゲート/トランクを開ける。
  - 電源ポジションを OFF 以外にする。

車速感応式オートドアロック

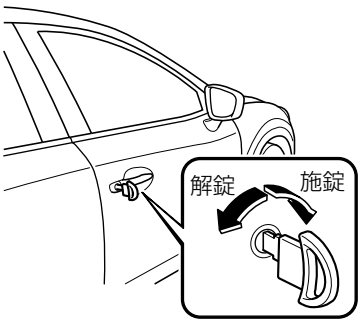
⚠警告

禁止
走行中に車内のドアハンドルを引かない。
不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 車速が 20 km/h を超えると、自動ですべてのドア、リアゲート/トランクを施錠します。
- **(マニュアル車)**
  電源ポジションを OFF または ACC にすると、自動ですべてのドア、リアゲート/トランクが解錠されます。
- **(オートマチック車)**
  電源ポジションが ON の状態で、セレクトレバーを P の位置にすると、自動ですべてのドア、リアゲート/トランクが解錠されます。

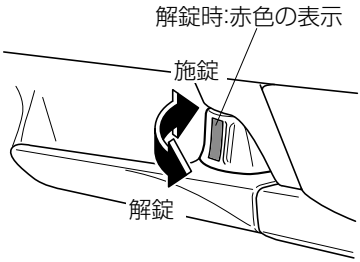
この機能は作動しないように設定を変更することができます。
→695 ページ「車両装備」

補助キーによる施錠/解錠



運転席ドアに、補助キーを差し込み、まわすとすべてのドア、リアゲート/トランクの施錠/解錠ができます。

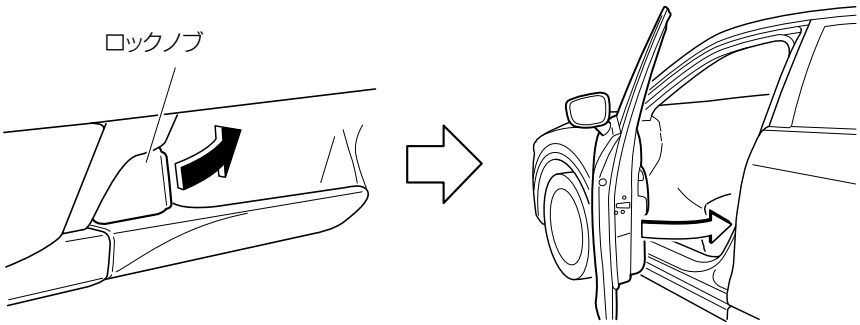
ロックノブによる施錠/解錠



運転席ドアのロックノブを操作すると、すべてのドア、リアゲート/トランクの施錠/解錠ができます。
助手席ドア、後席ドアのロックノブを操作すると、操作したドアの施錠/解錠ができます。

車外から操作するとき

助手席ドア、後席ドアは車内のロックノブを施錠側にし、ドアを閉めるだけで施錠できます。

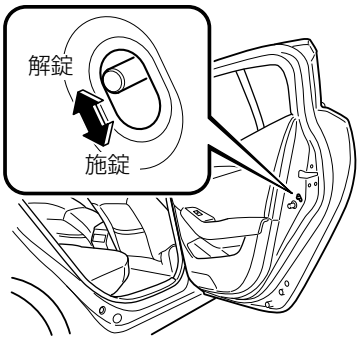


知識

- 運転席ドアはキーの閉じ込みを防止するために、ロックノブを施錠側にすると解錠側にはね返るためこの方法では施錠できません。
- キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

チャイルドプルーフの使いかた

お子さまをリアシートに乗せているとき、いたずらなどで不意にドアが開くことを防止できます。



チャイルドプルーフレバーを施錠側にして閉めたリアドアは、車内のロックノブの位置に関係なく車内からは開けることができません。
お子さまの安全のため、両側のリアドアのチャイルドプルーフレバーを施錠側にしてください。
ドアを開けるときは、車内のロックノブを解錠側にし、車外のドアハンドルを引いてください。

リアゲートの開閉

⚠警告

禁止 **ラゲッジルーム内に人を乗せない。**
急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **リアゲートは必ず閉めてから走行する。**
開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

必ず守る **荷物を積むときはそのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定する。**
走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。また、シート背もたれの高さを越えないようにしてください。後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

⚠注意

必ず守る **リアゲートを開ける前に、リアゲートの雪や氷などの付着物を取り除いてください。リアゲートを開けたときに、雪や氷などの重みでリアゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。**

必ず守る **強風時にリアゲートを開閉するときは、風にあおられないよう注意して開閉してください。リアゲートが急に閉まり、けがをするおそれがあります。**

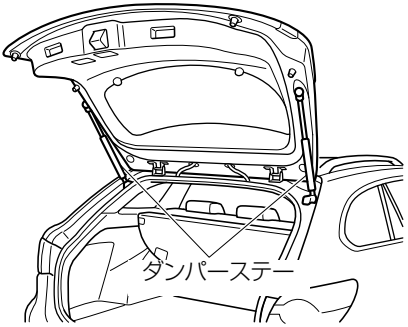
必ず守る **リアゲートを開けるときは全開にして、リアゲートが止まることを確認してください。リアゲートを途中で止めると、振動や突風などでリアゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。**

必ず守る **ラゲッジルームの荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。**

リアゲート

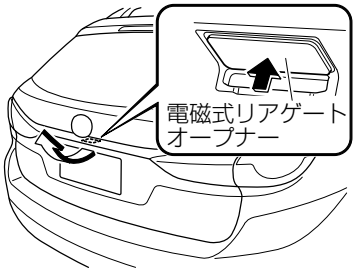
⚠注意

禁止 **リアゲートのダンパーステーに手をかけるなどして過度の力を加えないでください。ダンパーステーが曲がり、リアゲートの作動に影響をおよぼすおそれがあります。**



禁止 **リアゲートのダンパーステーを改造または交換しないでください。衝突等で変形または破損した場合や、異常を感じた場合はマツダ販売店へご相談ください。**

リアゲートを開けるとき



ドアを解錠し、電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを持ち上げます。
キーを携帯して電磁式リアゲートオープナーを押すと、施錠されている状態でもリアゲートを開けることができます。

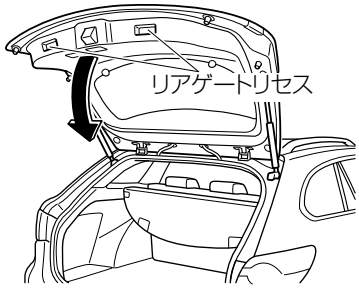
知識

- ドア、リアゲートが施錠されている状態から、電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを開けるときは、すぐに解錠されないことがあります。
- ドアが施錠されている状態で、車内にキーを入れたままリアゲートを閉めると、リアゲートは閉まりますが、施錠されません。電磁式リアゲートオープナーを押すことにより、リアゲートを開けることができます。ただし、この操作をしてもリアゲートを開けることができないときは、リアゲートを押さえつけるようにして完全に閉めてから電磁式リアゲートオープナーを押して開けてください。

知識

- 電磁式リアゲートオープナーを押して、リアゲートが少し浮いた状態のままリアゲートを開けずに一定の時間が経過すると、リアゲートを開閉することができなくなります。次の操作を行なってリアゲートを開閉してください。
  - **リアゲートを開ける場合**
    もう一度、電磁式リアゲートオープナーを押して、リアゲートを開けてください。
  - **リアゲートを閉める場合**
    一度、電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを開け、1 秒以上待ってから閉めてください。
- バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リアゲートの解錠ができず開けられなくなったときは、応急処置を行なうとリアゲートを開けることができます。
→674 ページ「リアゲートが開けられなくなったとき」

リアゲートを閉めるとき



リアゲートをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めます。リアゲートリセスを使用すると便利です。

警告

必ず守る **リアゲートを閉めたあとは、確実に閉まっていることを確認する。**
走行中にリアゲートが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る **リアゲート開警告表示が表示したまま走行しない。**
走行中に、リアゲートが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

必ず守る **リアゲートを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。**

リアゲート

知識

リアゲートを閉めたあとは、電磁式リアゲートオープナーを押さずにリアゲートを動かし、半ドアでないことを確認してください。

トノカバーの使いかた

ラゲッジルームの荷物を覆うことができます。トノカバーは前側と後側で分けて使用することができます。ラゲッジボードの下に収納することができます。

⚠警告

トノカバーの上には、荷物を置かない

禁止

置いたまま走行すると、急ブレーキ時などに、荷物が移動して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

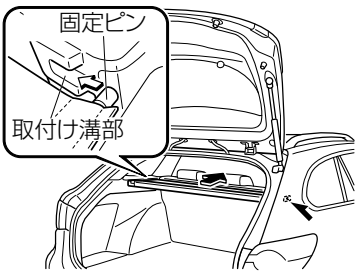
必ず守る

トノカバーが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないまま走行すると、不意にトノカバーがはずれて、けがをするおそれがあります。

知識

- リアゲートにトノカバーを取り付けた状態での開閉と取りはずした状態でのリアゲートの開閉の操作では重さが異なりますが、異常ではありません。
- 寒冷時など、トノカバーをリアゲートのクリップに取り付けた状態でリアゲートを開けると、ダンパー機能が正常に作動せず、リアゲートが持ち上げにくくなることがあります。リアゲートのクリップからトノカバーを取りはずすとリアゲートを持ち上げやすくなります。

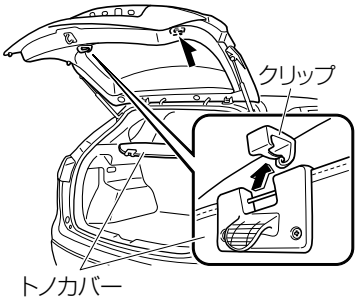
前側トノカバーを使うとき



トノカバーを引き出し、固定ピンを取付け溝部に固定します。

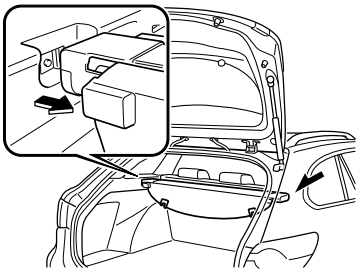
トノカバー (ワゴン)

後側トノカバーを使うとき



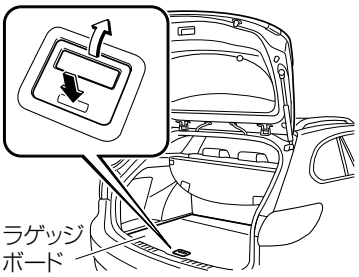
トノカバーを引き出し、リアゲートのクリップに差し込みます。

トノカバーを取り外すとき

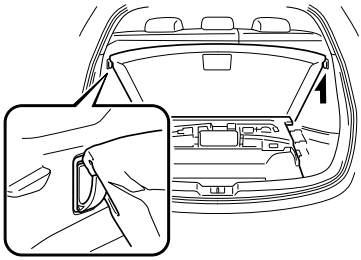


1. トノカバーを引き出している場合は、まき取らせます。
2. トノカバーのホルダーの両端を内側に縮めて、取り付け穴からはずします。
3. トノカバーを車両から斜めに取り出します

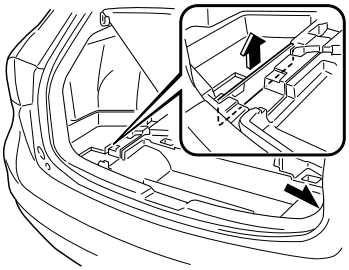
トノカバーを収納するとき



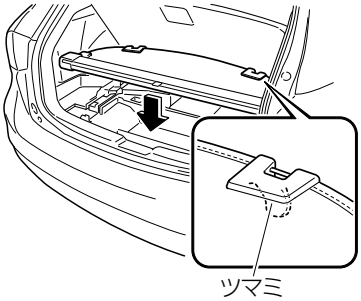
1. トノカバーを取り外します。
   →42 ページ「トノカバーを取り外すとき」
2. ラゲッジボードを開きます。



3. ショッピングフックを回転させ、ラゲッジボードを立てかけます。



4. ラゲッジルームの両側にある、仕切り板をはずします。



5. ツマミを下にした状態で、トノカバーを収納します。
6. ラゲッジボードを閉じます。

トノカバーを取り付けるとき

取り外すときと逆の手順で取り付けます。

トランクの開閉

⚠警告

禁止 **トランクルーム内に人を乗せない。**
トランクルームに閉じ込められると中から開けられません。また、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **トランクリッドは必ず閉めてから走行する。**
開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

⚠注意

必ず守る **トランクリッドを開ける前に、トランクリッドの雪や氷などの付着物を取り除いてください。トランクリッドを開けたときに、雪や氷などの重みでトランクリッドが閉まり、けがをするおそれがあります。**

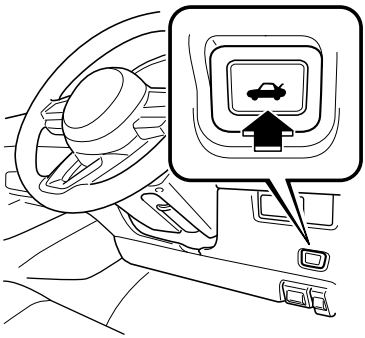
必ず守る **強風時にトランクリッドを開閉するときは、注意して開閉してください。トランクリッドが風にあおられると、急に閉まり、けがをするおそれがあります。**

必ず守る **トランクリッドを開けるときは全開にして、トランクリッドが止まることを確認してください。トランクリッドを途中で止めると、振動や突風などでトランクリッドが閉まり、けがをするおそれがあります。**

必ず守る **トランクルームの荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。**

トランクを開けるとき

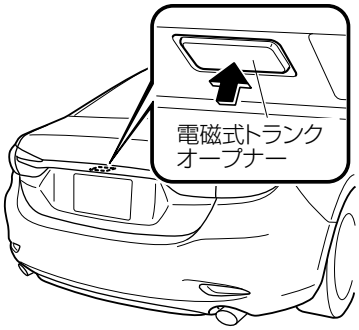
車内から開けるとき



運転席右下にあるトランクリッドオープナースイッチを押します。

車外から開けるとき

電磁式トランクオープナーの操作による開けかた

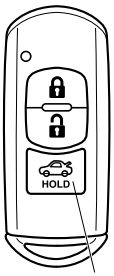


ドアを解錠し、電磁式トランクオープナーを押しトランクを持ち上げます。
キーを携帯して電磁式トランクオープナーを押すと、施錠されている状態でもトランクを開けることができます。

知識

- ドア、トランクが施錠されている状態から、電磁式トランクオープナーを押してトランクを開けるときは、すぐに解錠されないことがあります。
- ドアが施錠されている状態から、車内にキーを入れたままトランクを閉めると、トランクは閉まりますが、施錠されません。電磁式トランクオープナーを押すことにより、トランクを開けることができます。ただし、この操作をしてもトランクを開けることができないときは、トランクを押さえつけるようにして完全に閉めてから電磁式トランクオープナーを押して開けてください。

リモートコントロール機能による開けかた



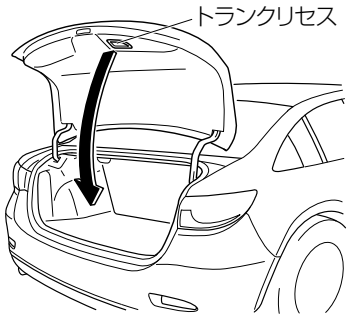
トランクスイッチを約 1 秒押すと開きます。

知識

バッテリーあがりや電気系統の故障などで、トランクの解錠ができず開けられなくなったときは応急処置を行なうと、トランクを開けることができます。
→675 ページ「トランクが開けられなくなったとき」

トランク

トランクを閉めるとき



トランクリッドをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めます。
トランクリセスを使用すると便利です。
トランクリッドを閉めたあとは、電磁式トランクオープナーを押さずにトランクリッドを動かし、半ドアでないことを確認してください。

⚠警告

必ず守る **トランクリッドを閉めたあとは、トランクリッドをゆさぶって確実にロックされていることを確認する。**
走行中にトランクリッドが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る **トランクリッドを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。**
万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

シート使用上の注意

⚠警告

シート各部の調節は、必ず走行前に行なう。

必ず守る

走行中に行なうと、必要以上にシートが動いて姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートが損傷した場合は必ずマツダ販売店で点検を受ける。

必ず守る

エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシート内部のエアバッグシステムの部品が本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。衝突後やシートクッションが破れたり、ウレタンまで達するほどの損傷の場合は、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

背もたれは倒しすぎない。

禁止

急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートの下に物を置かない。

禁止

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

操作後は確実にロックされていることを確認する。

必ず守る

走行中シートが不意に動くと姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

シートを操作する際は、操作する人やまわりの人が手や足などをはさまれないように注意してください。

必ず守る

シートを前後に動かすときや、後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、シートが急に動き、けがをするおそれがあります。

必ず守る

フロントシート

運転席の操作

マツダが推奨するドライビングポジションにすることで、リラックスした姿勢を保ち、ドライバーが長時間の運転でも疲れにくく、自然に素早い操作をすることができます。
また、前方の視野を確保し、安全で楽しく運転することができます。
マツダが推奨するドライビングポジションにするには、次の手順で調節します。

1. ハンドルとシートを初期位置へ移動する。
2. シートの背もたれの角度を調節する。
3. シートの前後位置を調節する。
4. シートの高さを調節する。
5. ハンドルの位置を調節する。
6. ヘッドレストの位置を調節する。

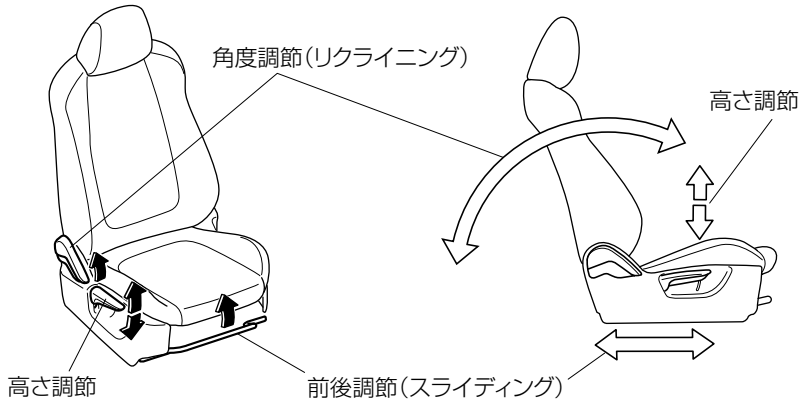
⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

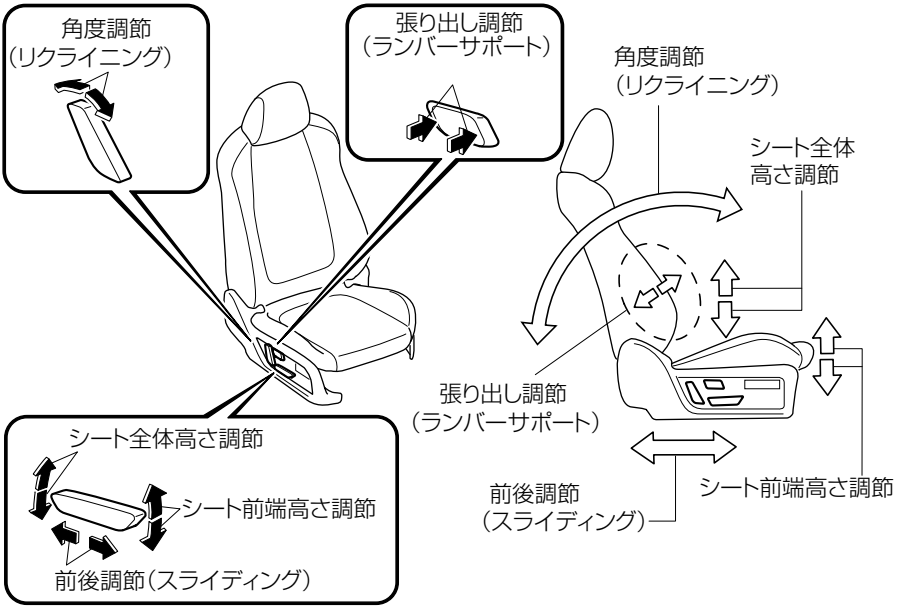
禁止

正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

マニュアルシート



パワーシート



マツダが推奨するドライビングポジションに調節する前に

調節する前にハンドル、シートを初期位置へ移動させます。

ハンドルの初期位置への移動のしかた

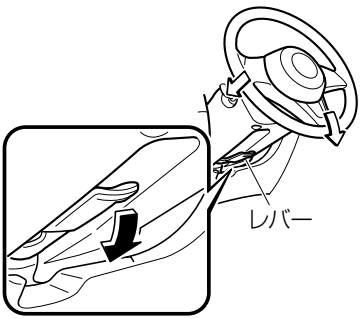
⚠警告

調節は必ず車両を停止した状態で行なう。
走行中に調節すると、運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

調節後は、ハンドルを上下にゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。
走行中ハンドルが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る



レバーを下げて、ハンドルの高さを一番下の位置にし、奥まで押し下げます。

シートの初期位置への移動のしかた

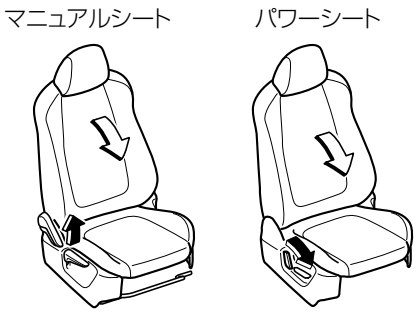
1. シートを一番後ろに下げます。
2. シートの高さを一番下まで下げます。
3. シートに深く腰かけて、背もたれと背中を密着させます。

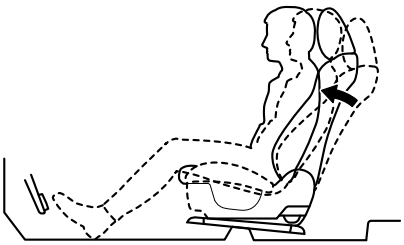
マツダが推奨するドライビングポジションへの調節手順

シートの背もたれの角度を調節する（リクライニング）

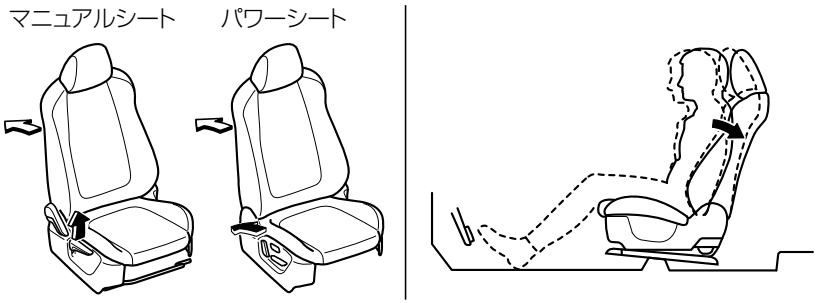
楽な姿勢で座れる角度にシートの背もたれを調節します。

1. 少し前かがみの姿勢で、お腹まわりが窮屈と感じる角度まで背もたれを起こします。





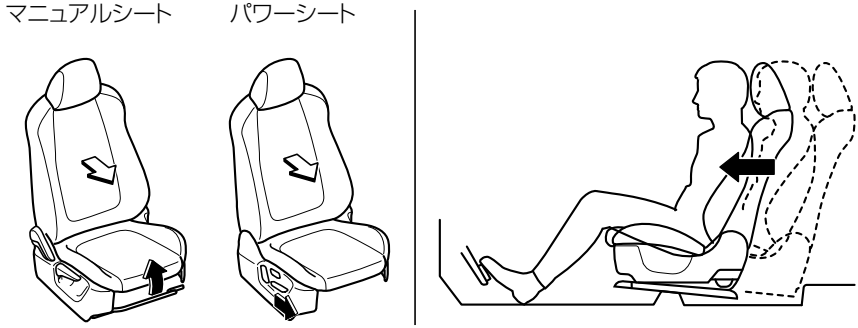
2. お腹まわりに窮屈な感じがなく、楽に座れる姿勢まで背もたれを倒します。



シートの前後位置を調節する（スライディング）

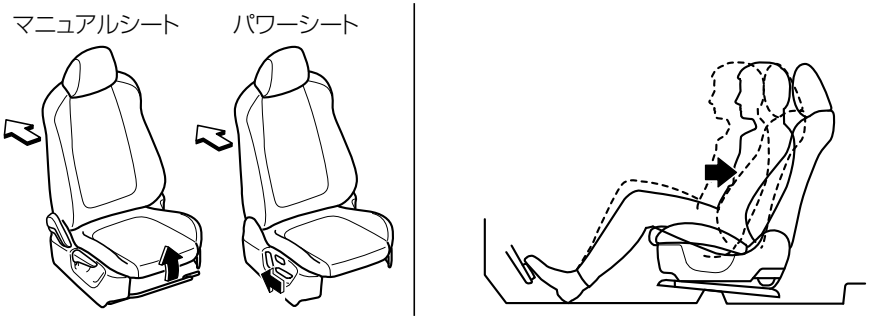
ペダルが操作しやすい位置に調節します。

1. 左足はフットレストに置き、右足はアクセルペダルとブレーキペダルの中間、ペダルを踏みかえられる位置にかかとを置きます。
2. かかとを床に付けた状態でブレーキペダルに右足を乗せ、足首が少し窮屈に感じるまでシートをできるだけ前へ動かします。



3. ブレーキペダルに右足を乗せたまま、足首が窮屈と感じなくなるまでシートを後ろへ動かします。
4. かかとを床に付けたまま、ブレーキペダルとアクセルペダルの踏み替えがスムーズにできることを確認します。

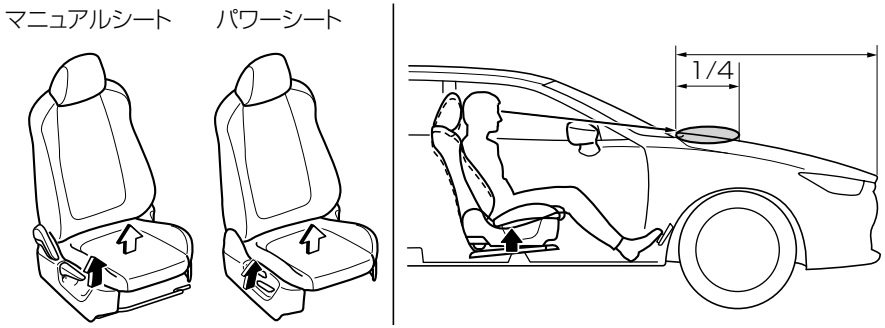
5. かかとを床に付けたままアクセルペダルを一番奥まで踏み、足首が伸び切った感じを受けないことを確認します。



シートの高さを調節する

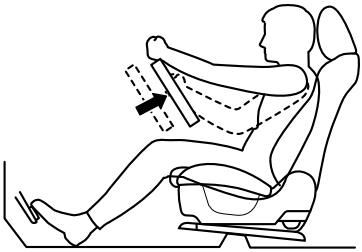
前が見やすく、運転しやすい高さに調節します。

1. 背もたれに背中を密着させた状態で、ボンネットの後端から 1/4 が確認できる高さにシートの高さを調節します。
   マニュアルシートはシートの高さを上げると、前方へシートが移動します。前後調節をもう一度行なってください。

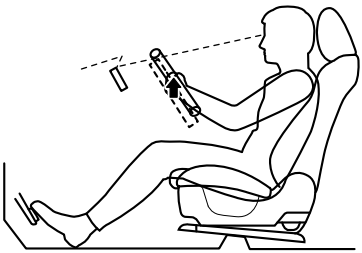


ハンドルの位置を調節する

運転操作がしやすく、メーターが見える位置に調節します。



1. 背もたれに背中を密着させた状態で、両腕をのばし、ハンドル上部に両手を置いて、手首の位置までハンドルを引き寄せます。



2. メーター類がしっかり見えるように、ハンドルの高さを調節します。
3. レバーを引き上げてハンドルを固定します。

ヘッドレストの位置を調節する

万一のときに頭部への衝撃を防ぐため、正しい位置にヘッドレストを調節します。
→62 ページ「ヘッドレストを調節するとき」

ドライビングポジションメモリー機能 グレード/仕様別装備

お好みのドライビングポジションを記憶させることができます。
次のドライビングポジションを記憶させることができます。

- 運転席シート位置 (角度、前後位置、全体高さ、前端高さ)
  →48 ページ「運転席の操作」
- アクティブ・ドライビング・ディスプレイ (表示位置、輝度、表示情報)
  →200 ページ「アクティブ・ドライビング・ディスプレイ」

ドライビングポジションを次の操作で記憶または操作することができます。

- シート側スイッチの操作
- キーを使った操作

知識

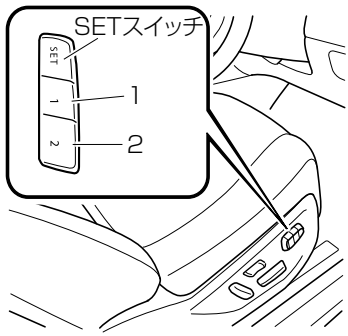
- 張り出し調節 (ランバーサポート) は記憶させることはできません。
- ドライビングポジションはシート側のスイッチと車両に使用しているキーに記憶させることができます。

知識

- バッテリーとの接続が絶たれたときは、シート側スイッチおよびキーの両方に記憶された位置がすべて消去されます。もう一度記憶させてください。

記憶させるとき

ドライビングポジションをシート側スイッチとキーに記憶させることができます。



1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。
3. エンジンを始動させます。
4. シート位置とアクティブ･ドライビング･ディスプレイをお好みの位置に調節します。
5. シートのSETスイッチを、ビープ音が1回鳴るまで押します。
6. ビープ音が鳴った後、5秒以内に次の操作を行ない、ドライビングポジションを記憶させます。
   - シート側のスイッチに記憶させるとき
     1、2のうち記憶させたいスイッチを、ビープ音が1回鳴るまで押します。
   - キーに記憶させるとき
     キーの🔓スイッチを、ビープ音が1回鳴るまで押します。

知識

ビープ音が3回鳴ると、記憶させる操作は無効になります。

記憶させた位置に調節するとき

注意

禁止 **ドライビングポジションメモリー機能でシートが自動的に動いているときは、シートの下やその周辺に手や指などを近づけないでください。手や指などをはさんで、けがをするおそれがあります。**

シート側のスイッチで操作するとき

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。

3. エンジンを始動させます。
4. 1、2 のうち呼び出したい位置が記憶されているスイッチを押します。
5. 記憶されたドライビングポジションに調節が終了すると、ビープ音が 1 回鳴ります。

知識

- ドライビングポジションの移動がないときは、ビープ音のみ鳴ります。
- 次の状態のときは、シート位置のみ調節されます。
  - 電源ポジションが ON (エンジン停止) で、オートマチック車はセレクトレバーが P の位置にあるとき、マニュアル車はパーキングブレーキをかけているとき
  - 電源ポジションが OFF のとき
- 次のような場合、ドライビングポジションの調節を中止します。
  - いずれかのシート調節スイッチを操作したとき
  - SET スイッチを押したとき
  - 1、2 のスイッチを押したとき
  - キーの🔒スイッチまたは、🔓スイッチを操作したとき
  - 車両が走行状態になったとき
  - アクティブ･ドライビング･ディスプレイを調節したとき

キーで操作するとき

1. フロントドアにあるリクエストスイッチまたは、キーの🔒スイッチの操作で、解錠の操作をします。
2. 解錠の操作をした後、40 秒以内に運転席ドアを開けるとシート位置の調節を開始し、終了するとビープ音が 1 回鳴ります。
3. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
4. オートマチック車はセレクトレバーが P の位置にあることを確認します。
5. エンジンを始動すると、アクティブ･ドライビング･ディスプレイの調節を開始します。

知識

- ドライビングポジションの移動がないときはビープ音は鳴りません。
- 次のような場合、シート位置の調節を中止します。
  - いずれかのシート調節スイッチを操作したとき
  - SET スイッチを押したとき
  - 1、2 のスイッチを押したとき
  - キーの🔒スイッチまたは、🔓スイッチを操作したとき
  - 車両が走行状態になったとき
  - アクティブ･ドライビング･ディスプレイを調節したとき

記憶させた位置を消去するとき

キーに記憶させた位置を消去するとき

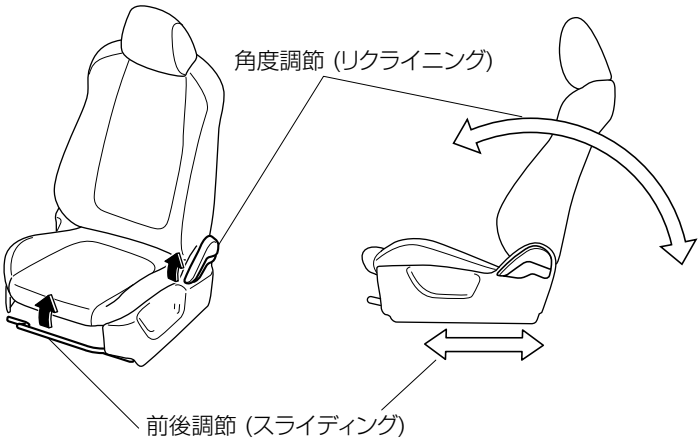
1. 電源ポジションを OFF にします。
2. シートの SET スイッチを、ビープ音が 1 回鳴るまで押します。
3. ビープ音が鳴った後、5 秒以内にキーのスイッチを、ビープ音が 1 回鳴るまで押します。

知識

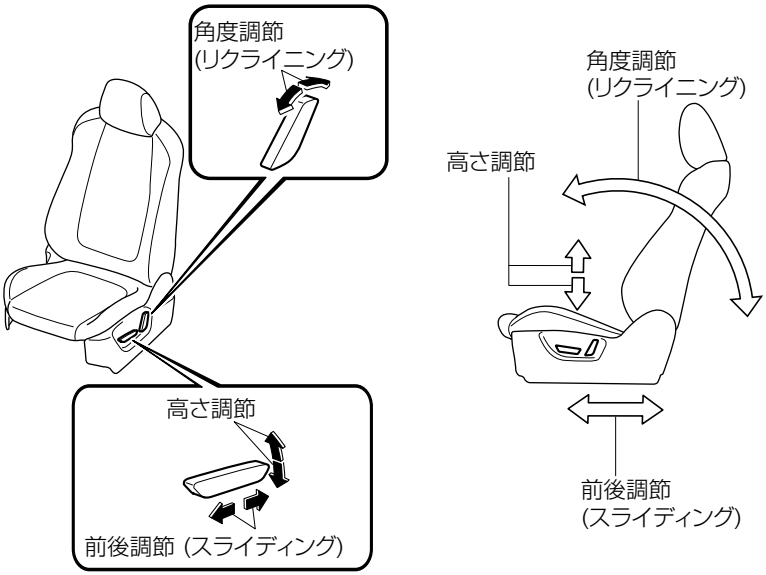
ビープ音が 3 回鳴ると、記憶させた位置を消去する操作は無効になります。

助手席の操作

マニュアルシート



パワーシート

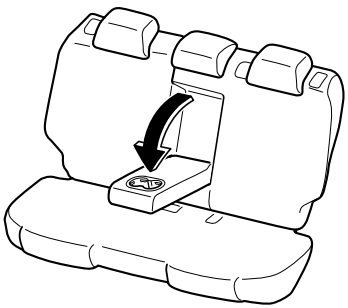


リアシートの操作

⚠注意

禁止 **シートを操作するときは、シートの動く部品周辺やサイドトリムなどに手や指を置かないでください。手や指を置いているとけがをするおそれがあります。**

アームレストの使いかた



前に倒して使用します。

シート

⚠警告

アームレストの取り付け部周辺に、手や指を置かない。

禁止

シートとアームレストの間に手や指がはさまり、けがをするおそれがあります。

荷室を作るとき

リアシートの背もたれを倒すと荷室として広げることができます。

⚠警告

倒した背もたれの上やラゲッジルーム内に人を乗せて走行しない。

禁止

シートベルトが着用できないため、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれを倒して荷物を運ぶときは、荷物を確実に固定する。

必ず守る

固定しないで走行すると、急ブレーキ時や衝突時に荷物が動き運転操作のさまたげになるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷物を運ぶときは、シート背もたれの高さを越えないようにする。

必ず守る

後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

ワゴン

ベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けた後に、リモートハンドルを操作しない。

禁止

ベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けた後にリモートハンドルを操作すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。リモートハンドルを操作するときはベビーシートやチャイルドシートを取りはずしてください。

リモートハンドルを操作するときは、リアシートに人が乗っていたりアームレストに物が置かれたままになっていないか十分確認する。

必ず守る

確認せずにリモートハンドルを操作すると背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

背もたれを前に倒すときは、必ず背もたれを手で支えながら操作してください。背もたれを手で支えずに操作すると、プッシュノブを押す指などにけがをするおそれがあります。

必ず守る

⚠注意

必ず守る

リモートハンドルを操作するときは、次の点を守ってください。

- **下り坂では背もたれが倒れるスピードが速くなることがあります。**
- **上り坂では背もたれが倒れないことがあります。リモートハンドルで背もたれが倒れないときは、手で倒してください。**

背もたれを折りたたむとき

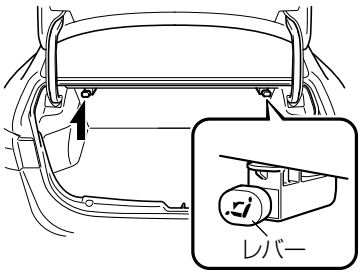
⚠注意

必ず守る

背もたれを折りたたむ前にフロントシートの位置を確認してください。フロントシートの位置によっては、リアシートの背もたれがフロントシートに当たって、フロントシートやシートバックポケットが損傷、破損したり、背もたれを折りたたむことができなくなったりする場合があります。また、必要に応じてリアシート左右席のヘッドレストは、位置を下げる、または取りはずしてください。

(セダン)

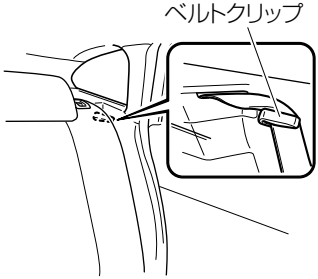
1. **(リアシートヒーター装備車)**
   リアシートのシートヒーターのスイッチを OFF にします。
   →64 ページ「シートヒーターの使いかた」 グレード/仕様別装備



2. トランクリッドを開け、倒したい背もたれ側にあるレバーを引きます。リアドアを開けて、リアシートを前に倒します。

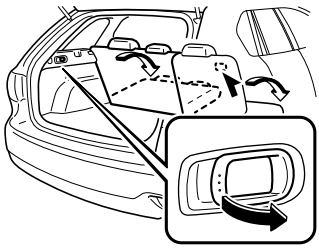
(ワゴン)

1. **(リアシートヒーター装備車)**
   リアシートのシートヒーターのスイッチを OFF にします。
   →64 ページ「シートヒーターの使いかた」 グレード/仕様別装備



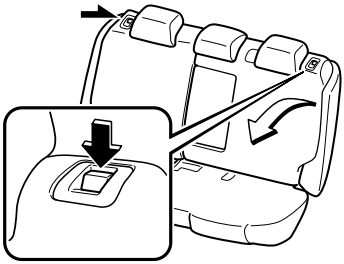
2. リアシートのシートベルトをベルトクリップにかけます。

リモートハンドルを使うとき



3. **リモートハンドルを使うとき**
   リアゲートを開け、倒したい背もたれ側にあるリモートハンドルを矢印の方向へ操作します。
   プッシュノブを使うとき
   プッシュノブを押して背もたれを前に倒します。

プッシュノブを使うとき



もとにもどすとき

⚠警告

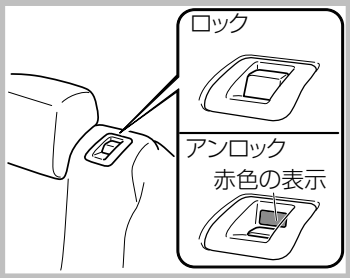
必ず守る 背もたれをもとにもどすときは、3 点式シートベルトがはさまれていないことを確認する。

シートベルトが背もたれにはさまれた状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分発揮できないため重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る ワゴン

背もたれをもとにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認する。

プッシュノブ後部に赤色の表示が見えているときは、背もたれがロックされていません。ロックしないまま走行すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



背もたれを後ろに押しつけロックさせます。背もたれをもとの位置にもどした後は、確実にロックされていることを確認してください。

ヘッドレストの使いかた

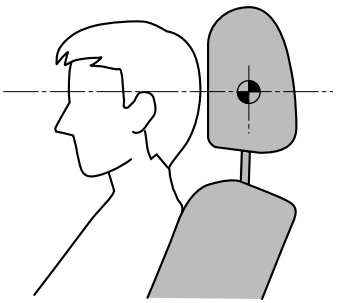
すべてのシートには、ヘッドレストが装備されています。
ヘッドレストは、万一のときに、むち打ち症や他のけがから乗員を保護します。

ヘッドレストを調節するとき

⚠警告

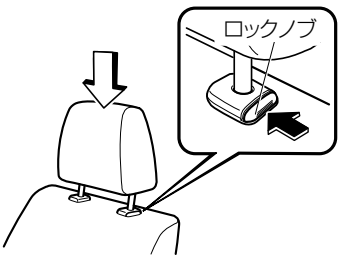
高さを調節しないままで走行しない。

禁止 **高さを調節しないまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。**



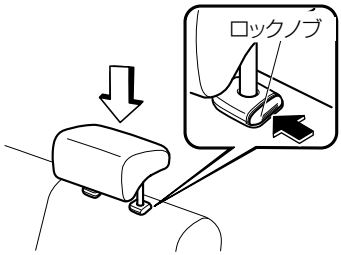
ヘッドレストの中央が、耳の上部と同じ高さになるように調節してください。

フロントシート



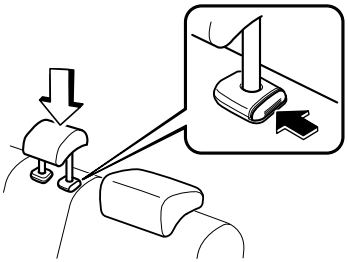
- 高くするとき
  そのまま引き上げます。
- 低くするとき
  ロックノブを押したまま下げます。

リアシート左右席



- 高くするとき
  そのまま引き上げます。
- 低くするとき
  ロックノブを押したまま下げます。

リアシート中央席



- 使用するとき
  ロック位置まで引き上げます。
- 格納するとき
  ロックノブを押したまま下げます。

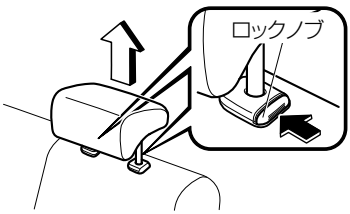
ヘッドレストを脱着するとき

フロントシート/リアシート中央席

- ヘッドレストを取りはずすとき
  ロックノブを押しながら引き上げます。
- ヘッドレストを取り付けるとき
  そのまま差し込みます。

リアシート左右席

- ヘッドレストを取りはずすとき
  両側のロックノブを押しながら引き上げます。
- ヘッドレストを取り付けるとき
  そのまま差し込みます。



⚠警告

ヘッドレストをはずした状態で走行しない。

禁止 **取りはずした状態のまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。**

取り付けた後は、ヘッドレストが抜け出さないことを確認する。

必ず守る **ヘッドレストが抜け出すと万一の場合、思わぬけがをするおそれがあります。ヘッドレストを引き上げて、抜け出さないことを確認してください。**

⚠注意

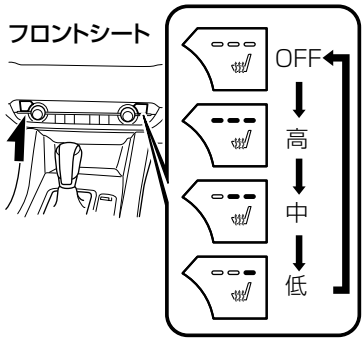
必ず守る **ヘッドレストを取り付けるときは、ヘッドレストの前後の向きを間違えないようにしてください。前後の向きをまちがえて取り付けると、衝突時などにヘッドレストがはずれ、けがをするおそれがあります。**

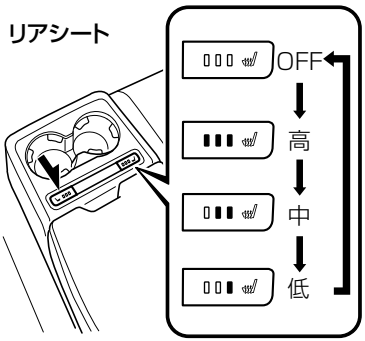
必ず守る **フロントシート・リアシートそれぞれのヘッドレストは、各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えないでください。入れ替えると、衝突時などにヘッドレストの効果が十分に発揮できず、けがをするおそれがあります。**

シートヒーター/シートベンチレーション/ステアリングヒーター

シートヒーターの使いかた グレード/仕様別装備

シートを温めることができます。電源ポジションが ON のとき、スイッチを押すと作動します。作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。スイッチを押すごとに、図のように作動状態が切り替わります。





⚠注意

次のような方がご使用になる場合は、熱すぎたり、低温やけどを起こしたりするおそれがありますので、十分注意してください。

必ず守る

- **乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方**
- **皮膚の弱い方**
- **疲労の激しい方**
- **深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を服用された方**

低温やけどを起こさないために、次のことをお守りください。

必ず守る

- **毛布や座布団など保温性のよいものをかけた状態で使用しないでください。異常加熱するおそれがあります。**
- **仮眠するときは使用しないでください。**
- **突起のある重量物をシートの上に置いたり、針金やピン等でシートクッションをつきささないでください。異常加熱するおそれがあります。**

必ず守る

リアシートの背もたれを倒すときは、シートヒーターのスイッチが OFF になっていることを確認してください。シートヒーターが作動中のまま、背もたれを倒すと、シートが異常加熱し、シートの表面を損傷するおそれがあります。

禁 止

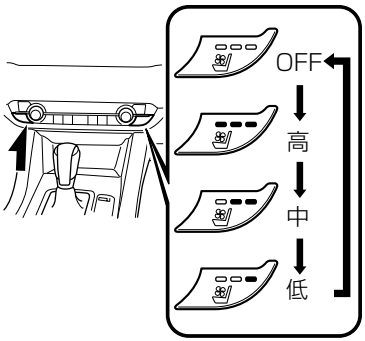
シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

知識

- エンジン回転中に使用してください。エンジンを止めたままで、シートヒーターを長時間使用するとバッテリーがあがるおそれがあります。
- **(リア)**
  シートヒーターが作動中にエンジンを止めて、次に電源ポジションを ON にしたとき、シートヒーターは自動的に作動しません。シートヒーターを使用するときは、再度スイッチを押してください。
- リアシートヒーターは約 90 分後に、自動で作動が停止します。

シートベンチレーションの使いかた グレード/仕様別装備

シートに取り付けられたファンでシート表面の空気を吸い込み、シートの表面を換気します。電源ポジションが ON のとき、スイッチを押すと作動します。作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。スイッチを押すごとに、図のように作動状態が切り替わります。



⚠注意

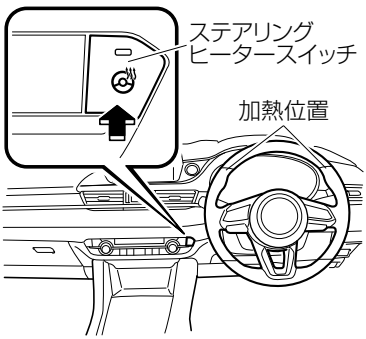
禁止 **シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ベンチレーション部品やシートの表面を損傷するおそれがあります。**

知識

エンジン回転中に使用してください。エンジンを止めたままで、シートベンチレーションを長時間使用するとバッテリーがあがるおそれがあります。

ステアリングヒーターの使いかた グレード/仕様別装備

ハンドルの左右のグリップ部分を温めることができます。



電源ポジションが ON のとき、スイッチを押すと約 30 分間作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。

⚠注意

必ず守る **低温やけどを起こすおそれがありますので、次のような方が触れないよう注意してください。**

- **乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方**
- **皮膚の弱い方**
- **疲労の激しい方**
- **深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を服用された方**

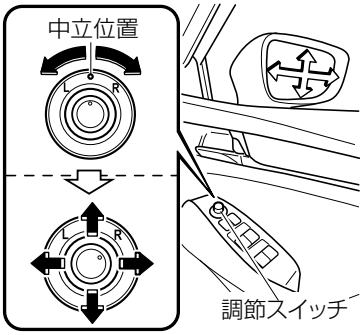
ドアミラーの操作

⚠警告

調節は走行前に行なう。
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。
必ず守る

ドアミラーの角度調節

電源ポジションが ACC または ON のとき調節ができます。



1. 調節スイッチを助手席側 **L** または運転席側 **R** のどちらか調節したいミラー側にまわします。
2. 調節スイッチを操作して、後方が十分確認できるように調節します。
3. ミラーの調節後は、調節スイッチを中立位置にもどします。

ドアミラーを格納するとき

⚠注意

ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができなくなります。
禁止

電動格納ミラーはスイッチで操作してください。手動で操作すると、ミラーが固定されず後方確認ができなくなることがあります。
必ず守る

電源ポジションが ACC または ON のときに格納できます。
スイッチの後側を押すと格納します。
スイッチの前側を押すと展開します。

自動格納機構

電源ポジションが OFF または ACC のときに作動します。
自動格納ドアミラースイッチを AUTO の位置 (中立位置) にすると、ドアの施錠/解錠に連動して自動でドアミラーが格納/展開します。
また、電源ポジションを ON またはエンジンを始動させるとドアミラーが自動で展開します。

知識

寒冷時はドアミラーが自動で格納/展開しないことがあります。
自動で格納/展開しない場合は、氷や雪を取り除き自動格納ドアミラースイッチの前側または後側を押してドアミラーを格納/展開してください。

キー OFF 後作動機構

ドアミラーは、電源ポジションを ON から OFF にした後でも、約 40 秒間は角度調節や格納することができます。

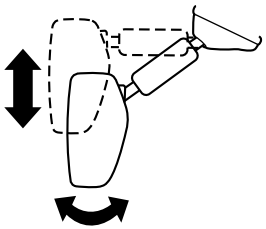
ルームミラー

ルームミラーの操作

⚠警告

調節は走行前に行なう。
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。
必ず守る

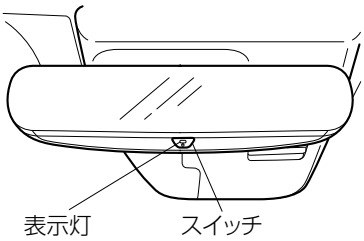
ルームミラーの角度/高さ調節



ミラー本体を動かして、後方が十分確認できるように調節します。

自動防眩機能

電源ポジションが ON のとき、後続車からのヘッドランプの光を自動で軽減します。
(ON/OFF スイッチ装備車)



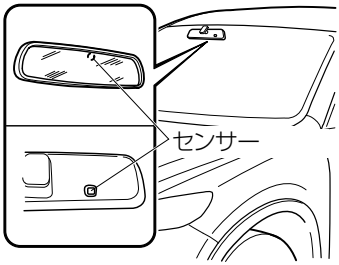
スイッチを押すごとに ON、OFF が切り替わります。
スイッチが ON のときは表示灯が点灯します。

知識

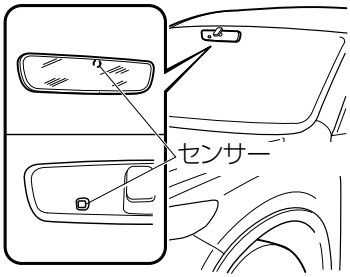
センサーについて
センサーをガラスクリーナーでふいたり、ステッカーやカバーなどで覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。

知識

ON/OFFスイッチ非装備車



ON/OFFスイッチ装備車



電源ポジションがONのときチェンジレバー/セレクトレバーをRの位置にすると防眩機能は一時停止します。

シートベルトの種類

⚠警告

メンテナンスについて

禁止 **シートベルトを分解・改造・交換しない。**
万一の場合、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受ける。**
プリテンショナー付きシートベルトおよびロードリミッター付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店に相談する。**
プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしない。**
正常に作動しなくなったり誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る **シートベルトやリングが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。**

ELR (緊急時固定) 機構

全席のシートベルトに装備されています。
シートベルトは身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

プリテンショナー機構

運転席、助手席、リアシート左右席のシートベルトに装備されています。
車両前方または側方から強い衝撃を受けると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。

知識

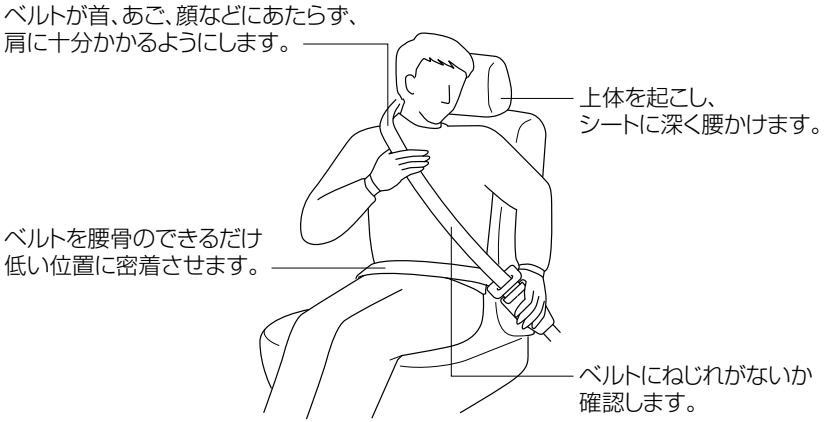
- プリテンショナー機構は、車両前方または側方から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。
- プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物（カス）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。

ロードリミッター機構

運転席、助手席、リアシート左右席のシートベルトに装備されています。
車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。

シートベルトの正しい着用のしかた

車を運転する前に必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



シートベルト

⚠警告

必ず守る **シートベルトは全員が正しく着用する。**
着用しないと身体が拘束されないため、急ブレーキ時や衝突時に車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **1 つのシートベルトを同時に 2 人以上で使用しない。**
2 人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **クリップなどでシートベルトにたるみをつけない。**
万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **ベルトがねじれた状態で使用しない。**
ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な事故につながるおそれがあります。

禁止 **肩ベルトを肩の中央にかけて着用する。腕の下に通して着用しない。**
ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、身体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **背もたれは倒しすぎない。**
急ブレーキ時や衝突時に、身体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。**
シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用する。**
ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰部ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。

禁止 **シートベルトのバックルの中に異物を入れない。**
異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

お子さまを乗せるときは

必ず守る **お子さまはできるだけリアシートに座らせ、必ずシートベルトを着用させる。お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。**

必ず守る **シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用する。シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。**

3 点式シートベルト

シートベルト着用忘れチャイム

運転席/助手席シートベルトを着用していないまま、車速が約 20 km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴ります。 (鳴り始めると、車速を落としても鳴り続けます。)
シートベルトを着用すると鳴り止みます。

シートベルト

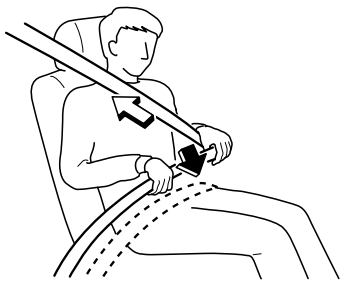
シートベルトを着用するとき

1. プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出します。
2. ベルトを素早く引き出し、ロックされることを確認してください。

知識

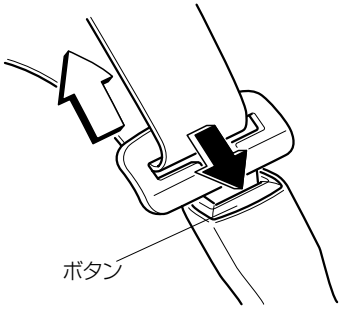
ベルトがロックして引き出せないときは
一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

3. ベルトにねじれがないかを確認してから、プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。



4. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、たるみが無いようにベルトを引いて身体に密着させます。

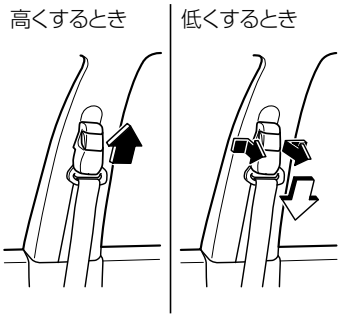
シートベルトをはずすとき



はずすときはバックルのボタンを押します。ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせます。

シートベルトの高さ調節

フロントシートベルトにはシートベルトアンカーアジャスターがついています。
シートベルトが首にあたったり、肩からはずれてしまうときには、ベルトの高さを調節してください。



1. 高くするときは、そのまま上に動かします。
   低くするときはボタンを引いたまま下げます。
2. 調節したあとは、シートベルトアンカーアジャスターを下方に押し、確実にロックされていることを確認してください。

お子さま専用シートについて

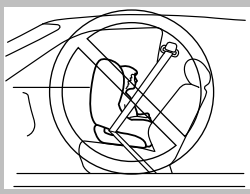
シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまを乗せるときは、お子さま専用シートをお使いください。
車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、または ISOFIX 対応タイプの 2 種類があります。
シートベルト固定タイプのベビーシート、チャイルドシートは、リアシートのシートベルトを使用してシートに固定します。
また ISOFIX 対応タイプのチャイルドシートは、リアシート左右席に装備されているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。
お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

⚠ 警告

必ず守る **お子さまの首や顔などにシートベルトがあたったり、腰骨に正しく着用できない場合は、お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使う。**
お子さま専用シートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従う。正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。**

必ず守る **助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。エアバッグの作動可能な助手席には、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。**
助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。この警告ラベルは、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないということを示しています。



警告ラベル

知識

ISO は International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略です。

お子さま専用シートの種類

UN-R 44 法規に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の 5 種類に分類されます。

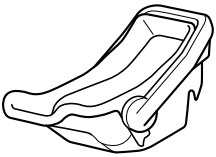
知識

- UN-R は United Nations Regulation (国連規則) の略です。
- UN-R 44 法規は、お子さま専用シートに関する国連法規です。

グループ	体重	サイズ等級/器具 (CRF)
0	10kg まで	L1
		L2
		R1
0 +	13kg まで	R1
		R2
		R3
I	9～18kg	R2
		R3
		F2
		F2X
		F3
II	15～25kg	—
III	22～36kg	—

本書では、3 種類のお子さま専用シートについて説明します。
取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

ベビーシート
UN-R 44法規の
グループ0、0+に相当



チャイルドシート
UN-R 44法規の
グループIに相当

ジュニアシート
UN-R 44法規の
グループII、IIIに相当

*1 ブースターシートを使用するときは、必ず取り付ける
シートのヘッドレストを取り付けてください。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

⚠警告

お子さま専用シートを取り付けるときは、必ず選択の目安表を確認する。
必ず守る

誤った取り付けをすると正しく固定されず、急ブレーキや衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

シート位置	着座位置			
	助手席	第２列左	第２列中央	第２列右
汎用ベルト式に適する着席位置	UF	U	U*1	U
アイサイズ着席位置	X	i-U	X	i-U
適する最大の後向き装具 (R1)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R2)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R2X)	X	IL	X	IL

シート位置	着座位置			
	助手席	第２列左	第２列中央	第２列右
適する最大の後向き装具 (R3)	X	IL	X	IL
適する最大の前向き装具 (F2)	X	IUF	X	IUF
適する最大の前向き装具 (F2X)	X	IUF	X	IUF
適する最大の前向き装具 (F3)	X	IUF	X	IUF
適する最大の横向き装具 (L1)	X	X	X	X
適する最大の横向き装具 (L2)	X	X	X	X
適する最大のブースター装具 (B2)	X	IUF	X	IUF
適する最大のブースター装具 (B3)	X	IUF	X	IUF
サポートレッグ付装具に適した着席位置 (有/無)	無	有	無	有
ロアアンカレッジを備えるがトップテザーのない着席位置 (有/無)	無	無	無	無

上表の記号について:
U =この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
UF =この質量グループでの使用を認可された前向き「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
L =「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子様専用シートに適しています。対応するお子様専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
IUF =この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリー前向き ISOFIX チャイルドシートに適しています。
IL =「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーの ISOFIX チャイルドシートに適しています。対応するお子様専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
i-U =前向きおよび後向きの i-Size「汎用」チャイルドシートに適しています。
i-UF =前向き i-Size「汎用」チャイルドシートのみに適しています。
有=装具を使用して、チャイルドシートを固定できる席です。

無＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できない、または装具がない席です。
X ＝お子様専用シートを取り付けることはできません。

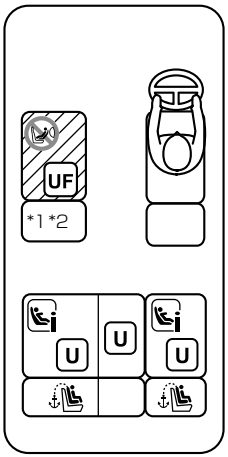
*1 リアシートの中央席にお子さま専用シートを取り付けるときは、リアシートの右外席に乗車しないでください。

知識

- ヘッドレストとお子様専用シートが干渉して、しっかり固定できない場合は、ヘッドレストの高さを調節する、または取りはずしてください。
- 助手席にお子さま専用シートを取り付けるときは、シート位置をできるだけ後ろに調節してください。また、助手席が高さ調節できる場合は、シートベルトでお子さま専用シートがしっかり固定できるようにシートクッションの高さをいちばん高い位置に調節してください。
→56 ページ「助手席の操作」
- 助手席にお子さま専用シートを取り付けにくいときやお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できないときは、次の操作をしてお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できるようにシートを調節してください。
  - シートを前方に動かす。
  - シートの背もたれを前後に動かす。
- お子様専用シートをリアシートに取り付けるときは、前席に当たらないように、前席のシート位置を調節してください。
- テザーストラップを使用するときは、必ず、ヘッドレストを取りはずしてください。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。

知識

- リアシートの中央席にはサポートレッグ付お子様専用シートを取り付けることはできません。



U：シートベルトで固定するお子様専用シート（ユニバーサルタイプ）に適しています。

UF：シートベルトで固定するお子様専用シート（ユニバーサルタイプ）の前向きに取り付けるタイプに適しています。

：ISOFIX 対応お子様専用シートに適しています。

：i-Size および ISOFIX 対応お子様専用シートに適しています。

：前向きお子様専用シートに適しています。

：後ろ向きのお子様専用シートを取り付けないでください。

：お子様専用シートを取り付けることはできません。

：トップテザーアンカレッジが装備されている座席です。

*1：シートの位置を一番後ろにしてください。（ただし、お子さま専用シートを取り付けにくいときやシートベルトでしっかり固定できないときは、お子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できるようにシートを調節してください。）
*2：シートの背もたれを直立位置から 5 段（約 10 度）倒してください。

チャイルドシートを固定するとき

シートベルトを使用するとき

お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。また、シート位置別お子さま専用シート選択の目安表も参照ください。
→80 ページ「シート位置別お子さま専用シート選択の目安表」

ISOFIX 対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

リアシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
この固定ロアアンカレッジには、道路運送車両の保安基準に適合したチャイルドシート (チャイルドシート固定ロアアンカレッジ) のみを取り付けることができます。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

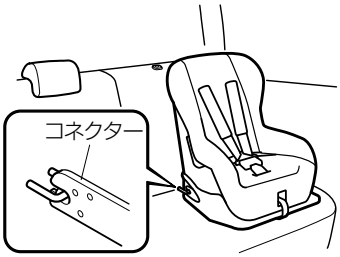
必ず守る **チャイルドシートを取り付けるときは、固定ロアアンカレッジ周辺に異物がないこと、シートベルトなどをはさみこんでいないことなどを確認する。**
異物やシートベルトなどをはさみこむとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

チャイルドシート固定ロアアンカレッジ対応の純正チャイルドシートはチャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

1. チャイルドシートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。
   →48 ページ「フロントシート」
2. フロントおよびリアシートが確実に固定されていることを確認します。

3. チャイルドシートロアアンカレッジのカバーを取りはずし、ロアアンカレッジの位置を確認します。

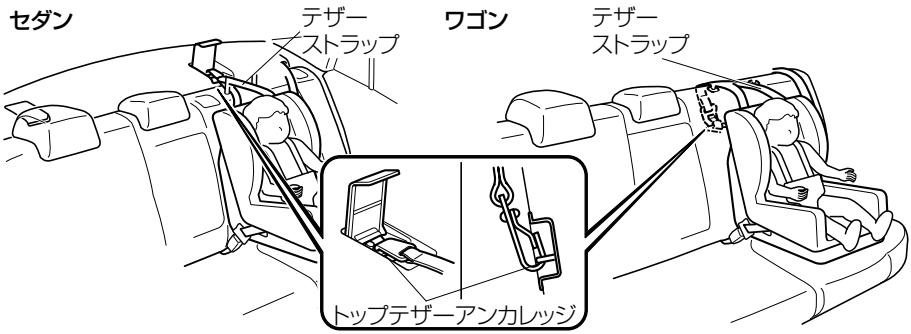


4. ヘッドレストを取りはずします。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。
5. チャイルドシートのコネクターを固定ロアアンカレッジに取り付けます。

知識

取りはずしたカバーはなくさないように保管してください。

6. チャイルドシートのテザーストラップをイラストのようにトップテザーアンカレッジにかけます。



7. テザーストラップがたるまないように調節します。

知識

テザーストラップを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

8. チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

警告

禁止

トップテザーアンカレッジは、チャイルドシートを固定するため以外のことには使用しない。
チャイルドシートの固定以外のことに使用すると、アンカレッジ部が曲がったり、損傷したりして、テザーストラップが正しくかけられなくなりチャイルドシートが固定されません。急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

窓ガラスの開閉

パワーウインドースイッチを操作すると窓ガラスの開閉ができます。

⚠警告

窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意する。特にお子さまには十分気をつけてください。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにパワーウインドースイッチの操作をさせない。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておく。お子さまが誤って操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

窓から手や顔を出させない。走行中はお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してください。車外の物に当たったり、急ブレーキを踏んだとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

次の場合には、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

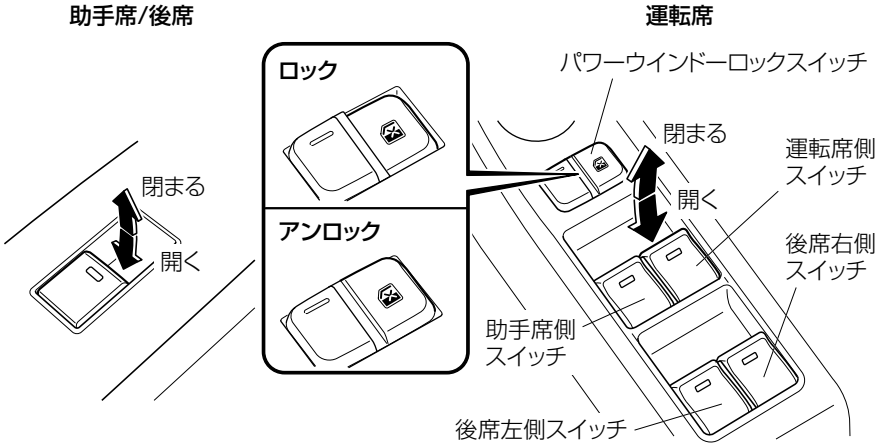
- **窓ガラスが閉まりきる直前**
- **スイッチを引き続けたままの状態**

知識

後席の片側の窓ガラスだけ開けて走行するとき、耳を圧迫するような音がする場合がありますが、異常ではありません。前席の窓ガラスを少し開ける、もしくは、後席の窓ガラスの開き具合を変えると、音を軽減することができます。

窓ガラスの開閉のしかた

電源ポジションが ON のとき、スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。3 つ以上の窓ガラスを同時に開閉しないようにお使いください。
助手席、後席の窓ガラスは運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているとき開閉できます。



知識

- 電源ポジションを ACC または OFF にしたあとでも、全席の窓ガラスを約 40 秒間、開閉することができます。
- 全開/全閉したあともスイッチを操作し続けると、窓ガラスを開閉できなくなることがあります。
  窓ガラスの開閉ができないときはしばらく待って、再度操作してください。

自動開閉機構

スイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作します。

知識

自動で全開/全閉できないときは
車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき、または全開/全閉したあとも、スイッチを操作し続けたときは、自動で全開/全閉できなくなります。
次の操作で復帰させてください。

1. 電源ポジションを ON にします。
2. スイッチを押して窓ガラスを全開にします。

知識

3. スイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約 2 秒間引き上げ続けます。

はさみ込み防止機構

窓ガラスを自動で閉めるとき (→88 ページ「自動開閉機構」) に、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが閉まるのを停止し、自動的に途中まで開きます。

知識

- はさみ込み防止機構が作動し、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、窓枠の周囲に異物がないかを確認し、スイッチを引き続けて窓ガラスを閉めてください。
- 次のようなときに、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
  - 自動で窓ガラスを閉めている途中で強い衝撃を感知したとき
  - 極低温下で自動で窓ガラスを閉めたとき

電動スライドガラスサンルーフの操作 グレード/仕様別装備

前席頭上のチルト/スライドスイッチを操作するとサンルーフの開閉ができます。

⚠警告

必ず守る **サンルーフを閉めるときは、同乗者の手や頭などをはさまないように注意する**
万一、手や頭をはさむと、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **お子さまにチルト/スライドスイッチの操作をさせない。**
万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **走行中は、開口部から手や頭などを出さない**
走行中に車外のものにあたったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **サンルーフの開口部に腰をかけたり、重い荷物をのせないでください。サンルーフが破損するおそれがあります。**

禁止 **凍結時や降雪時には無理に開閉しないでください。故障につながるおそれがあります。**

必ず守る **サンルーフが閉まりきる直前は、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。**

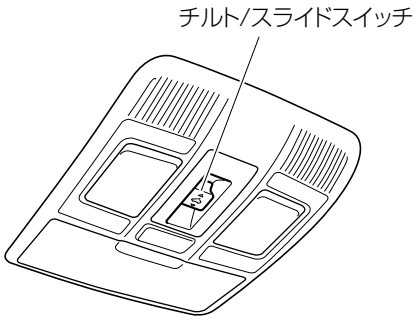
禁止 **サンシェードは、チルト開閉できません。サンルーフ後部が開いている場合は、サンシェードを押し上げないでください。無理に押し上げようとすると、サンシェードが破損するおそれがあります。**

禁止 **サンルーフが開いているときは、サンシェードを閉めないでください。無理に閉めようとすると、サンシェードが破損するおそれがあります。**

サンルーフのチルト/スライド操作

電源ポジションが ON のとき使用できます。

- 車から離れるときや洗車するときは、サンルーフが完全に閉まっていることを確認してください。
- 降雨後や洗車後または積雪時にサンルーフを開けるときは、ルーフ上の水や雪を除去してください。室内に水や雪がはいることがあります。

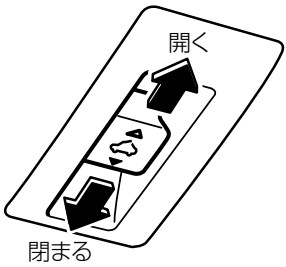


サンルーフのチルト操作

チルト/スライドスイッチを押すとサンルーフ後部が上に開き、前側に押すと閉まります。

- 途中で止めるには、再度スイッチを操作してください。
- サンルーフがスライドで開いているときは、閉めてからスイッチ操作をしてください。

サンルーフのスライド操作



チルト/スライドスイッチを後側に引くと全開し、前側に押すと全閉します。

- 途中で止めるには、再度スイッチを操作してください。
- サンルーフがチルトで開いているときは、閉めてからスイッチ操作をしてください。

電動スライドガラスサンルーフ

知識

サンルーフが正常に作動しないときは、次の操作をおこなってください。

1. 電源ポジションを ON にします。
2. チルト/スライドスイッチを押してサンルーフの後側を少し上に開けます。（チルト操作）
   サンルーフが開いた状態からスイッチを押した場合は、いったんサンルーフが全閉したあと、後ろ側が上に開きます。
3. 手順 2 をくり返し行なって、サンルーフの後側が完全に上に開くまでチルト/スライドスイッチを押します。その後サンルーフが少し閉まります。

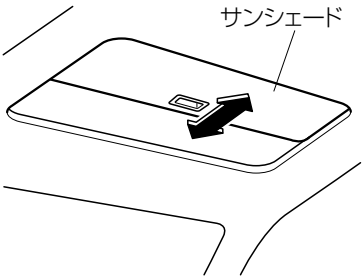
はさみ込み防止機構

サンルーフを自動で閉めているときに異物のはさみ込みを感知すると、自動的にサンルーフが停止し、途中まで開きます。

知識

- サンルーフの初期設定をしていないときは、はさみ込み防止機構は作動しません。
- はさみ込み防止機構が作動し、サンルーフを自動で閉めることができないときは、サンルーフとその枠との間に異物がないかを確認し、スイッチを押し続けてサンルーフを閉めてください。
- 次のようなときに、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
  - サンルーフを閉めている途中で強い衝撃を感知したとき
  - 極低温下でサンルーフを閉めたとき

サンシェードの使いかた



手動で開閉できます。
スライド操作でサンルーフを開くときのみ、連動して開きます。

給油するとき

燃料計が “E” に近づいたら、早めに給油してください。
燃料は指定されたものを使用してください。
→677 ページ「燃料」

⚠ 警告

給油するときは必ず次のことを守る。

必ず守る

- **エンジンを止める。**
- **タバコなどの火気を給油口に近づけない。**
- **こぼれた燃料は速やかに拭き取る。**

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。

給油を行なう前に、車体の金属部分に触れて身体の静電気を除去する。

必ず守る

放電による火花で、燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。

給油中は必ず次のことを守る。

必ず守る

- **給油はひとりで行い、給油口に他の人を近づけない。**
- **車内に戻ったり、帯電している人や物に触れない。**
- **携帯電話やスマートフォン、その他電子機器などを使用しない。**

再帯電により、燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。

フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なう。

必ず守る

放電による火花で、燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。

フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取り外す。

必ず守る

急に開けると燃料が噴き出すことがあるため、火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。

気化した燃料を吸い込まないようにする。

禁止

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。

必ず守る

給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。

燃料補給口

⚠警告

禁止 **給油の自動停止後は、追加給油しない。**

追加給油すると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

禁止 **給油の自動停止後は、すぐに給油ノズルを引き抜かない。**

給油ノズル内に残った燃料がこぼれ出て、火災につながるおそれがあります。

必ず守る **フューエルキャップは確実に閉める。**

フューエルキャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)**
指定燃料以外の燃料を使用したり、純正以外の燃料添加剤を使用しないでください。
有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、高濃度アルコール含有燃料を使用すると、例えば次のような悪影響をおよぼします。

- **エンジンや燃料系部品の損傷 (最悪の場合、車両火災)**
- **エンジンの出力低下や始動性能の悪化**

禁止 **(SKYACTIV-D 2.2)**
指定燃料以外の燃料を使用したり、燃料添加剤や水抜き剤を使用しないでください。
ガソリンや灯油、混合率が 5%を超えるバイオディーゼル燃料、高濃度アルコール含有燃料を使用すると、例えば次のような悪影響をおよぼします。

- **エンジンや燃料系部品の損傷 (最悪の場合、車両火災)**
- **エンジンの出力低下や始動性能の悪化**

必ず守る **給油するときは、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。**

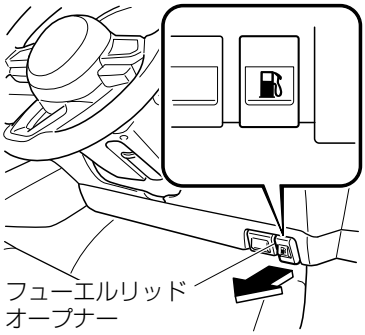
必ず守る **給油するときは、ドアや窓を必ず閉めてください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。**

禁止 **給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗膜はがれの原因となります。**

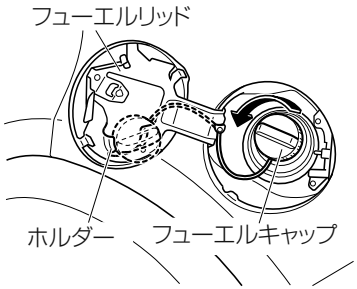
禁止 **純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。**

給油のしかた

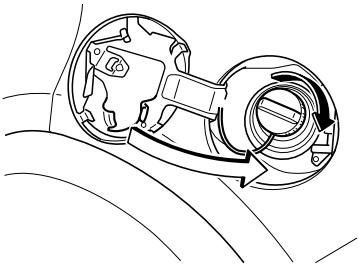
給油するときはすべてのドア、窓ガラスを閉め、電源ポジションを OFF にして行なってください。



1. 運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開きます。
フューエルリッドは車の左側後方にあります。



2. フューエルキャップをゆっくり左に回して開けます。
3. フューエルキャップをフューエルリッドのホルダーにかけます。
4. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油します。給油が自動で停止したら、ノズルを抜きます。

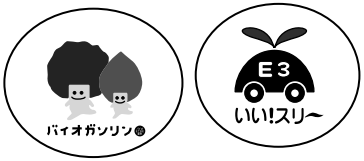


5. フューエルキャップを右に回し、カチッと 1 回音がするまで締め付けます。
6. フューエルリッドが確実にロックするまで押しつけて閉めます。

燃料補給口

知識

- **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)**
  バイオ燃料混合ガソリンをお使いになることもできます。
  バイオ燃料混合ガソリンは、日本工業規格 (JIS) や「揮発油等の品質の確保に関する法律」が定めたガソリンの規格に合致しており、製品として使用に問題ないことが確認されています。バイオ燃料混合ガソリンの商品名としては「バイオ･ガソリン」、および「いい！スリー」の２つがあり、いずれの製品も使用できます (商品マーク参照)。



イモビライザーシステム

イモビライザーシステムはキーに信号発信機を内蔵し、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにした車両盗難防止装置です。
万一、キーが電池切れや故障の場合は、電池切れ時のエンジン始動手順を行なうとイモビライザーシステムが解除され、エンジンを始動できます。
→135 ページ「キーが電池切れしたときのエンジン始動」

⚠注意

キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- **システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。**
- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **磁気を帯びた製品を近づけないでください。**
- **インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。**

システムの作動

電源ポジションを ON から ACC または OFF にするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。

システムの解除

登録されたキーで電源ポジションを ON にするとシステムが解除され、エンジンを始動できます。そのときセキュリティ表示灯は約 3 秒間点灯した後消灯します。

エンジンが始動しないときは

次のような場合、エンジンの始動ができない場合があります。

- キーを (車内でも) 感知しにくい場所に置いている。
- 携帯電話、テレビ、ラジオ、トランシーバーなどからの電波でシステムが影響を受けている。

処置方法

一度、電源ポジションを OFF にもどし、キーを別の場所に置いて、再度エンジンを始動してください。
→28 ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は (点灯/点滅したままなど)、一度電源ポジションを OFF にもどし、しばらく待って再度エンジン始動してください。
3 回行なってもエンジンが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

運転中にセキュリティ表示灯が点灯/点滅した場合は

エンジンを停止せず、そのままマツダ販売店で点検を受けてください。エンジンを停止すると、再度エンジンを始動できないことがあります。

知識

イモビライザーシステムを修理するときは
コードを再登録するために、お手持ちのすべてのキーをマツダ販売店に持参してください。

キーを追加するときは

- キーを紛失したときのために、スペアのキーを保管しておいてください。
- キーには特有の電子コードが含まれていますので、マツダ販売店以外でキーを追加することはできません。

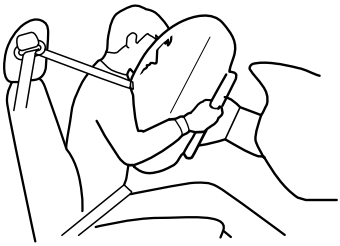
キーを紛失した場合、盗難防止のため、イモビライザーシステムに登録されているコードをマツダ販売店で消去できます。消去した後に、今後使用するキーを再登録する必要がありますので、お手持ちのすべてのキーをマツダ販売店に持参してください。登録されていないキーではエンジンを始動することができません。

SRS エアバッグシステムについて

SRS とは Supplemental Restraint System (サプルメンタルレストレイントシステム) の略で、補助乗員保護装置の意味です。
エアバッグは、電源ポジションが ON のとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。
SRS エアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

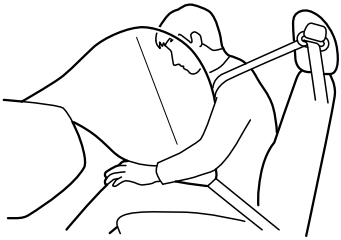
エアバッグの種類

運転席エアバッグ



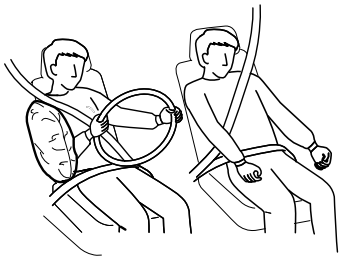
運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。

助手席エアバッグ



助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。

サイドエアバッグ



サイドエアバッグはフロントシート背もたれの外側部分に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。

カーテンエアバッグ

カーテンエアバッグはフロントピラー、ルーフサイド部、リアピラーに格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のカーテンエアバッグが膨らみます。

エアバッグの注意点

⚠警告

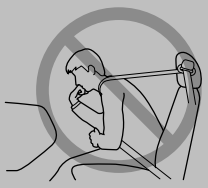
お車に乗る前に

必ず守る **運転者はもちろん、同乗者も必ずシートベルトを着用する。**
SRS エアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。
シートベルトを着用していないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

禁止 **ハンドル中央部に手を置いたり、顔や身体を近づけたりしない。**
エアバッグが作動したときに、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけない。**
エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。

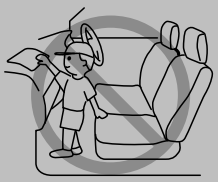


⚠警告

お子さまを乗せるときは

必ず守る

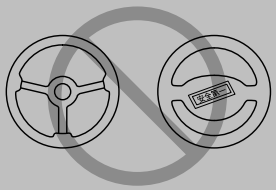
お子さまはできるだけリアシートに座らせ必ずシートベルトを着用させる。シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



こんなことにも注意

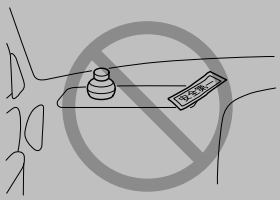
禁止

ハンドルを交換しない。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしない。万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



禁止

インストルメントパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置かない。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。
エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



⚠警告

禁止 **車両前部にグリルガードなどを装着しない。**
SRS エアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **サスペンションの改造をしない。**
車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **SRS エアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRS エアバッグシステムの回路診断をしない。**
正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスや廃車について

必ず守る **事故後は必ずマツダ販売店で点検を受ける。**
エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店に相談する。**
次の作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **SRS エアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **フロントシートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **車両前部または側部の修理**
- **フロントピラー、サイドピラー、リアピラー、ルーフサイド部の修理**
- **室内の電装品の取りはずし、取り付け**

必ず守る **車を廃車にする場合は、必ずマツダ販売店に相談する。**
不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

サイドエアバッグについて

禁止

フロントシート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らない。
フロントシートに座ったときは、フロントドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。また、リアシートに座ったときはフロントシートの背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

フロントシートにシートカバーを使用しない。
シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

フロントドアやフロントシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けない。
サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

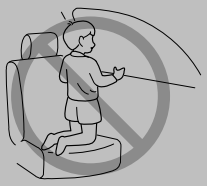
禁止

フロントシートの下に荷物などを置かない。
フロントシートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

カーテンエアバッグについて

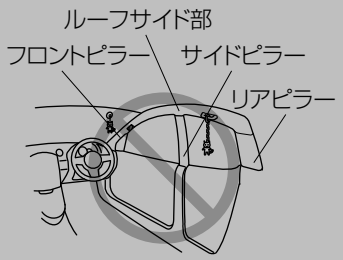
必ず守る

ドアにもたれかかったり、フロントピラー、リアピラー、ルーフサイド部などに近づいたりしないようにして座る。
カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



⚠警告

禁止 **フロント窓ガラス、リア窓ガラス、フロントピラー、サイドピラー、リアピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けたりしない。**
カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



禁止 **アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。**
服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。**

禁止 **ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイドおよびカーテンエアバッグが作動するおそれがあります。**

知識

エアバッグの作動について

- エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物（カス）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。
- 助手席エアバッグが膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。

エアバッグの作動条件について

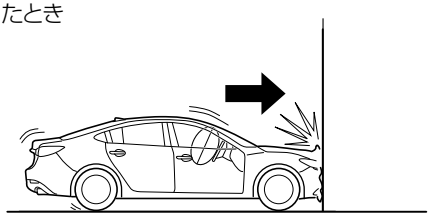
運転席/助手席エアバッグは正面衝突において、サイド/カーテンエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。
車体の衝撃吸収ボディー構造により、乗員への衝撃は大きくならない場合があります。
したがって、車両の損傷が大きくてもエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

エアバッグが作動するとき

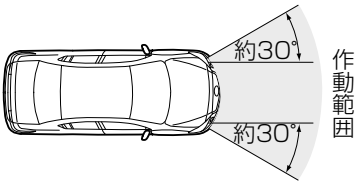
運転席/助手席エアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

約22km/h以上で固いコンクリートの壁などに正面衝突したときと同じ程度の衝撃を受けたとき

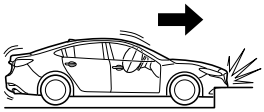


正面衝突など車両の前方左右約30°以内の方向から強い衝撃を受けたとき



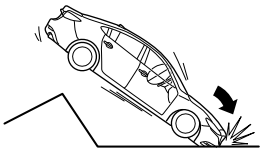
次のようなときには、路面などから車両下部に強い衝撃を受けると作動することがあります。

中央分離帯や縁石などに衝突したとき



深い穴や溝に落ちたとき

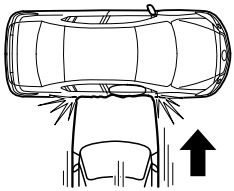
ジャンプなどで地面にぶつかったとき



サイド/カーテンエアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)に衝突されたとき

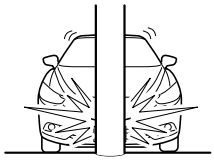


エアバッグが作動しにくいとき

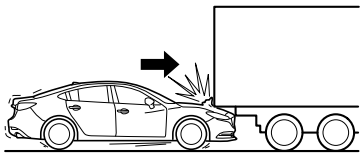
次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

運転席/助手席エアバッグ

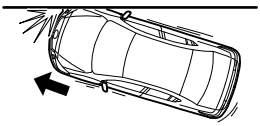
立木や電柱に衝突したとき



トラックの下などに潜り込んだとき

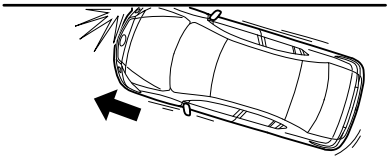


斜め前方に衝突したとき



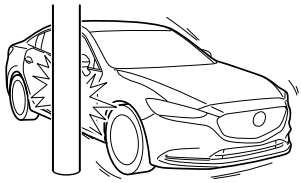
サイド/カーテンエアバッグ

斜め前方に衝突したとき

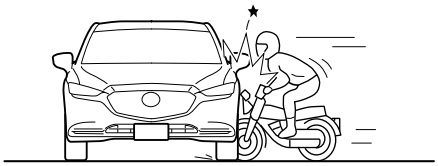


横転や転覆したとき

車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)から立木や電柱に衝突したとき



2輪車が側面に衝突したとき

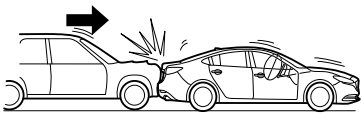


エアバッグが作動しないとき

次のようなときには作動しません。

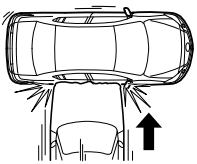
運転席/助手席エアバッグ

後ろ方向から衝突されたとき



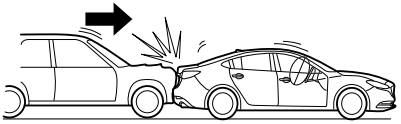
横転や転覆したとき

横方向から衝突されたとき

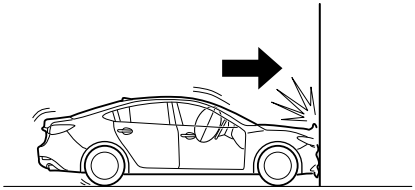


サイド/カーテンエアバッグ

後ろ方向から衝突されたとき



正面衝突したとき



EDR (イベントデータレコーダー) について

本車両は、SRS エアバッグおよびアクティブボンネット制御のためのコンピューターを搭載しています。
そのコンピューターは、システムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突や衝突に近い状態のとき、次のデータを記録・蓄積する EDR を装備しています。

記録するデータ

EDR は下記のような情報を記録します。

- 車速
- 運転席乗員のシートベルト装着有無
- 助手席乗員のシートベルト装着有無
- 作動に関する情報 (加速度波形など)
- 故障診断情報

知識

EDR は会話などの音声や映像は記録しません。

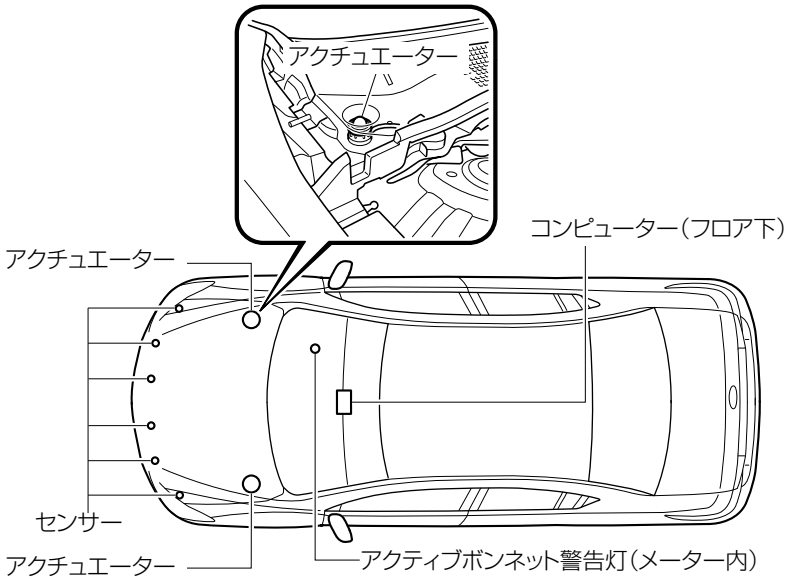
データの開示について

マツダおよびマツダの委託先は、EDR に記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

アクティブボンネットについて

万一、歩行者と衝突して、一定以上の衝撃が車両前部に加わったとき、ボンネットの後端を瞬時に持ち上げ、エンジンルーム内の部品との空間を広く保つことで、歩行者の頭部がボンネットに衝突したときの衝撃をやわらげます。電源ポジションが ON のとき、作動速度範囲内で走行中に、歩行者やその他の物体との衝突により、フロントバンパー裏に取り付けているセンサーが一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、ボンネットを持ち上げます。



⚠警告

必ず守る

アクティブボンネットが作動したときは、必ずマツダ販売店に相談する。
アクティブボンネットが作動したとき、ボンネットオープナーを引くと、さらにボンネットが上がります。ボンネットが上がったまま走行すると視界が妨げられ、おもわぬ事故につながるおそれがあります。また、ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬケガをするおそれがあります。アクティブボンネットが作動したあとマツダ販売店まで運転する場合は、持ち上がったボンネットが視界の妨げにならないことを確認したあと、十分に速度を落とし注意して運転してください。

⚠注意

アクティブボンネットが作動した直後は、アクチュエーターに触れないでください。作動直後はアクチュエーターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

取り扱いについて

- ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前に必ず確認してください。
- 電源ポジションを ON にしたあと、約 8 秒間はシステムが正常に作動しないことがあります。
- 4 輪とも異常摩耗していない同一指定サイズのタイヤを適正な空気圧で使用してください。異常摩耗しているタイヤ、異なるサイズ、適正でない空気圧のタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー周辺に衝撃が加わったときは、アクティブボンネットが作動しなくてもセンサーが損傷している可能性があります。必ずマツダ販売店で点検を受けてください。
- アクティブボンネットの部品や配線を取りはずしたり修理しないでください。また、電気テスターを使ってシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しないおそれがあります。修理や交換作業が必要なときはマツダ販売店にご相談ください。
- フロントバンパー、ボンネット、サスペンション、エアロパーツをマツダ純正品以外に交換しないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーにマツダ純正品以外を取り付けないでください。また、ボンネットに物を取り付けないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、アクチュエーターに荷重を加えないでください。アクチュエーターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 部品を装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。不適切に取り付けると、衝撃を正しく検知できず、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 廃車にするときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。正しく取り扱わないと、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- アクティブボンネットは、一度作動すると再使用できません。マツダ販売店で交換してください。

作動するとき、しないとき

作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 作動速度範囲での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき (衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽い物、小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります。)
- その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
  - 縁石に衝突したとき
  - 深い溝や穴に落ち込んだとき
  - ジャンプして地面にぶつけたとき
  - 駐車場のスロープ、うねりのある道路、突起物や落下物などにぶつけたとき

作動しにくいとき

次のような場合は、衝撃を感知しにくいため、作動しないことがあります。

- 走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったとき
- かばんなど衝撃を吸収できるものを携帯した歩行者と衝突したとき

作動しないとき

次のようなときには作動しません。

- 作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき
- 横方向や後部から衝撃を受けたとき
- 横転、転覆したとき (事故の状況、形態によっては、アクティブボンネットシステムが作動することがあります。)

積雪、寒冷時の取り扱い

お車に乗る前に

ルーフに雪が積もっているときは

- 走行中、ガラスに雪が落ちると視界のさまたげとなり危険です。
  走行前に取り除いてください。
- ルーフの雪を取り除くときは、アンテナに注意して取り除いてください。アンテナを損傷するおそれがあります。

ガラスに雪や霜がついているときは

- 視界を確保するため、雪や霜を取り除いてください。
- プラスチックの板などを使用して取り除くことができます。
  プラスチックの板などを使用する時はガラスに傷をつけないように注意して取り除いてください。

足まわりなどに雪や氷が付着しているときは

部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

ドアなどが凍結しているときは

- ドアが凍結しているときは、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。
  無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、周辺部を損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部にはお湯をかけないでください。凍結してキーが差しこめなくなるおそれがあります。
- お湯をかけたあとは、すぐに水分をふき取ってください。
- ワイパー、パワーウインドー、電動ドアミラーなどが凍結して動かない場合もお湯をかけて氷を溶かしてから操作してください。
  無理に動かそうとすると故障の原因になります。

お車に乗るときは

靴についた雪をよく落としてから乗車してください。
ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなるため窓ガラスが曇ったりすることがあります。

MEMO

2 運転するときに

安全なドライブのために 120
運転するとき....120
運転装置について....122
こんなことにも注意....123
駐停車するとき....127
お子さまを乗せるとき....128
エンジンの始動と停止 129
電源ポジション (エンジンスイッチ)....129
エンジンの始動....130
エンジンの停止....137
i-stop について....138
i-ELOOP について 147
i-ELOOP とは....147
燃費モニター 149
燃費モニター....149
メーター、警告灯、表示灯の見方 153
メーター、表示....153
メーター (タイプ A)....154
メーター (タイプ B)....174
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)....194
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ....200
マニュアルトランスミッションの使いかた 203
マニュアルトランスミッション....203
オートマチックトランスミッションの使いかた 205
オートマチック車の特性....205
各位置の働き....206
シフトロック装置....207
セレクトレバーの操作....208
マニュアルモード....209

2 運転するときに

ダイレクトモード....213
オートマチック車を運転するときに....214

ドライブセレクションについて 218
ドライブセレクションとは....218

ブレーキ 220
ブレーキの操作....220
オートホールド....223

i-ACTIV AWD 228
i-ACTIV AWD について....228

スイッチの使いかた 229
ヘッドランプスイッチ....229
方向指示器....235
非常点滅灯スイッチ....236
リアフォグランプスイッチ....237
ワイパー/ウォッシャースイッチ....237
ヘッドランプウォッシャースイッチ....241
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ....242
ホーン....244

ABS について 245
ABS とは....245

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) について 246
ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは....246

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について 247
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは....247

トラクションコントロールシステム (TCS) について 248
TCS とは....248

2 運転するときに

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) について 249

DSC とは....249

i-ACTIVSENSE について 252

i-ACTIVSENSE とは....252
AFS (アダプティブフロントライティングシステム) について....255
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) とは....255
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) とは....258
車線逸脱警報システムとは....260
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは....267
交通標識認識システム (TSR) とは....273
車間認知支援システムとは....280
ドライバー･アテンション･アラート (DAA) とは....284
リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは....286
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは....290
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは....302
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは....317
アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) とは....329
AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは (オートマチック車)....333
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) とは....337
AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは (オートマチック車)....342
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは....345
360° ビュー･モニターとは....347
フォワードセンシングカメラ (FSC) について....374
レーダーセンサー (フロント) について....379
レーダーセンサー (リア) について....382
超音波センサー (フロント) について....383
超音波センサー (リア) について....384
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ....385

クルーズコントロールについて 386

クルーズコントロールとは....386

2 運転するときに

駐車支援システムについて 391

駐車支援システムとは....391

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について 408

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは....408

メンテナンスモニター 409

メンテナンスモニター....409

様々な状況での運転のときは 411

悪天候での運転....411

環境保護のために 413

経済的な運転....413

MEMO

運転するとき

走行中はエンジンを止めない

走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

坂道ではエンジンブレーキを使う

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、効きが悪くなることがあります。
下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路では急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。スリップするおそれがあります。また、走行中にチェンジレバーをニュートラル位置に入れたままにしないでください。エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。
エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよく効きます。

走行中にセレクトレバーを N にいれない

トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

すべりやすい路面では慎重に運転する

ぬれた路面や凍結路、積雪路などのすべりやすい路面では、急加速や急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキを避け、スピードをひかえめにして運転してください。ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態 (ハイドロプレーニング現象) になるおそれがあります。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストをするだけではなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響を及ぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認する

水たまりを走行したあとや洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いて、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

横風が強いときは慎重に運転する

横風が強く、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に落としてください。トンネルの出口、橋の上、山を削った切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。走行安定性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に半クラッチ操作を行わないでください。

- クラッチやブレーキの部品が早く摩耗します。
- ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ブレーキ操作は右足で

- ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、適切な操作ができないおそれがあります。
- アクセルペダルの操作でブレーキペダルに靴が接触することがないように、運転に適した靴で運転してください。

警告灯が点灯/点滅したら車を止める

走行中に警告灯が点灯/点滅したときは、ただちに安全な場所に停車し、適切な処置を行なってください。警告灯の点灯/点滅を無視して運転を続けるとエンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パンクやバースト (破裂) してもあわてない

走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。
次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

- ハンドルがとられるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

スタックした状態から脱出するときは注意する

621 ページの「スタックしたとき」をよくお読みください。

床下に衝撃を受けたら下まわりを点検する

安全な場所に停車して、車の下にブレーキ液や燃料の漏れがないか、また各部に損傷がないか確認してください。
異常があったときは、マツダ販売店に連絡してください。
そのまま走行すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

異常を感じたときはマツダ販売店で点検を受ける

次のようなときは、車が故障しているおそれがあります。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 普段と違う音や臭い、振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じるとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 車の下に油のあとが残っているとき。

運転装置について

オートマチック車を運転するとき

214 ページの「オートマチック車を運転するときに」、205 ページの「オートマチック車の特性」、130 ページの「エンジンをかける前に」をよくお読みください。

タイヤについて

583 ページの「タイヤの点検」、572 ページの「タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する」、614 ページの「タイヤチェーンの取り付け」をよくお読みください。

けん引してもらうとき

649 ページの「けん引してもらうとき」をよくお読みください。

こんなことにも注意

発進時には安全を十分確認する

発進時は周囲の状況に十分注意してください。

- 信号待ちなどで停車したときや、駐車後に発進するときは、周囲の安全を十分確認してから発進してください。
- 後退するときに十分な視界を得られないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

運転中は携帯電話を使用しない

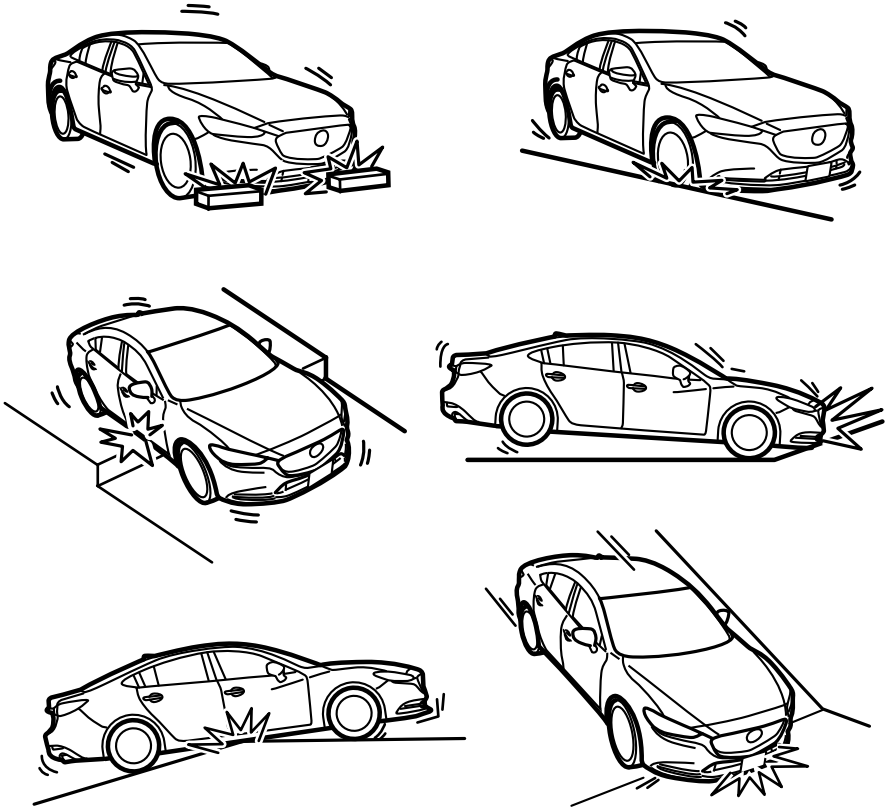
運転しながらハンズフリー以外の携帯電話やスマートフォンを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

路面などと車両との干渉に注意する

次のようなとき、バンパーやマフラーなど車体の下部を損傷するおそれがありますので、十分注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り

- 凸凹やわだちのある道路の走行



違法改造はしない

572 ページの「違法改造はしない」をよくお読みください。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

572 ページの「タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する」、583 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する

583 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

572 ページの「部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する」をよくお読みください。

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

572 ページの「ナンバープレートは正しい位置に取り付ける」をよくお読みください。

アクセサリーを取り付けない

フロントガラスや窓ガラス、また、その周辺にアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、アクセサリーの吸盤が凸レンズの働きをして、火災につながるおそれがあります。

エンジンルーム内のファンやベルトに気をつける

646 ページの「オーバーヒートについて」をよくお読みください。

エンジンルーム内に物を置き忘れない

574 ページの「点検整備について」をよくお読みください。

ラジエーターが熱いときはキャップをはずさない

646 ページの「オーバーヒートについて」をよくお読みください。

バッテリーの取り扱いに気をつける

641 ページの「バッテリーあがりについて」をよくお読みください。

航空機内ではキーを操作しない

25 ページの「キー」をよくお読みください。

一酸化炭素中毒に気をつける

自動車から出る排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素は、無色/無臭の有毒な気体です。体内に入ると、一酸化炭素中毒を起こします。一酸化炭素中毒の初期症状は、目まい/吐き気/頭痛などの体調不良ですが、症状が進むと意識不明になって動けなくなります。また、症状によっては死に至ることがあります。万一、排気管などに腐食や損傷があったり、排気音に異常を感じたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。また、車内で排気ガスの臭いがしたときは、すべての窓を全開にするか、空調を手動で外気導入にして新鮮な外気を取り入れてください。そのまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

ライターやメガネを車内に放置しない

炎天下に駐車するときは、車内にメガネやライターを放置しないでください。車内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

ターボ車の特性

ターボ装置は、エンジンに多量の空気を過給することにより大きな出力を得る装置で、非常に精密に作られています。
またその潤滑や冷却は、エンジンオイルによって行われています。
ターボ装置の故障を防ぐため、次の点を守ってください。

- エンジンオイル、オイルフィルターは必ず指定された期間で交換してください。
- エンジン始動直後の空ふかし、急加速は行なわないでください。
- ターボ装置の冷却のため、高速走行や登坂走行の直後は、エンジンを停止する前にアイドリング運転を行なってください。ただし、i-stop が作動したときはアイドリング運転は不要です。

運転状況	アイドリング時間
市街地などの一般走行	不要
高速走行	約 1 分
特殊な連続走行または急な登坂走行	約 2 分

駐停車するとき

燃えやすい物のそばに車を止めない

車を止める時には、次の点を守ってください。

- そばに枯れ草など、燃えやすいものがない場所に止めてください。走行したあとは排気管が高温になっているため、火災につながるおそれがあります。
- 壁やベニヤ板などが後方にある場合は、間隔を十分とってから停車してください。排気ガスにより変色、変形したり、そのまま放置しておくと火災につながるおそれがあります。

仮眠するときはエンジンを止める

エンジンをかけたままで仮眠しないでください。無意識にチェンジレバー/セレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み車が発進したり、エンジンや排気管の異常過熱による火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気管が損傷していたり、換気の悪い場所では、知らない間に排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

長時間停車するときは空調を外気導入にする

エンジンをかけたまま長時間停車するときは、空調を手動で外気導入にしてください。空調を内気循環にすると、車内の圧力が下がり排気ガスが入りやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしない

換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。ガレージの中や積雪した場所、その他周囲が囲まれた換気の悪い場所では、排気ガスが行き場を失い車内へ入りやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

坂道駐車はパーキングブレーキをしっかりかける

坂道での駐車は、パーキングブレーキをかけ、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P に入れてください。
急な坂道ではさらに輪止めをしてください。輪止めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車の移動はエンジンをかける

車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。下り坂などで傾斜を利用して移動させると、ハンドルがロックされたり、ブレーキの効きが悪いため思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けると、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

車から離れるときは必ずパーキングブレーキをかけ、施錠する

車から離れるときは、エンジンを止め、パーキングブレーキがかかっていることを確認して、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

お子さまを乗せるとき

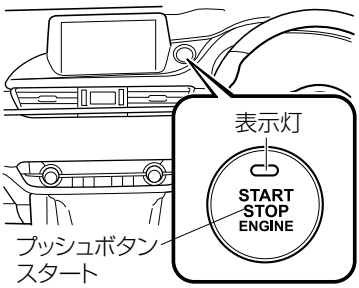
車から離れるときはお子さまも一緒につれていく

車から離れるときはお子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下の車内はたいへん高温になり、お子さまが脱水症状を起こすおそれがあります。症状がひどくなると脳に障害が残ったり、最悪の場合死に至るなどお子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

電源ポジション (エンジンスイッチ)

各位置の働き



マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏まない状態で、プッシュボタンスタートを押すごとに OFF、ACC、ON の順に電源ポジションが切り替わります。ON からもう一度、プッシュボタンスタートを押すと OFF へもどります。

電源ポジション	働き
OFF	プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、消灯します。
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどの電装品が使用できる位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、点灯します。
ON	全ての電装品が使用できる位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、点灯します。 (エンジン回転中は、プッシュボタンスタートの表示灯は消灯します。)

知識

- **ハンドルがロックされているときは**
  プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅します。ハンドルを左右に動かしながら、プッシュボタンスタートを押して、ハンドルのロックを解除してください。
- **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)**
  プッシュボタンスタートを押して、エンジンが始動する前に燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- エンジンを止めたままで、オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションを ON のまま放置しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。電源ポジションを ACC (オートマチック車は、セレクトレバーが P の位置になっていること) で放置した場合は、約 25 分間で電源ポジションが OFF になります。

知識

- マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだ状態で、プッシュボタンスタートを押すとエンジンが始動します。電源ポジションの切り替えを行なう場合は、ペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押してください。

エンジンの始動

エンジンをかける前に

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。
3. 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
→48 ページ「運転席の操作」

クラッチスタートシステムについて (マニュアル車)

クラッチスタートシステムとは、クラッチペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押してもエンジンを始動させない装置で、車が動き出すのを防止します。
エンジンを始動するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。

知識

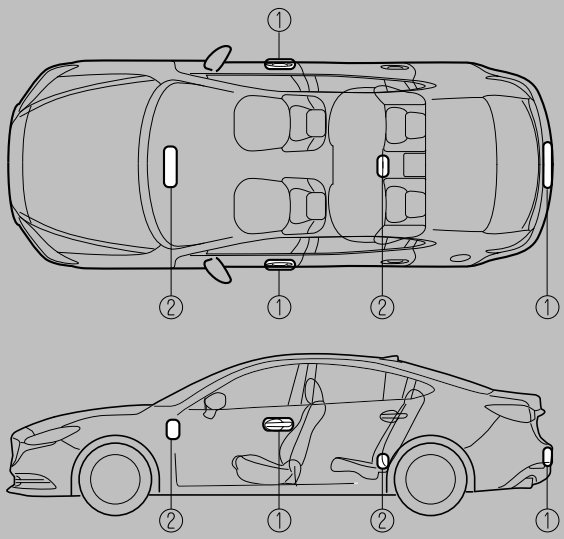
エンストで動けなくなったとき
ギヤを入れたままプッシュボタンスタートを押し続けても車は動きません。
→622 ページ「エンストで動けなくなったとき」

エンジンをかけるとき

⚠ 警告

禁止 **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方は車内･車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。**

電波により､医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。



①車外のアンテナ　②車内のアンテナ

必ず守る **次にある以外の医療用機器を使用している方は､キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。**

- **植込み型心臓ペースメーカー**
- **植込み型除細動器**

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

必ず守る **プッシュボタンスタートシステム機能､アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。**

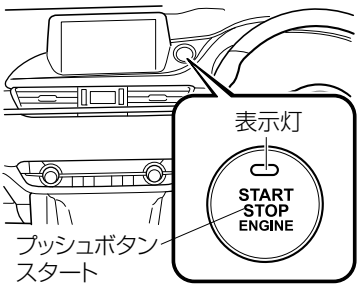
ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため､キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。また､アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

エンジンの始動と停止

知識

- キーは必ず運転者が携帯してください。
- 電源ポジションの状態 (OFF、ACC、ON) に関係なく、エンジンを始動できます。

1. キーを携帯していることを確認します。
2. エンジンが完全に始動するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。
3. マニュアル車は、エンジンが完全に始動するまで、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み続けます。
4. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯するのを確認します。
   プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅するときは、キーの電池切れなどが考えられます。
   →135 ページ「キーが電池切れしたときのエンジン始動」



5. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯している状態でプッシュボタンスタートを押します。

注意

必ず守る **プッシュボタンスタートに異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**

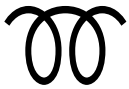
知識

- 次のようなときは、マルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示され、エンジンをかけることができません。

  - キーの電池切れ
  - キーが作動範囲内にない
    →28 ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
  - キーを車内でも感知しにくい場所に置いている
  - キーに類似した他社のキーが作動範囲内にある
- プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅しているときは、通常の操作ではエンジンを始動できない場合があります。マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、エンジンが完全に始動するまでプッシュボタンスタートを押し続けてください。
- エンジン始動後、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) は消灯し、電源ポジションは ON 状態になります。
- 冷間始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。
- 冷間始動後は、排気ガスの浄化を促進するためにエンジン回転が高くなり、うなっている音が聞こえることがありますが、部品機能の異常ではありません。
- **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)**
  プッシュボタンスタートを押して、エンジンが始動する前に燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

知識

- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  - 予熱表示灯が消灯するまで、スターターは回りません。



  - 予熱が終了したあと、電源ポジションが ON のままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行い予熱表示灯が点灯する場合があります。
  - エンジン始動時は、プッシュボタンスタートを押したあと、メーター内の予熱表示灯が消灯して、エンジンがかかるまでマニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを放さないでください。
  - エンジンがかかる前にマニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを放した場合は、再度マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏み込みプッシュボタンスタートを押してエンジンを始動してください。
  - 外気温が－10°C より低いときは、エンジン保護のためエンジンが始動してから約 3 分間、最高回転数が制限される場合があります。
- **(マニュアル車)**
  エンスト時、エンジンが完全停止したあと約 3 秒以内にクラッチペダルを再度踏み込むとエンジンを再始動することができます。
  ただし次のようなときは、クラッチペダルを踏み込んでも再始動させることができません。
  - 運転席のドアが開いているとき
  - 運転席のシートベルトが装着されていないとき
  - エンスト後にクラッチペダルを完全に放していないとき
  - エンジンが完全に止まっていない状態でクラッチペダルを踏んだとき

キーが電池切れしたときのエンジン始動

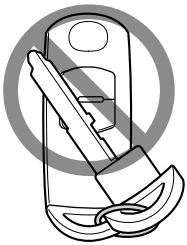
⚠注意

禁止

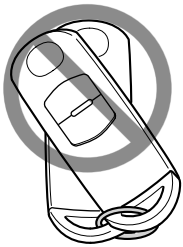
キーの使用について

次のような状態にしないでください。車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

- **キーに他のキーの金属部や金属製のものが接している**



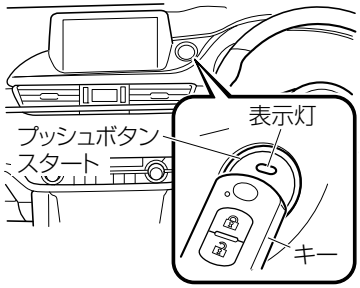
- **キーにスペアのキーや他の車両の盗難防止システムキー（信号発信機内蔵のもの）が重なっている、または近くにある**



- **キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある**

キーの電池切れなどで、エンジンが始動できないときは、次の手順でエンジンを始動することができます。

1. エンジンが完全に始動するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2. マニュアル車は、エンジンが完全に始動するまで、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み続けます。
3. プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点滅するのを確認します。



4. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅中に、キーの裏面でプッシュボタンスタートに触れます。

5. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯に変わったら、プッシュボタンスタートを押します。

知識

- マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンが始動しないようになっています。
- プッシュボタンスタート機能に異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。
- キーの裏面でプッシュボタンスタートに触れるときは、ロックスイッチ側を上にして、ボタンに触れてください。プッシュボタンスタートに触れたときにボタンを押してしまうとエンジンが始動することがあります。
- プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯しない場合は、最初から操作を行なってください。それでも点灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。
- 電源ポジションの切り替えを行なう場合は、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯に変わったあと、マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを放してからプッシュボタンスタートを押してください。電源ポジションが ACC、ON、OFF の順に切り替わります。なお、電源ポジションが OFF になると、それ以降は電源ポジションの切り替えができませんので、エンジンを始動する場合は最初から操作を行なってください。

エンジンの停止

1. マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にします。
2. プッシュボタンスタートを押します。エンジンが停止し、電源ポジションが OFF になります。

⚠注意

禁止 **緊急時以外は、走行中にエンジンを停止しないでください。**

必ず守る **車から離れるときは、電源ポジションが OFF になっていることを確認してください。**

必ず守る **(SKYACTIV-D 2.2)**
エンジンが暖まらない状態でのエンジン始動・停止を繰り返すと、エンジン内部を浄化するために停車中のエンジン回転数が高くなる場合があります。エンジン回転数が通常の回転数に戻るまでエンジンを停止しないでください。

知識

- **キーの電池容量について**
  電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたとき、キーの電池容量が少なくなっていることを感知したら、マルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示されます。新しい電池と交換してください。
  →603 ページ「キー」
- **電源ポジションについて**
  オートマチック車はセレクトレバーが P 以外の位置のときに、プッシュボタンスタートを押してエンジンを停止させると、電源ポジションは ACC になります。
- **電源ポジションを OFF にせずに車から離れると**
  マルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示され、警告チャイムが鳴ります。
  →669 ページ「チャイムがなったときは」

(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)

- **エンジンルームの冷却について**
  エンジンルームを早期に冷却するため、電源ポジションを ON から OFF にしても、エアコンの ON/OFF にかかわらずクーリングファンが数分間回転することがあります。

緊急エンジン停止

車両が停止していなくてもプッシュボタンスタートを押し続ける、または素早く何度も押すとエンジンが停止します。電源ポジションは ACC になります。

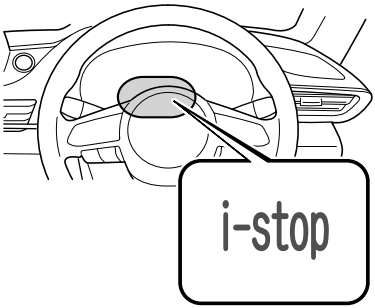
i-stop について

i-stop (アイ・ストップ) は、燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、信号待ちや渋滞などで車両を停止させたとき、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

アイドリングストップ・再始動

知識

- 次の条件のときに、i-stop 表示灯 (緑) が点灯します。
  - アイドリングストップ中のとき



- エンジンが再始動すると、i-stop 表示灯 (緑) が消灯します。

オートマチック車

(オートホールドおよびマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))を使用していないとき)

1. 走行状態 (R レンジ、M レンジの 2 速固定モード時以外) からブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップします。
2. セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジでブレーキペダルから足を放すと、自動でエンジンが再始動します。
3. セレクトレバーが N または P レンジでは、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンは再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) または R レンジへ操作すると再始動します。 (安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なってください。)

(オートホールドによって停車したとき)

1. 走行状態 (R レンジ、M レンジの 2 速固定モード時以外) からブレーキペダルを踏んで停車するとアイドリングストップし、ブレーキから足を放してもアイドリングストップが継続します。
2. セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジでアクセルを踏むと、自動でエンジンが再始動します。
3. セレクトレバーが N または P レンジでは、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンは再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) または R レンジへ操作すると再始動します。 (安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なってください。)

(マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の停止保持制御によって停車したとき)

1. マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の停止保持制御によって停車すると、アイドリングストップします。
2. マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の停止保持制御によって停車しているときに、クルーズコントロールスイッチの RES スイッチを押す、またはセレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジでアクセルを踏むと、自動でエンジンが再始動します。

マニュアル車

(オートホールド非作動時)

1. ブレーキペダル、次にクラッチペダルを踏み込んで、車両を停車させます。
2. クラッチペダルを踏み込んだまま、チェンジレバーをニュートラルの位置にします。クラッチペダルから足を放したあと、アイドリングストップします。
3. クラッチペダルを踏み込む、またはクラッチペダルをもどし始めると自動でエンジンが再始動します。

(オートホールドによって停車したとき)

1. ブレーキペダル、クラッチペダルの順に踏み込んで、車両を完全に停車させます。
2. クラッチペダルを踏み込んだまま、チェンジレバーをニュートラルの位置にします。クラッチペダルから足を放したあと、アイドリングストップし、ブレーキペダルから足を放してもアイドリングストップが継続します。
3. クラッチペダルを踏み込むと自動でエンジンが再始動します。

作動条件

作動するとき

次の条件のとき i-stop 表示灯 (緑) が点灯して、アイドリングストップします。

- **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)**
  エンジン暖機後
- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  - エンジン冷間以外

- エンジンを始動し、一度走行したあと
- ボンネットを閉めて、エンジンを始動したとき
- バッテリーの状態が良好のとき
- すべてのドア、リアゲート/トランク、ボンネットが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 曇り取りスイッチ が OFF の状態のとき
- エアコンの温度設定ダイヤルが最大暖房または最大冷房 (A/C ON) 以外の位置になっているとき
- 車内の温度とエアコンの設定温度がほぼ一致しているとき
- i-stop 警告灯 (橙) が点灯/点滅していないとき
- キーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能が正常なとき
- ブレーキ負圧が十分に高いとき
- ハンドルを操作していないとき
- **(マニュアル車)**
  - 車速が 3km/h 以下のとき
  - チェンジレバーがニュートラルの位置のとき
  - クラッチペダルを踏んでいないとき
- **(オートマチック車)**
  - 車両が停車しているとき
  - セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジのとき
  - オートマチックトランスミッションフルードが十分に暖まっているとき
  - オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くないとき
  - ハンドルがほぼ直進状態のとき (直進状態にしていてもハンドルに力をかけているとアイドリングストップしない場合があります。アイドリングストップさせたいときは、ハンドルにかけている力をゆるめてください。)
  - ブレーキペダルを踏んで停車させたとき
  - 急制動ではないとき

作動しないとき

次の条件のとき、アイドリングストップしません。

- 走行せずにアイドリングを続けていているとき
- 曇り取りスイッチ が ON の状態で作動しているとき
- エアコンの温度設定ダイヤルが最大暖房または最大冷房 (A/C ON) の位置になっているとき
- 車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れているとき
- 外気温が非常に低い、または高いとき
- 気圧が低いとき (標高が高いところを走行しているとき)

- **(オートマチック車)**
  - 急な坂道で停車したとき
  - 停車時のハンドルが直進状態でないとき
- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  - ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) による PM (Particulate Matter: 粒子状物質) の除去が行われているとき

知識

アイドリングストップするまでに時間がかかるとき

- 車両を長時間使用しなかったときなどでバッテリーが放電したとき
- 外気温が高いとき、または低いとき
- バッテリー交換などによりバッテリー端子をはずしたあと
- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) による PM の除去が行われたあと

エンジンが再始動しないとき

アイドリングストップ中に次の操作を行なうと安全確保のため自動でエンジンは再始動しません。通常の操作でエンジンを始動してください。

- ボンネットを開けたとき
- **(マニュアル車)**
  チェンジレバーがニュートラル以外の位置で、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき
- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジで、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき

エンジンの停止時間が短くなる、または次のアイドリングストップが可能になるまでの時間が長くなるとき

- 外気温が高いとき、または、低いとき
- バッテリーの放電が進んだとき
- 車両電装品の消費電力が多いとき

アイドリングストップ中にエンジンが自動で再始動するとき

次のようなときは自動でエンジンを再始動します。

- i-stop OFF スイッチをチャイムが鳴るまで押し続けたとき
- 外気温が非常に低い、または高いとき
- 曇り取りスイッチ を ON にしたとき
- エアコンの温度設定ダイヤルを最大暖房または最大冷房 (A/C ON) の位置にしたとき
- 車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れたとき
- 坂道でブレーキをゆるめ、車両が動きだしたとき

知識

- アイドリングストップしてから 2 分経過したとき
- バッテリーの放電が進んだとき
- **(マニュアル車)**
  - チェンジレバーがニュートラルの位置で、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき
- **(オートマチック車)**
  - セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジで、アクセルペダルを踏んだとき
  - セレクトレバーを R レンジにしたとき
  - セレクトレバーを N または P レンジから D/M (2 速固定モードではない) レンジにしたとき
  - セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジのまま、ハンドル操作をしたとき
  - セレクトレバーが M レンジで、2 速固定モードにしたとき
  - セレクトレバーが N または P レンジで、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき

アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作したとき (オートマチック車)

- アイドリングストップ中にセレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) レンジから N または P レンジへ操作するとブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンは再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) または R レンジへ操作すると再始動します。(安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なってください。)
- アイドリングストップ中にセレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) レンジから N または P レンジへ操作し、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき、自動でエンジンが再始動します。

バッテリー端子をはずしたとき

バッテリー端子接続後すぐにはアイドリングストップしないことがあります。また、バッテリーを交換したときは、i-stop の機能を確認する必要がありますので、マツダ販売店にご相談ください。

i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑)

i-stop は、安心かつ快適にご使用いただくために、運転者の操作状況や、車内外の環境、車両の状態などの状況を常にモニターし、i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑) によりさまざまな注意を運転者にお知らせします。

知識

i-stop の作動状況を燃費モニターの作動状況表示に表示します。
→150 ページ「i-stop/i-ELOOP 状態表示」

i-stop 警告灯 (橙)

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- i-stop OFF スイッチを押してシステムを解除すると点灯します。
- アイドリングストップ中に次の操作を行なうと i-stop 警告灯 (橙) が点灯します。この場合、安全確保のため自動でエンジンは再始動しません。通常の操作でエンジンを始動してください。
  - ボンネットを開けたとき
  - **(マニュアル車)**
    - チェンジレバーがニュートラル以外の位置で、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき
  - **(オートマチック車)**
    - セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジで、運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき

知識

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき
- エンジンがかかっている状態で、i-stop OFF スイッチを操作しても点灯し続けるとき

点滅するとき

システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

i-stop 表示灯 (緑)

点灯するとき

- アイドリングストップ中に点灯し、エンジンが再始動すると消灯します。

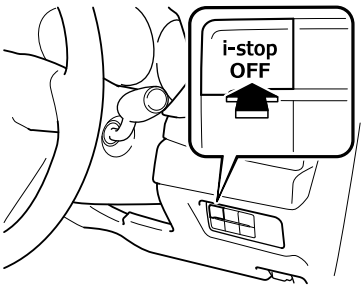
点滅するとき

- **(マニュアル車)**
  - アイドリングストップ中、チェンジレバーをニュートラル以外の位置にしたとき点滅し、アイドリングストップ中であることをお知らせします。
    クラッチペダルを踏み込むと自動でエンジンが再始動し消灯します。

i-stop 警告チャイム

- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り、アイドリングストップ中であることをお知らせします。運転席ドアを閉めると鳴り止みます。
- アイドリングストップ中に次の操作を行なうとチャイムが鳴ります。この場合、安全確保のため自動でエンジンは再始動しません。通常の操作でエンジンを始動してください。
  - **(マニュアル車)**
    チェンジレバーがニュートラル以外の位置で運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき
  - **(オートマチック車)**
    セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジで運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき

i-stop OFF スイッチ



スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけると、i-stop の作動が解除され、メーター内の i-stop 警告灯 (橙) が点灯します。もう一度チャイムが鳴るまで押しつづけると i-stop が作動可能な状態になり、i-stop 警告灯 (橙) が消灯します。

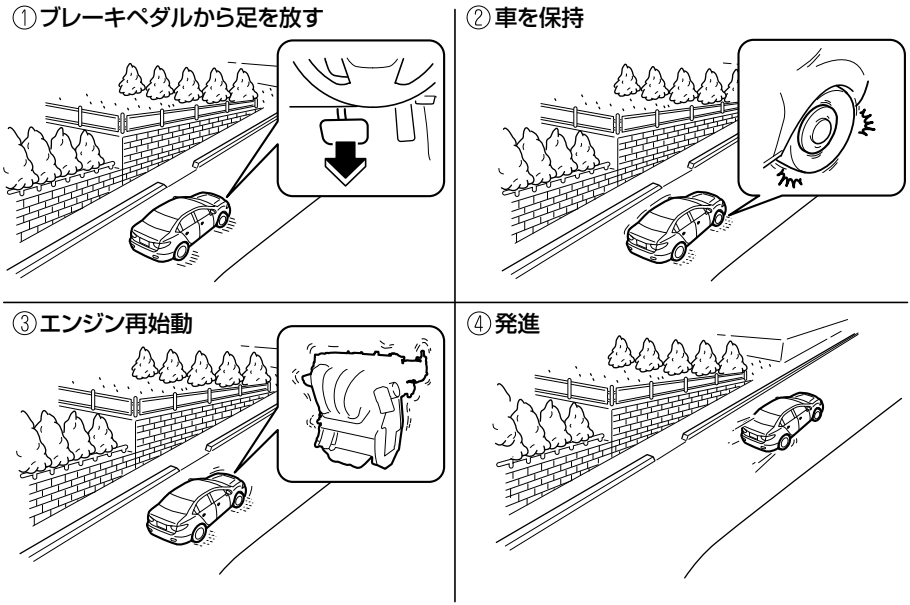
知識

i-stop を解除した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると i-stop は作動可能な状態にもどります。

発進補助装置について (オートマチック車)

i-stop 装備車には発進補助機能が装備されています。これは次のような状態でブレーキペダルから足を放したときに、坂道などで車両が動き出すことを防ぐ機能です。

- アイドリングストップ中 (車両の後退防止)
- 再始動時 (急なクリープ現象発生による車両の飛び出し防止)
  ブレーキペダルを放してエンジンが再始動したときに、ブレーキまたはオートマチックトランスミッションの制御により車両が急に動き出すことを防止しています。



⚠警告

必ず守る

システムを過信しない

発進補助機能は、あくまでアイドリングストップ状態から車両を発進させる際に、ブレーキから足を放したあと最長 4 秒間作動する補助装置です。システムを過信して操作すると、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあるため非常に危険です。発進時は周囲の安全を確認してセレクトレバーやブレーキペダル、アクセルペダルを適切に操作してください。道路の勾配や積載、けん引の状態によって、意図せず車両が動き出す可能性がありますのでご注意ください。

エンジンの始動と停止

⚠警告

必ず守る

発進時はセレクトレバーを N レンジ以外の位置にしてエンジンを再始動させたあとに、ブレーキペダルから足を放す

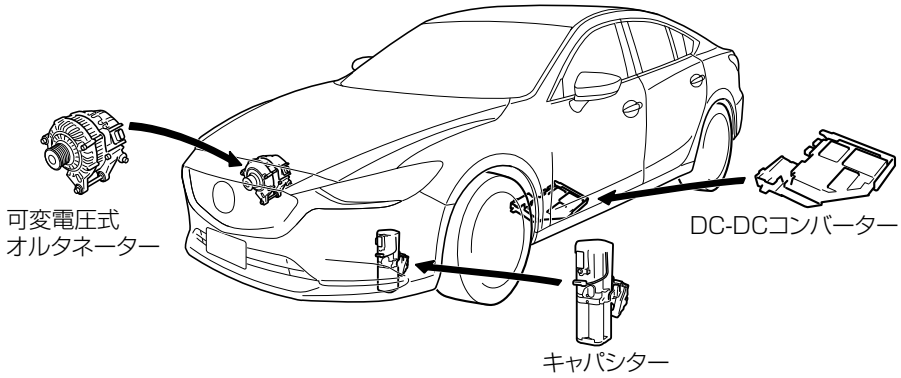
アイドリングストップ中にセレクトレバーを N レンジに操作し、ブレーキペダルから足を放したときは、ブレーキ力が徐々に解除されます。発進時はセレクトレバーを N レンジ以外の位置にしてエンジンを再始動させたあとに、ブレーキペダルから足を放してください。セレクトレバーが N レンジの状態では、発進補助機能が解除されたあとに意図せず車両が動き出す可能性がありますのでご注意ください。

知識

- 急な坂道で停車したときは、アイドリングストップしないため発進補助機能は作動しません。
- 発進補助機能の作動により、ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、ブレーキから音が発生したり、ブレーキペダルが振動したりすることがありますが、異常ではありません。

i-ELOOP とは

車が減速する際に発生する運動エネルギーを利用して発電を行うことで、発電に使うエンジン負荷をおさえ、走りの性能と燃費の向上に貢献するシステムです。
大量の電気を瞬時に蓄え、適時に無駄なく電装品の電源として活用します。



⚠注意

禁止 **次のものには高電流が流れているため触れないでください。**

- **可変電圧式オルタネーター**
- **DC-DC コンバーター**
- **キャパシター**

必ず守る **キャパシターを廃棄する場合は、必ずマツダ販売店にご相談ください。**
詳しくは次の URL を参照ください。
http://www.mazda.com/csr/environment/recycling

知識

- i-ELOOP のエネルギー回生状況を燃費モニターの i-stop/i-ELOOP 状態表示に表示します。
→150 ページ 「i-stop/i-ELOOP 状態表示」

i-ELOOP 充電表示

i-ELOOP充電中

長期間お車を使用しなかった後などにエンジンを始動するとディスプレイにメッセージが表示されることがあります。
表示が消えるまでアイドリング状態で待機することをおすすめします。

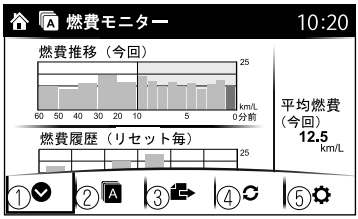
知識

メッセージ表示中に走行するとチャイムが鳴ります。
メッセージ表示中にステアリングを操作すると通常のステアリング操作より重くなるときがありますが、異常ではありません。エンジンをかけたまま安全な場所に停車し、ステアリング操作をしないでください。しばらくすると表示が消えて、通常のステアリング操作に戻ります。

燃費モニター

センターディスプレイ内の各アイコンを操作することにより i-stop/i-ELOOP 状態表示、燃費情報、i-stop 効果を切り替え表示します。また、運転終了後、エンディング表示が ON のときは、今回の運転のエネルギー効率実績などを表示します。

1. ホーム画面の アイコンを選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. 燃費モニターを選択します。
3. 画面左下のアイコンを選択して、メニューを表示します。
4. メニュー内のアイコンを選択します。各アイコンは次の様に機能します。



① メニュー表示を閉じます。
② アプリケーション画面にもどります。
③ 燃費モニターの表示を、i-stop/i-ELOOP 状態表示、i-stop 効果表示、燃費情報の順に切り替えます。
④ 燃費データをリセットします。
⑤ 次のセッティング画面を表示します。

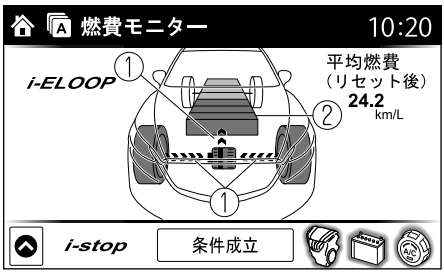
- エンディング表示の ON/OFF 切り替え

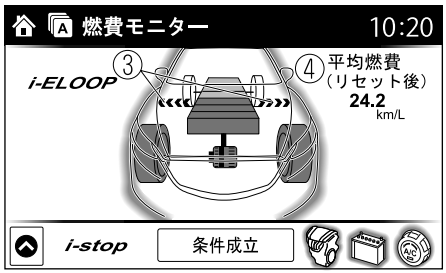
知識

電源ポジションを ON から OFF にしたときの燃費モニター画面が、次回電源ポジション ON したとき、最初の燃費モニター画面になります。

i-stop/i-ELOOP 状態表示

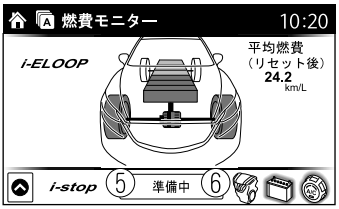
i-stop の作動状況、および i-ELOOP のエネルギー回生状況を表示します。





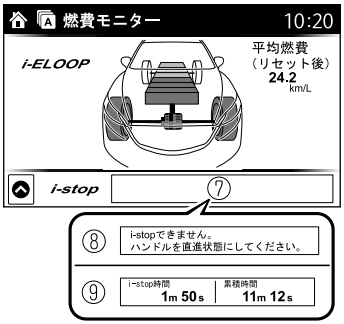
① 減速エネルギーを利用して発電した電気の量と、発電した電気が蓄電器に流れている状態を表示します。表示は発電量が増えると太くなります。
② 蓄電器に蓄えている電気の量を表示します。
③ 蓄電器に蓄えられた電気を電装品に供給している状態を表示します。(車全体が同時に発光します。)
④ 平均燃費を表示します。

- トリップメーター (TRIP A) に表示される平均燃費と同期 (連動) しています。
  メーター (タイプ A)
  →162 ページ「平均燃費表示」
  メーター (タイプ B)
  →181 ページ「平均燃費表示」
- リセットするには、メニューの↻アイコンを押します。 (同時にトリップメーター (TRIP A) に表示される平均燃費と TRIP A もリセットされます。)



⑤ アイドリングストップが可能かどうかの準備状況を表示します。

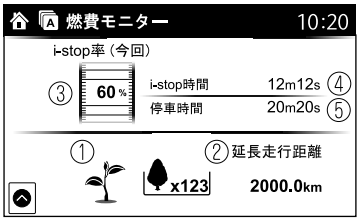
⑥ アイドリングストップ準備状況をアイコン (エンジン、バッテリーおよびエアコン) の色で表示します。準備ができたアイコンは発光します。発光していないアイコンは準備ができていないことを知らせます。



⑦ 車両停止時のアイドリングストップ状況を表示します。
⑧ アイドリングストップしていないとき、アイドリングストップするために必要な運転者の操作を表示します。
⑨ アイドリングストップ中、現在のアイドリングストップ時間と累積のアイドリングストップ時間を表示します。

i-stop 効果表示

エネルギー効率実績を表示します。

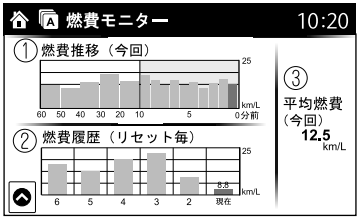


① システムの効果により削減された二酸化炭素 (CO_2) 排出量に応じてリーフ (葉) が成長します。成長したリーフは累計され、本数を表示します。
② アイドリングストップで延ばすことが出来た全走行距離を表示します。
③ 全停車時間のうち、アイドリングストップの割合を表示します。
④ アイドリングストップした時間を表示します。
⑤ 全停車時間を表示します。

燃費モニター

燃費情報

燃費に関する情報を表示します。



① 過去 60 分間の燃費を表示します。

- 過去 1～10 分間は、1 分間毎の燃費を表示します。
- 過去 10～60 分間は、10 分間毎の燃費を表示します。

② 過去 5 回分のリセット時の平均燃費とリセット後 (現在) の平均燃費を表示します。
③ 走行開始後の平均燃費を 1 分間毎に算出して表示します。

知識

- 燃費データは、トリップメーター (TRIP A) に表示される平均燃費と同期 (連動) しています。
- 燃費データをリセットするには、メニューの↻アイコンを押します。(同時にトリップメーター (TRIP A) に表示される平均燃費と TRIP A もリセットされます。)
- 燃費データリセット後、平均燃費算出中は“———”が表示されます。

エンディング表示

燃費モニターのエンディング表示が ON の場合は、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、エネルギー効率実績を表示します。

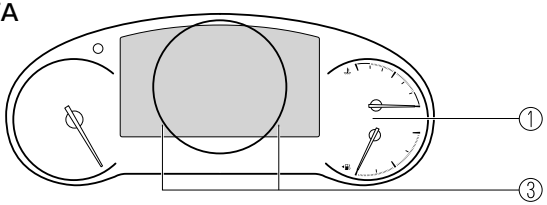
知識

燃費モニターと i-DM のエンディング表示を両方 ON にしているときは、両方のエンディングが表示されます。

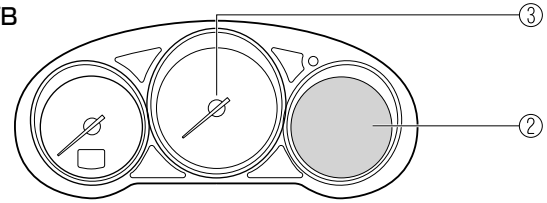
メーター、表示

メーター

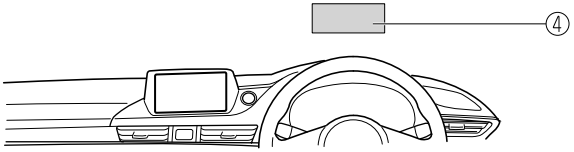
タイプA



タイプB

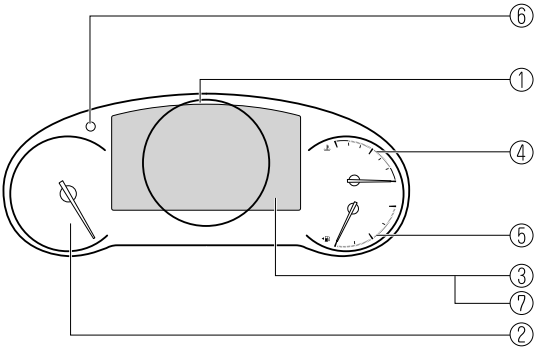


アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



(1) メーター (タイプ A)..... 154 ページ
(2) メーター (タイプ B)..... 174 ページ
(3) インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)..... 194 ページ
(4) アクティブ･ドライビング･ディスプレイ.....200 ページ

メーター (タイプ A)



(1) スピードメーター..... 154 ページ
(2) タコメーター..... 155 ページ
(3) マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A)..... 156 ページ
(4) 水温計..... 159 ページ
(5) 燃料計..... 160 ページ
(6) パネルライトコントロール..... 161 ページ
(7) インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)..... 194 ページ

スピードメーター

走行速度を km/h で示します。

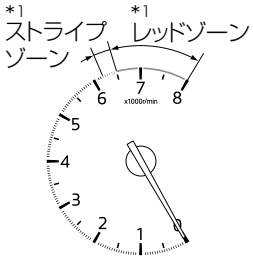
タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。

⚠注意

指針がレッドゾーン（許容回転数以上を示す）に入らないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。

必ず守る

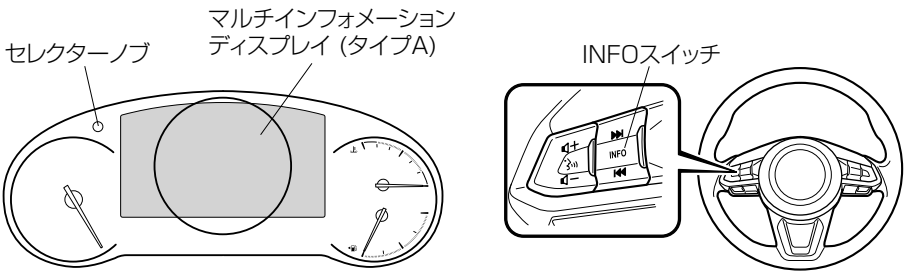


*1 仕様により範囲が異なります。

知識

ストライプゾーンはレッドゾーンに入らないようにするために、早めの変速を促すゾーンです。

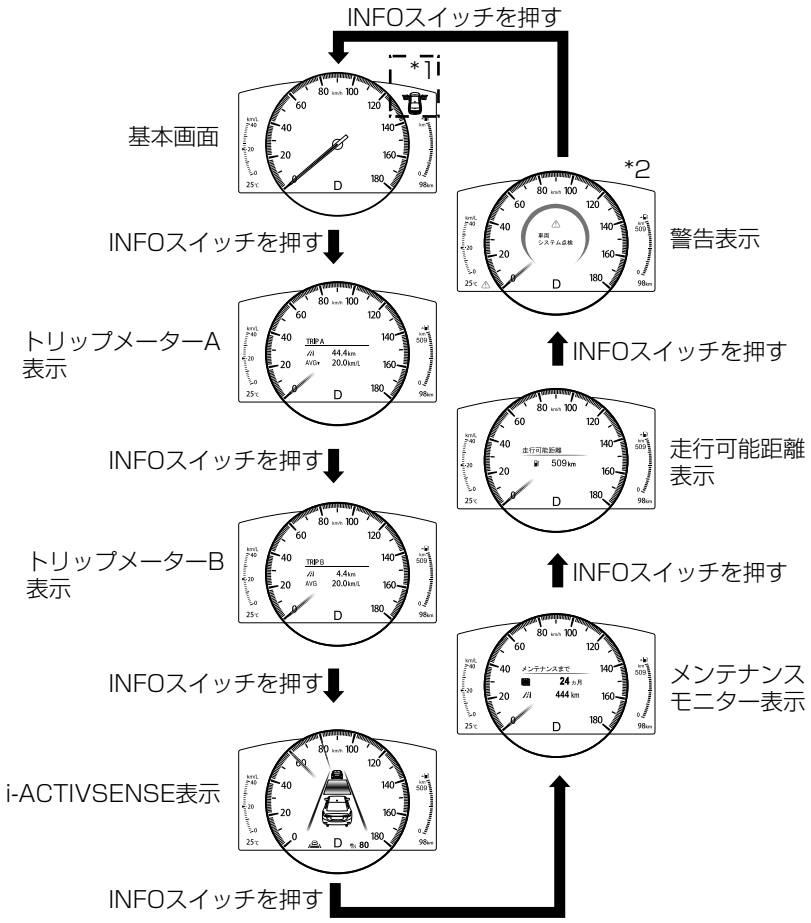
マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A)



マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A) は次の情報を表示します。

- スピードメーター
- オドメーター
- トリップメーター
- 外気温
- 走行可能距離
- 平均燃費
- 瞬間燃費
- メンテナンスモニター
- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示
- 車間認知支援システム表示
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示
- 半ドア警告表示/トランク開警告表示/リアゲート開警告表示
- 警告表示

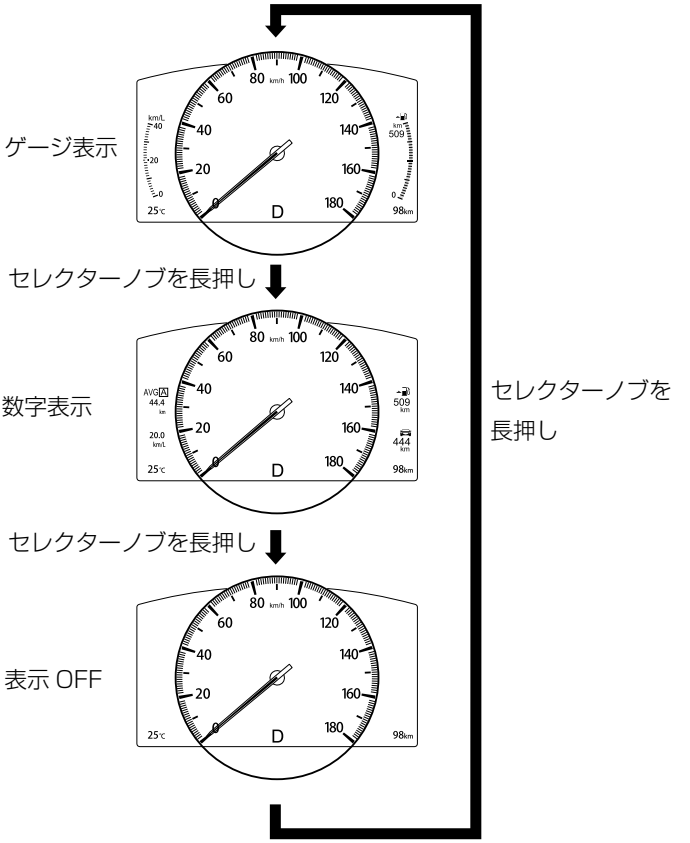
INFO スイッチを押すごとに表示が切り替わります。



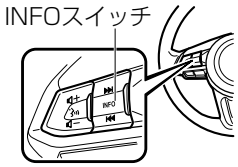
*1: ドア/トランクリッド／リフトゲートが開いているときに表示します。
*2: 警告があるときのみ表示します。

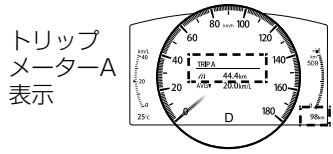
メーター、警告灯、表示灯の見方

セレクターノブを長押しするごとに表示が切り替わります。

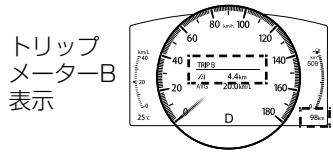


オドメーター/トリップメーター





INFOスイッチを押す



オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。

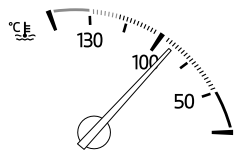
トリップメーター

一定区間の走行距離を km 単位で示します (右側の数字は 100 m 単位です)。2 種類 (TRIP A、TRIP B) の区間距離を計測することができます。たとえば、TRIP A モードで給油してからの距離を測りながら、TRIP B モードで出発してからの距離を測ることができます。電源ポジションが ON のとき、INFO スイッチを押すごとに、TRIP A、TRIP B が切り替わります。トリップメーターを “0” にもどすときは、それぞれのモードのときに INFO スイッチを 1 秒以上押します。

知識

- 次のようなときは、トリップメーターの表示が “0” にもどります。
  - 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
  - 走行距離が 9999.9 km を超えたとき。

水温計



電源ポジションが ON のとき、エンジン冷却水の温度を示します。

注意

必ず守る

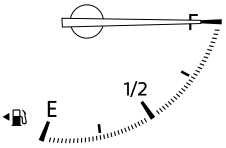
水温計の指針が赤いゲージを示すときは、オーバーヒートのおそれがあります。エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。
→646 ページ「オーバーヒートについて」

知識

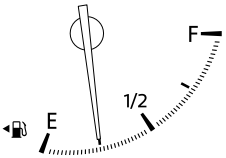
通常の走行ではエンジン冷却水の温度は 100 ℃以下で安定しており、表示は 100 ℃より低い範囲を示します。

燃料計

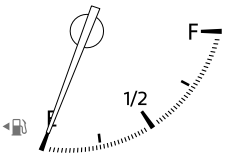
Full



1/4



Empty



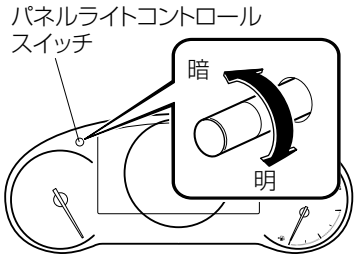
電源ポジションが ON のとき、燃料の残量を示します。
燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点灯します。早めに燃料を補給してください。
→663 ページ「処置する」
目盛りが“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。
→95 ページ「給油のしかた」

知識

- 燃料補給後は、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、目盛りが増減することがあります。
- ◀⛽の矢印は燃料補給口が助手席側にあることを示します。

(SKYACTIV-D 2.2)
燃料が少なくなり、エンジン不調やエンストする場合は速やかに安全な場所へ車を移動させ、燃料を少なくとも 10 L 補給してください。

パネルライトコントロール



電源ポジションが ON で車幅灯が点灯しているときにパネルライトは減光されます。ただし、昼間にライトを点けたときなど、ライトセンサーが車両の周辺が明るいと感知した場合、パネルライトは減光されません。

知識

- 夕方や薄暗い場所で電源ポジションを ON にすると、ライトセンサーが周辺の明るさを感知するまでの数秒間パネルライトが減光され、明るさを感知した後に減光が解除される場合があります。
- 車幅灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。
→229 ページ「ヘッドランプの点灯/消灯」

パネルライトコントロールスイッチをまわすと、メーターおよびインストルメントパネルの明るさを調節できます。

- 左にまわすと暗くなり、最も暗い位置で音が鳴ります。
- 右にまわすと明るくなります。

減光解除機能

電源ポジションが ON で、メーターが減光しているときに、パネルライトコントロールスイッチを右に音が鳴るまでまわすと、減光を解除できます。メーターなどが見えにくい場合は減光を解除してください。

知識

- パネルライトコントロールスイッチを押して、減光を解除することができます。
- 減光を解除しているときは、車幅灯が点灯しても、メーターは減光されません。
- 減光を解除しているとき、センターディスプレイは常に昼画面になります。
→457 ページ「マツダコネクトの設定」

外気温表示

25℃

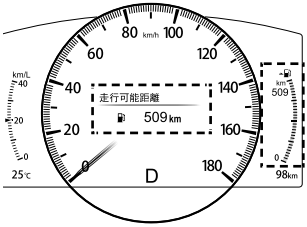
電源ポジションが ON のとき、外気温を表示します。

知識

次のようなとき、外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

走行可能距離表示

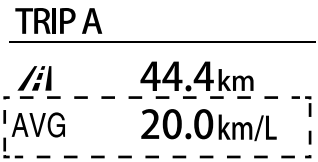


現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。

知識

- 走行可能距離が十分走行できる数値であっても燃料計の残量目盛りが“E”に近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。
  燃料残量警告灯が点灯すると、燃料計の目盛りが 1/4 以上になるまで燃料を加えないと走行可能距離表示は変化しません。
- 走行可能距離とは、燃料計の残量目盛りがすべて消えるまで、あとどれくらい走行できるかを示すおよその距離になります。
- お車を購入されたときやバッテリー端子をはずした後など過去の燃費情報がないときは、実際に走行できる距離と異なる数値を表示することがあります。

平均燃費表示



お車を購入されたとき、または過去のデータをリセットしたときからの累積走行距離と累積消費燃料から、約 1 分間毎に平均燃費を算出して表示します。

知識

表示されている過去のデータをリセットするには、INFO スイッチを 1.5 秒以上押してトリップメーターを“0.0”にもどします。データをリセットすると、燃費を再算出して表示する前に 1 分間- - - km/L を表示します。

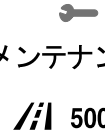
瞬間燃費表示

走行中の瞬間燃費を、消費燃料から算出して表示します。

知識

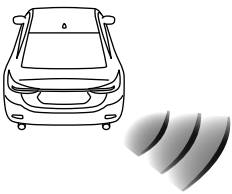
- 時速が約 5 km/h 以下になると 0 位置を表示します。
- トリップ A の平均燃費を青矢印で表示します。

メンテナンスモニター



メンテナンスモニターを ON にすると、定期点検またはオイル点検/交換の時期をお知らせすることが出来ます。
メンテナンス時期までの残日数が 15 日以下、または残走行距離が 1000 km 以下になると、電源ポジションを ON にしたときにメッセージが表示されます。
メンテナンスモニターの設定方法や表示内容は、メンテナンスモニターを参照してください。
→409 ページ「メンテナンスモニター」

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示

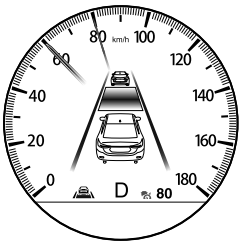


システムの作動状態を表示します。
→267 ページ「ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) とは」

車間認知支援システム表示

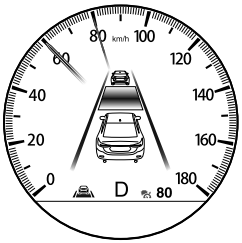
前方車との車間距離を表示します。
→280 ページ「車間認知支援システムとは」
グレード/仕様別装備

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示 グレード/仕様別装備



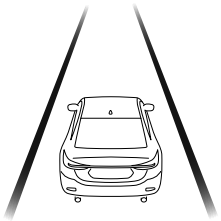
システムの作動状態を表示します。
→290 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは」 グレード/仕様別装備

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示 グレード/仕様別装備



システムの作動状態を表示します。
→302 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは」 グレード/仕様別装備

レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示



システムの作動状態を表示します。
→317 ページ「レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは」

グレード/仕様別装備

警告表示

システムの作動状態や故障･異常状態などのメッセージを表示します。

(同時にメーター内の警告灯が点灯/点滅、またはディスプレイにシンボルが表示されたとき)

警告灯、またはシンボルの内容を確認してください。
→166 ページ「警告表示/警告灯」

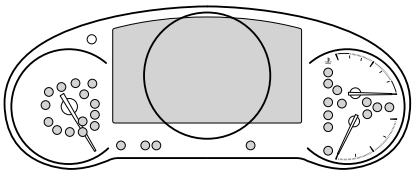
(ディスプレイにメッセージのみ表示されたとき)

ディスプレイの指示に従ってください。表示の内容については次のページを参照ください。
→665 ページ 「マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは」

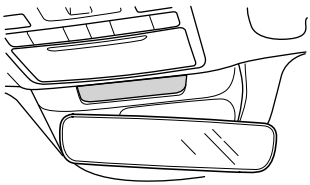
警告表示/警告灯､表示/表示灯

メーターはグレードや仕様により異なります。

メーター



天井の前側中央



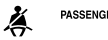
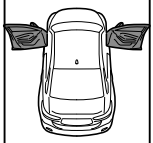
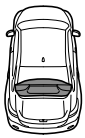
警告表示/警告灯

故障時などに点灯します。

表示	警告灯名称	ページ
	ブレーキ警告灯*1	655
	充電警告表示/警告灯*1	655
	オイル警告灯*1	655
	高水温警告表示	655
	電動パワーステアリング警告表示	655
	マスター警告表示	657
	ABS 警告灯*1	657
	電動パーキングブレーキ (EPB) 警告表示/警告灯*1	657
	エンジン警告灯*1	657
i-stop (橙)	i-stop 警告灯*1	点滅したとき 657 点灯したとき 143
i-ELOOP	i-ELOOP 警告表示	657
AT	オートマチックトランスミッション警告表示 グレード/仕様別装備	657

表示	警告灯名称	ページ
4WD	4WD 警告表示 グレード/仕様別装備	657
	エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯*1	657
	アクティブボンネット警告灯*1	657
(橙/白)	KEY 警告表示	橙 657
		白 663
	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告表示	657
(橙)	アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯*1	657
	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) ＆車線逸脱警報システム警告表示	657
(橙)	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 警告表示 グレード/仕様別装備	657
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示 グレード/仕様別装備	657
(橙)	ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 警告表示	657
	LED ヘッドランプ警告灯*1	657
(橙)	スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示 グレード/仕様別装備	663

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	警告灯名称	ページ
	燃料残量警告表示/警告灯	663
	エンジンオイルレベル警告灯*1	663
	シートベルト警告灯	663
	ウォッシャー液残量警告表示 グレード/仕様別装備	663
	半ドア警告表示	663
	トランク開警告表示 グレード/仕様別装備	663
	リアゲート開警告表示 グレード/仕様別装備	663
	半ドア警告灯	663

*1 作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

表示/表示灯

システムが作動中または停止しているときに表示/点灯/点滅します。

表示	表示灯名称	ページ
	セキュリティ表示灯[*1]	97
	予熱表示灯[*1] グレード/仕様別装備	173
DPF	DPF 表示 グレード/仕様別装備	408
	レンチ表示	173
i-stop (緑)	i-stop 表示灯	143
	セレクトレバー位置表示	206
	車幅灯表示/表示灯	229
	ヘッドランプ上向き表示灯	ヘッドランプが上向き (ハイビーム)のとき 232 パッシング合図のとき 232
	方向指示/非常点滅表示灯	方向指示灯 235 非常点滅表示灯 236

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	表示灯名称	ページ
	リアフォグランプ表示灯 グレード/仕様別装備	237
	電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯[*1][*2]	657
HOLD	オートホールド作動表示灯[*1]	225
HOLD	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示灯[*1] グレード/仕様別装備	313
	TCS/DSC 作動表示灯[*1]	TCS が作動したとき 248
		DSC が作動したとき 250
		点灯したとき 657
	DSC OFF 表示灯[*1]	251
SPORT	セレクトモードインジケーター グレード/仕様別装備	219
	ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯[*1]	システムを停止しているとき 272
		故障したとき 657

表示	表示灯名称	ページ
(緑)	アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)表示灯	260
OFF	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム OFF 表示灯*1	326
	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示	320
(白)	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) メイン表示 グレード/仕様別装備	293
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) メイン表示 グレード/仕様別装備	307
(緑)	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) セット表示 グレード/仕様別装備	293
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) セット表示 グレード/仕様別装備	307
(橙)	スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) 表示	アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) 331
		スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) 341

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	表示灯名称	ページ
	スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) OFF 表示灯*1 グレード/仕様別装備	アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) 332
		スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) 341
		スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 347
(白)	ドライバー・アテンション・アラート (DAA) 表示	285

*1 作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

*2 パーキングブレーキをかけているときは点灯し続けます。

レンチ表示灯

メンテナンス時期になると点灯/点滅します。

点灯するとき

- あらかじめ設定されたメンテナンス時期になると点灯します。
  設定/リセット方法については、次のページを参照してください。
  →409 ページ「メンテナンスモニター」
- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  エンジンオイルが劣化しているときに点灯します。
  マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

お車の使用条件によっては、別冊のメンテナンスノートに記載された交換時期よりも早く点灯することがあります。

点滅するとき (SKYACTIV-D 2.2)

フューエルフィルター (セジメンタ) の水抜きが必要なときに点滅します。マツダ販売店へご相談ください。

予熱表示灯 (SKYACTIV-D 2.2)

電源ポジションを ON にすると点灯します。予熱が終了すると消灯します。
→131 ページ「エンジンをかけるとき」

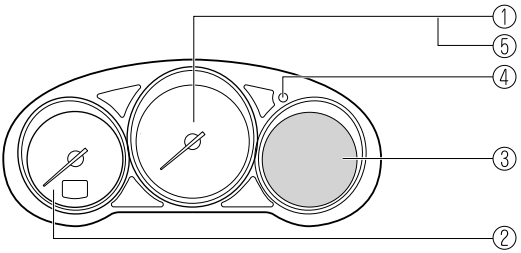
次のようなときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
- 点滅しているとき

知識

予熱が終了したあと、電源ポジションが ON のままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行い点灯することがあります。

メーター (タイプ B)



(1) スピードメーター..... 174 ページ
(2) タコメーター..... 175 ページ
(3) マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ B)..... 175 ページ
(4) パネルライトコントロール..... 180 ページ
(5) インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)..... 194 ページ

スピードメーター

走行速度を km/h で示します。

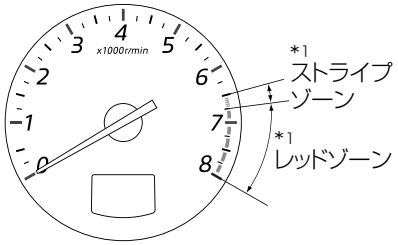
タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。

⚠ 注意

指針がレッドゾーン（許容回転数以上を示す）に入らないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。

必ず守る

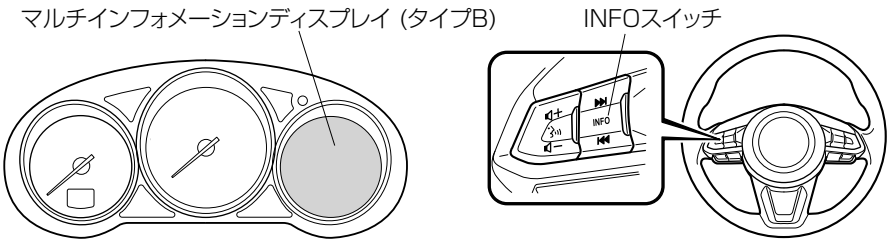


*1 仕様により範囲が異なります。

知識

ストライプゾーンはレッドゾーンに入らないようにするために、早めの変速を促すゾーンです。

マルチインフォメーションディスプレイ（タイプ B)



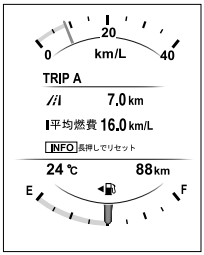
マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ B) は次の情報を表示します。

- オドメーター
- トリップメーター
- 水温計
- 燃料計
- 外気温
- 走行可能距離

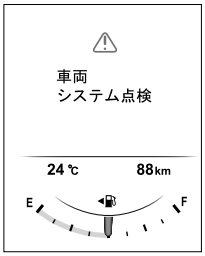
- 平均燃費
- 瞬間燃費
- メンテナンスモニター
- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示
- 車間認知支援システム表示
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示
- 車線逸脱警報システム表示
- クルーズコントロール設定車速表示
- 警告表示

INFO スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

瞬間燃費
トリップメーターA、
平均燃費、
外気温、
オドメーター、
燃料計



*1

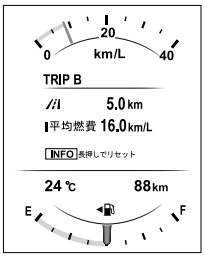


警告、
外気温、
オドメーター、
燃料計

INFOスイッチを押す

INFOスイッチを押す

瞬間燃費、
トリップメーターB、
平均燃費、
外気温、
オドメーター、
燃料計

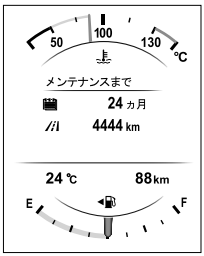


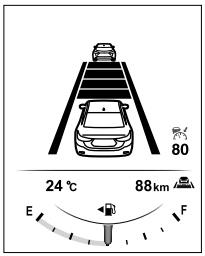
水温計、
走行可能距離、
外気温、
オドメーター、
燃料計

INFOスイッチを押す

INFOスイッチを押す

水温計、
メンテナンスモニター、
外気温、
オドメーター、
燃料計



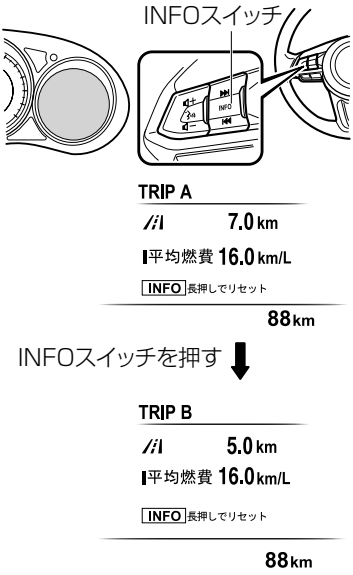


i-ACTIVSENSE表示、
外気温、
オドメーター、
燃料計

INFOスイッチを押す

*1：警告があるときのみ表示します。

オドメーター/トリップメーター



オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。

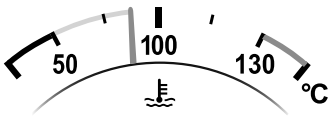
トリップメーター

一定区間の走行距離を km 単位で示します (右側の数字は 100 m 単位です)。2 種類 (TRIP A、TRIP B) の区間距離を計測することができます。たとえば、TRIP A モードで給油してからの距離を測りながら、TRIP B モードで出発してからの距離を測ることができます。電源ポジションが ON のとき、INFO スイッチを押すごとに、TRIP A、TRIP B が切り替わります。トリップメーターを “0” にもどすときは、それぞれのモードのときに INFO スイッチを 1 秒以上押します。

知識

- 次のようなときは、トリップメーターの表示が “0” にもどります。
  - 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
  - 走行距離が 9999.9 km を超えたとき。

水温計



電源ポジションが ON のとき、エンジン冷却水の温度を示します。

注意

必ず守る **高水温警告灯 (赤) が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあります。エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。**
→646 ページ「オーバーヒートについて」

知識

通常の走行ではエンジン冷却水の温度は 100 ℃以下で安定しており、表示は 100 ℃より低い範囲を示します。

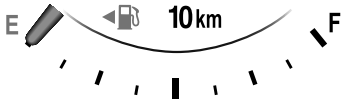
燃料計

Full

電源ポジションが ON のとき、燃料の残量を示します。
燃料が少なくなると、燃料残量警告表示が表示されます。早めに燃料を補給してください。
→663 ページ「処置する」
目盛りが“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。
→95 ページ「給油のしかた」

1/4 Full

Empty

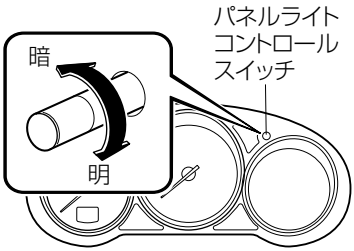


知識

- 燃料補給後は、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、目盛りが増減することがあります。
- ◀⛽の矢印は燃料補給口が助手席側にあることを示します。

(SKYACTIV-D 2.2)
燃料が少なくなり、エンジン不調やエンストする場合は速やかに安全な場所へ車を移動させ、燃料を少なくとも 10 L 補給してください。

パネルライトコントロール



電源ポジションが ON で車幅灯が点灯しているときにパネルライトは減光されます。ただし、昼間にライトを点けたときなど、ライトセンサーが車両の周辺が明るいと感知した場合、パネルライトは減光されません。

知識

- 夕方や薄暗い場所で電源ポジションを ON にすると、ライトセンサーが周辺の明るさを感知するまでの数秒間パネルライトが減光され、明るさを感知した後に減光が解除される場合があります。
- 車幅灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。
→229 ページ「ヘッドランプの点灯/消灯」

パネルライトコントロールスイッチをまわすと、メーターおよびインストルメントパネルの明るさを調節できます。

- 左にまわすと暗くなり、最も暗い位置で音が鳴ります。
- 右にまわすと明るくなります。

減光解除機能

電源ポジションが ON で、メーターが減光しているときに、パネルライトコントロールスイッチを右に音が鳴るまでまわすと、減光を解除できます。メーターなどが見えにくい場合は減光を解除してください。

知識

- パネルライトコントロールスイッチを押して、減光を解除することができます。
- 減光を解除しているときは、車幅灯が点灯しても、メーターは減光されません。
- 減光を解除しているとき、センターディスプレイは常に昼画面になります。
→457 ページ「マツダコネクトの設定」

外気温表示

電源ポジションが ON のとき、外気温を表示します。

知識

次のようなとき、外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

走行可能距離表示

走行可能距離

現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。

知識

- 走行可能距離が十分走行できる数値であっても燃料計の残量目盛りが“E”に近づくか、燃料残量警告表示が表示されたら早めに燃料を補給してください。
  燃料残量警告表示が表示されると、燃料計の目盛りが 1/4 以上になるまで燃料を加えないと走行可能距離表示は変化しません。
- 走行可能距離とは、燃料計の残量目盛りがすべて消えるまで、あとどれくらい走行できるかを示すおよその距離になります。
- お車を購入されたときやバッテリー端子をはずした後など過去の燃費情報がないときは、実際に走行できる距離と異なる数値を表示することがあります。

平均燃費表示

お車を購入されたとき、または過去のデータをリセットしたときからの累積走行距離と累積消費燃料から、約 1 分間毎に平均燃費を算出して表示します。

知識

表示されている過去のデータをリセットするには、INFO スイッチを 1.5 秒以上押してトリップメーターを“0.0”にもどします。データをリセットすると、燃費を再算出して表示する前に 1 分間- - - km/L を表示します。

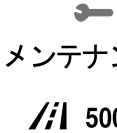
瞬間燃費表示

走行中の瞬間燃費を、消費燃料から算出して表示します。

知識

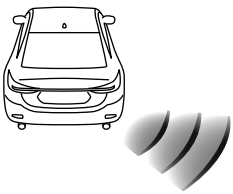
時速が約 5 km/h 以下になると 0 位置を指します。

メンテナンスモニター



メンテナンスモニターを ON にすると、定期点検またはオイル点検/交換の時期をお知らせすることが出来ます。
メンテナンス時期までの残日数が 15 日以下、または残走行距離が 1000 km 以下になると、電源ポジションを ON にしたときにメッセージが表示されます。
メンテナンスモニターの設定方法や表示内容は、メンテナンスモニターを参照してください。
→409 ページ「メンテナンスモニター」

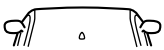
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示



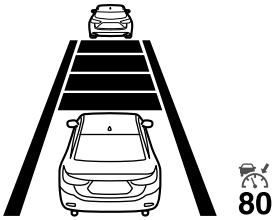
システムの作動状態を表示します。
→267 ページ「ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) とは」

車間認知支援システム表示 グレード/仕様別装備

前方車との車間距離を表示します。
→280 ページ「車間認知支援システムとは」
グレード/仕様別装備

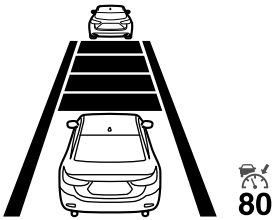


マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示 グレード/仕様別装備



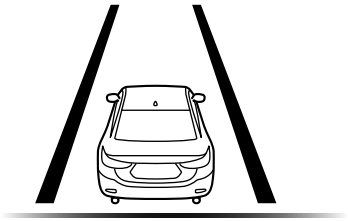
システムの作動状態を表示します。
→290 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは」 グレード/仕様別装備

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示 グレード/仕様別装備



システムの作動状態を表示します。
→302 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは」 グレード/仕様別装備

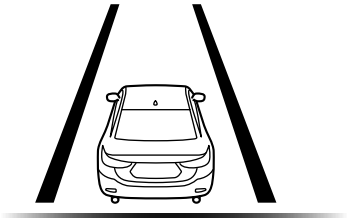
車線逸脱警報システム表示 グレード/仕様別装備



システムの作動状態を表示します。
→260 ページ「車線逸脱警報システムとは」
グレード/仕様別装備

レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示

グレード/仕様別装備



システムの作動状態を表示します。
→317 ページ「レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは」
グレード/仕様別装備

クルーズコントロール設定車速表示 グレード/仕様別装備

80

システムの作動状態を表示します。
→386 ページ「クルーズコントロールとは」
グレード/仕様別装備

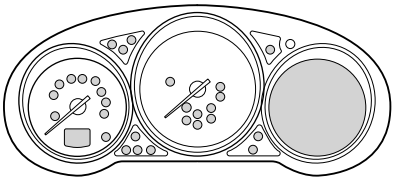
警告表示

システムの作動状態や故障･異常状態などのメッセージを表示します。
(同時にメーター内の警告灯が点灯/点滅、またはディスプレイにシンボルが表示されたとき)
警告灯、またはシンボルの内容を確認してください。
→185 ページ「警告表示/警告灯」
(ディスプレイにメッセージのみ表示されたとき)
ディスプレイの指示に従ってください。表示の内容については次のページを参照ください。
→665 ページ 「マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは」

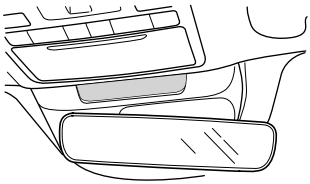
警告表示/警告灯、表示/表示灯

メーターはグレードや仕様により異なります。

メーター



天井の前側中央



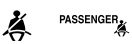
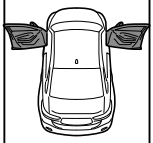
警告表示/警告灯

故障時などに点灯します。

表示	警告灯名称	ページ
	ブレーキ警告灯*1	655
	充電警告表示/警告灯*1	655
	オイル警告灯*1	655
(赤)	高水温警告表示/警告灯*1	655
	電動パワーステアリング警告表示	655
	マスター警告表示	657
	ABS 警告灯*1	657
	電動パーキングブレーキ (EPB) 警告表示/警告灯*1	657
	エンジン警告灯*1	657
i-stop (橙)	i-stop 警告灯*1	点滅したとき 657 点灯したとき 143
i-ELOOP	i-ELOOP 警告表示	657
AT	オートマチックトランスミッション警告表示 グレード/仕様別装備	657

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	警告灯名称	ページ
4WD	4WD 警告表示 グレード/仕様別装備	657
	エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯*1	657
	アクティブボンネット警告灯*1	657
(橙/白)	KEY 警告表示	橙 657
		白 663
	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告表示	657
(橙)	ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) 警告表示/警告灯*1	657
	アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯*1	657
	車線逸脱警報システム警告表示 グレード/仕様別装備	657
	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) ＆車線逸脱警報システム警告表示 グレード/仕様別装備	657
(橙)	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 警告表示 グレード/仕様別装備	657
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示 グレード/仕様別装備	657
(橙)	ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 警告表示	657

表示	警告灯名称	ページ
	LED ヘッドランプ警告灯*1	657
(橙)	スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示 グレード/仕様別装備	663
	燃料残量警告表示	663
	エンジンオイルレベル警告灯*1	663
	シートベルト警告灯	663
	ウォッシャー液残量警告表示 グレード/仕様別装備	663
	半ドア警告表示	663
	トランク開警告表示 グレード/仕様別装備	663
	リアゲート開警告表示 グレード/仕様別装備	663

*1 作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

表示/表示灯

システムが作動中または停止しているときに表示/点灯/点滅します。

表示	表示灯名称	ページ
	セキュリティ表示灯*1	97
	予熱表示灯*1 グレード/仕様別装備	193
DPF	DPF 表示 グレード/仕様別装備	408
	レンチ表示	192
i-stop (緑)	i-stop 表示灯	143
	セレクトレバー位置表示	206
	車幅灯表示/表示灯	229
	ヘッドランプ上向き表示灯	ヘッドランプが上向き (ハイビーム)のとき 232
		パッシング合図のとき 232
	方向指示/非常点滅表示灯	方向指示灯 235
		非常点滅表示灯 236

表示	表示灯名称	ページ
	リアフォグランプ表示灯 グレード/仕様別装備	237
	電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯*1*2	657
HOLD	オートホールド作動表示灯*1	225
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示灯*1 グレード/仕様別装備	313
	TCS/DSC 作動表示灯*1	TCS が作動したとき 248
		DSC が作動したとき 250
		点灯したとき 657
	DSC OFF 表示灯*1	251
SPORT	セレクトモードインジケーター グレード/仕様別装備	219
	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) OFF 表示灯*1	システムを停止しているとき 272
		故障したとき 657

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	表示灯名称	ページ
(緑)	ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 表示灯 グレード/仕様別装備	257
	アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)表示灯 グレード/仕様別装備	260
	車線逸脱警報システム OFF 表示灯[*1] グレード/仕様別装備	265
	レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム OFF 表示灯[*1] グレード/仕様別装備	326
	レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示 グレード/仕様別装備	320
(白)	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) メイン表示 グレード/仕様別装備	293
	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) メイン表示 グレード/仕様別装備	307
(緑)	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) セット表示 グレード/仕様別装備	293
	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) セット表示 グレード/仕様別装備	307

表示	表示灯名称	ページ
(橙)	スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) 表示	アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) 331
		スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) 341
	スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) OFF 表示灯[*1] グレード/仕様別装備	アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) 332
		スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) 341
		スマート･ブレーキ･サポート (SBS) 347

表示	表示灯名称	ページ
(白)	ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 表示	285

*1 作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

*2 パーキングブレーキをかけているときは点灯し続けます。

レンチ表示灯

メンテナンス時期になると点灯/点滅します。

点灯するとき

- あらかじめ設定されたメンテナンス時期になると点灯します。
  マツダ販売店で点検を受けてください。
- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  エンジンオイルが劣化しているときに点灯します。
  マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

お車の使用条件によっては、別冊のメンテナンスノートに記載された交換時期よりも早く点灯することがあります。

点滅するとき (SKYACTIV-D 2.2)

フューエルフィルター (セジメンタ) の水抜きが必要なときに点滅します。マツダ販売店へご相談ください。

低水温表示灯 (青)

エンジン冷却水の温度が低いときに点灯し続けます。
エンジンの暖機が完了すると消灯します。

予熱表示灯 (SKYACTIV-D 2.2)

電源ポジションを ON にすると点灯します。予熱が終了すると消灯します。
→131 ページ「エンジンをかけるとき」

次のようなときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
- 点滅しているとき

知識

予熱が終了したあと、電源ポジションが ON のままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行い点灯することがあります。

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

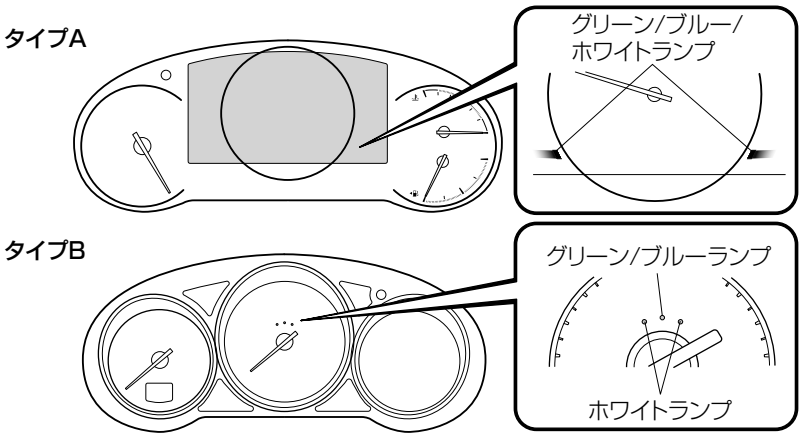
i-DM はマツダ車の「走る歓び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。乗員全員が車両との一体感を感じながら爽快なドライブを楽しめるようになる運転技量の習得/向上をサポートします。

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)ランプ

走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の状態を診断し、ランプの色で運転者に運転操作の状況を知らせます。 (コーチング機能)

知識

- i-DM ランプを非表示にしているときは表示しません。
- i-DM ランプの表示/非表示を変更することができます。
→697 ページ「その他の装備・機能」



グリーンランプ

次の運転のときはランプが緑で点灯します。

内容	運転のポイント
やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費の良い運転です。	● 加速をするとき/やめるときに、アクセルペダルをゆっくり踏む/もどす ● 減速をするとき/やめるときに、ブレーキペダルをゆっくり踏む/もどす ● 旋回をするとき/直進にもどすときに、ハンドルをゆっくり切る/もどす

ブルーランプ

次の運転のときはランプが青で点灯します。

内容	運転のポイント
しなやかな運転を示します。特に次の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちの良い運転です。 **走行タイプ 1** 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。 **走行タイプ 2** 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。	**走行タイプ 1 の場合** ● 加速をするときに、最適な踏み込み量/速さでアクセルペダルを操作する ● 減速をするときに、最適な踏み込み量/速さでブレーキペダルを操作する ● 旋回をするときに、最適な切り込み量/速さでハンドルを操作する **走行タイプ 2 の場合** ● 加速をするときに、一定の加速度を継続するようにアクセルペダルを操作する ● 減速をするときに、一定の減速度を継続するようにブレーキペダルを操作する ● 旋回をするときに、一定の横 G を維持するようにハンドルおよびアクセルペダルを操作する

ホワイトランプ

次の運転のときはランプが白で点灯します。

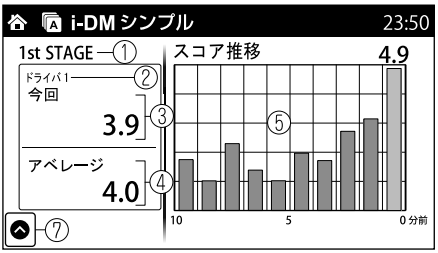
内容	運転のポイント
体が揺れる運転を示します。 やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまりよくない運転です。	● 加速をするとき/やめるときに、アクセルペダルをやや急に踏む/もどす ● 減速をするとき/やめるときに、ブレーキペダルをやや急に踏む/もどす ● 旋回をするとき/直進にもどすときに、ハンドルをやや急に切る/もどす

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 表示

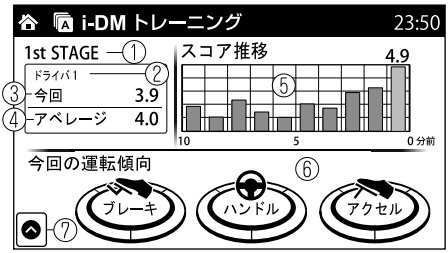
運転の評価をスコア (点数) で表示します。スコアに応じてステージが決まります。
ステージは 1st ステージから 3rd ステージまであり、ステージが上がるとスコアの診断が厳しくなります。運転技量が上がり、現在のステージでアベレージスコアを高く保てるようになると、次のステージへ上がります。逆に、低いアベレージスコアが続くとステージが下がります。
i-DM の情報をセンターディスプレイに表示します。
表示にはシンプルモードとトレーニングモードの 2 種類あります。

1. ホーム画面の (A) アイコンを選択しアプリケーション画面を表示します。
2. i-DM を選択します。

(シンプルモード)



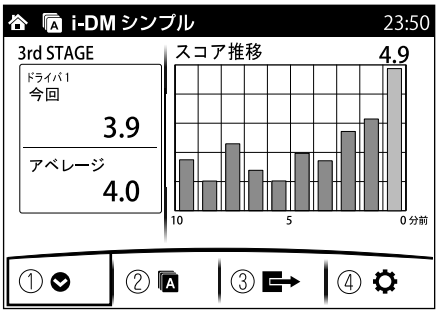
(トレーニングモード)



① 現在のステージを表示します。
② ドライバ名を表示します。
ドライバ名の登録/選択については、次のページを参照してください。
→198 ページ「ドライバ選択」
③ 今回のスコアを表示します。
④ アベレージスコアを表示します。
⑤ スコアの推移を棒グラフで表示します。各グラフは 1 分間のスコアを示し、過去 10 分間の記録を表示します。最新のグラフは右側にハイライト表示されます。信号待ちや一定速走行など運転操作が無かった場合はゼロのグラフが表示されます。

⑥ 今回の運転操作傾向を表示します。ブレーキ、ハンドル、アクセルの操作それぞれを表示します。白のゲージはやや急な運転の多さを示し、青のゲージはしなやかな運転の多さを示します。

⑦ ^アイコンを選択すると画面下部に次のメニュー画面が表示されます。

表示	内容
	①メニュー画面を閉じます。
	②アプリケーション画面にもどります。
	③トレーニング/シンプル画面を切り替えることができます。
	④設定画面に進みます。

設定画面

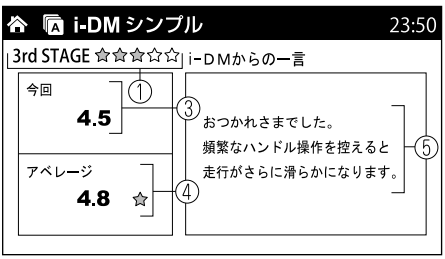
次の表示/非表示の切り替えができます。

- エンディング表示
- i-DM ランプ

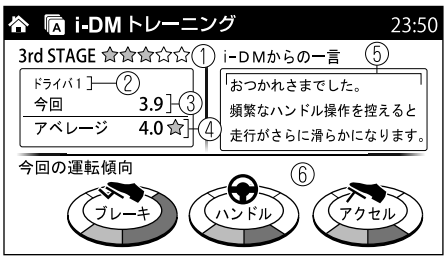
エンディング表示

i-DM のエンディング表示が ON の場合は、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、現在のステージ、今回のスコア (現在の評価値) とアベレージスコア (過去 10 回のスコアの平均値) などを表示します。また今回のスコアに応じて、文字によるワンポイントアドバイスも表示します。(ティーチング機能)

(シンプルモード)



(トレーニングモード)



① 現在のステージを表示します。★マークはアベレージスコア 4.8 以上を連続して獲得した回数を示しています。アベレージスコア 4.8 以上を 5 回連続で獲得すると★マークが 5 個になり次のステージへ上がります。

② ドライバ名を表示します。
③ 今回のスコアを表示します。
④ アベレージスコアを表示します。
⑤ 運転評価メッセージと、ワンポイントアドバイスを表示します。
⑥ 現在の運転傾向を表示します。ブレーキ、ハンドル、アクセルの操作それぞれを表示します。

知識

燃費モニターと i-DM のエンディング表示を両方 ON にしているときは、両方のエンディングが表示されます。

ドライバ選択

車両にドライバ名を 5 名分登録することができます。登録したドライバ名は i-DM で使用でき、ステージ/スコア情報などをドライバ名ごとに管理できます。

知識

安全のため、走行中は一部の操作をすることができません。

1. ホーム画面の (A) アイコンを選択しアプリケーション画面を表示します。
2. 「ドライバ選択」を選択します。
3. 「ドライバ選択」を選択すると、次の画面が表示されます。

①ドライバ選択 ON/OFF 切り替え

ドライバ選択機能の ON/OFF を切り替えます。
ON のとき、ドライバの選択やドライバ名の編集ができます。OFF にすると、「ドライバ選択なし」が自動で選択されます。

②ドライバ名リスト (1～5)

ドライバ名 (未登録の場合はドライバ番号) を 5 つ表示します。選択中のドライバ名にはチェックマークが表示されます。
エンジン始動後、登録されたキーごとにドライバ名が自動で選択されます。ドライバ情報を変更したい場合は、該当するドライバ名を選択します。

知識

選択されたドライバ名で、i-DM を表示し更新されます。

③ドライバ選択なし

ドライバの識別が出来ないとき、またはドライバ選択機能が OFF のときは、「ドライバ選択なし」として表示されます。

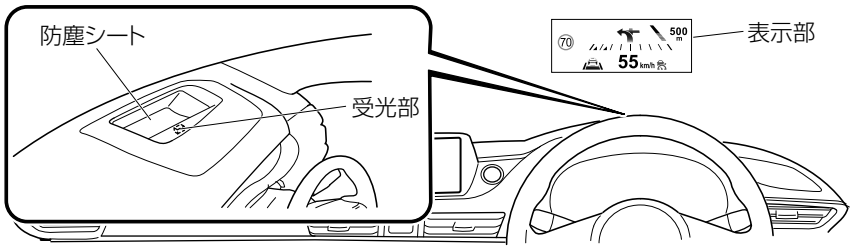
④ドライバ名編集

選択されているドライバ名の編集/登録画面へ移動します。

知識

既に登録されているドライバ名と同一のドライバ名は登録できません。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



⚠警告

ディスプレイの明るさや位置の調節は必ず車両を停止した状態で行なう

必ず守る

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体がアクティブ・ドライビング・ディスプレイにかかると装置の故障の原因となります。

禁止

表示の妨げとなりますので、アクティブ・ドライビング・ディスプレイの上にものを置いたり、受光部にシール等を貼らないでください。

禁止

表示輝度をコントロールするためのセンサーが内蔵されています。受光部を塞ぐと表示輝度が下がり、表示が見えにくくなります。

禁止

受光部に強い光を当てないでください。故障の原因になります。

禁止

知識

- アクティブ・ドライビング・ディスプレイの特性上、偏光サングラスを着用すると視認性が低下します。
- バッテリーを脱着したとき、またはバッテリーの電圧が低下してきたときは、調節した位置がずれることがあります。
- 気象条件 (雨、雪、光、温度等) によっては、表示が見づらかったり、一時的に影響を受ける場合があります。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイは次の情報を表示します。

- 車速
- 車線逸脱警報システムの作動状態と警告
  →260 ページ「車線逸脱警報システムとは」 グレード/仕様別装備
- ブラインド･スポッド･モニタリング (BSM) の作動状態と警告
  →267 ページ「ブラインド･スポッド･モニタリング (BSM) とは」
- 交通標識認識システム (TSR) の警告
  →273 ページ「交通標識認識システム (TSR) とは」
- 車間認知支援システムの作動状態と警告
  →280 ページ「車間認知支援システム とは」 グレード/仕様別装備
- ドライバー･アテンション･アラート (DAA) の表示
  →284 ページ「ドライバー･アテンション･アラート (DAA) とは」
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) の作動状態と警告
  →290 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは」
  グレード/仕様別装備
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の作動状態と警告
  →302 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは」 グレード/仕様別装備
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムの作動状態と警告
  →317 ページ「レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは」 グレード/仕様別装備
- アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) の警告
  →329 ページ「アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) とは」
- AT 誤発進抑制制御 [前進時] の警告
  →333 ページ「AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは」
- スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) の作動状態
  →337 ページ「スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) とは」
- AT 誤発進抑制制御 [後退時] の警告
  →342 ページ「AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは」
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の警告
  →345 ページ「スマート･ブレーキ･サポート (SBS) とは」 グレード/仕様別装備
- クルーズコントロールの作動状態
  →386 ページ「クルーズコントロール とは」 グレード/仕様別装備

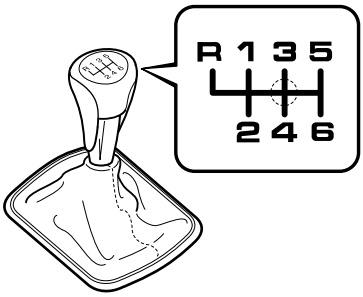
知識

- アクティブ･ドライビング･ディスプレイの設定 (表示位置、輝度、表示情報)を変更することができます。
  →697 ページ「その他の装備・機能」

知識

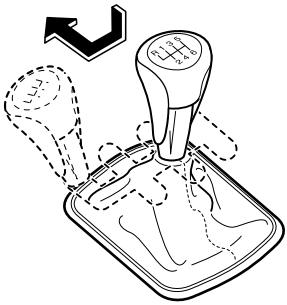
- アクティブ･ドライビング･ディスプレイの設定 (表示位置、輝度、表示情報)を記憶させ、記憶させた位置にセットすることができます。
→53 ページ「ドライビングポジションメモリー機能」 グレード/仕様別装備

マニュアルトランスミッション



チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。

◯ニュートラル位置



マニュアルトランスミッションは、シフトの誤操作を防ぐ装置が装備されています。
R に入れるときは、チェンジレバーを下方向へ押しながら R 方向へ操作してください。

⚠注意

必ず守る **R に入れるときは、車が完全に止まってから行なってください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。**

禁止 **5 速から 4 速に変速するときは、チェンジレバーを横方向に押し過ぎないでください。思いがけず 2 速に入りトランスミッションの故障につながるおそれがあります。**

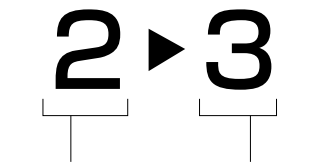
禁止 **R に入れるとき以外は、誤操作を防ぐためにチェンジレバーを下方向へ押さないでください。**

知識

- エンスト時、エンジンが完全停止したあと 3 秒以内にクラッチペダルを再度踏み込むとエンジンを再始動することができます。
  次のようなときは、クラッチペダルを踏み込んでも再始動させることができません。
  - 運転席のドアが開いているとき
  - 運転席のシートベルトが装着されていないとき
  - エンスト後にクラッチペダルを完全に放していないとき
  - エンジンが完全に止まっていない状態でクラッチペダルを踏んだとき

ギア・シフト・インジケーター (GSI)

GSI は、燃費のよい快適な走行をサポートします。メーター内で選択したギア位置を表示し、実際の走行状態に適したギア位置に変更するよう運転者に知らせます。



表示	内容
ギア位置表示	現在のギア位置を表示
推奨ギア位置	走行状態に適したギア位置を表示

注意

必ず守る **GSI を過信しないでください。実際の走行状況では、表示と異なるシフト操作が必要な場合があります。変速する前に道路や周囲の状況を正確に判断してください。**

知識

次のようなとき、GSI は表示しません。

- 停車時
- チェンジレバーがニュートラル位置または R のとき
- 後退時
- 発進時、クラッチを完全につないでいないとき
- 走行中に 2 秒以上クラッチペダルを踏み続けたとき

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギアの切り替えを自動化した車で、その分操作の負担が軽くなります。運転は楽になりますが、安易に運転することは禁物です。オートマチック車の特性を理解し、正しい操作をする習慣をつけてください。

クリープ現象

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、N以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。この現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかり踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

キックダウン

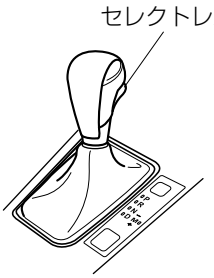
走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンすることができます。

- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

知識

アクセルペダルを踏み込んでいくと途中で重くなり、さらに踏み込むと軽くなります。この踏力の変化はキックダウンさせるためのアクセルペダルの踏み込み量を容易に認識し、キックダウンさせる·させないをコントロールするための機能です。

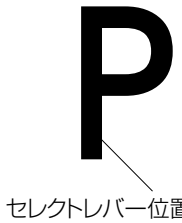
各位置の働き



P (パーキング)
駐車およびエンジンを始動する位置。
R (リバース)
車を後退させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

N (ニュートラル)
動力が伝わらない位置。
エンジンを始動することはできますが、安全のため P の位置で行なってください。
D (ドライブ)
通常走行する位置。
車速に応じて 1 速から 6 速までを自動変速します。
M (マニュアル)
マニュアル走行する位置。
ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
→209 ページ「マニュアルモード」

セレクトレバー位置表示



電源ポジションが ON のとき、使用中のセレクトレバーのセット位置を表示します。

ギア位置表示

マニュアルモードのとき使用しているギア位置を表示します。

AAS モードについて

AAS (アクティブアダプティブシフト) モードとは、運転者が快適に運転するため、道路の状況や運転者の操作に最適なシフトポイントを自動的にコントロールするモードです。
セレクトレバーが D の状態で、登り坂や下り坂、コーナーや高地を走行したり、アクセルペダルをすばやく操作することで AAS モードになる場合があります。
走行状態、路面状態、シーンや操作に応じて、最適なギヤ位置を維持するためシフトチェンジが遅れたり、行なわれない場合がありますが、異常ではありません。

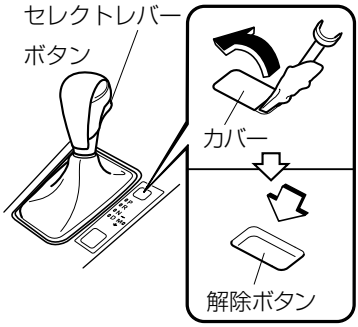
シフトロック装置

シフトロック装置は、発進時の誤操作を防ぐためのものです。

知識

電源ポジションが ACC または OFF のときは、セレクトレバーを P から動かすことはできません。

シフトロック装置の解除

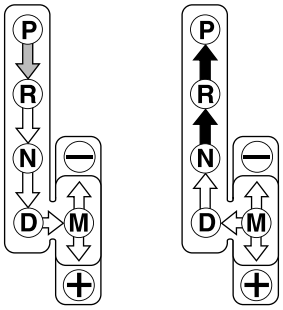


万一、セレクトレバーを P から操作できないときは、カバーをはずし、ブレーキペダルを踏み、マイナスドライバーなどで解除ボタンを押したまま、セレクトレバーボタンを押してセレクトレバーを操作します。

知識

マイナスドライバーなどを使用するときは、先端に布などを巻いてください。マイナスドライバーなどが直接カバーにあたると、傷がつくおそれがあります。

セレクトレバーの操作

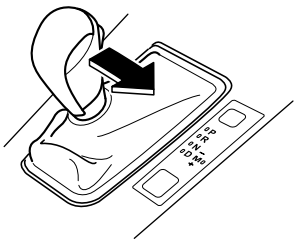


レバー操作	
⇨	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーボタンを押して操作します。
⇨	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作します。
➡	セレクトレバーボタンを押して操作します。

知識

- **誤作動防止について**
  ⇨の操作は、誤作動防止のため、各ギヤ位置ごとに節度をつけ確実に行なってください。
- **先にブレーキペダルを踏んでから操作する**
  セレクトレバーをＰから操作するとき、セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでから操作してください。

マニュアルモード

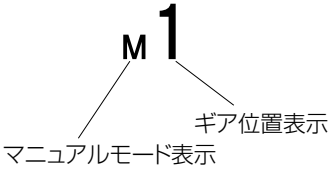


セレクトレバーを D から M に入れるとマニュアルモードになります。
マニュアルモードでは、ギア位置を手動で切り替えることができます。
セレクトレバーを M から D に入れるとマニュアルモードが解除されます。

知識

- 停車時にマニュアルモードにした場合、ギアは 1 速になります。
- D レンジ 5 速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギアは 4 速になります。また、D レンジ 6 速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギアは 5 速になります。

表示



マニュアルモード表示

マニュアルモードにすると、メーター内にあるセレクトレバー位置表示の M が表示されます。

ギア位置表示

ギア位置が表示されます。
高速走行中、速度によりシフトダウンできないときは、ギア位置表示が 2 回点滅します。

知識

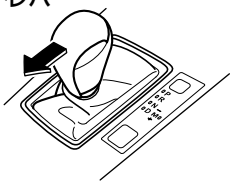
自動変速になる場合があります
オートマチックトランスミッションフルード (ATF) の温度が高温になると、マニュアルモードが解除される場合があり、マニュアルモードが解除されるとメーター内のギア位置表示が消灯し、自動変速になります。これはオートマチックトランスミッションを保護するための正常な機能です。しばらくして ATF 温度が下がるとギア位置表示が再び点灯しマニュアルモードでの走行が可能になります。

オートマチックトランスミッションの使いかた

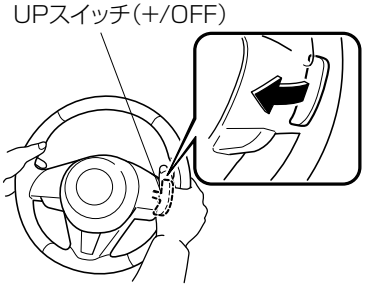
シフトアップのしかた

セレクトレバーまたはステアリングシフトスイッチによりシフトアップ (M1→M2→M3→M4→M5→M6) することができます。

セレクトレバー



ステアリングシフトスイッチ



セレクトレバーでの操作

セレクトレバーを＋側に動かすとシフトアップ (高速ギアに変速) します。

ステアリングシフトスイッチでの操作

ハンドル右裏側の UP スイッチ (**+/OFF**) を手前に引くとシフトアップ (高速ギアに変速) します。

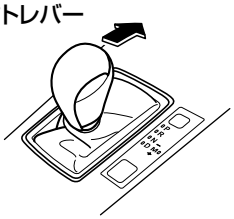
知識

- 低速時は速度によりシフトアップできないことがあります。
- マニュアルモードではタコメーターの指針がレッドゾーンに入らないように運転してください。なお、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでいる間は自動変速に切り替わります。
  ただし、DSC を OFF にしているときは、この機能は停止されます。また、エンジン回転が高い状態で連続走行されたときには、エンジン保護のため自動的にシフトアップする場合があります。
- ステアリングシフトスイッチは、走行中セレクトレバーが D レンジでも、一時的に使用することができます。また、UP スイッチ (**+/OFF**) を一定時間以上手前に引いたときは自動変速にもどります。

シフトダウンのしかた

セレクトレバーまたはステアリングシフトスイッチによりシフトダウン (M6→M5→M4→M3→M2→M1) することができます。

セレクトレバー



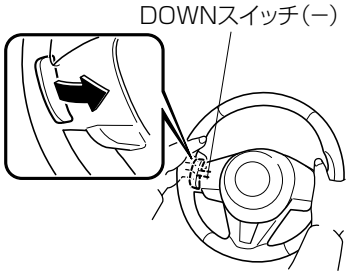
セレクトレバーでの操作

セレクトレバーを**ー**側に動かすとシフトダウン (低速ギアに変速)します。

ステアリングシフトスイッチでの操作

ハンドル左裏側の DOWN スイッチ (**ー**) を手前に引くとシフトダウン (低速ギアに変速)します。

ステアリングシフトスイッチ



⚠警告

必ず守る 高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避ける。

タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

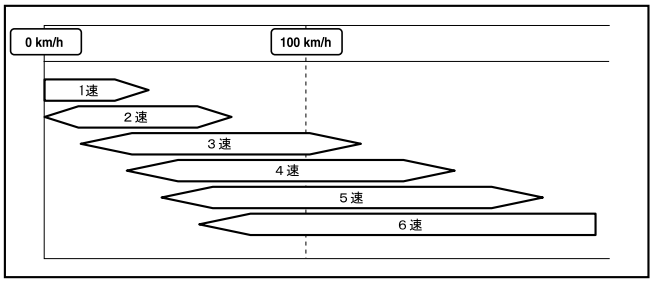
- 高速走行中は、速度によりシフトダウンできないことがあります。
- 減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。
- マニュアルモードでも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとキックダウンします。ただし、DSC を OFF にしているときは、キックダウンしません。
→205 ページ「オートマチック車の特性」

2 速固定モード

車速が約 10 km/h 以下のときにセレクトレバーを＋側に動かして 2 速にすると 2 速固定モードになり、ギア位置は 2 速に固定されます。雪道などすべりやすい路面での発進や走行がしやすくなります。
2 速固定モードのときに、セレクトレバーを＋側または－側に動かして 2 速以外にすると 2 速固定モードは解除されます。

シフトチェンジ (変速) 制限速度

マニュアルモードでは、各ギア位置において次の表のような制限速度を設けています。制限速度範囲内のときにセレクトレバーを操作すると変速します。



シフトアップ

制限速度より低いときはシフトアップしません。

シフトダウン

制限速度を超えているときはシフトダウンしません。
制限速度を超えていてシフトダウンしなかった場合には、ギア位置表示が 2 回点滅し、変速できないことを運転者に知らせます。

キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンします。
ただし、DSC を OFF にしているときは、キックダウンしません。

知識

2 速固定モード時も、キックダウンします。

オートシフトダウン

減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。

知識

2 速固定モード時は、2 速のまま停車します。

ダイレクトモード

セレクトレバーを D の位置で走行中、ステアリングシフトスイッチを操作すると一時的にギア位置を切り替えることができます。
ダイレクトモードのときは、メーターに D と M が表示され、使用しているギア位置が表示されます。
ダイレクトモードは、次の状態になると解除されます。

- UP スイッチ (**+/OFF**) を一定時間以上手前に引いたとき
- 一定時間以上走行したとき (操作時の走行状態により時間は異なります)
- 停車したとき、または、低速走行になったとき

オートマチック車を運転するときに

発進または後退するとき

⚠警告

禁止 **セレクトレバーがPまたはNの位置のときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。**
車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

マニュアル車では発進時の速度をクラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行ないますので、アクセル操作は慎重に行なってください。

1. ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
   前進…D、M
   後退…R
2. セレクトレバーの位置を確認します。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルを踏み発進します。

⚠注意

必ず守る **後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。**

知識

- セレクトレバーをRの位置に入れるとチャイムが鳴り、セレクトレバーがRの位置に入っていることを運転者に知らせます。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーをRに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーをNにもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

急な坂道での発進

パーキングブレーキをかけたまま、アクセルペダルを踏み、車が動く感触を確認しながらパーキングブレーキを解除します。

走行するとき

通常走行

セレクトレバーを D に入れて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速/減速します。
ギヤは 1 速から 6 速の間で、自動的に変速されます。

マニュアルモード走行

停車中または走行中にセレクトレバーを D から M に入れると、マニュアルモードにセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。
→209 ページ「マニュアルモード」

急加速

セレクトレバーが D または M のとき、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速できます。

知識

セレクトレバーが M で DSC を OFF にしているときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでも自動変速されません。セレクトレバーを操作してください。

急な上り坂での走行

坂の勾配に応じ、マニュアルモードで変速してください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

エンジンブレーキが必要なときは、マニュアルモードにして、低速ギアにシフトダウンしてください。
マニュアルモードのときは、走行速度にあわせて 1 段ずつシフトダウンし、エンジンブレーキを併用してください。

停車するとき

1. ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
2. 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
3. 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N または P に入れます。

警告

禁止

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。
セレクトレバーが P、N 以外に入っているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチックトランスミッションの使いかた

⚠警告

必ず守る **停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認する。意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

⚠注意

禁止 **アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置に入れ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。**

駐車するとき

1. 車を完全に止めます。
2. セレクトレバーを P に入れます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
4. エンジンを止めます。

⚠警告

必ず守る **駐車するときは、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかける。パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーを P に入れただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。**

禁止 **エンジンをかけたまま駐車しない。万一セレクトレバーが P、N 以外に入っていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

⚠注意

必ず守る **セレクトレバーを P に入れるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーを P に入れると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。**

そのほかに気をつけること

⚠警告

坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進しない。
エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドライブセレクションについて

ドライブセレクションとは グレード/仕様別装備

ドライブセレクションとは、車両の走行モードを切り替えることができるシステムです。スポーツモードを選択すると、アクセルペダルを踏み込んだときの車両応答性が高められます。
より安全に高速道路に合流したり、追い越したりしたいときにご使用ください。

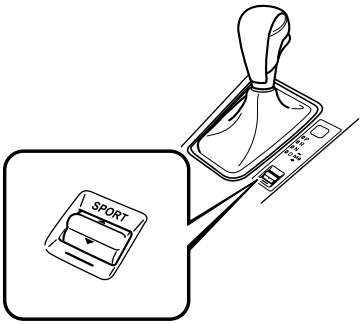
⚠注意

必ず守る **ぬれた路面や積雪路などすべりやすい路面を走行しているときは、スポーツモードの使用を避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。**

知識

- スポーツモードを選択すると、高いエンジン回転数での走行が多くなり、燃費が悪化することがあります。通常時はスポーツモードを解除して走行することをおすすめします。
- 次のようなときは、走行モードの切り替えはできません。
  - ABS/TCS/DSC が作動しているとき
  - **(クルーズコントロール装備車)**
    クルーズコントロールで定速走行をしているとき
  - **(マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 装備車)**
    マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) で定速走行しているとき
  - 急激なハンドル操作を行なっているとき

ドライブセレクションスイッチ



ドライブセレクションスイッチを**SPORT**側 (前方) に押すと、スポーツモードになります。
ドライブセレクションスイッチを――側 (手前) に引くと、スポーツモードが解除されます。

知識

- 次の操作をするとスポーツモードは解除されます。
  - 電源ポジションを OFF にしたとき。
  - **(クルーズコントロール装備車)**
    クルーズコントロールを設定したとき。
  - **(マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 装備車)**
    マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)を設定したとき。
- スポーツモードを選択したときの走行状態によっては、シフトダウンしたり、少し加速したりすることがあります。

セレクトモードインジケーター

SPORT

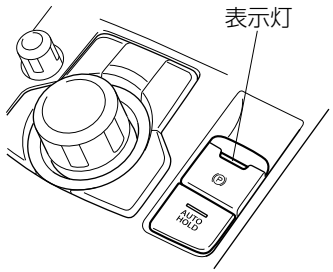
スポーツモードを選択しているときに、メーター内のセレクトモードインジケーターが点灯します。

知識

走行モードを切り替えることができないときは、セレクトモードインジケーターが点滅してお知らせします。

ブレーキの操作

電動パーキングブレーキ (EPB)



EPB とは、電気モーターでパーキングブレーキをかける装置です。
スイッチの表示灯は、パーキングブレーキをかけると点灯し、解除すると消灯します。
EPB スイッチ操作中は、スイッチの表示灯が点滅します。

⚠ 警告

パーキングブレーキをかけたまま走行しない

禁止

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱しブレーキシステムが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行するときはパーキングブレーキを解除し、メーター内の EPB 表示灯が消灯していることを確認してください。

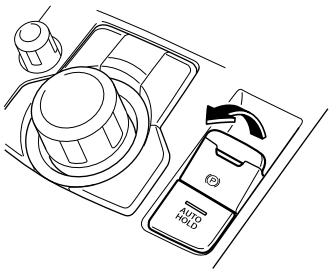
知識

- バッテリーがあがったときは、パーキングブレーキをかけたり、解除したりすることはできません。
→641 ページ「バッテリーあがりについて」
- パーキングブレーキをかけたり、解除したときに作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- EPB を長期間使用しない場合は、駐車中にシステムの自動点検を行います。作動音が聞こえますが、異常ではありません。
- パーキングブレーキをかけて電源ポジションを OFF にしたときは、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- パーキングブレーキをかけたり、解除したときに、ブレーキペダルが動くことがありますが、異常ではありません。
- 走行中に、EPB スイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキもどし忘れチャイムが鳴ります。スイッチから手を離すと、パーキングブレーキは解除され、チャイムが停止します。
- 電源ポジションが OFF または ACC のときにパーキングブレーキがかかっている場合は、メーター内の EPB 表示灯およびスイッチの表示灯が 15 秒間点灯することがあります。

知識

- 前輪を載せて車両を動かすタイプの自動洗車機を使用する場合は、車両を自動洗車機に入れる際に、パーキングブレーキを解除した状態で電源ポジションを OFF にする必要があります。

パーキングブレーキをかけるとき

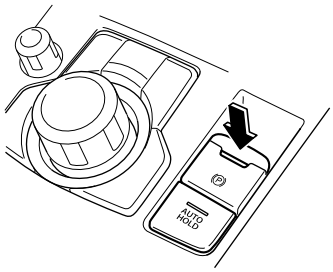


電源ポジションに関係なく、パーキングブレーキをかけることができます。
ブレーキペダルをしっかりと踏み込み、EPB スイッチを引き上げます。
パーキングブレーキがかかり、メーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が点灯します。
メーター (タイプ A)
→169 ページ「表示/表示灯」
メーター (タイプ B)
→188 ページ「表示/表示灯」

パーキングブレーキを解除するとき

電源ポジションが ON またはエンジン回転中に解除できます。パーキングブレーキを解除するとメーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が消灯します。

手動で解除するとき



ブレーキペダルをしっかりと踏み込み、EPB スイッチを押します。

ブレーキペダルを踏み込まずに EPB スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示させ、ブレーキペダルを踏み込むように運転者に知らせます。
→665 ページ「マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは」

自動で解除するとき

パーキングブレーキがかかっている状態で、次の条件をすべて満たしているときにアクセルペダルを踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。

- エンジン回転中のとき

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- **(マニュアル車)**
  - チェンジレバーがニュートラル位置以外のとき
  - 半クラッチ操作をしているとき
- **(オートマチック車)**
  - セレクトレバーが D、M、R の位置のとき

知識

エンジン回転中でパーキングブレーキがかかっているときは、アクセルペダルに足などがあたると、パーキングブレーキを自動解除してしまう場合があります。ただちに発進しない場合は、マニュアル車はチェンジレバーをニュートラル位置に、オートマチック車はセレクトレバーを P または N の位置にしてください。

オートホールド

停車中にブレーキペダルから足を放しても、ブレーキを自動的に制御して、車両の停車状態を保持する機能です。マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル以外の位置でクラッチペダルから足を放す、オートマチック車はアクセルペダルを踏み込むなどの発進操作を行うと、ブレーキが解除されます。信号待ちなどの停車時に運転者の負担を軽減します。

⚠警告

オートホールドを過信しない

必ず守る **オートホールドは、あくまでも停車時のブレーキ操作を補助する機能です。機能を過信してブレーキ操作を怠ると、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。道路状況や周囲の状況に応じて、適切にブレーキを操作してください。**

停車中、急な坂道ではブレーキペダルから足を放さない

必ず守る **オートホールド機能による停車保持ができない可能性があるため、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。**

凍結路、積雪路および未舗装路などのすべりやすい路面では、オートホールドの使用を控える

必ず守る **オートホールド機能による停車保持が作動していても、車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要に応じてアクセルやブレーキ、ハンドルを適切に操作してください。**

次のような場合は、ただちにブレーキペダルを踏み込む

必ず守る **オートホールド機能が強制解除されるため、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。**

- **マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキ保持システム異常 ブレーキを踏んでください」とメッセージが表示され、同時にブザーが鳴ったとき**

駐車するとき、および車両から離れるときは、パーキングブレーキをかける

必ず守る **意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。駐車するとき、および車両から離れるときは、セレクトレバーを P の位置 (オートマチック車) にして、パーキングブレーキをかけてください。**

⚠注意

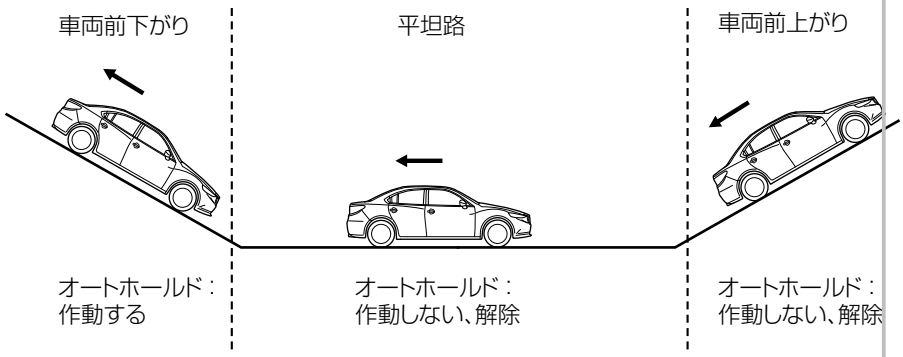
車両が発進する前にアクセル操作をやめた場合、停車状態を保持する力が弱まっている場合があります。ブレーキペダルをしっかり踏み込む、または発進するまでアクセルペダルを踏み込んでください。

必ず守る

知識

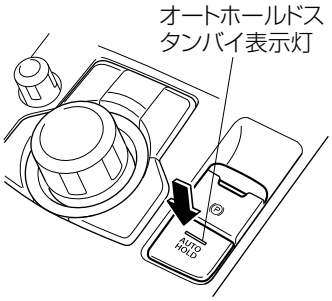
- 車両前上がりの状態、または平坦路でセレクトレバー/チェンジレバーを後退 (R) の位置にシフトチェンジすると、オートホールドが解除されます。必要に応じてブレーキを操作してください。
- オートホールド作動中に電源ポジションを OFF にすると、自動的にパーキングブレーキがかかり、駐車するときに必要な運転者の操作を補助します。

←：後退時 (セレクトレバー/チェンジレバーが後退 (R) の位置)



- 次のようなときは、オートホールドに不具合が発生しています。速やかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  - オートホールド作動中やオートホールドスイッチを操作したときに、約 5 秒間、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されてブザーが鳴る

オートホールドを ON にするとき



オートホールドスイッチを押して、オートホールドスタンバイ表示灯が点灯すると、オートホールドが ON になります。

知識

- 次のすべての条件を満たすと、オートホールドスイッチを押したときに、オートホールドスタンバイ表示灯が点灯して、オートホールドが ON になります。
  - 電源ポジションが ON のとき (エンジン回転中、または i-stop 中)
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - 運転席ドアが閉まっているとき
  - オートホールドが故障していないとき

オートホールドを作動させ、ブレーキを保持するには

1. ブレーキペダルを踏み、車両を停車させます。
2. メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯し、ブレーキが保持されます。

HOLD

3. ブレーキペダルから足を放すと、車両の停車状態が保持されます。

知識

- 次のすべての条件を満たすと、オートホールドが作動して、ブレーキが保持されます。
  - 電源ポジションが ON のとき (エンジン回転中、または i-stop 中)
  - 車両が停止しているとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯しているとき
  - アクセルペダルを踏んでいないとき
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - 運転席ドアが閉まっているとき
  - オートホールドが故障していないとき
  - パーキングブレーキが解除されている、または故障していないとき
  - **オートマチック車**
    セレクトレバーが後退 (R) 以外の位置、または後退 (R) の位置で車両が前下がりの状態のとき

オートホールドを解除させ、発進するには

- 次のいずれかの操作を行い、車両を発進させようとすると、ブレーキ保持が解除され、メーター内のオートホールド作動表示灯が消灯します。
  - **オートマチック車**
    - アクセルペダルを踏み込んだとき
    - 車両前上がりの状態、または平坦路で、セレクトレバーを後退 (R) の位置にシフトチェンジしたとき
  - **マニュアル車**
    - チェンジレバーをニュートラル以外の位置にして、クラッチペダルをもどし始めたとき

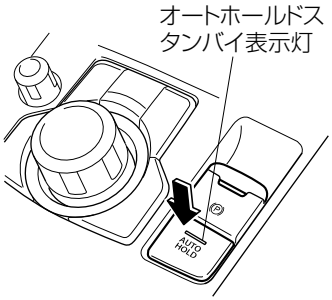
知識

- オートホールドが作動しているときに、電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを引き上げると、パーキングブレーキがかかり、オートホールドが解除されます。また、この状態からパーキングブレーキを解除すると、オートホールドが作動して、ブレーキが保持されます。
- 次のようなときは、パーキングブレーキが自動でかかり、オートホールドが解除されます。オートホールドが解除される前の状態にもどすと、オートホールドが復帰します。
  - 運転席シートベルトをはずしたとき
  - 運転席ドアを開けたとき

知識

- オートホールドが作動開始してから約 10 分以上経過すると、パーキングブレーキが自動でかかります。パーキングブレーキを解除すると、オートホールドが復帰するため、再度オートホールドでのブレーキ保持を開始します。
- **マニュアル車**
  発進したい方向が下り坂の場合、クラッチペダルを踏み込みチェンジレバーを発進したい下り坂方向のギヤの位置にして、アクセルペダルを踏み込むとオートホールドが解除されます。

オートホールドを OFF にするとき



ブレーキペダルを踏み込み、オートホールドスイッチを押します。オートホールドが OFF になり、オートホールドスタンバイ表示灯が消灯します。

知識

- 走行中などブレーキが保持されていないときは、オートホールドスイッチを押すだけでオートホールドを OFF することができます。
- オートホールドが作動しているとき (メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯中) に、ブレーキペダルを踏み込まずにオートホールドスイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキペダルを踏んでください」とメッセージを表示させ、ブレーキペダルを踏み込むように運転者に知らせます。
- オートホールドが作動しているとき (メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯中) に、次のような状況になると、パーキングブレーキが自動でかかり、オートホールドが OFF になります。電動パーキングブレーキ (EPB) の操作方法については、電動パーキングブレーキ (EPB) を参照してください。
  →220 ページ「電動パーキングブレーキ (EPB)」
  - 電源ポジションを OFF にしたとき
  - オートホールドが故障したとき

i-ACTIV AWD について グレード/仕様別装備

4WD は、積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂などすべりやすい路面ですぐれた走行性を発揮します。

走行するときは

オフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。
4WD 車であっても、アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行ない、常に安全運転を心がけてください。

ヘッドランプスイッチ

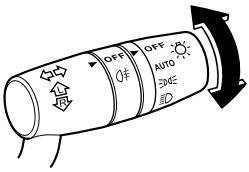
ヘッドランプの点灯/消灯

電源ポジションが ON のとき使用できます。車幅灯、尾灯、番号灯のみ電源ポジションが ON 以外でも使用できます。ランプスイッチをまわすと、各ランプが点灯/消灯します。

知識

- エンジンを停止しているときに、ランプを点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 対向車がまぶしくないヘッドランプを採用しています。そのため、海外のような一時的な右側通行で使用するときでも、ヘッドランプの光軸を調整する必要はありません。

スイッチの使いかた



スイッチ位置	電源ポジション	ランプ名称	
		ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯
OFF	ON、ACC、OFF	消灯	
AUTO	ON	自動で点灯/消灯	
	ACC、OFF	消灯	消灯*1/点灯*2
	ON、ACC、OFF	消灯	点灯
	ON	点灯	
	ACC、OFF	消灯	点灯*3

*1 電源ポジションが ON 以外のときに、スイッチ位置をAUTOにしても、ランプは点灯しません。

*2 ランプが点灯しているときに、電源ポジションを ON から ON 以外にしても、ランプは点灯し続けます。
運転席ドアを開く、または点灯状態が 30 秒経過すると消灯します。

*3 運転席ドアを開く、または点灯状態が 30 秒経過すると消灯します。

車幅灯表示灯

各ランプが点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

オートライト機能

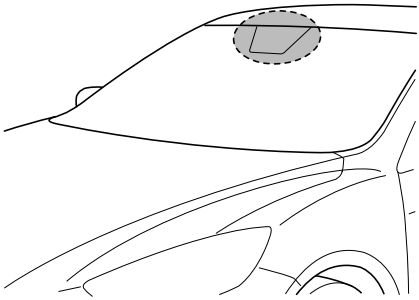
電源ポジションが ON のとき使用できます。
ランプスイッチを**AUTO**の位置にすると、周囲の明るさに応じてランプが自動で点灯/消灯します。

ランプ	周囲の明るさ		
	明るい	薄暗い	暗い
ヘッドランプ	消灯	消灯	点灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	点灯	点灯

⚠注意

禁止

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてライトセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。



知識

- 長いトンネルやトンネル内での渋滞、屋内駐車場など、周囲が暗い状態が数分間続くとライトセンサーが夜間と判断し、周囲が明るくなってもランプがすぐには消灯しない場合があります。
  この場合はランプスイッチを**OFF**の位置にすれば消灯します。
- 車幅灯やヘッドランプを点灯させるタイミングを変更することができます。
  →695 ページ「車両装備」

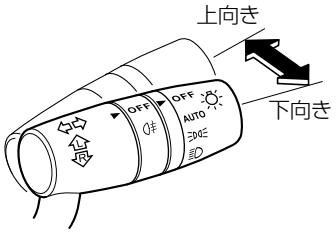
ランプ消し忘れ防止チャイム

ランプを点灯させたまま、電源ポジションを OFF にして、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りランプの消し忘れを知らせます。

知識

ランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更することができます。
→695 ページ「車両装備」

ヘッドランプの切り替え

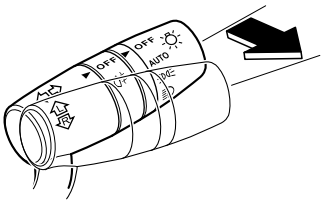


レバーを前後に操作すると、ヘッドランプの向きが切り替わります。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯しているときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

パッシング合図



電源ポジションが ON のとき使用できます。ランプスイッチの位置に関係なく、レバーを引いている間ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯します。

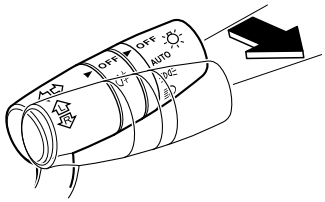
ヘッドランプ上向き表示灯

同時にメーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

カミング・ホーム・ライト

レバーを操作すると、ヘッドランプ (下向き) を点灯させるシステムです。

作動させるとき



電源ポジションが ACC または OFF のときに、レバーを引くとヘッドランプが下向き (ロービーム) で点灯します。ドアを閉めてから一定時間経過すると消灯します。

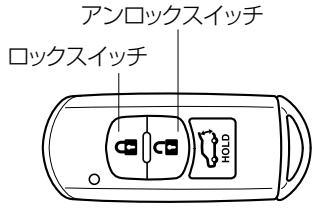
知識

- すべてのドアを閉めてからヘッドランプが消灯するまでの時間を変更することができます。
→695 ページ「車両装備」
- レバーを引いたあと、何も操作しない状態が 3 分間続いた場合、ヘッドランプは消灯します。
- ヘッドランプが点灯中に、もう一度レバーを引くとヘッドランプは消灯します。

リービング・ホーム・ライト

車両から離れているときにキーのアンロックスイッチを押すと、ランプを点灯させるシステムです。

作動させるとき



電源ポジションおよびランプスイッチが、次の状態のときにキーのアンロックスイッチを押し、車両がキーの信号を受信するとランプが点灯します。一定時間 (30 秒) 経過すると消灯します。

- 電源ポジション: OFF
- ランプスイッチ:≡D◯、≡◯、AUTO

リービング・ホーム・ライトを作動させると、次のランプが点灯します。
ヘッドランプの下向き (ロービーム)、車幅灯、尾灯、番号灯

知識

- リービング・ホーム・ライトの作動/非作動を変更することができます。
→695 ページ「車両装備」

知識

- キーのロックスイッチを押し、車両がキーの信号を受信すると消灯します。
- 電源ポジションを ON にすると消灯します。
- ランプスイッチを**OFF**にすると消灯します。

ヘッドランプレベリング

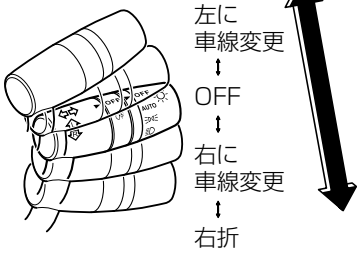
ヘッドランプを点灯したとき乗員や荷物の状況に応じてヘッドランプの照らす方向を上下方向へ自動で調節し、一定に保ちます。

方向指示器

方向指示器の操作

電源ポジションが ON のとき使用できます。

方向指示器



車線変更する場合
レバーを車線変更の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、手を離すと消灯します。
左折、または右折する場合
レバーを左折または右折の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、ハンドルをもどすと、自動でもとの位置にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

方向指示灯

知識

- 点滅が異常に速くなった場合は、電球切れが考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- 方向指示器のブザーの音量を変更することができます。
→695 ページ「車両装備」

スリーフラッシュターンシグナル

レバーを操作し、すぐに手を離すと方向指示灯が 3 回点滅します。

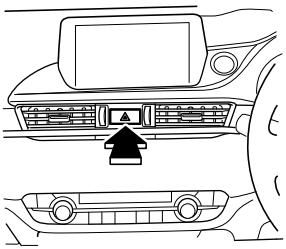
知識

スリーフラッシュターンシグナルの作動/非作動を変更することができます。
→695 ページ「車両装備」

非常点滅灯スイッチ

故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。

非常点滅灯スイッチ



スイッチを押すとすべての方向指示灯および、メーター内にある非常点滅表示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

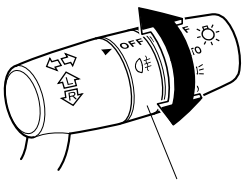
非常点滅表示灯

知識

- すべりやすい路面でブレーキを踏むと、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しすべての方向指示灯が点滅することがあります。
→247 ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは」
- エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 作動中はすべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意をうながします。
→247 ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは」

リアフォグランプスイッチ グレード/仕様別装備

霧などで視界が悪いときに使用します。



リアフォグランプスイッチ

OFF

次の条件のときリアフォグランプを使用できます。

- 電源ポジション: ON
- ヘッドランプ点灯時

リアフォグランプスイッチを⇕の位置にするとリアフォグランプが点灯します。リアフォグランプスイッチは自動で OFF の位置に戻ります。
リアフォグランプスイッチを⇕の位置にする、またはランプスイッチを OFF にすると消灯します。

リアフォグランプ表示灯

リアフォグランプが点灯しているときは、メーター内のリアフォグランプ表示灯が点灯します。

ワイパー/ウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON のとき作動します。

⚠警告

寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスをあたためてから行なう。ウォッシャー液がガラス面で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いたまま作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。

ガラスがかわいているままでワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたりワイパーゴムを損傷するおそれがあります。ガラスがかわいているときは、ウォッシャー液を噴射してください。

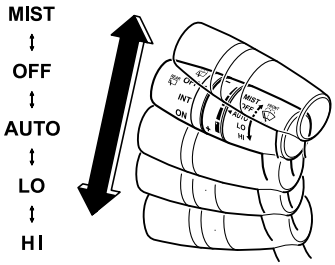
ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ないままで、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。

知識

- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、ノズルに異物がつまっていることがあります。マツダ販売店にご相談ください。
- 降雪時にワイパーを作動させていると、ガラスに雪が積もってワイパーが停止することがあります。積雪などでワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを**OFF**の位置にした後、積もった雪を取り除いてください。

フロントワイパー/ウォッシャー

ワイパーの操作



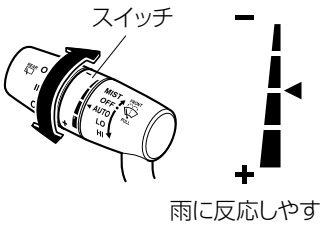
レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上に押し上げている間作動
OFF	停止
AUTO	オートワイパー機能/間欠作動*1
LO	低速作動
HI	高速作動

*1 オートワイパー機能は、設定変更で作動/非作動を変更することができます。オートワイパー機能を非作動にすると、間欠作動に固定されます。→695 ページ「車両装備」

オートワイパー機能

レバーを**AUTO**の位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、雨量に応じて、ワイパーが自動で作動します。

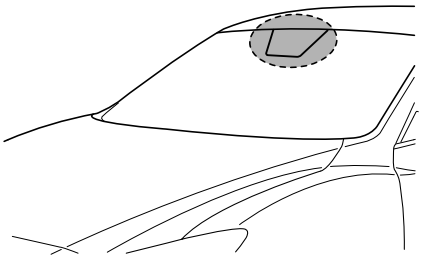
雨量	作動状態
少ない	間欠作動
普通	低速作動
多い	高速作動



スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。

⚠注意

禁止 **フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてレインセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の雨量を感知できなくなり、オートワイパー機能が正常に作動しないことがあります。**



禁止 **電源ポジションがONで、ワイパーレバーがAUTOの位置のとき、つぎのような場合はワイパーが自動で作動することがあります。手や指を挟まないよう注意してください。万一手や指を挟むと、けがやワイパーの故障につながるおそれがあります。**

- **フロントガラスのレインセンサー上部に触れたとき。**
- **フロントガラスのレインセンサー上部を布などで拭いたとき。**
- **フロントガラスに衝撃をあたえたとき。**
- **レインセンサーに車内から衝撃をあたえたとき。**

必ず守る **洗車やメンテナンスを行なうときは、ワイパーレバーをOFFの位置にしてください。**

知識

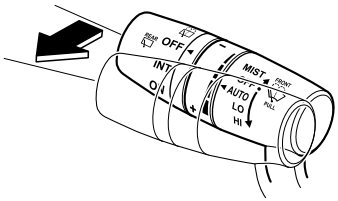
- レインセンサーの温度が-10℃以下、または 85℃以上のときはオートワイパーが作動しないことがあります。

スイッチの使いかた

知識

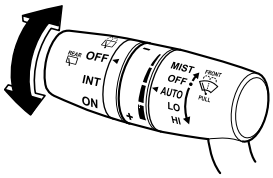
- フロントガラスに純正品以外の撥水コーティングを使用すると、レインセンサーが雨量を正確に検知できず、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。純正品以外の撥水コーティングは使用しないでください。
- フロントガラスのレインセンサー上部に泥や異物 (氷や塩水などを含むもの) が付着しているときや、フロントガラスが凍っているとき、ワイパーが自動で作動することがあります。ワイパーが数回作動してもセンサー上部の泥や異物、氷などを取り除けないときは、オートワイパーは作動を停止します。ワイパーレバーを**LO**または**HI**にしてワイパーを作動させるか、フロントガラスの泥や異物、氷などを取り除いてからオートワイパーを作動させてください。
- レインセンサーは光学センサーを使用しているため、強い光源、電磁波、赤外線などの影響により、ワイパーレバーが**AUTO**の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。雨天時以外はワイパーレバーを**OFF**の位置にして走行することをおすすめします。

ウォッシャーの操作



レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。

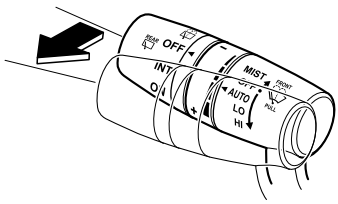
リアワイパー/ウォッシャー グレード/仕様別装備



スイッチ位置	作動状態
	リアウォッシャーおよびリアワイパー作動*1
OFF	停止
INT	間欠作動
ON	連続作動
	リアウォッシャーおよびリアワイパー作動

*1 ワイパーの作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、スイッチを**ON**の位置から上側にまわします。

ヘッドランプウォッシャースイッチ グレード/仕様別装備



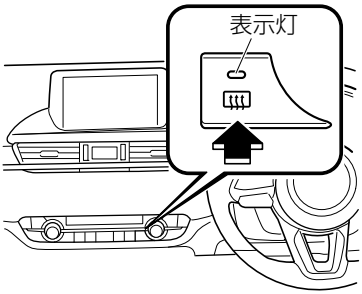
電源ポジションが ON でヘッドライトが点灯しているときに、レバーを手前に 2 回引くとヘッドランプウォッシャーが作動します。

知識

ヘッドランプ点灯後、初めてフロントウォッシャーを作動させると、ヘッドランプウォッシャーが自動で作動します。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーを熱線であたため、曇りを取ります。
電源ポジションが ON のとき使用できます。
スイッチを押すと約 15 分間作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。



⚠注意

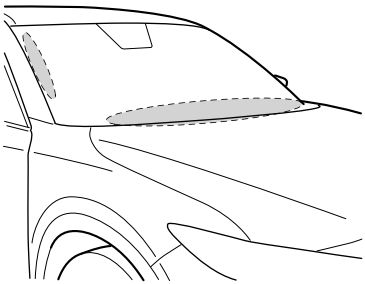
禁止 **リアウインドーの内側には熱線が取り付けてあります。清掃するときは熱線を傷つけないようにしてください。**
→608 ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

知識

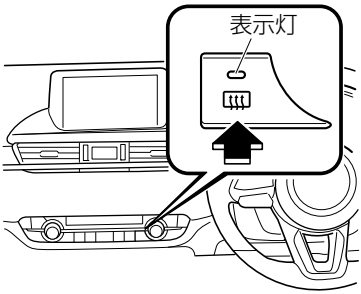
- エンジン回転中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- リアウインドーデフォッガー (曇り取り) の作動時間を変更することができます。→697 ページ「その他の装備・機能」

ウインドーワイパーデアイサー グレード/仕様別装備

次の位置の熱線をあたため、フロント窓ガラスにたまった雪を取り除きやすくします。

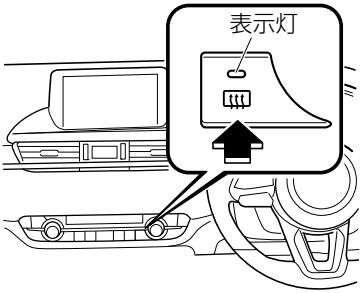


電源ポジションを ON にして、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押すとウインドーワイパーデアイサーが作動します。
→242 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」



ミラーの曇り取り

ドアミラーの曇りを取ることができます。
ミラーの曇り取りは、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) と連動して作動します。
電源ポジションを ON にして、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押すとミラーの曇り取りが作動します。
→242 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」



ホーン

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

ABS とは

ABS (アンチロックブレーキシステム) は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保する装置です。

⚠警告

必ず守る

ABS を過信せず安全運転に心がける。
ABS が作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。ABS が装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ジャリ道、新雪道を走行しているとき。**
- **タイヤチェーンを装着しているとき。**
- **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。**
- **凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。**

⚠注意

必ず守る

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しないことがあります。

ABS 装備車の取り扱い

急ブレーキを踏まなくてはいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけてください。万一の危険な状況では、次のようにしてください。

1. 危険を感じ急制動が必要なときは、ためらわずブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。
2. ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象です。
3. 障害物を回避するときは、ブレーキペダルを踏みながらハンドルを操作してください。

知識

- ABS は低速 (約 10 km/h 以下) では作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。
- エンジン始動時や発進直後に、モーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) について

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは

HLA とは､坂道発進を補助する機能です。坂道停車後の発進時､ブレーキペダルからアクセルペダルに踏みかえる際の車両の後退を防ぎます。
急な坂道でブレーキペダルを放したときに自動でブレーキ力を保持します。

- **(マニュアル車)**
  チェンジレバーが R 以外のときは上り坂で作動し､R の位置のときは下り坂で作動します。
- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーが前進の位置のときは上り坂で作動し､R の位置のときは下り坂で作動します。

⚠警告

禁止

HLA を過信しない。
HLA はあくまでも発進するときの補助機能です。システムが作動する時間は限られています (約 2 秒間) ので､アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると、車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあるため危険です。発進時は周囲の安全を確認してください。積載やけん引の状態によって､車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。

知識

- 緩勾配の坂道では HLA が作動しません。また､積載状態によって作動する勾配が若干変化します。
- パーキングブレーキがかかっているときや､車両が完全に停車していないときは HLA は作動しません。
- HLA 作動中にブレーキペダルが硬くなったりペダルが振動することがありますが､異常ではありません。
- TCS/DSC 作動表示灯が点灯しているときは､HLA が作動しないことがあります。
- DSC OFF スイッチを押して TCS/DSC を解除しても HLA は解除されません。
- **(オートマチック車)**
  アイドリングストップ中は HLA は作動しませんが､発進補助機能が作動して車両が動き出すことを防ぎます。

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は、急ブレーキをかけた時の車速が約 55 km/h 以上の時に、すべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意をうながすシステムです。

知識

- **点滅について**
  すべての方向指示灯が高速点滅中に停車した場合、すべての方向指示灯は通常の周期で点滅します。このときは、非常点滅灯スイッチを操作するとすべての方向指示灯が消灯します。
- **作動について**
  - ABS 作動時は、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しやすくなります。そのため、すべりやすい路面でブレーキを踏むと、すべての方向指示灯が点滅することがあります。
  - 非常点滅灯スイッチが操作されると、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は作動しません。

トラクションコントロールシステム (TCS) について

TCS とは

TCS (トラクションコントロールシステム) は、水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ、適切な駆動力と操縦性を確保する装置です。

⚠警告

必ず守る

TCS を過信せず安全運転に心がける。
TCS が作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- エンジン回転が高いときに TCS が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。
- TCS を解除するときは、DSC OFF スイッチを押して解除してください。
→250 ページ「DSC OFF スイッチ」

TCS/DSC 作動表示灯

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) について

DSC とは

DSC (ダイナミック･スタビリティ･コントロール) は、すべりやすい路面での走行時や、緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりをおさえるため、ABS や TCS などにより、ブレーキやエンジンの出力を自動的に制御して、車両の安定性を確保する装置です。
DSC は約 20 km/h 以上で作動可能な状態になります。
「ABS について」、「TCS について」もあわせてお読みください。
→245 ページ「ABS とは」
→248 ページ「TCS とは」

⚠警告

必ず守る

DSC を過信せず安全運転に心がける。
DSC が作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
特に TCS/DSC 作動表示灯が点滅しているときは、車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

⚠注意

必ず守る

DSC を正常に作動させるために次の点をお守りください。

- **前後輪とも必ず指定されたサイズで、メーカー、銘柄、パターン (溝の模様) が同一のタイヤを装着してください。**
- **摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。**
- **指定以外のサイズや、異なる種類、摩耗差の著しいタイヤを使用しないでください。**

知識

- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは、DSC が正常に作動しないことがあります。
- 電源ポジションを ON にした後、インストルメントパネルの奥からカチッと音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) について

TCS/DSC 作動表示灯

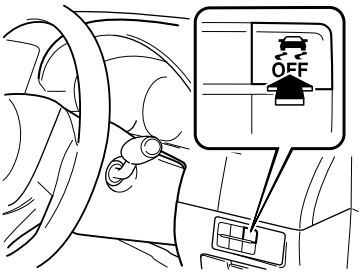
点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

DSC OFF スイッチ



スイッチを押すと TCS/DSC が停止され、メーター内の DSC OFF 表示灯が点灯します。
もう一度押すと TCS/DSC が作動可能な状態になり、DSC OFF 表示灯が消灯します。

知識

- ぬかるみや新雪などからの脱出時に TCS が作動し、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出困難なときに TCS/DSC を停止します。
- TCS/DSC を停止した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると TCS/DSC は作動可能な状態にもどります。
- TCS/DSC を停止したときは、TCS/DSC が装備されていない車と同じ走行性能になります。
- DSC OFF スイッチを 10 秒以上押し続けると、その後 DSC OFF スイッチを押しても TCS/DSC を停止することができなくなります。
  その場合、一度電源ポジションを OFF にして、再度電源ポジションを ON にすると、通常の DSC OFF スイッチの操作が可能になります。
- TCS/DSC を停止した状態でアドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) が作動すると、TCS/DSC は自動的に作動可能な状態に復帰します。

DSC OFF 表示灯

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- DSC OFF スイッチを押して、TCS/DSC を停止すると点灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - TCS/DSC を停止していないのに点灯したとき。

i-ACTIVSENSE とは

i-ACTIVSENSE (アイ･アクティブセンス) とは、フォワードセンシングカメラ (FSC) やレーダーセンサーなどの検知システムを利用したマツダの先進安全･運転支援システムの総称です。これらのシステムは、アクティブセーフティ技術とプリクラッシュセーフティ技術で構成されています。
これらのシステムはあくまで、ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、運転負荷や事故被害の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。

アクティブセーフティ技術とは

アクティブセーフティ技術とは、安全･安心な運転を支援し、事故を未然に防止する技術です。

認知支援システム

夜間視界

アダプティブフロントライティングシステム (AFS)..... 255 ページ
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)..... 255 ページ
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)..... 258 ページ

左右側面･後側方認知

車線逸脱警報システム.....260,317 ページ
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)..... 267 ページ

標識認知

交通標識認識システム (TSR)..... 273 ページ

車間認知

車間認知支援システム..... 280 ページ

運転者疲労検知

ドライバー･アテンション･アラート (DAA)..... 284 ページ

駐車場発進時後方認知

リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA)..... 286 ページ

全周囲認知

360° ビュー･モニター..... 347 ページ

運転支援システム

車間距離

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)..... 290 ページ
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))..... 302 ページ

車線逸脱

レーンキープ･アシスト･システム (LAS)..... 317 ページ

プリクラッシュセーフティ技術とは

プリクラッシュセーフティ技術とは、事故が避けづらい状況での衝突回避、避けられず衝突した際の被害低減を図る技術です。

衝突回避支援・被害軽減

前進時

アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)... 329 ページ
AT 誤発進抑制制御 [前進時]..... 333 ページ
スマート･ブレーキ･サポート (SBS)..... 345 ページ

後退時

スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R)..... 337 ページ
AT 誤発進抑制制御 [後退時]..... 342 ページ

カメラ、センサーについて

フォワードセンシングカメラ (FSC)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、車線表示を検知したり、夜間走行時にはヘッドランプ、テールランプ、街灯を認識したりしています。また、前方の車両や歩行者、障害物も認識します。フォワードセンシングカメラ (FSC) は、次のシステムが共用しています。

- ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)
- アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)
- 車線逸脱警報システム
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム
- 交通標識認識システム (TSR)
- ドライバー･アテンション･アラート (DAA)
- アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)
- AT 誤発進抑制制御 [前進時]
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)

- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))

フォワードセンシングカメラ (FSC) は､フロントガラスの上のルームミラー付近に設置されています。
→374 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」

レーダーセンサー (フロント)

レーダーセンサー (フロント) は､レーダーセンサーから送信される電波が前方車や障害物に反射し､もどってきた電波により対象物を検知します。レーダーセンサー (フロント) は次のシステムが共用しています。

- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
- 車間認知支援システム
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)

レーダーセンサー (フロント) は､ラジエーターグリルの裏側に設置されています。
→379 ページ「レーダーセンサー (フロント) について」 グレード/仕様別装備

レーダーセンサー (リア)

レーダーセンサー (リア) は､レーダーセンサーから送信される電波が後方からの接近車両や障害物に反射し､もどってきた電波を検知することで制御しています。レーダーセンサー (リア) は次のシステムが共用しています。

- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
- リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA)

レーダーセンサー (リア) はリアバンパーの内側に左右 1 つずつ設置されています。
→382 ページ「レーダーセンサー (リア) について」

超音波センサー (フロント)

超音波センサー (フロント) は､超音波センサーから送信される超音波が前方の障害物に反射し､もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。超音波センサー (フロント) は AT 誤発進抑制制御 [前進時] で使用しています。
超音波センサー (フロント) はフロントバンパーに設置されています。
→383 ページ「超音波センサー (フロント) について」 グレード/仕様別装備

超音波センサー (リア)

超音波センサー (リア) は､超音波センサーから送信される超音波が後方の障害物に反射し､もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。超音波センサー (リア) は次のシステムが共用しています。

- スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R)
- AT 誤発進抑制制御 [後退時]

超音波センサー (リア) はリアバンパーに設置されています。
→384 ページ「超音波センサー (リア) について」

フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ

フロントカメラ、サイドカメラ、およびリアカメラは、車両周辺の映像を撮影します。各カメラは 360° ビュー・モニターで使用しています。
各カメラはフロントバンパー、ドアミラー、およびトランク/リアゲートに設置されています。
→385 ページ「フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ」 グレード/仕様別装備

AFS (アダプティブフロントライティングシステム) について グレード/仕様別装備

AFS (アダプティブフロントライティングシステム) は、エンジン回転中、ヘッドランプが点灯しているとき、ハンドルの操作にあわせてヘッドランプの照らす方向を左右に自動で調節するシステムです。

知識

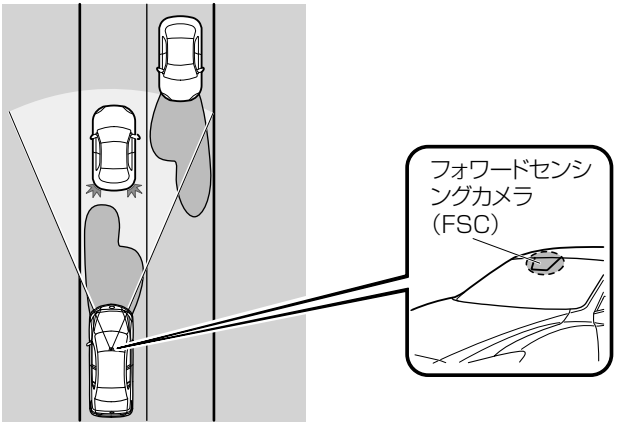
- 対向車がまぶしくないヘッドランプを採用しています。そのため、海外のような一時的に右側通行で使用するときでも、ヘッドランプの光軸を調整する必要はありません。
- AFS (アダプティブフロントライティングシステム) を作動しないようにできます。
  →695 ページ「車両装備」

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) とは グレード/仕様別装備

HBC は、フォワードセンシングカメラ (FSC) を使用することにより夜間走行時に前方の状況を判断し、ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を自動的に切り替えるシステムです。
→374 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
車速約 30 km/h 以上で走行中に、前方に前方車や対向車がいないときは、ヘッドランプは上向き (ハイビーム) に切り替わります。
次のときは、ヘッドランプは下向き (ロービーム) に切り替わります。

- 前方に前方車や対向車のランプ類を検知したとき
- 街灯が並んでいるエリアや、路面の明るい街中を走行しているとき
- 車速が約 20 km/h 未満のとき

HBC が対象物を認識できる距離は、周囲の状況により異なります。



⚠注意

禁止 **サスペンションの改造、ヘッドランプユニットの改造、カメラの取りはずしを行わないでください。HBC が正常に作動しなくなるおそれがあります。**

必ず守る **システムを過信せず、常に周囲の状況に注意を払い、必要に応じて上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を手動で切り替えるなど、安全運転に心がけてください。**

知識

次のような状況では、ヘッドランプの切り替わるタイミングが変化することがあります。適切に切り替わらない場合は、視界や道路状況、交通状況に応じて、上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を手動で切り替えてください。

- 周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき
- 周囲に反射板や標識などの反射物があるとき
- 雨、雪、霧などで視界が悪いとき
- カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき
- 前方車や対向車のランプが暗いときや電球切れしているとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- 荷室やリアシートに重い荷物をのせたとき
- 前方車が水をまき上げて走行するなど前方の視界状況が悪いとき

作動させるとき

電源ポジションが ON の状態でランプスイッチが**AUTO**の位置のときにヘッドランプを上向き (ハイビーム) にします。

周囲の明るさから HBC が夜と判断すると作動します。同時にメーター内の HBC 表示灯 (緑) が点灯します。

ランプスイッチを**AUTO**の位置以外にするか、下向き (ロービーム) またはパッシングにすると解除します。

知識

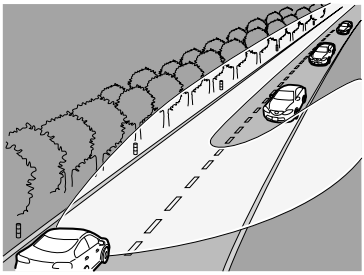
- 車速約 30 km/h 以上で走行中に、前方に前方車や対向車がいないときは、ヘッドランプは上向き (ハイビーム) に切り替わります。車速が 20 km/h 未満のときは、ヘッドランプは下向き (ロービーム) に切り替わります。
- カーブを走行しているときは、下向き (ロービーム) から上向き (ハイビーム) に切り替わらないことがあります。
- HBC を作動しないように変更できます。
→695 ページ「車両装備」

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) とは

グレード/仕様別装備

ALH は、フォワードセンシングカメラ (FSC) を使用することにより夜間走行時に前方車や対向車の状況を判断し、ヘッドランプの照射範囲、照射部分や明るさを自動的に変化させるシステムです。
→374 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
ALH は、ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を次のように制御し、前方車や対向車を眩惑することなく運転者の視界確保を支援します。

グレアフリー (防眩) ハイビーム

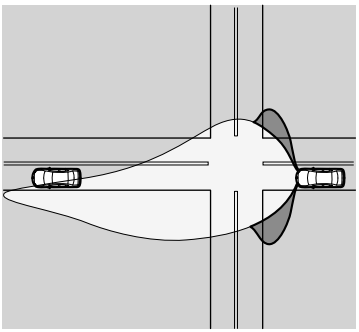


ヘッドランプ上向き (ハイビーム) の配光を前方車の部分だけ減光して照射します。
車速約 30 km/h 以上で走行中に、ヘッドランプ上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を切り替えます。また、車速が約 20 km/h 未満になると、ヘッドランプは下向き (ロービーム) に切り替わります。

知識

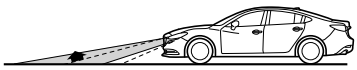
ヘッドランプが上向き (ハイビーム) のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

ワイド配光ロービーム



車速約 40 km/h 未満で走行中に、ヘッドランプ下向き (ロービーム) の照射範囲を拡大して照射します。

ハイウェイモード



高速走行時にヘッドランプの照射角度を上方向へ移動して照射します。

ALH が対象物を認識できる距離は、周囲の状況により異なります。

⚠注意

禁止 **サスペンションの改造、ヘッドランプユニットの改造、カメラの取り外しを行わないでください。ALH が正常に作動しなくなるおそれがあります。**

必ず守る **システムを過信せず、常に周囲の状況に注意を払い、必要に応じて、上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を手動で切り替えるなど、安全運転に心がけてください。**

知識

次のような状況では、ALH が正常に作動しない場合があります。視界や道路状況、交通状況に応じて、上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を手動で切り替えてください。

- 周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき
- 周囲に反射板や標識などの反射物があるとき
- 雨、雪、霧などで視界が悪いとき
- カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき
- 前方車や対向車のランプが暗いときや電球切れしているとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- ラゲッジルームや後席へ重い荷物をのせたとき
- 前方車が水をまき上げて走行するなど前方の視界状況が悪いとき

作動させるとき

電源ポジションが ON の状態でランプスイッチが AUTOの位置のときにヘッドランプを上向き (ハイビーム) にすると作動します。同時にメーター内の ALH 表示灯 (緑) が点灯します。

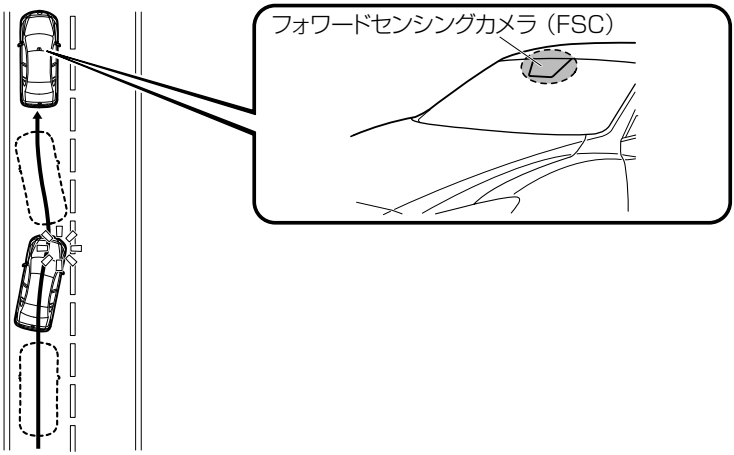
周囲の明るさから ALH が夜と判断すると作動します。
ランプスイッチをAUTOの位置以外にするか、下向き (ロービーム) またはパッシングにすると解除します。

知識

ALH を作動しないように変更できます。
→695 ページ「車両装備」

車線逸脱警報システムとは グレード/仕様別装備

車線逸脱警報システムは自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせる装置です。走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) で車線の白線 (黄線) を検知して、自車が車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、車線逸脱警報により運転者に知らせます。白線 (黄線) の整備された道路でご使用ください。
→374 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」



⚠警告

禁止 **次のような状況のときは、車線逸脱警報システムを使わない。**
実際の走行状況にあわせた適切な作動ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **急カーブのある道**
- **悪天候のとき (雨、霧、雪のときなど)**

禁止 **車線逸脱警報システムを過信しない。**
車線逸脱警報システムの機能には限界があります。常にハンドルの操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。車線逸脱警報システムは、前方不注意を補助するものではないため、車線逸脱警報システムを過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **サスペンションの改造を行わないでください。車線逸脱警報システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。**

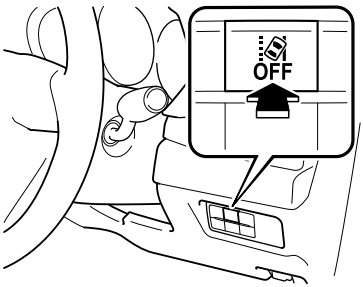
知識

- 自車が車線を逸脱したときは、車線逸脱警報 (警報音と警告表示) が作動します。適切にハンドルを操作し、車線に沿って車線の中央を走行するようにしてください。
- 車線変更などで方向指示器を操作すると、車線逸脱警報システムの警報を自動解除します。方向指示器をもどし、車線の中央付近を走行して、システムが白線 (黄線) を検知すると、車線逸脱警報システムが復帰します。
- 急なハンドル操作、アクセル操作、ブレーキ操作をしながら車線の白線 (黄線) へ接近したときは、運転者が車線を変更すると判断し、車線逸脱警報システムの警報を自動解除します。
- 短時間のうちに連続して車線をはみ出したときは、車線逸脱警報システムが作動しない場合があります。
- 車線の白線 (黄線) を検知していないときは、車線逸脱警報システムは作動しません。

知識

- 次のようなときは、車線の白線 (黄線) を正しく検知することができず、車線逸脱警報システムが正常に作動しない場合があります。
  - インストルメントパネルの上に置いた物が、フロントガラスに反射してカメラに写ったとき
  - 荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
  - タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき
  - 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどの分岐路を走行するとき
  - 白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
  - 前方車が白線 (黄線) の近くを走行して、白線 (黄線) が見えにくいとき
  - 天候 (雨、霧、雪のときなど) により、白線 (黄線) が見えにくいとき
  - 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき
  - 道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまった轍など、白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき
  - トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
  - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
  - フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
  - 逆光を浴びて路面が光っているとき
  - 雨あがりなどで、路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
  - ガードレールなどの影が、道路上に白線 (黄線) と平行して写っているとき
  - 車線の幅が狭いときや広いとき
  - 道路がうねっているとき
  - 段差などにより車が大きく揺れたとき
  - 2 本以上の白線 (黄線) が隣接して描かれているとき
  - 交差点付近に様々な路面表示や様々な形状のレーンマーカーがあるとき

作動させるとき



車線逸脱警報システム OFF スイッチを押します。
メーター内の車線逸脱警報システム OFF 表示灯が消灯していることを確認します。
車線逸脱警報システム OFF 表示灯が消灯するとシステムが待機状態になります。

車線逸脱警報システム OFF 表示灯が消灯した状態で車線の中央を走行します。
次の条件をすべて満たすと、システム作動状態になります。

- 左右もしくは一方に白線 (黄線) が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 車速約 45 km/h 以上で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき

次のとき、車線逸脱警報システムは待機状態になります。

- 白線 (黄線) を検知できないとき
- 車速が 40 km/h 未満になったとき
- 急なカーブを走行したとき
- 不適切な速度でカーブを走行したとき

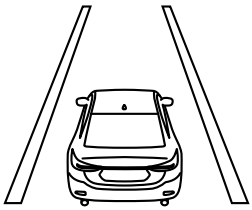
知識

- 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知するまでは、車線逸脱警報システムは待機状態のままになります。
- 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知した場合、検知できていない方向への逸脱は警報できません。
- 車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断する距離、警報感度 (警報しやすさ) を変更できます。
→692 ページ「設定変更 (カスタマイズ機能) 」

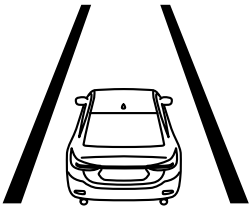
車線表示

車線逸脱警報システム が待機状態になると、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が表示されます。
左右両方の車線の白線 (黄線) を検知し、作動状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車線表示が白色に変わり、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに車線表示が表示されます。

待機状態



作動状態



自動解除

次のようなときは、車線逸脱警報システムが自動で解除され、ディスプレイに車線表示 (待機状態) が表示されます。なお、車線逸脱警報システムが作動可能な状態になると自動で復帰し、ディスプレイに車線表示 (作動状態) が表示されます。

- カメラ内部の温度が高温または低温になったとき
- カメラ付近のフロントガラスが曇ったとき
- カメラ付近のフロントガラスに遮蔽物があり前が見えないとき

警報の自動中止

次のような操作を行なうと、運転者の意思で車線変更しているとシステムが判断し、車線逸脱警報システムの警報が自動で中止されます。なお、操作後は、車線逸脱警報システムが自動で復帰します。

- 急なハンドル操作をしたとき
- 急なブレーキ操作をしたとき
- 急なアクセル操作をしたとき
- 方向指示器を操作したとき (方向指示器がもどった後、進路を修正するための約 3 秒程度は、車線逸脱警報システムが作動しない場合があります)

知識

方向指示器を出したまま約 30 秒経過した後、車線の白線 (黄線) に近づくと、車線逸脱警報システムが警報を行なう場合があります。

解除するとき

車線逸脱警報システムを解除するときは、車線逸脱警報システム OFF スイッチを押します。
車線逸脱警報システム OFF 表示灯が点灯します。

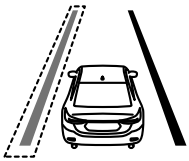
知識

- 電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、車線逸脱警報システムが作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときは車線逸脱警報システムは作動可能な状態のままです。

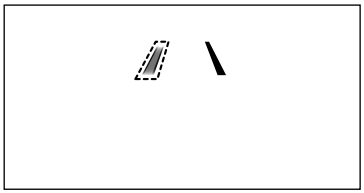
車線逸脱警報

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、警報 (ビープ音が鳴る、ランブル音[*1] が鳴る) とともに、逸脱する可能性があるとシステムが判断した方向をマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。

マルチインフォメーション
ディスプレイ (タイプA)



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



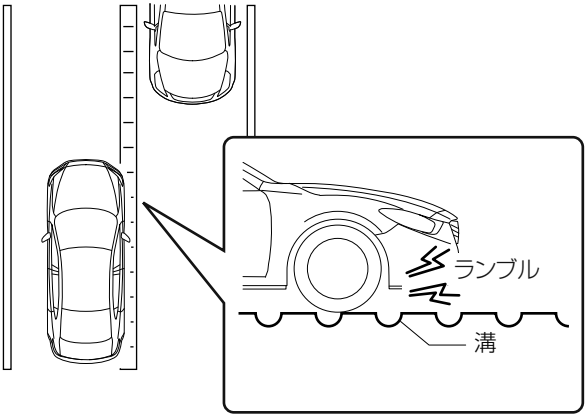
知識

- 外部の騒音など状況によっては、車線逸脱警報システム警報チャイムが聞こえない場合があります。
- 車線逸脱警報システム警報チャイムの音量を変更できます。
→693 ページ「安全装備」

知識

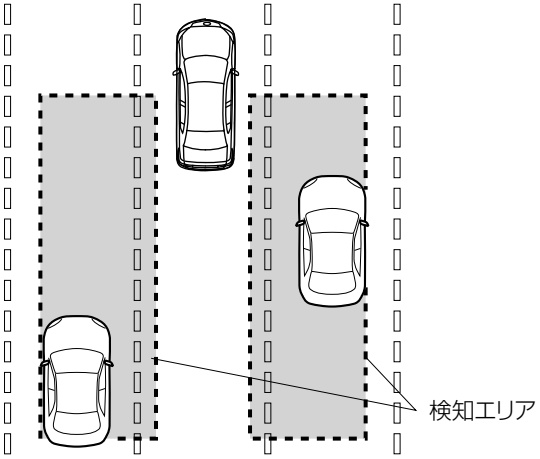
- 車線逸脱警報システム警報チャイムの種類 (ランブル*1/ビープ) を変更できます。→693 ページ「安全装備」

  *1 道路舗装表面の一部に一定間隔で溝を配置し、車がその上を通過するときにゴトゴトという振動と音を発生させることで、車線の逸脱を運転者に知らせる注意喚起舗装路をランブルストリップスといいます。
  ランブルとは、ランブルストリップスを通過するときに発生する音を疑似的に作り出した音です。



ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは

BSM は、自車の後方から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時の後方確認を支援するシステムです。
BSM は、車速が約 15 km/h 以上で前進しているときに後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置した BSM 接近表示灯を点灯させます。BSM 接近表示灯が点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、BSM 接近表示灯が点滅、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイの警告表示、および警報チャイムにより運転者に危険を知らせます。
当システムの検知エリアは、自車の左右に隣接する車線で、自車のフロントドア後端付近から自車の後方約 50 m までです。



⚠警告

実際の車線変更時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。

必ず守る **本システムは車線変更時の後方確認を支援するシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため、隣接車線に車両が存在する場合でも BSM 接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。**

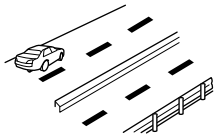
知識

- BSM は次の条件をすべて満たしているときに作動します。
  - 電源ポジションが ON のとき
  - メーター内の BSM OFF 表示灯が消灯しているとき
  - 車速が約 15 km/h 以上のとき
- BSM は次のときには作動しません。
  - BSM OFF 表示灯が消灯している場合でも、車速が約 10 km/h を下回ったとき
  - チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R に入れて後退中のとき
  - 回転半径が小さいとき (急カーブや交差点を曲がるときなど)
- 次の場合、システムは BSM OFF 表示灯を点灯させ、システムの作動を停止します。BSM OFF 表示灯 が点灯し続ける場合は速やかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  - BSM 接近表示灯を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  - レーダーセンサー (リア) の車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき
  - レーダーセンサー (リア) 付近のリアバンパー上に雪や氷などが多量についたとき (氷、雪や泥が付着しているときは、これらを取り除いてください。)
  - 雪道を長時間走行したとき
  - 夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダーセンサー (リア) 付近の温度が非常に高くなったとき
  - バッテリーの電圧が下がっているとき
- 次のような対象物は、レーダーセンサー (リア) が検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 隣車線後方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両 (接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています。)
  - 自車とほとんど速度差なく長い時間並走している車両
  - 対向車
  - 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両
  - 道路幅が極端に広い場合の隣接車線の車両 (レーダーセンサー (リア) の検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)
- 次のような場合は、BSM 接近表示灯の点滅、警告表示、および警報チャイムの警告が遅れるか、点滅/警告ができないことがあります。
  - 車両が 2 つ離れた車線から隣接車線に車線変更してきたとき
  - 急勾配を走行しているとき
  - 峠を越えるとき
  - 自車線と隣接車線の高さに差があるとき
  - BSM を作動可能な状態にした直後

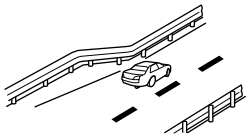
知識

- 道路幅が極端に狭い場合は、2 車線横の車両を検知する場合があります。 (レーダーセンサー (リア) の検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)
- 道路上および道路端の停止物 (ガードレール、トンネル、側壁、駐車車両など) に対して BSM 接近表示灯が点灯し、警告表示を表示する場合があります。

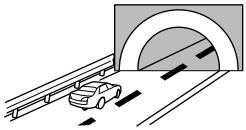
ガードレール、コンクリート壁等が並行している場合

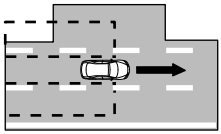


ガードレールや側壁の幅が狭くなっているところ



トンネルの出入口やトンネル内の側壁、待避所





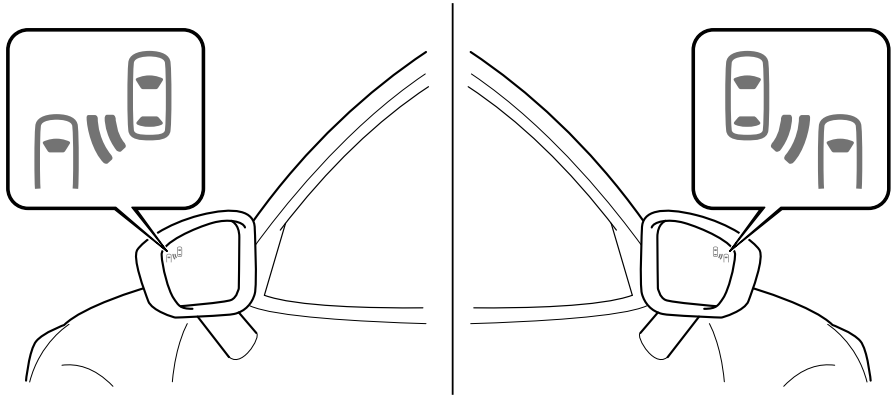
- 市街地の交差点を曲がるときなどに、BSM 接近表示灯が点滅、警告表示、または警報チャイムが複数回鳴る場合があります。
- トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合は、BSM を解除してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。
- 次のような場合は、ドアミラーに取り付けられている BSM 接近表示灯の点灯/点滅が見えにくいことがあります。
  - ドアミラーに氷や雪が付着しているとき
  - フロント窓ガラスに曇、雪、汚れ、霜が付着しているとき
- チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にすると、リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) に切り替わります。
  →286 ページ「リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは」

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯/ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示/ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警報チャイム

BSM またはリア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) 作動中は､BSM 接近表示灯や警報チャイムで､隣接車線や自車後方に車両が存在することを知らせます。

BSM 接近表示灯

ドアミラーに取り付けられています。後方からの接近車両を検知すると点灯します。
電源ポジションを ON にすると点灯し､しばらくすると消灯します。



前進時 (BSM 作動)

後方からの接近車両を検知して､その接近状態に応じてドアミラーに設置した BSM 接近表示灯が点灯します。また､BSM 接近表示灯が点灯した状態で､その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると､BSM 接近表示灯 が点滅します。

後退時 (リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) 作動)

自車後方の左右に接近する車両を検知して､BSM 接近表示灯が点滅します。

減光解除機能

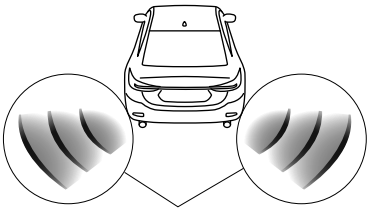
車幅灯が点灯しているとき､BSM 接近表示灯が点灯すると、点灯したときの明るさが減光されます。
雪道や霧での走行時など､周囲が明るく減光状態では BSM 接近表示灯が見えにくい場合には､減光解除ボタンを押すと減光が解除され BSM 接近表示灯が点灯したときの明るさが明るくなります。
メーター (タイプ A)
→161 ページ「パネルライトコントロール」
メーター (タイプ B)
→180 ページ「パネルライトコントロール」

ディスプレイ表示

前進時、後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてマルチインフォメーションディスプレイに警告表示を表示します。

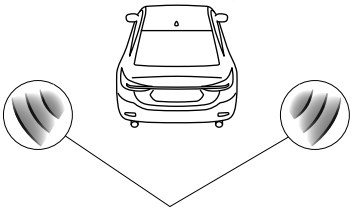
マルチインフォメーションディスプレイ

メーター (タイプA)



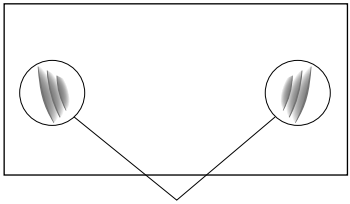
検知および警告表示

メーター (タイプB)



検知および警告表示

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



検知および警告表示

BSM 警報チャイム

BSM 接近表示灯の点滅と同時に鳴ります。

知識

BSM 警報チャイムの音量を変更できます。
→693 ページ「安全装備」

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) を停止させるには

BSM を作動しないようにできます。
→693 ページ「安全装備」
BSM を作動しないようにすると、BSM OFF 表示灯が点灯します。

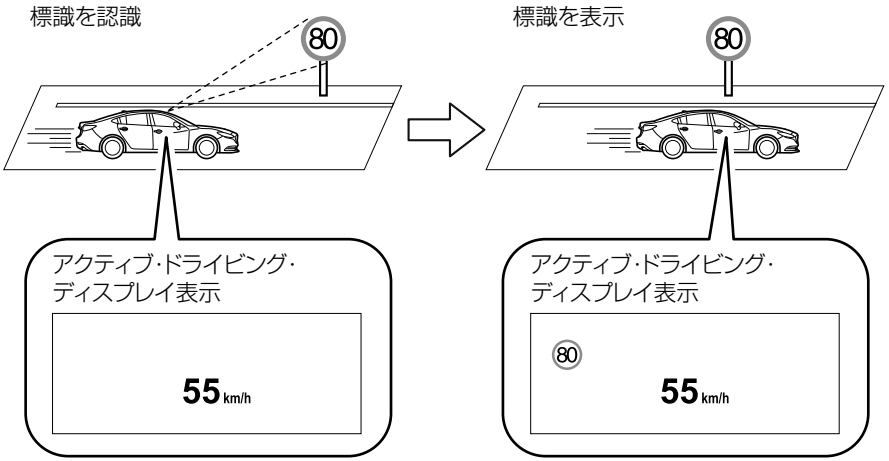
知識

電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、BSM およびリア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) が作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときは BSM およびリア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) は作動可能な状態のままです。

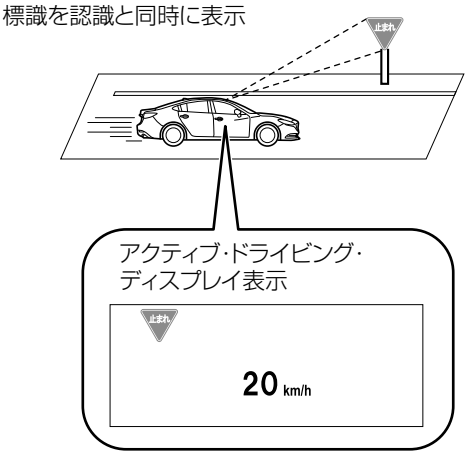
交通標識認識システム (TSR) とは

※TSR: Traffic Sign Recognition
TSR は、走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) が認識した交通標識を、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示することで、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。
TSR は、最高速度標識 (補助標識も含む)、車両進入禁止標識、一時停止標識、および追越しのための右側部分はみ出し禁止標識の交通標識を表示します。
走行中、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示した最高速度標識の速度を、自車の速度が超えているときは、アクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示および警報音で運転者にお知らせします。

最高速度標識、車両進入禁止標識、追越しのための右側部分はみ出し禁止標識



一時停止標識



⚠ 警告

走行中は必ず目視にて交通標識を確認する。

必ず守る **TSR は、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。天候状況や交通標識に問題がある場合など、交通標識を認識できないまたは実際の状況とは異なる交通標識を表示することがあります。交通標識の確認を怠ると思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず運転者の責任において、実際の交通標識を確認してください。**

知識

- フォワードセンシングカメラ (FSC) に異常がある場合、TSR は作動しません。

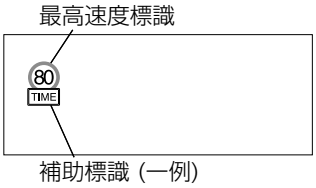
知識

- 次のようなときは、TSR が正常に作動しない場合があります。
  - インストルメントパネルの上に置いた物が、フロントガラスに反射してカメラに写っているとき
  - 荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
  - タイヤの空気圧が適正空気圧に調整されていないとき
  - 標準タイヤ以外のタイヤを装着しているとき
  - 高速道路などの、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどの分岐路やその周辺を走行しているとき
  - トンネルの出入り口などの、周辺の明るさが急に変わるとき
  - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
  - フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
  - フロントガラス、カメラに露 (水滴) が生じているとき
  - 前方に強い光を受けているとき (逆光やヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
  - 急カーブを走行しているとき
  - 強い光が道路に反射しているとき
  - 夜間やトンネル内などを走行中、交通標識が自車のヘッドランプの光を受けにくい位置にあるとき
  - 雨、霧、雪などの天候時に走行しているとき
  - 交通標識が泥、雪などで汚れているとき
  - 交通標識が木の茂み、車などで隠れているとき
  - 影などで交通標識の明るさが一部異なるとき
  - 交通標識が曲がっていたり、歪んでいるとき
  - 交通標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
  - 交通標識が明るすぎたり、暗すぎたりするとき (電光標識含む)
  - 交通標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
  - 読み取る交通標識の色、形などに似たものがあるとき (類似の交通標識、看板など)
- アクティブ・ドライビング・ディスプレイの設定を非表示にした場合は、TSR は作動しません。
- TSR を作動しないように変更できます。
  →693 ページ「安全装備」

交通標識ディスプレイ表示

次の交通標識をアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示します。

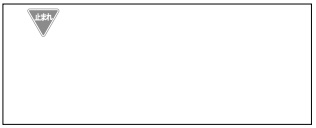
最高速度標識 (補助標識も含む)



補助標識の条件 (時間帯、右左折時、区間の終わりなど) をフォワードセンシングカメラ (FSC) が正しく分類できなかった場合、次の画面を表示します。

車両進入禁止標識

一時停止標識



追越しのための右側部分はみ出し禁止標識

追越しのための右側部分はみ出し禁止標識は、最高速度標識と同時に表示することができます。

知識

最高速度標識（補助標識も含む）

- 次の条件をすべて満たしているとき、最高速度標識を表示します。
  - 約 1 km/h 以上で走行しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) が最高速度標識を自車対象標識として認識し、最高速度標識を通過したとき
- 次のときは、最高速度標識表示を終了します。
  - 最高速度標識を認識し、車両が最高速度標識を通過してから、一定の距離を走行したとき
  - 自車が路線を変えたと判断したとき
  - 新たに、フォワードセンシングカメラ (FSC) が異なる最高速度標識を認識したとき (新しい最高速度標識を表示する)
  - 最高速度標識を表示してから一定の時間経過後、表示中の最高速度標識より約 30 km/h 以上速度超過しているとき

車両進入禁止標識

- 次の条件をすべて満たしているとき、車両進入禁止標識を表示します。
  - 約 60 km/h 以下で走行しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) が車両進入禁止標識を自車対象標識として認識し、車両進入禁止標識を通過したとき
- 車両進入禁止標識を認識し、車両が車両進入禁止標識を通過してから、一定の時間経過したときは、車両進入禁止標識表示を終了します。

一時停止標識

- 次の条件をすべて満たしているとき、一時停止標識を表示します。
  - 約 30 km/h 以下で走行しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) が一時停止標識を自車対象標識として認識したとき
- 一時停止標識表示を開始してから、一定の時間経過したときは、一時停止標識表示を終了します。

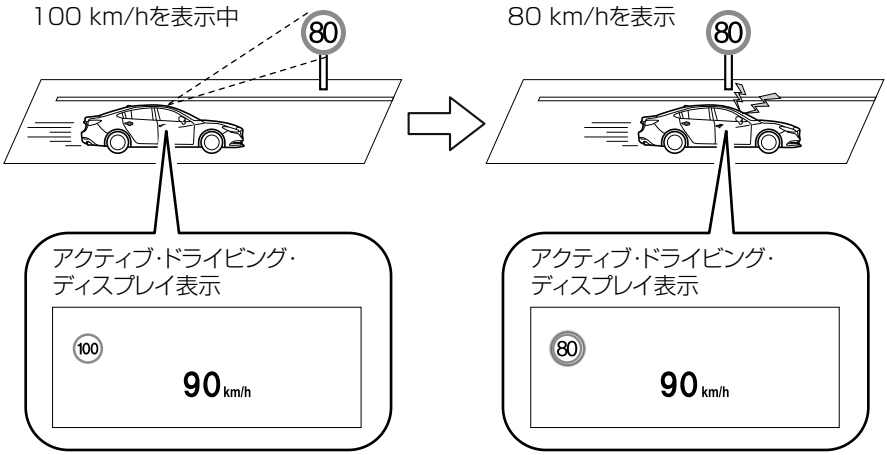
知識

追越しのための右側部分はみ出し禁止標識

- 次の条件をすべて満たしているとき、追越しのための右側部分はみ出し禁止標識を表示します。
  - 約 1 km/h 以上で走行しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) が追越しのための右側部分はみ出し禁止標識を自車対象標識として認識し、追越しのための右側部分はみ出し禁止標識を通過したとき
- 次のときは、追越しのための右側部分はみ出し禁止標識表示を終了します。
  - 追越しのための右側部分はみ出し禁止標識を認識し、車両が追越しのための右側部分はみ出し禁止標識を通過してから、一定の距離を走行したとき
  - 自車が路線を変えたと判断したとき

速度超過警報

アクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示している最高速度標識より自車の速度が超えるとアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示している最高速度標識のまわりが橙色に 3 回点滅し、同時に警報音が 3 回吹鳴します。速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルを踏むなどの操作をし、法定速度内に減速してください。



速度超過警報は初期設定で作動しないように設定されています。速度超過警報を作動させたいときは、カスタマイズ設定を行なってください。なお、警報パターンおよび警報タイミングは設定内容によって異なります。
→693 ページ「安全装備」
警報パターン

- Off: 速度超過警報は作動しません。
- 表示のみ: ディスプレイに表示されている最高速度標識のまわりが橙色に 3 回点滅し、速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。
- 表示＋音: ディスプレイに表示されている最高速度標識のまわりが橙色に 3 回点滅し、同時に警報音が 3 回吹鳴します。速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。

警報タイミング

- ＋0: ディスプレイに表示されている最高速度標識を超えたとき速度超過警報が作動します。
- ＋5: ディスプレイに表示されている最高速度標識を 5 km/h 超えたとき速度超過警報が作動します。
- ＋10: ディスプレイに表示されている最高速度標識を 10 km/h 超えたとき速度超過警報が作動します。

知識

- 次のときは、速度超過警報を終了します。
  - 車速が表示している最高速度標識未満になったとき (カスタマイズで速度超過警報の警報タイミングを変更している場合は、変更した車速未満になったとき、速度超過警報は終了します)
  - 最高速度標識表示が更新され、更新された表示より自車の速度が低いとき
  - 最高速度標識表示を終了したとき
- 表示している最高速度標識より、自車の速度が超えているときは、警報表示と同時に速度超過警報音が鳴ります。
→669 ページ「チャイムがなったときは」
- 補助標識付き最高速度標識を認識し、表示することは可能ですが、補助標識の条件 (時間帯、右左折時、区間の終わりなど) を判断することはできません。
したがって、自車が補助標識の条件以外のときでも、表示された最高速度標識より速度が超えたときは、速度超過警報が作動します。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) が最高速度標識を低い速度で誤認識した場合は、法定速度で走行しているときでも速度超過警報が作動します。

車間認知支援システムとは グレード/仕様別装備

車間認知支援システムは、車速が約 30 km/h 以上のとき、レーダーセンサー (フロント) が前方車との車間距離を計測し、アクティブ・ドライビング・ディスプレイ、またはマルチインフォメーションディスプレイに表示します。さらに、車速に応じた適正な車間距離よりも前方車に近づきすぎた場合に、ディスプレイにお知らせを表示して、適正な車間距離を保って運転ができるようアドバイスします。

⚠ 警告

車間認知支援システムを過信しない

禁止

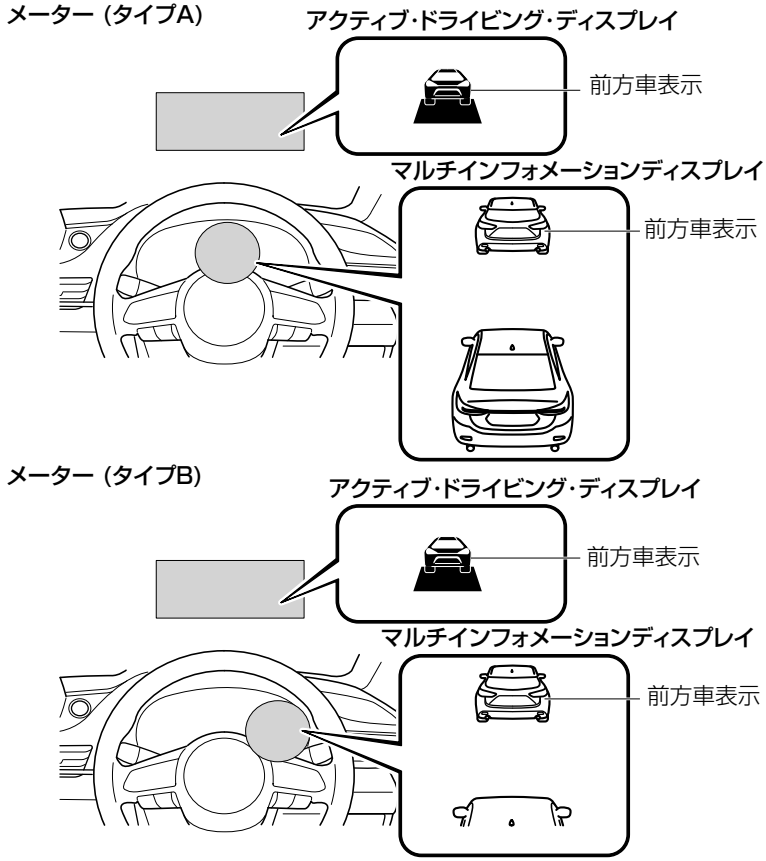
車間認知支援システムは前方車との安全な車間距離の目安をお知らせし、安全運転のアドバイスを行うシステムです。前方車の種類、天候状況、道路状況等によっては前方車の検知に限界がありますので、アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

知識

- 次の条件をすべて満たしているときに車間認知支援システムは作動します。
  - 電源ポジションが ON のとき
  - 車間認知支援システムが ON のとき
  - セレクトレバーが R レンジ以外のとき
  - 車速が約 30 km/h 以上のとき
- システムの作動対象は 4 輪車両です。
- バイクや自転車等にも車間認知支援システムが作動するときがあります。
- 次の条件のときは、車間認知支援システムが正常に作動しないときがあります。
  - DSC が故障しているとき
  - 前方車が極低速のとき
- 次の対象物には作動しません。
  - 対向車
  - 静止物 (停車車両、障害物)
- 車間認知支援システムを作動しないようにできます。
  →693 ページ「安全装備」

ディスプレイ表示

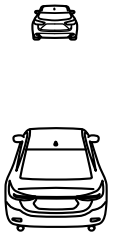
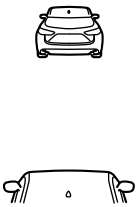
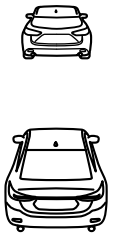
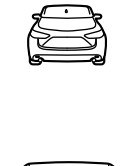
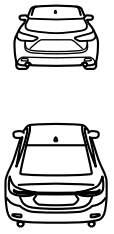
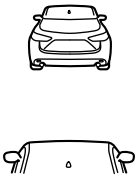
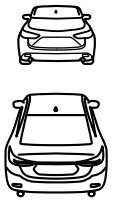
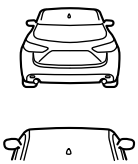
車間認知支援システムの作動状態をアクティブ･ドライビング･ディスプレイ、またはマルチインフォメーションディスプレイに表示します。故障状態については、センターディスプレイに表示します。故障の場合は、表示されたメッセージの方法で処置してください。

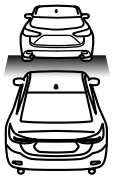
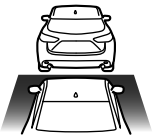


知識

電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、車間認知支援システムが作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときは車間認知支援システムは作動可能な状態になります。

車間表示の目安*1

ディスプレイ表示			車間距離の目安 (約 40 km/h 走行時)	車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)
マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ・ドライビング・ディスプレイ		
メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)			
			約 25 m	約 50 m
			約 20 m	約 40 m
			約 15 m	約 30 m
			約 10 m	約 20 m

ディスプレイ表示			車間距離の目安 (約 40 km/h 走行時)	車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)
マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ・ドライビング・ディスプレイ		
メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)			
 (前方車と自車表示の間が橙色で点灯*2)	 (前方車と自車表示の間が橙色で点灯*2)	(前方車表示の手前側が橙色で点灯)	約 10 m 以下	約 20 m 以下

*1 車間距離は車速によって異なります。

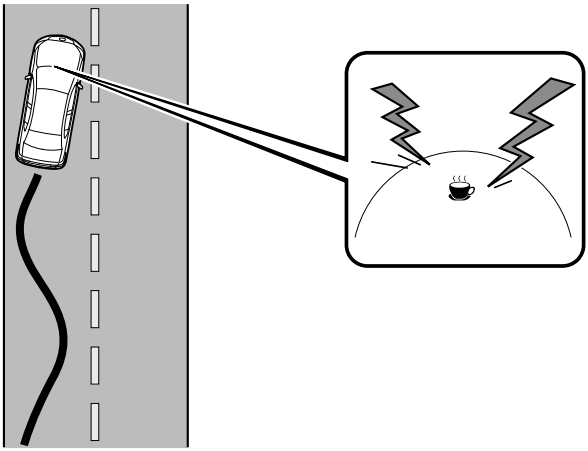
*2 前方車に近づきすぎた場合にお知らせする距離を、「近い」に設定したときの表示です。

知識

ディスプレイ表示の前方車表示が点滅または点灯する車間距離を変更できます。
→693 ページ「 安全装備」

ドライバー･アテンション･アラート (DAA) とは

DAA は、運転者の疲労や注意力の低下を検知し、運転者に休憩を促すシステムです。
DAA は、車線内を車速が約 65 km/h 以上で走行しているとき、フォワードセンシングカメラ (FSC) や各種車両情報から運転者の疲労増加や注意力低下を推定して、マルチインフォメーションディスプレイの表示、警報チャイムにより運転者へ休憩を促します。
DAA は高速道路や自動車専用道路などで使用してください。
→374 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」



⚠ 警告

DAA を過信せず安全運転に心がける。

必ず守る **DAA は、運転者の疲労や注意力の低下を検知し、運転者へ休憩を促すシステムです。ふらつきを防止するものではないため、過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に集中し、適切にハンドルを操作してください。**
また、道路状況や走行状況等によっては、運転者の疲労や注意力の低下を適切に検知出来ない場合があります。運転者は十分に休憩を取り、安全運転に心がけてください。

知識

- DAA は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。
  - 車速が約 65 km/h 以上のとき
  - 車線の白線 (黄線) を検知しているとき
  - 運転者の走行データ学習が完了したとき

知識

- DAA は、次のときには作動しません。
  - 車速が約 65 km/h を下回ったとき
  - 車線の白線 (黄線) を検知できないとき
  - 急カーブを走行しているとき
  - 車線変更したとき
- DAA は、次のときには正常に作動しない場合があります。
  - 車線の白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
  - 強風や悪路走行で車両が揺れ続けたとき
  - スポーティーな走行をしているとき
  - 頻繁に車線変更を行っているとき
- DAA は、車速が約 65 km/h 以上で約 20 分間走行したときの走行データをもとに、運転者の疲労や注意力の低下を検知しています。次のときは学習した走行データがリセットされます。
  - 15 分以上停車したとき
  - 車速が約 65 km/h 未満で約 30 分間走行したとき
  - 電源ポジションを OFF にしたとき
- DAA は、一度休憩を促すと、45 分間は次回休憩をお知らせしません。

ドライバー・アテンション・アラート (DAA) 表示

休憩をおすすめします

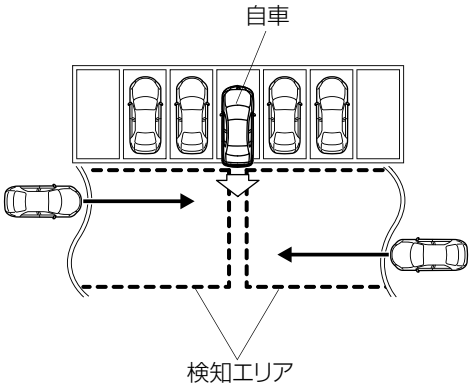
運転者の疲労や注意力の低下を検知すると、警報チャイムが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドライバー・アテンション・アラート (DAA) を停止させるには

DAA を作動しないようにできます。
→693 ページ「安全装備」

リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは

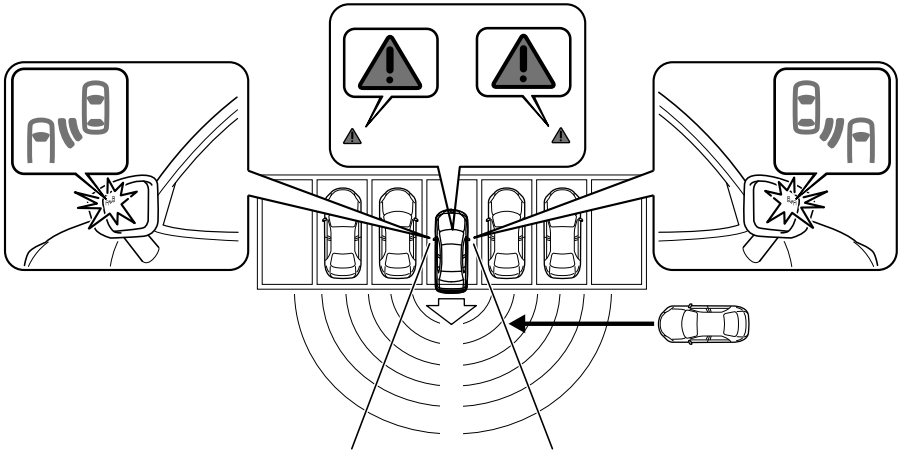
RCTA は、自車の後方に接近する車両の存在を知らせることにより、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。
RCTA は、駐車場などから後退するときに自車の左右および後方に接近した車両を検知して、ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅、および警報チャイムにより運転者に危険を知らせます。



RCTA 作動

1. チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にすると、RCTA が作動します。

2. 車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、360°ビュー・モニター (360°ビュー・モニター装備車)/バックガイドモニター (360°ビュー・モニター非装備車) に警告が表示され、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅、同時に警報チャイムが鳴ります。



⚠警告

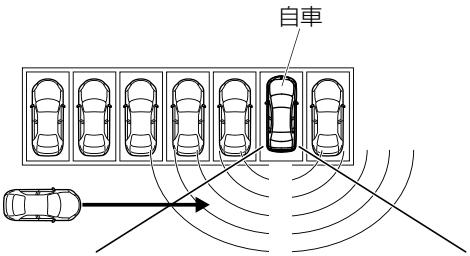
実際の車両後退時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。

必ず守る

本システムは車両後退時の後方確認を支援するシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため、自車後方に車両が存在する場合でもブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

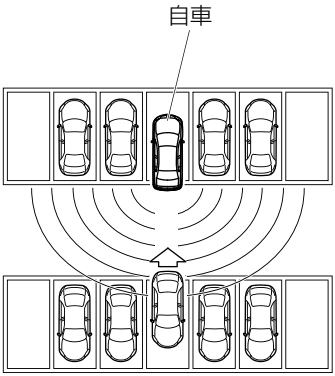
知識

- 次の場合、システムはブラインド･スポット･モニタリング (BSM) OFF 表示灯を点灯させ、システムの作動を停止します。ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) OFF 表示灯 が点灯し続ける場合は速やかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  - ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  - レーダーセンサー (リア) の車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき
  - レーダーセンサー (リア) 付近のリアバンパー上に雪や氷などが多量についたとき
  - 雪道を長時間走行したとき
  - 夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダー付近の温度が非常に高くなったとき
  - バッテリーの電圧が下がっているとき
- 次の場合、レーダーセンサー (リア) が検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 後退時の車速が約 10 km/h 以上のとき
  - 隣接した壁や駐車車両によりレーダーセンサー (リア) の検知エリアが妨げられているとき (レーダーセンサー (リア) の検知エリアが妨げられない位置まで、自車を後退させてください。)

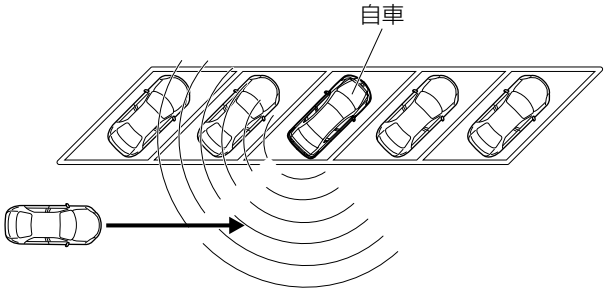


知識

- 自車の真後ろから車両が接近してきたとき



- 車両が斜めに駐車されているとき



- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) を作動可能な状態にした直後
- 隣接した駐車車両にレーダーセンサーが装着されており、電波干渉を受けたとき

- 次のような場合は､ドアミラーに取り付けられているブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯の点灯/点滅が見えにくいことがあります。
  - ドアミラーに氷や雪が付着しているとき
  - フロント窓ガラスに曇りや雪､汚れ､霜が付着しているとき
- トレーラーなどをけん引したり､車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合は､RCTA を解除してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) とは

グレード/仕様別装備

MRCC は、レーダーセンサー (フロント) が前方車を検知することで、運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度での定速走行や、前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つ追従走行ができるシステムです。
また、追従走行時に前方車が急ブレーキをかけたときなど、前方車に接近したときは、警報音と同時にディスプレイに警告を表示し、車間距離を十分確保するようお知らせします。
MRCC は高速道路、加速/減速の繰返しが少ない自動車専用道路などで使用してください。
MRCC を使用するときは、使用前に次の記載もあわせてお読みください。

- 379 ページ「レーダーセンサー (フロント) について」 グレード/仕様別装備

⚠警告

禁止 **MRCC を過信しない**
MRCC は運転者の負担を軽減するために、走行速度を一定に保つ、あるいは、前方車を検知して前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つシステムですが、前方車の種類や状態、天候状況、道路状況等によっては前方車の検知に限界があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

禁止 **思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような場所では使用しない**

- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分に取れない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路 (道路状況に合わせた走行はできません。)**
- **高速道路などでインターチェンジ・サービスエリア・パーキングエリアへ進入するなど本線から出るとき (本線上で追従走行していたときは、自車が本線から出ることにより前方車がいなくなり、設定された速度まで加速する場合があります。)**
- **凍結路や積雪路などの滑りやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります。)**
- **長い下り坂 (車間距離を保つため自動的にブレーキを踏み続け、ブレーキが効かなくなる恐れがあります。)**

必ず守る **MRCC を使用しないときは、安全のため MRCC を OFF にする**

⚠注意

必ず守る **けん引されるとき、または、他の車をけん引するときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。**

⚠注意

シャシーローラーを使用するときは、シャシーローラー上を走行中に誤って作動させないよう、システムを OFF にしてください。
必ず守る

知識

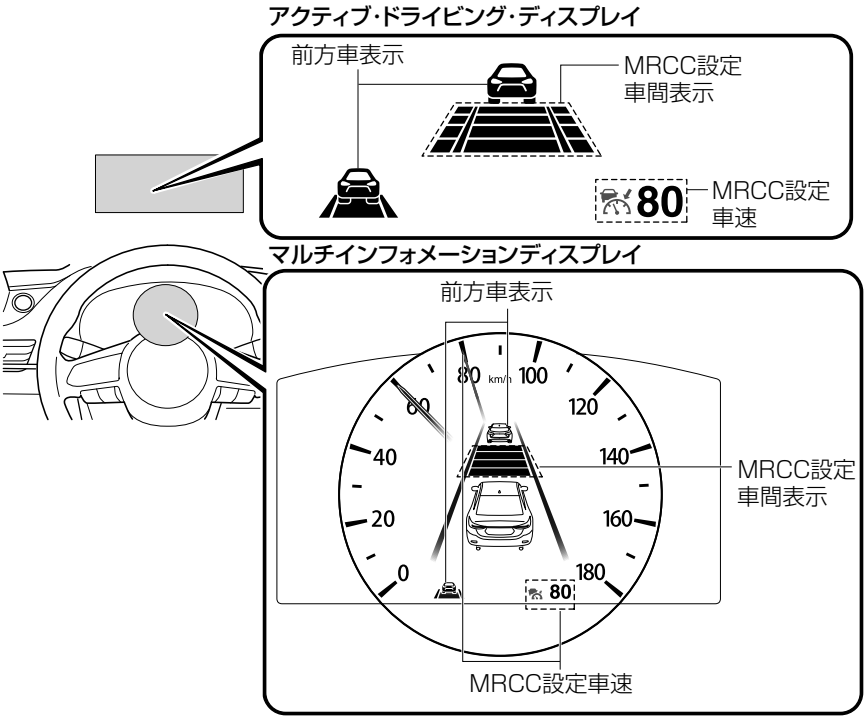
- MRCC は次のすべての条件を満たしているときに作動できます。
  - 車速が約 30 km/h～100 km/h のとき
  - MRCC が ON のとき
  - ブレーキペダルを踏んでいないとき
  - 電動パーキングブレーキ (EPB) が解除されているとき (電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯が消灯しているとき)
  - DSC が正常に作動できる状態のとき
  - すべてのドアが閉まっているとき
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - チェンジレバーが R、N 以外のとき
  - クラッチペダルを踏んでいないとき
- 次のときは、前方車と接近したときでも、警報が作動しない場合があります。
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - MRCC をセットした直後
  - アクセルペダルを踏んでいるとき、またはアクセルペダルを離した直後
  - 他車が割り込んだとき
- 次の対象物については、対象物として検知しません。
  - 対向車両
  - 歩行者
  - 静止物 (停車車両、障害物等)
  - 前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないときがあります。
- 追従走行をするときはバイク、自転車等の 2 輪車を前方車として設定しないでください。
- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、MRCC を使用しないでください。
- 追従走行時は前方車の速度にあわせて加速や減速を行いますが、車線変更などで加速が必要なときや、前方車の急ブレーキなどで急接近したときは、状況に応じてアクセルペダルで加速、ブレーキペダルで減速を行ってください。
- MRCC を使用して走行しているときは、チェンジレバーを操作しても MRCC が解除されないため、意図したエンジンブレーキがかかりません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。

知識

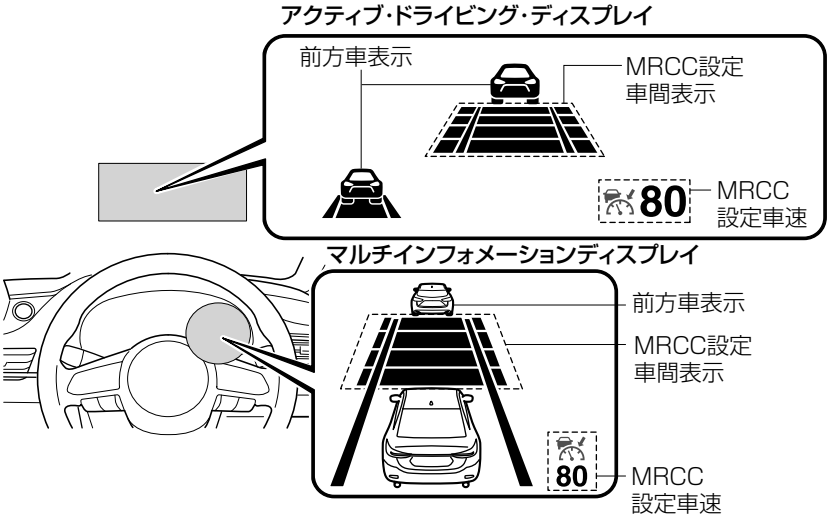
- MRCC 自動ブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯しますが、下り坂を設定車速、または前方車に追従して一定車速で走行中はブレーキランプが点灯しないときがあります。
- 追従走行を解除し、定速走行のみを作動するように切り替えることができます。→300 ページ「定速走行機能」

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) ディスプレイ表示

MRCC の設定状況および作動状態をマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイでお知らせします。
メーター (タイプ A)



メーター (タイプ B)

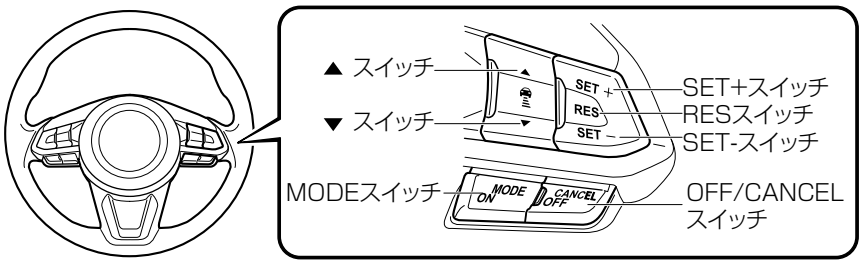


接近警報

ブレーキ！

追従走行時に前方車が急制動を行ったときなど前方車に接近したときは、警報音が「ピピピピピ･･･」と鳴り続け、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の安全を確認してブレーキペダルを踏むなど、前方車との車間距離を十分に確保してください。また、後続車との車間距離も確保してください。

設定するとき



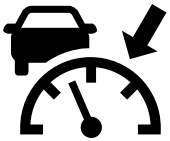
i-ACTIVSENSE について

MODE スイッチを押すと速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になり、マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) ディスプレイ表示およびマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 作動状態表示 (白) がマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示されます。

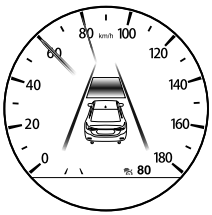
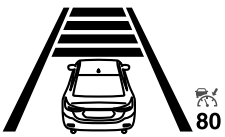
知識

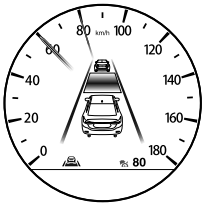
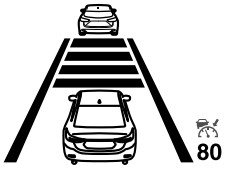
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) を ON にしたまま電源ポジションを ACC または OFF にしたとき、マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) は自動的に OFF になります。
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) を ON にした状態で、クルーズメイン表示 (白) に切り替わるまで MODE スイッチを押すと、定速走行機能に切り替わります。

速度を設定するとき



1. アクセルペダルの操作で設定したい速度に調節します。
2. SET＋または SET－スイッチを押すと定速走行をはじめます。マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ･ドライビング･ディスプレイに設定速度が表示され、マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 作動状態表示が白色から緑色に、車間表示の白線表示が白色の塗りつぶし表示に変わります。同時にマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示 (緑) が表示され、チャイムが 1 回鳴ります。

走行状態	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
定速走行時			80

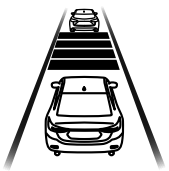
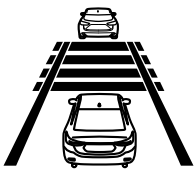
走行状態	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
追従走行時			

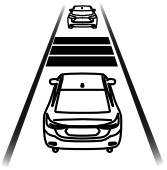
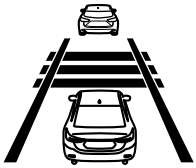
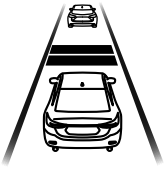
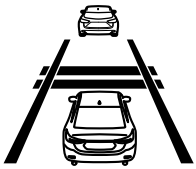
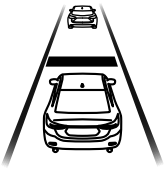
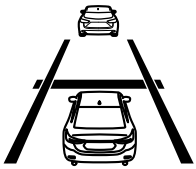
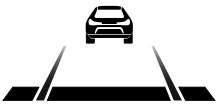
知識

- 定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行います。また、前方車を検知しなくなったときは、ディスプレイの前方車表示が消灯し、定速走行に切り替わります。
- 設定速度より速い速度で走行している車両を前方車としての追従走行はできません。アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。
- ディスプレイの車間距離表示が白線表示のとき、SET＋または SET－スイッチを押すとチャイムが 3 回鳴る場合があります。そのときは速度が設定できないことをお知らせしています。

追従走行時の車間距離を設定するとき

▼スイッチを押すことにより車間距離を短く設定します。▲スイッチを押すことにより車間距離を長く設定します。車間距離は長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
長 (約 50 m)			

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
中 (約 40 m)			
短 (約 30 m)			
極短 (約 20 m)			

知識

- 車間距離は速度により異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。
- 電源ポジションを ACC または OFF にしたときは、次回エンジン始動時に、前回設定した車間距離が自動的に設定されます。

設定速度を変更するとき

スイッチで加速するとき

SET＋スイッチを押したまま、設定車速を変更すると 10 km/h ずつ調整することができます。
また SET＋スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度を 5 km/h ずつ調節することができます。
たとえば、SET＋スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 20 km/h 上がります。

スイッチで減速するとき

SET－スイッチを押したまま、設定車速を変更すると 10 km/h ずつ調整することができます。
また SET－スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度を 5 km/h ずつ調節することができます。
たとえば、SET－スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 20 km/h 下がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏んで、希望の速度になったところで、SET＋スイッチまたは SET－スイッチを押し、手を放します。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

⚠注意

アクセルペダルを踏んでいるときは、警報やブレーキ制御が作動しません。

知識

- 追従走行中に SET＋スイッチで加速したとき、設定速度の調節はできますが加速しません。前方車がいなくなったとき、設定速度になるまで加速し続けます。設定速度はディスプレイの設定速度表示で確認してください。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、ディスプレイの車間距離表示は白線表示になります。
- 設定速度の下限は 30 km/h です。スイッチ操作で設定速度が 30 km/h になったときは、SET－スイッチを押しても約 30 km/h の定速走行を行います。このときマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) は解除されません。

解除するとき

OFF/CANCEL スイッチを 2 回押すと、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が解除されます。

一時的に解除されるとき

次のようなときは、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が一時的に解除され、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイ内のマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 作動状態表示が緑色から白色に変わります。

- OFF/CANCEL スイッチを 1 回押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキがかかったとき
- チェンジレバーが R になったとき

次のようなときは、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) キャンセル表示とチャイムが 1 回鳴ります。

- 車速が 25 km/h 以下になったとき
- DSC が作動したとき
- TCS が一定時間作動したとき
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
- アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) が作動したとき
- 下り坂を長時間走行したとき
- システムに異常が発見されたとき
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席シートベルトをはずしたとき
- チェンジレバーが一定時間ニュートラル位置だったとき
- クラッチペダルを一定時間踏んだとき
- エンストしたとき

知識

- 雨・霧・雪など天候が悪いときやラジエーターグリルの前面が汚れたときもマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が解除される場合があります。
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が一時的に解除されたときは、再度作動条件をすべて満たしているとき、RES スイッチを押すと、もとの設定速度にもどります。
- OFF/CANCEL スイッチを押してマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) を解除したときは、RES スイッチを押しても、もとの設定速度にもどりません。

シフトアップ/シフトダウン要求表示について

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 作動中に、シフトアップ要求表示、またはシフトダウン要表示が表示されることがあります。このときは、ギアの位置が不適切であるためシフトチェンジをしてください。

要求	ディスプレイ表示	
	マルチインフォメーションディスプレイ	アクティブ・ドライビング・ディスプレイ
シフトアップ	シフトアップ	
シフトダウン	シフトダウン	

知識

- シフトアップ要求表示が表示されてもシフトアップしないときはエンジンに負荷がかかり、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が自動的に解除される、または、エンジンを損傷するおそれがあります。
- シフトダウン要求表示が表示されてもシフトダウンしないときはマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が自動的に解除される、または、エンストすることがあります。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警報

システムの故障や、使用上の注意が必要なときは MRCC 警報でお知らせします。チャイムによって確認してください。

警報	確認すること
MRCC を設定するときに、チャイムが 3 回鳴るとき	車速が低すぎるなど、MRCC が作動可能な条件を満たしていません。
MRCC 作動時に、チャイムが 1 回鳴るとき	車速が 25 km/h 以下になるなどで、MRCC が解除されています。
走行中にチャイムが断続的に鳴るとき	前方車との車間距離が近すぎます。周囲の安全を確認し、減速してください。

警報	確認すること
MRCC 作動時に、チャイムとメーター内の MRCC 警告表示 (橙) が表示されるとき	システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

定速走行機能

追従走行を解除し、定速走行のみを作動するようにする機能です 。
車速を約 30～100 km/h の間に設定できます。
高速道路、加速/減速の繰り返しが少ない自動車道などで使用してください。

⚠ 警告

次のような場所では使用しない。

禁止 **思わぬ事故につながるおそれがあります。**

- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路 (道路状況に合わせた走行はできません)**
- **急な下り坂 (エンジンブレーキが十分に効かず、設定速度をこえることがあります)**
- **凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります)**

安全運転に心がける

必ず守る **定速走行機能使用中は追従走行を行わないため、警報やブレーキ制御が作動しません。周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなど、前方車との車間距離を十分に確保し、安全運転を心がけてください。**

定速走行機能に切り替えるとき

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) を ON にした状態で、メーター内のクルーズメイン表示 (白) が表示されるまで MODE スイッチを押すと、定速走行機能に切り替わります。

⚠ 警告

定速走行機能を使用しないときは、必ず OFF にする。

必ず守る **常に使用できる状態にしておくと、誤って定速走行機能を作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

速度を設定するとき

アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。
SET＋または SET－スイッチを押すと定速走行をはじめます。
同時にマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ･ドライビング･ディスプレイにクルーズコントロール表示 (緑) が表示されます。

知識

- 急な上り坂または下り坂など､走行条件によっては設定速度を一定に保てない場合があります。
- SET＋スイッチを押したままにすると加速をはじめます。SET－スイッチを押したままにすると減速をはじめます。

設定速度を上げるとき

次の操作で設定速度を上げることができます。

スイッチで加速するとき

SET＋スイッチを押したまま､希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと､設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。たとえば､スイッチを 4 回押すと､設定速度が約 4 km/h 上がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏み､希望の速度になったところで SET＋または SET－スイッチを押します。
スイッチを操作しなければ､アクセルペダルから足を離すと､もとの設定速度にもどります。

設定速度を下げるとき

SET－スイッチを押し続け､希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと､設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。たとえば､スイッチを 4 回押すと､設定速度が約 4 km/h 下がります。

解除するとき

OFF/CANCEL スイッチで解除するとき

OFF/CANCEL スイッチを 1 回押すと､定速走行機能が解除されます。

MODE スイッチで解除するとき

MODE スイッチを押すと､定速走行機能が解除され､追従走行が可能な状態に切り替わります。
次のようなときは､定速走行機能が自動的に解除されます。車速が 30 km/h 以上であれば､RES スイッチを押すと､もとの設定速度にもどります。

- OFF/CANCEL スイッチを押したとき。
- ブレーキペダルを踏んだとき。
- パーキングブレーキをかけたとき。
- クラッチペダルを踏んだとき。
- チェンジレバーをニュートラルの位置にしたとき

知識

- 設定速度より、約 15 km/h 以上下がったとき、定速走行機能が解除されることがあります。
- 車速が 30 km/h 未満になると、定速走行機能が解除されます。この場合、車速を 30 km/h 以上にして RES スイッチを押しても、もとの設定速度にはもどりません。定速走行機能を設定しなおしてください。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは グレード/仕様別装備

MRCC (全車速追従機能付) は、レーダーセンサー (フロント) が前方車を検知することで、運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度での定速走行や、前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つ追従走行ができるシステムです。
また、追従走行時に前方車が急ブレーキをかけたときなど、前方車に接近したときは、警報音と同時にディスプレイに警告を表示し、車間距離を十分確保するようお知らせします。
前方車に追従して停車したときは、自動で停車状態を保持 (停車保持制御) し、運転者が RES スイッチを押すなどの発進操作を行うと、追従走行を再開します。
MRCC (全車速追従機能付) を使用するときは、使用前に次の記載もあわせてお読みください。

- 138 ページ「i-stop について」
- 223 ページ「オートホールド」
- 374 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
- 379 ページ「レーダーセンサー (フロント) について」 グレード/仕様別装備

⚠警告

禁止 **MRCC（全車速追従機能付）を過信しない**
MRCC（全車速追従機能付）は運転者の負担を軽減するために、走行速度を一定に保つ、あるいは、前方車を検知して前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つシステムですが、前方車の種類や状態、天候状況、道路状況等によっては前方車の検知に限界があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保し、安全運転に心がけてください。

禁止 **思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような場所では使用しない**

- **自動車専用道路以外の一般道（道路状況に合わせた走行はできません。）**
- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分に取れない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路（道路状況に合わせた走行はできません。）**
- **高速道路などでインターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに侵入するなど本線から出るとき（本線上で追従走行していたときは、自車が本線から出ることにより前方車がいなくなり、設定された速度まで加速する場合があります。）**
- **凍結路や積雪路などのすべりやすい路面（タイヤが空転して、車のコントロールを失ったり、停車保持制御が作動しないおそれがあります。）**
- **長い下り坂（車間距離を保つため自動的にブレーキを踏み続け、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。）**
- **勾配が急な坂（前方車を正しく検知できなかったり、停車保持制御中に車両がずり下がったり、発進時に飛び出すおそれがあります。）**

必ず守る **MRCC（全車速追従機能付）を使用しないときは、安全のため MRCC（全車速追従機能付）を OFF にする**

必ず守る **停止保持制御中に車両から離れない**
車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車両から離れるときは、MRCC（全車速追従機能付）を OFF にして、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P の位置にしてください。

⚠注意

必ず守る **けん引されるとき、または、他の車をけん引するときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。**

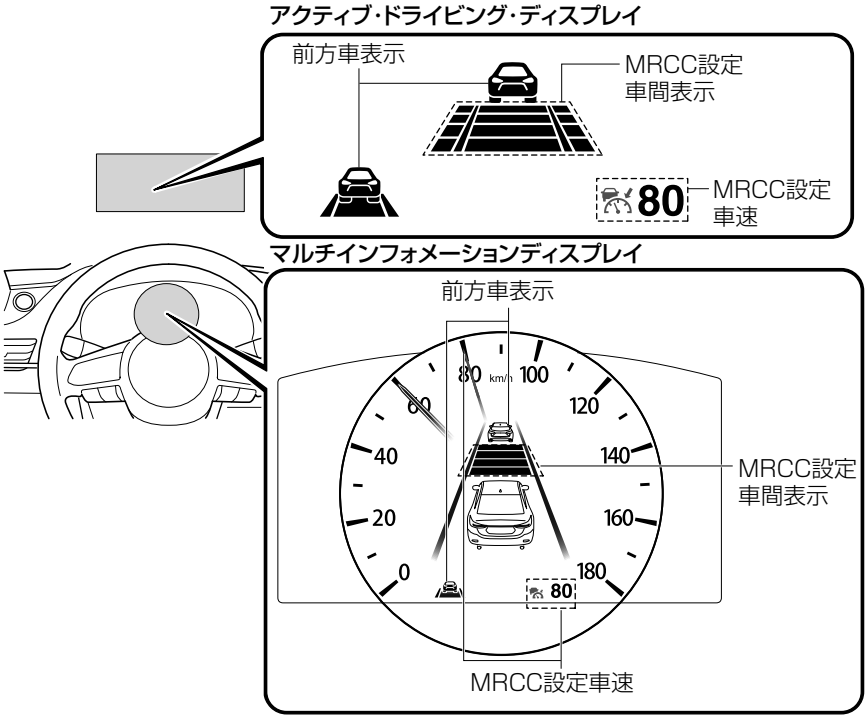
必ず守る **シャシーローラーを使用するときは、シャシーローラー上を走行中に誤って作動させないよう、システムを OFF にしてください。**

知識

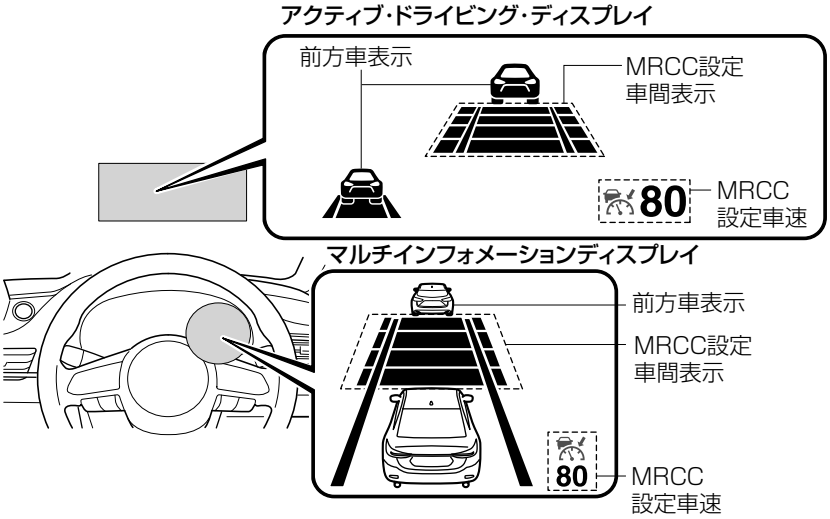
- MRCC (全車速追従機能付) は、次の対象物については、対象物として検知しません。
  - 対向車両
  - 歩行者
  - 静止物 (停車車両、障害物等)
  - 前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないときがあります。
- 追従走行をするときは、バイク、自転車等の２輪車を前方車として設定しないでください。
- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、MRCC (全車速追従機能付) を使用しないでください。
- 追従走行時は前方車の速度にあわせて加速や減速を行いますが、車線変更などで加速が必要なときや、前方車の急ブレーキなどで急接近したときは、状況に応じてアクセルペダルで加速、ブレーキペダルで減速を行ってください。
- MRCC (全車速追従機能付) を使用して走行しているときは、セレクトレバーを操作しても MRCC (全車速追従機能付) が解除されないため、意図したエンジンブレーキがかかりません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。
- 自動ブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- MRCC (全車速追従機能付) 自動ブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯しますが、下り坂を設定車速、または前方車に追従して一定車速で走行中は、ブレーキランプが点灯しないときがあります。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) ディスプレイ表示

MRCC (全車速追従機能付) の設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイ、またはアクティブ・ドライビング・ディスプレイでお知らせします。
メーター (タイプ A)



メーター (タイプ B)



MRCC (全車速追従機能付) が故障したときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。故障内容をセンターディスプレイで確認し、マツダ販売店で点検を受けてください。
→667 ページ「センターディスプレイにメッセージが表示されたときは」

接近警報

ブレーキ！

追従走行時に前方車が急制動を行ったときなど前方車に接近したときは、警報音が鳴り、ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の安全を確認してブレーキペダルを踏むなど、前方車との車間距離を十分に確保してください。また、後続車との車間距離も確保してください。

知識

次のときは、前方車と接近したときでも、警報やブレーキが作動しない場合があります。

- 前方車と同程度の速度で走行しているとき
- MRCC (全車速追従機能付) をセットした直後
- アクセルペダルを離した直後
- 他の車が割り込んできたとき

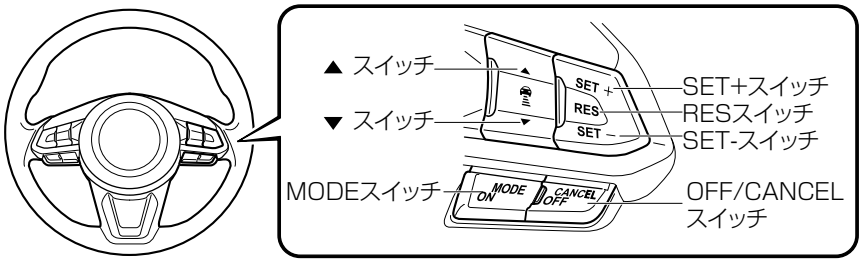
設定するとき

MRCC (全車速追従機能付) は、次のすべての条件を満たしているときに作動します。

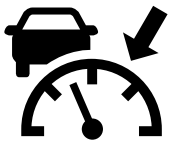
- MRCC (全車速追従機能付) が ON のとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- パーキングブレーキが解除されているとき (電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯が消灯しているとき)
- DSC が故障していないとき
- 全てのドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- セレクトレバーが D または M (マニュアルモード) のとき

知識

- 次の場合、30 km/h 以下のときは MRCC (全車速追従機能付) が使用できません。また、マルチインフォメーションディスプレイ、またはアクティブ・ドライビング・ディスプレイに「30km/h 以下の制御できません」とメッセージが表示されます。
  - フォワードセンシングカメラが対象物を検知できなくなったとき (故障やフロントガラスが汚れたとき)
  - 停車保持制御の機能が故障したとき
  - 電動パーキングブレーキ (EPB) が故障したとき
- エンジン始動直後は、DSC の作動チェックのため、MRCC (全車速追従機能付) がセットできないときがあります。



ON する

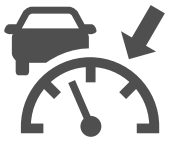


MODE スイッチを 1 回押すと、MRCC (全車速追従機能付) が ON になり、MRCC (全車速追従機能付) メイン表示 (白) が点灯し、速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になります。
また同時に、MRCC (全車速追従機能付) ディスプレイ表示がマルチインフォメーションディスプレイ、およびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示されます。

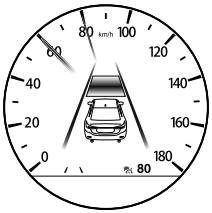
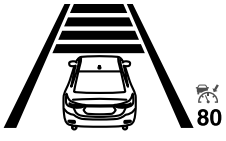
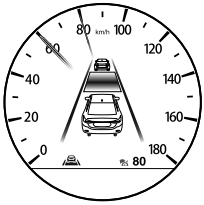
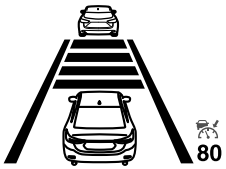
知識

- MRCC (全車速追従機能付) を ON にしたまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON したとき、MRCC (全車速追従機能付) は自動的に OFF になります
- MRCC (全車速追従機能付) を ON にした状態で、クルーズメイン表示 (白) に切り替わるまで MODE スイッチを押すと、定速走行機能に切り替わります。
→314 ページ「定速走行機能」

速度を設定する



1. アクセルペダルの操作で設定したい速度に調整します。
2. SET＋または SET－スイッチを押すと定速走行をはじめます。ディスプレイに設定速度が表示され、車間距離の白線表示が白色の塗りつぶし表示に変わります。同時に MRCC (全車速追従機能付) メイン表示 (白色) から MRCC (全車速追従機能付) セット表示 (緑色) に変わり、チャイムが 1 回鳴ります。

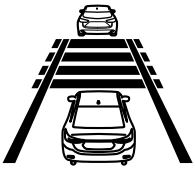
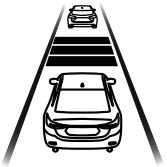
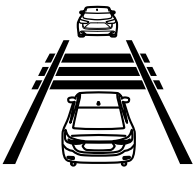
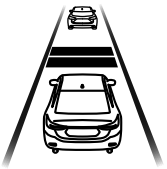
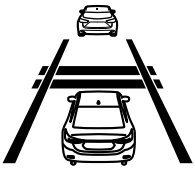
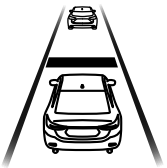
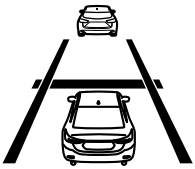
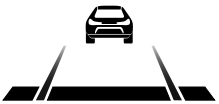
走行状態	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
定速走行時			80
追従走行時			80

知識

- 定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行います。また、前方車を検知しなくなったときは、ディスプレイの前方車表示が消灯し、定速走行に切り替わります。
- MRCC (全車速追従機能付) の設定速度の下限は 30 km/h です。
- 設定した速度より速い速度で走行している車両を、前方車として追従走行することはできません。アクセルペダルの操作で希望の速度に調節してください。

追従走行時の車間距離を設定する

▼スイッチを押すことにより車間距離を短く設定します。▲スイッチを押すことにより車間距離を長く設定します。車間距離は長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ・ドライビング・ディスプレイ*1
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
長 (約 50 m)			
中 (約 40 m)			
短 (約 30 m)			
極短 (約 25 m)			

*1　運転者がスイッチ操作をしたときのみ、アクティブ・ドライビング・ディスプレイにポップアップ表示されます。

知識

- 車間距離は速度により異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。
- 電源ポジションを ACC または OFF にしたときは、次回エンジン始動時に前回設定した車間距離が自動的に設定されます。

設定速度を変更する

スイッチで加速/減速するとき

SET＋スイッチを押すと加速し、SET－スイッチを押すと減速します。

- 短押し：5 km/h
- 長押し：10 km/h

知識

たとえば SET スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 20 km/h 上がり、または下がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏んで、希望の速度になったところで、SET＋スイッチまたは SET－スイッチを押し、手を放します。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

⚠注意

アクセルペダルを踏んでいるときは、警報やブレーキ制御が作動しません。

知識

- 停車保持制御中に SET＋スイッチまたは SET－スイッチを操作すると、設定速度を変更することができます。
- 追従走行中に SET＋スイッチで加速したとき、設定速度の調節はできますが加速はしません。前方車がいなくなったとき、設定速度になるまで加速し続けます。設定速度はディスプレイの設定速度表示で確認してください。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、ディスプレイの車間距離の白線表示が白抜き表示になります。

一時的に解除されるとき

次の操作をおこなうと、MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除され、同時に MRCC (全車速追従機能付) セット表示 (緑色) から MRCC (全車速追従機能付) メイン表示 (白色) に変わります。

- OFF/CANCEL スイッチを 1 回押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- セレクトレバーが P、N または R レンジになったとき
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき

次のようなときは、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) キャンセル表示とチャイムが 1 回鳴ります。

- DSC が作動したとき
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
- アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) が作動したとき
- 下り坂を長時間走行したとき
- システムに異常が発見されたとき
- 停車保持制御中に自動でパーキングブレーキがかかったとき
- レーダーセンサー (フロント) が対象物を検知できなくなったとき (雨、霧、雪など天候が悪いときやラジエーターグリルの前面が汚れたとき)

制御を再開するとき

MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除された場合、再度作動条件をすべて満たしたときに RES スイッチを押すと、一時的に解除された前の設定速度で作動します。

知識

ディスプレイに設定速度が表示されていないときは、RES スイッチを押しても、作動しません。

OFF する

MRCC (全車速追従機能付) が作動中に、OFF/CANCEL スイッチを 2 回押すと、MRCC (全車速追従機能付) が OFF になります。

停車保持制御

MRCC (全車速追従機能付) で追従走行中に前方車が停車すると、追従して自車も停車します。停車して停車保持制御が作動すると、MRCC (全車速追従機能付) 表示灯が点灯します。

知識

- 停車保持制御中に、MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除された場合、停車状態は維持されます。次の操作を行うことで、停車保持制御を解除できます。
  - アクセルペダルを踏み込んで、車両を発進させる。
  - ブレーキを強く踏みながら、MRCC (全車速追従機能付) を OFF する。
- 停車保持制御が 10 分以上経過した場合、自動でパーキングブレーキがかかり、停車状態を維持します。このとき、MRCC (全車速追従機能付) は一時的に解除されます。
- 停車保持制御中、i-stop の作動条件を満たしている場合は、ブレーキペダルを踏まなくてもアイドリングストップします。
  →138 ページ「i-stop について」
- 停車保持制御中は、ブレーキランプが点灯します。

再発進するとき

停車保持制御中に、前方車が発進した後、RES スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏み込むと、停車保持制御が解除され、車両が発進します。

知識

- RES スイッチで再発進するときは、前方車との車間距離が規定値以上開かないと発進しません。
- i-stop が作動している場合、再発進操作を行うと、自動でエンジンが再始動します。
- 停車保持制御中に、MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除された場合、前方車がいないときは RES スイッチでは再発進できません。アクセルペダルを踏み込んで、車両を発進させてください。
- 停車保持制御で停車後、前方車が 3 秒以内に発進した場合は、運転者がアクセルペダルを踏み込むなどの発進操作をしなくても追従走行を継続します。

発進報知

停車保持制御中に、前方車が発進した後、しばらく再発進操作を行わないと、マルチインフォメーションディスプレイの前方車表示が点滅し、運転者に発進を促します。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警報

システムの故障や使用上の注意が必要なときは MRCC (全車速追従機能付) 警報でお知らせします。チャイムによって確認してください。

警報	確認すること
MRCC (全車速追従機能付) を設定するときに、チャイムが 3 回鳴るとき	MRCC (全車速追従機能付) が作動可能な条件を満たしていません。
MRCC (全車速追従機能付) 作動時に、チャイムが 1 回鳴るとき	MRCC (全車速追従機能付) が解除されています。
走行中にチャイムが断続的に鳴るとき	前方車との車間距離が近すぎます。周囲の安全を確認し、減速してください。
MRCC (全車速追従機能付) 作動時に、チャイムとメーター内の MRCC (全車速追従機能付) 警告表示 (橙) が表示されるとき	システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

定速走行機能

追従走行を解除し、定速走行のみを作動するようにする機能です 。
車速を約 30～100 km/h の間に設定できます。
高速道路、加速/減速の繰り返しが少ない自動車道などで使用してください。

⚠警告

次のような場所では使用しない。

禁止 **思わぬ事故につながるおそれがあります。**

- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路 (道路状況に合わせた走行はできません)**
- **急な下り坂 (エンジンブレーキが十分に効かず、設定速度をこえることがあります)**
- **凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります)**

⚠警告

安全運転に心がける

必ず守る **定速走行機能使用中は追従走行を行わないため、警報やブレーキ制御が作動しません。周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなど、前方車との車間距離を十分に確保し、安全運転を心がけてください。**

定速走行機能に切り替えるとき

MRCC (全車速追従機能付) を ON にした状態で、メーター内のクルーズメイン表示 (白) が表示されるまで MODE スイッチを押すと、定速走行機能に切り替わります。また、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

⚠警告

定速走行機能を使用しないときは、必ず OFF にする。

必ず守る **常に使用できる状態にしておくと、誤って定速走行機能を作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

速度を設定するとき

アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。
SET＋または SET－スイッチを押すと定速走行をはじめます。
同時にメーター内のクルーズコントロール表示 (緑) が表示されます。

知識

- 急な上り坂または下り坂など、走行条件によっては設定速度を一定に保てない場合があります。
- SET＋スイッチを押したままにすると加速をはじめます。SET－スイッチを押したままにすると減速をはじめます。

設定速度を上げるとき

次の操作で設定速度を上げることができます。

スイッチで加速するとき

SET＋スイッチを押したまま、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 上がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏み、希望の速度になったところで SET＋または SET－スイッチを押します。
スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を離すと、もとの設定速度にもどります。

設定速度を下げるとき

SET－スイッチを押し続け、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 下がります。

解除するとき

OFF/CANCEL スイッチで解除するとき

OFF/CANCEL スイッチを 1 回押すと、定速走行機能が解除されます。

MODE スイッチで解除するとき

MODE スイッチを押すと、定速走行機能が解除され、追従走行が可能な状態に切り替わります。
次のようなときは、定速走行機能が自動的に解除されます。車速が 30 km/h 以上であれば、RES スイッチを押すと、もとの設定速度にもどります。

- OFF/CANCEL スイッチを押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- セレクトレバーを N または P レンジにしたとき

知識

- 設定速度より、約 15 km/h 以上下がったとき、定速走行機能が解除されることがあります。
- 車速が 30 km/h 未満になると、定速走行機能が解除されます。この場合、車速を 30 km/h 以上にして RES スイッチを押しても、もとの設定速度にはもどりません。定速走行機能を設定しなおしてください。

レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは グレード/仕様別装備

LAS &車線逸脱警報システムは、自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせるとともに、ハンドル操作をアシストすることにより車線からの逸脱回避を支援する装置です。走行中に、フォワードセンシングカメラ (FSC) で車線の白線 (黄線) を検知して、自車が車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、電動パワーステアリングを作動させ運転者のハンドル操作をアシストするとともに、車線逸脱警報、ハンドルの振動、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示により運転者に知らせます。高速道路や自動車専用道路で白線 (黄色) が整備された道路でご使用ください。

→374 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」

LAS &車線逸脱警報システムのハンドル操作をアシストするタイミングには「遅い」と「早い」があります。

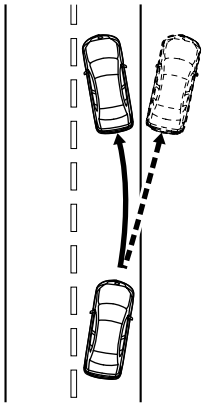
「遅い」は、自車が車線から逸脱する可能性があるときに、ハンドル操作のアシストを行います。

「早い」は、ハンドル操作のアシストを常に行い、走行車線内の中央付近を走行できるようにアシストします。

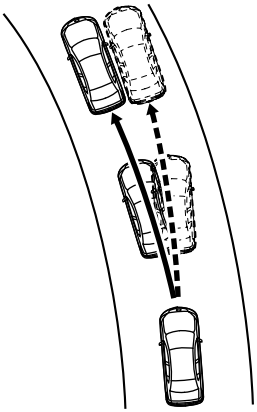
「遅い」と「早い」の切り替え (ハンドル操作のアシストを行うタイミング) は設定変更で変更できます。

→693 ページ「 安全装備」

「遅い」



「早い」



⚠警告

LAS &車線逸脱警報システムを過信しない。

必ず守る

- **LAS &車線逸脱警報システムは、自動運転システムではありません。また、前方不注意を補助するものではないため、システムを過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **LAS &車線逸脱警報システムの機能には限界があります。常にハンドルの操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。**

次のようなときは、LAS &車線逸脱警報システムを使わない。実際の走行状況にあわせた適切な作動ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

- **急カーブのある道**
- **悪天候のとき (雨、霧、雪のときなど)**
- **凍結路、積雪路や未舗装路などのすべりやすい路面**
- **交通量が多く車間距離が十分にとれない道路**
- **車線の白線 (黄線) が引かれていない道路**
- **工事中や車線規制で車線幅の狭い道路**
- **工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき (白線 (黄線) が複数引かれていたり、途切れているとき)**
- **高速道路、自動車専用道路以外を走行しているとき**
- **タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき**
- **応急用スペアタイヤ装着時など、指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき**

⚠注意

LAS &車線逸脱警報システムを正常に作動させるために次の点をお守りください。

必ず守る

- **サスペンションの改造を行わないでください。**
- **前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行うときは、マツダ販売店にご相談ください。**

知識

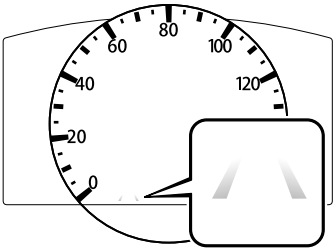
- 車線変更などで方向指示器を操作すると、LAS &車線逸脱警報システムの作動を自動解除します。方向指示器をもどし、走行車線内を通常走行して、システムが白線 (黄線) を検知すると、LAS &車線逸脱警報システムが復帰します。

知識

- 急なハンドル操作、アクセル操作、ブレーキ操作をしながら車線の白線 (黄線) へ接近したときは、運転者が車線を変更すると判断し、LAS &車線逸脱警報システムの作動を一時的に解除します。走行車線内を通常走行して、システムが白線 (黄線) を検知すると、LAS &車線逸脱警報システムが復帰します。
- 短時間のうちに連続して車線をはみ出したときは、LAS &車線逸脱警報システムが作動しない場合があります。
- 車線の白線 (黄線) を検知していないときは、LAS &車線逸脱警報システムは作動しません。
- 次のようなときは、車線の白線 (黄線) を正しく検知することができず、LAS &車線逸脱警報システムが正常に作動しない場合があります。
  - インストルメントパネルの上に置いた物が、フロントガラスに反射してカメラに写ったとき
  - 荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
  - タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき
  - 標準タイヤ以外のタイヤを装着しているとき
  - 交差点や合流地点、分岐路などを走行するとき
  - 白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
  - 前方車が白線 (黄線) の近くを走行して、白線 (黄線) が見えにくいとき
  - 天候 (雨、霧、雪のときなど) により、白線 (黄線) が見えにくいとき
  - 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき (白線 (黄線) が複数引かれていたり、途切れているとき)
  - 道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまった轍など、白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき
  - トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
  - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
  - フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
  - フロントガラス、カメラに露 (水滴) が生じているとき
  - 逆光を浴びて路面が光っているとき
  - 雨あがりなどで、路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
  - ガードレールなどの影が、道路上に白線 (黄線) と平行して写っているとき
  - 車線の幅が狭いときや広いとき
  - 急カーブのとき
  - 道路がうねっているとき
  - 段差などにより車が大きく揺れたとき
  - 2 本以上の白線 (黄線) が隣接して描かれているとき
  - 交差点付近に様々な路面表示や様々な形状のレーンマーカーがあるとき

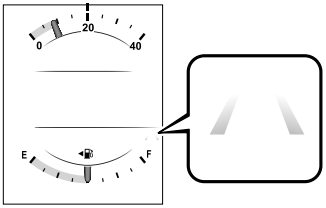
作動させるとき

メーター (タイプA)

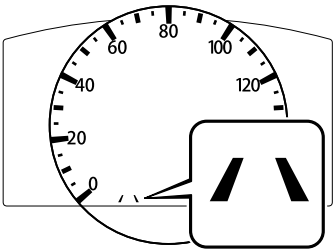


電源ポジションを ON にすると、マルチインフォメーションディスプレイに LAS &車線逸脱警報システム表示 (グレー) が表示され、システムが待機状態となります。

メーター (タイプB)



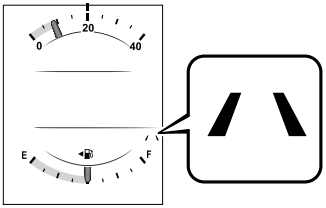
メーター (タイプA)



システム待機状態で車線の中央付近を走行します。次の条件をすべて満たすと、マルチインフォメーションディスプレイに、LAS &車線逸脱警報システム表示 (白) が表示され、システム作動状態になります。

- エンジンがかかっているとき
- 車速が約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 車線の白線 (黄線) を検知しているとき
- 運転者がハンドルを持ち操作しているとき
- 車線の幅が狭くないとき、または広くないとき

メーター (タイプB)



知識

左右どちらかの車線の白線 (黄線) を検知しているとき、LAS &車線逸脱警報システム表示はグレー色で表示され、左右両方の車線の白線 (黄線) を検知すると、車線は白色に変わります。

左右どちらか一方を検知

左右両方を検知

次のとき、LAS &車線逸脱警報システムは待機状態になります。

- 白線 (黄線) を検知できないとき
- 車速が約 60 km/h 未満になったとき
- ABS/TCS/DSC が作動しているとき
- DSC を OFF にしたとき
  (システム作動状態のとき DSC を OFF にするとチャイムが鳴り待機状態になります。)
- 急なカーブを走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ブレーキ操作をしたとき
- 車線の幅が狭いとき、または広いとき

知識

- **(ハンドル操作のアシストを行うタイミングが「遅い」のとき)**
  - 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知するまでは、LAS &車線逸脱警報システムは作動しません。
  - 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知した場合、検知できていない方向への逸脱は作動しません。検知できている方向への逸脱のみ作動します。
- **(ハンドル操作のアシストを行うタイミングが「早い」のとき)**
  - 左右の車線の白線 (黄線) を検知するまでは、LAS &車線逸脱警報システムのハンドル操作のアシストタイミングは「早い」で作動しません。左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) のみ検知しているときは、ハンドル操作のアシストタイミングは「遅い」で作動します。
  - 走行車線内の中央付近を走行できるようにハンドル操作のアシストを行いますが、カーブの形状、路面の傾斜や起伏、速度などによっては、中央付近を走行できない場合があります。

知識

- 運転者がハンドルから手をはなしたとき (ハンドルを保持していないとき) は、警報チャイムが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイにメッセージが表示されます。

マルチインフォメーション
ディスプレイ

ハンドルを
持ってください

アクティブ・ドライビング・
ディスプレイ

ハンドルを軽く持っているとき、または道路状態によっては、ハンドルを握っていてもハンドルから手をはなしている (ハンドルを保持していない) と判断し、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイにメッセージが表示されることがあります。

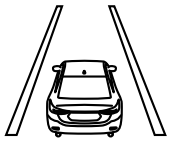
- 車線逸脱警報とハンドル操作のアシストを行うタイミングは異なります。
- LAS &車線逸脱警報システムの次の設定を変更できます。
→693 ページ「安全装備」
  - ハンドル操作のアシスト作動/非作動
  - アシスト感度 (アシストしやすさ)
  - ハンドル操作をアシストするタイミング

車線表示

LAS &車線逸脱警報システムが待機状態になると、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が表示されます。
左右両方の車線の白線 (黄線) を検知し、作動状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車線表示が白色に変わり、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに車線表示が表示されます。

(待機状態)

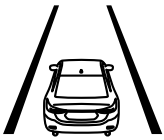
マルチインフォメーション
ディスプレイ



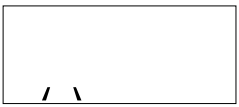
アクティブ･ドライビング･
ディスプレイ

(作動状態)

マルチインフォメーション
ディスプレイ



アクティブ･ドライビング･
ディスプレイ



知識

車線の白線 (黄線) を片側のみ検知しているとき、マルチインフォメーションディスプレイの車線表示は、検知している方向の車線のみ白色に変わります。

自動解除

次のようなときは､LAS &車線逸脱警報システムが自動で解除され､マルチインフォメーションディスプレイの LAS &車線逸脱警報システム表示 (グレー) が表示されます。なお､LAS &車線逸脱警報システムが作動可能な状態になると自動で復帰し､LAS &車線逸脱警報システム表示表示 (白) が表示されます。

- カメラ内部の温度が高温または低温になったとき
- カメラ付近のフロントガラスが曇ったとき
- カメラ付近のフロントガラスに遮蔽物があり前が見えないとき

警報/アシストの自動中止

次のような操作をおこなうと、LAS &車線逸脱警報システムの作動が自動で中止されます。なお、操作後は、LAS &車線逸脱警報システムが自動で復帰します。

- 運転者がハンドルから手を放したとき (LAS &車線逸脱警報システムは、運転者のハンドル操作をアシストする装置のため、運転者がハンドルを保持すれば自動で復帰します。)
- 急なハンドル操作をしたとき
- ブレーキ操作をしたとき
- アクセル操作をしたとき
  (「アシスト感度」の設定を変更することで、自動で中止される感度を変更することができます。)
- 方向指示器を操作したとき
- 車線をまたいで走行したとき

知識

操作後、走行車線を検知するまでの最大 5 秒間は、LAS &車線逸脱警報システムが作動しない場合があります。

ハンドル操作のアシスト非作動 (OFF)

LAS &車線逸脱警報システムは、ハンドル操作のアシストを非作動 (OFF) に変更できます。
→693 ページ「安全装備」
ハンドル操作のアシストを非作動 (OFF) に変更したときは、車線逸脱警報のみ作動します。

作動させるとき

システム待機状態で車線の中央付近を走行します。次の条件をすべて満たすと、システム作動状態になります。

- 左右もしくは一方に白線 (黄線) が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 車速約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき

次のとき、LAS &車線逸脱警報システムは待機状態になります。

- 白線 (黄線) を検知できないとき
- 車速が約 60 km/h 未満になったとき
- 急なカーブを走行したとき
- 不適切な速度でカーブを走行したとき

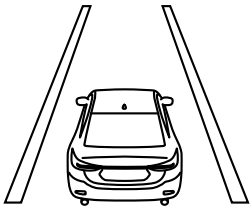
知識

- 左右のどちらか一方、または左右両方の車線の白線 (黄線) を検知するまでは、LAS &車線逸脱警報システムは待機状態のままになります。
- 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知した場合、検知できていない方向への逸脱は警報できません。
- 車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断するタイミング、警報感度 (警報しやすさ) を変更できます。
→693 ページ「安全装備」

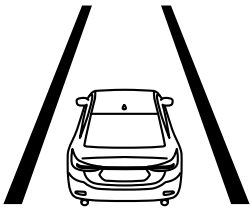
車線表示

LAS &車線逸脱警報システムが待機状態になると、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が表示されます。
左右両方の車線の白線 (黄線) を検知し、作動状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車線表示が白色に変わります。

(待機状態)



(作動状態)



知識

車線の白線 (黄線) を片側のみ検知しているとき、マルチインフォメーションディスプレイの車線表示は、検知している方向の車線のみ白色に変わります。

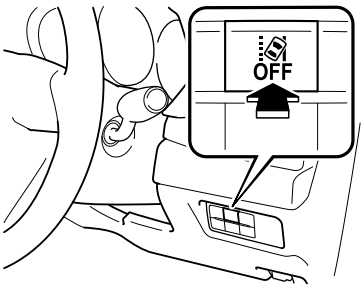
(自動解除)
次のようなときは、LAS &車線逸脱警報システムが自動で解除され、ディスプレイに車線表示 (待機状態) が表示されます。なお、LAS &車線逸脱警報システムが作動可能な状態になると自動で復帰し、ディスプレイに車線表示 (作動状態) が表示されます。

- カメラ内部の温度が高温または低温になったとき
- カメラ付近のフロントガラスが曇ったとき
- カメラ付近のフロントガラスに遮蔽物があり前が見えないとき

(警報の自動中止)
次のような操作を行うと、運転者の意思で車線変更しているとシステムが判断し、LAS &車線逸脱警報システムの作動が自動で中止されます。なお、操作後は、LAS &車線逸脱警報システムが自動で復帰します。

- 急なハンドル操作をしたとき
- ブレーキ操作をしたとき
- アクセル操作をしたとき
  「警報感度」の設定を変更することで、自動で中止される感度を変更することができます。
- 方向指示器を操作したとき
- 車線をまたいで走行したとき

停止するとき



LAS &車線逸脱警報システムを停止するときは、LAS &車線逸脱警報システム OFF スイッチを押します。

メーター内の、LAS &車線逸脱警報システム OFF 表示灯が点灯します。

知識

- 電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば LAS &車線逸脱警報システムが作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときは LAS &車線逸脱警報システムは作動可能な状態のままです。

知識

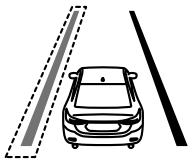
- 次のようなときは、LAS &車線逸脱警報システムが自動で停止され、メーター内にLAS &車線逸脱警報システム OFF 表示が表示されます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電動パワーステアリングに異常があるとき
  - DSC に異常があるとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) に異常があるとき

LAS &車線逸脱警報システムを停止すると、アクティブ・ドライビング・ディスプレイの車線表示も非表示になります。

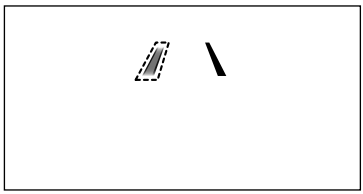
車線逸脱警報

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、警報 (ビープ音が鳴る、ランブル音[*1] が鳴る、またはハンドルの振動) とともに、逸脱する可能性があるとシステムが判断した方向をマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



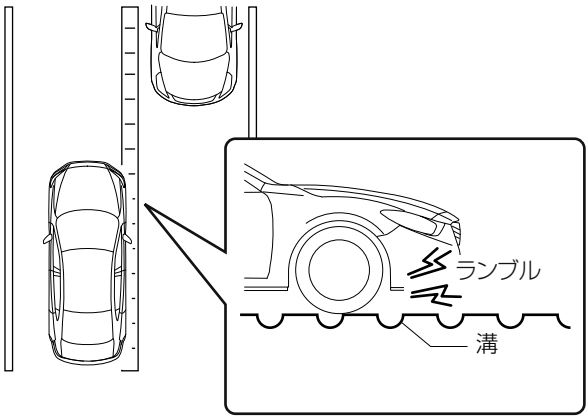
知識

- 車線逸脱警報の種類をビープ音/ランブル音[*1] に設定しているときは、外部の騒音など状況によっては、警報音が聞こえない場合があります。
- 車線逸脱警報の種類をハンドル振動に設定しているときは、路面状況によっては、振動を感じない場合があります。
- ハンドル操作のアシストを作動にしているときは、警報の作動/非作動を設定変更できます。 (ハンドル操作のアシストを非作動に設定変更しているときは、警報を非作動に設定することはできません。)
  →693 ページ「安全装備」

知識

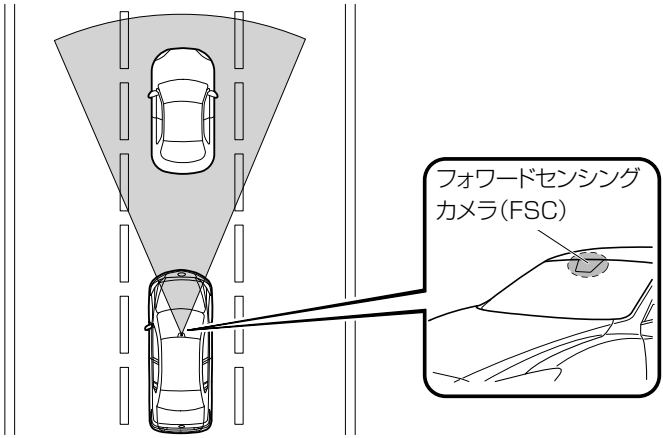
- LAS &車線逸脱警報システムは、ハンドル操作のアシスト作動/非作動設定に関係なく、次の設定を変更できます。運転するときには必ず設定状況を確認し、必要に応じて設定を変更してください。
→693 ページ「安全装備」
  - 警報 (ハンドルの振動) の強弱
  - 警報音量
  - 警報の種類 (ハンドル振動/ビープ音/ランブル音*1)

*1 道路舗装表面の一部に一定間隔で溝を配置し、車がその上を通過するときにゴトゴトという振動と音を発生させることで、車線の逸脱を運転者に知らせる注意喚起舗装路をランブルストリップスといいます。 ランブル音とは、ランブルストリップスを通過するときに発生する音を疑似的に作り出した音です。



アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) とは

アドバンスト SCBS は､車速が約 4 km/h～約 80 km/h (対象が前方車のとき)/約 10 km/h～約 80 km/h (対象が歩行者のとき)で走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) が前方車や歩行者へ衝突する可能性があると判断したときに､ディスプレイや警報音により運転者に対して衝突の危険性を知らせます。さらに衝突を回避できないと判断したときには､ブレーキ制御 (アドバンスト SCBS ブレーキ) を行なう装置で､衝突時の被害を軽減します。また､運転者がブレーキペダルを踏んだときは､ブレーキが素早く確実にかかるよう補助します。 (ブレーキアシスト (アドバンスト SCBS ブレーキアシスト))



⚠警告

システムを過信しない

禁止

- **アドバンスト SCBS は､あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **アドバンスト SCBS は､前方車および歩行者に対して作動するシステムです。2 輪車や動物､壁に対しては作動保障しません。**

⚠注意

必ず守る

次のようなときは、誤って作動しないようにシステムを停止させてください。

- **けん引されるとき、または、他の車をけん引するとき**
- **シャシーローラーを使用するとき**
- **草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき**

作動を停止させるときは次のページを参照してください。
→332 ページ「アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) を停止させるには」

知識

- アドバンスト SCBS は次の条件のとき作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されていないとき
  - **(対象が前方車のとき)**
    車速が約 4 km/h～約 80 km/h のとき
  - **(対象が歩行者のとき)**
    車速が約 10 km/h～約 80 km/h のとき
  - アドバンスト SCBS を停止していないとき
- 次のような状態のときはアドバンスト SCBS が正常に作動しない場合があります。
  - 運転者が意図的に運転操作 (アクセル操作、ハンドル操作) を行なったとき
  - 前方車と部分的な接触の可能性があるとき
  - 濡れた路面や積雪、じゃり道などの滑りやすい路面を走行しているとき
  - 気温が低いときやブレーキが濡れているときなどブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - 急なアクセルペダル操作をしているとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - ハンドルを操作しているとき
  - セレクトレバーを操作しているとき

知識

- 次のようなときは、アドバンスト SCBS が作動する場合があります。
  - カーブ入口に路側物があるとき
  - カーブで対向車両とすれ違うとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - ETC ゲートを通過するとき
  - 前方車に急接近したとき
  - 2 輪車や動物、壁、立ち木
- **(マニュアル車)**
  アドバンスト SCBS ブレーキの作動により車両が停止した場合、クラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止します。

衝突警報

ブレーキ！

前方車や障害物と衝突する可能性がある場合、衝突警報音が「ピピピピピ･･･」と鳴り続け、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されます。

知識

衝突警報の作動距離や音量を変更できます。
→693 ページ「安全装備」

自動ブレーキ作動表示

SCBS
自動ブレーキ作動

アドバンスト SCBS ブレーキ作動後やブレーキアシスト (アドバンスト SCBS ブレーキアシスト) 作動後に、マルチインフォメーションディスプレイに「SCBS 自動ブレーキ作動」と表示されます。

知識

- アドバンスト SCBS ブレーキ作動中やブレーキアシスト (アドバンスト SCBS ブレーキアシスト) 作動中は、衝突警報音が断続的に吹鳴します。
  →669 ページ「チャイムが鳴ったときは」
- アドバンスト SCBS ブレーキの作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルを踏まないと、約 2 秒後にチャイムが吹鳴し、アドバンスト SCBS ブレーキが自動的に解除されます。

アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) を停止させるには

アドバンスト SCBS を作動しないようにできます。
→693 ページ「安全装備」

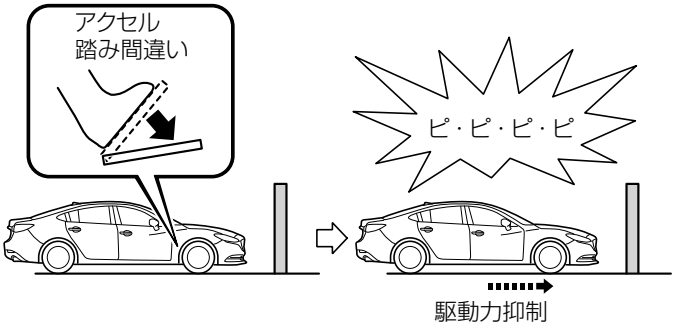
アドバンスト SCBS を作動しないようにすると､スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) OFF 表示灯が点灯します。

知識

- アドバンスト SCBS を作動しないようにすると､スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) およびスマート･ブレーキ･サポート (SBS) も作動しなくなります。
- アドバンスト SCBS を停止した状態でエンジンを停止した場合､次にエンジンを始動するとアドバンスト SCBS は作動可能な状態にもどります。

AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは (オートマチック車)

AT 誤発進抑制制御 [前進時] は車両が徐行中 (約 10 km/h 以下) や停車時、前方に車や壁などの障害物があるにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた (アクセルペダルを踏み間違えたと判断した) ときに、エンジン出力を抑制することで、衝突時の被害を軽減します。システム作動中は、AT 誤発進抑制制御 [前進時] 表示で作動中をお知らせすると同時に、警報音で運転者に警告します。



⚠警告

AT 誤発進抑制制御 [前進時] を過信せず安全運転に心がける

必ず守る

AT 誤発進抑制制御 [前進時] は、ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。シフト、アクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない

禁 止

停車状態を保ったり、発進を緩やかにするものではありません。また、障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

踏切内に閉じ込められた場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が遮断機を障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合、あわてずにアクセルを踏み続ける、または踏みなおして脱出してください。脱出の際、車両が急加速することがありますので注意して運転してください。

知識

- AT 誤発進抑制制御 [前進時] は次の条件のときに作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)/スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) を停止していないとき
  - DSC OFF スイッチを押して DSC を作動停止状態にしていないとき
  - スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されていないとき
  - セレクトレバーが D/M レンジのとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) の検知能力には限界があります。次のようなときは、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動しない場合があります。
  - フロントガラスまたはフロントバンパーに氷、雨滴曇り、雪、霜、汚れ、ビニール袋等の異物が付着しているとき
  - ウインドーウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき
- 次のようなときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が障害物を検知できず、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動しない場合があります。
  - 障害物の高さが低いとき (低い壁、低いガードレール、トレーラーなどの後部)
  - 障害物が小さいとき
  - 障害物が細いとき (標識の支柱や電柱など)
  - 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
  - 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
  - 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
  - 障害物が凹凸のある形状をしているとき
  - 障害物が極端に近いとき
  - フェンス、ガラスなど均一な模様や模様のない障害物
  - 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
  - キャリアカーなど、特殊な形状をした車両

知識

- 次のような状況では、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が障害物を正しく検知できず、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動しない場合があります。
  - カーブ、坂道のとき
  - ハンドルを大きく切っているとき
  - ボンネットの上に雪などの障害物があるとき
  - 雨・霧・雪など天候が悪いとき
  - 湿度が低いとき、高いとき
  - 気温が低いとき、高いとき
  - 風が強いとき
  - 走行路が平坦ではないとき
  - 前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
  - 荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき
  - 障害物などと部分的な接触の可能性があるとき
  - カーブが連続する道路やカーブの出入口を走行しているとき
  - ルーフレールなどを装着してフォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) をおおうような長尺物を装着したとき
  - 超音波センサー (フロント) 付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取りつけたとき
  - 車、歩行者、二輪車、自転車などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき
  - 朝方、夕方の薄暗いとき、夜間や屋内駐車場など周囲が暗いとき
  - ヘッドランプが照射されていない場所に障害物があるとき
  - 前方に強い光を受けているとき (逆光やヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
  - 自車が進路変更を行い、障害物のすぐ後ろに接近したとき
  - 衝突などで、超音波センサー (フロント) の方向がずれたとき
  - 他車のホーン、エンジン音、超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき

知識

- 次のようなときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動する場合があります。
  - 急な登坂路があるとき
  - 輪留めがあるとき
  - ETC や踏切などバーがあるとき
  - 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスを感知しているとき
  - 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - 路面上に金属物、段差または突起物があるとき
  - ビニールカーテン、旗などを潜って通行するとき
  - パイロンなどのプラスチック類
  - 完全に開いていない遮断機
  - シャシーダイナモなど使用するとき
  - キャリアカーに積載するとき
  - 前方車に接近して走行するとき
  - カーブや交差点の先に障害物があるとき
  - 障害物に接近して通過するとき
- システムが故障しているときは、スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されます。
→663 ページ「処置する」

AT 誤発進抑制制御 [前進時] 表示

マルチインフォメーション ディスプレイ

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

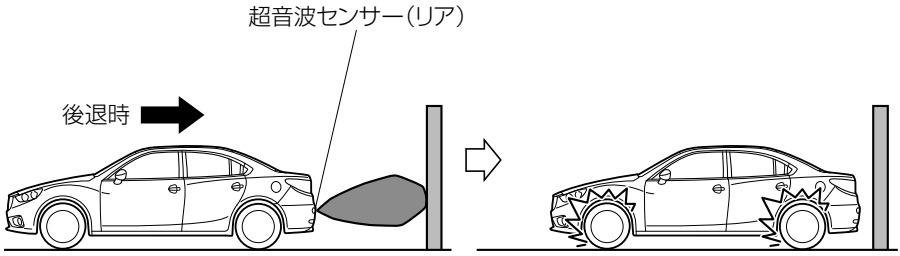
AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動中に、アクティブ・ドライビング・ディスプレイ、またはマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

AT 誤発進抑制制御 [前進時] を停止させるには

アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)/スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) を停止させると、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が停止します。
作動を停止させるときは次のページを参照してください。
→693 ページ「安全装備」

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) とは

SCBS R は車速が約 2 km/h～約 8 km/h で後退中に後方の障害物を超音波センサーが検知し、衝突を回避できないと判断したときに、ブレーキ制御 (SCBS R ブレーキ) を行なう装置で、衝突時の被害を軽減します。



⚠警告

システムを過信しない。

必ず守る

- **SCBS R は、あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **SCBS R の超音波センサー (リア) はリアバンパーに設置され、AT 誤発進抑制制御 [後退時] と共用しています。SCBS R の正しい作動のため、次のことをお守りください。**
  - **超音波センサー (リア) にステッカー (透明なものを含む) などを貼り付けないでください。超音波センサー (リア) が障害物を正しく検知できず思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  - **超音波センサー (リア) の分解などを行なわないでください。**
  - **飛び石などで超音波センサー (リア) 周辺に傷などが認められるときは、ただちに SCBS R の使用を停止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。超音波センサー (リア) の周辺にひび割れや引っかき傷などがあるまま運転を続けると意に反して作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
    作動を停止させるときは次のページを参照してください。
    →693 ページ「安全装備」
  - **リアバンパーを交換する際は、マツダ販売店に相談してください。**

サスペンションを改造しない。

禁 止

車高や車の傾きが変わると障害物を正しく検知できないため、SCBS R が正常に作動しない場合があります。

超音波センサー (リア) に強い衝撃を与えない。

禁 止

洗車時に超音波センサー (リア) に強い水圧を与えたり、強くこすったりしないでください。また、荷物の出し入れなどでリアバンパーに強い衝撃を与えないでください。障害物を正しく検知できず、SCBS R が正常に作動しない場合があります。

⚠注意

草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行する際は、SCBS R を停止してください。

必ず守る

4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、SCBS R が正常に作動しなくなるおそれがあります。

必ず守る

⚠注意

超音波センサー (リア) は氷、雪などが付着した場合など、状況によっては障害物を正しく検知できない場合があります。このようなときは、正しい制御ができないおそれがあります。常に後方を注意して運転してください。

必ず守る

知識

- アクセル操作、ブレーキ操作やハンドル操作によって車両姿勢が変化し、障害物が見えにくくなったり、不要な障害物が見えやすくなったりします。このような場合、SCBS R が作動しなかったり、作動する場合があります。
- SCBS R は、次の条件のとき作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にしているとき
  - スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) 警告表示 (橙) が表示されていないとき
  - マルチインフォメーションディスプレイに「SCBS 後退時作動しません」と表示されていないとき
  - 車速が約 2 km/h～約 8 km/h のとき
  - アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)を停止していないとき
  - DSC が故障状態でないとき
- SCBS R は、超音波センサー (リア) が発信した超音波が、後方の障害物に反射し、超音波センサー (リア) に戻ってきた超音波を受信することで、後方の障害物を検知し、作動しています。
- 次のようなときは、超音波センサー (リア) が障害物を検知できず、SCBS R が作動しない場合があります。
  - 低い壁、荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき
  - 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき
  - 障害物が車両や壁のように大きくないとき
  - 標識のポールなど、障害物が細いとき
  - 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
  - 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
  - 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
  - 障害物が凹凸のある形状をしているとき
  - 障害物が極端に近いとき

知識

- 次のような状況では、超音波センサー (リア) が障害物を正しく検知できず、SCBS R が正常に作動しない場合があります。
  - 超音波センサー (リア) 付近に何か付着したりしているとき
  - ハンドルを大きく切ったり、ブレーキやアクセル操作をしているとき
  - 障害物の周辺に他の障害物があるとき
  - 雨、霧、雪など天候が悪いとき
  - 湿度が低いとき、高いとき
  - 気温が低いとき、高いとき
  - 風が強いとき
  - 走行路が平坦ではないとき
  - 荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき
  - 超音波センサー (リア) 付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取りつけたとき
  - 衝突などで、超音波センサー (リア) の方向がずれたとき
  - 他車のホーン、エンジン音、超音波センサー (リア) など、他の音波の影響を受けたとき
- 次のようなときは、超音波センサー (リア) が対象の障害物だと検知し、SCBS R が作動する場合があります。
  - 急な登坂路があるとき
  - 輪留めがあるとき
  - 垂れ幕、ETC や踏切などバーがあるとき
  - 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行するとき
  - 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - トーイングバーやトレーラーを装着しているとき
- **(マニュアル車)**
  SCBS R ブレーキの作動により車両が停止した場合、クラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止します。
- システムが故障しているときは、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 警告表示 (橙) が表示されます。
  →663 ページ「処置する」

自動ブレーキ作動表示

SCBS R ブレーキ作動後に、マルチインフォメーションディスプレイに「SCBS 自動ブレーキ作動」と表示されます。

SCBS
自動ブレーキ作動

知識

- SCBS R ブレーキ作動中は、衝突警報音が断続的に鳴ります。
→669 ページ「チャイムがなったときは」
- SCBS R ブレーキの作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルを踏まないと、約 2 秒後にチャイムが鳴り、SCBS R ブレーキが自動的に解除されます。

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を停止させるには

SCBS R を作動しないようにできます。
→693 ページ「安全装備」

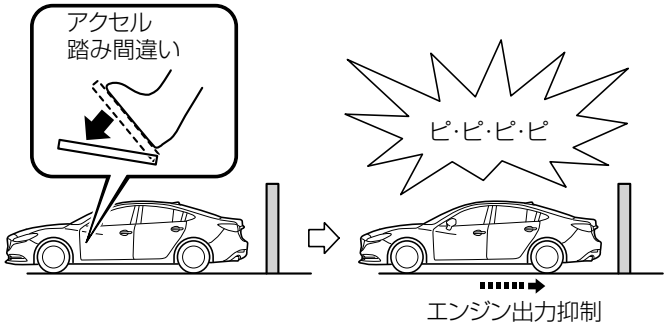
SCBS R を作動しないようにすると、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) OFF 表示灯が点灯します。

知識

- SCBS R を作動しないようにすると、アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) およびスマート・ブレーキ・サポート (SBS) も作動しなくなります。
- SCBS R を停止した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると SCBS R は作動可能な状態にもどります。

AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは (オートマチック車)

AT 誤発進抑制制御 [後退時] は車両が徐行中 (約 10 km/h 以下) や停車時、後方に車や壁などの障害物があるにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた (アクセルペダルを踏み間違えたと判断した) ときに、エンジン出力を抑制することで、衝突時の被害を軽減します。システム作動中は、AT 誤発進抑制制御 [後退時] 表示で作動中をお知らせすると同時に、警報音で運転者に警告します。



⚠警告

AT 誤発進抑制制御 [後退時] を過信せず安全運転に心がける。

必ず守る **AT 誤発進抑制制御 [後退時] は、ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。アクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。**

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。

禁 止 **停車状態を保ったり、発進を緩やかにするものではありません。また、障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

知識

- AT 誤発進抑制制御 [後退時] は次の条件のときに作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - セレクトレバーを R の位置にしているとき
  - アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)/スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) を停止していないとき
  - スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されていないとき
  - マルチインフォメーションディスプレイに「SCBS 後退時作動しません」と表示されていないとき
- 次のようなときは、超音波センサー (リア) が障害物を検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動しない場合があります。
  - 低い壁、荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき
  - 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき
  - 障害物が車両や壁のように大きくないとき
  - 標識のポールなど、障害物が細いとき
  - 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
  - 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
  - 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
  - 障害物が凹凸のある形状をしているとき
  - 障害物が極端に近いとき
- 次のような状況では、超音波センサー (リア) が障害物を正しく検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が正常に作動しない場合があります。
  - 超音波センサー (リア) 付近に何か付着したりしているとき
  - ハンドルを大きく切ったり、ブレーキやアクセル操作をしているとき
  - 障害物の周辺に他の障害物があるとき
  - 雨、霧、雪など天候が悪いとき
  - 湿度が低いとき、高いとき
  - 気温が低いとき、高いとき
  - 風が強いとき
  - 走行路が平坦ではないとき
  - 荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき
  - 超音波センサー (リア) 付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取りつけたとき
  - 衝突などで、超音波センサー (リア) の方向がずれたとき
  - 他車のホーン、エンジン音、超音波センサー (リア) など、他の音波の影響を受けたとき

知識

- 次のようなときは、超音波センサー (リア) が障害物と検知し、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動する場合があります。
  - 急な登坂路があるとき
  - 輪留めがあるとき
  - 垂れ幕、ETC や踏切などバーがあるとき
  - 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行するとき
  - 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - トーイングバーやトレーラーを装着しているとき
- システムが故障しているときは、スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されます。
→663 ページ「処置する」

AT 誤発進抑制制御 [後退時] 表示

マルチインフォメーション ディスプレイ

AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動中に、アクティブ・ドライビング・ディスプレイ、またはマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

AT 誤発進抑制制御 [後退時] を停止させるには

アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS)/スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を停止させると、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が停止します。
作動を停止させるときは次のページを参照してください。
→693 ページ「安全装備」

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは グレード/仕様別装備

SBS は、車速が約 15 km/h 以上でレーダーセンサー (フロント) およびフォワードセンシングカメラ (FSC) が前方車に衝突する可能性があると判断したときに、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイへの警告表示、および警報音により運転者に対して衝突の危険性を知らせます。さらに衝突を回避できないと判断したときには、自動ブレーキ制御を行うことで衝突時の被害を軽減します。また、運転者がブレーキペダルを踏んだときは、ブレーキが素早く確実にかかるよう補助します。

⚠警告

禁止

SBS を過信しない

SBS は衝突時の被害を軽減するシステムであり、対象物、天候状況、道路状況等によっては対象物の検知に限界があります。このためアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

⚠注意

必ず守る

次のときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。

- **けん引されるとき、または、他の車をけん引するとき**
- **シャシーローラーを使用するとき**
- **草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき**

→693 ページ「安全装備」

知識

- 次の条件をすべて満たしているときに SBS は作動します。
  - 電源ポジションが ON のとき
  - SBS が ON のとき
  - SBS 警告表示 (橙) が表示されていないとき
  - 車速が約 15 km/h 以上で前進しているとき
  - 自車と前方車との相対速度が約 15 km/h 以上のとき
  - DSC が作動していないとき

知識

- 次のような状態のときは、SBS が作動しないときがあります。
  - 前方車と部分的な接触の可能性があるとき
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - 前方車のテールランプ (尾灯/制動灯など) が消灯しているとき
  - 前方車にテールランプ (尾灯/制動灯など) が装備されていないとき
  - 急なアクセルペダル操作をしているとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - ハンドルを操作しているとき
  - セレクトレバーを操作しているとき
  - 方向指示器を操作しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC)/レーダーセンサー (フロント) に関する警告や汚れのメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されているとき
- システムの作動対象は 4 輪車両ですが、次のような検知対象物は、レーダーセンサー (フロント) が障害物と判断し、SBS が作動する場合があります。
  - カーブ入り口に路側物があるとき (ガードレール、雪壁等も含む)
  - コーナーを曲がるときやカーブですれ違うときに対向車両があるとき
  - 狭い鉄橋を通るとき
  - 低いゲートやトンネル、狭いゲートなどを通過するとき
  - 地下駐車場の入り口などに侵入するとき
  - 路面上に金属物、段差または突起物があるとき
  - 前方車に急接近したとき
  - 背の高い草むらなどを走行するとき
  - バイク、自転車などの 2 輪車
  - 歩行者、立ち木など
- システムが作動しているときは、運転者にマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示で知らせます。
- システムが故障しているときは、SBS 警告表示 (橙) が表示されます。
→ 663 ページ「処置する」

衝突警報

ブレーキ！

前方車と衝突する可能性がある場合、警報音が「ピピピピピ・・・」と鳴り続け、アクティブ・ドライビング・ディスプレイ、またはマルチインフォメーションディスプレイに警報が表示されます。

知識

衝突警報の作動距離や音量を変更できます。
→693 ページ「安全装備」

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を停止させるには

SBS を作動しないようにできます。
→693 ページ「安全装備」

SBS を作動しないようにすると、SBS OFF 表示灯が点灯します。

知識

- SBS を作動しないようにすると、アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) も作動しなくなります。

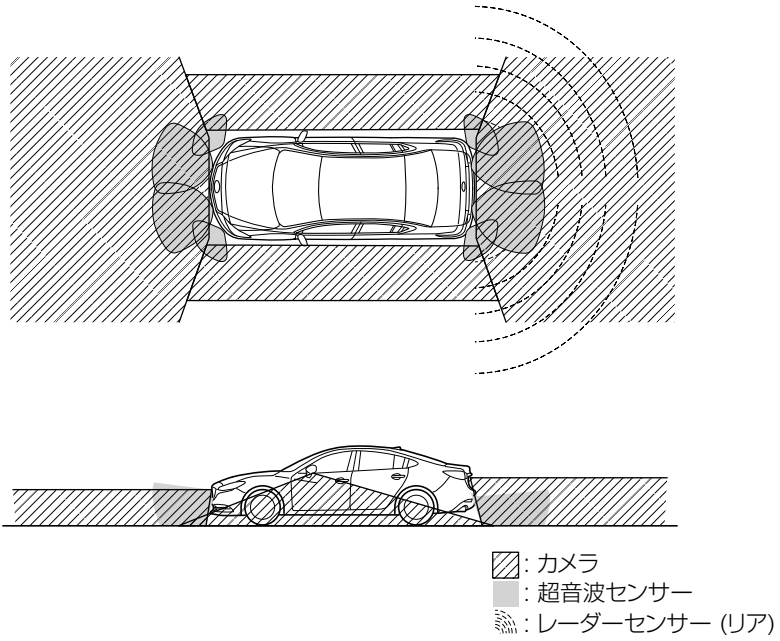
360° ビュー・モニターとは グレード/仕様別装備

360° ビュー・モニターは次のシステムで構成されており、センターディスプレイの表示や各種警報により、低速走行時や駐車時に車両周辺の確認を支援するシステムです。

- トップビュー
  車両の前後左右にある 4 つのカメラの映像を組み合わせ、車両を真上から見たイメージをセンターディスプレイに表示します。トップビューは、フロントビュー、またはリアビュー画面を表示しているときに、画面左側に表示します。車両の前進時、または後退時に車両周辺の確認を補助するシステムです。
- フロントビュー/フロントワイドビュー
  センターディスプレイに車両前方の映像を表示します。
  表示した車両前方の映像上にガイド線を映し出すことで、車両前方の確認を補助するシステムです。
- サイドビュー
  センターディスプレイに車両左右前側面の映像を表示します。
  表示した車両左右前側面の映像上にガイド線を映し出すことで、車両側面の確認を補助するシステムです。

- リアビュー/リアワイドビュー
  センターディスプレイに車両後方の映像を表示します。
  表示した車両後方の映像上にガイド線を映し出すことで、車両後方の確認を補助するシステムです。
- パーキングセンサー
  トップビュー/サイドビュー表示中、車両周辺に障害物がある場合、センターディスプレイに検知表示を表示します。
  車庫入れや縦列駐車など低速走行時に、超音波センサーで検出した車両周辺の障害物とのおおよその距離を、ブザーおよび検知表示により運転者に知らせるシステムです。
  →399 ページ「パーキングセンサー」
- リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA)
  リアビュー/リアワイドビュー表示中、車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、センターディスプレイに警告を表示します。
  自車の後方に接近する車両の存在をレーダーセンサー (リア) で検知し、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅および警報チャイムで知らせることにより、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。
  →286 ページ「リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは」

360° ビュー・モニター範囲



⚠警告

必ず車両周辺の安全をミラーや目視で直接確認しながら運転する。

必ず守る **360° ビュー・モニターはあくまでも車両周辺の安全を確認するための補助装置です。**
カメラの撮影範囲やセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラの映像のつなぎ目は死角となり対象物が映らない場合があります。また、車幅延長線および予想進路線などはあくまで目安であり、画面に映し出されている映像は、実際の状況とは異なる場合があります。

⚠注意

禁止 **次のような状況では危険ですので、360° ビュー・モニターを使用しないでください。**

- **凍結した滑りやすい路面や雪道**
- **タイヤチェーン、応急用スペアタイヤを使用しているとき**
- **フロントドアやトランク、リアゲートが完全に閉まっていないとき**
- **坂道などの平坦でない道路**
- **ドアミラーを格納しているとき**

禁止 **フロント/リアカメラ部、フロントバンパー、ドアミラーに強い衝撃を与えないでください。カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。**

禁止 **カメラ部は防水構造となっていますので、分解・改造・取りはずしをしないでください。**

禁止 **カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤・有機溶剤・ワックス・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。**

禁止 **カメラのレンズを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどでみがいたりしないでください。カメラのレンズが傷つき、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。**

必ず守る **フロント/リアカメラ部、フロントバンパー、ドアミラー付近を修理、塗装、交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。**

必ず守る **360° ビュー・モニターを正常に作動させるために次の点をお守りください。**

- **サスペンションの改造を行なわないでください。**
- **前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。**

i-ACTIVSENSE について

⚠注意

ディスプレイが冷えているときは、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなり、車両周辺の状況を確認しにくくなる場合があります。必ず前方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

360°ビュー・モニターを使って駐・停車する方法は、道路事情、路面状況、自車の状況によって違います。ハンドル操作のタイミング、操作量は状況によって異なりますので、周囲を直接確認しながら状況に合わせた操作を行なってください。また、操作を行なう前は、必ず駐・停車スペースに車両が駐・停車できるかを確認してください。

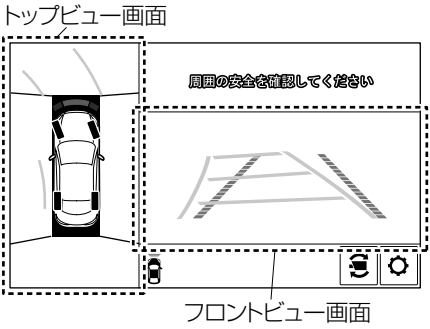
知識

- カメラのレンズに水滴や雪、泥などがついているときは、やわらかい布などでふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。
- 接触事故などでトランク、リアゲート、ドアミラーなどカメラ取り付け位置周辺に衝撃が加わったときは、カメラ (位置、取り付け角度) がずれているおそれがあります。必ずマツダ販売店で確認を行なってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化をあたえると 360°ビュー・モニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの電圧が低いときやアイドリングストップ状態からエンジンが再始動するときは画面が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。
- 360°ビュー・モニターには限界があります。バンパーの下にあるものやバンパーの両端付近は映りません。
- カメラの映像範囲よりも上にある障害物については表示されません。
- 次のような状況では、画面が見えにくくなることがありますが、故障ではありません。
  - レンズ付近の温度が高い/低いとき
  - 雨天時など、カメラに水滴がついたときや湿度が高いとき
  - カメラ付近に泥などの異物がついたとき
  - 太陽やヘッドランプなど高輝度な光がカメラのレンズに直接当たったとき
- 360°ビュー・モニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離間隔は実際の距離とは異なります。
- 人や障害物などが実際とは異なって表示されることがあります。 (倒れているように表示されたり、実際より長く、または大きく表示されることがあります)
- カメラやその周辺にステッカーを貼り付けたり、アクセサリー用品、字光式ナンバープレートなどを取り付けないでください。カメラが周囲の状況を正確に映し出さなくなります。

画面に表示できる映像の種類

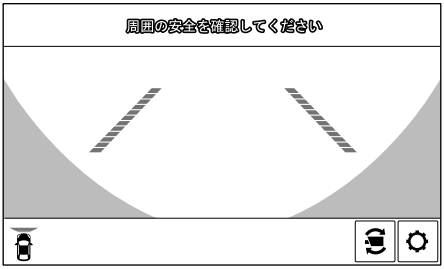
トップビュー/フロントビュー

車両周辺および車両前方の映像を表示します。



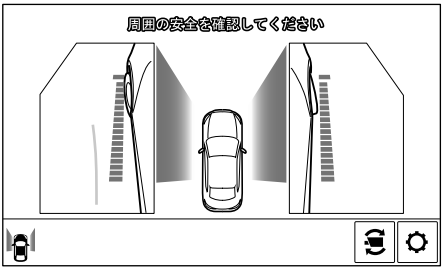
フロントワイドビュー

車両前方 (広域) の映像を表示します。



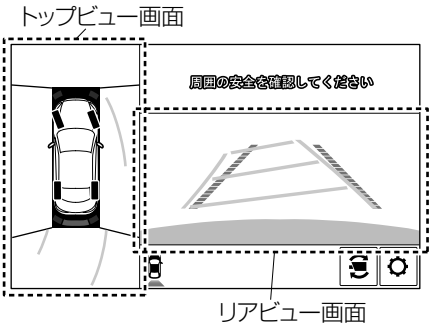
サイドビュー

車両左右前側面の映像を表示します。



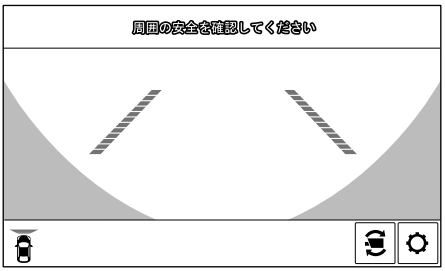
トップビュー/リアビュー

車両周辺および車両後方の映像を表示します。



リアワイドビュー

車両後方 (広域) の映像を表示します。



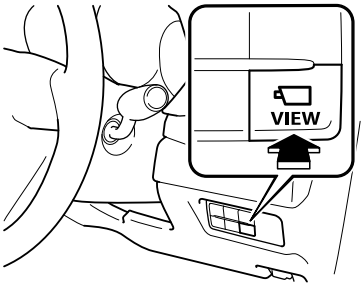
使用するとき

トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビュー

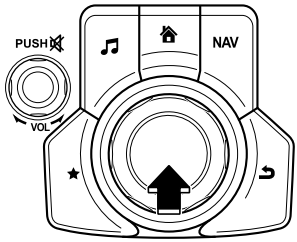
表示

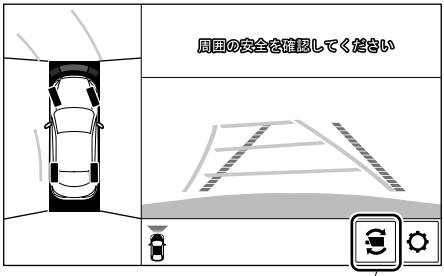
次の条件をすべて満たしているときに 360° ビュー・モニター・スイッチを押すと画面に映像を表示します。

- 電源ポジションが ON のとき
- チェンジレバー/セレクトレバーを R 以外の位置にしているとき



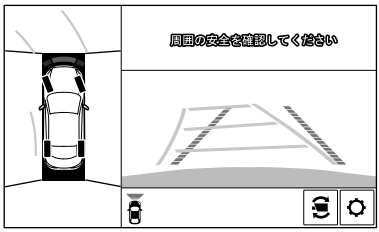
表示の切り替え
トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビューの表示中にコマンダーノブを押す、または画面のカメラ切り替えアイコンにタッチすることで、表示する画面を切り替えることができます。



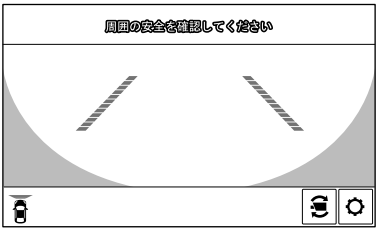


カメラ切り替えアイコン

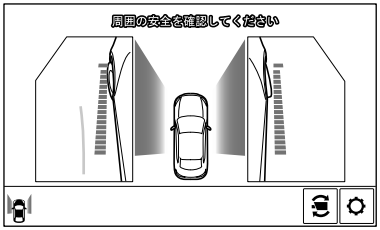
トップビュー/フロントビュー



フロントワイドビュー



サイドビュー



知識

- チェンジレバー/セレクトレバーがRの位置のときは、トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、およびサイドビューに切り替わりません。

知識

- 表示条件を満たしていても、次のいずれかの場合はトップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビューの表示を終了します。
  - コマンダーノブ周囲のスイッチを押したとき
  - **(マニュアル車)**
    - 電動パーキングブレーキをかけたとき
  - **(オートマチック車)**
    - セレクトレバーを P の位置にしたとき (セレクトレバーが P の位置以外のときに表示させた場合)
  - **(車速が 15 km/h 未満のときに表示させた場合)**
    - 4 分 30 秒経過したとき
    - 車速が約 15 km/h 以上になったとき
  - **(車速が約 15 km/h 以上のときに表示させた場合)**
    - 360°ビュー･モニター･スイッチを操作して 8 秒経過したときに、車速が約 15 km/h 以上のとき
    - 360°ビュー･モニター･スイッチを操作して 8 秒経過したときに、車速が 15 km/h 未満のときは、その時点から 4 分 22 秒経過したとき
- 360°ビュー･モニターは、前回表示していた画面を表示します。
- 360°ビュー･モニターの設定を次のように変更することができます。→693 ページ「安全装備」
  - 超音波センサーが障害物を検知したときの 360°ビュー･モニター自動表示
  - 電源ポジションを ON にしたときの 360°ビュー･モニター自動表示

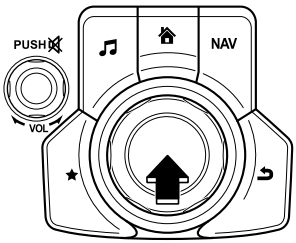
トップビュー/リアビュー、リアワイドビュー

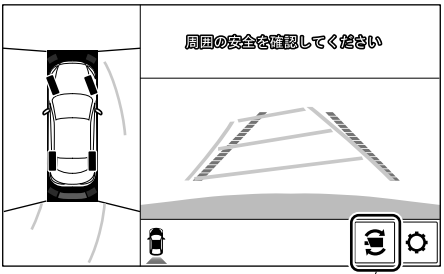
次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 電源ポジションが ON のとき
- チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にしているとき

表示の切り替え

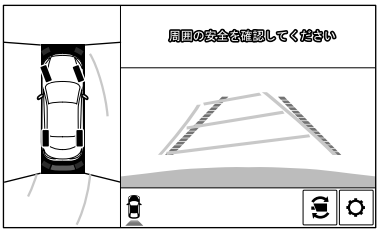
トップビュー/リアビュー、リアワイドビューの表示中にコマンダーノブを押す、または画面のカメラ切り替えアイコンにタッチすることで、表示する画面を切り替えることができます。



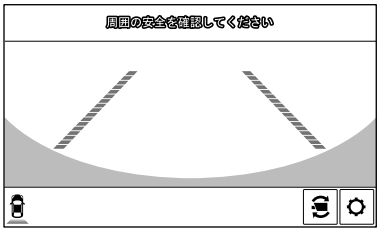


カメラ切り替えアイコン

トップビュー/リアビュー



リアワイドビュー



知識

- トップビュー/リアビュー、リアワイドビューは、360° ビュー・モニター・スイッチの ON/OFF にかかわらず、チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にすると自動的に表示されます。
- 縦列駐車時などに、360° ビュー・モニター・スイッチを操作しなくても、前方の確認ができるよう、後退から前進へシフトチェンジしたとき、トップビュー/フロントビューを表示するように設定を変更できます。
→693 ページ「安全装備」

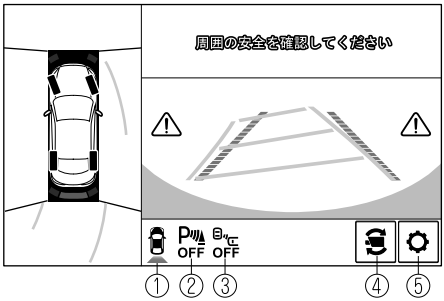
画面操作/アイコン

⚠警告

360°ビュー･モニターの画質調整は必ず車両停止中に行う。

必ず守る **運転中に 360°ビュー･モニターの画質を調整しないでください。車両走行中に､明るさ､コントラスト､色の濃さ､および色合いなど 360°ビュー･モニターの画質調整を行うと､車両操作の妨げになり思わぬ事故につながるおそれがあります。**

（表示例）



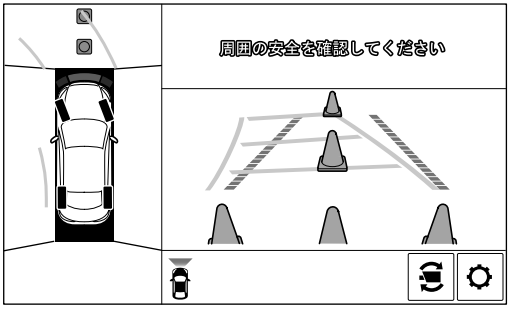
	表示/アイコン	内容
①	ビューステータスアイコン	フロントビュー/フロントワイドビュー/サイドビュー/リアビュー/リアワイドビューのうち、どの映像を表示しているかを示します。
②	パーキングセンサーステータスアイコン	パーキングセンサーに異常があるとき､またはOFF であることを示します。
③	リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) ステータスアイコン	レーダーセンサー (リア) に異常があるとき､または OFF であることを示します。
④	カメラ切り替えアイコン	画面にタッチするごとに表示画面を切り替えます。
⑤	設定アイコン	360°ビュー･モニター画面の画質を調整できます。

トップビュー/フロントビュー

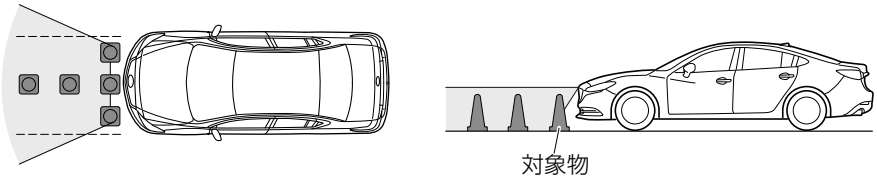
発進時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

表示範囲

（画面の状況）



（実際の状況）

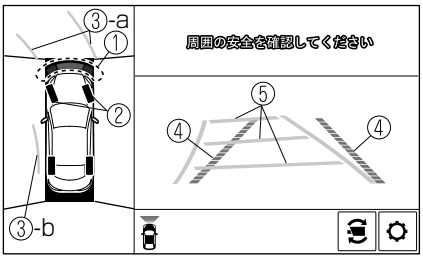


知識

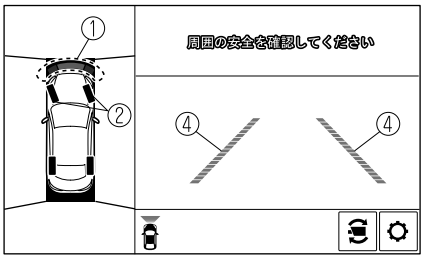
- トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
- トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  - いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲映すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります
  - フロントビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  - 車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  - 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  - いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方

（予想進路線表示ONのとき）



（予想進路線表示OFFのとき）



	表示/アイコン	内容
①	パーキングセンサービュー	パーキングセンサーが ON のとき、パーキングセンサーの検知状態を表示します。 詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。 →399 ページ「パーキングセンサー」
②	タイヤアイコン	タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
③	予想進路線 (橙色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) フロントバンパーの端が通過する目安を示すライン b) 車両の内側が通過する目安を示すライン
④	車幅延長線、距離目安線 (赤色/青色)	車幅の延長の目安、車両前方の距離 (バンパー前端から) を示します。 ● 赤色のラインはフロントバンパー前端から約 0.5 m 先までを示します。 ● 青色のラインはフロントバンパー前端の約 0.5 m 先から約 2 m 先までを示します。
⑤	予想進路距離目安線 (赤色/橙色)	車両前方の距離 (バンパー前端から) を示します。 ● 赤色のラインはフロントバンパー前端から約 0.5 m 先を示します。 ● 橙色のラインはフロントバンパー前端から約 1 m と約 2 m 先を示します。

⚠注意

必ず守る

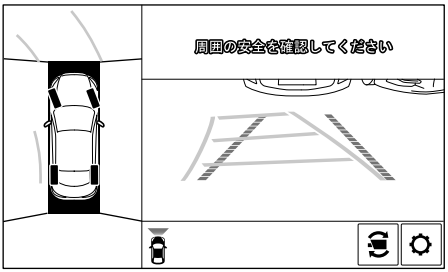
パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば､側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
→399 ページ「パーキングセンサー」

知識

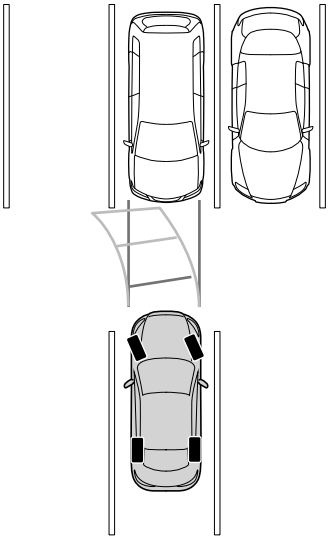
予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
→693 ページ「安全装備」

予想進路線の使用方法

（画面の状況）



（実際の状況）



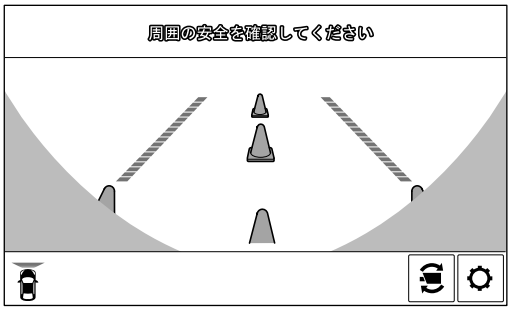
予想進路線が障害物にかかっていないことを確認します。
予想進路線が障害物にかからないようハンドルを操作して前進します。

フロントワイドビュー

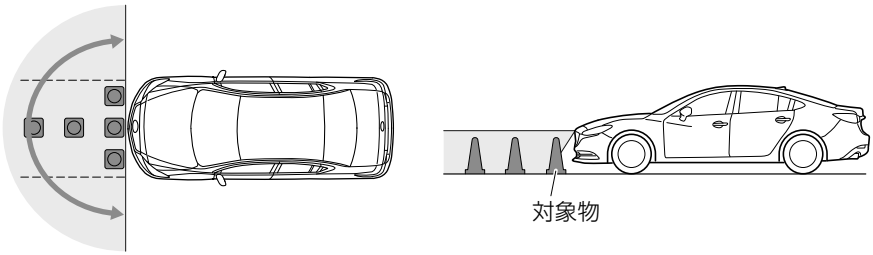
発進時、またはＴ字路や交差点への進入時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

表示範囲

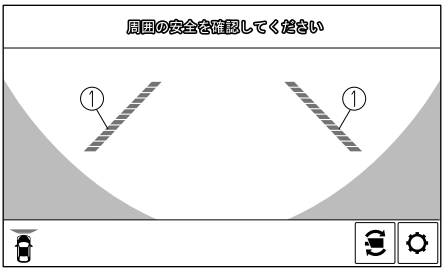
（画面の状況）



（実際の状況）



画面の見方



	表示/アイコン	内容
①	車幅延長線、距離目安線 (赤色/青色)	車幅の延長の目安、車両前方の距離 (バンパー前端から) を示します。 • 赤色のラインはフロントバンパー前端から約 0.5 m 先までを示します。 • 青色のラインはフロントバンパー前端の約 0.5 m 先から約 2 m 先までを示します。

知識

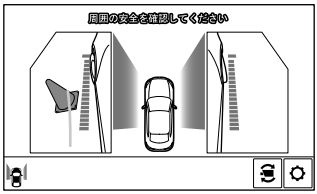
- パーキングセンサーの検知表示は表示されません。パーキングセンサーのブザーが吹鳴した場合は、画面表示をトップビュー/フロントビュー、またはサイドビュー表示に切り替えてください。
- フロントワイドビュー画面は、車両の前方を広角にとらえて表示し、側方から接近する対象物を発見しやすくする目的で映像を補正しています。そのため、実際の見え方とは異なります。

サイドビュー

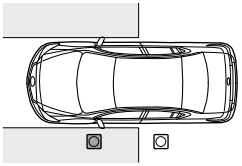
発進時、または駐·停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

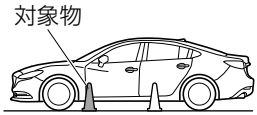
表示範囲

（画面の状況）



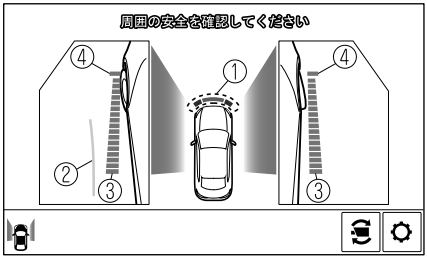
（実際の状況）



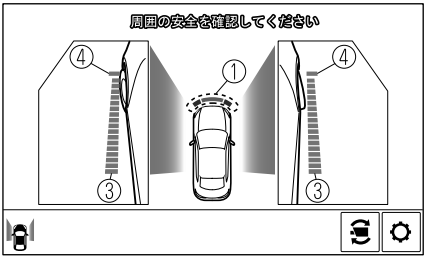


画面の見方

（予想進路線表示ONのとき）



（予想進路線表示OFFのとき）



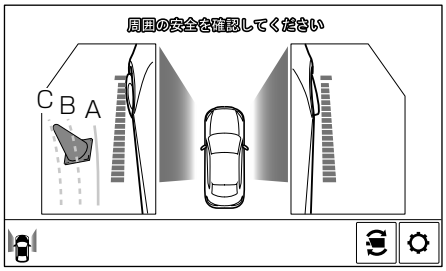
	表示/アイコン	内容
①	パーキングセンサービュー	パーキングセンサーが ON のとき、パーキングセンサーの検知状態を表示します。 詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。 →399 ページ「パーキングセンサー」
②	予想進路線 (橙色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 予想進路線 (橙色) は車両の内側が通過する目安を示すラインです。
③	車両平行線 (青色)	ドアミラーを含んだ車幅の目安を示します。
④	車両前端線 (青色)	車両の最前端 (バンパー先端) から約 0.25 m 先を示します。

知識

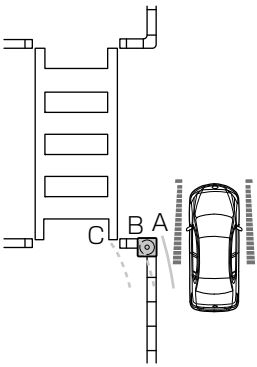
予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
→693 ページ「安全装備」

予想進路線の使用方法

（画面の状況）



（実際の状況）



i-ACTIVSENSE について

予想進路線が障害物にかかっていないことを確認します。
予想進路線が障害物の内側 (A) になるハンドル操作量を保持して車両が障害物を通り過ぎるまで前進します。
予想進路線が障害物上にあるとき (B) や障害物の外側 (C) にあるときは、小回りをすると障害物に触れる可能性があります。

⚠ 注意

パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
→399 ページ「パーキングセンサー」

必ず守る

サイドビューの映像から障害物が見えなくなっても車両が障害物を通り過ぎるまでハンドルを切り足さないでください。ハンドルを切り足すと小回りすることになり障害物に接触する可能性があります。

禁止

知識

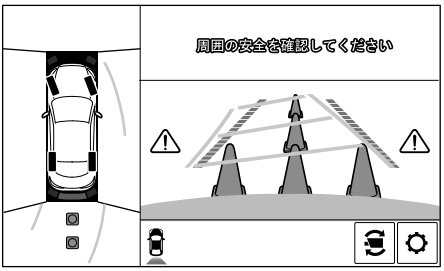
画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ずミラーや目視で周囲の安全を確認しながら運転してください。
画面に映し出されている路肩の縁石や駐車スペースの区画線などの目標物と車両平行線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

トップビュー/リアビュー

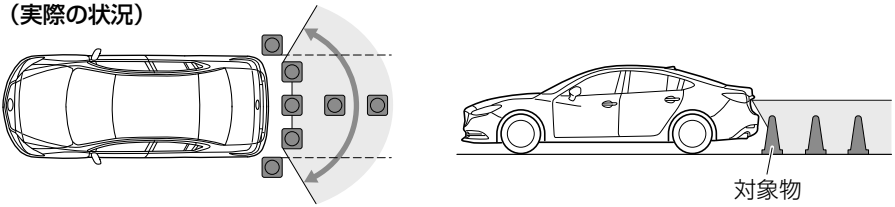
後退時、または駐·停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

画面に映しだされる範囲

（画面の状況）



（実際の状況）

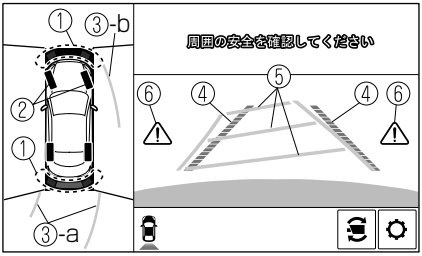


知識

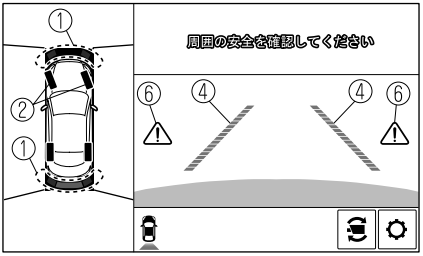
- トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
- トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  - いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
  - リアビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  - 車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  - 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  - いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方

（予想進路線表示ONのとき）



（予想進路線表示OFFのとき）



	表示/アイコン	内容
①	パーキングセンサービュー	パーキングセンサーが ON のとき、パーキングセンサーの検知状態を表示します。 詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。 →399 ページ「パーキングセンサー」
②	タイヤアイコン	タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
③	予想進路線 (橙色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) 後輪が通過する目安を示すライン b) 車両の外側が通過する目安を示すライン
④	車幅延長線、距離目安線 (赤色/青色)	車幅の延長の目安、車両後方の距離 (バンパー後端から) を示します。 ● 赤色のラインはリアバンパー後端から約 0.5 m 先までを示します。 ● 青色のラインはリアバンパー後端の約 0.5 m 先から約 2 m 先までを示します。
⑤	予想進路距離目安線 (赤色/橙色)	車両後方の距離 (バンパー後端から) を示します。 ● 赤色のラインはリアバンパー後端から約 0.5 m 先を示します。 ● 橙色のラインはリアバンパー後端から約 1 m と約 2 m 先を示します。

	表示/アイコン	内容
⑥	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯	リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) が作動した場合に表示します。 詳細はリア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) とはを参照してください。 →286 ページ「リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) とは」

知識

予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
→692 ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

予想進路線の使用方法

注意

必ず守る

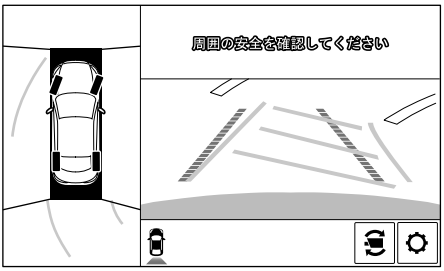
- **後退時にハンドル操作を行うと､車両の先端が外側に大きく振れます。車両と障害物の間は十分な間隔を保ってください。**
- **パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば､側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。**
  詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
  →399 ページ「パーキングセンサー」

知識

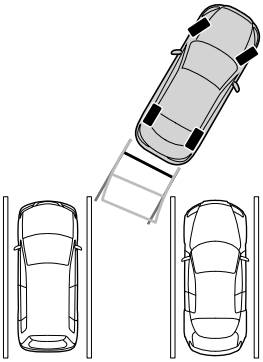
- 駐車するときは､次のように画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので､必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
  - 画面に映し出される駐車スペース (車庫など) の後端と距離目安線が平行に見えていても､実際には平行ではないことがあります。
  - 駐車場の区画線が片側しかないときは､区画線と車幅延長線が平行に見えていても､実際には平行ではないことがあります。
- 次に示す状況は､ハンドルを右側にまわして後退し､駐車する例を示しています。逆方向から後退し駐車するときは､左右が逆になります。

1. 車両が駐車スペースの中に入るようにハンドル操作を行ない後退します。

（画面の状況）

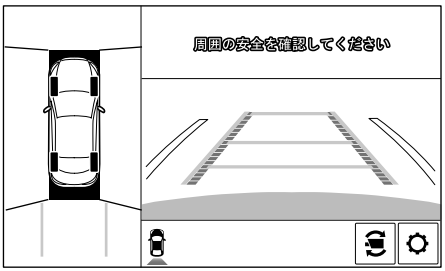


（実際の状況）

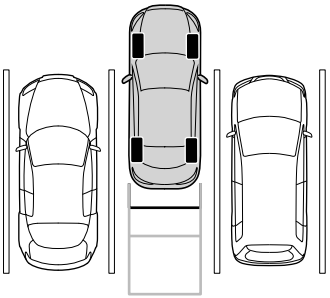


2. 車両が駐車スペース内に入ったら、車幅延長線と駐車スペース左右の間隔が、車両付近の位置で同じくらいになるようにハンドルを操作して、ゆっくり後退します。
3. 車幅延長線と駐車スペースが平行になったら、ハンドルを直進状態にして、ゆっくり後退します。周囲の状況を十分に確認し、最適な位置で停止します。（駐車スペースに区画線がある場合は区画線と車幅延長線が平行になったとき）

（画面の状況）



（実際の状況）

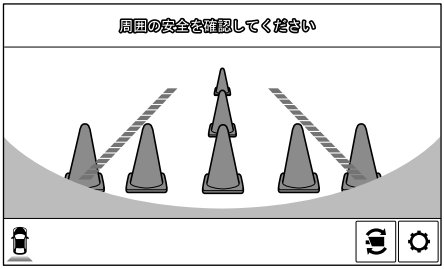


リアワイドビュー

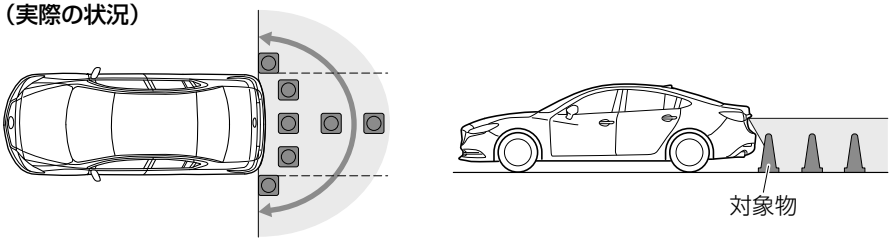
後退時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

画面に映しだされる範囲

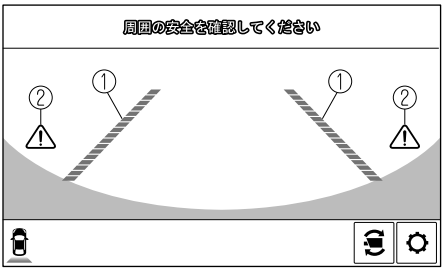
（画面の状況）



（実際の状況）



画面の見方



	表示/アイコン	内容
①	車幅延長線、距離目安線 (赤色/青色)	車幅の延長の目安、車両後方の距離 (バンパー後端から) を示します。 ● 赤色のラインはリアバンパー後端から約 0.5 m 先までを示します。 ● 青色のラインはリアバンパー後端の約 0.5 m 先から約 2 m 先までを示します。
②	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯	リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) が作動した場合に表示します。 詳細はリア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) とはを参照してください。 →286 ページ「リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) とは」

知識

- パーキングセンサーの検知表示は表示されません。パーキングセンサーのブザーが吹鳴した場合は、画面表示をトップビュー/リアビュー表示に切り替えてください。
- リアワイドビュー画面は、車両の後方を広角にとらえて表示し、側方から接近する対象物を発見しやすくする目的で映像を補正しています。そのため、実際の見え方とは異なります。

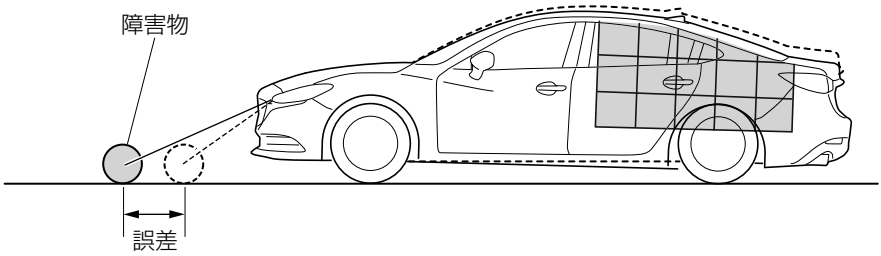
画面上の路面と実際の路面の誤差

画面上の路面と実際の路面とでは誤差が生じます。距離感の誤差は事故につながるおそれがありますので、次のような誤差の起こりやすい状況を確認しておいてください。

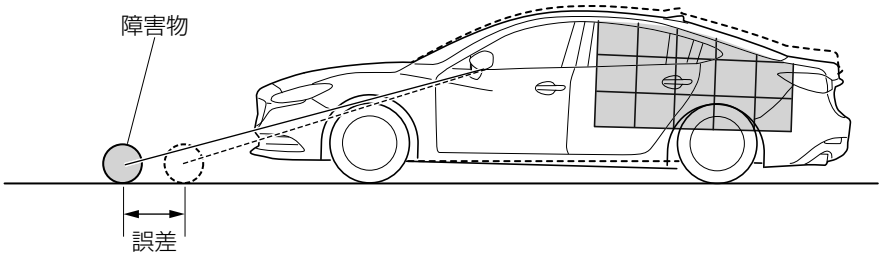
人や荷物の重みで車が傾いているとき

車両が傾いているときは、カメラに映る障害物は車体からの距離が実際の位置と違って見えます。

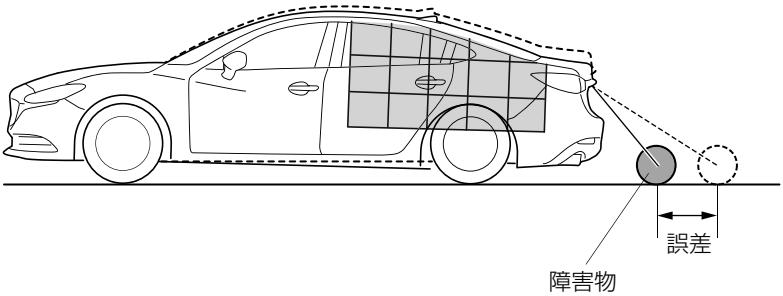
フロントカメラ



サイドカメラ



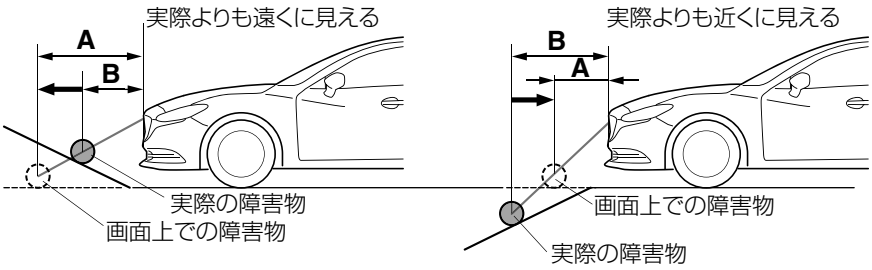
リアカメラ



車両前方、または後方に勾配の急な上り坂や下り坂があるとき

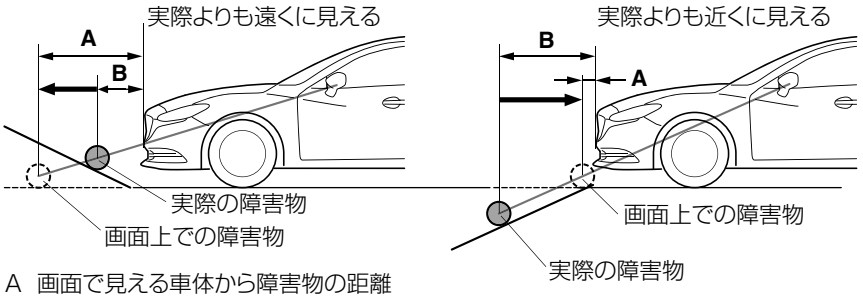
車両前方、または後方に勾配の急な上り坂 (下り坂) があるときは、カメラに映る障害物は車体からの距離が実際よりも遠く (近く) にあるように見えます。

フロントカメラ



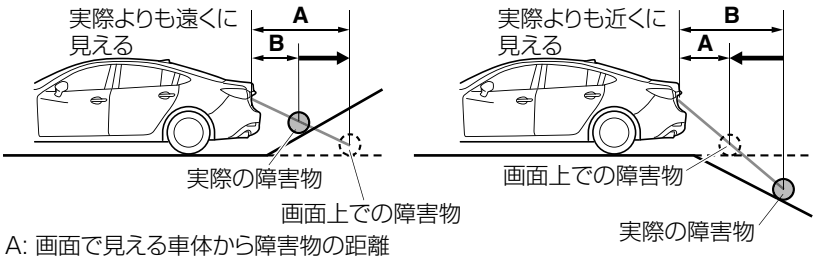
A 画面で見える車体から障害物の距離
B 車体から障害物の実際の距離離

サイドカメラ



A 画面で見える車体から障害物の距離
B 車体から障害物の実際の距離離

リアカメラ



A: 画面で見える車体から障害物の距離
B: 車体からの障害物の実際の距離

知識

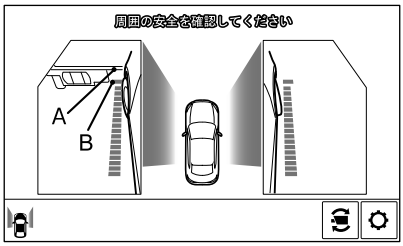
車両が坂にある場合でも同じように誤差が生じます。

車両前方、または後方に立体物があるとき

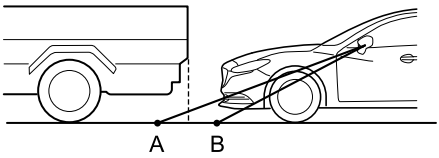
車両前端線 (サイドカメラ)、または距離目安線 (リアカメラ) は水平な路面を基準に表示されているため、画面に映っている立体物との距離は実際とは異なります。

サイドカメラ

（画面の状況）

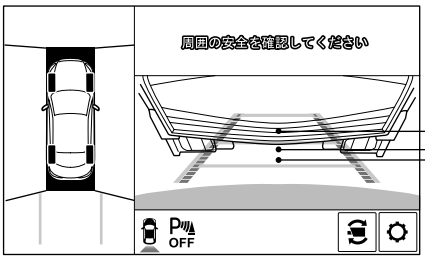


（実際の状況）



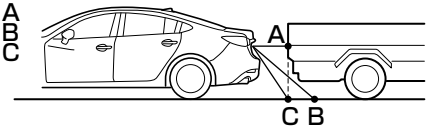
リアカメラ

（画面の状況）



画面上の距離感 A>B>C

（実際の状況）



実際の距離 B>C=A

こんなときは

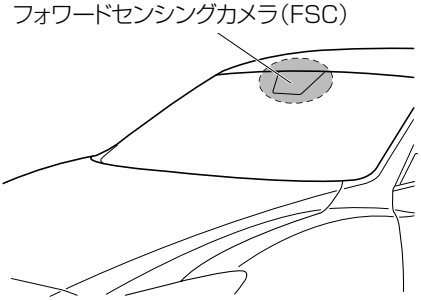
センターディスプレイの表示	原因	処置方法
「映像信号を受信できません。」と表示される。	制御ユニットの故障が考えられます。	マツダ販売店で点検を受けてください。
画面が真っ暗で何も映らない。	カメラなどの故障が考えられます。	

フォワードセンシングカメラ (FSC) について

この車両にはフォワードセンシングカメラ (FSC) が装備されています。フォワードセンシングカメラ (FSC) は次のシステムが共用しています。

- ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)
- アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)
- 車線逸脱警報システム
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム
- 交通標識認識システム (TSR)
- ドライバー･アテンション･アラート (DAA)
- アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)
- AT 誤発進抑制制御 [前進時]
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))

フォワードセンシングカメラ (FSC) は､夜間走行時に前方の状況を判断したり､車線表示を検知したりしています。フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を認識できる距離は､周囲の状況により異なります。
フォワードセンシングカメラ (FSC) はルームミラー付近に設置されています。



⚠警告

サスペンションを改造しない

禁止

車高や車の傾きが変わると前方車や障害物を正しく検知できないため､システムが正常に作動しなくなったり､誤って作動し､重大な事故につながるおそれがあります。

⚠注意

正しい作動のため、次のことをお守りください。

必ず守る

- **フォワードセンシングカメラ (FSC) を取外さないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) のカバーを外さないでください。**
- **インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かないでください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスにアクセサリ、ステッカーやフィルムを貼らないでください。フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズの前方に妨げとなるものがあると、透明なステッカーでも誤作動の原因となります。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスは、汚れたり曇ったりしないように常に綺麗な状態にしてください。曇ったときは、曇り取りスイッチを押してガラスの曇りを取ってください。**
- **フロントガラスの手入れをするときは、ガラスクリーナーなどが、フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズに付着しないようにしてください。また、フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズには触れないでください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 前方のフロントガラス内側の清掃はマツダ販売店にご相談ください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズを汚したり、傷をつけたりしないでください。また、分解などもしないでください。故障、誤動作の原因になります。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体周辺の修理を行うときは、マツダ販売店にご相談ください。**
- **ルームミラー周辺の修理を行うときはマツダ販売店にご相談ください。**
- **カメラのレンズの手入れは、マツダ販売店にご相談ください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。万一、衝撃が加わった場合は、ハイ・ビーム・コントロール システム (HBC)、アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)、車線逸脱警報システム、レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム、交通標識認識システム (TSR)、ドライバー・アテンション・アラート (DAA)、アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS)、AT 誤発進抑制制御 [前進時]、スマート・ブレーキ・サポート (SBS)、およびマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の使用を中止しマツダ販売店にご相談ください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) の向きは厳密に調整されていますので、フォワードセンシングカメラ (FSC) の取り付け位置を変更したり、取り外したりしないでください。故障、誤動作の原因になります。**

i-ACTIVSENSE について

⚠注意

必ず守る **4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、フォワードセンシングカメラ (FSC) が正常に作動しなくなるおそれがあります。**

必ず守る **フォワードセンシングカメラ (FSC) は、ガラスの汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋や氷、雪などが付着した場合など、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは前方車を正しく判断できず、正しい制御ができないおそれがあります。常に前方を注意して運転してください。**

知識

- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、次のすべての条件を満たしたときに歩行者を認識します。
  - 歩行者が身長約 1 m～2 m のとき
  - 頭部、両肩、脚などの輪郭が判別できるとき
- 次のようなときはフォワードセンシングカメラ (FSC) が歩行者と認識できない場合があります。
  - 複数人で歩いているとき、集団でいるとき
  - 別の障害物の近くにいるとき
  - 歩行者がしゃがんでいる、横たわっている、前かがみになっているとき
  - 歩行者が急に目の前に飛び出してきたとき
  - 歩行者が傘をさしている、大きな荷物を持っているなど、何かを持っているとき
  - 夜間などに暗い場所にいる、背景と近い色の服を着ているなど背景に溶け込んでいるとき
- 次のような場合は、フォワードセンシングカメラ (FSC) が正確に対象物を検知できず、各システムが正常に作動しない場合があります。
  - 前方車が車高の低い車両のとき
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき

知識

- 次のような場合は、フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できないことがあります。
  - 雨·霧·雪など天候が悪いとき
  - ウィンドーウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき
  - フロントガラスに氷、曇り、雪、霜、雨滴、汚れ、ビニールなどの異物が付着しているとき
  - 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
  - 模様のない壁の横を走行しているとき (フェンスや縦じま模様の壁を含む)
  - 前方車のテールランプ (尾灯/制動灯など) が消灯しているとき
  - 前方車がヘッドランプの照射範囲外にいるとき
  - 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂を走行しているとき
  - トンネルの出入り口を走行しているとき
  - ルーフレールなどを装着してフォワードセンシングカメラ (FSC) をおおうような長尺物をのせたとき
  - 前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
  - 偏摩耗の著しいタイヤを装着して走行しているとき
  - 下り坂や凸凹な道路を走行しているとき
  - 路面に水たまりがあるとき
  - 夜間や夕方、朝方、トンネルや屋内の駐車場など周囲が暗いとき
  - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているときなどヘッドランプの明るさが十分でないとき
  - 対象物がフォワードセンシングカメラ (FSC) の死角にいるとき
  - 対象物が横から飛び出したり、目の前に割り込んだとき
  - 自車が車線変更をして対象物に接近したとき
  - 対象物との距離が極端に近い状態で走行しているとき
  - タイヤチェーン·応急用スペアタイヤを使用しているとき
  - 他の車をけん引しているとき
  - 重い荷物の積載などにより車が傾いているとき
  - 前方に強い光を受けたとき (逆光やヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
  - 車両前方にたくさんの光を発するものがあるとき
  - 前方車にテールランプ (尾灯/制動灯など) が装備されていないとき
  - キャリアカーなど、特殊な形状をした車両

知識

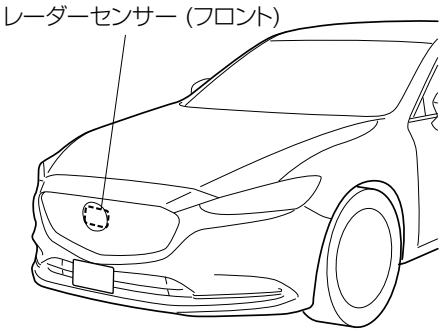
- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、逆光や霧などで正常に作動できない場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告灯/警告表示を点灯させますが、故障ではありません。
  - ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告灯
  - アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告灯
  - 車線逸脱警報システム警告表示
  - レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム警告表示
  - スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙)
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示
- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、高温で正常に機能できない場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告灯/警告表示を点灯させますが、故障ではありません。エアコンを作動させるなどしてフォワードセンシングカメラ (FSC) 周辺の温度を下げてください。
  - ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告灯
  - アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告灯
  - 車線逸脱警報システム警告表示
  - レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム 警告表示
  - スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙)
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示
- フォワードセンシングカメラ (FSC) が、ガラスの汚れや曇りを検知した場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告灯/警告表示を点灯させますが、故障ではありません。ガラスの汚れを取り除く、または、曇り取りスイッチを押してガラスの曇りを取ってください。
  - ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告灯
  - アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 警告灯
  - 車線逸脱警報システム警告表示
  - レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム警告表示
  - スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙)
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示
- 飛び石などでフロントガラスに傷などが認められるときは、フロントガラスを必ず交換してください。交換する際は、マツダ販売店にご相談ください。

レーダーセンサー (フロント) について グレード/仕様別装備

この車両にはレーダーセンサー (フロント) が装備されています。
レーダーセンサー (フロント) は次のシステムが共用しています。

- 車間認知支援システム
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)

レーダーセンサー (フロント) は､レーダーセンサー (フロント) から送信される電波が前方車や障害物に反射し､もどってきた電波を検知することで制御しています。
レーダーセンサー (フロント) はフロントのエンブレムの裏側に設置されています。



マルチインフォメーションディスプレイに「レーダー汚れレーダー前面を清掃してください」が表示されたときは､レーダー センサー (フロント) 付近を清掃してください。

⚠注意

必ず守る

各システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。

- **レーダーセンサー（フロント）付近のラジエーターグリル、およびエンブレム表面にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けたり、ラジエーターグリルおよびエンブレムをレーダーセンサー（フロント）用の正規品以外の物に取り換えたりしないでください。**
- **レーダーセンサー（フロント）は、センサー前面の汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋や氷、雪などが付着した場合などは、検出に時間がかかったり、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがありますので、センサーはいつもきれいにしておいてください。**
- **グリルガードなどを取り付けないでください。**
- **接触事故などでフロント部分を破損したときは、レーダーセンサー（フロント）の位置がずれることがあります。ただちにシステムの使用を中止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。**
- **駐車スペースなどから車両を出すときに、他の車両や障害物をフロントバンパーで押さないでください。レーダーセンサー（フロント）に荷重が加わり、位置がずれる可能性があります。**
- **レーダーセンサー（フロント）を取り外したり、分解、改造しないでください。**
- **レーダーセンサー（フロント）付近を修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。**
- **サスペンションを改造しないでください。サスペンションの改造をすると車の傾きが変わり、前方車や障害物を正しく検知できないことがあります。**

知識

- 次のようなときは、レーダーセンサー（フロント）が前方車や障害物を正確に検知できないことがあります。
  - 前方車が空荷のトレーラーや荷台を幌で囲った車両、樹脂製リアゲートの車両、丸い形状の車両など後面が電波を反射しにくい車両のとき
  - 前方車が車高の低い車両など電波を反射する面積が小さい車両のとき
  - 前方車が水、雪、砂などをまき上げて走行するなど前方の視界状況が悪いとき
  - トランク/ラゲッジルームや後席へ重い荷物をのせたとき
  - フロントのエンブレムの表面に氷や雪、汚れなどが付着しているとき
  - 雨、雪、砂嵐など天候が悪いとき
  - 強力な電波を発生させる施設や物体などの近くを走行しているとき

知識

- 次のような場合は、レーダーが隣の車線の車両や周辺の障害物を検知したり、前方車や障害物を検知できないことがあります。
  - カーブの始まりやカーブの終わり
  - カーブが連続する道路
  - 工事中や車線規制で車線幅の狭い道路
  - 前方車がレーダーセンサー (フロント) の死角にいるとき
  - 前方車が事故や故障で不安定な走行をしているとき
  - 上り坂、下り坂が繰り返される道路
  - 悪路、未舗装の道路を走行しているとき
  - 前方車との車間距離が極端に短いとき
  - 割り込みなどで急接近したとき
- システムが正常に作動しなくなるおそれがあるため、4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤや空気圧が著しく異なるタイヤを混ぜて使用しないでください。 (応急用スペアタイヤも含む)
- バッテリーが弱ってきた場合は、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 交通量が少なく、レーダーセンサー (フロント) が検知する前方車が少ない道路を走行すると、ディスプレイに「レーダー汚れレーダー前面を清掃してください」が一時的に表示されることがありますが異常ではありません。
- レーダーセンサー (フロント) は電波法の基準に適合しています。レーダーセンサー (フロント)に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、製品を分解および改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

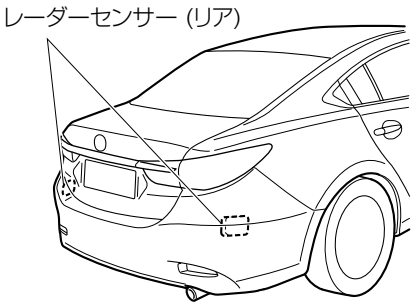
レーダーセンサー (リア) について

この車両にはレーダーセンサー (リア) が装備されています。レーダーセンサー (リア) は次のシステムが共用しています。

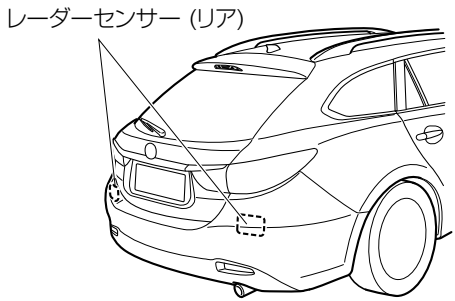
- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
- リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA)

レーダーセンサー (リア) は､レーダーセンサーから送信される電波が後方からの接近車両や障害物に反射し､もどってきた電波を検知することで制御しています。

セダン



ワゴン



レーダーセンサー (リア) は､リアバンパーの内側に左右 1 つずつ設置されています。
レーダーセンサー (リア) の正しい作動のため､レーダーセンサー (リア) 付近のリアバンパー表面は､いつもきれいにしておいてください。またステッカーなども貼り付けないでください。
→606 ページ「外装の手入れ」

⚠注意

必ず守る **リアバンパーに強い衝撃が加わったときは､システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちにシステムの使用を中止し､マツダ販売店で点検を受けてください。**

知識

- レーダーセンサー (リア) の検知性能には限界があります。次のような場合は検知性能が低下し､正常に作動しないことがあります。
  - レーダーセンサー (リア) 付近のリアバンパーが変形したとき
  - リアバンパーのレーダーセンサー (リア) 付近に氷､雪や泥が付着しているとき
  - 雨､雪､霧などの悪天候のとき

知識

- 次のような対象物は、レーダーセンサー (リア) が検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 小型の二輪車、自転車、歩行者、動物、ショッピングカート、道路上および道路端の静止物体
  - レーダーが反射しにくい形状の車両 (車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど)
- レーダーセンサー (リア) が接近車両を正しく検知するために、車両搭載状態でレーダーセンサー (リア) の向きを車両ごとに調整して出荷しています。レーダーセンサー (リア) の向きが何らかの原因でずれた場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサー (リア) の修理、交換およびレーダーセンサー (リア) 付近のバンパー修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。
- トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合は、システムを停止してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。
- レーダーセンサー (リア) は、日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

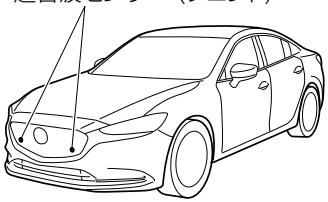
超音波センサー (フロント) について グレード/仕様別装備

この車両には超音波センサー (フロント) が装備されています。超音波センサー (フロント) は次のシステムが使用しています。

- AT 誤発進抑制制御 [前進時]

超音波センサー (フロント) は、超音波センサー (フロント) から送信される超音波が前方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。
超音波センサー (フロント) は、フロントバンパーに設置されています。

超音波センサー (フロント)



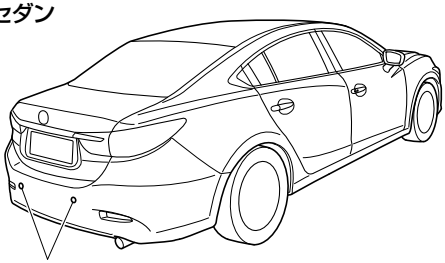
超音波センサー (リア) について

この車両には超音波センサー (リア) が装備されています。超音波センサー (リア) は次のシステムが共用しています。

- スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R)
- AT 誤発進抑制制御 [後退時]

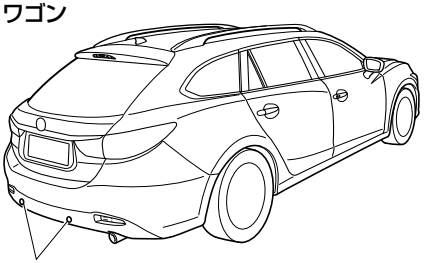
超音波センサー (リア) は、超音波センサー (リア) から送信される超音波が後方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。
超音波センサー (リア) は、リアバンパーに設置されています。

セダン



超音波センサー (リア)

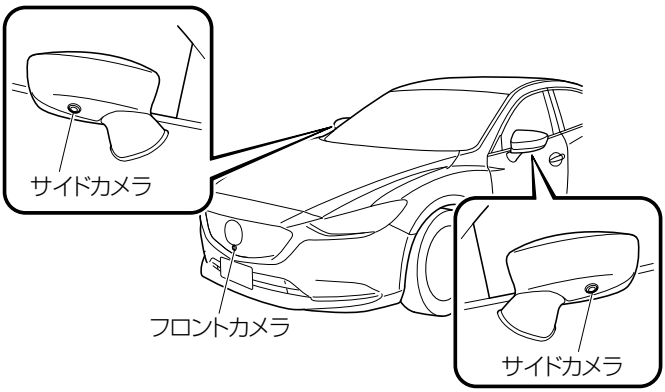
ワゴン

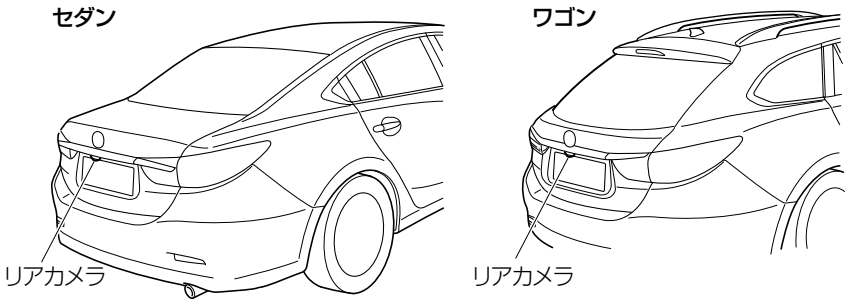


超音波センサー (リア)

フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ グレード/仕様別装備

この車両にはフロントカメラ、サイドカメラ、およびリアカメラが装備されています。各カメラは 360° ビュー・モニターで使用しています。
フロントカメラ、サイドカメラ、およびリアカメラは、車両周辺の映像を撮影します。
各カメラは、次の位置に設置されています。





クルーズコントロールについて

クルーズコントロールとは グレード/仕様別装備

アクセルペダルを踏まなくても車速を約 30～100 km/h の間に設定できる装置です。
高速道路、加速/減速の繰り返しが少ない自動車道などで使用してください。

⚠警告

禁止

次のような場所では使用しない。
思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路 (道路状況に合わせた走行はできません)**
- **急な下り坂 (エンジンブレーキが十分に効かず、セット速度をこえることがあります)**
- **凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります)**

表示

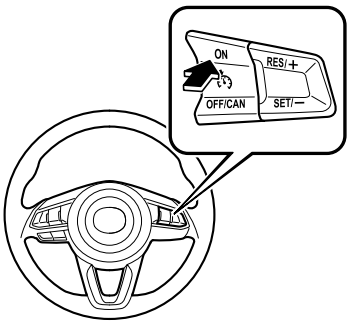
クルーズメイン表示 (白)

ON スイッチを押すと表示されます。
OFF/CAN スイッチを押すと非表示になります。

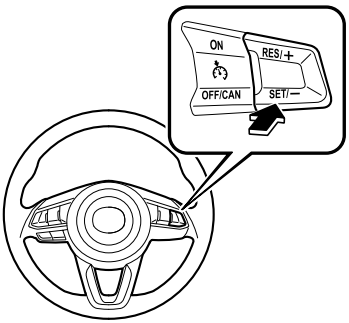
クルーズコントロール表示 (緑)

速度が設定されると表示されます。
OFF/CAN スイッチを押すと非表示になります。

設定するとき



1. ON スイッチを押すと速度の設定ができる状態になります。同時にメーター内のクルーズメイン表示 (白) が表示されます。



2. アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。
3. SET/－スイッチを押すと定速走行をはじめます。同時にメーター内のクルーズコントロール表示 (緑) が表示されます。クルーズコントロール表示 (緑) が表示されたら、すぐにスイッチから手を離します。

⚠警告

クルーズコントロールを使用しないときは、必ず OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと、誤ってクルーズコントロールを作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

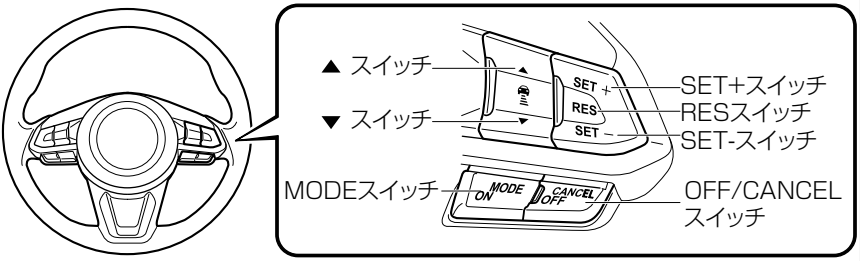
必ず守る

知識

- 次のときは、クルーズコントロールの速度設定ができません。
  - **(オートマチック車)**
    セレクトレバーが P または N レンジのとき
  - **(マニュアル車)**
    チェンジレバーがニュートラル位置のとき
  - パーキングブレーキをかけているとき
- 急な上り坂または下り坂など、走行条件によっては設定速度を一定に保てない場合があります。
- RES/＋スイッチを押したままにすると加速をはじめます。SET/－スイッチを押したままにすると減速をはじめます。

知識

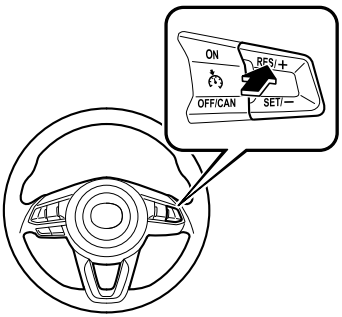
- 次のステアリングスイッチ形状の場合は、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) または、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) が装備されているため、次のページを参照してください。
  →290 ページ「マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) とは」
  グレード/仕様別装備
  →302 ページ「マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは」 グレード/仕様別装備



設定速度を上げるとき

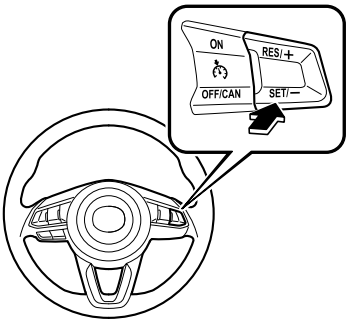
次の操作で設定速度を上げることができます。

スイッチで加速するとき



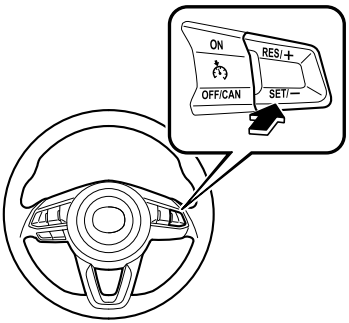
RES/＋スイッチを押したまま、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 上がります。

アクセルペダルで加速するとき



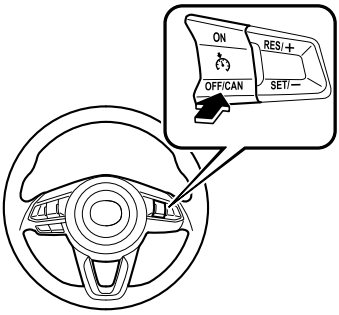
アクセルペダルを踏み、希望の速度になったところでSET/ースイッチを押します。
スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を離すと、もとの設定速度にもどります。

設定速度を下げるとき



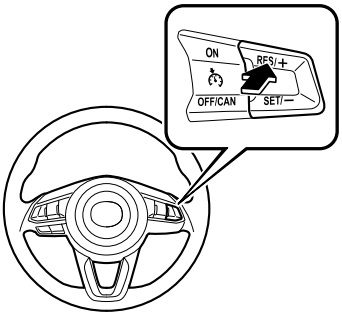
SET/ースイッチを押し続け、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節(約 1 km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 下がります。

解除するとき



OFF/CAN スイッチを長押し、または 2 回押すと、クルーズコントロールが解除され、クルーズコントロール表示 (緑) とクルーズメイン表示 (白) が非表示になります。

クルーズコントロールについて



次のようなときは、クルーズコントロールが解除されクルーズコントロール表示 (緑) が非表示になりますが、クルーズメイン表示 (白) は表示されたままです。車速が 30 km/h 以上であれば、RES/＋スイッチを押すと、もとの設定速度にもどります。

- OFF/CAN スイッチを押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- **(マニュアル車)**
  クラッチペダルを踏んだとき

知識

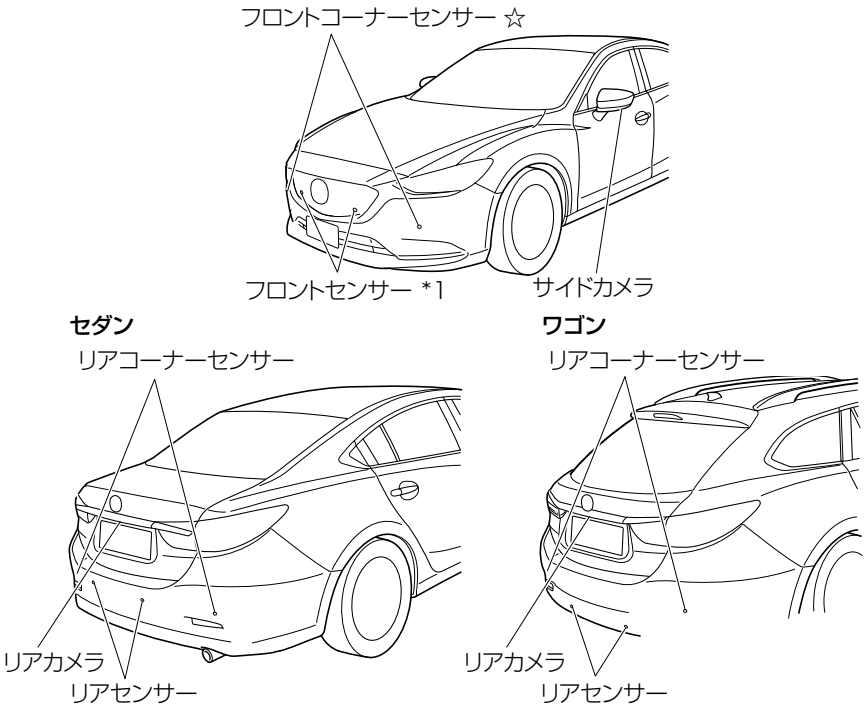
- 次のような状態になった場合も、クルーズコントロールシステムが一時的に解除されます。
  - パーキングブレーキをかけているとき
  - **(オートマチック車)**
    セレクトレバーが P または N レンジのとき
  - **(マニュアル車)**
    チェンジレバーがニュートラル位置のとき
- クルーズコントロールシステムが一時的に解除された場合、解除された条件にひとつでも該当する場合は、速度を再設定することが出来ません。
- 設定速度より、約 15 km/h 以上下がったとき、クルーズコントロールが解除されることがあります。
- 車速が 30 km/h 未満になると、クルーズコントロールが解除されます。この場合、車速を 30 km/h 以上にして RES/＋スイッチを押しても、もとの設定速度にはもどりません。クルーズコントロールを設定しなおしてください。
- **(オートマチック車)**
  クルーズコントロールを使用して走行しているときは、マニュアルモード (セレクトレバーを D から M レンジに操作) にしてもクルーズコントロールは解除されません。そのため、低速ギヤにシフトダウンしてもエンジンブレーキが効きません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。

駐車支援システムとは

駐車支援システムとは、カメラとセンサーを使用して、周囲の安全確認を補助するシステムです。
駐車支援システムは次のシステムで構成されています。

- バックガイドモニター グレード/仕様別装備
- パーキングセンサー グレード/仕様別装備

カメラとセンサーの取り付け位置



☆印はグレードや仕様により装備の有無が異なります

*1: 360° ビュー・モニター非装備車は、AT誤発進抑制制御 [前進時] のみで使用します

バックガイドモニター グレード/仕様別装備

バックガイドモニターは、車両後方の映像上に映し出したガイド線で、車の後退を補助するシステムです。

⚠警告

必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。

必ず守る **バックガイドモニターはあくまでも車の後退操作を行なうための補助装置です。画面に映し出されている映像は実際の状況とは異なることがあります。バックガイドモニターを過信して後退すると障害物に接触したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

⚠注意

禁止 **以下のような状況では危険ですので、バックガイドモニターを使用しないでください。**

- **凍結した滑りやすい路面や雪道**
- **タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき**
- **リヤゲートが完全に閉まっていないとき**
- **坂道などの平坦でない道路**

必ず守る **ディスプレイが冷えているとき、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなり、車両周辺の状況を確認しにくくなる場合があります。必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。**

禁止 **カメラ部に強い衝撃を与えないでください。カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。**

禁止 **カメラ部は防水構造となっていますので、分解、改造、取りはずしをしないでください。**

必ず守る **カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤、有機溶剤、ワックス、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布等でふき取ってください。**

禁止 **カメラのカバーを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどでみがいたりしないでください。カバーまたはレンズが傷つき、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。**

知識

- カメラのレンズに水滴や雪、泥などがついているときは、やわらかい布等でふき取ってください。よごれがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

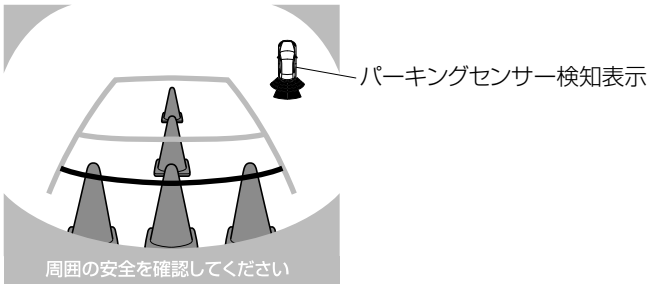
知識

- 車両後部をぶつけたときは、カメラ (位置、取り付け角度) がずれているおそれがあります。必ずマツダ販売店で確認を行なってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化をあたえるとバックガイドモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの電圧が低いときや、アイドリングストップが再始動するときに画面が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。
- ディスプレイに「映像信号を受信できません。」と表示されたときは、カメラ等の故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

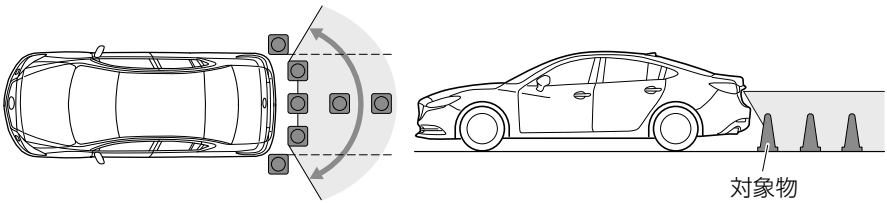
画面に映し出される範囲

車両後方の映像を映し出して駐・停車時に障害物や車間距離を確認するときの補助としてご使用ください。
車両後部に設置されたカメラから、ほぼ水平に映し出します。

（画面の状況）



（実際の状況）



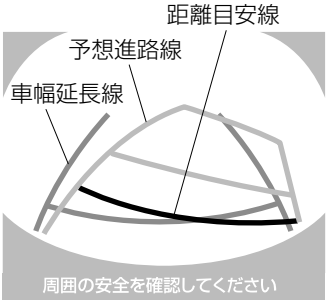
知識

- 自車の状況や路面状況により、映し出される範囲は異なります。
- カメラが映す範囲には限界があります。バンパーの下にあるものやバンパーの両端付近は映りません。
- バックガイドモニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離間隔は実際の距離とは異なります。

知識

- バックガイドモニターは鏡面画像になっています。
- 装備によってはカメラに写りこむ場合があります。カメラの視野に影響をおよぼすもの (視野を遮るもの、光を発するもの、光沢素材でできたものなど)は取り付けないでください。
- 次のような状況では、画面が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
  - 夜間など暗いところ
  - レンズ付近の温度が高い/低いとき
  - 雨天時など、カメラに水滴がついたときや湿度が高いとき
  - カメラ付近に泥などの異物がついたとき
  - 太陽やヘッドランプなどの光がカメラのレンズに直接当たったとき

ガイド線の見方



a) 予想進路線 (黄色)
車両の予想進路の目安を示すライン
ハンドルを操作すると、予想進路線が連動して動きます。
b) 車幅延長線 (青色)
車幅の延長の目安を示すライン
ハンドルが直進状態のときは、表示されません。
c) 距離目安線
車両後方の距離 (バンパー後端から) を示すライン

- ハンドル操作と連動するライン (赤色と黄色) は、それぞれの中心位置で、約 0.5m 先 (赤色) 約 1m 先 (黄色) を示します。
- ハンドルが直進状態ではないときは、誤差が生じます。
- 画面では、距離目安線が示す実際の距離 (赤色: 約 0.5m 先、黄色: 約 1m 先) より、右側は近くの位置に、左側は遠くの位置に表示されます。

注意

必ず守る

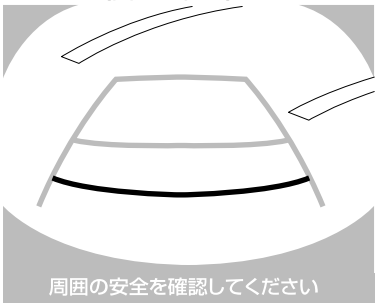
バックガイドモニターを使って駐車する方法は、駐車時の道路事情、路面状況、自車の状況によって違います。ハンドル操作のタイミング、操作量は状況によって異なりますので、周囲を直接確認しながら状況に合わせた操作を行なってください。また、操作を行なう前は、必ず駐車スペースに車両が駐車できるかを確認してください。

知識

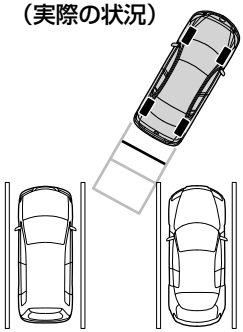
次に示す状況は、ハンドルを右側にまわして後退し、駐車する例を示しています。逆方向から後退し駐車するときは、左右が逆になります。

1. チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にし、バックガイドモニターを表示します。
2. 車両が駐車スペースの中に入るようにハンドル操作を行ない後退します。

（画面の状況）

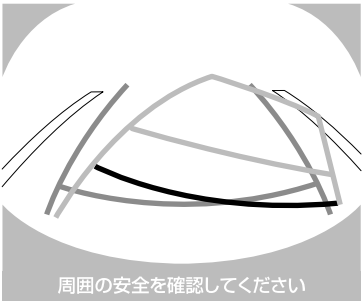


（実際の状況）

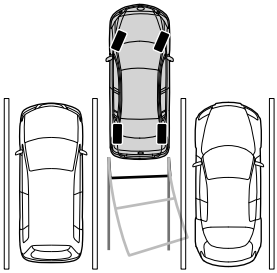


3. 車両が駐車スペース内にはいったら、車幅延長線と駐車スペース左右の間隔が、車両付近の位置で同じくらいになるようにハンドルを操作して、ゆっくり後退します。

（画面の状況）



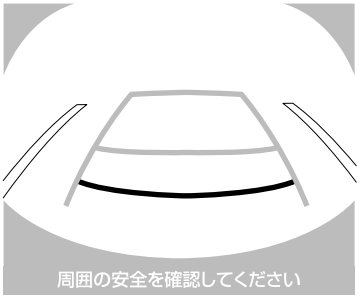
（実際の状況）



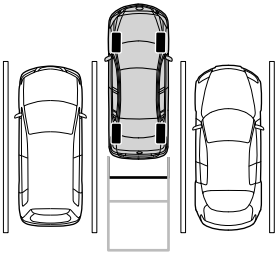
4. 車幅延長線と駐車スペースが平行になるようにハンドルを操作します。

5. 平行になったら、ハンドルを直進状態にして、ゆっくり後退します。周囲の状況を十分に確認し、最適な位置で停止します。（駐車スペースに区画線がある場合は区画線と車幅延長線が平行になったら）

（画面の状況）



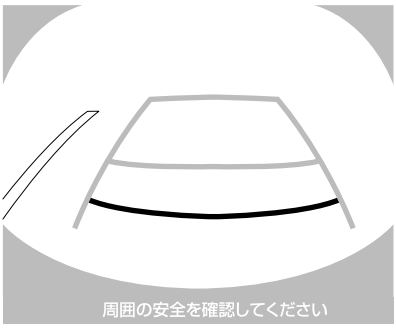
（実際の状況）



知識

駐車するときは、以下のように画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

- 画面に映し出される駐車スペース（車庫など）の後端と距離目安線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。
- 駐車場の区画線が片側しかないときは、区画線と車幅延長線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

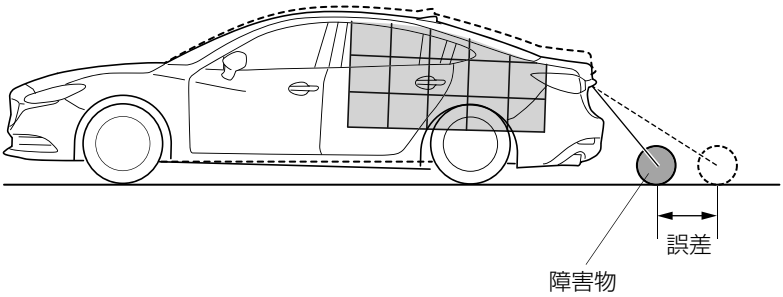


実際の画面と路面の誤差

実際の路面と画面上の路面とでは誤差が生じます。距離感の誤差は事故につながるおそれがありますので、次のような誤差の起こりやすい状況を確認しておいてください。

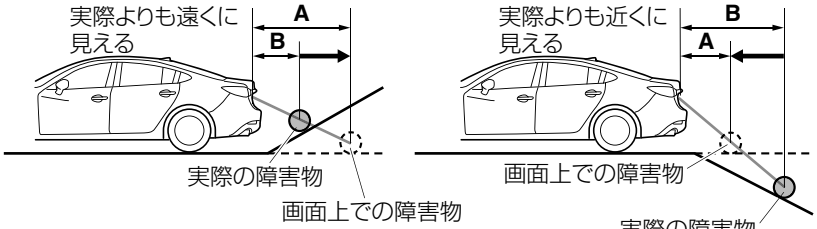
人や荷物の重みで車が傾いているとき

車両が傾いて後部が下がっているときは、カメラに映る障害物は車体後部からの距離が実際よりも遠くにあるように見えます。



車両後方に勾配の急な上り坂や下り坂があるとき

車両後方に勾配の急な上り坂 (下り坂) があるときは、カメラに映る障害物は車体後部からの距離が実際よりも遠く (近く) にあるように見えます。

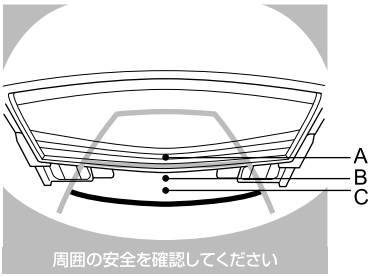


A: 画面で見える車体から障害物の距離
B: 車体からの障害物の実際の距離

車両後方に立体物があるとき

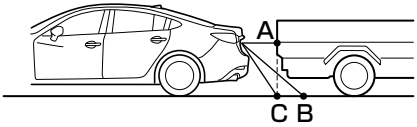
距離目安線は水平な路面を基準に表示されているため、画面に映っている立体物との距離は実際とは異なります。

（画面の状況）



画面上の距離感 A>B>C

（実際の状況）

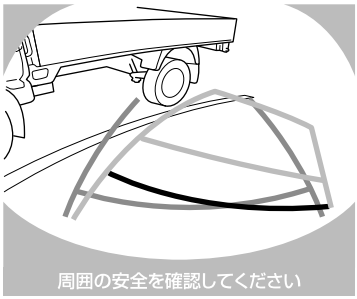


実際の距離 B>C=A

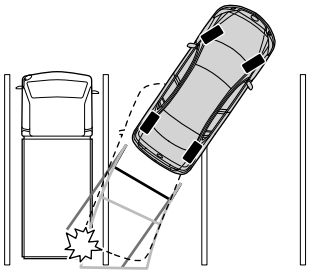
立体物が近くにあるところを後退するとき

張り出しのある立体物（車や障害物）の近くを後退するとき、予想進路線では立体物に当たらないように見えても、実際にはぶつかることがあります。画面上の予想進路線は水平な路面を基準に表示されているため画面に映っている立体物の位置は実際とは異なります。張り出しのある立体物の近くを通るときは、後方および周辺を直接確認してください。

（画面の状況）



（実際の状況）



画質調整

⚠警告

必ず守る **バックガイドモニターの画質調整は必ず車両停止中に行う。**
運転中にバックガイドモニターの画質を調整しないでください。車両走行中に、明るさ、コントラスト、色の濃さ、および色合いなどバックガイドモニターの画質調整を行うと、車両操作の妨げになり思わぬ事故につながるおそれがあります。

マニュアル車はチェンジレバーがRのとき、オートマチック車はセレクトレバーがRの位置のときに、画質調整をすることができます。
調整項目には、明るさ、コントラスト、色の濃さ、色合い、の4種類があります。調整するときは車両の周囲を十分に確認してください。

1. 画面の⚙を選択して、タブを表示します。
2. 目的の項目のタブを選択します。
3. スライダを使用して明るさ、コントラスト、色の濃さ、色合いを調整します。
   リセットする場合は、リセットボタンを押します。
4. 画面の⚙を選択して、タブを閉じます。

パーキングセンサー

パーキングセンサーは、車庫入れや縦列駐車など低速走行時に、超音波センサーで検出した車両周辺の障害物とのおおよその距離を、ブザーおよび検知表示により運転者に知らせます。

⚠警告

必ず守る **必ず前方/後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。**
パーキングセンサーはあくまでも前進/後退するときの補助装置です。また、センサーの検出範囲は限られていますので、システムを過信して前進/後退すると障害物に接触したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **センサーの検出範囲内にアクセサリー用品などを取り付けないでください。システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

必ず守る **障害物の種類や周囲の条件によっては、センサーが障害物を検出できる距離が短くなったり、障害物を検出できない場合があります。必ず前方/後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。**

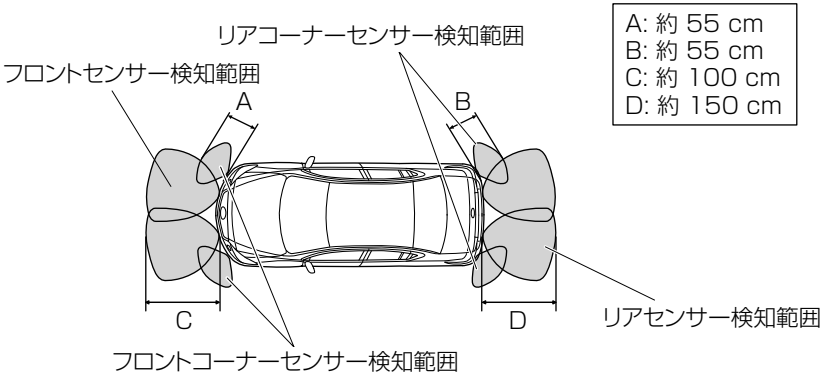
駐車支援システムについて

知識

- 次のようなときは、システムが正常に作動しない場合があります。
  - センサー部に氷、雪、泥などが付着したとき (取り除けば正常に復帰します。)
  - センサー部が凍結したとき (溶ければ正常に復帰します。)
  - センサーを手でふさいだとき
  - センサー付近に強い衝撃が加わったとき
  - 車両姿勢が大きく傾いたとき
  - 炎天下や寒冷時
  - 凹凸道、坂道、砂利道、草むら走行時など
  - 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近づいたとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
  - 市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車に取り付けたとき
  - 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
  - 障害物がセンサーに近付きすぎているとき
- 次のような障害物は、パーキングセンサーが検出しない、もしくは検出しにくいことがあります。
  - 針金、ロープなどの細いもの
  - 綿、雪などの音波を吸収しやすいもの
  - 鋭角的な形を持つもの
  - 背が高く上部が張り出しているもの
  - 背の低いもの
- バンパーの真下付近は感知しません。センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- 接触事故などでバンパーへ衝撃が加わったときは、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。センサーの位置がずれると障害物を正常に検出できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- パーキングセンサースイッチを ON にしてもブザーが鳴らない場合や表示灯が点灯しない場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- システムの異常を示すブザーが鳴った場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- 低温時やセンサー部に泥や氷、雪などが付着した場合にも、システムの異常を示すブザーが鳴る場合があります。センサー部に付着した異物を取り除いてください。

センサーの検出可能範囲

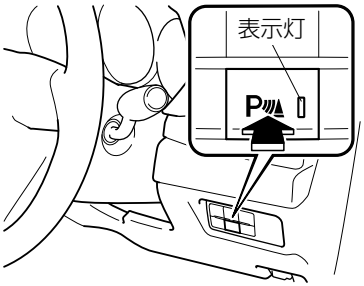
センサーは、次に示す範囲の障害物を検出します。



A: 約 55 cm
B: 約 55 cm
C: 約 100 cm
D: 約 150 cm

作動させるとき

電源ポジションが ON のときに、パーキングセンサースイッチを押すと、ブザーが鳴り、表示灯が点灯します。
パーキングセンサーが ON のときに電源ポジションを ON にした場合は、表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。



知識

電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、パーキングセンサーが ON の状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたとき、パーキングセンサーは ON の状態のままです。

作動条件

電源ポジションが ON のときにパーキングセンサースイッチを ON にすると使用できます。

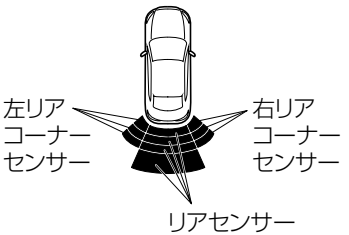
知識

フロントセンサー/フロントコーナーセンサー装備車

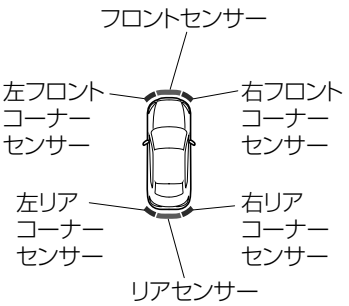
- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーが P の位置のとき、フロントセンサー/フロントコーナーセンサーの検知表示およびブザーは作動しません。
- 電動パーキングブレーキがかかっているときは、検知表示およびブザーは作動しません。

検知表示

360° ビュー・モニター非装備車



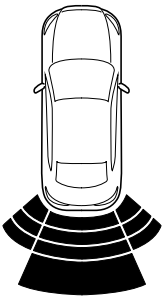
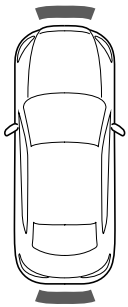
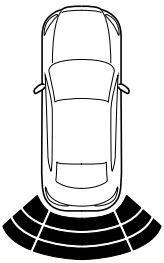
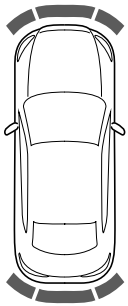
360° ビュー・モニター装備車



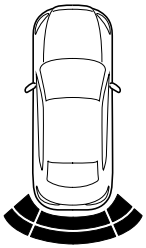
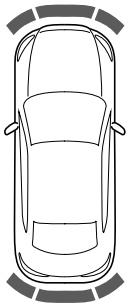
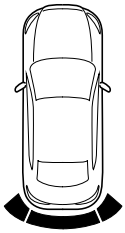
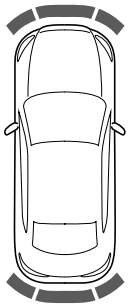
知識

検知表示は表示/非表示を変更することができます。
→692 ページ「設定変更 (カスタマイズ機能)」

距離表示の見方

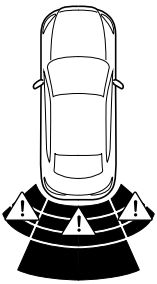
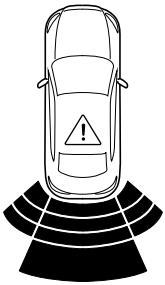
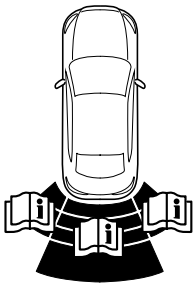
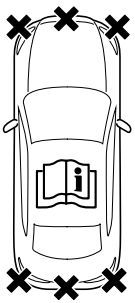
表示		車両と障害物の距離	
360°ビュー･モニター非装備車	360°ビュー･モニター装備車	フロントセンサー/フロントコーナーセンサー	リアセンサー/リアコーナーセンサー
	緑色 	フロントセンサー: 約 100～60 cm	リアセンサー: 約 150～60 cm
	黄色 	フロントセンサー: 約 60～45 cm フロントコーナーセンサー: 約 55～38 cm	リアセンサー: 約 60～45 cm リアコーナーセンサー: 約 55～38 cm

駐車支援システムについて

表示		車両と障害物の距離	
360°ビュー･モニター非装備車	360°ビュー･モニター装備車	フロントセンサー/フロントコーナーセンサー	リアセンサー/リアコーナーセンサー
	橙色 	フロントセンサー: 約 45～35 cm フロントコーナーセンサー: 約 38～25 cm	リアセンサー: 約 45～35 cm リアコーナーセンサー: 約 38～25 cm
	赤色 	フロントセンサー: 約 35 cm 以内 フロントコーナーセンサー: 約 25 cm 以内	リアセンサー: 約 35 cm 以内 リアコーナーセンサー: 約 25 cm 以内

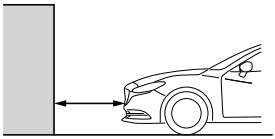
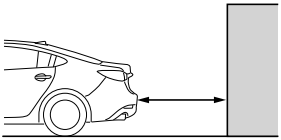
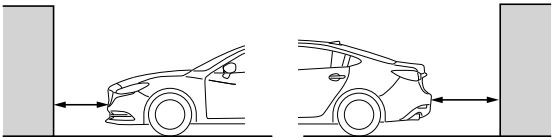
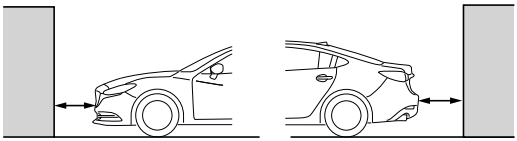
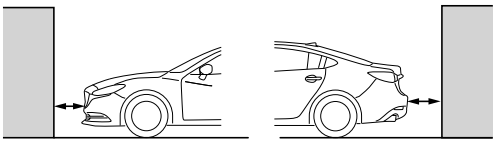
こんなときは

異常が発生した場合は、次の表示により異常が発生したことをお知らせします。

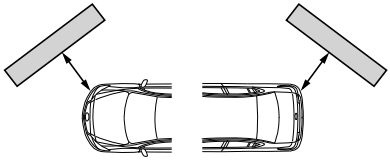
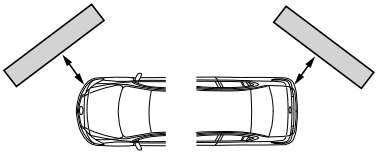
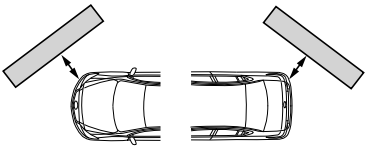
原因	検知表示		解決方法
	360°ビュー・モニター非装備車	360°ビュー・モニター装備車	
断線			マツダ販売店で点検を受けてください。
システム異常			マツダ販売店で点検を受けてください。
霜/汚れ			障害物検知表示に対応するセンサー部に異物が付着していないか確認してください。システムが復帰しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

ブザー

障害物との距離に応じた鳴り方で、障害物とのおよその距離を運転者に知らせます。複数個所の障害物を検知した場合は、最も近い障害物との距離に応じて吹鳴します。
システム作動中は、ブザーが次のように作動します。
フロントセンサー、リアセンサー

<table>
<tr><th colspan="2">車両と障害物の距離</th><th rowspan="2">ブザーの鳴り方</th></tr>
<tr><th>フロントセンサー</th><th>リアセンサー</th></tr>
<tr><td>約 100 cm～60 cm
  </td><td>約 150 cm～60 cm
  </td><td>ピッ･ピッ･ピッ (遅い継続音)</td></tr>
<tr><td colspan="2">約 60～45 cm
  </td><td>ピッピッピッ (継続音)</td></tr>
<tr><td colspan="2">約 45～35 cm
  </td><td>ピピピピ (早い継続音)</td></tr>
<tr><td colspan="2">約 35 cm 以内
  </td><td>ピー (連続音)</td></tr>
</table>

フロントコーナーセンサー、リアコーナーセンサー

車両と障害物の距離	ブザーの鳴り方
約 55 cm～38 cm 	ピッピッピッ (継続音)
約 38～25 cm 	ピピピピ (早い継続音)
約 25 cm 以内 	ピー (連続音)

こんなときは

次のようなとき、ブザーの鳴らし方や表示の仕方で異常を知らせます。

表示/ブザー	確認すること
ブザーが吹鳴しない。	システムの異常が考えられます。早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
ブザーが「ピピピッ」と 5 回なった。	センサー部に異物が付着していないか確認してください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
特定の検知表示が表示し続ける。	検知表示に対応するセンサー部に異物が付着していないか確認をしてください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは

グレード/仕様別装備

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) はディーゼルエンジンの排気ガスに含まれる PM (Particulate Matter:粒子状物質) のほとんどを捕集し、除去するものです。
通常走行中は DPF で捕集された PM は自動で除去されますが、次のようなときは PM が自動で除去されません。

- 車速約 15km/h 以下で走り続けているとき
- 10 分以下の短時間走行の繰り返しやエンジンが暖機できないような走行を繰り返したとき
- 長時間アイドリング状態のとき

知識

走行中に自動で PM を除去しているとき、エンジン音や排気ガスの臭いが変化することがあります。

システムの故障状態をメーター内のディスプレイでお知らせします。

ディスプレイに「DPF 内に PM が堆積しています」と表示されるとき

PM の除去が自動で行なわれず、DPF で捕集した PM が規定量以上になると表示します。
PM を除去するために、完全暖機 (水温 80°C 以上) のときに、アクセルペダルを踏み 20km/h 以上でおよそ 15 分から 20 分走行してください。

ディスプレイに「DPF 異常」と表示されるとき

システムに異常があると表示します。
ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

注意

必ず守る

ディスプレイに「DPF 内に PM が堆積しています」と表示されたまま運転を続けると、さらに PM が堆積し、ディスプレイの表示が「DPF 異常」に変わることがあります。この場合はただちにマツダ販売店で点検を受けてください。点検を受けずにそのまま運転を続けると、エンジンの不調につながるおそれがあります。

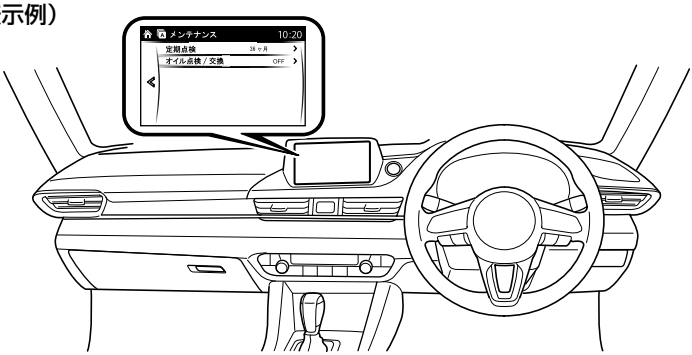
知識

ディスプレイに「DPF 異常」と表示されているときは、ディーゼルパティキュレートフィルターを保護するために、エンジン出力は制限されます。

メンテナンスモニター

あらかじめ設定されたメンテナンス時期になるとセンターディスプレイにお知らせを表示することができます。

（表示例）



次の項目のメンテナンス時期を設定できます。

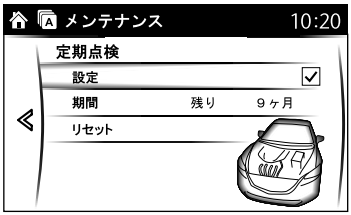
- 定期点検
- オイル点検/交換

設定方法

1. ホーム画面の アイコンを選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. 車両ステータスを選択します。
3. メンテナンスを選択します。
4. 設定したい項目を選択します。OFF を選択すると非表示になります。

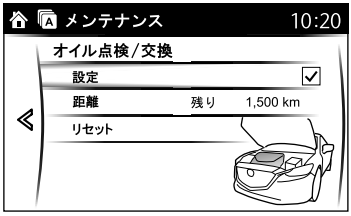
項目により設定できる内容が異なります。

定期点検のとき



定期点検選択後、設定を選択し、点検時期を好みの日数に設定します。

オイル点検/交換のとき



オイル点検/交換選択後、設定を選択し、交換距離を好みの距離に設定します。

リセット方法

メンテナンスを実施した後、リセット (再設定) をすれば、次回メンテナンス時期が近づいたときに表示させることができます。次の手順でリセットしてください。

1. ホーム画面の (A) アイコンを選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. 車両ステータスを選択します。
3. メンテナンスを選択します。
4. 設定したい項目を選択し、リセットを選択します。

知識

(SKYACTIV-D 2.2)
オイル交換後は、マツダ販売店などの整備工場、またはお客様自身で記憶値の初期化 (オイルデータリセット) を行なってください。
初期化 (オイルデータリセット) 手順については、次のページを参照してください。
→585 ページ「エンジンオイルの点検、補充」

悪天候での運転

雨の日の運転

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。
このようなときは、吹き出し口を に切り替えます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。

⚠警告

禁止 ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

冠水した道路は

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

積雪、寒冷時の運転

すべりやすい路面を走行するときは

早めに冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。
→614ページ「タイヤチェーンの取り付け」

- 急発進、急ハンドルや急ブレーキを避け、ひかえめな速度で運転してください。
- 日陰や橋の上、水たまりなど、凍結しやすい場所にさしかかる前では速度を落とし、注意して走行してください。

ハンドルの切れ具合に注意

走行中、フェンダーの裏側に雪が付着して氷になり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。
ときどき車を止めて点検し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に雪や氷が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
効きが悪いときは、低速で走りながらアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。

駐車するときは

- ボンネット側を風下に向けて駐車してください。風上に向けるとエンジンが冷えすぎて始動しにくくなることがあります。
- ワイパーアームは立てて駐車してください。寒冷時はワイパーゴムがガラスに凍りつくことがあります。

⚠注意

必ず守る **運転席/助手席側ワイパーアームを立てるときは、運転席側のワイパーアームから立ててください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じるおそれがあります。**

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおってあります。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

知識

高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなりますので、ワイパー使用時は速度を落として走行してください。

経済的な運転

地球環境にやさしい、経済的な運転を心がけてください。

アイドリングストップ

コンビニでの買い物、人待ちや荷降ろしなど、ちょっとした駐車のときにもエンジンを止めましょう。10 分間のアイドリングで、130cc 程度の燃料を浪費します。

不要な荷物は積まない

荷物が多いほど、燃料を多く消費します。不要な荷物は降ろして走行しましょう。
100 kg の不要な荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪化します。

空ぶかしをしない

空ぶかしをやめると、燃料を節約できます。
空ぶかしは環境にも車にもよくありません。

エアコンの使用は控えめに

エアコンの使用を控えると、燃料の節約になります。外気温 25℃の時に、エアコンを使用すると、12%程度燃費が悪化します。

タイヤの空気圧を適正に

こまめに点検し、適正な空気圧に調整しましょう。
タイヤの空気圧が適正値より 50 kPa (0.5 kg/cm^2) 不足した場合、市街地で 2%程度、郊外で 4%程度、それぞれ燃費が悪化します。

ゆとりある走行を

急発進、急加速、急ブレーキは避けましょう。
速度にムラのある走り方をすると、市街地で 2%程度、郊外で 6%程度燃費が悪化します。

経済的速度

一般道路で 40km/h、高速道路で 80km/h 程度の等速走行が経済的です。

アクセルペダルの上手な踏みかた

加速終了時 (オートマチック車)

アクセルペダルを少し大きめにもどしてみましょう。適切に無駄なく自動変速されるため、燃費がよくなります。

下り坂に入るとき、減速を始めるとき (ガソリンエンジン車)

早めにアクセルペダルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。アクセルペダルをもどすと燃料噴射が停止されるので、燃費がよくなります。

一定速度のとき (ガソリンエンジン車)

アクセルペダルの踏み加減を一定に保ちましょう。
アクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど燃料噴射が少なくなるため、燃費がよくなります。

WLTC モード燃費について

「WLTC モード」とは

「市街地モード (WLTC-L) 」、「郊外モード (WLTC-M) 」、「高速道路モード (WLTC-H) 」の３つの走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な燃費試験方法です。
WLTC とは Worldwide-harmonized Light vehicles Test Cycle (世界統一試験サイクル) モードの略称です。

知識

WLTC モードは従来の JC08 モードよりも実際の走行環境に近い燃費試験方法です。

市街地モード (WLTC-L)	信号や渋滞などの影響を受ける比較的低速な走行を想定
郊外モード (WLTC-M)	信号や渋滞などの影響をあまり受けない走行を想定
高速道路モード (WLTC-H)	高速道路などでの走行を想定

ただし、お客様の使用環境 (気象、渋滞など) や運転方法 (急発進、エアコン使用など) に応じて燃料消費率は異なります。

3 快適装備の使いかた

空調 416

エアコンの上手な使いかた....416
吹き出し口....418
フルオートエアコン....420

マツダコネクト 426

マツダコネクトでできること....426
マツダコネクト 4 つの操作方法....428
マツダコネクトをご使用の前に....430
アンテナ....447
マツダコネクトの操作方法....448
マツダコネクトの設定....457
オーディオソースの使いかた....458
Bluetooth®をご使用の前に....511
Bluetooth®ハンズフリー....523
トラブルシューティング....543

室内装備 549

サンバイザー....549
室内照明....549
電源ソケット....556
USB 電源ソケット....558
アジャスター機能付カップホルダー....560
ボトルホルダー....561
収納....562
電動リアウインドーサンシェード....568

エアコンの上手な使いかた

エアコンを使用する前に

外気取り入れ口について

フロントガラスとボンネットの間にある外気取り入れ口が、雪や落ち葉などでふさがっているときは取り除いておきましょう。外気が導入できないため、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。

暑くなる前のチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に冷媒量の点検を受けておきましょう。冷媒の仕様はエンジンルームに貼られたラベルに記載してあります。

エアコンを使用するときは

使用について

エアコンは、エンジンをかけた状態で使用してください。

知識

- エアコンの操作により、アイドリングストップしないことや、アイドリングストップ中にエンジンが自動で再始動することがあります。
→138 ページ「i-stop について」
- アイドリングストップ中は、吹き出し風量がやや減少する場合があります。
- アイドリングストップ中は、快適な温度を保持するため、インストルメントパネル中央付近からエアコン装置 (モーターなど) の作動音が聞こえることがあります。

外気導入と内気循環について

外気導入は、換気したいときやガラスの曇りを取るときに使用してください。内気循環は、トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど、外気を遮断したいときに使用してください。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは、室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

エアコンを使用したあとは

長期間エアコンを使用しないときは

長期間エアコンを使用しないときでも、内部のオイル循環のため、1 か月に 1 回程度エアコンを作動させてください。

エアフィルターについて

花粉やほこりなどの集じん機能を持った、エアフィルターを装備しています。快適にお使いいただくために、エアフィルターを定期的に交換してください。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

知識

エアフィルターの交換について

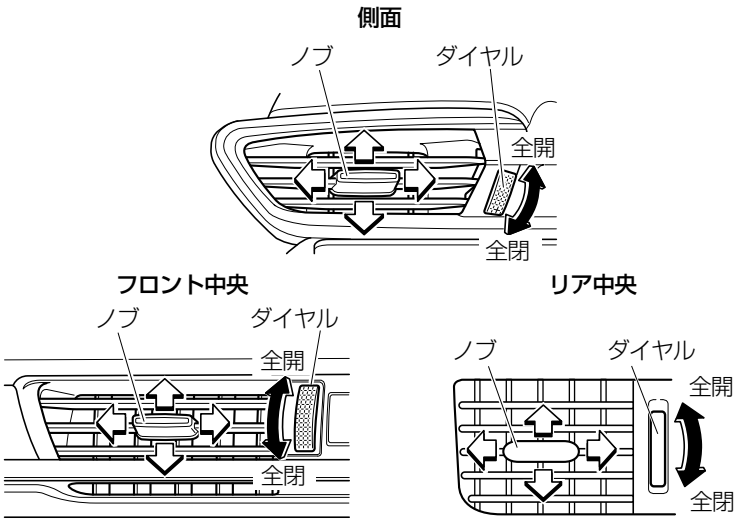
- エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
- 大都市・寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区の場合は、エアフィルターの寿命が短くなり、早めの交換が必要になることがあります。

吹き出し口

吹き出し口の調節

知識

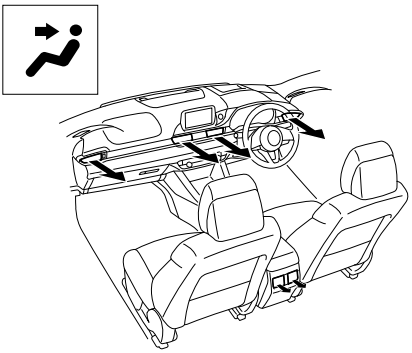
ダイヤルを操作することにより、吹き出し口の全開と全閉を切り替えることができます。



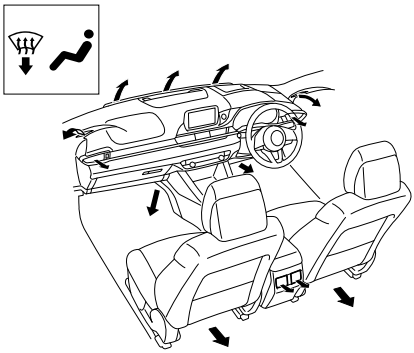
吹き出し口の選択

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

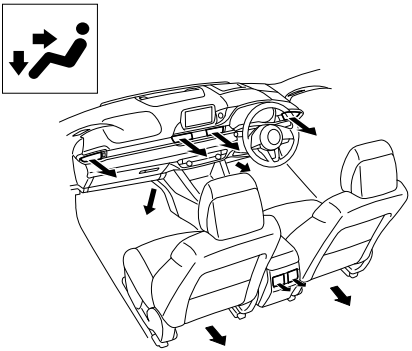
上半身に送風するとき



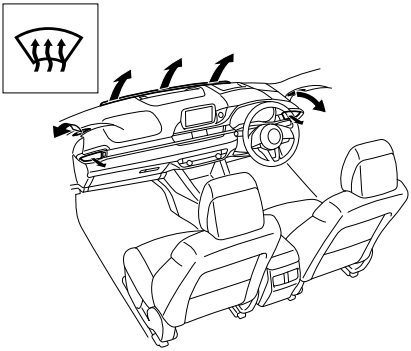
足元への送風とガラスの曇りを取るとき



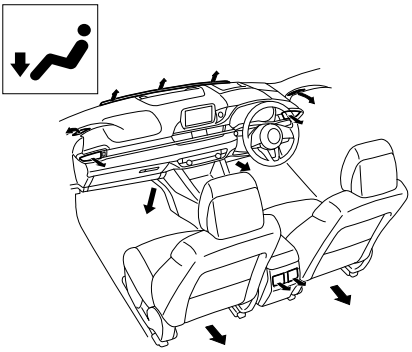
上半身、足元に送風するとき



ガラスの曇りを取るとき



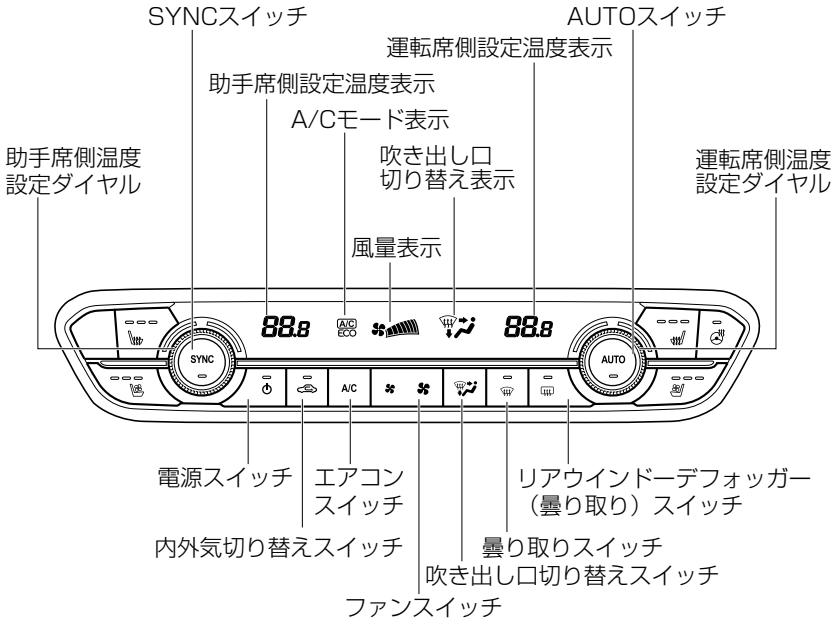
主に足元に送風するとき



知識

吹き出し口の開閉状態により、風が出る位置や風量が変化する場合があります。

フルオートエアコン



各スイッチの使いかた

AUTO スイッチ

スイッチを押すと設定温度にあわせて、次の機能が自動制御されます。

- 吹き出し風の温度調節
- 吹き出し風量調節
- 吹き出し口の切り替え
- 内気循環/外気導入の切り替え
- エアコン (冷房·除湿機能) の作動/停止
- A/C と A/C ECO の切り替え

知識

表示灯について

- 点灯―オート作動時。
- 消灯―オート作動中に吹き出し口切り替えスイッチ、ファンスイッチ、曇り取りスイッチのいずれかのスイッチを操作したとき。
  操作した箇所以外は自動で作動しています。

電源スイッチ

スイッチを押すことによりエアコンが ON/OFF します。

温度設定ダイヤル

ダイヤルをまわして設定温度を調節します。
18.0 から 32.0 の間で 0.5 ずつ変化します。

知識

18.0 に設定すると最大冷房、32.0 に設定すると最大暖房に固定されます。

- SYNC スイッチが ON のとき
  運転席側温度設定ダイヤルをまわして調節します。
- SYNC スイッチが OFF のとき
  運転席側温度設定ダイヤルまたは助手席側温度設定ダイヤルをまわして調節します。

知識

- SYNC スイッチが ON のときでも、助手席側温度設定ダイヤルをまわすと独立モードになり (SYNC スイッチ表示灯消灯)、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
- SYNC スイッチを OFF にすると独立モードになり、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。

ファンスイッチ

風量を 7 段階に調節できます。

吹き出し口切り替えスイッチ

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。
→419 ページ「吹き出し口の選択」

知識

吹き出し口を に設定するには、曇り取りスイッチを押してください。

エアコンスイッチ

スイッチを押すごとにエアコン (冷房·除湿機能) の作動と停止が切り替わります。

知識

- エアコンが停止しているときにエアコンスイッチを押すと、エアコンが作動します。
- スイッチを押すごとに次のように切り替わり、表示部に表示されます。
  A/C→A/C ECO→停止 (表示なし)
  A/C ECO は A/C よりもエアコンの作動頻度が少なくなり、経済的な運転になります。
- 外気温が 0℃近くまで下がると、システム保護のためエアコンが作動しない場合があります。

内外気切り替えスイッチ

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。
スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替ります。

知識

寒いときや湿度が高いときは、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環 (表示灯点灯)
  トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。
- 外気導入 (表示灯消灯)
  外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

SYNC スイッチ

独立モードと連動モードの切り替えができます。

- 独立モード (表示灯消灯)
  運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
- 連動モード (表示灯点灯)
  運転席側と助手席側の設定温度が連動した設定になります。

知識

独立モードから連動モードに切り替えると、助手席側の設定温度は運転席側の設定温度に切り替わります。

曇り取りスイッチ

フロントガラス、フロント窓ガラスの曇りを取りたいときに使用します。
→424 ページ「ガラスの曇りを取るとき」

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーの曇りを取りたいときに使用します。
→242 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」

通常の使いかた

1. AUTO スイッチを押します。吹き出し口、内外気切り替え、吹き出し風量が自動的に調整されます。
2. 温度設定ダイヤルを操作して希望温度にあわせます。
   運転席と助手席の設定温度を独立して調節するときは、SYNC スイッチを押す、または助手席側温度設定ダイヤルをまわして独立モードにします。

知識

- 推奨設定温度は 25 ℃です。その後、お好みで調節してください。
- 設定温度を極端に低く (高く) しても、希望の温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- エンジンが冷えているときの暖房開始直後は、冷風の吹き出しを防止するため、風量が少なくなります。

3. 作動を停止したいときは、電源スイッチを押します。

ガラスの曇りを取るとき

曇り取りスイッチを押します。
自動的に外気導入に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、フロント窓ガラスに送風されます。吹き出し風量も多くなります。

⚠ 警告

禁止

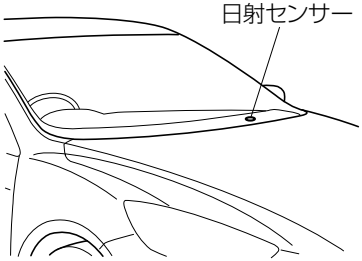
ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。

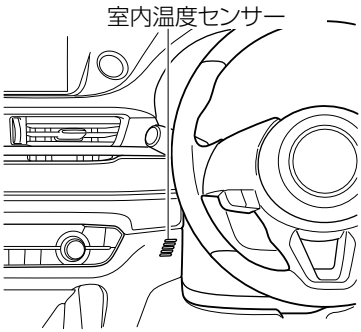
- ファンスイッチを操作して、風量を増す。
- 温度設定ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

日射センサーについて



日射センサーの上に物を置かないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

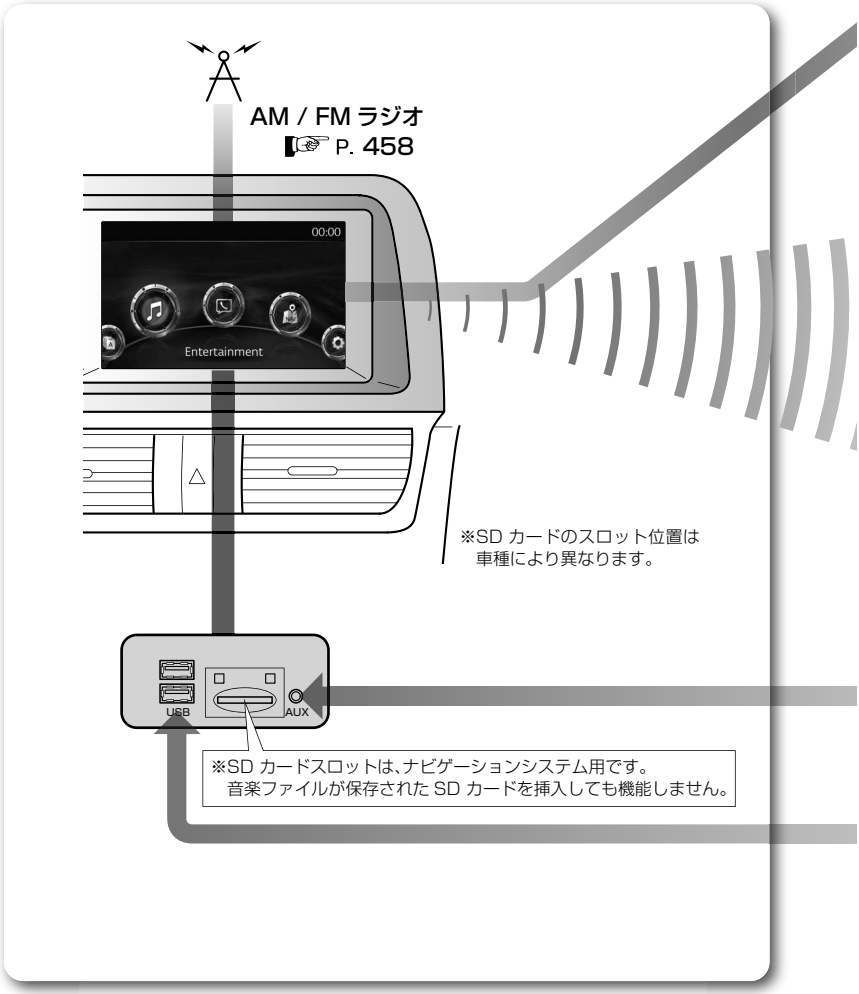
室内温度センサーについて

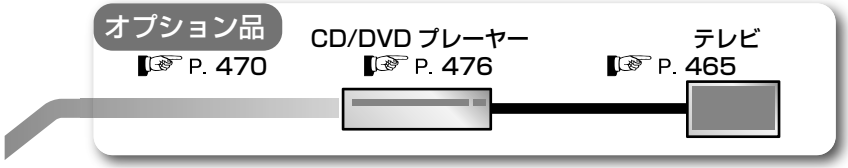


室内温度センサーをふさがないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

マツダコネクトでできること

マツダコネクトをより便利に





お客様準備品

Bluetooth（接続のしかた） P. 515

スマートフォン

Bluetooth® で接続されたスマートフォンの発着信や、格納されている音楽ファイルの再生ができます。

ハンズフリー P. 523

オーディオ P. 495

スマートフォンにアプリをインストールすることで、Aha™、Stitcher™のサービスが利用できます。

Aha™※ P. 500

Stitcher™※ P. 504

※Aha™、Stitcher™のご利用には、アプリでのユーザー登録が必要です。

お客様準備品

ミニプラグケーブル接続に対応したオーディオ機器を接続し、オーディオ機器の音声をスピーカーから流すことができます。

AUX

AUX オーディオ P. 508

USB

USB メモリー、USB オーディオ機器に格納されている音楽ファイルを再生できます。

USB オーディオ機器 P. 487

USB メモリー P. 487

※USB メモリの推奨容量は 16GB 以下。推奨格納音楽ファイル数は 1000 ファイル以内です。
※カードリーダーや USB ハブには対応していません。

マツダコネクト４つの操作方法

タッチ操作＜停車中＞

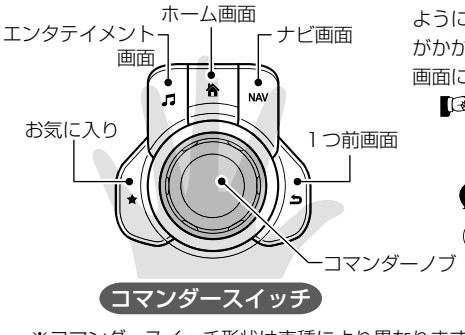
ラジオやテレビの選局や、USB オーディオ機器の選曲、音質の調整等、タッチ操作で快適に行えます。

P. 451

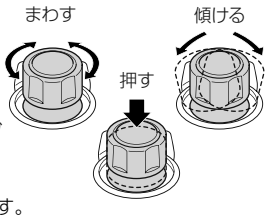
コマンダースイッチ操作

各画面へのスイッチ操作と、コマンダー操作ができます。
左手をコマンダースイッチに包み込むように持つと各画面へのスイッチに指がかかります。手元を見なくても、各画面に切り替えることができます。

P. 449



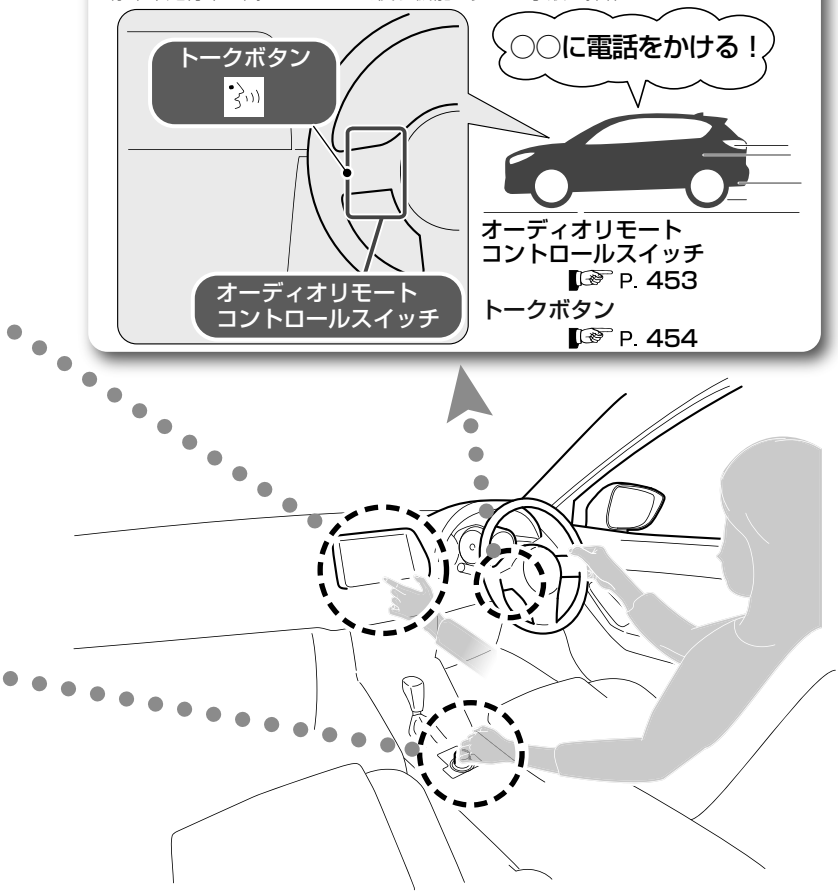
コマンダースイッチ



※コマンダースイッチ形状は車種により異なります。

音声認識・オーディオリモートコントロールスイッチ操作

オーディオリモートコントロールスイッチの「トークボタン」から
音声操作ができます。
停車中走行中に関わらず、よく使う機能を少ない手順で操作することができます。



マツダコネクトをご使用の前に

⚠警告

オーディオは、車を止めてから操作する。走行中の操作は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。

知識

- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 車内、または車の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ (雑音) が発生することがありますが故障ではありません。

ラジオについて

ラジオの受信は、車両の移動に伴いアンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

- 本機は AM 放送の FM 補完中継放送 (ワイド FM) に対応しています。
- 本機で受信可能な周波数帯域は次の通りです。
  FM 放送波 76.0 ～ 99.0MHz
  AM 放送波 522 ～ 1629kHz

→458 ページ「ラジオを聞く」

テレビについて

テレビの受信は、車両の移動に伴いアンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

⚠注意

本機は、ARIB（電波産業会）規格に基いた商品仕様になっております。将来規格変更があった場合は、商品仕様を変更する場合があります。

必ず守る

各社の商標および製品商標に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

必ず守る

本機に搭載されているソフトウェア、またはその一部につき、改変、翻訳、翻案、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルを行ったりそれに関与してはいけません。

禁止

本機を、法令により許されている場合を除き、日本国外に持ち出してはいけません。

禁止

- 本機には、The FreeType Project LICENSE (http://www.freetype.org/license.html) の適用を受けるソフトウェア freetype (http://www.freetype.org/) が組み込まれています。
- This product includes software developed by the OpenSSL Project for usein the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)
(本機には、OpenSSL プロジェクト (http://www.openssl.org/) によって開発されたソフトウェア OpenSSL Toolkit が含まれています)
- 本機は、Desay SV Automotive Japan 株式会社で製造されたものです。

地上デジタルテレビ放送について

地上 DIGITAL

- 地上デジタルテレビ放送は、大きく分けて 3 種類のサービスがあります。
  - テレビ放送: 従来からのテレビ放送
  - ラジオ放送: 音声を主とした放送
  - データ放送: 現在地周辺の生活情報やクイズ･ニュース･天気予報などの放送
    ※本機では、テレビ放送のサービスを受けることができます (データ放送とラジオ放送には、対応しておりません)。
- 受信モードをお車の状況にあわせて切り替えることで、受信状態を安定させることができます。
  ※自動でワンセグ･フルセグ (SDTV) の切り替えを行なうか、行なわないかは、設定により変更することができます。
- 本機は、ハイビジョン放送の再生には対応しておりません。ハイビジョン放送は、標準画質 (SDTV) で再生します。
- 地上デジタルテレビ放送のサービスのひとつとして「ワンセグ」があります。

- 日本の地上デジタルテレビ放送は、約 6MHz の帯域を 13 個のセグメントに分けて放送する仕組みですが、そのうち 12 セグメントを使って高画質･高音質の放送を行なっています。ワンセグ放送は、残り 1 セグメントを使って携帯や移動体向けに放送するサービスです。
  ※地上デジタルテレビ放送の携帯･移動体向けサービス「ワンセグ」は、12 セグに比べると画質や音質は劣りますが、受信エリアは 12 セグよりも広く、送信局から離れた場所でも安定して受信できる可能性が高くなります。

コンテンツ権利保護専用方式について

本機は、コンテンツ権利保護専用方式 (ソフトウェア方式) を採用しています。そのため、B-CAS カードは不要です。
→465 ページ「テレビを見る」 グレード/仕様別装備

CD について

本機で使用できるメディア、再生可能なデータは次の通りです。
次のマークが記載されたディスクが使用可能です。

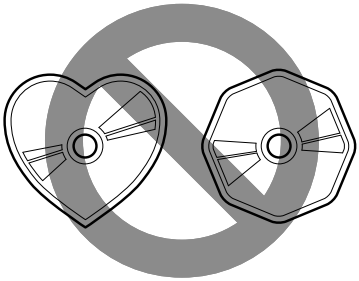
市販ディスク	COMPACT disc DIGITAL AUDIO COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT
記録されたディスク	COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable COMPACT disc Recordable COMPACT disc ReWritable

MP3/WMA/AAC CD として、ディスクに記録し再生可能なデータは次の通りです。
MP3、WMA、AAC
→443 ページ「再生可能なオーディオファイルについて」

知識

- 一枚のディスクに音楽データ (CD-DA) と MP3/WMA/AAC ファイルが混在しているときは、ディスクに記録する方法によって再生される内容が異なります。
- データ規格の詳細については、「再生可能なオーディオファイルについて」をご参照ください。
  →443 ページ「再生可能なオーディオファイルについて」

- コピーコントロール CD (著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽 CD) の中で、CD の規格に準拠していないものは、再生できない場合があります。
- ハート型や八角形など特殊形状の CD は使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。



- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びを起こすことがあります。
- 本機内部のレンズの汚れなどにより、CD が正しく作動しなくなることがあります。
- 寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露 (水滴) が生じ、正しく作動しなくなることがあります。このようなときは、CD を取り出して室内を換気、または除湿してから使用してください。
- CD 信号面に直接手で触れると、CD の信号面が汚れ、音飛びなどを起こすことがあります。CD の端と中心の穴をはさんで持ってください。CD はケースに入れ、直射日光を避けて保管してください。直射日光や高温など、車内での保管状況により、再生できなくなる場合があります。
- CD の汚れを取るときは、やわらかい布で CD の中央から外側へ向けて汚れをふき取ってください。ベンジン、シンナー、帯電防止剤などを使用すると、CD の表面を傷める原因になりますので使用しないでください。
- 文字を書き込んだり、ラベルやシールを貼り付けたりした CD は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- 変形したり、ひびがはいったりした CD は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- セロハンテープやレンタル CD のラベルからのりがはみ出したものや、ラベルをはがしたあとがある CD は、使用しないでください。また、市販の CD-R ラベルを貼り付けたディスクも使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- CD 差し込み口に指や異物を入れないでください。故障の原因になることがあります。
- CD-R/CD-RW は、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理 (通常の CD プレーヤーで再生できるようにする処理) されていない CD-R/CD-RW は再生できません。
- 700MB を超える CD-R/CD-RW の再生はできません。
- 音楽用 CD レコーダー、またはパソコンで記録した CD-R/CD-RW は、ディスクの特性、キズ·汚れなどにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーション (ライティングソフト) の設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください (詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください)。
- CD-R/CD-RW に記録されているタイトルなどの文字情報は、音楽データ (CD-DA) 再生時に表示できない場合があります。
- CD-RW は、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常の CD や CD-R より時間がかかります。
- CD-R/CD-RW の取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

→470 ページ「CD を再生する」 グレード/仕様別装備

DVD について

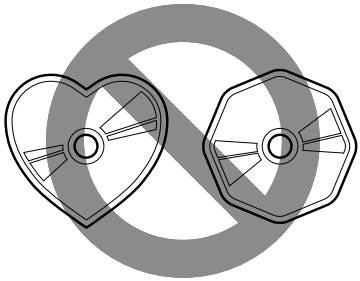
本機で使用できるメディア、再生可能なデータは次の通りです。
次のマークが記載されたディスクが使用可能です。

市販ディスク	DVD VIDEO　DVD VIDEO
記録されたディスク	DVD R　DVD RW RW DVD+R　RW DVD+ReWritable

知識

- 本機は、CPRM (Content Protection for Recordable Media) に対応しています。
- 本機の地域番号は「2」です。再生可能な地域番号に「2」が含まれているディスクのみ再生できます。
- 記載している規格以外で書き込まれた DVD-Video/DVD-VR ファイルは、再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。
- DVD-VR ファイルは、メニューが表示されません。

- ハート型や八角形など特殊形状の DVD は使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。

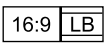


- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びや映像の乱れなどを起こすことがあります。

- 寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露 (水滴) が生じ、正しく作動しなくなることがあります。このようなときは、DVD を取り出して室内を換気、または除湿してから使用してください。
- DVD 信号面に直接手で触れると、DVD の信号面が汚れ、音飛びや映像の乱れなどを起こすことがあります。DVD の端と中心の穴をはさんで持ってください。
- DVD はケースに入れ、直射日光を避けて保管してください。直射日光や高温など、車内での保管状況により、再生できなくなる場合があります。
- DVD の汚れを取るときは、やわらかい布で DVD の中央から外側へ向けて汚れをふき取ってください。ベンジン、シンナー、帯電防止剤などを使用すると、DVD の表面を傷める原因になりますので使用しないでください。
- 文字を書き込んだり、ラベルやシールを貼り付けたりした DVD は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- 変形したり、ひびがはいったりした DVD は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- セロハンテープやレンタル DVD のラベルからのりがはみ出していたり、ラベルをはがしたりしたあとがある DVD は、使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。
- DVD 差し込み口に指や異物を入れないでください。故障の原因になることがあります。
- DVD-R/DVD+R/DVD-RW/DVD+RW は、録画に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理 (通常の DVD プレーヤーで再生できるようにする処理) されていない DVD-R/DVD+R/DVD-RW/DVD+RW は再生できません。
- 音楽用 DVD レコーダー、またはパソコンで記録した DVD-R/DVD+R/DVD-RW/DVD+RW は、ディスクの特性、キズ·汚れ、または本機内部のレンズの汚れ·露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーション (ライティングソフト) の設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください (詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください)。
- DVD-R/DVD+R/DVD-RW/DVD+RW の取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。
- DVD ビデオではディスクのソフト制作者の意図により、再生状態が決められていることがあります。この DVD プレーヤーでは、ソフト制作者が意図した内容にしたがって再生されるため、操作した通りに機能が働かないことがあります。必ず、再生させるディスクに付属の取扱書もあわせて参照してください。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
「ドルビー」、「Dolby」およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

ディスクに表示されているマークについて

ディスクやパッケージに表示されているマークには、下記のものがあります。

マーク		意味
NTSC		カラーテレビの方式です。
		音声のトラック数です。 数字が収録されている音声数を表します。
		字幕の言語数です。 数字が収録されている言語数を表します。
		アングルの数です。 数字が収録されているアングル数を表します。
		選択することができる画面モードです。 「16:9」はワイド画面、「4:3」は標準画面を表します。
		再生可能な地域番号。ALL は全世界向け、数字は地域番号を表します（「2」は日本を示します）。

正しく DVD をご利用いただくために（用語の解説）

DVD-Video
DVD-Video は、DVD フォーラムの定めた映像保存の規格です。
デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつである MPEG2（エムペグ 2）が採用され、映像データが平均約 1/40 に圧縮して記憶されています。また、画像の形状に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されています。音声情報は、PCM のほか、ドルビーデジタルを用いて記憶させることができ、より臨場感のある音声を楽しむことができます。
さらに、マルチアングル・マルチランゲージなどさまざまな付加機能も用意されており、より高度に楽しむことができます。

DVD-VR
DVD-VR は、DVD Video Recording Format の略称で、DVD フォーラムの定めた映像保存の規格です。

マルチアングル
DVD プレーヤーの機能のひとつで、同じ場面が視点をかえて複数のアングル（カメラの位置）で記憶させることができるため、アングルを自由に選択することができます。

マルチランゲージ（多言語）
DVD プレーヤーの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕を複数の言語で記憶させることができるため、言語を自由に選択することができます。

地域番号 (リージョンコード)
DVD プレーヤーとディスクは、販売地域ごとに再生可能な地域番号 (リージョンコード) が設けられています。
再生させるディスクの地域番号が、プレーヤーに設定されている地域番号と異なる場合は、ディスクの再生はできません。
また、地域番号の表示がないディスクでも地域が制限されていることがありますので、その場合は、この DVD プレーヤーで再生させることができないことがあります。
→476 ページ「DVD を再生する」 グレード/仕様別装備

USB オーディオ機器について

USB メモリ、USB オーディオ機器に記録して再生可能なデータは次の通りです。
MP3、AAC (M4A)、WMA、Ogg、WAV
→443 ページ「再生可能なオーディオファイルについて」

⚠注意

必ず守る **オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。**

知識

- データ規格の詳細については「再生可能なオーディオファイルについて」を参照ください。
  →443 ページ「再生可能なオーディオファイルについて」
- 接続する機器によっては、使用できない場合があります。
  マツダコネクトで接続確認済み機材はマツダコネクトサポートページで情報公開しています。
  →448 ページ「マツダコネクトの操作方法」
- FAT32 でフォーマットされた USB メモリに対応しています。
  (NTFS フォーマットなどでフォーマットされた USB メモリには対応していません)。
- USB メモリは 16GB を超えると動作が不安定になることがあります。
  (推奨容量：16GB 以下推奨格納音楽ファイル数：1,000 ファイル以内)
- USB メモリのファイル名が長すぎると、動作が不安定になることがあります。
  (推奨：80 文字以内)
- 本機では USB2.0/1.1 規格に対応したデバイスが利用できます。
  USB3.0 規格品であっても USB2.0 と互換のある機材であれば、USB2.0 デバイスとして利用可能です。
- 本機は著作権保護された WMA/AAC/Ogg ファイルを再生できません。
- 機器に保存された曲順と再生順序が違うことがあります。

知識

- 機器が 1,000mA 以上の電力を使用する場合は、作動しなかったり、充電できない場合があります。
- USB オーディオ再生中に USB オーディオ機器を取り外さないでください (ラジオや CD などの、別のオーディオモード中に取り外すことができます)。
- パスワードで保護されたデータは、再生することができません。
- 記録されているデータの消失、損傷といった万一にそなえて、データはバックアップを取っておくことをおすすめします。
- USB オーディオ機器が再生に対応していない音楽データは、本機で再生できない場合があります。

記載している規格以外で書き込まれた MP3/WMA/AAC/Ogg ファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されなかったりする場合があります。
→487 ページ「USB オーディオ機器の音楽を聞く」

Gracenote®音楽認識サービスについて

Gracenote, the Gracenote logo and logotype are either a registered trademark or a trademark of Gracenote, Inc. in the United States and/or other countries.
Gracenote 及び Gracenote ロゴとロゴタイプは、米国およびその他の国における Gracenote Inc.の登録商標または商標です。

知識

- 「Gracenote®音楽認識サービス」によって提供されたデータについては内容を100%保証するものではありません。
- Gracenote®音楽データベースは更新することができます。
→487 ページ「USB オーディオ機器の音楽を聞く」
- 本機では、Gracenote®音楽認識サービスは USB オーディオのみ対応しています。

Gracenote®音楽認識サービスのご利用について

本ソフトウエア製品または本電器製品には、カリフォルニア州エメリービル市の Gracenote, Inc. (以下「Gracenote」とする) から提供されているソフトウェアが含まれています。本ソフトウエア製品または本電器製品は、Gracenote 社のソフトウェア (以下「Gracenote ソフトウェア」とする) を利用し、音楽 CD や楽曲ファイルを識別し、アーティスト名、トラック名、タイトル情報 (以下「Gracenote データ」とする) などの音楽関連情報をオンラインサーバー或いは製品に実装されたデータベース (以下、総称して「Gracenote サーバー」とする) から取得するとともに、取得された Gracenote データを利用し、他の機能も実現しています。お客様は、本ソフトウエア製品または本電器製品の使用用途以外に、つまり、エンドユーザー向けの本来の機能の目的以外に Gracenote データを使用することはできません。
お客様は、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバーを非営利的かつ個人的目的にのみに使用することについて、同意するものとします。お客様は、いかなる第三者に対しても、Gracenote ソフトウェアや Gracenote データを、譲渡、コピー、転送、または送信しないことに同意するものとします。**お客様は、ここに明示的に許諾されていること以外の目的に、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、または Gracenote サーバーを使用または活用しないことに同意するものとします。**
お客様は、お客様がこれらの制限に違反した場合、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバーを使用するための非独占的な使用許諾契約が解除されることに同意するものとします。また、お客様の使用許諾契約が解除された場合、お客様は Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバー全ての使用を中止することに同意するものとします。
Gracenote は、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバーの全ての所有権を含む、全ての権利を保有します。いかなる場合においても、Gracenote は、お客様が提供する任意の情報に関して、いかなる支払い義務もお客様に対して負うことはないものとします。お客様は、Gracenote, Inc.が本契約上の権利を Gracenote として直接的にお客様に対し、行使できることに同意するものとします。
Gracenote のサービスは、統計的処理を行うために、クエリ調査用の固有の識別子を使用しています。無作為に割り当てられた数字による識別子を使用することにより、Gracenote サービスを利用しているお客様を認識しながらも、特定することなしにクエリを数えられるようにしています。詳細については、Web ページ上の、Gracenote のサービスに関する Gracenote プライバシーポリシーを参照してください。
Gracenote ソフトウェアと Gracenote データの個々の情報は、お客様に対して「現状有姿」のままで提供され、使用が許諾されるものとします。Gracenote は、Gracenote サーバーにおける全ての Gracenote データの正確性に関して、明示的または黙示的を問わず、一切の表明や保証をしていません。Gracenote は、妥当な理由があると判断した場合、Gracenote サーバーからデータを削除したり、データのカテゴリを変更したりする権利を保有するものとします。Gracenote ソフトウェアまたは Gracenote サーバーにエラー、障害のないことや、或いは Gracenote ソフトウェアまたは Gracenote サーバーの機能に中断が生じないことの保証は致しません。Gracenote は、将来 Gracenote が提供する可能性のある、新しく拡張や追加されるデータタイプまたはカテゴリを、お客様に提供する義務を負わないものとします。また、Gracenote は、任意の時点でサービスを中止できるものとします。

Gracenote は、黙示的な商品適合性保証、特定目的に対する商品適合性保証、権利所有権、および非侵害性についての責任を負わないものとし、これに限らず、明示的または黙示的ないかなる保証もしないものとします。Gracenote は、お客様による Gracenote ソフトウェアまたは任意の Gracenote サーバーの利用により、得る結果について保証しないものとします。いかなる場合においても、Gracenote は結果的損害または偶発的損害、或いは利益の損失または収入の損失に対して、一切の責任を負わないものとします。
© Gracenote, Inc. 2009

Bluetooth®オーディオについて

Bluetooth®通信機能のあるポータブルオーディオ機器を車両の Bluetooth®ユニットに登録すると、登録したポータブルオーディオ機器に録音されている音楽を、車両のスピーカーから聴くことができます。また、ポータブルオーディオ機器を車両の外部入力端子に接続する必要はありません。
→515 ページ「Bluetooth®の登録」
登録後は、車両のセンターディスプレイで音楽の再生/停止が可能です。

知識

- Bluetooth®機器によっては使用できない場合があります。対応する Bluetooth®機器の情報はマツダ販売店に問い合わせください。
- 安全のため、車両が停止しているときのみペアリング (登録) することができます。車両が発進すると、ペアリングは中断されます。ペアリングを行う前に、安全な場所に車両を止めてください。
- Bluetooth®機器の通信可能距離は約 10 メートル以内です。
- Bluetooth®機器を鞄に入れたままだと、接続しにくい場合があります。
- コンテンツ保護されたデジタル音声出力 (SCMS-T など) には対応していません。
- スマートフォンなどでの音楽配信サービスアプリ等の楽曲は再生できないことがあります。
- Bluetooth®接続していない場合でも、音声コマンドを発話することによりオーディオの基本操作などは可能です。
- マツダコネクトで接続確認済み機材はマツダコネクトサポートページでも情報公開しています。
  →448 ページ「マツダコネクトの操作方法」

対応 Bluetooth®規格 (推奨)

Ver. 1.1/1.2/2.0 + EDR/2.1 + EDR/3.0 (適合)
および Bluetooth®Ver3.0 と互換のあるもの

対応プロファイル

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) Ver. 1.0/1.2
- AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) Ver. 1.0/1.3/1.4

A2DP は、音声を Bluetooth®ユニットに転送するだけのプロファイルです。AVRCP に対応せず、A2DP のみに対応している Bluetooth®オーディオ機器の場合、センターディスプレイでの操作はできません。この場合は、Bluetooth®非対応のポータブルオーディオ機器を AUX 端子に接続したときと同様に、Bluetooth®オーディオ機器側での操作のみ可能です。

機能	AVRCP		
	Ver. 1.0	Ver. 1.3	Ver. 1.4
再生	○	○	○
一時停止	○	○	○
ファイル (トラック) アップ/ダウン	○	○	○
早もどし	—	○	○
早送り	—	○	○
楽曲情報表示	—	○	○
リピート	—	機器に依存	機器に依存
シャッフル	—	機器に依存	機器に依存
スキャン	—	機器に依存	機器に依存
フォルダアップ/ダウン	—	—	機器に依存

○: 可能
—: 不可能

知識

- Bluetooth®が接続されているときは、Bluetooth®オーディオ機器のバッテリー消費量が増加します。

知識

- AVRCP Ver. 1.6 以上に対応している機器を接続すると、楽曲情報が正しく表示されない場合があります。

注意

必ず守る **Bluetooth®オーディオとして接続しているデバイスを、同時に USB オーディオとして本機に接続しないでください。正常に操作できなくなったり、予期しない動作を引き起こすことがあります。**

→495 ページ「Bluetooth®オーディオシステムの使いかた」

再生可能なオーディオファイルについて

注意

必ず守る **オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。**

本機で再生可能なオーディオファイルは次の通りです。

対応フォーマット		対応ビットレート	対応サンプリングレート	CD	USB
MP3		32 ～ 320kbps	32 ～ 48kHz	○	○
AAC	AACLC	64 ～ 320kbps	11.025 ～ 44.1kHz	○	○
	HE-AAC (モノラル)	24 ～ 80kbps	32kHz/44.1kHz	○	○
	HE-AAC (ステレオ)	24 ～ 80kbps	32kHz/44.1kHz	○	○

対応フォーマット		対応ビットレート	対応サンプリングレート	CD	USB
WMA	WMA Std	8 ～ 320kbps	32 ～ 48kHz	○	○
	WMA Pro	32 ～ 768kbps	32 ～ 96kHz	○	○
	WMA Lossless	32 ～ 3,000kbps	32 ～ 48kHz	○	○
Ogg		32 ～ 500kbps	8 ～ 192kHz	—	○
WAV		32 ～ 1,536kbps	32 ～ 48kHz	—	○
M4A	AAC	64 ～ 256kbps	32 ～ 48kHz	○	○

○: 可能
—: 不可能

MP3 について

MPEG Audio Layer3 の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。
MP3 は、音声データを元のデータの約 10 分の 1 に圧縮することができます。
本機は、拡張子 (.mp3) がついているファイルを MP3 ファイルとして再生します。

知識

フランス、トムソン社からの MP3 特許ライセンスについて
本機は、個人の使用、または非商用的な使用を目的としています。次のような、商用目的には使用できません。ご使用には、別途、トムソン社からの商用使用許諾が必要です。詳しくは http://mp3licensing.com をご覧ください。

- 有料リアルタイム放送 (地上波、衛星、ケーブル、その他の放送媒体)
- インターネットによる放送、またはストリーミング
- イントラネット/ネットワーク
- 有料オーディオ・アプリケーションやオーディオ・オンデマンド・アプリケーションなどの電子情報配信システム

- MP3 ファイルが記録された CD-R/CD-RW/CD-ROM の再生に対応しています。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.mp3」を追記してからメディアに書き込んでください。
- 表示される文字数には制限があります。

WMA について

WMA とは、Windows Media Audio の略称で、Microsoft 社の音声圧縮フォーマットです。
MP3 よりも高い圧縮率で、音声データを作成·保存することができます。
本機は、拡張子 (.wma) がついているファイルを WMA ファイルとして再生します。
※Microsoft、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

- 記載している規格以外で書き込まれた WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.wma」を追記してからメディアに書き込んでください。

AAC について

AAC とは、Advanced Audio Coding の略称で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。
MP3 よりも高い圧縮率で、音声データを作成·保存することができます。
本機は、拡張子 (.aac/.m4a) がついているファイルを AAC ファイルとして再生します。

- 記載している規格以外で書き込まれた AAC ファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されなかったりする場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.aac」、「.m4a」を追記してからメディアに書き込んでください。

Ogg について

Ogg とは、Xiph.Org Foundation の音声圧縮フォーマットです。
MP3 よりも高い圧縮率で、音声データを作成·保存することができます。
本機は、拡張子 (.ogg) がついているファイルを Ogg ファイルとして再生します。

- 記載している規格以外で書き込まれた Ogg ファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されなかったりする場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.ogg」を追記してからメディアに書き込んでください。

WAV について

WAV とは、WAVE の略称で、Microsoft と IBM によって開発された音声圧縮の規格です。
本機では PCM (パルス符号変調) 形式で記録された、拡張子 (.wav) がついているファイルを WAV ファイルとして再生します。

知識

PCM 形式は、CD などに採用されている形式で、アナログのオーディオデータをデジタル化するための手法です。
詳しくは https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/89879 をご覧ください。

- 記載している規格以外で書き込まれた WAV ファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されなかったりする場合があります。
- パソコンの OS の種類やバージョン、ソフト、設定によっては拡張子がつかない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.wav」を追記してからメディアに書き込んでください。

商標について

本書に記載されている商品･サービス名は、各社の商標または登録商標です。

- Aha™、Aha™ロゴおよび Aha™トレードドレスは Harman International Industries, Inc.の商標、または登録商標です。
- AUDIOPILOT™、Centerpoint®は Bose コーポレーションの登録商標です。
- Bluetooth®は米国 Bluetooth SIG,Inc.の登録商標です。
- Gracenote, the Gracenote logo and logotype are either a registered trademark or a trademark of Gracenote, Inc. in the United States and/or other countries.
  Gracenote 及び Gracenote ロゴとロゴタイプは、米国およびその他の国における Gracenote Inc.の登録商標または商標です。
- iPhone、iPod は Apple Inc.の商標です。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Microsoft、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Stitcher™、Stitcher™ ロゴおよび Stitcher™ トレードドレスは Stitcher, Inc.の商標、または商標登録です。

アンテナ

プリントタイプ　グレード/仕様別装備

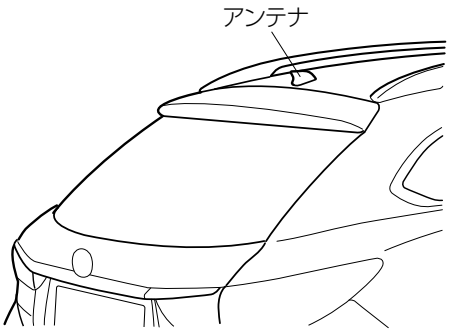
ガラスにプリントされています。

⚠注意

必ず守る

アンテナがプリントされているガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、アンテナにそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、アンテナをいためるおそれがあります。
→608 ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

シャークフィンタイプ（ワゴン）



マツダコネクトの操作方法

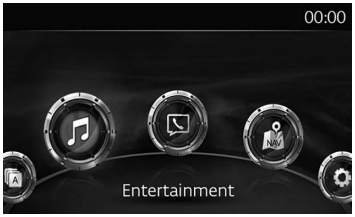
知識

- 本書に記載されている機能の説明、画面やボタンの文字および形状などは、実際と異なる場合があります。
  また、これらのコンテンツは、今後のソフトアップデートに応じて、予告なしに順次変更される可能性があります。
- マツダコネクトに関する情報は、次のマツダコネクトサポートページでもご確認いただくことができます。

http://infotainment.mazdahandsfree.com/vehicle_select?language=jp-JP

ホーム画面

ホーム画面



アイコン	説明
	Applications (アプリケーション) 平均燃費、メンテナンス、警告などの情報を確認できます。
	Entertainment (エンターテイメント) ラジオや CD などのオーディオを操作します。 最後に使用されたオーディオソースが表示されます。ディスクが抜かれた場合など、その時に使用することができなかったオーディオソースはスキップされ、その前のオーディオソースが表示されます。
	Communication (コミュニケーション) 電話や SMS 機能を使用できます。

アイコン	説明
	Navigation (ナビゲーション) ナビゲーション画面を表示します (ナビゲーションシステム装備車)。ナビゲーションシステム用の SD カード (マツダ純正品) が差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。コンパスは、車両停車時、または低速走行時には、正しい方位を示さない場合があります。
	Settings (設定) 設定メニュー (画面、安全装備、サウンド Bluetooth®など) を表示します。

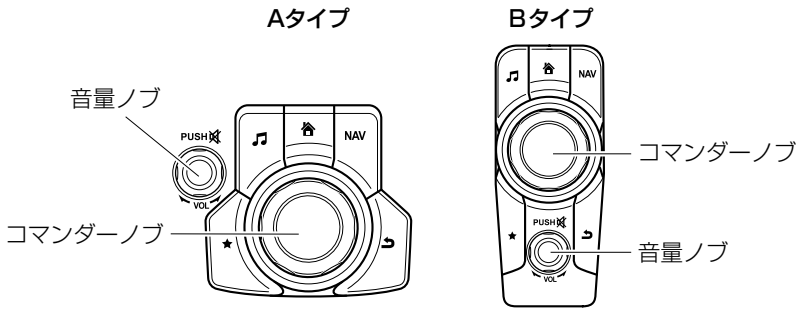
次の操作方法があります。

- コマンダースイッチによる操作
- タッチパネルによる操作
- オーディオリモートコントロールスイッチによる操作
- 音声認識機能による操作

コマンダースイッチによる操作

知識

安全のため、走行中は一部の操作をすることができません。



コマンダーノブ周囲のスイッチ

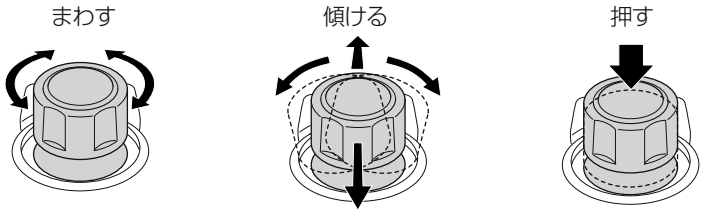
音量ノブを押すと消音できます。もう一度音量ノブを押すと、もとにもどります。
右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと音量が小さくなります。

知識

オーディオを OFF にしたい場合は、音量をゼロにしてください。

コマンダーノブ周囲のスイッチを押すことで次の操作ができます。
: ホーム画面を表示します。
: エンターテイメント画面を表示します。
NAV: ナビゲーション画面を表示します (ナビゲーションシステム装備車)。ナビゲーション画面の操作については、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。また、ナビゲーションシステム用の SD カード (マツダ純正品) が差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。
★: お気に入り画面を表示します。長押しすると、お気に入りに登録できます (FM/AM ラジオの放送局、電話帳、ナビゲーションシステムの目的地を登録可能)。
: 前の画面にもどります。

コマンダーノブの操作



(画面上のアイコンを選択するには)

1. コマンダーノブを傾ける、またはまわして、選択したいアイコンにカーソルを移動させます。
2. コマンダーノブを押して、アイコンを選択します。

知識

機能によっては、コマンダーノブの長押しで操作できます。

タッチパネルによる操作

⚠注意

画面部分を指で強く押したり、先のとがったものなどで触れたりしないでください。画面に傷がついたり、損傷したりするおそれがあります。

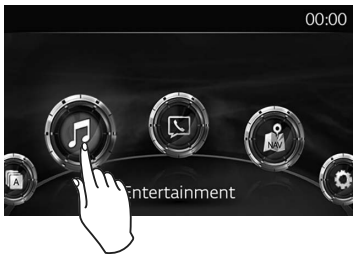
禁止

知識

安全のため、走行中はタッチパネルの操作をすることができません。

基本的な操作方法

タッチ&タップ



1. 画面に表示されている項目に、指で触れる (タッチする)、または指で軽くたたきます (タップする)。
2. 操作が実行されたり、次の項目が表示されます。

スライド (USB オーディオのみ)

1. 項目のスライダーバーにタッチします。
2. スライダーを指で押さえながら、設定したい設定値まで移動します。

画面をスクロールする

1. 画面を指で押さえながら、上下に移動します。
2. 表示されていない項目が表示されます。

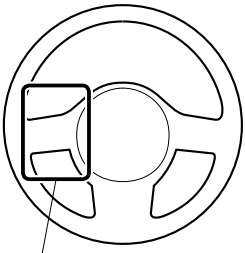
前の画面にもどる

1. にタッチします。
2. 前の画面にもどります。

ホーム画面を表示する

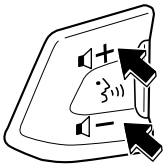
1. にタッチします。
2. ホーム画面が表示されます。

オーディオリモートコントロールスイッチによる操作



ハンドルの左側にあります。
手元でオーディオの操作をすることができます。
スイッチの形状は車種により異なります。

音量を調節するとき



＋、－ボタンを操作して、音量を調節します。

選局するとき

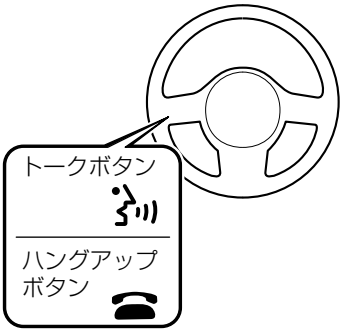
ラジオを聞いているときに|◀◀、▶▶|ボタンを押すと、お気に入りにあらかじめ登録させておいた放送局を呼び出すことができます。|◀◀、▶▶|ボタンを押すごとに順次登録された放送局に切り替わります。
また、ピッと音がするまで押すと、自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。
テレビを視聴しているときに|◀◀、▶▶|ボタンを押すと、チャンネルリストを使って設定された放送局を呼び出すことができます。|◀◀、▶▶|ボタンを押すごとに順次設定された放送局に切り替わります。また、ピッと音がするまで押すと、自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。

頭出しをするとき

CD、USB、iPod、または Bluetooth®オーディオを聞いているときに⏮、⏭ボタンを操作すると、曲の頭出しをすることができます。
次の曲の頭に進めたいときは⏭ボタンを押し、今聞いている曲の頭にもどしたいときは⏮ボタンを押します。
DVD を視聴しているときに⏮、⏭ボタンを操作すると、チャプターの頭出しをすることができます。次のチャプターの頭に進めたいときは⏭ボタンを押し、今視聴しているチャプターの頭にもどしたいときは⏮ボタンを押します。
Aha™、または Stitcher™ラジオを聞いているときに⏭ボタンを押すと、次の曲の頭に進みます。

音声認識機能による操作

この項目では、音声認識の基本操作を説明します。



1. 起動
   トークボタンを押します。
2. ピッ のあとに発話してください。
   発話できるコマンド (音声認識として受け取れることば) は音声認識機能に対応している主な操作をご参照ください。

音声ガイダンスをスキップする

音声ガイダンスが流れているときにトークボタンを押すことで音声ガイダンスをスキップできます。 ピッ と鳴ったあとに音声コマンドを発話してください。

音声認識を終了する

次の操作のいずれかを行います:

- ハングアップボタン☎を押す。
- 発話:「キャンセル」
- コマンダースイッチ、またはセンターディスプレイ (車両停車時のみ) を操作する。

知識

- 音声認識実行中に操作方法が分からなくなったときは「チュートリアル」または「ヘルプ」と発話してください。
- 「もどる」 と「キャンセル」は、音声認識実行中に常に使用できるコマンドです。
- 音声認識実行中に「キャンセル」と発話すると、音声認識モードを終了します。音声認識実行中に「もどる」と発話すると、前の操作にもどります。

音声認識機能に対応している主な操作

トークボタンを押して、次のコマンドを発話するとオーディオを操作することができます。
[ ] 内のコマンドは省略することができます。{ } 内には、指定する名前が入ります。
／で分割されたコマンドはどちらか選択できます。

音声コマンド	説明
ヘルプ	使用可能な音声コマンドを確認できます。
チュートリアル	基本的な音声コマンドと使用方法を確認できます。
自宅 [までナビゲート/まで案内/に帰る/までドライブ]	**(ナビゲーションシステム装備車)** ナビゲーション画面が表示されているときに発話すると、目的地を自宅に設定します。
{電話帳の連絡先} の {携帯/家/仕事} に電話	Bluetooth®機器からダウンロードした電話帳の連絡先に電話を発信します。 例: 「マツダ タロウの携帯に電話。」
リダイヤル	最後に電話をかけた相手 (発信履歴の最新の人物) に電話を発信します。
コールバック	最後に電話をかけてきた相手 (着信履歴の最新の人物) に電話を発信します。

音声コマンド	説明
{アーティスト名} の曲を再生	接続している USB 機器に保存されている、指定したアーティストの曲を再生します。
Bluetooth (ブルートゥース) [オーディオ] [に移動/[を] 再生]	オーディオソースを Bluetooth®オーディオに切り替えます。 同様に、FM/AM/USB などのコマンドで、各オーディオソースにも切り替えることができます。

知識

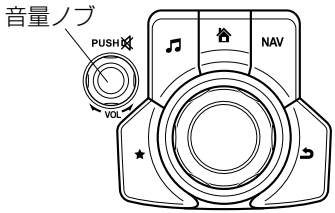
- 表のコマンドは、使用可能なコマンドの一例です。
- ナビゲーション画面で使用できる音声コマンドの詳細は、別冊のナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。

音声認識を失敗しないようにするために、次のポイントに注意してください:

- 音声案内中や「ピッ」と鳴っている間は、音声認識を行うことができません。音声案内や「ピッ」と鳴り終わるのを待ってから、音声コマンドを発話してください。
- Bluetooth®で接続されている電話があるときに、電話関連のコマンドが利用可能になります。音声認識で電話を操作する前に電話を Bluetooth®に接続してください。
- 必要以上に大声でしゃべったり、ゆっくりしゃべったりしないでください。
- 機器側の電話帳にふりがな情報が未登録の場合、音声認識で電話帳を呼びだすことができません。
- 機器側の電話帳の人物を音声認識で呼びだす場合、登録されている名前が長いほど認識率は向上します (「はは」、「いえ」、「つま」などのように短い場合、認識に失敗するときがあります)。
- 単語や数字の間で区切らないように発音してください。
- 指定された音声コマンド以外は、認識することができません。指定された音声コマンドを発話してください。
- マイクの方に向いたり近づいたりする必要はありません。安全運転中の姿勢のまま音声コマンドを発話してください。
- Bluetooth®ハンズフリーを使用するときは、車両の外の雑音やエアコンの気流を乱すのを防ぐために窓とサンルーフを閉めてください。
- エアコンの風がマイクに当たっていないことを確認してください。

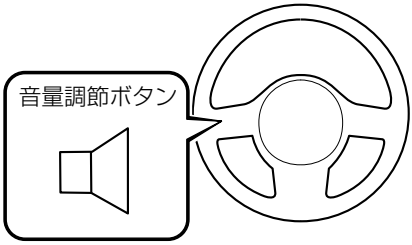
マツダコネクトの設定

コマンダースイッチ



※コマンダースイッチの形状は車種により異なります。

オーディオリモートコントロールスイッチ



音量の調節

コマンダースイッチの音量ノブをまわして調節します。または、オーディオリモートコントロールスイッチの音量調節ボタンを押して調節します。

知識

- 音声ガイダンスされているときに音量調節すると、音声ガイダンスの音量変更となります。
- ハンズフリーで通話しているときに音量調節すると、通話音量の変更になります。
- 音量ノブを押すと消音できます。もう一度音量ノブを押すと、もとにもどります。

画面の調節

画面の設定 (表示/非表示、明るさなど) を変更することができます。
→697 ページ「その他の装備・機能」

音質の調節

音の設定を変更することができます。
→697 ページ「その他の装備・機能」

各システムの設定

各システムの設定を変更することができます。
→697 ページ「その他の装備・機能」

オーディオソースの使いかた

ラジオを聞く

交通情報の受信

1. ホーム画面から を選択します。
最後に使用したオーディオソースの再生画面とメニューバーが表示されます。
2. ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

3. 交通情報 を選択すると再生画面とメニューバーが表示されます。

ボタン	説明	音声コマンド
1620/1629	選択するごとに、AM1620kHz と AM1629kHz を切り替えることができます。	—
設定	音質を調節します。 →457 ページ「マツダコネクトの設定」	—

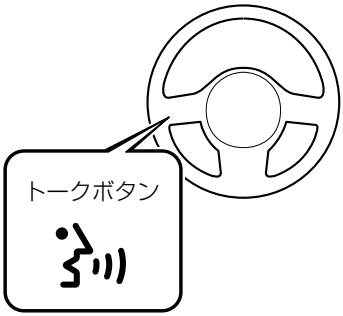
FM/AM ラジオの受信

1. ホーム画面から を選択します。
   最後に使用したオーディオソースの再生画面とメニューバーが表示されます。
2. ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

3. AMかFMを選択すると、再生画面とメニューバーが表示されます。

（ FM を選択した場合）

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
   (音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。)
2. 「AM」または「FM」と発話します。
   その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

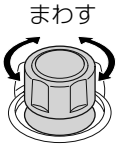
音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

マツダコネクト

アイコン	説明	音声コマンド
	エンターテイメントメニューを表示します。他のオーディオソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	放送局リストを表示します。放送局リストには エリア登録Ch、受信Chの 2 つがあります。 エリア登録Chには本機が記憶している放送局を、自車の位置を参考に表示します。 受信Chには本機が実際に受信できた放送局を表示します。表示された放送局リストから聞きたい局を選択します。	放送局
	お気に入りリストを表示します。長押しすると、そのとき受信している周波数をお気に入りに登録できます。	お気に入り
	受信可能な放送局を探すことができます。 周波数の低い方から高い方へ 5 秒間ずつ受信していきます。聞きたい局がみつかったら、もう一度選択することでその周波数が固定されます。	スキャン
	周波数選択画面を表示します。*1	チューニング
 	自動選局します。 長押しすると周波数は変化し続けます。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	シークダウン/シークアップ
	音質を調節します。 →457 ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

*1 周波数選択方法

- コマンダーノブをまわす。
- ◀または▶をタッチする。
  周波数が 1 ステップずつ切り替わります。
- ◀または▶を長押しする。
  周波数は変化し続けます。アイコンから手を離すと止まります。



放送局リスト

自車の位置を基点に放送局を表示します。また放送局リストの表示を更新できます。
ラジオ再生画面で放送局リストボタンを選択します。

(エリア登録 Ch.を表示させる場合)

1. エリア登録 Ch.タブを選択します。
   あらかじめ本機がエリアごとに記憶している放送局が自車位置を参考に昇順で表示されます。
2. リスト更新を選択します。
   リスト更新を選択することによって最新の自車位置で放送局リストを更新することができます。

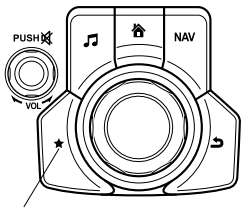
(受信 Ch.を表示させる場合)

1. 受信 Ch.タブを選択します。
本機のチューナーが実際に受信した放送局が昇順で表示されます。
2. リスト更新を選択します。
リスト更新を選択することによって再度受信可能な放送局を探し、リストを更新することができます。

知識

- エリア登録 Ch.は、本機が記憶している放送局の中から、自車位置に応じて受信可能と思われる放送局がリスト表示されます。受信状況によってはリストにある放送局を受信することができない場合があります。
- 受信 Ch.では放送局名が表示されず周波数のみ表示されることがあります。次のような場合は、放送局名が表示されません。
  - 地域のコミュニティ放送局
  - 新たに中継局を増設した放送局
- 本機に記憶された放送局名は、放送局名称の変更などによって最新とは異なる場合があります。

お気に入りに登録する



お気に入りボタン

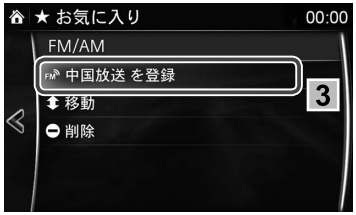
※コマンダースイッチの形状は車種により、異なります。

選局した放送局を登録しておくと便利です。最大 50 件の放送局を登録することができます。お気に入りリストは FM、AM で共通です。

★を長押しすると、現在流れている放送局を登録します。また、次の手順で登録することもできます。

1. ★を選択し、お気に入りリストを表示します。

2. 追加/編集を選択します。



3. （視聴している周波数）を登録を選択します。
4. お気に入りリストの一番下に追加されます。

お気に入りから放送局を選択する

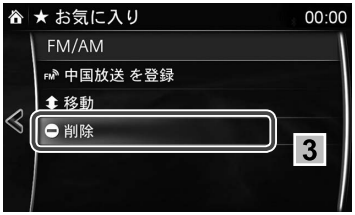
1. ★を選択し、お気に入りリストを表示します。

2. 登録した周波数を選択すると、その放送局を受信します。

お気に入りから削除する

1. ★を選択し、お気に入りリストを表示します。

2. 追加/編集を選択します。



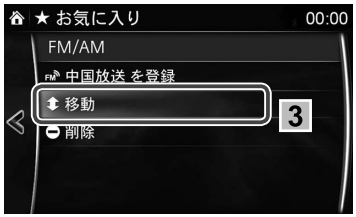
3. 削除を選択します。

4. 削除したい放送局、または周波数を選択します。
5. 削除を選択します。

お気に入りリストの表示順を変更する

1. ★を選択し、お気に入りリストを表示します。

2. 追加/編集を選択します。



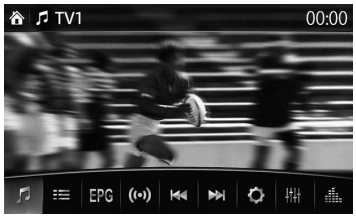
3. 移動を選択します。

4. 放送局、または周波数を選択すると、その放送局を移動できるようになります。
5. スライド、またはコマンダースイッチで放送局を移動し、OKを選択します。

テレビを見る グレード/仕様別装備

1. ホーム画面からを選択します。最後に使用したオーディオソースの再生画面とメニューバーが表示されます。
2. ♫ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

3. TVを選択すると、テレビ画面が表示されます。



4. コマンダーノブを押すか、画面をタッチすると、メニューバーが表示されます。

アイコン	説明	音声コマンド
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	—
	チャンネルリストを表示します。	—
EPG	視聴しているチャンネルの番組情報を表示します。 確認したい番組を選択すると、番組説明を表示します。	—
	系列局を探してチャンネルを切り替えます。	—
 	選局します。 チャンネルリストに記憶させておいた放送局を呼び出します。 長押しすると自動選局します。	—
	テレビ設定画面を表示します。	—
	画質を設定します。 画面の下部に画質設定を表示します。	—
	音質を調節します。 →457 ページ「マツダコネクトの設定」	—

知識

- 安全のため、走行中は映像が表示されません。
- テレビを表示してしばらくすると、フルスクリーン表示に切り替わります。
- テレビでは音声認識を利用できません。

チャンネルリスト

放送局は、チャンネルリストから探します。

チャンネルリストに登録する

受信可能な放送局を、チャンネルリストに登録することができます。
チャンネルは［ＴＶ１］、［ＴＶ２］それぞれ 12 局まで登録できます。

(視聴している放送局を登録する)

1. ☰を選択すると、チャンネルリストを表示します。
2. ［ＴＶ１］または［ＴＶ２］タブを選択して、チャンネルリストを選びます。
3. リストのいずれかを長押しすると、放送局を登録します。

(受信可能なすべての放送局を登録する)

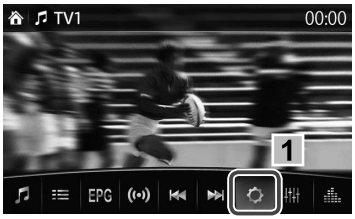
1. ☰を選択すると、チャンネルリストを表示します。
2. ［ＴＶ１］または［ＴＶ２］タブを選択して、チャンネルリストを選びます。
3. ［Auto Preset］を選択します。
4. ［はい］を選択すると、受信可能な放送局を探し、チャンネルリストに登録します。

チャンネルリストから放送局を選択する

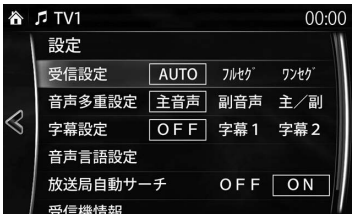
1. ☰を選択すると、チャンネルリストを表示します。
2. ［ＴＶ１］または［ＴＶ２］タブを選択して、チャンネルリストを選びます。
3. 呼び出す放送局を選択します。

テレビの各種機能を設定する

テレビの各種機能を設定することができます。



1. を選択すると、設定項目が表示されます。



2. 設定したいメニューを選択して設定します。

受信設定

フルセグ(地上デジタルテレビ放送)とワンセグの受信設定を変更します。

AUTO: 受信状態によってフルセグ受信とワンセグ受信を切り替えます。

フルセグ: 常にフルセグを受信します。

ワンセグ: 常にワンセグを受信します。

音声多重設定

主/副音声を選択することができます。

主音声: 主音声に切り替えます。

副音声: 副音声に切り替えます。

主／副: 主音声副音声に切り替えます。

字幕設定

字幕表示を設定します。

OFF: 字幕を表示しません。

字幕１: 字幕 1 を表示します。

字幕２: 字幕 2 を表示します。

音声言語設定

音声言語を設定します。

1. 音声言語設定を選択すると、選択可能な音声言語設定が表示されます。
2. 聞きたい音声言語設定を選択します。

放送局自動サーチ

放送局自動サーチ機能の ON/OFF を設定します。

OFF: 視聴している放送の受信状態が悪くなっても、中継局を探しません。

ON: 視聴している放送の受信状態が悪くなると、受信状態の良い中継局を探して自動で切り替えます。

受信機情報

受信機情報を表示します。

受信機情報を選択すると、ソフト情報を表示します。

設定初期化

すべてのテレビ設定値をリセットし、初期値にもどすことができます。

1. 設定初期化を選択します。
2. はいを選択します。

画質を設定する

画面の明るさ、コントラスト、色合い、色の濃さを設定できます。

1. を選択します。

2. 次のタブを選択し、調節します。

タブ	説明
明るさ	スライダーで画面の明るさを調節します。
コントラスト	スライダーで画面のコントラストを調節します。
色合い	スライダーで画面の色合いを調節します。
色の濃さ	スライダーで画面の色の濃さを調節します。
リセット	画面設定を初期値にもどします。 リセットを選択します。

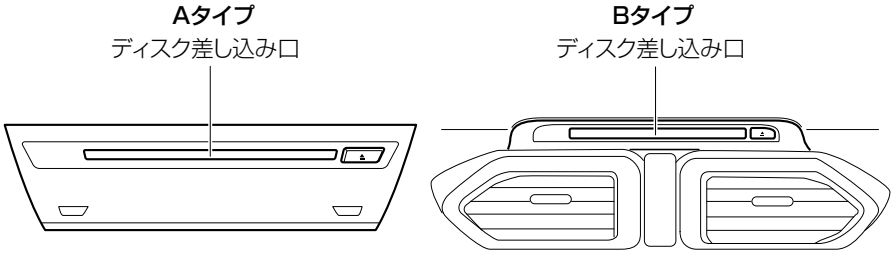
緊急放送の視聴

本機は、緊急放送を受信することができます。

1. 緊急放送を受信すると、確認画面が表示されます。
2. はいを選択すると、緊急放送に切り替わります。
   緊急放送が終了すると、もとの状態にもどります。

CD を再生する グレード/仕様別装備

CD を本機にセットする

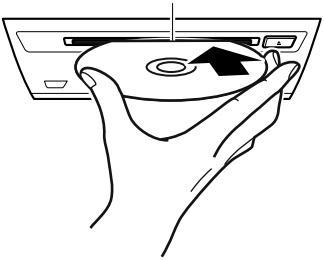


CD/DVD プレイヤーの形状は車種により異なります。

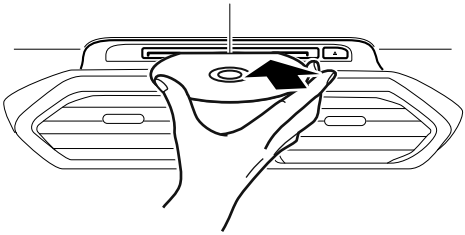
1. 電源ポジションを ACC、または ON にします。

2. CD のラベル面を上にして、CD 差し込み口に軽く押し込みます。CD が自動的に送り込まれ、再生を始めます。

Aタイプ
ディスク差し込み口



Bタイプ
ディスク差し込み口



CD 再生画面へ移動する

1. ホーム画面から♫を選択します。最後に使用したオーディオソースの再生画面とメニューバーが表示されます。
2. ♫ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

3. CD を選択すると、再生画面とメニューバーが表示されます。

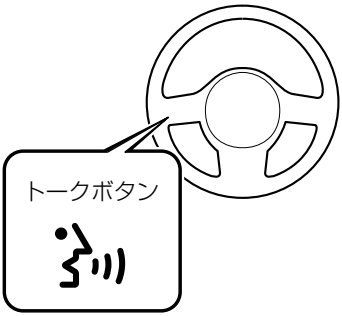
知識

- 本機は CD-TEXT 対応です。CD-TEXT 対応ディスクの再生時は曲名やアーティスト 名などの楽曲情報が表示されます。

知識

- MP3/WMA/AAC CD では音楽ファイル作成時に楽曲情報が埋め込まれていれば楽曲情報が表示されます。
- 本機は CD の再生では Gracenote®音楽認識サービスは利用できません。

音声認識機能が使えます

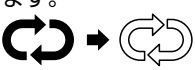
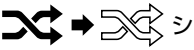
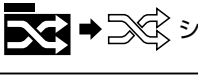


1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
(音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。)
2. 「CD」と発話します。
その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド *1
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	(音楽 CD) CD 内のトラックリストを表示します。 聞きたいトラックを選択します。	トラックリスト
	(MP3/WMA/AAC CD) 一番上の階層のフォルダ/ファイルリストを表示します。 フォルダを選択します。フォルダ内のファイルが表示されます。聞きたいファイルを選択します。	—

アイコン	説明	音声コマンド*1
	(MP3/WMA/AAC CD のみ) 現在再生しているフォルダのファイルリストを表示します。聞きたいファイルを選択します。	トラックリスト
	(音楽 CD) 再生中の曲をくり返して再生します。  リピート再生を解除します。	リピート*2
	(MP3/WMA/AAC CD) 再生中の曲をくり返して再生します。 フォルダ内の曲をくり返して再生します。 リピート再生を解除します。	リピート*3
	(音楽 CD) CD 内の曲をランダムな順序で再生します。  シャッフル再生を解除します。	シャッフル*4
	(MP3/WMA/AAC CD) フォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。 CD 内の曲をランダムな順序で再生します。  シャッフル再生を解除します。	シャッフル*5

アイコン	説明	音声コマンド *1
	(音楽 CD) CD 内の各曲の初めを再生し、聞きたい曲を探すことができます。もう一度選択すると解除され、その曲の再生がそのまま続きます。	スキャン
	(MP3/WMA/AAC CD) フォルダ内の各曲の初めを再生し、聞きたい曲を探すことができます。もう一度選択すると解除され、その曲の再生がそのまま続きます。	スキャン
	曲の再生が始まって数秒以内であれば、前の曲の頭にもどります。 曲の再生が始まって数秒以上経過していれば、再生中の曲の頭にもどります。 長押しすると早もどしをします。アイコンまたはコマンダーノブから手を離すと止まります。	前へ*6
	(一時停止中に選択すると) 曲を再生します。	再生
	(再生中に選択すると) 一時停止します。	一時停止
	次の曲の頭に進みます。 長押しすると早送りをします。アイコンまたはコマンダーノブから手を離すと止まります。	次へ*7
	音質を調節します。 →457 ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

*1 音声認識機能が使えます。
「ヘルプ」と発話すると使用可能な音声コマンドが表示されます。

*2 「リピート」と発話すると［リピート］［解除］の順に切り替わります。

*3 「リピート」と発話すると［1 曲リピート］［フォルダ内リピート］［解除］の順に切り替わります。

*4 「シャッフル」と発話すると［シャッフル再生］［シャッフル解除］が切り替わります。

*5 「シャッフル」と発話すると［フォルダ内シャッフル］［CD 内シャッフル］［解除］の順に切り替わります。

*6 音声認識では「早もどし」に対応していません。

*7 音声認識では「早送り」に対応していません。

知識

- 12cmCD サイズ専用です。8cmCD (シングル) サイズは、アダプタを使用しても再生することはできません。8cmCD アダプタを使用すると故障の原因になります。
- **(MP3/WMA/AAC CD)**
  再生は表示の上から順に再生されます。
  フォルダが存在する場合は、そのフォルダの中にある曲を再生してから次を再生します。
  フォルダに再生可能な曲がない場合は、次を再生します。

使用例 (MP3/WMA/AAC CD の一番上の階層から曲を探すとき)

1. を選択して、一番上の階層のフォルダ/ファイルリストを表示します。

2. フォルダを選ぶと、そのフォルダの中のフォルダ/ファイルリストが表示されます。

3. 聞きたいファイルを選択します。

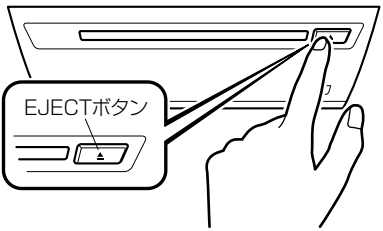
知識

- を選択すると、一つ上のフォルダに移動します。
- スキャン再生中にオーディオ操作をおこなうと、スキャン再生中の曲が通常再生されます。その後、オーディオは通常操作をおこなうことができます。
- CD を取り出すと、CD の前に再生していたオーディオソースに移動します。

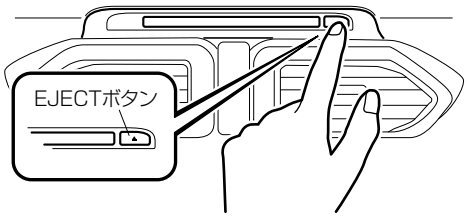
CD を取り出すとき

1. ⏏ボタンを押します。

Aタイプ

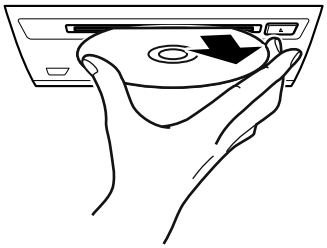


Bタイプ

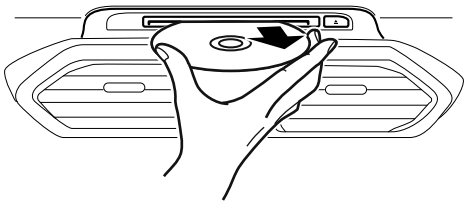


2. CD の端を持って取り出します。

Aタイプ



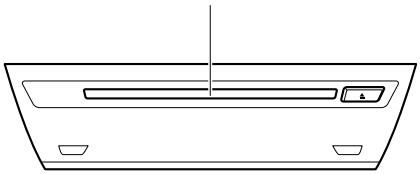
Bタイプ



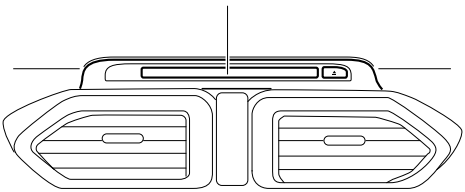
DVD を再生する グレード/仕様別装備

DVD を本機にセットする

Aタイプ
ディスク差し込み口



Bタイプ
ディスク差し込み口



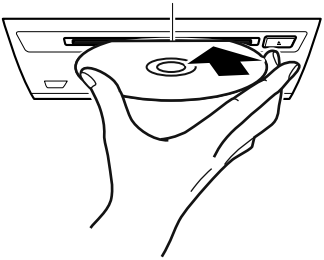
CD/DVD プレイヤーの形状は車種により異なります。

1. 電源ポジションを ACC、または ON にします。

2. DVD のラベル面を上にして、DVD 差し込み口に軽く押し込みます。DVD が自動的に送り込まれ、DVD のトップメニュー画面とコントローラーが表示されます。

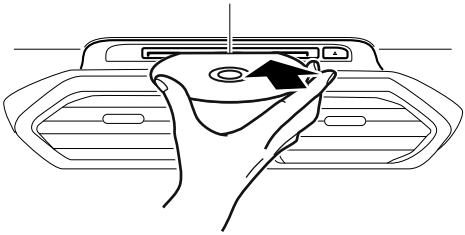
Aタイプ

ディスク差し込み口



Bタイプ

ディスク差し込み口

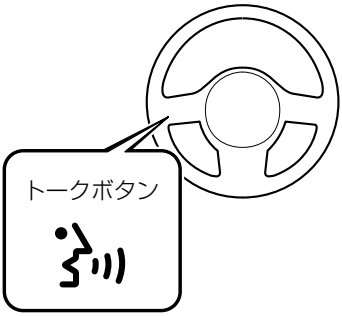


DVD 再生画面へ移動する

1. ホーム画面から を選択します。
2. ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

3. DVDを選択すると、再生画面とメニューバーが表示されます。

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
(音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。)
2. 「DVD」と発話します。
その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド*1
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	DVD のメニュー画面にもどります。	メニュー
	チャプターの再生が始まって数秒以内であれば、前のチャプターの頭にもどります。チャプターの再生が始まって数秒以上経過していれば、再生中のチャプターの頭にもどります。 再生中に長押しすると早もどしをします。一時停止中に長押しすると逆スロー再生をします。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	前へ*2
▶/⏸	⏸ ➡ ▶ (一時停止中に選択すると) 曲を再生します。	再生
	▶ ➡ ⏸ (再生中に選択すると) 一時停止します。	一時停止

アイコン	説明	音声コマンド *1
	次のチャプターの先頭に進みます。 再生中に長押しすると早送りをします。 一時停止中に長押しするとスロー再生をします。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	次へ*3
	選ぶごとに、カメラアングルを変更します (使用可能な DVD の場合)。	カメラの角度
	字幕の表示/非表示を切り替えます (使用可能な DVD の場合)。	字幕
	視聴制限を切り替えます。 視聴制限レベルや、PIN コードの設定を変更することができます。	ペアレンタルロック
	再生を一時停止して、DVD 設定画面を表示します。 サウンド設定を選択すると、音質を調節します。 →457 ページ「マツダコネクトの設定」 アスペクト比を選択すると、アスペクト比 (画面の横縦比) を選択できます。16:9 ワイドスクリーン、4:3 レターボックス、4:3 パンスキャンから選択できます。	DVD 設定
	画質を設定します。 画面の下部に画質設定を表示します。	画質設定

*1 音声認識機能が使えます。
「ヘルプ」と発話すると使用可能な音声コマンドが表示されます。

*2 音声認識では「早もどし」に対応していません。

*3 音声認識では「早送り」に対応していません。

知識

- 12cmDVD サイズ専用です。8cmDVD サイズは、アダプタを使用しても再生することはできません。8cmDVD アダプタを使用すると故障の原因になります。
- 安全のため、走行中は映像が表示されず音声のみになります。
- コントローラーの をスライドすると、コントローラーが移動します。

知識

- DVD の再生を止めた後に DVD モードに切り替えると、DVD のメニュー画面を表示せずに再生を再開します。
- DVD 再生中に他のオーディオに切り替える場合、DVD は一時停止状態になります。
- DVD 再生中のスライダーが、コマンダーノブで操作できます。コマンダーノブを上方向に倒してスライダーを選択します。
- DVD-VR 方式で記録したディスクの再生時は、メニュー表示されないことがあります。

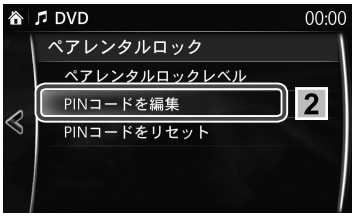
ペアレンタルロック（視聴制限設定）

DVD には視聴制限レベルが設定されたものがあります。
DVD の視聴制限レベルがオーディオ側で設定した設定レベル以上の場合は、再生できません。視聴制限レベル変更、PIN コード編集、PIN コードリセットを設定することができます。

PIN コードを設定する

視聴制限機能を使用するには、まず PIN コードを設定する必要があります。

1. を選択します。



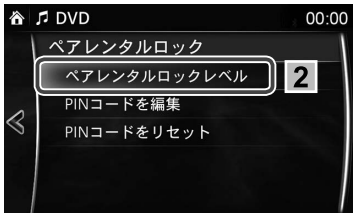
2. PINコードを編集を選択します。

3. テンキーを使用して PIN コードを入力します。
4. OK を選択します。

視聴制限レベルを変更する

視聴制限機能を使用するには、まず PIN コードを設定する必要があります。

1. を選択します。



2. ペアレンタルロックレベル を選択します。

3. テンキーを使用して PIN コードを入力します。
4. OK を選択します。
5. 視聴制限レベルを選択します。

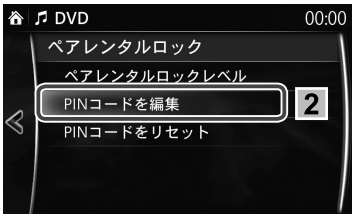
知識

制限レベルは、なし、G、PG12、R15+から選択できます。

PIN コードを編集する

視聴制限機能を使用するには、まず PIN コードを設定する必要があります。

1. を選択します。



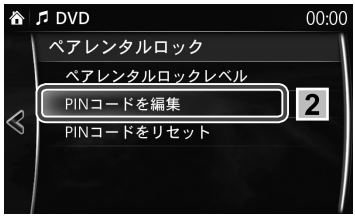
2. PINコードを編集を選択します。

3. テンキーを使用して PIN コードを入力します。
4. OKを選択します。
5. テンキーを使用して新しい PIN コードを入力します。
6. OKを選択します。

PIN コードをリセットする

登録した PIN コードを忘れたときは、工場初期設定時の PIN コード［0000］を入力することでリセットできます。

1. を選択します。



2. PINコードを編集を選択します。

3. テンキーを使用して工場初期設定時の PIN コード［0000］を入力します。
4. OK を選択します。
5. テンキーを使用して新しい PIN コードを入力します。
6. OK を選択します。

ロックされた DVD を再生する

再生しようとしている DVD が設定した視聴制限によってロックされた場合は、PIN コードを入力して解除します。

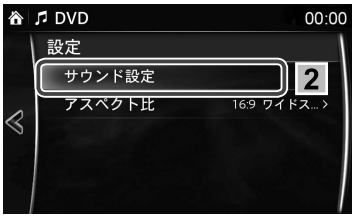
1. ロックされた DVD を再生すると、PIN コード入力画面が表示されます。
2. テンキーを使用して PIN コードを入力します。
3. OK を選択すると、再生を開始します。

DVD の各種機能を設定する

音質とアスペクト比を設定することができます。

音質を設定する

1. ⚙を選択します。

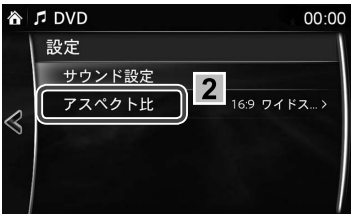


2. サウンド設定を選択すると、音質設定画面を表示します。
→457 ページ「マツダコネクトの設定」

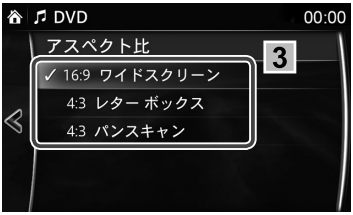
音量 / 画面 / 音質の調節

アスペクト比を設定する

1. ⚙を選択します。



2. アスペクト比を選択します。



3. アスペクト比を選択します。

画質を設定する

画面の明るさ、コントラスト、色合い、色の濃さを設定することができます。

1. を選択すると、画面の下部に次のタブが表示されます。

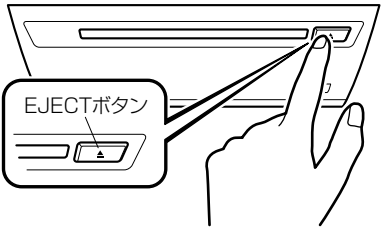
タブ	説明
明るさ	スライダーで画面の明るさを調節します。
コントラスト	スライダーで画面のコントラストを調節します。

タブ	説明
色合い	スライダーで画面の色合いを調節します。
色の濃さ	スライダーで画面の色の濃さを調節します。
リセット	画面設定を初期値にもどします。リセットを選択します。

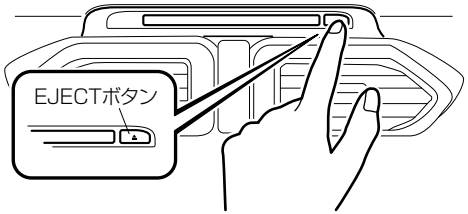
DVD を取り出すとき

1. ⏏ボタンを押します。

Aタイプ

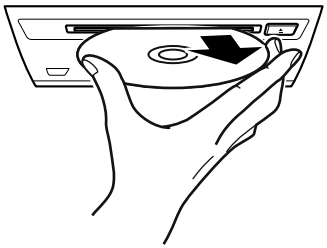


Bタイプ

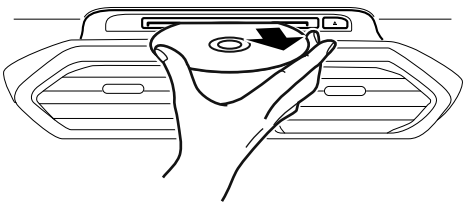


2. DVD の端を持って取り出します。

Aタイプ



Bタイプ



知識

DVD を取り出すと、DVD の前に再生していたオーディオソースに移動します。

USB オーディオ機器の音楽を聞く

市販の USB メモリ、音楽プレイヤー、スマートフォンを本機の USB 端子に接続することで、オーディオ再生することができます。

⚠警告

必ず守る

USB 端子に接続したコードが、セレクトレバーに絡まないようにする。運転操作がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

- **プラグを接続した状態で、USB 端子の上やコンソールボックスのフタの上に物を載せたり、大きな力を加えたりしないでください。**
- **接続する機器によっては、車に装着されている電源ソケットを使用すると、再生時にノイズが発生することがあります (ノイズが発生した場合は電源ソケットを使用しないでください)。**
- **USB オーディオとして接続しているデバイスを、同時に Bluetooth®オーディオとして本機に接続しないでください。正常に操作できなくなったり、予期しない動作を引き起こすことがあります。**
- **USB ポートに SD カードリーダーや USB ハブを接続しないでください。カードに書き込まれた音楽の再生には対応していません。ナビゲーションシステムが使用できなくなることがあります。またマウスやキーボードも接続しないでください。**
- **USB オーディオ機器を車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温となり、故障の原因になります。**
- **SD カードスロットは、ナビゲーションシステム用です。ナビゲーションシステム用の SD カード (マツダ純正品) を差し込んで使用します。音楽ファイルが保存された SD カードを挿入しても再生できません。**

知識

- 接続する機器によっては、使用できない場合があります。マツダコネクトで動作確認済みの機種はマツダコネクトサポートページで情報公開しています。
→448 ページ「マツダコネクトの操作方法」
本ページよりエンターテイメントの動作確認済機種を参照ください。
- ご使用前に、市販のポータブルオーディオの取扱説明書をよくお読みください。
- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 接続する機器によっては、ノイズが発生することがあります。
- プラグは USB 端子に確実に差し込んでください。

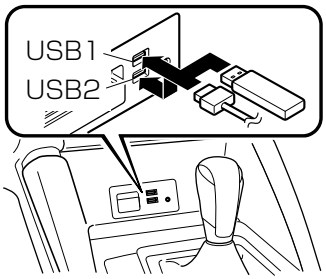
知識

- 本機では USB2.0/1.1 規格に対応したデバイスが利用できます。USB3.0 規格品であっても USB2.0 と互換のある機材であれば、USB2.0 デバイスとして利用可能です。

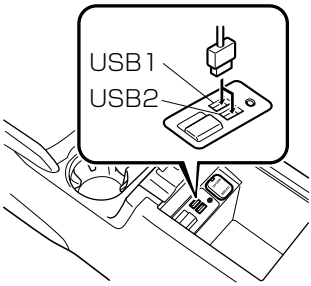
機器を接続する

USB ケーブルで、車両と USB オーディオ機器を接続します。プラグの抜き差しは USB 端子の穴に対して垂直におこなってください。

Aタイプ
(インストルメントパネル取り付けタイプ)



Bタイプ
(コンソールボックス取り付けタイプ)



USB 端子の位置は車種により異なります。

音楽を再生する

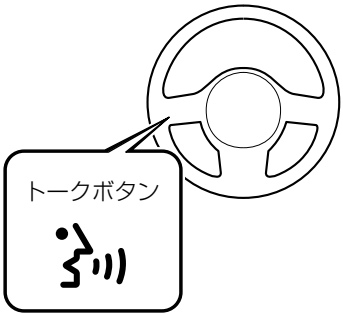
知識

- USB メモリを使用する場合、容量や保存されたファイル数によっては再生できるまで時間がかかることがあります。
- USB メモリの容量は 16GB 以下、保存ファイル数は 1,000 以内が推奨となります。
- USB メモリのファイル名が長すぎると、動作が不安定になることがあります。(推奨：80 文字以内)
- アルバムアートのサイズによっては、アルバムアートが表示できない場合があります。

1. ホーム画面から♫を選択します。
   最後に使用したオーディオソースの再生画面が表示されます。
2. アイコン左端の♫ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

3. **USB 1** または **USB 2** を選択します。
   (USB を接続していない場合は、**USB 1**、**USB 2** は選択できません)

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
   (音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。)
2. 「USB1」または「USB2」と発話します。
   (USB を接続していない場合は、**USB 1**、**USB 2** は選択できません)

USB オーディオ機器再生画面

アイコン	説明	音声コマンド*1
	エンターテイメントメニューを表示します。 他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	カテゴリーリストを表示します。 アルバムやアーティストなどの再生方法が指定できます。	—
	カテゴリーで選択した再生方法のトラックリストを表示します。	現在のフォルダ
	再生中の曲をくり返して再生します。	リピート*3
	カテゴリーで選択した再生方法のトラックリスト全体をくり返して再生します。	全曲リピート*4
	リピート再生を解除します。	リピート*3
	カテゴリーで選択した再生方法のトラックリストをランダムな順序で再生します。	シャッフル*5
	シャッフル再生を解除します。	

アイコン	説明	音声コマンド *1
	Gracenote® の More Like This™ によって、再生中の曲と似た曲を自動で探し出し、再生を開始します。*2 More Like This™ をキャンセルするには、カテゴリーリストの中から任意の曲を選択します。	More Like This (モア ライク ディス)
	曲の再生が始まって数秒以内であれば、前の曲の頭にもどります。曲の再生が始まって数秒以上経過していれば、再生中の曲の頭にもどります。長押しすると早もどしをします。	前へ*6
	(一時停止中に選択すると) 曲を再生します。	再生
	(再生中に選択すると) 一時停止します。	一時停止
	次の曲の頭に進みます。 長押しすると早送りをします。	次へ*7
	音質を調節します。 →457 ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

*1 音声認識機能が使えます。
「ヘルプ」と発話すると使用可能な音声コマンドが表示されます。

*2 USB 接続してから「More Like This」が使用できるようになるまで一定の時間が必要になります。使用可能になるまでの時間は接続した USB に格納された音楽データの容量により異なります。

*3 「リピート」と発話すると［リピート］［全曲リピート］［解除］の順に切り替わります。

*4 「全曲リピート」と発話するとダイレクトに［全曲リピート］を選択できます。

*5 「シャッフル」と発話すると［シャッフル再生］［シャッフル解除］が切り替わります。

*6 音声認識では「早もどし」に対応していません。

*7 音声認識では「早送り」に対応していません。

知識

再生時間を表示しているスライダーを移動することで、好きな時間から再生できます。

聞きたい曲を選ぶ

カテゴリーリストから曲の再生方法を選択します。

カテゴリー	説明	音声コマンド*1
プレイリスト	機器に登録されたプレイリスト一覧が表示され、選択したプレイリストをトラックリストとして再生します。	プレイリスト
アーティスト	機器に収録されたアーティスト一覧が表示され、選択したアーティストのアルバムまたは全曲をトラックリストとして再生します。	アーティスト*2
アルバム	機器に収録されたアルバム一覧が表示され、選択したアルバムをトラックリストとして再生します。	アルバム
曲	機器に収録された全ての曲が表示され、全ての曲をトラックリストとして再生します。また、アルファベット～50 音検索で聞きたい曲が探せます。	曲
ジャンル	機器に収録された曲のジャンル一覧が表示され、選択したジャンルの中でアーティスト別やアルバム別、またはすべての曲をトラックリストとして再生します。	ジャンル
オーディオブック	機器に収録されたオーディオブックのリストが表示され、選択したチャプターを再生します。	オーディオブック*3
ポッドキャスト	機器に収録された Podcast のリストが表示され、選択したエピソードを再生します。	ポッドキャスト*3
フォルダ	機器に作成されたフォルダが表示され、選択したフォルダをトラックリストとして再生します。	フォルダ*4

楽曲情報がない音楽ファイルは「曲」「フォルダ」でしか表示されません。

*1 音声認識機能が使えます。音声コマンドはカテゴリー名です。

*2 「(アーティスト名) の曲を再生」と発話すると、USB に保存されている曲の中から任意のアーティストの曲を再生することができます。

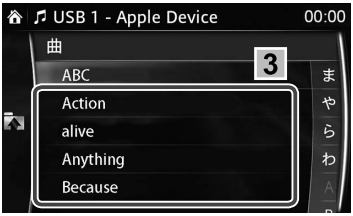
*3 iPhone、iPod を接続時に操作することができます。

*4 iPhone 以外のスマートフォン、USB メモリを接続時に操作することができます。(音楽データ以外が格納されていてもリスト表示されますが、再生可能な音楽ファイル以外は選択できません。)

使用例 (USB 機器内にあるすべての曲を再生するとき)

1. ☰を選択して、カテゴリーリストを表示します。

2. 曲を選択します。USB 機器内にあるすべての曲が表示されます。



3. 聞きたい曲名を選択します。聞きたい曲が再生されます。
継続して再生をすることで、USB 機器内にあるすべての曲を再生することができます。

使用例 (アーティストを選んで曲を再生するとき)

1. ☰を選択して、カテゴリーリストを表示します。

2. アーティストを選択します。アーティストの一覧が表示されます。

3. アーティストを選択します。選択したアーティストのアルバム一覧が表示されます。

4. 聞きたいアルバムを選択すると、そのアルバムの収録曲が表示されます。アーティストのすべての曲を聞きたいときは、すべての曲を選択します。
5. 聞きたい曲名を選択します。聞きたい曲が再生されます。

USB オーディオ再生時に表示される楽曲情報

USB オーディオ機器でオーディオを再生した場合、車両に収録されているデータベースの中からアルバム名やアーティスト名、ジャンル、タイトルを検索し、各情報がデータベースに収録されていると、各情報を自動で付与します。本機に収録されているデータベース情報は、Gracenote® 音楽認識サービスのデータベース情報を使用しています。

知識

- 自動で付与された情報は、実際と異なる場合があります。
- Gracenote® データベースに登録がない楽曲でも音楽ファイルに楽曲情報があれば楽曲情報が表示されます。
- 音楽データの取り込み方によっては、楽曲情報が表示されないことがあります。

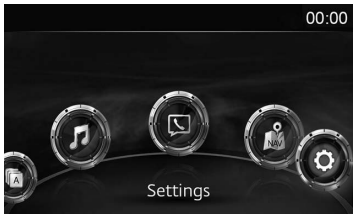
データベースを更新する

知識

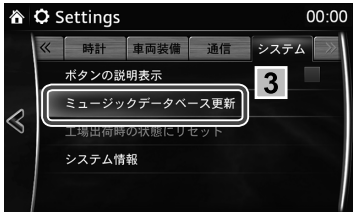
最新の Gracenote® データベースは、次の Web サイトからダウンロードすることができます。

http://infotainment.mazdahandsfree.com/howto-manageupdates?language=jp-JP

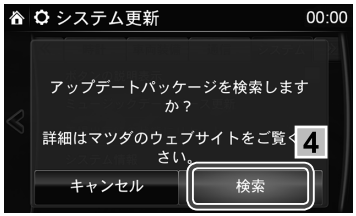
USB オーディオ機器を使用して Gracenote® データベースを更新することができます。



1. Gracenote® 更新用ソフトウェアを保存したUSB オーディオ機器を接続します。
2. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。



3. システム タブを選択し、
ミュージックデータベース更新 を選択します。



4. 検索 を選選択します。USB オーディオ機器に保存されているアップデートパッケージの一覧とそのバージョンが表示されます。
5. アップデートに使用するパッケージを選択します。
6. インストール を選択します。

Bluetooth®オーディオシステムの使いかた

Bluetooth®オーディオモードに切り替える

Bluetooth®オーディオ機器に保存されている音楽や音声を、センターディスプレイで操作するために Bluetooth®オーディオモードに切り替えてください。使用する前に Bluetooth®オーディオ機器を車載の Bluetooth®ユニットに登録する必要があります。→515 ページ「Bluetooth®の登録」

1. Bluetooth®オーディオ機器の電源を ON にします。
2. 電源ポジションを ACC、または ON にします。
3. ホーム画面から♫を選択します。
最後に使用したオーディオソースの再生画面が表示されます。
4. アイコン左端の♫ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。

5. **Bluetooth**を選択します。

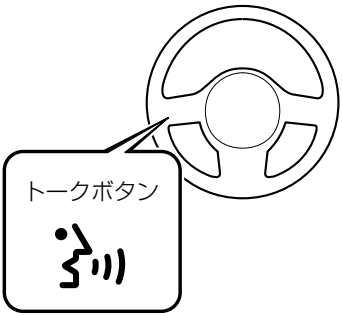
知識

- 機器側でアプリケーション画面を表示していない場合、マツダコネクトでBluetooth®オーディオの再生ができないことがあります。
- Aha™やStitcher™ラジオを使用後にBluetooth®オーディオを使用する場合は、先にBluetooth®オーディオ機器側のアプリケーションを終了させる必要があります。
- Bluetooth®オーディオ機器の再生が始まらない場合は▶/⏸を選択してください。
- モードがBluetooth®オーディオモードから他のモード (ラジオモードなど) に切り替わると、Bluetooth®オーディオ機器からの再生は停止します。

再生

Bluetooth®オーディオモードに切り替えると、Bluetooth®オーディオ機器の音声を車両のスピーカーから聞くことができます。
Bluetooth®オーディオモードに切り替わると、画面の下部に次のアイコンが表示されます。お使いのBluetooth®オーディオ機器のバージョンによって、表示されるアイコンは異なります。

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
   (音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。)
2. 「Bluetooth (ブルートゥース)」と発話します。
   その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド *1
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	(AVRCP Ver. 1.4 のみ) 一番上の階層のフォルダ/ファイルを表示します。 フォルダを選択します。フォルダ内のファイルが表示されます。 聞きたいファイルを選択します。	メニュー
	(AVRCP Ver. 1.3 以上) 再生中の曲を繰り返し再生します。 もう一度選択すると、フォルダ内の曲を繰り返し再生します。 もう一度選択すると解除されます。 ソングリピート時、フォルダリピート時にはアイコンが変化します。	リピート
	(AVRCP Ver. 1.3 以上) フォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。 もう一度選択すると、機器内の曲をランダムな順序で再生します。 もう一度選択すると解除されます。 フォルダシャッフル時、デバイスシャッフル時にはアイコンが変化します。	シャッフル
	前の曲の頭にもどります。 長押しすると早もどしをします。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	前へ*2
	⏸ ➡ ▶ (一時停止中に選択すると) 曲を再生します。	再生
	▶ ➡ ⏸ (再生中に選択すると) 一時停止します。	一時停止

アイコン	説明	音声コマンド *1
	次の曲の頭に進みます。 長押しすると早送りをします。アイコン、またはコマンダーノブから手を離すと止まります。	次へ*3
	音質を調節します。 →457 ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

*1 音声認識機能が使えます。
「ヘルプ」と発話すると使用可能な音声コマンドが表示されます。

*2 音声認識では「早もどし」に対応していません。

*3 音声認識では「早送り」に対応していません。

使用例（機器の一番上の階層から曲を探すとき）

1. を選択して、一番上の階層のフォルダ/ファイルリストを表示します。

2. フォルダを選ぶと、そのフォルダの中のフォルダ/ファイルリストが表示されます。プレイリストを選ぶと、その中のファイルリストが表示されます。
3. 聞きたいファイルを選択します。

知識

を選択すると、一つ上のフォルダに移動します。

Bluetooth®オーディオ機器情報表示

Bluetooth®オーディオ機器を接続すると、次の情報が画面に表示されます。

	AVRCP Ver. 1.3 未満	AVRCP Ver. 1.3	AVRCP Ver. 1.4 以上
機器名	○	○	○
バッテリー残量表示	○	○	○
曲名	—	○	○
アーティスト名	—	○	○
アルバム名	—	○	○
再生時間	—	○	○
アルバムアート	—	—	—

○: 表示
—: 非表示

知識

- 機器によっては、一部の情報が表示できない場合があります。
- AVRCP Ver. 1.6 以上に対応している機器を接続すると、楽曲情報が正しく表示されない場合があります。

Aha™の使いかた

Aha™*1 は、インターネットラジオや Podcast など、様々なインターネット・コンテンツを利用することができるアプリケーションです。
Facebook や Twitter の一部機能を使用することもできます。
周辺情報サービスを利用して周辺の目的地を探したり、リアルタイムの周辺情報を入手することができます。
Aha™によって提供されるサービスの内容は、予告なく Aha™によって変更される場合があります。

*1 Aha™、Aha™ロゴおよび Aha™トレードドレスは Harman International Industries, Inc.の商標、または登録商標です。

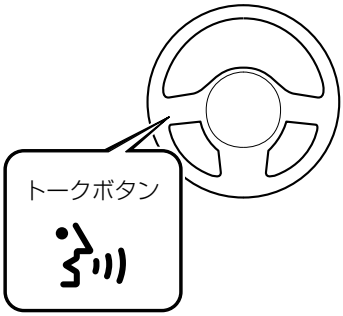
知識

- Aha™を操作する前に、次の手続きを行ってください:
  - 機器に Aha™アプリケーションをインストールする。
  - 機器で Aha™アカウントを作成する。
  - 機器で Aha™にログインする。
  - 機器でプリセットステーションを設定する。
- 機器側でアプリケーション画面を表示していない場合、マツダコネクトで Aha™の再生ができないことがあります。

再生

1. ホーム画面から を選択します。
   最後に使用したオーディオソースの再生画面が表示されます。
2. アイコン左端の ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。
3. aha を選択すると、画面の下部に次のアイコンが表示されます。選択するステーションによって、表示されるアイコンは異なります。
4. また、次のアイコン以外が表示される場合もあります。

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
(音声ガイドが流れ、最後にピッと鳴った後に発話します。)
2. 「Aha (アハ)」と発話します。
その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド *1
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	メインメニューを表示します。 他のステーションに切り替えたいときに使います。	メインリスト
	コンテンツリストを表示します。 ステーション内の、他のコンテンツに切り替えたいときに使います。	リスト
	Like[*2] 現在のコンテンツを“Like (好き)”評価します。	Like
	Dislike[*2] 現在のコンテンツを“Dislike (嫌い)”評価します。	Dislike
	15 秒巻きもどします。	15 秒戻る

アイコン	説明	音声コマンド *1
	地図 (ナビゲーションシステム装備車のみ) 周辺情報サービスを利用して検索した目的地を、ナビゲーションシステム上に表示します。	—
	電話発信 周辺情報サービスを利用して検索した店などに、電話をかけることができます。 接続している機器が、ハンズフリーとして接続されている場合に、使用できます。	—
	前のコンテンツにもどります。	前の
	(一時停止中に選択すると) 曲を再生します。	再生
	(再生中に選択すると) 一時停止します。	一時停止
	次のコンテンツに進みます。	次の
	30 秒早送りをします。	30 秒進む
	音質を調節します。 →457 ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

*1 音声認識機能が使えます。
「ヘルプ」と発話すると使用可能な音声コマンドが表示されます。

*2 ステーションやプロバイダーによっては、違うタイプの「Like」、「Dislike」を使用しています。

メインメニュー

を選択します。

タブを切り替えてステーションのカテゴリを選択します。

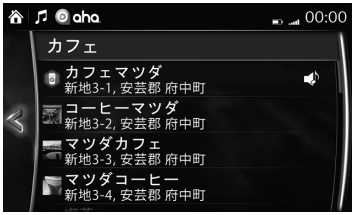
タイプ	再生できるデータ
プリセット	機器で設定したプリセットステーションリストを表示します。 プリセットステーション名を選択すると、そのステーションの内容が再生されます。
周辺情報	ステーションリストから好みのステーションを選択します。 検索された、自車位置周辺の目的地へ案内します。 事前に機器でフィルタ設定することで、好みのカテゴリを指定することができます。

知識

- 周辺情報サービスは、Aha™が提供する内容に依存するため、利用可能なサービスが異なる場合があります。
- 視聴する番組によってメニュー表示は異なる場合があります。

使用例 (周辺情報)

- メインメニューの周辺情報タブから、好みのステーションを選択します。
  検索された目的地の順番で、目的地名や住所などの再生が始まります。
- を選択すると、現在表示されている目的地をナビゲーションシステム上に表示します (ナビゲーションシステム装備車のみ)。
- を選択すると、現在表示されている目的地の電話番号に電話をかけます。
- を選択すると、コンテンツリストを表示します。



一覧から他の目的地を選択できます。

Stitcher™ラジオの使いかた

Stitcher™*1 ラジオとは

Stitcher™ラジオは、インターネットラジオや Podcast などのストリーミング放送を聴くことのできるアプリケーションです。
気に入ったコンテンツをお気に入りに登録したり、“Like”または“Dislike”することで、自動的にお勧めのコンテンツを選択してくれます。

*1 Stitcher™、Stitcher™ロゴおよび Stitcher™トレードドレスは Stitcher, Inc.の商標、または商標登録です。

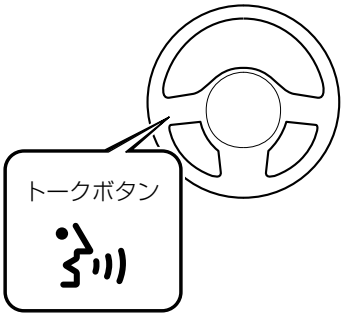
知識

- Bluetooth®の Stitcher™ラジオを操作する前に、次の手続きを行ってください:
  - 機器に Stitcher™ラジオアプリケーションをインストールする。
  - 機器で Stitcher™ラジオアカウントを作成する。
  - 機器で Stitcher™ラジオにログインする。
  - 機器でプリセットステーションを設定する。
- 機器側でアプリケーション画面を表示していない場合、マツダコネクトで Stitcher™ラジオの再生ができないことがあります。

再生

1. ホーム画面からを選択します。
   最後に使用したオーディオソースの再生画面が表示されます。
2. アイコン左端の ボタンを選択すると、エンターテイメントメニューが表示されます。
3. **Stitcher** を選択すると、画面の下部に次のアイコンが表示されます。

音声認識機能が使えます



1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
   (音声ガイドが流れ、最後に「ピッ」と鳴った後に発話します。)
2. 「Stitcher (スティッチャー)」と発話します。
   その他の音声認識コマンドはメニュー説明の音声コマンド欄をご参照ください。

知識

音声コマンドとして「ヘルプ」と発話すると、使用可能な音声コマンドが案内されます。

アイコン	説明	音声コマンド *1
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	エンターテイメント
	放送局リストを表示します。 他の放送局に切り替えたいときに使います。	放送局
	Dislike 再生中の番組を“Dislike (嫌い)”評価します。	Dislike

アイコン	説明	音声コマンド *1
	Like 再生中の番組を“Like (好き)”評価します。	Like
	再生中の放送局を、お気に入りに追加、またはお気に入りから削除します。	お気に入りに追加
	30 秒巻きもどします。	30 秒戻る
	⏸ ➡ ▶(一時停止中に選択すると) 曲を再生します。	再生
	▶ ➡ ⏸(再生中に選択すると) 一時停止します。	一時停止
	次の放送局に進みます。	次の
	音質を調節します。 →457 ページ「マツダコネクトの設定」	サウンド設定

*1 音声認識機能が使えます。
「ヘルプ」と発話すると使用可能な音声コマンドが表示されます。

知識

視聴する番組によってメニュー表示は異なる場合があります。

放送局リスト

1. ☰を選択すると、ステーションリストが表示されます。
① お気に入り放送局名: 選択すると、お気に入りに登録されている番組が表示されます
② カテゴリ名: Stitcher™があなたの好みから選択した、お勧めのカテゴリが表示されます。選択すると、そのカテゴリの番組が表示されます。
2. 放送局名を選択すると、再生します。

お気に入りに追加する

再生中の番組が、お気に入りに登録されていない場合、お気に入りに登録することができます。

1. ★を選択して、登録を追加できるお気に入り放送局を表示します。

2. Favorites Playlistを選択します。

3. 登録を選択し、お気に入りステーションに番組を追加します。

知識

- 複数のお気に入り放送局を選択して、登録することができます。
- 自分で登録したお気に入り放送局だけでなく、デフォルト設定のお気に入りステーションも表示されます。

お気に入りから削除する

再生中の番組が、既にお気に入りに登録されている場合、お気に入りから削除することができます。

1. ★を選択して、お気に入りから削除します。

AUX の使いかた

⚠ 警告

必ず守る AUX 端子に接続したコードが、セレクトレバーに絡まないようにする。

運転操作がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

禁止 プラグを接続した状態で、AUX 端子の上やコンソールボックスのフタの上に物を乗せたり、大きな力を加えたりしないでください。

禁止 接続する機器によっては、車に装着されている電源ソケットを使用すると、再生時にノイズが発生することがあります (ノイズが発生した場合は電源ソケットを使用しないでください)。

知識

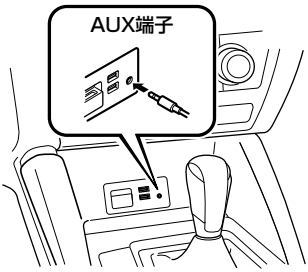
- 接続する機器によっては、使用できない場合があります。

知識

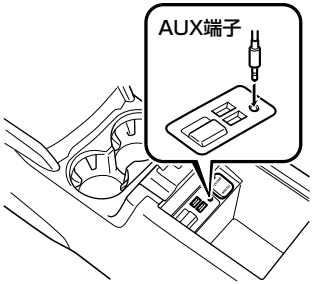
- ご使用前に、市販のポータブルオーディオの取扱書をよくお読みください。
- ポータブルオーディオを AUX 端子に接続するための接続コードは、市販の抵抗なしのステレオミニプラグ (3.5φ) を使用してください。ご使用前に接続コードの取扱書をよくお読みください。
- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 接続する機器によっては、ノイズが発生することがあります。
- 接続する機器の電源は、ポータブルオーディオ機器のバッテリーなどを使用してください。
- プラグは AUX 端子に確実に差し込んでください。

機器を接続する

Aタイプ
(インストルメントパネル取り付けタイプ)



Bタイプ
(コンソールボックス取り付けタイプ)

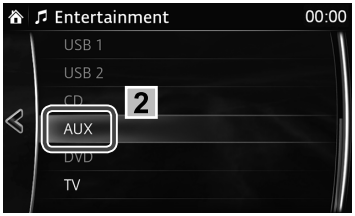


AUX 端子の位置は車種により異なります。

知識

プラグの抜き差しは、AUX 端子の穴に対して垂直に行なってください。

音楽を再生する



1. ホーム画面の を選択して、エンターテイメント画面を表示します。
2. **AUX** を選択すると、画面の下部に表に示すアイコンが表示されます。

AUX 機器再生画面

アイコン	説明	音声コマンド
	エンターテイメントメニューを表示します。他のエンターテイメントソースに切り替えたいときに使います。	—
	音質を調節します。 →457 ページ「マツダコネクトの設定」	—

知識

- 機器が AUX 端子に接続されていないときは、AUX モードには切り替わりません。
- 音量調節は、ポータブルオーディオ本体およびコマンダースイッチ、またはオーディオリモートコントロールスイッチで行います。
- 音量調節以外の操作は、ポータブルオーディオ本体で行います。センターディスプレイやコマンダースイッチでは操作できません。
- AUX モード中に AUX 端子からコードを抜いたり、接続している機器側のプラグを抜いたりするとノイズが発生することがあります。

Bluetooth®をご使用の前に

Bluetooth® ハンズフリーについて

車両の Bluetooth®ユニットに電波送信で Bluetooth®機器 (携帯電話) を接続すると、オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタン、ピックアップボタン、ハングアップボタン、またはセンターディスプレイでの操作により、電話に出たり電話をかけたりすることができます。例えば、Bluetooth®機器をコートのポケットに入れている場合でも、Bluetooth®機器を取り出して直接操作することなく、電話をかけることができます。
→523 ページ「電話のかけかた」

知識

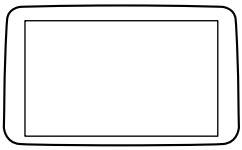
- Bluetooth®機器によっては使用できない場合があります。対応する Bluetooth®機器の情報はマツダ販売店に問い合わせください。
- 安全のため、車両が停止しているときのみペアリング (登録) することができます。車両が発進すると、ペアリングは中断されます。ペアリングを行う前に、安全な場所に車両を止めてください。
- Bluetooth®機器の通信可能距離は約 10 メートル以内です。
- 本機で接続確認済み機種はマツダコネクトサポートページで情報公開しています。
→448 ページ「マツダコネクトの操作方法」

対応 Bluetooth®規格 (推奨)

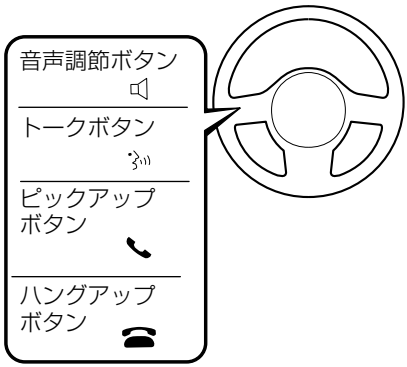
Ver. 1.1/1.2/2.0 + EDR/2.1 + EDR/3.0 (適合)
および Bluetooth®Ver3.0 と互換性のあるもの。

構成部品

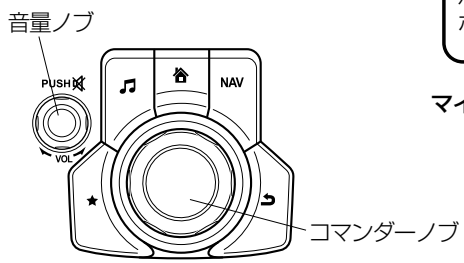
オーディオ



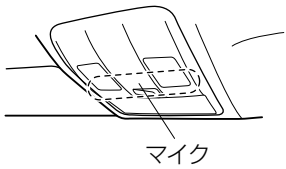
オーディオリモートコントロールスイッチ



コマンダースイッチ



マイク



オーディオや各スイッチの形状は車種により異なります。

マイク (ハンズフリー)

マイクは音声認識での音声コマンド入力や、ハンズフリー通話に使用します。

トークボタン

音声認識を起動します。
また音声ガイダンスをスキップします。

ピックアップボタン

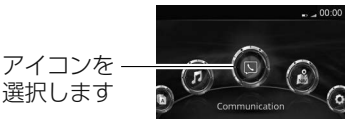
電話着信に応答します。
また電話発信操作の最後に押すと、電話を発信します。

ハングアップボタン

通話を終了したり、電話着信を拒否します。
また音声認識操作を終了します。

コマンダースイッチ

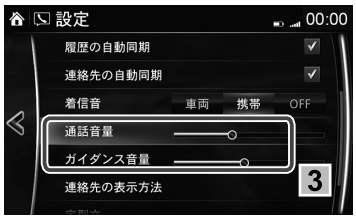
コマンダースイッチは音量の調節とセンターディスプレイの操作に使います。コマンダーノブを傾ける、またはまわしてカーソルを移動します。コマンダーノブを押して、アイコンを選択します。



音量の調節

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. 設定を選択します。



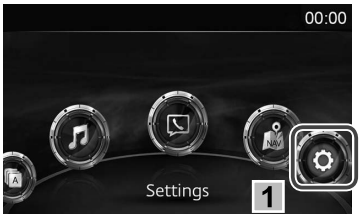
3. 通話音量とガイダンス音量をスライダーで調節します。

知識

- コマンダースイッチの音量ノブをまわして、音量を調節します。右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと音量が小さくなります。音量はオーディオリモートコントロールスイッチの音量調節ボタンを操作することでも調節できます。音量ノブを押すと消音できます。もう一度音量ノブを押すと、もとにもどります。
- 他のオーディオモードと比べて、音量が小さいと感じた場合は、機器側の音量を上げてください。
- ハンズフリー通話中や音声ガイダンスなど大きくしたいシーンで操作してください。

Bluetooth® の ON/OFF

Bluetooth®接続を使用するには、Bluetooth®設定を ON にします。チェック状態が ON、チェックが外れた状態は OFF となります。



1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。

2. 通信タブを選択します。
3. **Bluetooth**を選択します。

4. Bluetooth®設定画面が表示されます。

チェックが外れていると
OFF の状態です。

Bluetooth® の登録

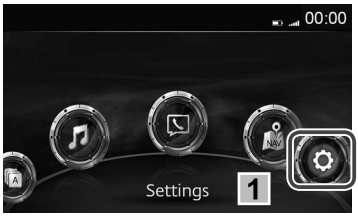
機器の登録 (ペアリング)

Bluetooth®オーディオとハンズフリーを使用するには、次の手順で Bluetooth®機器を登録します。Bluetooth®通信機能のあるポータブルオーディオ機器、または携帯電話を7個まで登録することができます。

知識

Bluetooth®は、電源ポジションを ACC、または ON に切り替えた後、1～2 分間操作できない場合がありますが異常ではありません。1～2 分経過後も Bluetooth®機器が自動接続されない場合は、Bluetooth®機器 の Bluetooth®設定が正常である事を確認のうえ、車両側から Bluetooth®機器に再接続を試みてください。

ペアリング手順



1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。

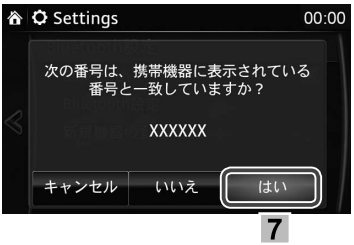
2. 通信 タブを選択します。
3. **Bluetooth** を選択します。

4. (OFF の場合) **Bluetooth** を選択して ON にします。

5. 新規機器の登録を選択して、手順 6 のメッセージを表示させます。

6. このメッセージが表示されている間に、Bluetooth®機器を操作して、Bluetooth®機器を検索します。

7. [Bluetooth®機器での操作]
Bluetooth®機器の検索結果の機器一覧に表示された「Mazda」を選択します。
(Bluetooth®機器が Bluetooth®バージョン 2.0 以前の機器の場合)
[Bluetooth®機器での操作]
センターディスプレイに表示された 4 桁のペアリングコードを Bluetooth®機器に入力します。
(Bluetooth®機器が Bluetooth®バージョン 2.1 以上の場合)
[Bluetooth®機器での操作]
センターディスプレイに表示された 6 桁のコードが Bluetooth®機器にも表示されていることを確認し はい を選択します。
[本機での操作]
Bluetooth®機器に表示された 6 桁のコードがセンターディスプレイに表示されていれば、 はい を選択します。



知識

- Bluetooth®機器が電話帳インポートやショートメッセージ機能に対応している場合は、電話帳や通話履歴、ショートメッセージ (SMS) がダウンロードされます。
- 電話帳インポートやショートメッセージ機能の動作には、Bluetooth®機器でダウンロード許可操作を実行する必要がある場合があります。
- **Bluetooth®機器の Bluetooth®接続については、Bluetooth®機器の取扱書を必ず参照してください。**

ペアリングと自動再接続について

ペアリングが完了すると、次回のシステム起動時に、前回の Bluetooth®接続を自動的に復元しようとします。Bluetooth®ハンズフリー機能を ON、または電源ポジションを OFF から ACC に切り替えると、機器の接続状態がセンターディスプレイに表示されます。

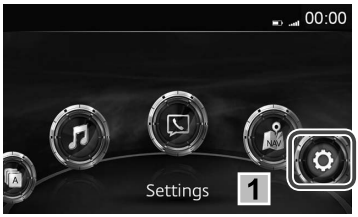
知識

- 同じ Bluetooth®機器のペアリングをやり直す場合は、Bluetooth®機器から「Mazda」を一度削除する必要があります。
- Bluetooth®機器と車両のペアリング情報をどちらか一方で削除した場合、ペアリング相手側も一旦登録を削除し、再度ペアリングする必要があります。
- システム起動時の Bluetooth®自動接続は Bluetooth®機器が接続可能な状態である必要があります。
- ペアリングする前に、機器と車両の両方の Bluetooth®の設定が ON になっていることを確認してください。

Bluetooth®機器の選択

複数の Bluetooth®機器をペアリングしているときは、接続する Bluetooth®を選択することができます。他のペアリング済み Bluetooth®機器と接続したいときは、次の手順で Bluetooth®機器の接続を変更します。

他の Bluetooth®機器を接続する



1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。

2. 通信 タブを選択します。
3. **Bluetooth** を選択します。

4. 接続したい機器の名前を選選択します。

5. 接続方法を選択します。

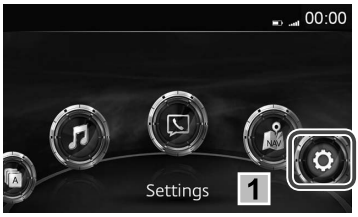
電話とオーディオ **を選択**
ハンズフリーと Bluetooth®オーディオ両方の機器として接続します。
電話のみ **を選択**
ハンズフリー機器として接続します。
オーディオのみ **を選択**
Bluetooth®オーディオとして接続します。

知識

ハンズフリー、またはオーディオは、次の機能を使用することができます。

- ハンズフリー: 電話→523 ページ「電話のかけかた」、SMS →537 ページ「メッセージの受信と返信」
- オーディオ: Bluetooth®オーディオ→495 ページ「Bluetooth®オーディオシステムの使いかた」、Aha™→500 ページ「Aha™の使いかた」、Stitcher™ラジオ→504 ページ「Stitcher™ラジオの使いかた」
- システム起動時の Bluetooth®自動接続では、Bluetooth®機器側の要求が優先されるため、[電話のみ] や [オーディオのみ] を本機で選択していても、[電話とオーディオ] として接続される場合があります。

Bluetooth®機器との接続を切断する



1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。

2. 通信タブを選択します。
3. **Bluetooth**を選択します。

4. 現在接続している機器の名前を選択します。

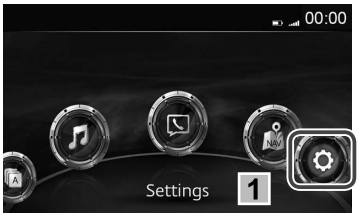
5. 接続を解除を選択します。

知識

Bluetooth®設定で Bluetooth®を OFF にしても接続を切断できます。
→514 ページ「Bluetooth®の ON/OFF」

Bluetooth®機器を削除する

ペアリング済み Bluetooth®機器を指定して削除するとき



1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。

2. 通信タブを選択します。
3. **Bluetooth**を選択します。

4. (OFF の場合) **Bluetooth**を選択して ON にします。
5. 削除したい機器の名前を選択します。

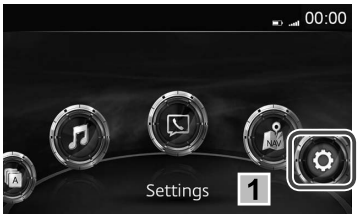
6. 機器の登録を解除を選択します。

7. 確認画面で はい を選択します。

知識

- Bluetooth®機器の登録を削除すると、削除したBluetooth®機器の電話帳や通話履歴、ショートメッセージも削除されます。
- Bluetooth®機器の登録を削除した場合、Bluetooth®機器でも「Mazda」を削除してください。

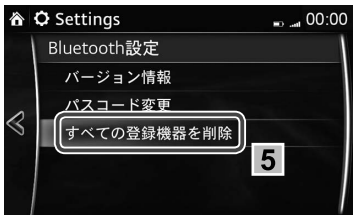
全ての機器を削除するとき



1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。

2. 通信タブを選択します。
3. **Bluetooth**を選択します。

4. Bluetooth設定を選択します。



5. すべての登録機器を削除を選択します。

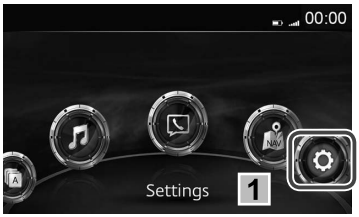
6. 確認画面で はい を選択します。

知識

- Bluetooth®機器の登録を削除すると、削除した Bluetooth®機器の電話帳や通話履歴、ショートメッセージも削除されます。
- Bluetooth®機器の登録を削除した場合、Bluetooth®機器でも「Mazda」を削除してください。

パスコードを変更する

ペアリングする Bluetooth®機器のバージョンが 2.0 以前の場合は、マツダ車両で設定しておいた 4 桁のパスコードを入力してペアリングします。4 桁のパスコードは、次の手順で変更できます。



1. ホーム画面の を選択して、設定画面を表示します。

2. 通信 タブを選択します。
3. **Bluetooth** を選択します。

4. Bluetooth設定を選択します。

5. パスコード変更を選択します。

6. 新しいパスコードを入力します。
7. ✔を選択します。

知識

パスコードを変更しても、ペアリング済みの Bluetooth®機器の接続には影響ありません。

Bluetooth®ハンズフリー

電話のかけかた

マツダコネクトでは、次の 6 つの方法から電話をかけることができます。

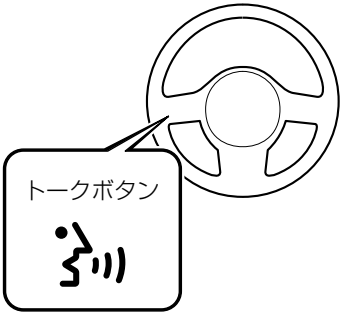
- Bluetooth®機器 (携帯電話) からダウンロードした電話帳 (音声認識機能が使えます)
- お気に入り
- 履歴
- 電話番号ダイヤル (音声認識機能が使えます)
- 「リダイヤル」 - 最新の発信履歴に電話をかける音声認識コマンド。
- 「コールバック」 - 最新の着信履歴に電話をかける音声認識コマンド。

連絡先（電話帳）を利用して電話する

音声での操作

ダウンロードされた電話帳、または電話番号が登録された人物の中から、連絡先を発話することによって発信することができます。

1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
2. ピッという音が鳴るまで待ちます。
3. 発話: (例)「マツダ タロウの携帯に電話」（マツダ タロウという人物が Bluetooth® 機器の電話帳に登録されている場合）
   電話帳の登録内容により、「携帯」、「自宅」、「勤務先」、または「その他」から発信する電話番号を使いわけることができます。
4. 電話を発信するために、音声ガイダンスに従ってください。
   また、音声ガイダンス中にピックアップボタンを押して、電話を発信することもできます。



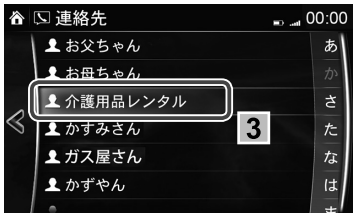
知識

- 事前にダウンロードしておいた連絡先を利用して電話をかけます。
  →530 ページ「連絡先を入力する (電話帳をダウンロードする)」
- Bluetooth®機器側の電話帳にふりがな情報が未登録の場合、音声認識で電話帳を呼びだすことができません。
- 電話帳に登録されている、ふりがな情報通りに発話してください。

センターディスプレイでの操作

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. 連絡先 を選択して、連絡先リストを表示します。



3. 電話を発信したい連絡先を選択して、連絡先の詳細を表示します。

4. 電話番号を選択して、電話を発信します。

お気に入りから電話を発信する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. お気に入りを選択して、お気に入り一覧を表示します。

3. 電話したい連絡先情報を選択します。

4. 電話番号を選択します。

電話番号を入力して電話する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. ダイヤルを押すとダイヤルパッドが表示されます。

3. ダイヤルパッドを使って電話番号を入力します。
4. を選択して電話を発信します。

知識

- を選択すると、ひとつ前の入力番号を削除します。
- を長押しすると、すべての入力番号を削除します。
- を長押しすると、＋を入力できます。

履歴（発信履歴、着信履歴）を利用して電話をかける

音声での操作

- **リダイヤル**
  携帯電話/車両から、最後に電話をかけた相手（発信履歴の最新の人物）に電話を発信します。
  1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
  2. ピッという音が鳴るまで待ちます。
  3. 発話:「リダイヤル」
- **コールバック**
  携帯電話/車両に対し、最後に電話をかけてきた相手（着信履歴の最新の人物）に電話を発信します。
  1. オーディオリモートコントロールスイッチのトークボタンを押します。
  2. ピッという音が鳴るまで待ちます。
  3. 発話:「コールバック」

センターディスプレイでの操作

ホーム画面のを選択して、コミュニケーション画面から履歴を選択します。

- **発着信履歴から電話する**
  (すべて)
  すべての履歴が表示され、電話をする相手先を選択します。
- **不在着信履歴から電話する**
  (不在着信)
  不在着信履歴が表示され、電話をする相手先を選択します。

電話の受けかた

「着信通知」の設定が On になっているときに、電話の着信があると、着信通知画面が表示されます。
→542 ページ「コミュニケーション設定」

通話を開始するには、オーディオリモートコントロールスイッチのピックアップボタンを押すか画面上の 応答 を選択します。
着信を拒否するには、オーディオリモートコントロールスイッチのハングアップボタンを押すか画面上の 拒否 を選択します。

知識

着信通知を OFF に設定すると、着信通知画面が表示されずかかってきた電話は着信拒否されます。
→542 ページ「コミュニケーション設定」

通話中にできること

通話中画面には、次のアイコンが表示されます。使用状況によって表示されるアイコンは異なります。

アイコン	説明
	コミュニケーションメニューを表示します。
	通話を終了します。
	ハンズフリーから携帯電話に電話を転送する 本機と Bluetooth®機器の間の通信が取り消され、通常の電話として機器 (携帯電話) 側で受けるように切り替えます。
	機器 (携帯電話) からハンズフリーに電話を転送する 機器 (携帯電話) と接続し、Bluetooth®ハンズフリーの通話に切り替えます。
	通話中にマイクを消音することができます。 もう一度選択すると解除されます。
	通話中に別の相手に発信して三者通話ができます。次の中から連絡先を選択して発信します。 履歴: 通話履歴が表示されます。 連絡先: 電話帳が表示されます。 ダイヤル: ダイヤルパッドが表示されます。電話番号を入力します。 機器の契約内容によっては使用できない場合があります。
	保留中の通話が合流し、三者通話になります。 機器の契約内容によっては使用できない場合があります。
	保留中の通話を切り替えます。
	DTMF (Dual Tone Multi-Frequency Signal) 送信 ダイヤルパッドで DTMF を送信する場合、この機能を使用します。一般的に、DTMF 送信を要求するものは家庭用電話の留守番電話、または会社の自動ガイダンスコールセンターです。

連絡先を入力する (電話帳をダウンロードする)

Bluetooth®を使用することで、Bluetooth®機器から電話帳のデータを本機の連絡先に登録することができます。

自動ダウンロード

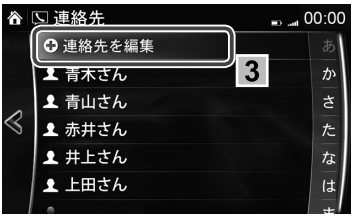
「連絡先の自動同期」の設定が On になっている場合は、Bluetooth®機器が接続されたときに自動的にダウンロードされます。
→542 ページ「コミュニケーション設定」

手動ダウンロード

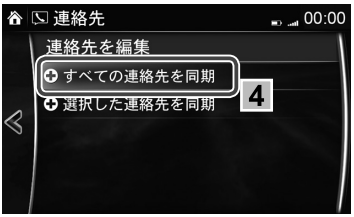
「連絡先の自動同期」の設定が Off の場合、次の手順で電話帳のダウンロードを行います。

1. ホーム画面の⚙を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

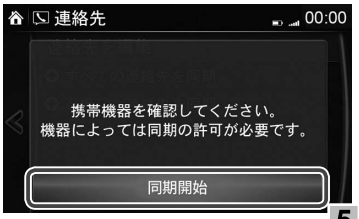
2. 連絡先 を選択して、連絡先リストを表示します。



3. 連絡先を編集 を選択します。



4. すべての連絡先を同期 を選択します。



5. 同期開始を選択します。

知識

- 電話帳のダウンロードは、Bluetooth®の PBAP プロファイルを使用します。お使いの Bluetooth®機器が対応しているかは、マツダコネクトサポートページをご確認ください。
  →448 ページ「マツダコネクトの操作方法」
- 本機は Bluetooth®の OPP プロファイルにも対応しており、PBAP プロファイルを持たない Bluetooth®機器でも電話帳転送ができます。PBAP プロファイルを持たない Bluetooth®機器で電話帳転送をするときは、手順 4 で「選択した連絡先を同期」を選択したあと、Bluetooth®機器の操作を行い電話帳データを送信してください。詳しくは Bluetooth®機器の取扱書をご参照ください。
- 最大 1000 件までの連絡先を登録することができます。
- 電話帳、着信/発信履歴、およびお気に入りメモリは、プライバシーを保護するために、ペアリングした Bluetooth®機器ごとに独立して保存しています。
- Bluetooth®機器から電話帳をダウンロードするには、本機での操作の他に、Bluetooth®機器側の操作が必要になる場合があります。詳しくは Bluetooth®機器の取扱書をご参照ください。

連絡先をお気に入り登録する

最大 50 件の連絡先を登録することができます。電話番号を登録すると、電話帳の中から電話したい人を探す必要がなく、より早く電話を発信することができます。

知識

事前に連絡先を入力(電話帳をダウンロード)する必要があります。
→530 ページ「連絡先を入力する(電話帳をダウンロードする)」

お気に入りに登録する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. お気に入り を選択して、お気に入り一覧を表示します。

3. 追加/編集 を選択します。

4. 連絡先を登録 または 電話番号を登録 を選択します。

5. 表示されたリスト一覧から連絡先を選択します。

知識

- バッテリーを切り離しても、お気に入りリストは消去されません。
- 「連絡先を登録」を選択すると、選択した人の名前などの情報も含め登録されます。また、「電話番号を登録」を選択すると、選択した人の電話番号のみ登録されます。

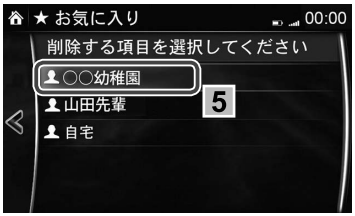
お気に入りから削除する

1. ホーム画面のを選択して、コミュニケーション画面を表示します。

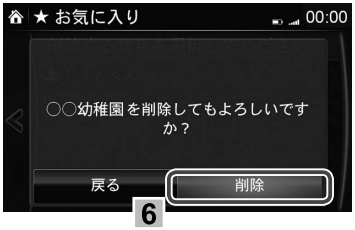
2. お気に入り を選択して、お気に入り一覧を表示します。

3. 追加/編集 を選択します。

4. 削除を選択します。



5. 削除したい連絡先情報を選択します。



6. 確認画面で削除を選択します。

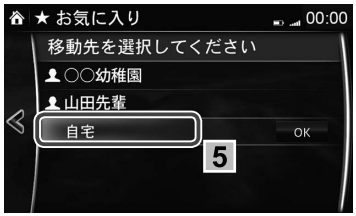
お気に入り一覧の表示順を変更する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. お気に入りを選択して、お気に入り一覧を表示します。

3. 追加/編集を選択します。

4. 移動を選択します。



5. 連絡先を選択すると、その連絡先を移動させることができます。

6. スライド、またはコマンダースイッチで連絡先を移動し、**OK**を選択します。

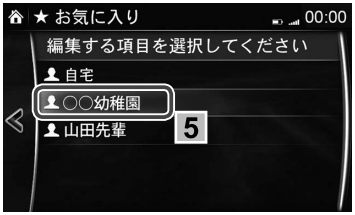
お気に入りの連絡先名を変更する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. お気に入りを選択して、お気に入り一覧を表示します。

3. 追加/編集を選択します。

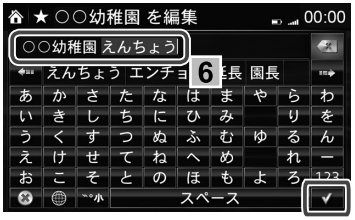
4. 名前の編集を選択します。



5. 連絡先を選択して、キーボード画面を表示します。

知識

連絡先を長押しすると、長押しした連絡先の追加/編集メニューが表示されます。



6. 変更したい連絡先名を入力し✔を選択して、連絡先名を保存します。

メッセージの受信と返信

接続している Bluetooth®機器が受信した SMS(Short Message Service)メッセージをダウンロードしてセンターディスプレイに表示したり、人工音声で読みあげることができます。また、受信したメッセージに定型文を返信したり、その番号に電話することができます。

知識

ご使用の Bluetooth®機器によっては Bluetooth®機器での設定が必要です。

メッセージをダウンロードする

接続している Bluetooth®機器から、最新 20 件までのメッセージをダウンロードし、表示することができます。

自動ダウンロード

「SMS の自動同期」の設定が On になっている場合、Bluetooth®機器が接続されたときに自動的にダウンロードされます。→542 ページ「コミュニケーション設定」

手動ダウンロード

「SMS の自動同期」の設定が Off の場合、次の手順でメッセージのダウンロードを行います。

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. SMS を選択して、受信トレイを表示します。

3. 更新を選択すると、Bluetooth®機器からメッセージをダウンロードします。

知識

- 添付データはダウンロードされません。
- 140 バイトまでのメッセージをダウンロードできます。
- プライバシーを保護するために、ペアリングした Bluetooth®機器ごとに独立して保存しています。
- ショートメッセージ機能は Bluetooth®の MAP プロファイルを使用します。お使いの Bluetooth®機器が対応しているかは、マツダコネクトサポートページをご確認ください。
→448 ページ「マツダコネクトの操作方法」
- Bluetooth®機器からメッセージの受信と返信をおこなうには、本機での操作の他に Bluetooth®機器側の操作や設定が必要になる場合があります。詳しくは Bluetooth®機器の取扱書をご参照ください。

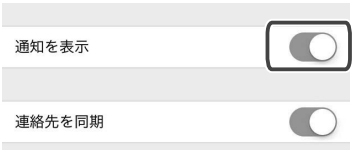
iPhone の場合

知識

- iPhone を接続する場合、次の機能は利用できません。
  - 過去メッセージのダウンロード
  - メッセージへの返信

ペアリング済みで接続されている状態から次の操作をおこないます。

1. **(iPhone 操作)**
設定メニュー→Bluetooth→デバイス「Mazda」の右端ⓘを選択します。



2. **(iPhone 操作)**
「通知を表示」項目の設定を ON に設定します。

3. **(本機の操作)**
Bluetooth®を OFF にします。
→514 ページ「Bluetooth®の ON/OFF」

4. **(本機の操作)**
再度 Bluetooth®を ON にして、iPhone が自動的に再接続されるのを待ちます。

5. **(本機の操作)**
iPhone 接続後、**SMS** が選択できればご利用可能です。

メッセージを受信したとき

「メッセージ新着通知」の設定が On になっているときに、Bluetooth®機器がメッセージを受信すると、メッセージ受信通知が表示されます。
→542 ページ「コミュニケーション設定」
読む を選択すると、メッセージが表示されます。
メッセージ詳細の下に、次のアイコンが表示されます。使用状況によって表示されるアイコンは異なります。

アイコン	説明
	コミュニケーションメニューを表示します。
	受信トレイを表示します。
	表示中の受信メッセージを音声再生します。 もう一度選択すると一時停止します。
	前のメッセージを表示します。
	次のメッセージを表示します。
	表示中の受信メッセージの送信者のみに返信します。 表示された返信画面の本文を選択して、送信する文章を定型文から選択します。 送信 を選択します。
	表示中の受信メッセージの送信者に電話をかけます。 送信者の電話番号が非通知の場合は、電話を発信することができません。
	表示中の受信メッセージを削除します。 機器に保存されているメッセージも削除されます。

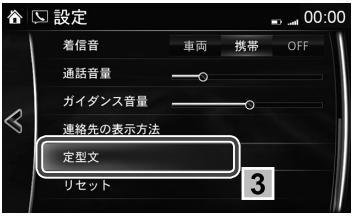
知識

定型文は、最大３つまで選択できます。

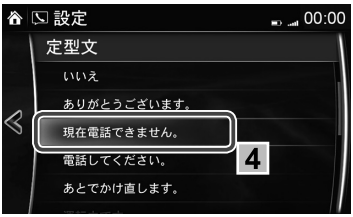
定型文を編集する

1. ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。

2. 設定を選択します。



3. 定型文を選択します。



4. 編集したい定型文を選択します。キーボード画面が表示されます。

5. 変更したいメッセージ内容を入力し、✔を選択すると定型文として保存されます。

知識

- 🌐を選択すると、言語を変更します。
- ⊗を選択すると、編集を保存せずに前の画面にもどります。

コミュニケーション設定

ホーム画面の を選択して、コミュニケーション画面を表示します。 設定 を選択して、設定を変更します。

アイテム	設定	説明
Bluetooth	—	Bluetooth®機器の接続設定をします。 →515 ページ「Bluetooth®の登録」
着信通知	オン/オフ	電話の着信があったときに、通知します。 →528 ページ「電話の受けかた」
SMS の自動同期*1	オン/オフ	Bluetooth®機器が接続されたとき、自動的に SMS をダウンロードします。 →537 ページ「メッセージの受信と返信」
メッセージ新着通知	オン/オフ	新たにメッセージを受信したときに、通知します。 →537 ページ「メッセージの受信と返信」
履歴の自動同期*1	オン/オフ	Bluetooth®機器が接続されたとき、自動的に通話履歴をダウンロードします。
連絡先の自動同期*1	オン/オフ	Bluetooth®機器が接続されたとき、自動的に電話帳をダウンロードします。 →530 ページ「連絡先を入力する (電話帳をダウンロードする)」
着信音	車両/携帯/オフ	着信音の種類を変更します。車両に標準設定されている着信音、Bluetooth®機器に登録されている着信音、着信音なしの 3 種類から選択できます。

アイテム	設定	説明
通話音量	スライダーで調節します。	通話音量を調節します。 →512 ページ「構成部品」
ガイダンス音量	—	音声ガイダンスと着信音量を調節します。 →512 ページ「構成部品」
連絡先の表示方法	名前、苗字	連絡先の表示順を名前で並び替えます。
	苗字、名前	連絡先の表示順を苗字で並び替えます。
定型文	—	定型文を編集します。 →537 ページ「メッセージの受信と返信」
リセット	—	コミュニケーション設定が全て初期化されます。

*1 Bluetooth®機器でダウンロードに対する許可操作が必要な場合があります。

トラブルシューティング

Bluetooth®機器ペアリング、接続に関する問題

- Bluetooth®は、使用する Bluetooth®機器の設定によっても動作が変化します。
- 正常に使用できなくなった場合は Bluetooth®機器の取扱書も参照してください。
- 本機で動作確認済み機種は、マツダコネクトサポートページで情報公開しています。
→448 ページ「マツダコネクトの操作方法」

問題	原因	解決方法
ペアリングができない	—	Bluetooth®機器がマツダコネクトに対応しているかwebサイトで確認してください。 Bluetooth®機器の設定でBluetooth®とFind Mode*1がONになっているのを確認してください。また、機内モードになっていないことを確認してください。 Bluetooth®機器の電源を一度OFFにし、再度ONにしてください。 その後ペアリングを行ってもペアリングできない場合は、マツダ販売店にご相談ください。
再ペアリングできない	本機またはBluetooth®機器に登録されているペアリング情報を誤認識している。	次の手順でペアリングを実施します。 1. マツダコネクト上で対象のBluetooth®機器を消去する。 2. Bluetooth®機器のBluetooth®検索画面から「Mazda」を消去する。 3. 再度ペアリングを行なう。 上記手順でもペアリングできないときは、Bluetooth®機器の電源を一度OFFにし、再度ONにします。それでもペアリングできない場合は、マツダ販売店にご相談ください。

問題	原因	解決方法
自動接続していたが、突然自動接続しなくなった	Bluetooth®機器によっては、Bluetooth®やFindMode*1 が時間経過により自動で OFF になる場合があります。	Bluetooth®とFindMode*1 が ON になっている事を確認し、再度接続してください。 Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。
エンジン始動で自動接続しない	Bluetooth®機器の OS がアップデートされた際に、登録されているペアリング情報が更新されている。	次の手順でペアリングを実施します。 1. マツダコネクト上で対象の Bluetooth®機器を消去する。 2. Bluetooth®機器の Bluetooth®検索画面から「Mazda」を消去する。 3. 再度ペアリングを行なう。 上記手順でもペアリングできないときは、Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。それでもペアリングできない場合は、マツダ販売店にご相談ください。
	Bluetooth®機器によっては、Bluetooth®やFindMode*1 が時間経過により自動で OFF になる場合があります。	Bluetooth®とFindMode*1 が ON になっている事を確認し、再度接続してください。 Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。
接続が途切れる	Bluetooth®機器を後部座席のカバンの中やズボンの後ろポケットの中等、電波が遮断されやすい場所に置いていませんか？	Bluetooth®機器を電波が遮断されにくい場所から移動させてください。 Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。

*1　Bluetooth®機器の存在が、外から検知されるようにするための設定

音声認識に関する問題

問題	原因	解決方法
● 音声認識がうまくいかない ● 数値を誤認識しやすい	● 話し方がゆっくりすぎませんか？ ● 話し方が強すぎませんか？(怒鳴っていませんか？) ● ビープ音が鳴り終わる前に話していませんか？ ● マイクにエアコンの風などが当たっていませんか？ ● 標準でない表現 (方言など) で話していませんか？	左の項目に注意して話してください。また、数値を連続して話す場合、数値間に間を置かずにつなげて話すと認識率は向上します。 Bluetooth®機器の電源を一度 OFF にし、再度 ON にします。
	● マイクに不具合がある。	マイクの接続不良や故障が考えられます。マツダ販売店にご相談ください。

問題	原因	解決方法
電話帳の名前をうまく認識しない	Bluetooth®システムが認識しにくい状態になっています。	次の対応を行っていただくと、認識率が向上します。 • 電話帳からあまり使わない連絡先を削除する。 • 短い名前を避け、長い名前を適用する。 (名前は長いほど認識率が上がります。「ママ」や「パパ」などの短い文言は避けていただくと認識しやすくなります)
	Bluetooth®機器の接続に問題がある。	ペアリングの状態を確認し、接続に問題がある場合は、本項目の「Bluetooth®機器ペアリング、接続に関する問題」を確認してください。
	電話帳にふりがな情報が登録されていない。	機器の電話帳にふりがな情報を追加し、電話帳を再ダウンロードしてください。
ガイダンスをスキップしたい	—	トークボタンを押すことにより、ガイダンスはいつでもスキップできます。

電話に関する問題

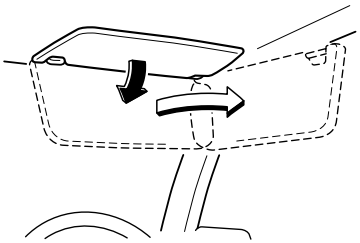
問題	原因	解決方法
通話開始時、通話相手に車両のノイズが聞こえる	通話開始から約３秒間は、Bluetooth®ユニットのノイズ抑制機能が通話環境の適応に時間が必要な為、通話相手にノイズが聞こえ、声が通りにくい事が有ります。	Bluetooth®機器に問題はありません。

問題	原因	解決方法
相手の声が聞こえない/小さい	ボリュームがゼロ、または小さくなっていませんか？	通話音量を上げてください。

その他の問題

問題	原因	解決方法
Bluetooth®機器に表示されるバッテリーの残量と、車両に表示されるバッテリーの残量が異なる	Bluetooth®機器からの、残量値情報と本機の表示スケールにずれがあるためです。	解決方法はありません。
車両で通話を実行時、着信/発信履歴が電話番号で更新されるが、名前が出ない	電話帳に通話相手先が登録されていません。	番号が電話帳に登録されていれば、エンジンを再始動すると、電話帳の名前で着信/発信履歴が更新されます。
着信/発信履歴がBluetooth®機器と車両間で同期しない	Bluetooth®機器によっては、エンジン始動後に、着信/発信履歴をダウンロードすることがあります。	Bluetooth®機器を操作する必要があります。Bluetooth®機器の取扱書を参照してください。

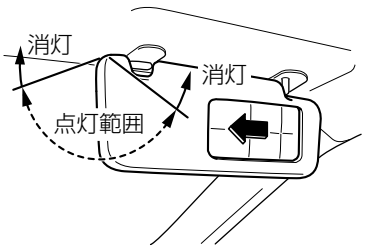
サンバイザー



前からの光をさえぎるときは、下げます。
横からの光をさえぎるときは、下げた後フックからはずして横にします。

バニティミラー (化粧鏡)

バニティミラーは、サンバイザーの裏側にあります。
フタを開けるとランプが点灯します。
バッテリーあがりを防止するため、サンバイザーの傾きが点灯範囲内のときのみランプが点灯します。



室内照明

知識

エンジンを停止しているとき、ランプを長時間点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

イルミネーテッドエントリーシステム

ルームランプスイッチが DOOR の位置で、次のような操作をすると、ルームランプが点灯します。
ドアカーテシーランプ、アンビエントライトは、ルームランプスイッチ位置に関係なく点灯します。

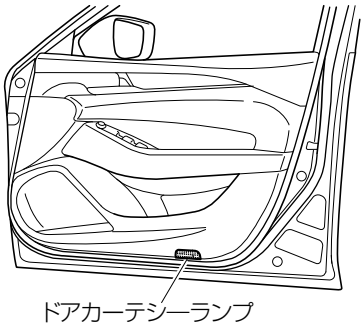
- 電源ポジションが OFF で、運転席ドアを解錠したとき。

- すべてのドアが閉まっている状態で、電源ポジションを OFF にしたとき。

知識

- 点灯時間は操作によって異なります。
- バッテリーあがりを防止するため、電源ポジションが OFF で室内照明が点灯したままのときは、約 30 分後に自動的に消灯します。
- イルミネーテッドエントリーシステムの作動時間を変更することができます。→695 ページ「車両装備」
- **(A タイプ)**
  ルームランプの ON/OFF スイッチを操作してルームランプを点灯させているときは、イルミネーテッドエントリーシステムは連動しません。

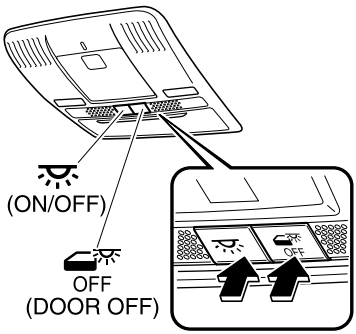
ドアカーテシランプ



ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。また、イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。

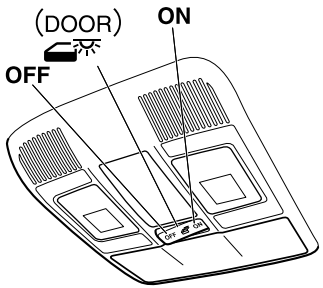
ルームランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。
A タイプ



スイッチ	ルームランプ
(DOOR OFF)	DOOR と DOOR OFF を切り替えます。 **(DOOR)** ● いずれかのドアを開けるとランプが点灯します。 ● イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。 **(DOOR OFF)** ● いずれかのドアを開けてもランプは点灯しません。 ● イルミネーテッドエントリーシステムの作動による点灯/消灯はしません。
(ON/OFF)	常時点灯/常時消灯

B タイプ



スイッチ位置	ルームランプ
DOOR	● ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。 ● イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。
OFF	常時消灯
ON	常時点灯

知識

ルームランプのスイッチの操作に連動してリアマップランプも点灯/消灯します。

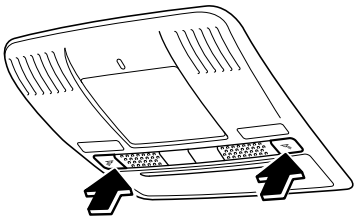
マップランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。

フロントマップランプ

A タイプ

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

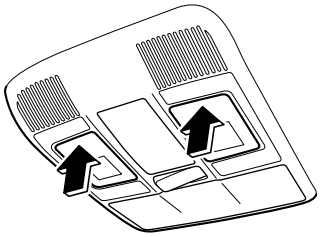


知識

- 次のときはスイッチを押しても消灯しません。
  - ルームランプの ON/OFF スイッチ (☼) を操作して、ランプを点灯させているとき。
  - ドアの開閉に連動して、ランプが点灯しているとき。
  - イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

B タイプ

ルームランプのスイッチ位置が DOOR または OFF のときに、レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



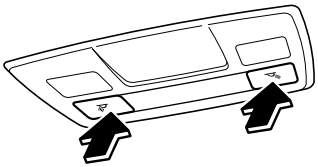
知識

- 次のときはレンズを押しても消灯しません。
  - ルームランプのスイッチ位置が ON のとき。
  - ルームランプのスイッチ位置が DOOR でドアが開いているとき。
  - イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

リアマップランプ

A タイプ

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

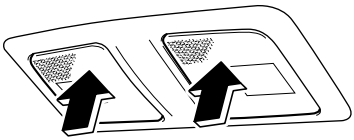


知識

- リアマップランプが消灯しているときは、ルームランプのスイッチの操作に連動して点灯/消灯します。
- 次のときはスイッチを押しても消灯しません。
  - ルームランプの ON/OFF スイッチ (⁂) を操作して、ランプを点灯させているとき。
  - ドアの開閉に連動して、ランプが点灯しているとき。
  - イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

B タイプ

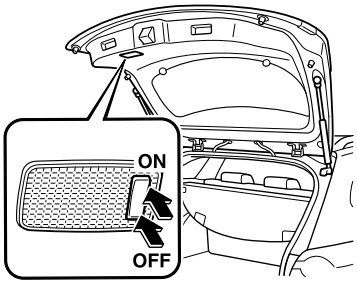
ルームランプのスイッチ位置が DOOR または OFF のときに、レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



知識

- リアマップランプが消灯しているときは、ルームランプのスイッチ位置に連動して点灯/消灯します。
- 次のときはレンズを押しても消灯しません。
  - ルームランプのスイッチ位置が ON のとき。
  - ルームランプのスイッチ位置が DOOR でドアが開いているとき。
  - イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

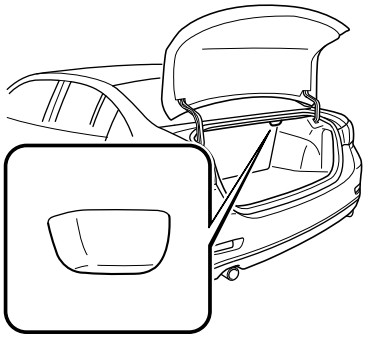
ラゲッジルームランプ



電源ポジションに関係なく使用できます。

スイッチ位置	ラゲッジルームランプ
ON	リアゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	常時消灯

トランクルームランプ



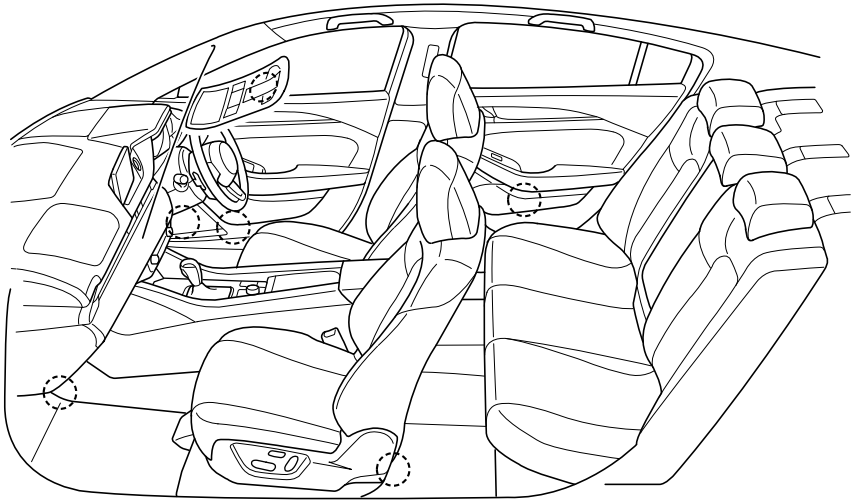
トランクリッドを開けると、トランクルームランプが点灯します。

知識

エンジンを停止しているときに、トランクを長時間開けたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

アンビエントライト グレード/仕様別装備

電源ポジションを ON にしたとき、アンビエントライトが点灯し続けます。
車幅灯またはヘッドランプが点灯しているときは、アンビエントライトが減光します。



アンビエントライト

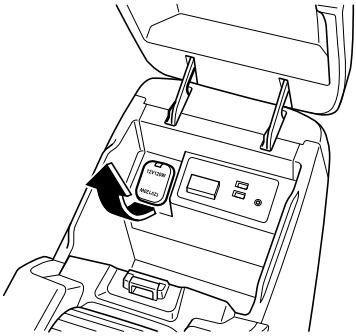
知識

- 電源ポジションを OFF にしたとき、イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。
- 車幅灯またはヘッドランプが点灯しているときの、アンビエントライトの照度を変更することができます。
→695 ページ「車両装備」

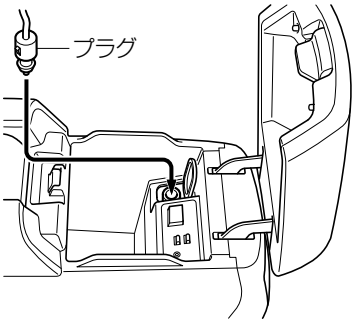
電源ソケット

電源ポジションが ACC または ON のとき、電気製品の電源として使用します。
最大消費電力 120W (DC12V—10A) 以下の電気製品を使用してください。

センター

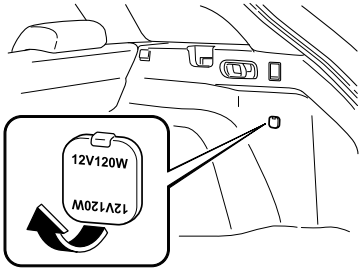


接続のしかた



コンソールボックスの溝にコードを通し、コード先端のプラグを電源ソケットに接続します。

リア (ワゴン)



⚠注意

使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。

電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。

消費電力が 120W (DC12V—10A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。

電源ソケットに接続される機器によってはオーディオにノイズが発生することがあります。

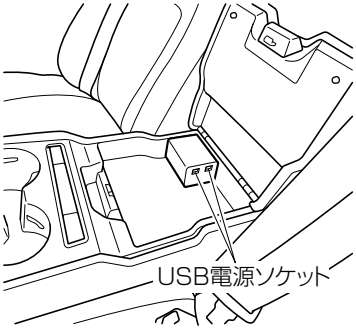
電源ソケットに接続される製品によっては、警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器をはずし、問題が改善されるか確認してください。改善された場合、機器をソケットからはずしたあと、電源ポジションを OFF にしてください。問題が継続する場合、マツダ販売店にご相談ください。

知識

- エンジンを停止しているときやアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- シガーライターを差し込まないでください。

USB 電源ソケット

電源ポジションが ACC または ON のとき、USB 機器の電源として使用します。
最大消費電力 10.5W (DC5V-2.1A) 以下の USB 機器を使用してください。



⚠注意

使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。USB 電源ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。

USB 端子は USB 電源ソケットに確実に差し込んでください。USB 端子が確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。

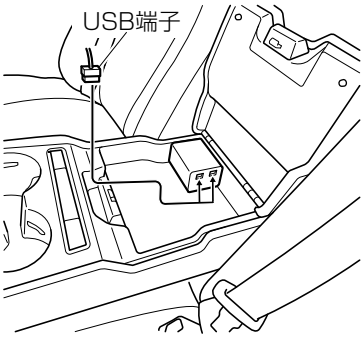
消費電力が 10.5W (DC5V-2.1A) を超える USB 機器は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。

知識

- この USB 電源ソケットは充電専用です。車両のオーディオ機器に接続することはできません。
- エンジンを停止しているときやアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

接続のしかた

アームレストボックスの溝から USB 電源ソケットに接続するコードを通すことができます。



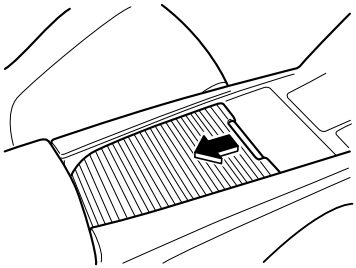
1. アームレストボックスのフタを開けます。
2. アームレストボックスの溝にコードを通し、コード先端の USB 端子を USB 電源ソケットに接続します。

アジャスター機能付カップホルダー

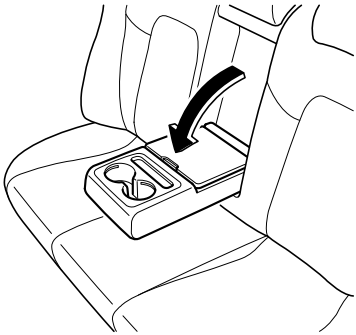
⚠注意

禁止 **走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。**

フロント



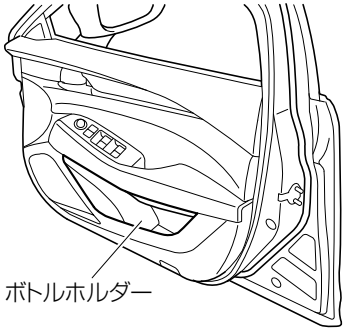
リア



ボトルホルダー

⚠注意

禁止 **ふたのないペットボトルなどは置かないでください。走行中やドアを開閉するときにペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。**



ペットボトルなどを置くことができます。

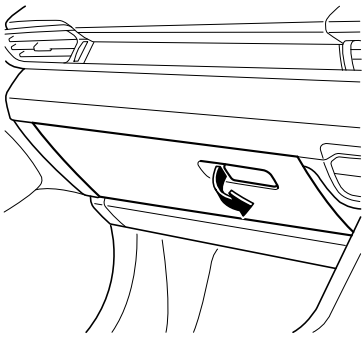
収納

⚠注意

必ず守る 走行中は、グローブボックスなどのフタを必ず閉めてください。急ブレーキ時や衝突時に収納ボックスのフタや内部の物でけがをするおそれがあります。

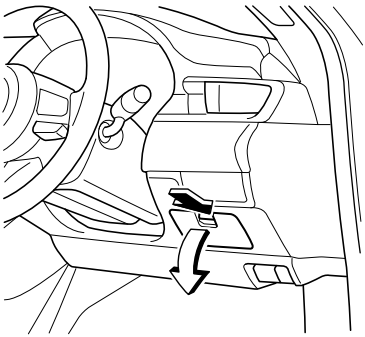
禁止 炎天下に駐車するときは、収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

グローブボックス



閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。

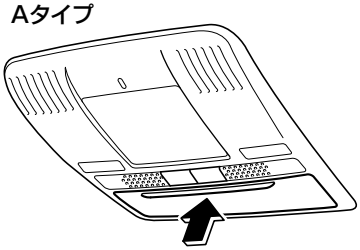
コインボックス



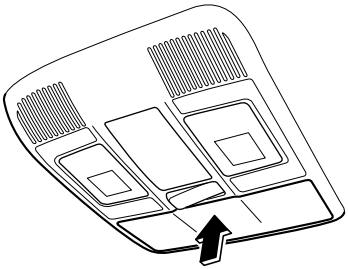
オーバーヘッドコンソール

Aタイプ

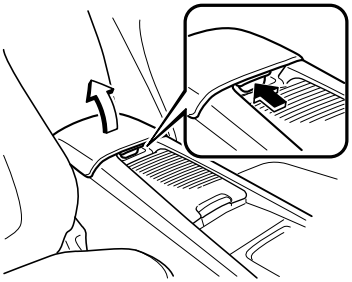
メガネやサングラスなどを入れることができます。



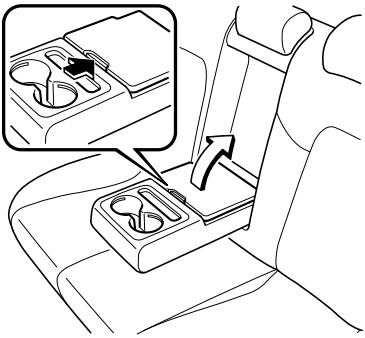
Bタイプ



大型コンソールボックス



アームレストボックス



開けるときはボタンを押して、フタを上に引き上げます。

ラゲッジルーム

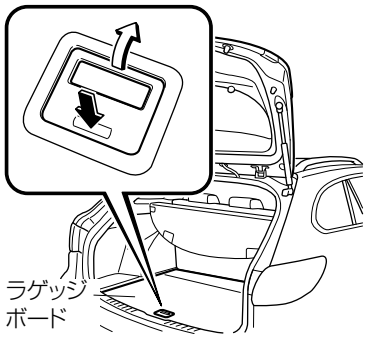
サブトランクボックス

⚠注意

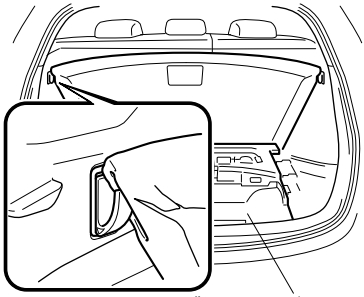
禁止 **ラゲッジボードを立てかけているときは、ラゲッジボードに無理な力をかけないでください。無理な力がかかると、ラゲッジボードが変形または、損傷するおそれがあります。**

必ず守る **走行するときはラゲッジボードをもとの位置にもどしてください。立てかけたまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。**

サブトランクボックスはラゲッジボード (ワゴン) またはトランクマット (セダン) の下にあります。
小物などを収納することができます。
(ワゴン)

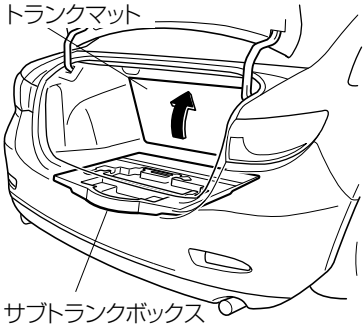


1. ラゲッジボードを開きます。



2. ショッピングフックを回転させ、ラゲッジボードを立てかけます。

(セダン)



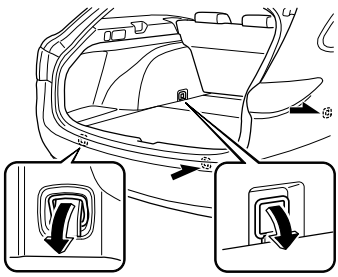
トランクマットを開きます。

ラゲッジフック (ワゴン)

⚠警告

荷物を積むときは確実に固定する。

必ず守る **荷物を確実に固定しないと走行中に荷物が移動したりくずれたりして、けがや思わぬ事故につながるおそれがあります。**

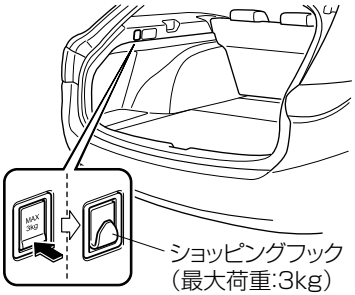


ロープやネットで荷物を固定するときに使用します。フックの引っ張り荷重は 20 kg です。ロープを掛けて強く引っ張らないでください。

ショッピングフック (ワゴン)

⚠注意

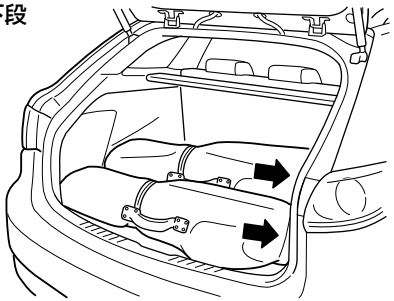
禁止 **フックに最大荷重以上の物をかけないでください。フックが破損したり、かけた物がはずれたりするおそれがあります。**



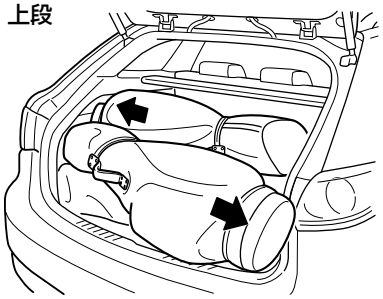
知識

ゴルフバッグを載せるとき
(ゴルフバッグの大きさによっては、次の方法で入らない場合があります。)
(ワゴン)
ゴルフバッグは最大 4 個載せることができます。
下段:1 個目と 2 個目はゴルフバッグの底側を右にしてラゲッジルーム内に収まるように載せます。
上段:3 個目のゴルフバッグの底側を左にし、4 個目のゴルフバッグの底側を右にしてラゲッジルーム内に収まるように載せます。

下段



上段

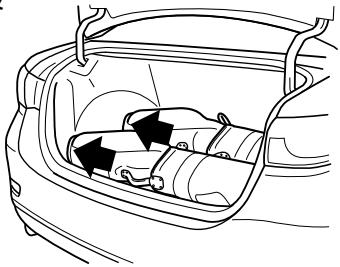


矢印はゴルフバッグの底側を示します。

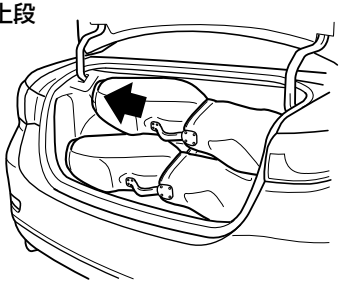
知識

(セダン)
ゴルフバッグは最大 3 個載せることができます。
ゴルフバッグの底側を左にしてトランクルーム内に収まるように載せます。

下段



上段



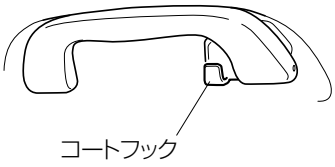
矢印はゴルフバッグの底側を示します。

リアコートフック

警告

禁止

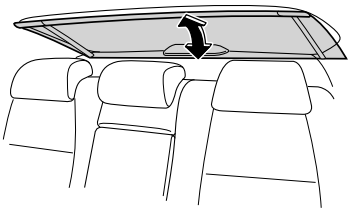
アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。
服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



電動リアウインドーサンシェード グレード/仕様別装備

電動リアウインドーサンシェードの操作

電源ポジションが ON のとき、電動リアウインドーサンシェードスイッチを操作すると電動リアウインドーサンシェードが上昇/下降します。



⚠警告

必ず守る 電動リアウインドーサンシェードを作動させるときは、同乗者の手や頭などをはさまないように注意する

特にお子さまには十分気を付けてください。万一、手や頭をはさむと、重大な傷害につながるおそれがあります。

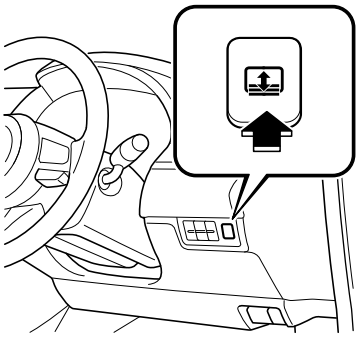
必ず守る 電動リアウインドーサンシェードの格納口に髪などがかからないように注意する

電動リアウインドーサンシェード下降時に髪などが巻き込まれると重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 電動リアウインドーサンシェードの格納口に物を置かないでください。作動時に巻き込まれて故障につながるおそれがあります。

禁止 電動リアウインドーサンシェードを引っ張らないでください。無理に引っ張ると電動リアウインドーサンシェードが破損するおそれがあります。



電動リアウインドーサンシェードスイッチを押すと自動で上昇/下降します。完全に上昇/下降すると自動で止まります。

知識

- チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にすると自動で電動リアウインドーサンシェードが下降します。
- 障害物等が当たると途中で停止することがあります。 途中で停止した場合は障害物等を取り除き、もう一度スイッチを押すと下降します。

MEMO

4 お手入れのしかた

車と上手につきあうために 572
必ずまもる....572
お車に触れるときはけがに注意する....573
点検、整備 574
点検整備について....574
定期点検....576
日常点検の前に....576
日常点検....579
その他の手入れ....588
ヒューズ切れ、電球切れのとき 589
ヒューズの受け持つ装置....589
ランプ類、電気装置が作動しないとき....595
電池交換 603
電池を交換するときは....603
車の手入れ 606
外装の手入れ....606
内装の手入れ....610
季節の準備 613
冬にそなえて....613
夏にそなえて....615
環境保護のために 616
廃棄物を処理するときは....616

必ずまもる

違法改造はしない

車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自分でエンジンの改造や配線などをしないでください。故障や、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、国土交通省に届け出た部品以外を装着すると違法改造になることがあります。部品を装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

ナンバープレートを取りはずしたり、位置を変えないでください。ナンバープレートは正しい位置に確実に取り付けることが義務付けられています。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

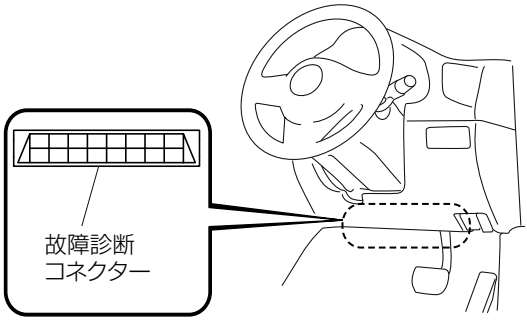
ホイール、ホイールナットは純正品以外を装着しないでください。純正品以外のものを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく、走行中にナットがゆるみホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、駆動系部品に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

電話、無線、オーディオなど電気部品や電子部品を取り付けるときは、電子機器類に悪影響がでるおそれがありますので、マツダ販売店にご相談ください。
また、不適当な部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ると、ブレーキ、エアバッグの誤作動、エンジン不調、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

故障診断コネクターに点検整備用の故障診断器以外を接続しない

故障診断コネクターは、専用の機器を接続することで故障などを自己診断するためのコネクターです。
故障診断コネクターには、点検整備用の故障診断器以外を接続しないでください。故障診断器以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬ故障につながるおそれがあります。



お車に触れるときはけがに注意する

手入れをするとき

日常点検やタイヤ交換などの作業、洗車など手入れをするときは、けがをしないように注意してください。

見えにくい箇所へ触れるとき

手にけがをするおそれがありますので、軍手など厚手の手袋を使用して点検や作業などを行なってください。

点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。
安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
使用済みバッテリーやタイヤ、エンジンオイルなどの廃液を処分するときは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠警告

必ず守る **点検は平らな場所で、車に輪止めをしてから行なう。**
車が不意に動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。**
手や衣服などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **エンジンルーム内を点検するときは、エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。**

必ず守る **エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。**
置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

無料点検について
新車登録後 1 か月 (または走行距離 1,000 km)、6 か月 (または走行距離 5,000 km) は無料で点検が受けられます。

車両データの記録について

本車両は、車両の制御や操作、その他の走行環境に関する主要なデータを記録するコンピューターを装備しています。

記録されるデータ

- エンジン回転数や車速など、車両の状態
- アクセル/ブレーキなどの運転状態・車両走行時の環境情報
- 各車載コンピューターの故障診断情報
- その他、各車載コンピューターの制御に関する情報

知識

記録されるデータの項目は、車両のグレードやオプション装備の種類により異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

マツダおよびマツダの委託先は、コンピューターに記録されたデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意 (リース車は借貸主の同意) がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

定期点検

1 年点検、2 年点検はマツダ販売店で受けてください。

知識

- **点検結果について**
  点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「定期点検整備記録簿および定期点検整備の記録」に記入してください。
- **シビアコンディションについて**
  一般的な使用よりも厳しい使われ方をした車はシビアコンディションとして早めに点検整備をする必要があります。
  詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

日常点検の前に

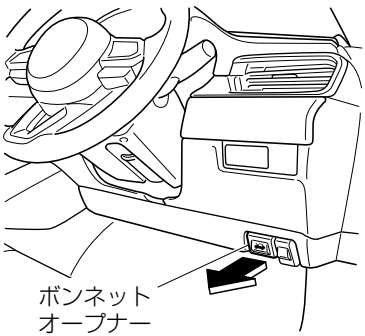
ボンネットの開けかた

警告

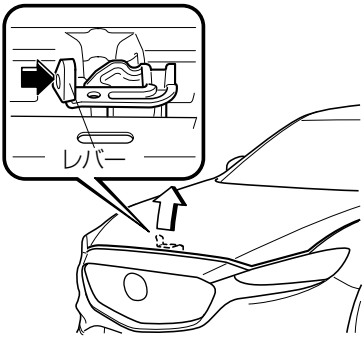
アクティブボンネットが作動したときは、ボンネットオープナーを引かない

禁止

ボンネットオープナーを引くと、さらにボンネットが上がり視界の妨げとなるため危険です。また、ボンネットを無理に押し戻さないでください。手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬケガをするおそれがあります。アクティブボンネットが作動したときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。



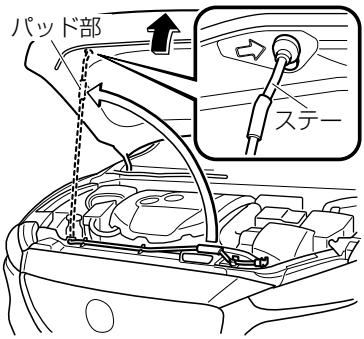
1. 運転席右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2. ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを矢印の方向に倒したままボンネットを持ち上げます。

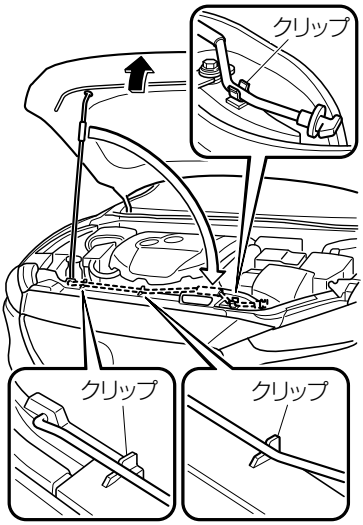
知識

レバーは車両に向かって中央より左側にあります。



3. パッド部を持ってステーを起こし、矢印で示すボンネットのステー穴に差し込んで固定します。

ボンネットの閉めかた



1. エンジンルームに工具などが残されていないことを確認します。
2. ボンネットを手でささえてステーをはずし、パッド部を持って、クリップに固定します。
3. ボンネットをゆっくりおろし、約 20 cm の高さから静かに落として閉めます。

⚠警告

必ず守る **ボンネットが確実に閉まっていることを確認する。**
走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さえつけないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。**

必ず守る **ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。**

必ず守る **エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。**

日常点検

お客様のお車の使用状況に応じて、お客様自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。
日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

知識

点検結果について
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

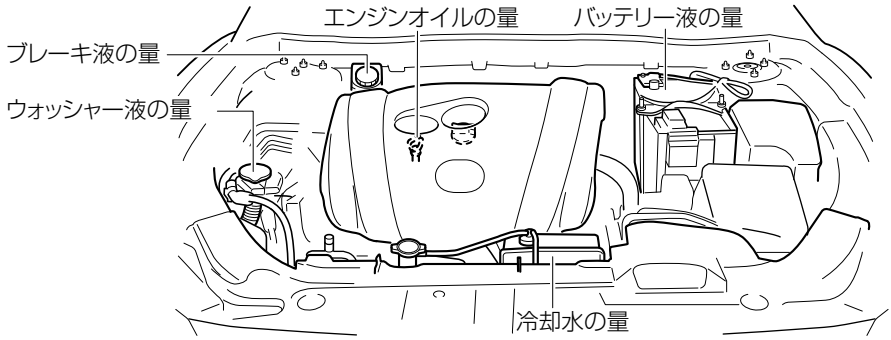
点検項目と点検箇所

運行において異常が見られた箇所

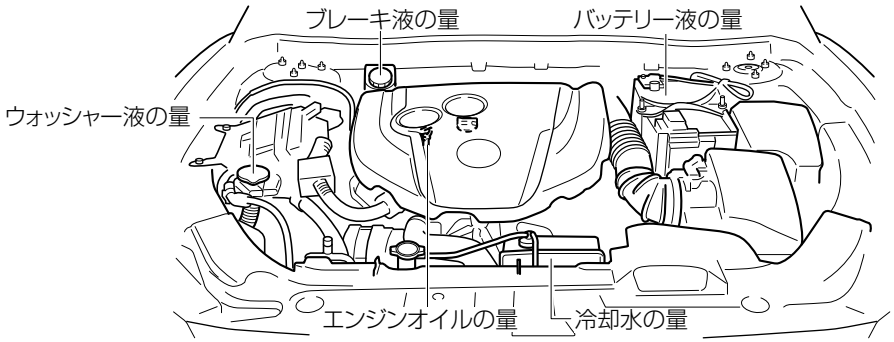
前回の運転中に異常を認めた箇所について運転に支障がないかを点検します。
点検要領については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エンジンルームをのぞいて

SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5



SKYACTIV-D 2.2



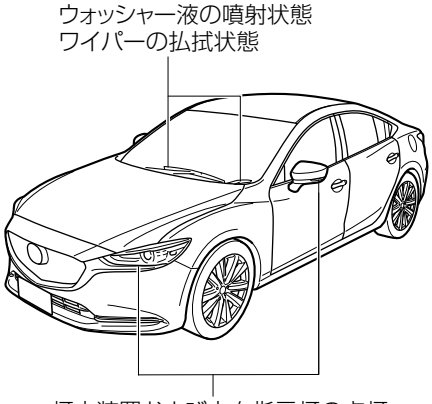
⚠注意

必ず守る

エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

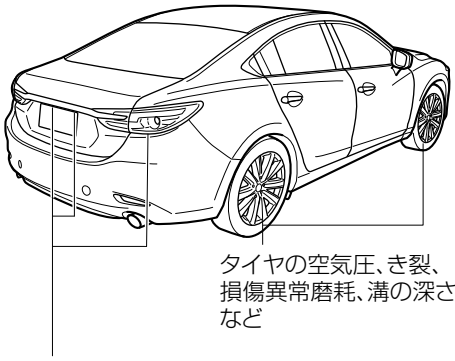
全体を見まわして

フロント

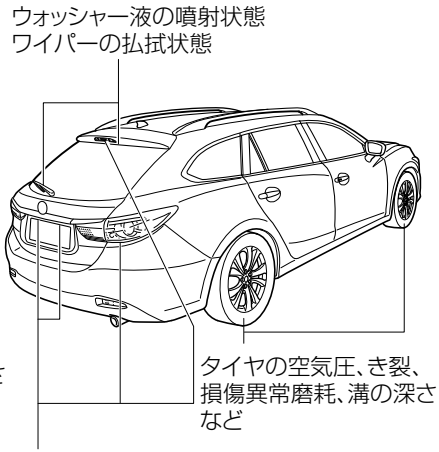


リア

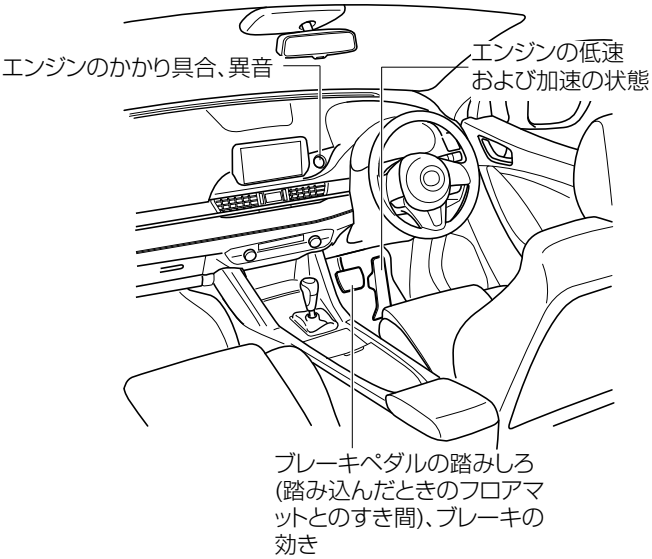
（セダン）



（ワゴン）



運転席にすわって


エンジンのかかり具合、異音
エンジンの低速
および加速の状態
ブレーキペダルの踏みしろ
(踏み込んだときのフロアマ
ットとのすき間)、ブレーキの
効き

タイヤの点検

タイヤの点検は法律で義務付けられています。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

知識

タイヤの劣化について
タイヤはゴム製品のため、長期間使用すると徐々に劣化していきます。安全な走行状態を確保するために、使用開始後 5～7 年を目安にマツダ販売店で点検を受けてください。

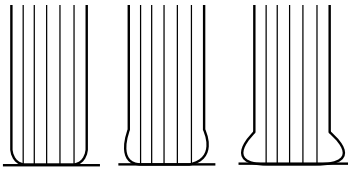
空気圧の点検

タイヤ間で空気圧の差が著しくならないように規定値に調整してください。

警告

禁止 **タイヤの空気圧が不足したままで走行しない。**
タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤの偏摩耗の原因となります。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト（破裂）するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る **タイヤバルブキャップは純正品を使用する。**
タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



過多　適正　不足

き裂、損傷の点検

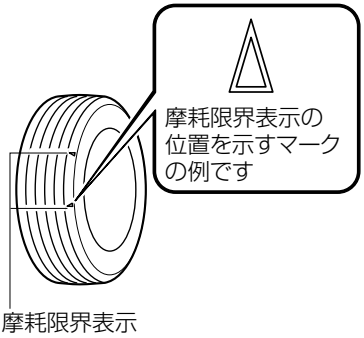
⚠ 警告

禁止

異常があるタイヤを装着すると、次の状況が起こることがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因になるおそれがあるため、正常なタイヤと交換する。

- **走行中にハンドルがとられる**
- **異常な振動を感じる**
- **パンクやバースト (破裂) する**
- **車の性能 (燃費・走行安定性・制動距離など) が十分に発揮できない**
- **部品に悪影響をあたえる**

溝の深さ、異常摩耗の点検



摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

⚠ 警告

禁止

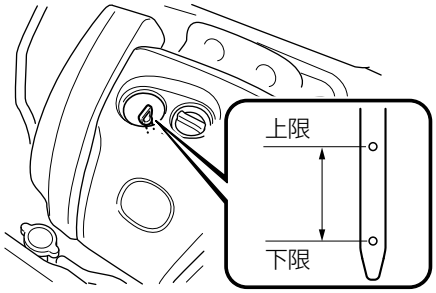
タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れているタイヤを使用しない。
そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト (破裂) するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

知識

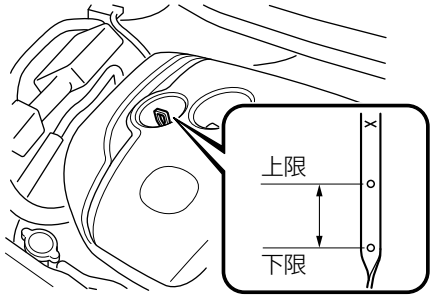
摩耗限界表示について
摩耗限界表示は、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6 mm だけ浅くなっています。

エンジンオイルの点検、補充

SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5



SKYACTIV-D 2.2



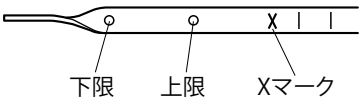
オイルレベルゲージでエンジンオイルの量を点検してください。
不足しているときは上限から下限の間になるよう補充してください。
点検の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

SKYACTIV-D 2.2

⚠注意

必ず守る **指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のオイルを使用した場合、DPF 内にオイル中の灰分が堆積し、燃費の悪化や DPF の交換が必要になることがあります。**
→679 ページ「エンジンオイル」

知識



- エンジンオイルの量を点検するときは、オイルレベルゲージをひねらずまっすぐに抜いてください。
  また、オイルレベルゲージを差すときは、必ずオイルレベルゲージの×マークを車両前方に向けてひねらずまっすぐ差し込んでください。
- エンジンオイルがレベルゲージの×の位置を超えている場合はオイル交換をしてください。
- DPF に堆積した PM (Particulate Matter: 粒子状物質) が自動で除去されるとき、エンジンオイルに燃料が混ざり、油量が増えることがありますが異常ではありません。

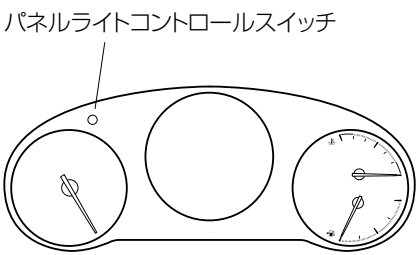
オイル交換後は、マツダ販売店などの整備工場で記憶値の初期化 (オイルデータリセット) を行なうか、次の手順で記憶値の初期化を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示灯またはオイル警告灯が点灯することがあります。

知識

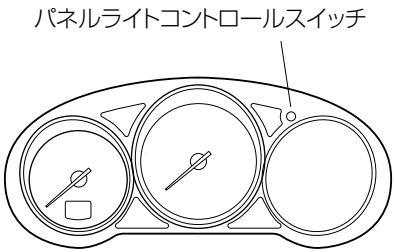
記憶値の初期化 (オイルデータリセット) は次の手順でも行なうことができます。

1. 電源ポジションを OFF にします。
2. パネルライトコントロールスイッチを押したまま、電源ポジションを ON にし、マスター警告表示⚠が点滅するまで、パネルライトコントロールスイッチを約 5 秒間押し続けます。

タイプA



タイプB



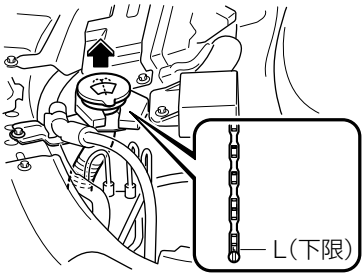
3. マスター警告表示⚠が数秒間点滅したら、初期化は完了です。

バッテリーの点検

バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。
→641 ページ「バッテリーあがりについて」

- 点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。
- 交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の補充



補充要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

⚠注意

エンジンがかかっているときやエンジンが熱いときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあります。

必ず守る

知識

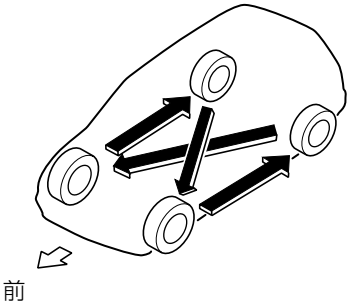
ウォッシャータンクについて

ウォッシャータンクは、フロントワイパー用、リアワイパー用、ヘッドランプウォッシャー用で兼用しています。

その他の手入れ

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約 5,000 km 走行ごとにタイヤの位置を交換してください。



⚠警告

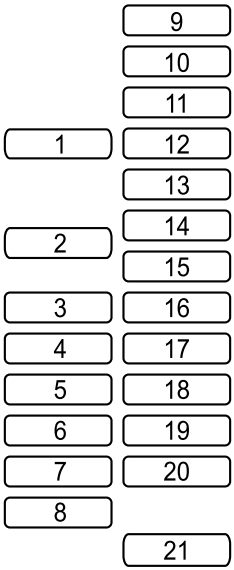
必ず守る **タイヤを交換するときは指定されたサイズや種類のタイヤを装着する。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

知識

- タイヤの位置交換を行なうまえにタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。→583 ページ「タイヤの点検」
- タイヤの位置交換を行なったあとはタイヤの空気圧を規定値に調整してください。→690 ページ「タイヤ空気圧」
- お客様のお車にはスペアタイヤが標準で搭載されていないため、お客様自身ではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

ヒューズの受け持つ装置

室内ヒューズボックス

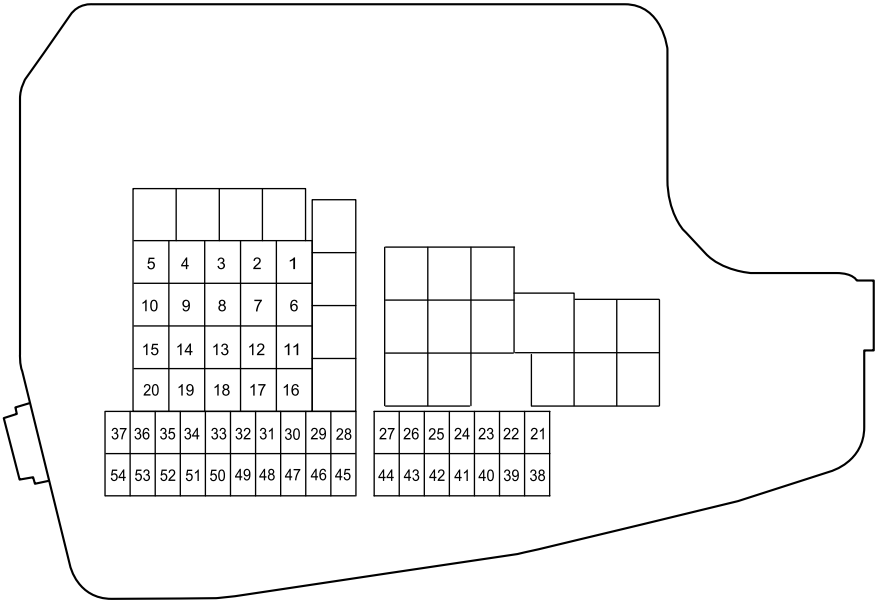


位置	表示	容量	保護装置
1	P.SEAT D	30 A	運転席パワーシート グレード/仕様別装備
2	P.SEAT P1	30 A	助手席パワーシート グレード/仕様別装備
3	R.SEAT W1	20 A	シートヒーター グレード/仕様別装備
4	P.WINDOW2	25 A	パワーウインドー
5	SRS2/ESCL	15 A	ステアリングロック
6	D.LOCK	25 A	パワードアロック
7	SEAT WARM	20 A	シートヒーター グレード/仕様別装備

ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
8	SUNROOF	10 A	電動スライドガラスサンルーフ グレード/仕様別装備
9	R.OUTLET1	15 A	電源ソケット グレード/仕様別装備
10	MIRROR	7.5 A	電動ミラー
11	AT IND	7.5 A	オートマチックトランスミッションインジケーター グレード/仕様別装備
12	INTERIOR1	15 A	各種電源
13	INTERIOR2	10 A	各種電源
14	R.OUTLET2	15 A	電源ソケット
15	USB	7.5 A	USB 電源ソケット
16	SCR3	15 A	—
17	SCR4	15 A	—
18	AUDIO3	15 A	オーディオ
19	R.SHADE	7.5 A	電動リアウインドーサンシェード グレード/仕様別装備
20	M.DEF	7.5 A	ミラーデフォッガー (曇り取り)
21	—	—	—

エンジンルーム内ヒューズボックス



位置	表示	容量	保護装置
1	AUDIO DCDC REG	30 A	各種電源
2	IG2	30 A	各種電源
3	INJECTOR ENG. SUB	30 A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備
4	SCR1 EVVT	20 A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備
5	P.WINDOW1	30 A	パワーウインドー
6	IG1 2	30 A	各種電源
7	—	—	—

ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
8	ADD FAN DE	50 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
9	DEFOG	40 A	リアウインドーデフォッガー (曇り取り)
10	DCDC DE	40 A	—
11	EPB R	20 A	電動パーキングブレーキ (EPB) 右
12	EPB L	20 A	電動パーキングブレーキ (EPB) 左
13	CABIN.+B	50 A	各種電源
14	FAN GE	30 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
15	ENG.MAIN	40 A	エンジンコントロールシステム
16	ABS/DSC M	50 A	ABS、DSC
17	HEATER	40 A	空調
18	WIPER	20 A	フロントワイパー/ウォッシャー
19	FAN DE	50 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
20	ADD FAN GE	30 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
21	ENGINE3	15 A	エンジンコントロールシステム
22	ENGINE2	15 A	エンジンコントロールシステム
23	AUDIO2	7.5 A	オーディオ
24	METER2	10 A	メーター
25	SRS1	7.5 A	エアバッグシステム
26	METER1	10 A	メーター
27	ENGINE.IG1	7.5 A	エンジンコントロールシステム

位置	表示	容量	保護装置
28	AT	15 A	トランスアクスルコントロールシステム、エンジンスイッチ
29	H/CLEAN	20 A	ヘッドランプウォッシャー グレード/仕様別装備
30	A/C	7.5 A	空調
31	AT PUMP	15 A	トランスアクスルコントロールシステム グレード/仕様別装備
32	HORN	15 A	ホーン
33	R.WIPER	15 A	リアワイパー グレード/仕様別装備
34	H/L HI	20 A	ヘッドランプ (ハイビーム)
35	—	—	—
36	WIPER.DEI	20 A	ウインドーワイパーデアイサー グレード/仕様別装備
37	ENG.+B	7.5 A	エンジンコントロールシステム
38	H/L LOW L	15 A	ヘッドランプ 左 (ロービーム)
39	GLOW SIG	5 A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備
40	ENGINE1 ENGINE4	15 A	エンジンコントロールシステム
41	C/U IG1	15 A	各種電源
42	ST.HEATER	15 A	ステアリングヒーター グレード/仕様別装備
43	—	—	—
44	AUDIO1	25 A	オーディオ

ヒューズ切れ、電球切れのとき

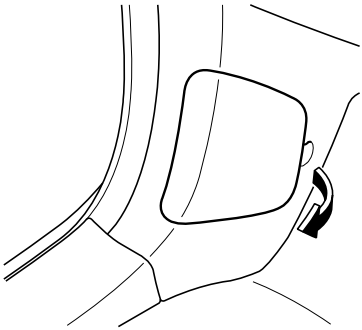
位置	表示	容量	保護装置
45	ABS/DSC S	30 A	ABS、DSC
46	FUEL PUMP	15 A	フューエルポンプ グレード/仕様別装備
47	FUEL WARM	25 A	フューエルウォーマー グレード/仕様別装備
48	TAIL	15 A	尾灯、番号灯、車幅灯
49	SCR2 FUEL PUMP2	25 A	—
50	HAZARD	25 A	方向指示灯/非常点滅灯
51	H/L LOW R	15 A	ヘッドランプ 右 (ロービーム)
52	OUTLET	25 A	—
53	STOP	10 A	制動灯
54	ROOM	25 A	各種電源

ランプ類、電気装置が作動しないとき

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

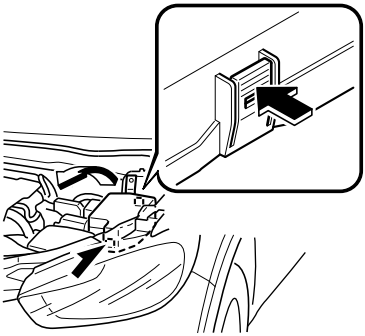
ヒューズの交換

室内ヒューズボックス



1. 電源ポジションを OFF にします。
2. ヒューズボックスのカバーを開きます。ヒューズボックスは助手席左下と、エンジンルーム内にあります。

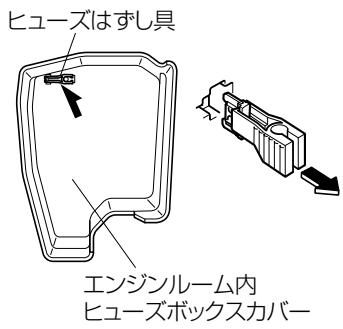
エンジンルーム内ヒューズボックス



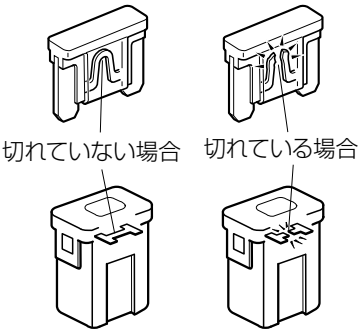
知識

- 各ヒューズはグレードや仕様により無い場合があります。
- ヒューズボックスのカバー裏側に各ヒューズの規定容量が表示されています。

ヒューズ切れ、電球切れのとき



3. ヒューズの位置を確認し、故障の状況から、点検すべきヒューズを確認してください。
→589 ページ「ヒューズの受け持つ装置」
4. ヒューズを抜き取ります。



5. ヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換します。
6. ヒューズボックスのカバーを元の通り取り付けます。

⚠ 警告

禁止

規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用しない。
配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。

⚠ 注意

必ず守る

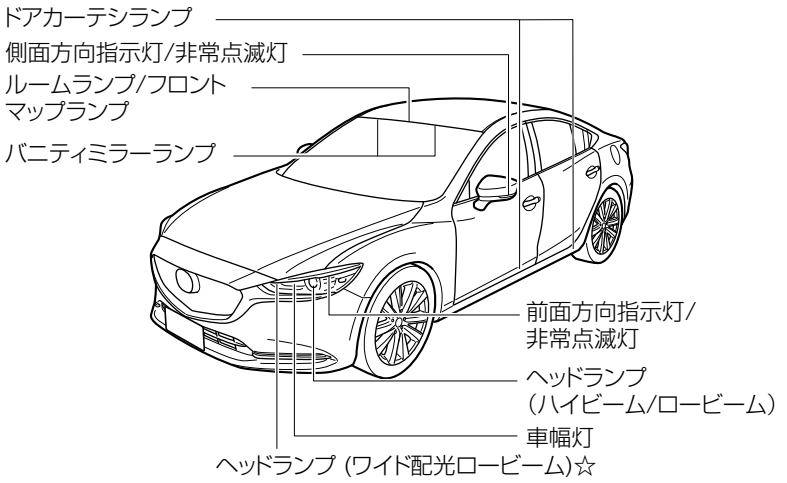
必ずマツダ純正品または同等品を使用してください。

知識

ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

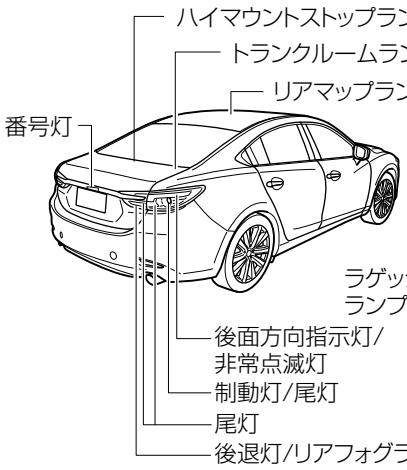
フロント



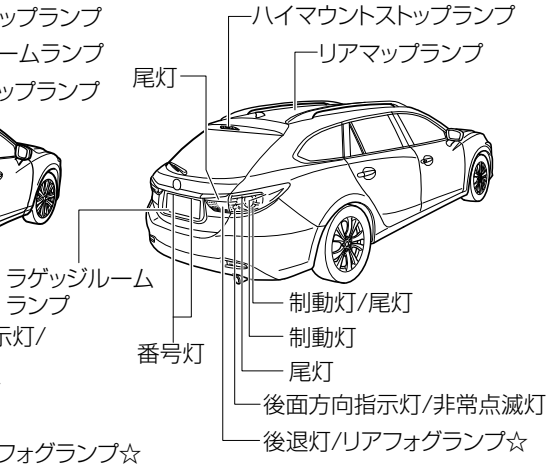
☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

リア

セダン



ワゴン



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

⚠注意

必ず守る **電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。**

必ず守る **ルームランプ、ラゲッジルームランプのレンズを取りはずすときは、マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてご使用ください。マイナスドライバーが直接レンズや内装に当たると、傷がつくおそれがあります。**

必ず守る **マイナスドライバーなどを使ってレンズやランプ本体を取りはずすときは、マイナスドライバーなどが内部の端子に当たらないようにしてください。マイナスドライバーなどが直接端子に当たると、ショートするおそれがあります。**

知識

- **交換する電球について**
  必ず同じ W 数の電球を使用してください。
- **ランプの曇りについて**
  ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

電球には LED タイプとバルブタイプがあります。
バルブタイプのみ交換することができます。

LED タイプ

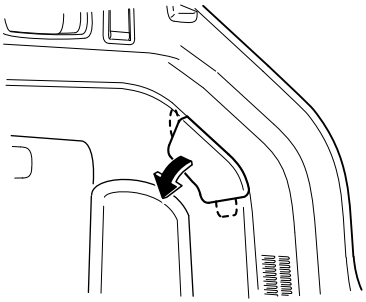
- ヘッドランプ (ハイビーム/ロービーム)
- 前面方向指示灯/非常点滅灯
- 車幅灯
- ヘッドランプ (ワイド配光ロービーム) グレード/仕様別装備
- 側面方向指示灯/非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- 後面方向指示灯/非常点滅灯 (セダン)
- 後退灯/リアフォグランプ (セダン) グレード/仕様別装備
- 番号灯
- ハイマウントストップランプ
- ルームランプ/フロントマップランプ
- リアマップランプ

- バニティミラーランプ
- ドアカーテシランプ
- トランク/ラゲッジルームランプ

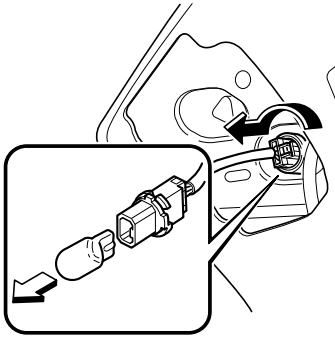
LED タイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

バルブタイプ

後面方向指示灯/非常点滅灯 (ワゴン)



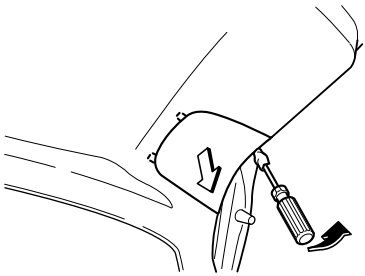
1. リアゲートを開けます。
2. カバーを取りはずします。



3. ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
4. 電球を取り換えます。
5. はずした手順と逆の手順で取りつけます。

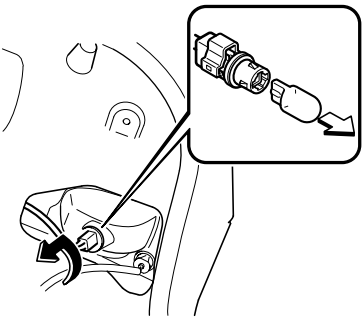
後退灯、リアフォグランプ (ワゴン)

グレード/仕様別装備



1. リアゲートを開けます。
2. マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、カバーを取りはずします。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

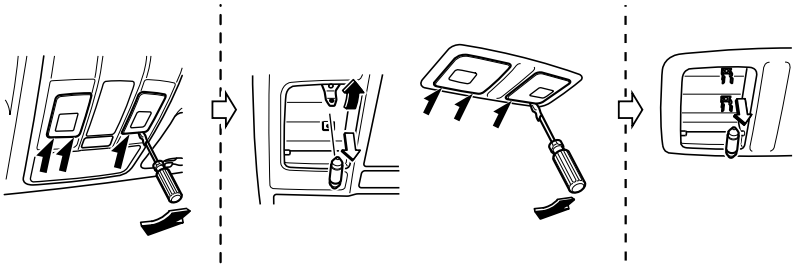


3. ソケットを反時計回りにまわして取りはずし、電球を抜き取ります。
4. 電球を取り換えます。
5. はずした手順と逆の手順で取りつけます。

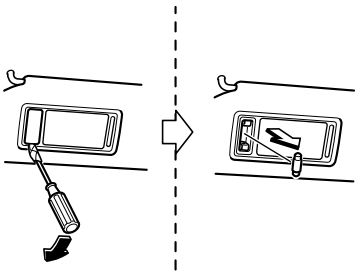
ルームランプ/フロントマップランプ、リアマップランプ、バニティミラーランプ

1. マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。
2. 電球を取りはずします。

ルームランプ/フロントマップランプ　　リアマップランプ

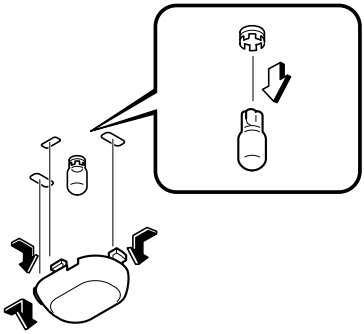


バニティミラーランプ



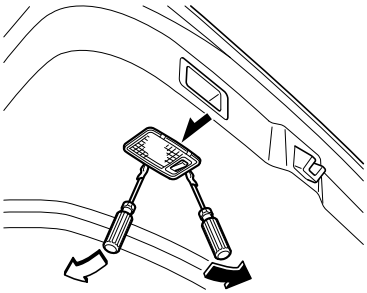
3. 電球を取り換えます。
4. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

トランクルームランプ（セダン）

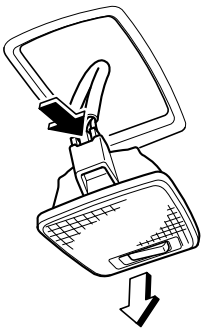


1. レンズの両側を押さえ、レンズを取りはずします。
2. 電球を抜き取ります。
3. 電球を取り換えます。
4. はずした手順と逆の手順で取りつけます。

ラゲッジルームランプ（ワゴン）



1. マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、ランプ本体を取りはずします。



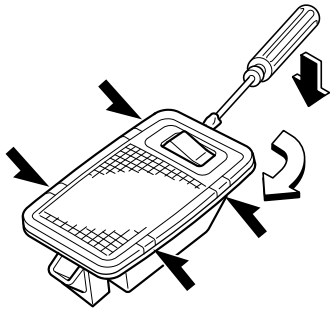
2. ツメを押し、コネクターを取りはずします。

⚠注意

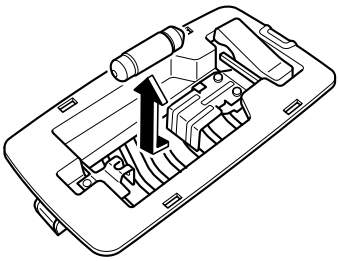
電球を交換するときは、必ずコネクターをはずしてから交換してください。コネクターをはずさずに電球を交換すると電気部品や電子部品がショートするおそれがあります。

必ず守る

ヒューズ切れ、電球切れのとき



3. マイナスドライバーなどを使って、スライドさせながらレンズを取りはずします。



4. 電球を抜き取ります。
5. 電球を取り換えます。
6. はずした手順と逆の手順で取りつけます。

電池を交換するときは

⚠注意

必ず守る **電池の＋側と－側は必ず正しく取り付けてください。液漏れなどにつながるおそれがあります。**

禁止 **電池を交換するときは内部回路や電極に触れたり、電極を曲げたりしないように注意してください。また内部にゴミなどを付着させないでください。故障につながるおそれがあります。**

必ず守る **電池を交換してもキーが作動しないときは、マツダ販売店にご相談ください。**

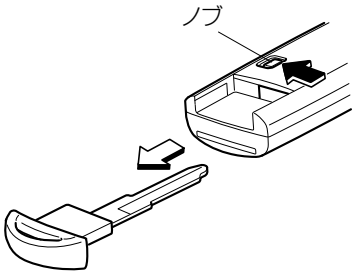
キー

次のようなときは電池残量が少なくなっていることが考えられます。

- エンジンをきったときにマルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示した
- キーの作動表示灯が点灯しない
- どのスイッチを押しても作動しない
- 作動範囲が狭く不安定になる

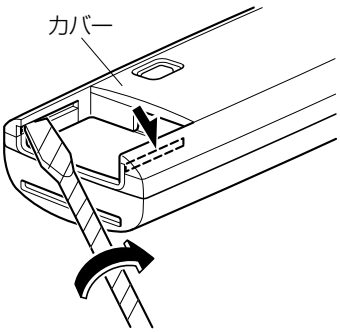
電池交換のとき、キーが破損するおそれがあるため、マツダ販売店での交換をおすすめします。お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

電池の規格: リチウム電池 CR2025

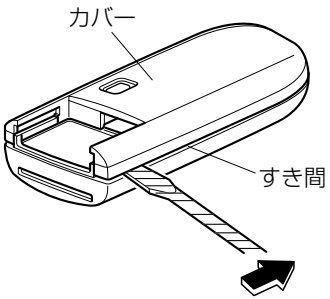


1. ノブを押したまま、補助キーを引き出します。

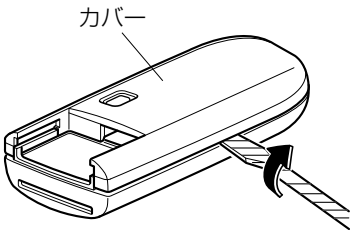
電池交換



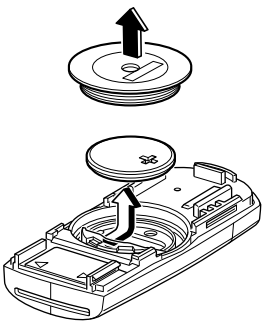
2. 保護テープを巻いたマイナスドライバーなどを矢印の方向にまわし、カバーを少し開けます。



3. 保護テープを巻いたマイナスドライバーなどをすき間に差し込み、矢印の方向にスライドさせます。



4. マイナスドライバーなどを矢印の方向にまわしてカバーを取りはずします。



5. キャップをはずして、電池を取り出します。

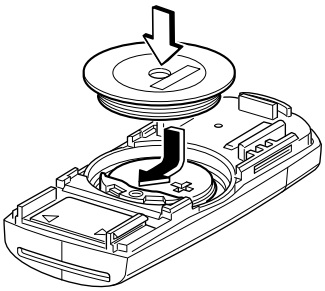
⚠注意

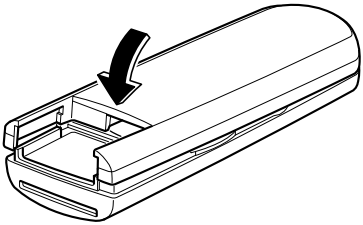
ゴムリングを傷つけないようにしてください。

禁 止

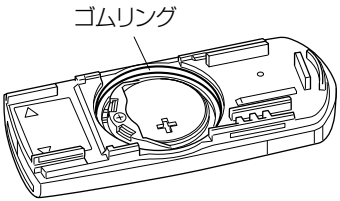
ゴムリングが外れた場合は、新しい電池を入れる前にゴムリングを取り付けてください。

必ず守る





6. 新しい電池の＋側を上にして差し込み、キャップをかぶせます。



7. カバーを取り付けます。
8. 補助キーを差し込みます。

外装の手入れ

車を美しく保つためには日ごろの手入れが大切です。

- 保管、駐車は風通しのよい屋根のある場所をおすすめします。
- 走行後は、車体についたほこりをやわらかい布か毛ばたきで払い落としましょう。
- とび石などによる塗装の傷は腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 洗車やワックスがけ、装備品の手入れは定期的に行ないましょう。
- ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は塗装を損傷するので付着させないでください。万一付着した場合はただちにふき取るか、洗車してください。
- ヘッドランプ、制動灯などのプラスチックを使用しているランプ類は、コンパウンド(みがき粉) 入りのワックスを使用しないでください。
- 次のようなときは、早めに洗車などの手入れを行なってください。
  そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。
  - 海岸地帯を走行したとき。
  - 凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
  - ばい煙や粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、果実などが付いたとき。
  - コールタール、塗料、砂じん、コンクリートの粉などが付いたとき。
  - 泥、ほこりが著しく付いたとき。
  - 雨の中を走行したときや、雨にぬれたとき。

洗車するとき

水洗いするとき

1. 車の足まわりに付いている泥を洗い落とします。
2. 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。
3. はん点が残らないように水をふき取ってください。

⚠注意

必ず守る ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。

必ず守る 運転席/助手席側ワイパーアームを立てるときは、運転席側のワイパーアームから立ててください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じるおそれがあります。

禁止 エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障につながるおそれがあります。

必ず守る 洗車やワックスがけを行なうときは、車体のルーフ部の一点やアンテナに強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、車体がへこんだり、アンテナが損傷するおそれがあります。

自動洗車機を使用するとき

- ドアミラーを格納してください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
- スポイラー装備車は、洗車機によってはスポイラーがひっかかり洗車できない場合や損傷するおそれがあります。

高圧洗車機を使用するとき

洗車機は機種によっては高温、高圧のものがあります。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、室内に水が入るおそれがありますので、洗車ノズルと車体との距離は十分に離してください (30 cm 以上)。また、同じ場所を連続して洗浄しないでください。ドアのすき間や窓ガラスまわりは、特に注意して行なってください。

ワックスをかけるときは

- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
- 直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。

知識

ワックスの使用について

- コンパウンド (みがき紛) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
- ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

ガラス、ミラーの手入れ

ガラスやミラーについた油膜を取るときは純正ガラスクリーナーを使用してください。
ガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、軽くふいてください。

注意

必ず守る

熱線を損傷するおそれがあるため、熱線にそってふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。

フロントガラスの油膜をとるときは

フロントガラスに油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射して、見えにくくなることがあります。
ガラスクリーナーを使ってフロントガラスの表面をきれいにしてください。

アルミホイールの手入れ

アルミホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。できるだけ早く水洗いしてください。
汚れのひどいときは中性洗剤をしみこませたやわらかい布などでふき取ってください。

⚠注意

禁止

中性洗剤以外は使用しないでください。ご使用の際には成分をご確認ください。変色･シミの原因となります。

知識

アルミホイールを洗うときは

- アルミホイールは傷がつきやすいので、砂入り石けんや硬いブラシは使用しないでください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつくことがあります。

外装樹脂部品の手入れ

- バンパーなど樹脂部品の塗装面にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると変色、シミ、塗装はがれなどの原因となります。すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗装を損傷するおそれがありますので使用しないでください。
- 電動またはエア工具を使用してコンパウンド (みがき粉) がけやワックスがけを行なうと摩擦熱が発生して、樹脂部品の変形や塗装の損傷などの原因になることがありますので使用しないでください。
- プラスチックレンズを使用しているランプ類は、ガソリン、灯油、高濃度アルコール類、塗料、シンナー、強酸性洗剤、強アルカリ性洗剤などの化学液により表面が変色したりダメージを受けて、機能を著しく損なうおそれがあります。お手入れの際には使用しないでください。万一付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

内装の手入れ

⚠ 警告

室内に水をかけない。
オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

知識

- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。
- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。

次のような場合は、すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
そのままにしておくと変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になったり、汚れが落ちにくくなります。

- 飲み物や芳香剤などをこぼしたとき
- 油脂類が付着したとき
- 汚れがあるとき

シートベルトの手入れ

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
3. 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

⚠ 警告

シートベルトにほつれ、すり傷などの異常があるときは、マツダ販売店で交換する。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用する。
有機溶剤を使用したり、染色、漂白するとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

汚れがあるときはこまめにふき取ってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなることがあります。

ビニールの手入れ

ブラシや掃除機を使用してビニールのほこりや汚れを落としてください。
革·ビニール用クリーナーを使用してビニールの汚れを落としてください。

布張り部分の手入れ

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

革張り部分の手入れ

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除きます。
2. 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
4. 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させてください。

知識

- 天然素材のため、シボ (本革表面の凹凸) の不均一や牛革本来の傷が分かる場合があります。
- 品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
- 次のような場合は、早めに手入れを行なってください。
  そのまま放置しておくと早く摩耗したり、カビやシミなどの原因になります。
  - 砂、ほこりなどが付いたとき
  - ハンドクリームなどの油分が付いたとき
  - 化粧品、整髪料などのアルコール類が付いたとき
- 革張り部分がぬれたときはすぐに乾いた布で水分をふき取ってください。表面に水分が残っていると硬化、収縮など変質の原因になります。
- 直射日光に長時間さらすと、変質、縮みなどの原因になります。長時間駐車するときは、サンシェード (日除け) を使用するなどして直射日光をさえぎってください。
- ビニール製品を長時間、革張り部分の上に置かないでください。変質、変色の原因になります。室内が高温になっているとビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。

樹脂部品の手入れ

⚠注意

禁止
つや出し剤を使用しないでください。
含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になります。

インストルメントパネル上面 (ソフトパッド部) の手入れ

ソフトパッド部の表皮には非常にやわらかい素材を使用しています。乾いた布などで強くこすると白いすり傷となる場合があります。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイの手入れ

防塵シートはコーティングされています。お手入れをするときは、硬い布、表面が粗い布、洗剤などは使用しないでください。
→200 ページ「アクティブ･ドライビング･ディスプレイ」
また、薬剤などがアクティブ･ドライビング･ディスプレイに付着した場合は、すぐにふき取ってください。防塵シートが破損したり、表面のコーティングが傷ついたりするおそれがあります。メガネ拭きのようなきめの細かい、やわらかい布をお使いください。

知識

防塵シートは、エアーを吹きつけて清掃することをおすすめします。

パネルの手入れ

パネルが汚れたときは、きれいな水にひたして固くしぼったやわらかい布などで軽くふき取ってください。
特に汚れが気になるときは、次の方法で手入れを行なってください。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

知識

光沢のあるパネル、メッキ部分などの金属部分がある場合は、傷がつきやすいので、特に注意して手入れを行なってください。

冬にそなえて

エンジンオイルの準備

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
→679 ページ「エンジンオイル」

バッテリー液の点検

気温が下がるとバッテリー性能が低下するためエンジン始動が困難になる場合があります。
バッテリー液の量、比重を点検し、必要に応じて液の補充をしてください。
点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

冷却水の濃度の調節

冷却水には、凍結を防止するために不凍液が入っています。
冬場になっても凍結しないよう冷却水の濃度を調節してください。

不凍液の割合	凍結温度
30%	−16℃
50%	−37℃

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) FL22 を使用する場合

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) **FL22** は濃度調整済みの冷却水です。
薄めずそのままご使用ください。
冷却水量の点検や補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
冷却水を交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の濃度の調節

ウォッシャー液が凍結するのを防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考にして、外気温に応じた濃度に調節してください。
→587 ページ「ウォッシャー液の補充」

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。
寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおってあります。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

⚠警告

タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用する。
指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を準備し、使用する前に一度装着してみて手順を理解しておきましょう。
→614 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

タイヤチェーンの取り付け

タイヤチェーンは 4WD 車も前輪に取り付けます。
タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって正しく取り付けてください。
タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。
路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板 (停止表示灯) を使用してください。

⚠注意

標準タイヤのみタイヤチェーンを装着できます。標準タイヤ以外のタイヤにタイヤチェーンを装着すると、チェーンがボディーなどに干渉し、傷をつけることがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。
また、4WD 車は駆動系部品に悪影響をおよぼし故障につながるおそれがあります。

タイヤチェーンを装着したときは、30 km/h 以下で走行してください。30 km/h 以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

知識

タイヤチェーンについて

- お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

知識

- タイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

夏にそなえて

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足していないかこまめに点検してください。
点検要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エアコンのチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前にマツダ販売店で点検を受けておきましょう。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

環境保護のために

廃棄物を処理するときは

廃棄物については、法律上適切な処理が求められています。

- タイヤを燃やすと有毒なガスが発生するので、自己処理はしないでください。使用済みタイヤは新品タイヤを購入した販売店に処分を依頼してください。
- バッテリーは鉛や硫酸が使われています。使用済みバッテリーは新品バッテリーを購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルやクーラントが地下や川などに流れ出すと、環境を悪化させます。交換済みのエンジンオイルは新品エンジンオイルを購入した販売店に処分を依頼してください。また、クーラントを交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- エアコンにはオゾン層を破壊しない代替フロンガスを使用しています。それでも代替フロンガスには地球を温暖化するはたらきがあります。ガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店か専門の修理業者に依頼してください。

5 トラブルが起きたら

故障したとき 620
路上で動けなくなったとき....620
スタックしたとき....621
踏切内で動けなくなったとき....622
緊急用具の取り扱い 623
発炎筒....623
工具、ジャッキの格納場所....623
ジャッキの取り扱い....625
パンクしたとき 632
タイヤパンク応急修理キット....632
バッテリーがあがったとき 641
バッテリーあがりについて....641
エンジンが始動しないとき 645
燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 2.2)....645
オーバーヒートしたとき 646
オーバーヒートについて....646
アドバンストキーが作動しないとき 648
キー一時停止機能....648
けん引について 649
けん引してもらうとき....649
故障車をけん引するとき....651
万一事故が起きたとき 653
警告灯/表示灯 654
警告灯が点灯、点滅したときは....654
マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは....665
センターディスプレイにメッセージが表示されたときは....667
警報チャイム 669

5 トラブルが起きたら

チャイムがなったときは.....669
リアゲート 674
リアゲートが開けられなくなったとき.....674
トランク 675
トランクが開けられなくなったとき.....675
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ 676
アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき.....676

MEMO

路上で動けなくなったとき

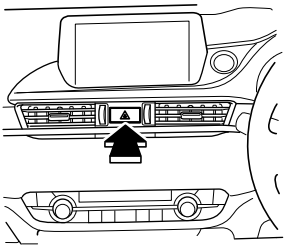
一般の道路で動けなくなったときに付近に人がいる場合は救援を求めてください。
チェンジレバー/セレクトレバーを N の位置にいれ、安全な場所まで押し出します。

⚠警告

必ず守る **万一、事故や故障などで車から燃料がもれている場合は、すぐにエンジンを止める。**
爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。

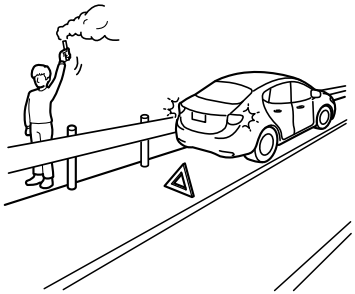
1. 車を路肩に止め、非常点滅灯を点滅させます。

非常点滅灯スイッチ



非常点滅表示灯

2. 必要に応じて停止表示板 (停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせます。
→623 ページ「発炎筒」
   - 高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板 (停止表示灯) を置くことが法律で義務づけられています。
   - 停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。



3. 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難してください。
4. 安全を確保した後、救援を求めます。
故障の修理などお困りの際はマツダ販売店に連絡してください。

知識

停止表示板 (停止表示灯) について
停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。マツダ販売店でお求めいただけます。

スタックしたとき

ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなることをスタックといいます。

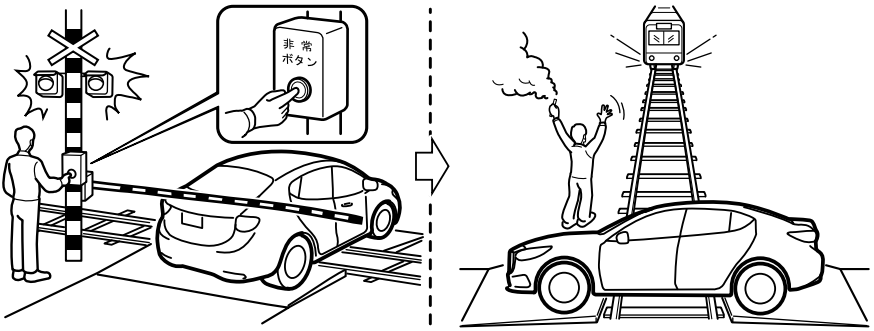
- 周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを D または R の位置にいれて、アクセルペダルを軽く踏みます。チェンジレバー/セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

踏切内で動けなくなったとき

脱輪などで動けなくなったとき

1. 踏切の非常ボタンを押します。緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→623 ページ「発炎筒」
2. 付近の人に救援を求めます。



エンストで動けなくなったとき

1. エンジンをかけ直します。
2. エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→623 ページ「発炎筒」
3. 付近の人に救援を求めます。
チェンジレバー/セレクトレバーを N の位置にいれ、安全な場所まで押し出します。

知識

緊急避難について
スターターを使って、車を緊急避難させることはできません。

発炎筒

⚠警告

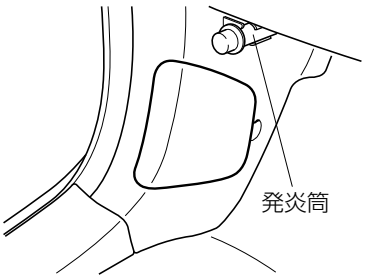
禁止 **油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しない。**
火災につながるおそれがあります。

禁止 **使用するときは筒先を顔や身体に向けたり近づけない。**
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **お子さまにはさわらせない。**
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **トンネル内では発炎筒を使用しない。**
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について



事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読み、あらかじめ確認しておいてください。

- 使用方法
- 使用上の注意事項
- 発炎時間
- 有効期限

工具、ジャッキの格納場所

⚠警告

必ず守る **車に搭載されているジャッキを使用する。**
車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。
車に搭載されている以外のジャッキを使用すると、車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

緊急用具の取り扱い

⚠注意

禁止 **ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーンの取り付け、取りはずし以外に使用しないでください。**

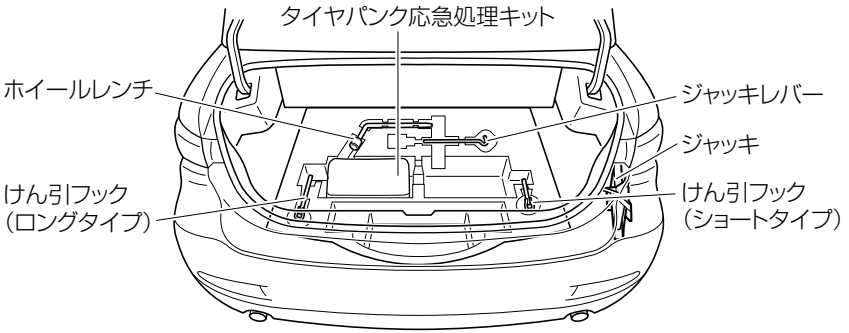
必ず守る **工具、ジャッキを使用したあとは走行中に動かないよう、所定の位置にしっかりと固定してください。**

知識

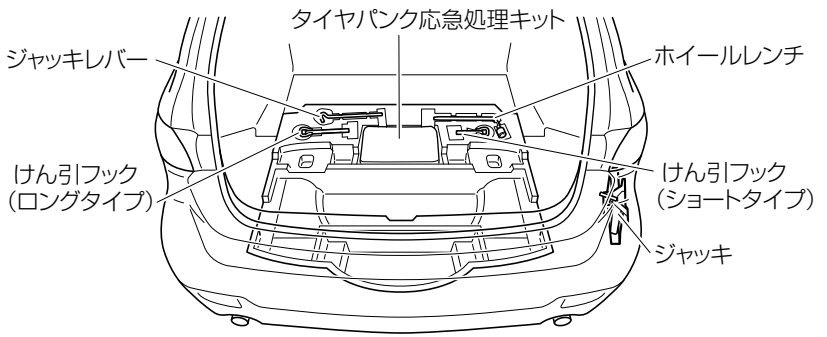
スペアタイヤはお客様のお車に標準で搭載されておりません。スペアタイヤの取り扱いについては、マツダ販売店にご相談ください。

工具、ジャッキは図の位置に格納されています。

セダン



ワゴン



ジャッキの取り扱い

ジャッキアップする前に

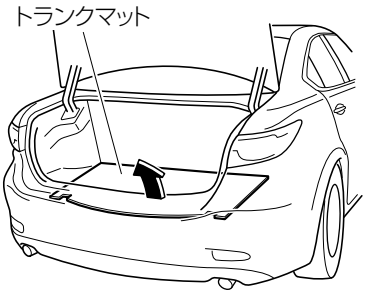
1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い、安全に作業ができる場所に移動します。
2. マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にいれます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
→620 ページ「路上で動けなくなったとき」
5. 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキを取り出します。
→623 ページ「工具、ジャッキの格納場所」
6. 輪止めを用意します。

知識

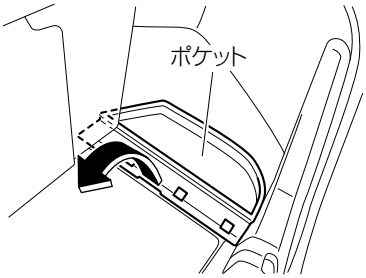
輪止めについて
輪止めはお客様のお車に標準で搭載されておりません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

ジャッキを取り出すとき

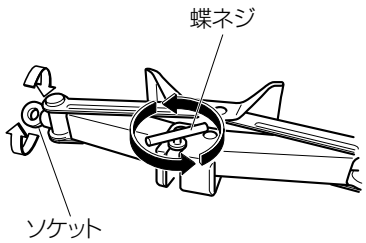
セダン



1. トランクマットをめくります。

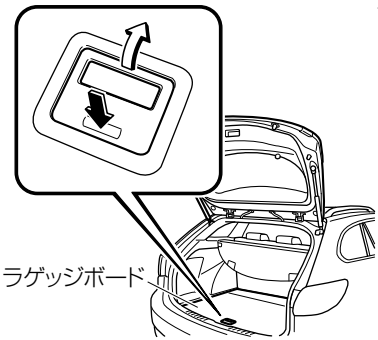


2. ポケットを取りはずします。

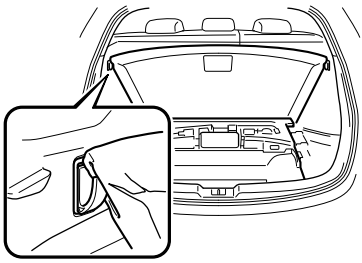


3. 蝶ネジを左にまわしてはずし、ソケットをゆるめてジャッキを取り出します。

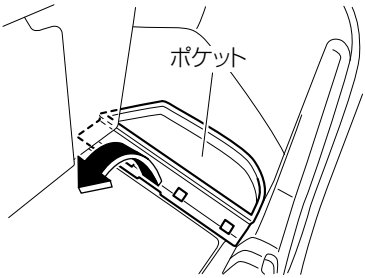
ワゴン



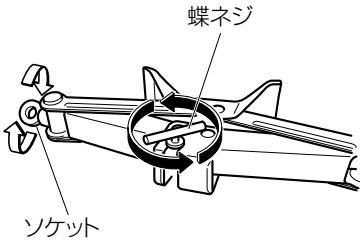
1. ラゲッジボードを開きます。



2. ショッピングフックを回転させ、ラゲッジボードを立てかけます。



3. ポケットを取りはずします。



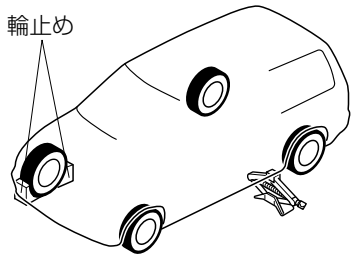
4. 蝶ネジを左にまわしてはずし、ソケットをゆるめてジャッキを取り出します。

ジャッキアップするとき

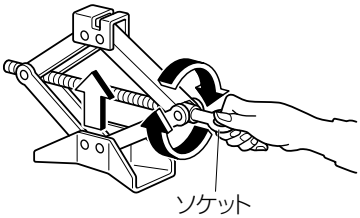
⚠警告

必ず守る

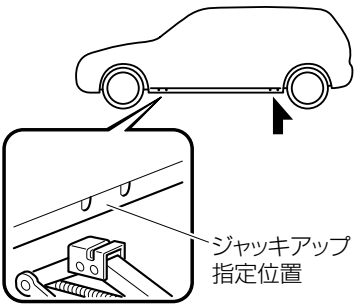
ジャッキアップするときはマニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にいれ、パーキングブレーキをかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをする。
チェンジレバーが 1 または R、セレクトレバーが P の位置に入っていても、車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。



1. ジャッキをかける位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。
   - 前輪をジャッキアップするときは、後輪の前後
   - 後輪をジャッキアップするときは、前輪の前後
2. ジャッキを地面に置きます。



3. ソケットを手でまわしてジャッキをジャッキアップ指定位置の近くにくるよう調節します。



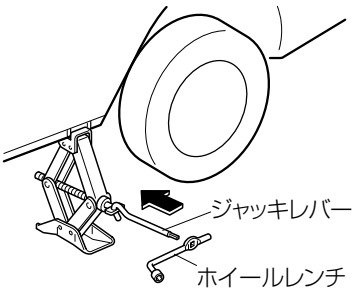
4. ジャッキをジャッキアップ指定位置 (目印となるふくらみの間) の中央に直角にセットします。

5. ジャッキを徐々に上げて、ジャッキアップ指定位置 (目印となるふくらみの間) の中央にジャッキがはまっていることを確認します。

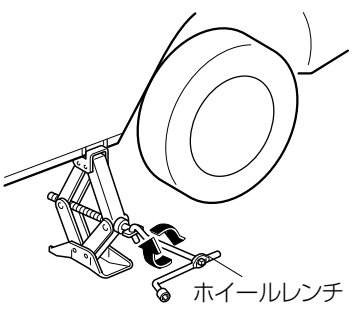
⚠警告

禁止

ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり、ジャッキの上下に台やブロックなどを入れない。
車体が変形したり、ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。



6. ジャッキにジャッキレバーをかけ、ジャッキレバーにホイールレンチを組み付けます。



7. タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。

⚠警告

禁止 **必要以上にジャッキアップしない。**
車体が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

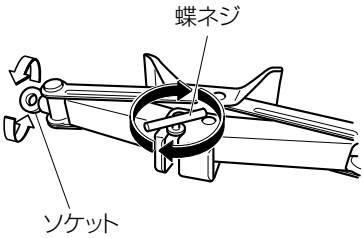
禁止 **ジャッキアップした状態で車のエンジンをかけない。**
ジャッキがはずれた場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **ジャッキアップした車の下には絶対にはいらない。**
万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **人を乗せたままジャッキアップしないでください。**

ジャッキを格納するとき



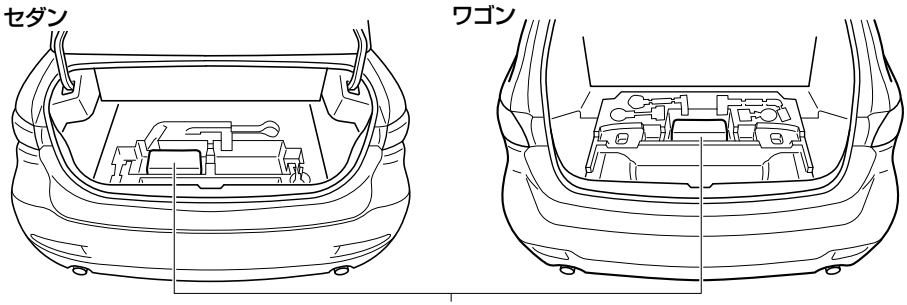
1. ソケットが前側になるような方向で蝶ネジをジャッキに差し込み、右にまわしていったん固定します。
2. ソケットを図の方向にまわします。
3. 蝶ネジをしっかりまわしてジャッキを固定します。

知識

ジャッキが完全に固定されていないときは、走行中に音がする場合があります。
再度ソケットをまわしてジャッキを固定してください。

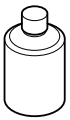
タイヤパンク応急修理キット

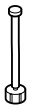
本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。
タイヤに刺さった釘やネジなどを抜かず、応急修理してください。
タイヤパンク応急修理キットは図の位置に格納されています。



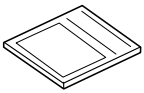
タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。


修理剤


注入ホース

エアコンプレッサー


取扱説明書

予備バルブコア

コアまわし

速度制限シール

⚠警告

必ず守る　万一誤飲したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受ける。

修理剤を誤飲すると健康に害があります。

⚠警告

修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄する。

それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

お子さまには修理剤をさわらせない。

誤って使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

天然ゴムに対するアレルギーを有する人は修理剤に触れない。

アレルギー症状を発症する可能性があります。

知識

修理剤の使用について

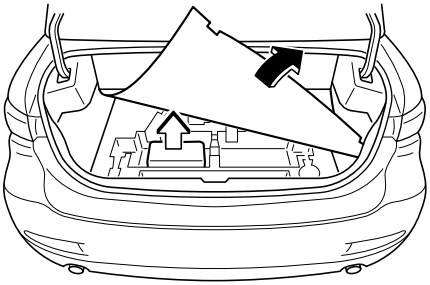
- 一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。
- 次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店またはJAF などに連絡してください。
  - 修理剤の有効期限がきれているとき (有効期限はボトルのラベルに記載されています)
  - 約 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - 接地部以外が損傷を受けたとき
  - パンクしたまま走行し、タイヤ側面が損傷しているとき
  - タイヤがホイールからはずれているとき
  - ホイールやバルブが破損しているとき
  - タイヤが 2 本以上パンクしているとき

タイヤパンク応急修理キットの使いかた

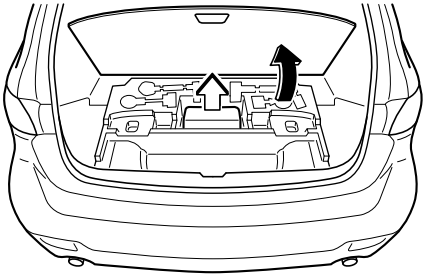
1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い安全に作業できる場所に移動します。
2. マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置に入れます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。

5. 人や荷物を降ろし、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。

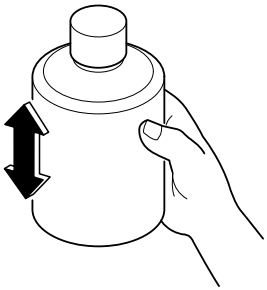
セダン



ワゴン



6. 修理剤のボトルをよく振ります。



⚠警告

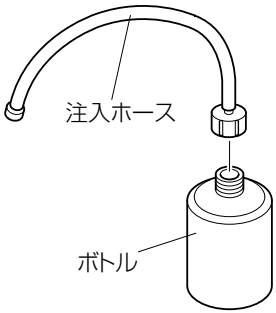
注入ホースをねじ込む前にボトルを振る。

必ず守る **注入ホースをねじ込んだ後にボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び散り、衣服などに付着すると取れないおそれがあります。**

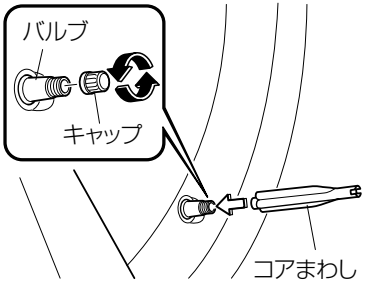
知識

修理剤の性質について

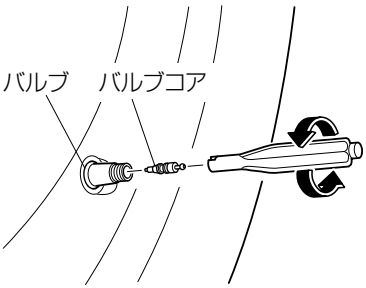
0°C以下の寒冷時では修理剤が固まりやすくなり、注入作業がしにくくなります。車内などで暖めると注入作業がしやすくなります。



7. ボトルのキャップをはずします。内ぶたをつけたままの状態で注入ホースをボトルにねじ込むと、ボトルの内ぶたが破れます。



8. パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずし、コアまわしの後ろでバルブ内のバルブコアを押してタイヤの空気を完全に抜きます。



9. コアまわしでバルブコアを左にまわし、バルブコアを取りはずします。

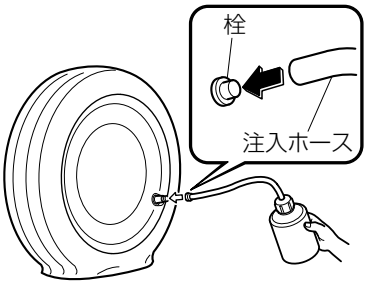
⚠注意

バルブコアをはずすとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すおそれがあります。バルブコアは慎重に取りはずしてください。

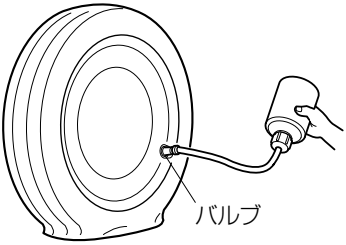
必ず守る

知識

バルブコアは汚れないように保管してください。



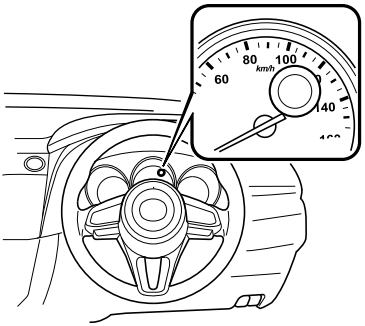
10. 注入ホースの栓をはずし、注入ホースをバルブに差し込みます。



11. ボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを圧迫し、修理剤をすべてタイヤの中に注入します。
12. 注入ホースをバルブから引き抜き、コアまわしでバルブコアを右にまわし、バルブにバルブコアを取り付けます。

知識

修理剤の回収について
注入が完了した空ボトルは、タイヤ交換または修理の際に使用済み修理剤の回収に使用します。ボトルは捨てずにマツダ販売店までお持ちください。



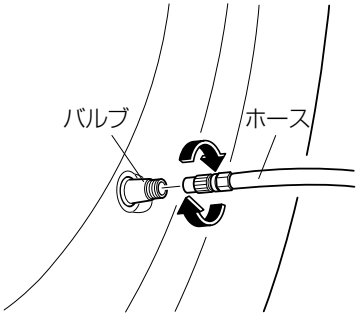
13. 運転者のよく見えるところに速度制限シールを貼ります。

⚠警告

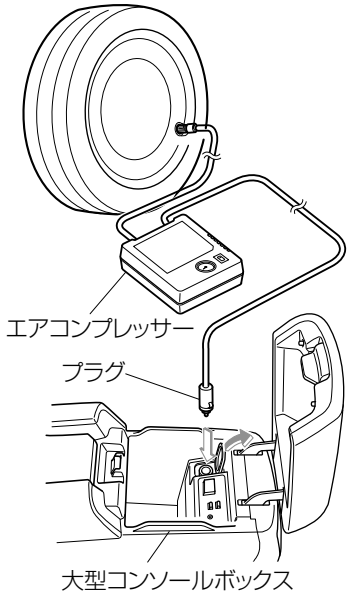
ハンドルのパッド部に速度制限シールを貼らない。

禁止

万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。



14. エアコンプレッサーのホースの口金を右にまわしてバルブに取り付けます。



15. エアコンプレッサーのプラグを車内の電源ソケットに差し込み、電源ポジションを ACC にします。
→556 ページ「電源ソケット」

パンクしたとき

⚠注意

必ず守る **電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。エアコンプレッサーの ON、OFF はエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。**

16. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、タイヤを適正空気圧まで昇圧します。

知識

空気圧の調整について

- タイヤの適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼り付けられているラベルで確認してください。
- エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10 分以上連続して作動させないでください。
- タイヤ空気圧が昇圧できない場合は修理できません。もし、10 分以内に適正空気圧にならなければ、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店または JAF などに連絡してください。
- 空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーのホースの口金を緩めて空気を抜いてください。

17. 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしエアコンプレッサーのホースの口金を左にまわしてバルブから抜きます。
18. バルブキャップを取り付けます。
19. 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるためただちに走行を始めます。

⚠注意

必ず守る **80 km/h 以下の速度で慎重に運転してください。80 km/h 以上の速度で走行した場合、車体が振動することがあります。**

20. 10 分間もしくは 5 km 程度走行後に手順 14 の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧を確認します。適正空気圧より低下していたら、手順 15 の作業から再度行ないます。

⚠警告

空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm²) 以下に低下していたら、運転を中止してマツダ販売店または JAF などに連絡する。

本修理キットによる応急修理はできません。

手順 14～20 の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止する。

マツダ販売店または JAF などに連絡してください。

⚠注意

タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてから確認してください。

21. 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。すみやかにマツダ販売店まで慎重に運転し、新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理·再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。

知識

応急修理をしたタイヤとホイールは

- タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、できるだけ早く新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理·再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

タイヤパンク応急修理キットの点検

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

- 修理剤の有効期限の確認
- コンプレッサーの作動の確認

知識

修理剤の有効期限について
修理剤には有効期限があります。有効期限がきれたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限がきれる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

バッテリーあがりについて

次のような状態はバッテリーあがりです。

- スターターがまわらない。またはまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- ランプ類がいつもより極端に暗い。

⚠警告

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

必ず守る
必ず保護メガネを着用する。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

必ず守る
バッテリーの近くでお子さまを遊ばせない。また、バッテリー液をこぼさない。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一、目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

必ず守る
絶対に火気を近づけない。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子同士やボディーに触れないように十分注意してください。

必ず守る
換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわない。また、充電中はバッテリーに近づかない。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

必ず守る
ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ずバッテリー液の量を点検する。
バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

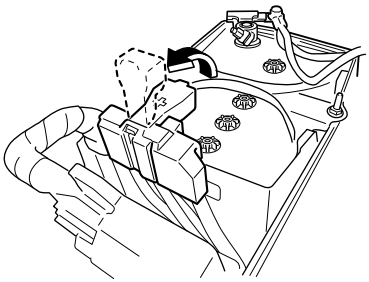
バッテリーがあがったとき

処置方法

押しがけによる始動はできません。
別売のブースターケーブルを使用して、救援車 (他の車) のバッテリーと自車のバッテリーを接続してエンジンをかけます。
自車と同じ 12V バッテリーを搭載した救援車を依頼してください。

⚠注意

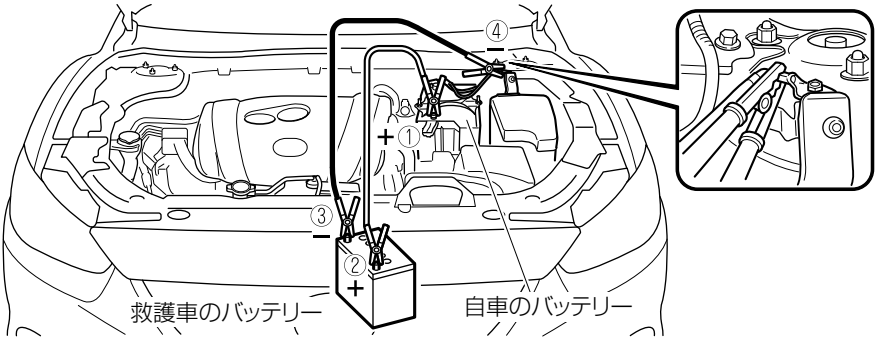
ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。ブースターケーブルがベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。
必ず守る



1. 自車のバッテリーと救援車のバッテリーが一番近い位置になるように、車を移動させます。
2. ヘッドランプやエアコンなどの電源が切ってあることを確認します。
3. バッテリーカバーを取りはずします。

4. 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続します。
ブースターケーブルを接続する前に各バッテリーの端子 (+ 、−) の位置を確認してください。

- **1 本目**
  ①自車のバッテリーの + 端子
  ②救援車のバッテリーの + 端子
- **2 本目**
  ③救援車のバッテリーの−端子
  ④図で表示の箇所 (アースを取る)



⚠警告

禁止 **バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけない。**
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
また、火花の発生を防ぐため次の点を必ず守ってください。

- **④の接続は自車バッテリーの−端子に接続しないでください。**
- **ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、+ 端子がボディーや−端子に触れないように十分注意してください。**

5. 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにします。
6. 自車のエンジンをかけます。約 3 分間エンジンを回転させて、応急的に自車のバッテリーを充電します。

⚠警告

禁止 **充電中はバッテリーに近づかない。**
バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

バッテリーがあがったとき

7. **(i-ELOOP 装備車)**
   自車のエンジンがかかったあと、メーター内の i-ELOOP 表示灯が点滅するときがあります。エンジンを回転させ、充電が完了すると消灯します。消灯するのを確認してください。

知識

i-ELOOP 表示灯が点滅中に走行するとチャイムが鳴ります。メッセージ表示中にハンドルを操作すると通常のハンドル操作より重くなるときがありますが、異常ではありません。しばらくすると表示が消えて、通常のハンドル操作に戻ります。
i-ELOOP 表示灯が点滅中はブースターケーブルを切り離さないでください。

8. ブースターケーブルを接続したときと逆の順で取りはずします。
9. バッテリーカバーを取り付けます。
10. 早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

バッテリーがあがりやすいときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 2.2)

⚠注意

禁止
連続して 10 秒以上エンジン始動の操作をしないでください。 スターターを損傷するおそれがあります。
エンジンが始動しない場合、20 秒待ってから再度エンジン始動を試みてください。

燃料切れを起こした場合、少なくとも 10 L の燃料を補給してからエンジンを始動してください。燃料切れが起きると燃料系統に空気が入り、エンジン始動に時間がかかることがあります。燃料を補給したあとでエンジンが始動しない場合、エンジン始動を数回試みてください。それでも始動しないときはマツダ販売店へ連絡してください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートについて

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯 (赤) が点灯し、エンジンの出力が急に低下したとき。
- エンジンルームから蒸気が出ているとき。

⚠警告

禁止 **エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。**
エンジンルーム内が熱いとき、ボンネットを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出てない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分に注意してください。

禁止 **エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けない。**
エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。**
特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まっていてもファンが回転することがあるため、手や衣服などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

処置方法

1. 安全な場所に車を止めます。
2. エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。
   エンジンルームから蒸気が出ているときは
   エンジンを止めてください。蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにボンネットを開け、エンジンを始動してください。
   エンジンルームから蒸気が出ていないときは
   エンジンをかけたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。
   クーリングファンが作動していることを確認し、高水温警告灯 (赤) が消灯したらエンジンを止めます。

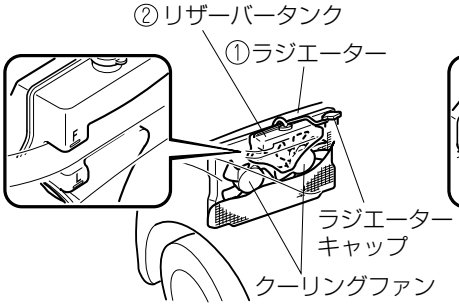
⚠注意

クーリングファンが作動していないときは、クーリングファンの故障が考えられます。ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。

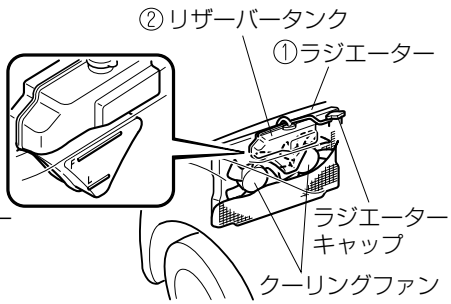
必ず守る

3. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検します。冷却水量が不足しているときは①ラジエーター②リザーバータンクの順に冷却水を補充してください。
   冷却水がない場合は一時的に水を補充してください。
   補充後はキャップを確実に取り付けてください。

SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5



SKYACTIV-D 2.2



4. 早めに最寄りのマツダ販売店で点検を受けてください。

アドバンストキーが作動しないとき

キー一時停止機能

キーが車内にあるとき、車内に置いてあるキーの機能（プッシュボタンスタートでのエンジン始動、リクエストスイッチの操作）が盗難防止のため、一時停止する場合があります。車内から一時停止したキーのアンロックスイッチを押すと復帰します。

けん引してもらうとき

けん引はできるだけマツダ販売店または JAF などに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店または JAF などに連絡してください。

⚠警告

長い下り坂を降りるときは、レッカー車でけん引する。

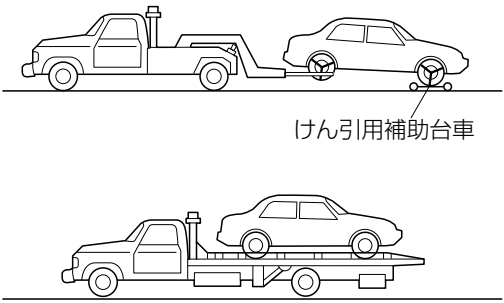
必ず守る **ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。**

⚠注意

必ず守る **オートマチック車をロープでけん引してもらうときは、速度 30 km/h 以下、走行距離は 30 km 以内にしてください。**

必ず守る **4WD 車のけん引は、前後輪すべてを持ち上げるか、前後輪接地状態で搬送してください。駆動装置の故障時は、トレーラーなどに搭載して搬送してください。前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、車輪が台車から飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。**

必ず守る **パーキングブレーキが解除できないときのけん引は、図のように前後輪をすべて持ち上げた状態で搬送してください。車輪を持ち上げないでけん引すると、ブレーキシステムが破損するおそれがあります。**

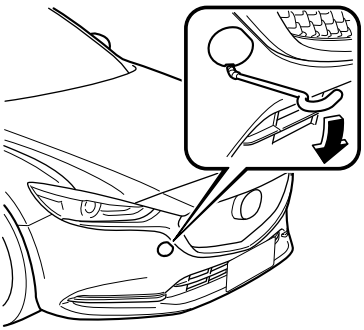


必ず守る **金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。**

やむをえずロープでけん引してもらうときは、車両の前側にあるけん引フックを使用し、次の手順で行なってください。

けん引について

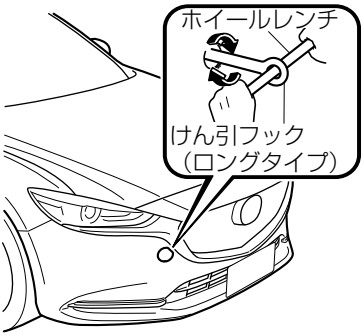
1. けん引フック (ロングタイプ)、ホイールレンチをトランク/ラゲッジルームから取り出します。
→623 ページ「工具、ジャッキの格納場所」



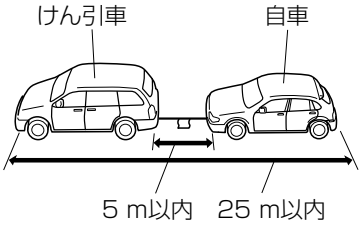
2. マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。

⚠注意

カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。
必ず守る



3. ホイールレンチを使ってけん引フック (ロングタイプ) を確実に取り付けます。



4. けん引ロープをフックにかけます。
5. ロープは 5 m 以内にして、中央に 0.3 m 平方 (0.3 m×0.3 m) 以上の白い布を必ずつけてください。
6. けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー/セレクトレバーを N の位置にいれます。エンジンがかからないときは、電源ポジションを ON にします。

⚠警告

やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転する。

必ず守る

エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

けん引中は電源ポジションを OFF にしないでください。OFF にするとハンドルがロックされ、操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

7. パーキングブレーキを解除します。
→220 ページ「電動パーキングブレーキ (EPB)」
8. けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

故障車をけん引するとき

一般路上でやむをえず故障した車をロープでけん引するときは、後ろ側のけん引フックにロープをかけてけん引してください。

⚠注意

けん引するときは次の点に注意してください。けん引フックや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。

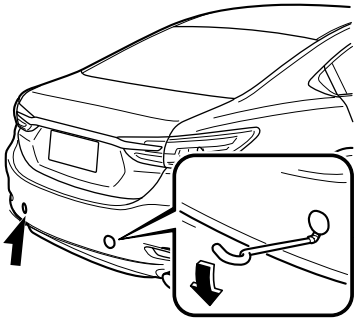
必ず守る

- **自車の重量より重い車はけん引しないでください。**
- **急発進など、けん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。**
- **けん引フック以外にロープをかけないでください。**

金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

必ず守る

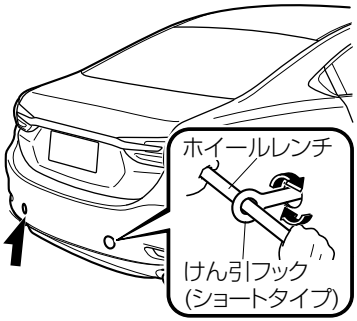
1. けん引フック (ショートタイプ)、ホイールレンチをトランク/ラゲッジルームから取り出します。
→623 ページ「工具、ジャッキの格納場所」



2. マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。

⚠注意

カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。
必ず守る



3. ホイールレンチを使ってけん引フック (ショートタイプ) を確実に取り付けます。

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。

1.事故の続発防止

他の交通のさまたげにならない安全な場所(路肩、空き地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。

2.負傷者の救護

負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。
この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。

3.警察への連絡

事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。

4.相手の氏名、住所などの確認

5.マツダ販売店、保険会社への連絡

知識

事故がおきたら
軽いけがでも、必ず警察に届けましょう。また、外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けましょう。後遺症がでることがあります。

警告灯が点灯、点滅したときは

警告灯/表示灯が点灯/点滅した場合は、それぞれの方法で対処してください。消灯すれば問題ありませんが、消灯しない場合、または再度点灯/点滅する場合はマツダ販売店にご相談ください。
センターディスプレイやメーター内のマルチインフォメーションディスプレイで詳細を確認できる警告があります。

センターディスプレイで確認する

1. ホーム画面の を選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. 「車両ステータス」を選択します。
3. 「ウォーニング」を選択すると、現在発生している警告が表示されます。
4. 確認したい警告を選択すると、警告の詳細が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A/タイプ B) で確認する

1. ステアリングスイッチの INFO スイッチを押すと、警告表示画面が表示されます。
→156 ページ「マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A)」
→175 ページ「マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ B)」

ただちに安全な場所に停車する

次の警告表示/警告灯が表示/点灯/点滅したときはシステムの故障のおそれがあります。
安全な場所に停車しマツダ販売店に連絡してください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 ブレーキ警告灯	次のようなときは点灯し続けます。 ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。 • ブレーキ液が不足しているとき。 • ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常があるとき。 **⚠警告** **ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しない。** 禁 止 **ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。** 必ず守る **ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。** **急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
 充電警告表示/ 警告灯	エンジン回転中、充電装置に異常があると表示/点灯します。 ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。 **⚠警告** **充電警告表示/警告灯が表示/点灯したまま走行しない。** 禁 止 **エンジンが不意に停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。**

警告灯/表示灯

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 オイル警告灯	エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下したときに点灯します。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。 点灯したときは、エンジンオイルの量を点検し、不足しているときは補充してください。 →585 ページ「エンジンオイルの点検、補充」 エンジンオイルの量が不足していないのに点灯するときや、補充しても点灯し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。
 (赤) 高水温警告表示/警告灯	エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点滅し、さらに高くなると表示/点灯します。 **点滅したときは** エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。 **表示/点灯したときは** オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。 →646 ページ「オーバーヒートについて」
 電動パワーステアリング警告表示	エンジン回転中、電動パワーステアリングに異常があると表示します。 表示したときは安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。エンジンを再始動した後でも表示するときは、マツダ販売店に連絡してください。 **知識** • 表示したときは電動パワーステアリングは正常に作動しません。この場合、ハンドル操作は可能ですが、通常に比べて操作が重くなります。 • 停車中または低速走行時にハンドル操作を繰り返すと、システム保護のためハンドル操作が重くなる場合がありますが、異常ではありません。安全な場所に停車し、ハンドル操作をしないでください。しばらくするともとにもどります。

マツダ販売店で点検を受ける

次の警告表示/警告灯または表示/表示灯が表示/点灯/点滅したときは、システムになんらかの故障または異常のおそれがあります。マツダ販売店に連絡し、点検を受けてください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 マスター警告表示	システムに異常があると表示します。 センターディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A/タイプ B) で表示理由を確認してください。 →654 ページ「警告灯が点灯、点滅したときは」
 ABS 警告灯	システムに異常があるときは点灯し続けます。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **警告** **ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。** 必ず守る **急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。** **知識** ABS 警告灯が点灯しているときは、ABS は作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。
 電動パーキングブレーキ (EPB) 警告表示/警告灯	システムに異常があると表示/点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

警告灯/表示灯

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯	パーキングブレーキをかけているときに点灯し、解除すると消灯します。 **点灯するとき** 電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを解除しても点灯し続けるときは、システムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受けてください。 **表示/点滅するとき** システムに異常があるときに表示/点滅します。電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを操作しても表示/点滅し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。
 エンジン警告灯	エンジン制御システムに異常があると点灯/点滅し続けます。 高速走行をせず、マツダ販売店で点検を受けてください。 点検を受けるときは、エンジン警告灯が点灯/点滅したときの走行状態をマツダ販売店にご連絡ください。
i-stop (橙) i-stop 警告灯	システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。
i-ELOOP (橙) i-ELOOP 警告表示	システムに異常があると表示します。マツダ販売店で点検を受けてください。
AT オートマチックトランスミッション警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示/点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
4WD 4WD 警告表示 グレード/仕様別装備	**“4WD システム異常” と表示するとき** 次のようなときに表示します。システムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 4WD システムに異常があるとき ● 前後輪のタイヤサイズが大きく異なるとき **“4WD システムが高負荷です” と表示するとき** 次のようなときに表示します。安全な場所に停車し、消灯したことを確認して発進してください。表示し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。 ● ディファレンシャルオイルの温度が異常に高くなったとき ● ぬかるみから脱出しようとする場合など前後輪のタイヤに大きな回転差が生じたとき
 エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯	次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき。 ● 点灯/点滅し続けるとき。 **⚠警告** **エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しない。** 禁止 **衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。**

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 アクティブボンネット警告灯	次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき。 ● 点灯/点滅し続けるとき。 **⚠警告** **アクティブボンネット警告灯が点灯または点滅したまま走行しない。** 禁止 **歩行者に衝突したときにアクティブボンネット機構が正常に作動せず、本来の機能を果たせないおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。**
 (橙) KEY 警告表示 グレード/仕様別装備	**“キーレスシステム点検”と表示するとき** システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **⚠注意** 必ず守る **同時にプッシュボタンスタートの表示灯（橙）が点滅している場合は、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**
 (点灯) TCS/DSC 作動表示灯	次のようなときは DSC、TCS、またはヒル・ローンチ・アシスト (HLA) の異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。 ● 走行中に点灯したとき。
 ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 警告表示	システムに異常があると表示します。マツダ販売店で点検を受けてください。 **知識** 交通量が少なく、障害物が少ない道路を走行すると、レーダーセンサーが一時的に停止する場合がありますが、故障ではありません。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) OFF 表示灯	次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 • 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき • ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) を作動可能な状態にしても点灯し続けるとき **知識** 悪天候、バンパーの汚れ等によりレーダー感度が一時的に低下し点灯することがありますが、故障ではありません。
 (橙) ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) 警告表示/警告灯 グレード/仕様別装備	システムに異常があると点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **知識** 悪天候 (雨、霧、雪のときなど) やフロントガラスが汚れているとき、曇っているときなどフォワードセンシングカメラ (FSC) の視界が悪い場合、ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)警告灯が点灯することがありますが、故障ではありません。
 (橙) アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯 グレード/仕様別装備	システムに異常があると点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **知識** 悪天候 (雨、霧、雪のときなど) やフロントガラスが汚れているとき、曇っているときなどフォワードセンシングカメラ (FSC) の視界が悪い場合、アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告灯が点灯することがありますが、故障ではありません。
 (点灯) 車線逸脱警報システム警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

警告灯/表示灯

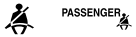
表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 レーンキープ・アシスト・システム (LAS) & 車線逸脱警報システム警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。
 (橙) マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。
 (橙) マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。
 (橙) ドライバー・アテンション・アラート (DAA) 警告表示	システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。
 LED ヘッドランプ警告灯	システムに異常があると点滅します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

処置する

それぞれの処置方法で警告表示/警告灯が消灯することを確認してください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件	処置方法
 (橙) スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告表示 グレード/仕様別装備	フロントガラスが汚れているとき、フロントのエンブレムが汚れているとき、またはシステムに異常があるときに表示します。	センターディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A/タイプ B) で表示理由を確認してください。 →654 ページ「警告灯が点灯、点滅したときは」 表示理由がフロントガラス、またはフロントのエンブレムの汚れのときは、フロントガラス、またはフロントのエンブレムを清掃してください。他の理由のときはマツダ販売店で点検を受けてください。
 燃料残量警告表示/警告灯	電源ポジションが ON のとき、燃料が少なくなると表示/点灯します。 **知識** • 燃料タンク内の燃料残量が 9 L 前後になったときに表示します。表示/点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。 • 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動するため、表示/点灯タイミングが変わる場合があります。	燃料を補給してください。
 エンジンオイルレベル警告灯	エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの下限付近になっているときに点灯します。	エンジンオイルを 1 L 補給してください。 →585 ページ「エンジンオイルの点検、補充」

警告灯/表示灯

表示/名称	表示/点灯/点滅条件	処置方法
 シートベルト警告灯	**点灯するとき** 電源ポジションが ON のとき、運転席/助手席シートベルトを着用していないと点灯します。 **点滅するとき** 運転席/助手席シートベルトを着用しないまま約 20 km/h 以上になるとしばらくの間点滅します。	シートベルトを着用してください。
 ウォッシャー液残量警告表示 グレード/仕様別装備	電源ポジションが ON のとき、ウォッシャー液が少なくなると表示します。	ウォッシャー液を補充してください。
 半ドア/トランク開/リアゲート開警告表示/半ドア警告灯	いずれかのドア/トランク/リアゲートが確実に閉まっていないときに表示/点灯します。	ドア/トランク/リアゲートを確実に閉めてください。
 (白/橙) KEY 警告表示	キーの電池が切れたとき。	電池を交換してください。 →603 ページ「電池を交換するときは」
	キーが作動範囲内にないとき。	キーを作動範囲に入れてください。 →28 ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」
	キーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき。	
	キーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき。	キーに類似した他社のキーを作動範囲外に出してください。
	電源ポジションを OFF にせずに、キーを車外に持ち出したあと、すべてのドアを閉めたとき。	キーを車内に戻してください。

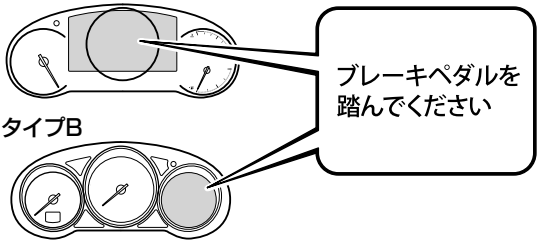
マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは

車両からお知らせがある場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。それぞれの内容を確認して処置してください。

（表示例）

メーター

タイプA



タイプB

警告灯が同時に点灯/点滅したとき、またはマルチインフォメーションディスプレイにシンボルが表示されたときは、警告灯、またはシンボルの内容を確認してください。
→654 ページ「警告灯が点灯、点滅したときは」

表示	内容	処置方法
シフトレバーを"P"に入れてください	セレクトレバーがPの位置ではないときにプッシュボタンスタートを押したときに表示	セレクトレバーをPの位置に入れてください。
始動時はブレーキを踏んでください	ブレーキペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押したときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態でプッシュボタンスタートを押してください。
始動時はクラッチを踏んでください	クラッチペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押したときに表示	クラッチペダルを踏んだ状態でプッシュボタンスタートを押してください。
ステアリングがロックされています	ステアリングロック作動中に表示	ステアリングロックを解除してください。
ブレーキペダルを踏んでください	ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキ(EPB)スイッチを操作したときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態で電動パーキングブレーキ(EPB)スイッチを操作してください。

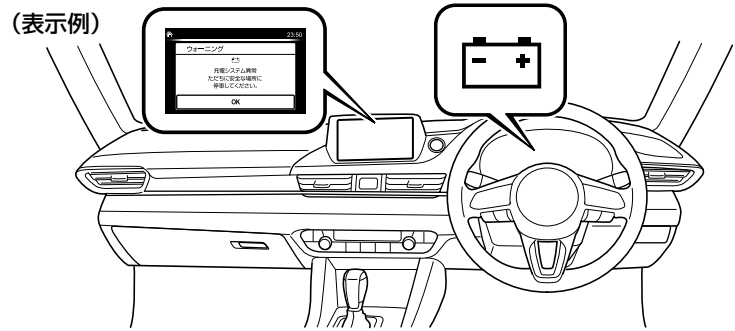
警告灯/表示灯

表示	内容	処置方法
自動ブレーキ保持 システム異常 ブレーキを踏んで ください	オートホールド機能の停車保持中またはマツダ·レーダー·クルーズ·コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の停車保持制御中にブレーキ関連システムが故障したときに表示	ブレーキペダルを踏んでください。 オートホールド機能またはマツダ·レーダー·クルーズ·コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))の使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。
勾配が急すぎます 停車状態を 保持できない 可能性があります	急勾配などでオートホールド機能による停車保持またはマツダ·レーダー·クルーズ·コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の停車保持制御ができない可能性があるときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態にして足を放さないでください。
自動ブレーキ保持 システムをキャンセル するにはブレーキを 踏んで下さい	オートホールド機能の停車保持中にブレーキペダルを踏まずに解除操作をしたときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態でオートホールド機能の停車保持制御を解除してください。
燃料噴射系 クリーニング中 アイドリング回転を 高くしています	エンジン内部を浄化するため、エンジン回転数を上げているときに表示	エンジン内部の浄化中は、セレクトレバーがPまたはNの位置/チェンジレバーがNの位置のときにエンジン回転数が高くなります。エンジン回転数が高いときはエンジンを停止しないでください。エンジン内部の浄化が完了すると、エンジン回転数は通常の回転数になります。

センターディスプレイにメッセージが表示されたときは

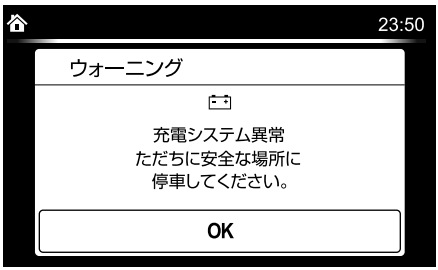
センターディスプレイにメッセージが表示されたときは、落ち着いて表示されたメッセージの方法で処置してください。

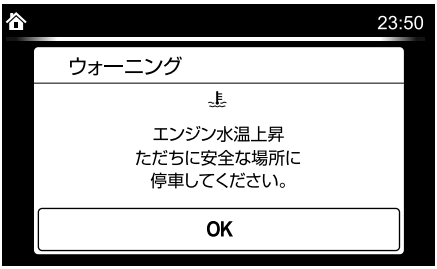
（表示例）



ただちに安全な場所に停車する

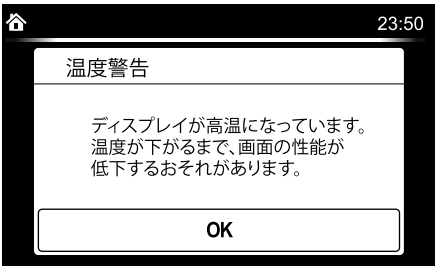
次のメッセージが表示されたときはシステムの故障のおそれがあります。安全な場所に停車しマツダ販売店に連絡してください。

表示	表示条件
	充電装置に異常があると表示します。

表示	表示条件
	エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに表示します。

表示内容を確認する

次のときに表示します。

表示	表示条件/処置方法
	センターディスプレイ周辺温度が高温状態となっているときに表示します。 車室内の温度を下げる、直射日光を避けるなどセンターディスプレイ周辺温度を下げることをおすすめします。

チャイムがなったときは

システムの故障や、使用上の注意が必要な場合に警報チャイムでお知らせします。

チャイム	現象	確認してください
ランプ消し忘れ防止	電源ポジションを OFF にして運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り続ける	ランプを点灯させたままになっていないか
エアバッグ警告/プリテンショナー警告	約 35 分のあいだに、毎分 6 秒間チャイムが鳴り続ける	**⚠警告** **禁止 エアバッグ警告** **チャイム/プリテンショナー警告チャイムが鳴っているまま走行しない** **衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受ける**

警報チャイム

チャイム	現象	確認してください
アクティブボンネット警告	約 35 分のあいだに、毎分 5 秒間チャイムが鳴り続ける。	**⚠警告** **アクティブボンネット警告チャイムが鳴ったまま走行しない。** 禁止 **歩行者に衝突したときにアクティブボンネット機構が正常に作動せず、本来の機能を果たせないおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。**
シートベルト着用忘れ	車速が約 20 km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴る	運転席/助手席シートベルトの着用を確認する 着用すると鳴り止む
電源オフ忘れ警報	運転席ドアを開けたときに、車内のチャイムが鳴り続ける	電源ポジションを OFF にしているか
キー車外持ち出し警報	すべてのドアを閉めたときに車外のチャイムが 6 回鳴ったあと、車内のチャイムが 6 回鳴り、メーター内の KEY 警告表示が表示する	電源ポジションを OFF にせずにキーを車外に持ち出していないか
リクエストスイッチ不作動警報	キーを携帯してドアのリクエストスイッチを押すと、車外のチャイムが約 2 秒間鳴る	いずれかのドア、リアゲートが開いていないか 電源ポジションを OFF にしているか

チャイム	現象	確認してください
リアゲート/トランク内キー閉じ込み警報	フロントドアを施錠した状態でリアゲート/トランクを閉めたときに、車外のチャイムが約 10 秒間鳴る	キーをラゲッジルームに置いていないか
キー車内閉じ込み警報	キーを携帯して施錠しようとしたときに、車外のチャイムが約 10 秒間鳴る	キーを車内に置いていないか
オートホールド警報	オートホールド機能を使用中またはオートホールドスイッチを操作したときに、警告灯の点滅/メッセージの表示と同時に約 5 秒間チャイムが鳴る	オートホールド機能に異常が発生しているため、オートホールドスイッチを操作してもオートホールド機能が作動しない 警告灯の点滅/メッセージの表示と同時にチャイムが鳴るときは、マツダ販売店で点検を受ける
電動ハンドルロック警告	プッシュボタンスタートを押した後、チャイムが鳴る	ハンドルがロックしていないか
i-ELOOP 警告	次の状態で発進させようとするとチャイムが鳴る • i-ELOOP 表示が緑で点滅中 • センターディスプレイに「i-ELOOP 充電中」表示中	停車すると鳴り止む。表示が消えるのを確認する
衝突警報/接近警報	前方車や後方の障害物と衝突する可能性がある場合にチャイムが鳴る	前方車や後方の障害物に近づきすぎていないか
AT 誤発進警報 (オートマチック車)	障害物と衝突する可能性がある場合にチャイムが鳴る	アクセルペダルを踏み間違えていないか

警報チャイム

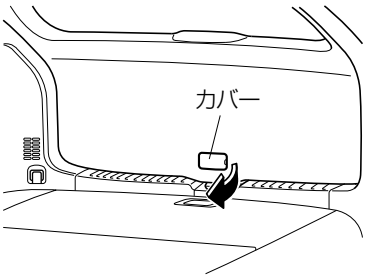
チャイム	現象	確認してください
電動パワーステアリング警告	チャイムが鳴ると同時に電動パワーステアリング警告表示が表示された	安全な場所に停車し、エンジンを停止する 再始動後にも吹鳴するときはマツダ販売店で点検を受ける
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警報	**前進時 (ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 作動)** ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯している側に方向指示器のレバーを操作するとチャイムが鳴る **後退時 (リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) 作動)** 自車後方および自車後方の左右から接近してくる車両と衝突する可能性がある場合にチャイムが鳴る	車両後方の、移動する車両や二輪車などを確認する
速度超過警報	アクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示されている最高速度標識より自車の速度が超えるとアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示している最高速度標識のまわりが橙色に 3 回点滅し、同時にチャイムが 3 回鳴る	周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルを踏むなどの操作をし、法定速度内に減速する
リバースポジション (オートマチック車)	電源ポジションが ON のとき、セレクトレバーを R の位置にするとチャイムが鳴る	セレクトレバーを R の位置以外にすると鳴り止む 車外には聞こえないので注意する

チャイム	現象	確認してください
パーキングブレーキ戻し忘れ	次のときにチャイムが鳴る ● パーキングブレーキをかけたまま走行しているとき ● 走行中に電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを引き、パーキングブレーキをかける操作をしたとき	パーキングブレーキをかけたまま走行していないか 走行中に電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを操作していないか
車線逸脱警報	車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときにチャイムが鳴る	車線から逸脱していないか
ハンドル操作要求警報 グレード/仕様別装備	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムが作動状態 で、ハンドルから手をはなしたときにチャイムが鳴る **知識** ハンドル操作のアシストが非作動 (OFF) のときは鳴りません。	ハンドルから手をはなしていないか

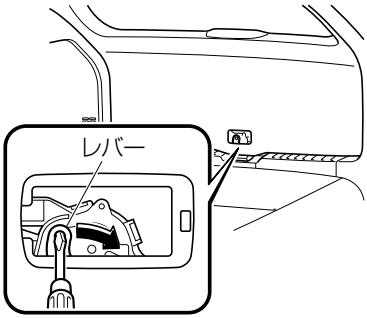
確認してもチャイムが鳴り止まないときは、マツダ販売店に連絡してください。

リアゲートが開けられなくなったとき

バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リアゲートの解錠ができず開けられなくなったときは応急処置として次の方法で開けることができます。



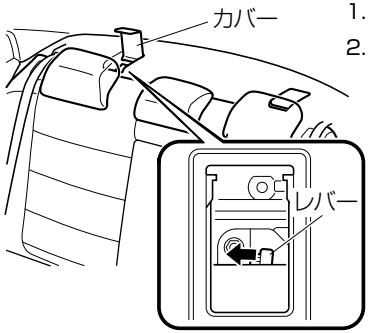
1. リアシートを倒します。
→58 ページ「荷室を作るとき」
2. マイナスドライバーなどを使ってリアゲート車内側にあるカバーをはずします。



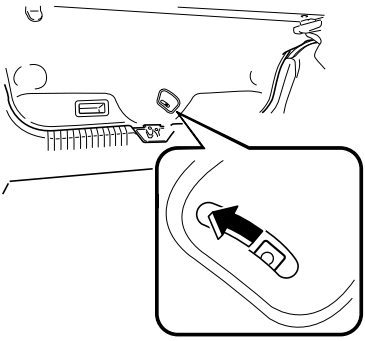
3. レバーを右側に動かして解錠します。
応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

トランクが開けられなくなったとき

バッテリーあがりや電気系統の故障などで、トランクの解錠ができず開けられなくなったときは応急処置として次の方法で開けることができます。



1. カバーを開けます。
2. レバーを左側に動かしてシートの背もたれを倒します。



3. レバーを左側に動かしてトランクを開けます。
応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき

アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないときは電源ポジションを OFF にして、再度エンジンを始動させてください。エンジンを始動させても作動しないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

燃料

使用燃料については、93 ページの「給油するとき」もあわせてお読みください。

項目			サービスデータ
使用燃料	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5		無鉛レギュラーガソリン
	SKYACTIV-D 2.2		低硫黄軽油
タンク容量 (参考値)	SKYACTIV-G 2.0, SKYACTIV-G 2.5		62 L
	SKYACTIV-D 2.2	2WD 車	62 L
		4WD 車	52 L

ディーゼル車の使用燃料について

ディーゼル車の使用燃料 (軽油) は、外気温が低くなると凍結し、燃料パイプが詰まってエンジンの始動ができなくなるなど故障の原因になります。
寒冷地域に移動するときは、現地に着くまでに燃料の残量が 1/2 以下になるようにしておき、到着後はできるだけ早く寒冷地用の燃料を補給してください。

知識

フェリーを利用して寒冷地域に移動するときは、到着後すぐに寒冷地用の燃料を補給できるよう、乗船前の燃料の残量を 1/2 以下にしておいてください。

軽油の種類	使用限界の目安温度*1
JIS 特 1 号	+5℃
JIS1 号	−2.5℃
JIS2 号	−7.5℃
JIS3 号	−20℃
JIS 特 3 号	−30℃

*1　使用条件や環境により多少異なります。

フューエルフィルター (SKYACTIV-D 2.2)

項目	サービスデータ
交換時期	60,000 km 走行ごと

エンジンオイル

オイル量の確認は、必ずレベルゲージで行なってください。
交換時期は走行 km または年月のどちらか早い方で交換してください。
寒冷地では、エンジンオイルが劣化しやすいので、早めにオイルを交換してください。

<table>
<tr><th colspan="3">項目</th><th colspan="2">サービスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">交換時期</td><td colspan="2" rowspan="2">SKYACTIV-G 2.0、
SKYACTIV-G 2.5</td><td>標準</td><td>15,000 km
または 1 年ごと</td></tr>
<tr><td>シビアコンディション[*1]</td><td>7,500 km
または 6 か月ごと</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">SKYACTIV-D 2.2</td><td>標準</td><td>10,000 km
または 1 年ごと</td></tr>
<tr><td>シビアコンディション[*1]</td><td>5,000 km
または 6 か月ごと</td></tr>
<tr><td rowspan="4">オイルグレード</td><td rowspan="2">SKYACTIV-G 2.0[*2]、
SKYACTIV-G 2.5[*2]</td><td>純正モーターオイルゴールデン ECO SN</td><td colspan="2">API SN/ILSAC GF-5、
SAE 0W-20</td></tr>
<tr><td>純正モーターオイルゴールデン SN</td><td colspan="2">API SN/ILSAC GF-5、
SAE 5W-30</td></tr>
<tr><td rowspan="2">SKYACTIV-D 2.2[*3*4]</td><td>純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D</td><td colspan="2">SAE 0W-30</td></tr>
<tr><td>純正ディーゼルオイルエクストラ DL-1</td><td colspan="2">JASO DL-1、SAE 5W-30</td></tr>
</table>

燃料、オイル、液類

項目			サービスデータ
交換量(参考値)	SKYACT IV-G 2.0	オイルのみ	4.0 L
		オイルとオイルフィルター	4.2 L
	SKYACT IV-G 2.5	オイルのみ	4.3 L
		オイルとオイルフィルター	4.5 L
	SKYACT IV-D 2.2	オイルのみ	4.8 L
		オイルとオイルフィルター	5.1 L

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

*2 純正モーターオイルゴールデン ECO SN は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5 には、純正モーターオイルゴールデン ECO SN の使用を推奨します。

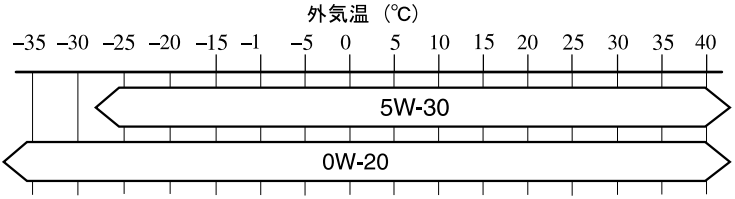
*3 表に記載されたエンジンオイルを使用してください。表に記載されていないエンジンオイルを使用すると、ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) の劣化が早くなります。
オイル交換後は、マツダ販売店などの整備工場で記憶値の初期化 (オイルデータリセット) を行なうか、お客様自身で記憶値の初期化を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示灯またはオイル警告灯が点灯することがあります。
→585 ページ「エンジンオイルの点検、補充」

*4 純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-D 2.2 には、純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D の使用を推奨します。

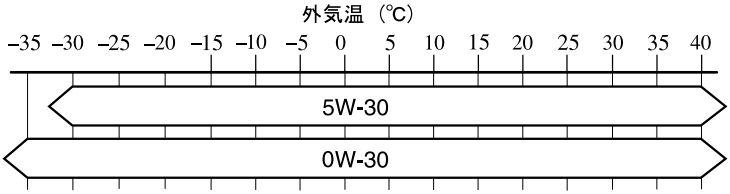
使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表にもとづき使用してください。

SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5



SKYACTIV-D 2.2



エンジンオイルフィルター

項目		サービスデータ	
交換時期	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5	標準	15,000 km または 1 年ごと
		シビアコンディション*1	7,500 km または 6 か月ごと
	SKYACTIV-D 2.2	標準	10,000 km または 1 年ごと
		シビアコンディション*1	5,000 km または 6 か月ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

マニュアルトランスミッションオイル

項目	サービスデータ
推奨オイル	純正ロングライフギヤオイル SAE 75W-80 (GL-4)
容量 (参考値)	2.40 L

オートマチックトランスミッションフルード

項目		サービスデータ
推奨フルード		純正 ATF FZ
容量 (参考値)	SKYACTIV-G 2.0	7.8 L
	SKYACTIV-G 2.5、SKYACTIV-D 2.2	8.0 L

ディファレンシャルオイル (4WD 車)

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	無交換
	シビアコンディション*1	60,000 km 走行ごと
推奨オイル	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1	
容量 (参考値)	0.35 L	

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

トランスファーオイル (4WD 車)

項目	サービスデータ
推奨オイル	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1
容量 (参考値)	0.45 L

ブレーキ液

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
交換時期	2 年ごと (初回は 3 年)
推奨液	純正ブレーキフルード BF-3 (DOT-3)

冷却水

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
交換時期	純正ロングライフクーラント	2 年ごと (初回は 3 年)
	純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1	100,000 km 走行または 4 年ごと (初回は 180,000 km 走行または 9 年)
推奨液		純正ロングライフクーラント、純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1
容量 (参考値)	SKYACTIV-G 2.0	6.8 L
	SKYACTIV-G 2.5	6.9 L
	SKYACTIV-D 2.2	8.6 L

*1 ラジエーターキャップまたはその付近に FL22 のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールデン) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
タンク容量 (参考値)	2WD 車	2.2 L
	4WD 車	4.2 L

ブレーキペダル

項目	サービスデータ
遊び	6 mm 以下
フロアマットとのすき間 (踏力 147 N {15 kgf})	53 mm 以上

クラッチペダル

項目	サービスデータ
遊び (クラッチ油圧が立ちあがるまでのストローク)	10 mm 以下
フロアマットとのすき間 (クラッチが切れたとき)	20 mm 以上

オルタネーターベルト

項目	サービスデータ
たわみ量	自動調整式 (使用限度をこえているものは交換)

エアクリーナーエレメント

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	50,000 km 走行ごと
	シビアコンディション*1	25,000 km 走行ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

スパークプラグ (SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)

項目		サービスデータ
型式	NGK	ILKAR7L11*1
	DENSO	ZC20HPR11*1

*1 SKYACTIV-G の最適な性能を発揮するためのスパークプラグです。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠注意

禁止 **イリジウムプラグを使用しておりますので、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。**

バッテリー

項目		サービスデータ
型式	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5	Q-85*1
	SKYACTIV-D 2.2	S-95*1

*1 Q-85、S-95 はアイドリングストップ車用です。アイドリングストップシステムを正しく作動させるために、Q-85、S-95 を使用してください。
マツダ純正バッテリーの使用を推奨します。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

電球 (バルブ) の容量

電球 (バルブ)		W 数 (12 V 用)	規格 (UN-R[*1] (SAE))
• ヘッドランプ (ハイビーム/ロービーム) • 前面方向指示灯/非常点滅灯 • 車幅灯 • ヘッドランプ (ワイド配光ロービーム) グレード/仕様別装備 • 側面方向指示灯/非常点滅灯 • 制動灯 • 尾灯 • 番号灯 • ハイマウントストップランプ • ドアカーテシランプ		LED[*2]	— (—)
後面方向指示灯/非常点滅灯	LED タイプ (セダン)	LED[*2]	— (—)
	バルブタイプ (ワゴン)	21 W	WY21W (7443NA)
後退灯/リアフォグランプ グレード/仕様別装備	LED タイプ (セダン)	LED[*2]	— (—)
	バルブタイプ (ワゴン)	21 W	W21W (7440)
ルームランプ/フロントマップランプ	LED タイプ	LED[*2]	— (—)
	バルブタイプ	8 W	— (—)
リアマップランプ	LED タイプ	LED[*2]	— (—)
	バルブタイプ	8 W	— (—)

電球 (バルブ)		W 数 (12 V 用)	規格 (UN-R[*1] (SAE))
トランクルームランプ (セダン)	LED タイプ	LED[*2]	— (—)
	バルブタイプ	3 W	— (—)
ラゲッジルームランプ (ワゴン)	LED タイプ	LED[*2]	— (—)
	バルブタイプ	8 W	— (—)
バニティミラーランプ	LED タイプ	LED[*2]	— (—)
	バルブタイプ	2 W	— (—)

*1 UN-R は United Nations Regulation (国連規則) の略です。

*2 LED は Light Emitting Diode の略で発光するダイオードです。

ヒューズ

→589 ページ「ヒューズの受け持つ装置」

タイヤ/ホイール

タイヤ/ホイールサイズ

標準タイヤ

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット(オフセット)	ピッチサークル直径
225/55R17 97V	17×7-1/2 J	50.0 mm	114.3 mm
225/45R19 92W	19×7-1/2 J	45.0 mm	

タイヤ空気圧

標準タイヤ

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
→583 ページ「タイヤの点検」

タイヤサイズ	タイヤ空気圧	
	前輪	後輪
225/55R17 97V	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)
225/45R19 92W	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)

ホイールナットの締め付けトルク

タイヤを取り付けるときは、次のトルクでホイールナットを締め付けてください。
108 N·m～147 N·m (12 kgf·m～14 kgf·m)

ブレーキディスクの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

設定変更 (カスタマイズ機能)

設定変更可能なシステム/装備一覧

安全装備

→693 ページ「安全装備」

- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
- 交通標識認識システム (TSR)
- 車間認知支援システム
- ドライバー･アテンション･アラート (DAA)
- 車線逸脱警報システム
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム
- アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)
- スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R)
- パーキングセンサー
- 360°ビュー･モニター

車両装備

→695 ページ「車両装備」

- 車速感応式オートドアロック
- イルミネーテッドエントリーシステム
- オートワイパー機能
- オートライト機能
- ハイ･ビーム･コントロール･システム (HBC)
- アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)
- ランプ消し忘れ防止チャイム
- カミング･ホーム･ライト
- リービング･ホーム･ライト
- 方向指示器
- スリーフラッシュターンシグナル
- アンビエントライト

その他の装備･機能

→697 ページ「その他の装備･機能」

- アドバンストキーレスエントリー
- アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
- 燃費モニター
- インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)
- 画面
- 音質
- 時計

- 各システム
- リアウインドーデフォッガー (曇り取り)

安全装備

機能の設定をお客様の好みに応じて変更することができます。

- 変更できる機能および内容は車両の仕様により異なります。
- 変更できる機能および内容はソフトアップデートにより予告なしに変更される可能性があります。

次の機能の設定をお客様自身、またはマツダ販売店で変更することができます。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

設定変更方法

1. ホーム画面の を選択して、設定画面を表示します。
2. タブを [安全装備] に切り替えて、設定を変更したいアイテムを選択します。

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) (267 ページ)	
作動/非作動*1	ON/OFF
警報チャイム音量*2	大/小/OFF
交通標識認識システム (TSR) (273 ページ)	
作動/非作動*1	ON/OFF
速度超過警報の警報パターン	OFF/表示のみ/表示＋ブザー
速度超過警報の警報タイミング	＋0 km/h/＋5 km/h/＋10 km/h
車間認知支援システム (280 ページ) グレード/仕様別装備	
作動/非作動*1	ON/OFF
ディスプレイで、前方車に近づきすぎたことを知らせる距離	近い/中間/遠い
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) (284 ページ)	
作動/非作動*1	ON/OFF

設定変更 (カスタマイズ機能)

機能と変更内容 (下線は初期設定)		
車線逸脱警報システム (260 ページ) グレード/仕様別装備		
車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断する距離		自動/近い/<u>標準</u>/遠い
警報感度 (警報しやすさ)		高い/<u>標準</u>/低い
ビープ音		<u>ビープ音</u>/ランブル音
車線逸脱警報の音量の変更	ビープ音	大/<u>小</u>
	ランブル音	大/中/<u>小</u>
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム(317 ページ) グレード/仕様別装備		
ハンドル操作アシストの作動/非作動		<u>ON</u>/OFF
ハンドル操作のアシストが ON のとき	ハンドル操作のアシストを行なうタイミング	早い/<u>遅い</u>
	アシスト感度	<u>低い</u>/標準/高い
	車線逸脱警報音の作動/非作動	<u>ON</u>/OFF
ハンドル操作のアシストが OFF のとき	車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断するタイミング	自動/早い/<u>標準</u>/遅い
	警報感度	高い/<u>標準</u>/低い
車線逸脱警報の種類		<u>ハンドル振動</u>/ビープ音/ランブル音
車線逸脱警報の強さ/音量の変更	ハンドル振動	強/<u>弱</u>
	ビープ音量	大/<u>小</u>
	ランブル音量	大/中/<u>小</u>

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) (329 ページ) **スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) (337 ページ)** **スマート･ブレーキ･サポート (SBS) (345 ページ)** グレード/仕様別装備	
作動/非作動*1	ON/OFF
衝突警報の作動距離	近い/中間/遠い
衝突警報音量	大/小/OFF
パーキングセンサー (399 ページ)	
表示*3/非表示	ON/OFF
360°ビュー･モニター (347 ページ) グレード/仕様別装備	
電源ポジションを ON にしたときの 360°ビュー･モニターの自動表示	ON/OFF
予想進路線の表示/非表示	ON/OFF
後退後から前進する時に表示される、トップビュー/フロントビューの表示/非表示	ON/OFF

*1 特段の理由がない限り、初期設定での使用を推奨します。

*2 音量を変更できるのは、ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 作動時の警報音のみです。リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) 作動時の警報音は音量を変更できません。

*3 超音波センサーが障害物を検出すると 360°ビュー･モニターに切り替わります。(360°ビュー･モニター装備車)

車両装備

機能の設定をお客様の好みに応じて変更することができます。

- 変更できる機能および内容は車両の仕様により異なります。
- 変更できる機能および内容はソフトアップデートにより予告なしに変更される可能性があります。

次の機能の設定をお客様自身、またはマツダ販売店で変更することができます。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

設定変更 (カスタマイズ機能)

設定変更方法

1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。
2. タブを [車両装備] に切り替えて、設定を変更したいアイテムを選択します。

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
車速感応式オートドアロック (34 ページ)	
車速感応式オートドアロックの作動条件	**(マニュアル車)** ロック : 車速連動 アンロック : 電源ポジション連動/ ロック : 車速連動/ OFF **(オートマチック車)** ロック : セレクトレバー連動 アンロック : セレクトレバー連動/ ロック : セレクトレバー連動/ ロック : 車速連動 アンロック : セレクトレバー連動/ ロック : 車速連動 アンロック : 電源ポジション連動/ ロック : 車速連動/ OFF
イルミネーテッドエントリーシステム (549 ページ)	
ドアを閉めてからルームランプが消灯するまでの時間	60 秒/30 秒/15 秒/7.5 秒
ドアが確実に閉まっていないとき、ルームランプが自動的に消灯するまでの時間	60 分/30 分/10 分
オートワイパー機能 (238 ページ)	
作動/非作動	ON/OFF[*1]
オートライト機能 (229 ページ)	
ランプが点灯するタイミング	早く/少し早く/標準/少し遅く/遅く
AFS (アダプティブフロントライティングシステム) (255 ページ) グレード/仕様別装備	
作動/非作動[*2]	ON/OFF
ハイ・ビーム・コントロール・システム (HBC) (255 ページ) グレード/仕様別装備	
作動/非作動[*2]	ON/OFF

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) (258 ページ) グレード/仕様別装備	
作動/非作動*2	ON/OFF
ランプ消し忘れ防止チャイム (232 ページ)	
警報チャイム音量	大/小/OFF
カミング･ホーム･ライト (233 ページ)	
ヘッドランプが消灯するまでの時間	120 秒/90 秒/60 秒/30 秒/OFF
リービング･ホーム･ライト (233 ページ)	
作動/非作動	ON/OFF
方向指示器 (235 ページ)	
ブザー音量	大/小
スリーフラッシュターンシグナル (235 ページ)	
表示/非表示	ON/OFF
アンビエントライト (555 ページ) グレード/仕様別装備	
アンビエントライトの照度*3	明るい/ 中間/ 暗い/ OFF

*1 オートワイパー機能を OFF に変更すると､ワイパーレバーの**AUTO**位置で間欠作動になります。

*2 特段の理由がない限り､初期設定での使用を推奨します。

*3 車幅灯またはヘッドランプが点灯しているときの､アンビエントライトの照度を変更できます。

その他の装備・機能

機能の設定をお客様の好みに応じて変更することができます。

- 変更できる機能および内容は車両の仕様により異なります。
- 変更できる機能および内容はソフトアップデートにより予告なしに変更される可能性があります。

次の機能の設定をお客様自身､またはマツダ販売店で変更することができます。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

アドバンストキーレスエントリー

キーによる施錠/解錠時のチャイム音量設定変更方法

1. 電源ポジションを OFF にして、すべてのドア、リアゲートを閉めます。
2. 運転席ドアを開けます。
3. 運転席ドアを開けてから、30 秒以内にキーのロックスイッチを 5 秒以上長押しします。すべてのドア、リアゲートが解錠され、現在設定されている音量でチャイムが鳴ります。 (現在の設定がチャイムを鳴らないように設定している場合は鳴りません。)
   キーのロックスイッチを押すごとに設定が切り替わり、設定される音量でチャイムが鳴ります。 (チャイムを鳴らないように設定した場合は鳴りません。)
4. 次のいずれかを行なって設定の変更を終了します。
   - 電源ポジションを ACC か ON にする。
   - 運転席ドアを閉める。
   - リアゲートを開ける。
   - 10 秒間キーの操作をしない。
   - キーのロックスイッチ以外のスイッチを押す。
   - リクエストスイッチを押す。

センタディスプレイによる設定変更方法

1. ホーム画面の を選択して、設定画面を表示します。
2. タブを [車両装備] に切り替えて、設定を変更したいアイテムを選択します。

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
アドバンストキーレスエントリー (31 ページ)	
自動的に施錠される時間	90 秒/60 秒/30 秒
オートロック機能の作動/非作動	ON/OFF
施錠/解錠時のチャイム音量	大/標準/小/OFF

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

センタディスプレイによる設定変更方法

1. ホーム画面の を選択して、設定画面を表示します。
2. タブを [AD-Disp] に切り替えて、設定を変更したいアイテムを選択します。

機能と変更内容 (下線は初期設定)
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ (200 ページ)

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
アクティブ･ドライビング･ディスプレイの表示/非表示	ON/OFF
表示の高さ (上下位置)	−13—0—＋13 (計 27 ステップ)
表示の明るさを調節する方法	自動/手動
明るさの調節で、自動調節を選択したときの、基準の明るさ	−2—0—＋2 (計 5 ステップ)
明るさの調節で、手動調節を選択したときの、基準の明るさ	−20—0—＋20 (計 41 ステップ)
表示角度	−3—0—＋3 (計 7 ステップ)
ナビゲーションガイダンスの表示/非表示	ON/OFF

燃費モニター

センタディスプレイによる設定変更方法

1. ホーム画面の(A)を選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. [燃費モニター] を選択します。
3. ∧を選択して、メニュー画面を表示します。
4. 画面の⚙を選択して、設定を変更したいアイテムを選択します。

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
燃費モニター (149 ページ)	
エンディングの表示/非表示	ON/OFF

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

センタディスプレイによる設定変更方法

1. ホーム画面の を選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. [i-DM] を選択します。
3. を選択して、メニュー画面を表示します。
4. メニュー画面の を選択して、設定を変更したいアイテムを選択します。

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) (194 ページ)	
インテリジェント・ドライブ・マスター・ランプの表示/非表示	ON/OFF
エンディングの表示/非表示	ON/OFF

画面

センタディスプレイによる設定変更方法

1. ホーム画面の を選択して、設定画面を表示します。
2. タブを [画面] に切り替えて、設定を変更したいアイテムを選択します。

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
画面設定	
ディスプレイ OFF	ON/OFF
ディスプレイ OFF＋時計表示	ON/OFF
モード (昼画面/夜画面)	自動/昼/夜
明るさ	−5—0—＋5
コントラスト	−5—0—＋5

ディスプレイ OFF
選択すると、画面が消灯します。
ディスプレイ OFF＋時計表示
選択すると、画面が消灯して時計が表示されます。

自動/昼/夜
自動：ライトの点灯/消灯により昼画面と夜画面の表示が切り替わります。ただし、昼間にライトを点けたときなど、ライトセンサーが周辺が明るいと感知した場合は、昼画面表示になります。*1
昼：常に昼画面表示になります。
夜：常に夜画面表示になります。

*1 減光を解除しているときは常に昼画面になります。
メーター (タイプ A)
→161 ページ「パネルライトコントロール」
メーター (タイプ B)
→180 ページ「パネルライトコントロール」

音質

センタディスプレイによる設定変更方法

1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。
2. タブを [サウンド] に切り替えて、設定を変更したいアイテムを選択します。

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
マツダコネクトの設定 (457 ページ)	
Bass (低音調節)	−6—0—＋6 (−側: 低音弱、＋側: 低音強)
Treble (高音調節)	−6—0—＋6 (−側: 高音弱、＋側: 高音強)
Fade (前後音量調節)	前側: フロントスピーカーの音量強調 後側: リアスピーカーの音量強調
Balance (左右音量調節)	右側: 右側スピーカーの音量強調 左側: 左側スピーカーの音量強調
ALC*1 (自動音量調節)	0—7 (7 段階で感度調節)
Bose® Centerpoint*2 (自動音量調節)	ON/OFF
Bose® AUDIOPILOT*2 (自動音量調節)	ON/OFF

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
ビープ音 (操作音設定)	ON/OFF

*1 Bose®サウンドシステム非装備車

*2 Bose®サウンドシステム装備車

ALC (自動音量調節)
オートマチックレベルコントロール (ALC) は、車速に応じて自動的にオーディオの音量/音質が変化する機能です。車速が早いほど変化量は大きくなり、車速が遅いほど変化量は小さくなります。

Bose® Centerpoint (自動音質調節)
Centerpoint®*3 は、既存の CD、MP3 から Bose®のサラウンドサウンドを体験させてくれます。
特に車内でサラウンドサウンドを再生させるために必要な設定になっています。
同時に、強化されたアルゴリズムによって、幅のある広々とした音場を作り出しています。

Bose® AUDIOPILOT (自動音量調節)
運転するときに発生するノイズは、音楽の邪魔になります。
AUDIOPILOT™*4 ノイズ補正システムは、車載マイクで車室内のノイズを収集し、音楽等の音量を自動で調節します。
強化された DSP アルゴリズムは、悪路や高速走行の状況に、より素早く効果的な補正を可能にします。

*3 Centerpoint®は Bose コーポレーションの登録商標です。

*4 AUDIOPILOT™は Bose コーポレーションの登録商標です。

時計

センタディスプレイによる設定変更方法

1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。
2. タブを [時計] に切り替えて、設定を変更したいアイテムを選択します。

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
時計	
時刻設定	GPS 同期 OFF 時に、時刻を変更します。 ＋を選択すると時間/分が進み、－を選択すると時間/分がもどります。 12h 表示のときのみ、AM/PM の選択ができます。
GPS 同期	ON/OFF

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
時刻表示	12h/24h
タイムゾーン	GPS 同期 OFF の時に、指定したい地域を選択できます。

各システム

センタディスプレイによる設定変更方法

1. ホーム画面の⚙を選択して、設定画面を表示します。
2. タブを [システム] に切り替えて、設定を変更したいアイテムを選択します。

機能と変更内容 (下線は初期設定)		
システム設定/情報		
ボタン説明の表示/非表示		ON/OFF
ミュージックデータベース更新		Gracenote®を更新します。USB オーディオとともに使用されます。 • 音楽情報の補足 (曲名、アーティスト名など) • 音楽認識によるアーティスト再生、アルバム再生の補助 →487 ページ「USB オーディオ機器の音楽を聞く」
工場出荷時の状態にリセット		音質設定以外の設定が初期化されます。 **Yes** を選択すると初期化が実行されます。
システム情報	免責事項	免責事項を確認できます。
	バージョン情報	オーディオユニットの OS バージョンと Gracenote®データベースバージョンを確認することができます。
言語[*1]		日本語/表示画面から言語を選択します。

*1 センターディスプレイの言語表示のみ変更できます。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り)

リアウインドーデフォッガーの設定を変更する場合は、マツダ販売店にご相談ください。

機能と変更内容 (下線は初期設定)	
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) (242 ページ)	
作動時間	15 分/連続[*1]

*1 リアウインドーデフォッガー (曇り取り)の作動時間を連続に変更しても、外気温の影響により 15 分で作動を停止する場合があります。

さくいん

A

AAS モード.....206
ABS (アンチロックブレーキシステム).....245
AFS (アダプティブフロントライティングシステム).....255
AT 誤発進抑制制御 [後退時].....342
AT 誤発進抑制制御 [前進時].....333

D

DPF (ディーゼルパティキュレートフィルター).....408
DSC (ダイナミックスタビリティコントロール).....249
　DSC OFF スイッチ.....250
　DSC OFF 表示灯.....251
　TCS/DSC 作動表示灯.....250

E

EDR (イベントデータレコーダー).....109

I

i-ACTIVSENSE.....252
　AFS (アダプティブフロントライティングシステム).....255
　AT 誤発進抑制制御 [後退時].....342
　AT 誤発進抑制制御 [前進時].....333
　アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH).....258
　アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS).....329
　交通標識認識システム (TSR).....273
　360° ビュー･モニター.....347
　車間認知支援システム (DRSS).....280
　車線逸脱警報システム.....260
　スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R).....337
　スマート・ブレーキ・サポート (SBS).....345
　超音波センサー (フロント).....383
　超音波センサー (リア).....384
　ドライバー・アテンション・アラート (DAA).....284
　ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC).....255
　フォワードセンシングカメラ (FSC).....374
　ブラインド・スポット・モニタリング (BSM).....267
　フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ.....385
　マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC).....290
　マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)).....302
　リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA).....286
　レーダーセンサー (フロント).....379
　レーダーセンサー (リア).....382
　レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム.....317
i-ACTIV AWD.....228
i-DM.....194
i-ELOOP.....147
　充電表示.....148
i-ELOOP (アイイーループ).....147
i-stop (アイストップ).....138
　i-stop 警告チャイム.....144

i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑)....143
i-stop OFF スイッチ....144
発進補助装置....145

S

SRS エアバッグシステム....99
EDR....109
エアバッグの種類....99
エアバッグの注意点....101

T

TCS (トラクションコントロールシステム)....248
TCS/DSC 作動表示灯....248

U

USB 電源ソケット....558

ア

アームレストボックス....564
アイドリングストップ....138
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ....200
作動しないとき....676
アクティブセーフティ技術....252
アクティブボンネット....110
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)....258
アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)....329
衝突警報....331
アドバンストキー
エンジンをかけるとき....131
アルミホイール
手入れ....609
アンチロックブレーキシステム (ABS)....245
アンテナ....447

イ

イグニッション (エンジン)
キー....25
スイッチ....129
イモビライザーシステム....97
イルミネーテッドエントリーシステム....549
インテリアライト (室内照明)....549
インテリジェント・ドライブ・マスター....194
インナーミラー
ルームミラー....70

ウ

ウインカー (方向指示器)
電球 (バルブ) 交換....597
レバー....235
W (ワット) 数....688
ウインドー
曇ったとき....424
手入れ....608
パワーウインドー....87
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ....242
ウインドーワイパーデアイサー....243
ウォッシャー
ウォッシャー液の補充....587
ウォッシャースイッチ....237
タンク容量....685
冬にそなえて (濃度の調節)....613

エ

エアクリーナーエレメント
交換時期....686
エアコン (空調)....416
上手な使いかた....416
吹き出し口 (空調)....418
フルオートエアコン....420

エアバッグシステム.....99
EDR.....109
エアバッグの種類.....99
エアバッグの注意点.....101
エマージェンシーシグナルシステム (ESS).....247
エンジン
かけかた.....130
キー.....25
きるとき.....137
始動しないとき.....645
スイッチ.....129
エンジンオイル
交換時期、オイルグレード、交換量.....679
点検.....585
フィルター.....682
冬にそなえて.....613
エンジンフード (ボンネット)
開けかた.....576
閉めかた.....578
エンスト
故障したとき.....622
エンスト (故障したとき).....622

オ

オートホールド.....223
オートマチックトランスミッション.....205
AAS モード.....206
運転するときに.....214
キックダウン.....205
クリープ現象.....205
シフトロック装置.....207
セレクトレバー.....208
ダイレクトモード.....213
駐車するとき.....214
マニュアルモード.....209
オートマチックトランスミッションフルード
推奨フルード、容量.....682
オーバーヒートしたとき.....646
オーバーヒートについて.....646
オーバーヘッドコンソール.....563
大型コンソールボックス.....563
お子さまの安全
お子さま専用シート選択の目安.....80
お子さま専用シートについて...78
お子さま専用シートの種類.....79
固定ロアアンカレッジ.....84
チャイルドシートを固定するとき.....84
チャイルドプルーフ.....36
オルタネーターベルト
点検基準値.....686

カ

ガソリン (燃料)
使用燃料、容量.....677
燃料補給口.....93
カップホルダー.....560
カミング・ホーム・ライト.....233
カメラ、センサ.....253
カメラ、センサー.....253
ガラス
曇ったとき.....424
手入れ.....608
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....242

キ

キー.....25
キー車外持ち出し警報.....669
キー車内閉じ込み警報.....669

キーの電池交換.....603
作動しないとき.....648
作動範囲..... 28
ドアの施錠/解錠.....31
トランク内キー閉じ込み警報 669
リアゲート内キー閉じ込み警報 669
リアゲート/トランク内キー閉じ込み警報.....669
リクエストスイッチ不作動警報 669
ギア･シフト･インジケーター (GSI).....204
キックダウン..... 205
緊急用具.....623

ク

空気圧 (タイヤ).....690
空調 (エアコン).....416
吹き出し口 (空調)..... 418
フルオートエアコン.....420
クラクション (ホーン)..... 244
クラッチスタート.....130
クラッチペダル
点検基準値..... 686
クリープ現象..... 205
クルーズコントロール.....386
グローブボックス.....562

ケ

警告灯
i-stop 警告灯..... 143
警告灯/表示灯が点灯､点滅した... 654
警告表示/警告灯
ABS 警告灯..... 657
i-ELOOP 警告表示.....657
i-ELOOP 警告表示/警告灯... 657
i-stop 警告灯.....657
KEY 警告表示.....657
LED ヘッドランプ警告灯.....657
アクティブボンネット警告灯 657
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯 657
ウォッシャー液残量警告表示 663
エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯.....657
エンジンオイルレベル警告灯 663
エンジン警告灯.....657
オートマチックトランスミッション警告表示.....657
オートマチックトランスミッション警告表示/警告灯..... 657
オイル警告灯.....655
高水温警告表示/警告灯..... 655
シートベルト警告灯.....663
車線逸脱警報システム警告表示 657
充電警告表示/警告灯.....655
スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示..... 663
電動パーキングブレーキ (EPB) 警告表示/警告灯..... 657
電動パワーステアリング警告表示 655
ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 警告表示..... 657
トランク開警告表示.....663
燃料残量警告表示/警告灯..... 663

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) 警告表示/警告灯 657
半ドア警告灯..... 663
半ドア警告表示..... 663
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告表示..... 657
ブレーキ警告灯..... 655
マスター警告表示..... 657
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 警告表示 657
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示..... 657
リアゲート開警告表示..... 663
レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム警告表示..... 657
4WD 警告表示..... 657
警報音
i-stop 警告チャイム..... 144
警報チャイム..... 669
AT 誤発進警報..... 669
i-stop 警告チャイム..... 144
i-ELOOP 警告チャイム..... 669
アクティブボンネット警告チャイム..... 669
エアバッグ/プリテンショナー警告チャイム..... 669
オートホールド警報チャイム 669
キー車外持ち出し警報..... 669
キー車内閉じ込み警報..... 669
シートベルト着用忘れチャイム 669
車線逸脱警報..... 669
衝突警報..... 669
接近警報..... 669
速度超過警報チャイム..... 669
電源オフ忘れ警報..... 669
電動パワーステアリング警告チャイム..... 669
電動ハンドルロック警告チャイム 669
トランク内キー閉じ込み警報 669
パーキングブレーキ戻し忘れチャイム..... 669
ハンドル操作要求警報..... 669
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警報..... 669
ランプ消し忘れ防止チャイム 669
リアゲート内キー閉じ込み警報 669
リクエストスイッチ不作動警報 669
リバースポジションチャイム 669
化粧鏡 (バニティミラー)..... 549
けん引..... 649
けん引について..... 649

コ

コインボックス..... 562
交換
タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)..... 588
電球 (バルブ) 交換..... 597
電池交換 (キー)..... 603
ヒューズの交換..... 595
工具..... 623
後退灯 (バックランプ)
電球 (バルブ) 交換..... 597
W (ワット) 数..... 688
交通標識認識システム (TSR)..... 273

サ

サービスデータ
設定変更 (カスタマイズ機能)..... 692
サイドミラー
ドアミラー..... 68
サブトランクボックス.....564
サンシェード..... 92
サンバイザー..... 549
360° ビュー・モニター.....347
サイドビュー.....362
使用するとき.....353
トップビュー/フロントビュー 358
トップビュー/リアビュー..... 365
リアワイドビュー.....369
ワイドフロントビュー..... 361
サンルーフ..... 90

シ

シート
フロントシート.....48
ヘッドレスト..... 62
リアシート..... 57
シートヒーター..... 64
シートベルト
ELR (緊急時固定) 機構..... 72
3 点式シートベルト..... 75
種類..... 72
高さ調節..... 77
正しい着用のしかた..... 73
着用忘れチャイム..... 75
手入れ..... 610
プリテンショナー機構..... 73
ロードリミッター機構..... 73
シートベンチレーション..... 66
室内照明..... 549
イルミネーテッドエントリーシステム..... 549
トランクルームランプ..... 554
ラゲッジルームランプ..... 554
ルームランプ..... 550
室内灯 (ルームランプ)
スイッチ..... 550
電球 (バルブ) 交換..... 597
W (ワット) 数..... 688
車間認知支援システム (DRSS)... 280
車線逸脱警報システム..... 260
ジャッキ..... 625
車幅灯 (スモールランプ)
スイッチ..... 229
電球 (バルブ) 交換..... 597
W (ワット) 数..... 688
収納..... 562
アームレストボックス..... 564
オーバーヘッドコンソール... 563
大型コンソールボックス..... 563
グローブボックス..... 562
コインボックス..... 562
サブトランクボックス..... 564
ラゲッジフック..... 564
ラゲッジルーム..... 564
リアコートフック..... 567

ス

スイッチ
DSC OFF スイッチ..... 250
i-stop OFF スイッチ..... 144
ウォッシャースイッチ..... 237
クルーズコントロールスイッチ 386
車線逸脱警報システム OFF スイッチ..... 262

ドライブセレクションスイッチ 219
非常点滅灯スイッチ..... 236
ヘッドランプウォッシャースイッチ..... 241
ヘッドランプスイッチ..... 229
リアフォグランプスイッチ... 237
ルームランプスイッチ..... 550
ワイパースイッチ..... 237
スタックしたとき..... 621
ステアリングヒーター..... 66
ステアリング (ハンドル)
ロックされたとき..... 129
ストップランプ (制動灯)
電球 (バルブ) 交換..... 597
W (ワット) 数..... 688
スノータイヤ..... 614
スパークプラグ..... 687
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)..... 337
スマート・ブレーキ・サポート (SBS)..... 345
スモールランプ (車幅灯)
スイッチ..... 229
電球 (バルブ) 交換..... 597
W (ワット) 数..... 688
スリーフラッシュターンシグナル 235

セ

制動灯 (ストップランプ)
電球 (バルブ) 交換..... 597
W (ワット) 数..... 688
セレクトレバー..... 208
洗車..... 607
前照灯 (ヘッドランプ)
スイッチ..... 229
電球 (バルブ) 交換..... 597
W (ワット) 数..... 688

タ

ターンシグナル (方向指示器)
電球 (バルブ) 交換..... 597
レバー..... 235
W (ワット) 数..... 688
ダイナミックスタビリティコントロール (DSC)..... 249
DSC OFF スイッチ..... 250
DSC OFF 表示灯..... 251
TCS/DSC 作動表示灯..... 250
タイヤ
空気圧..... 690
サイズ..... 690
チェーン..... 614
点検..... 583
パンク応急修理キット..... 632
パンクしたとき..... 632
冬にそなえて..... 614
ローテーション (位置交換)... 588
ダイレクトモード..... 213
脱輪などで動けなくなったとき... 622

チ

チェーン (タイヤチェーン)..... 614
チャイルドシート..... 78
お子さま専用シート選択の目安 80
お子さま専用シートの種類..... 79
固定ロアアンカレッジ..... 84
チャイルドシートを固定するとき 84
チャイルドプルーフ..... 36
駐車支援システム..... 391
パーキングセンサー..... 399
バックガイドモニター..... 392
駐車するとき

オートマチック車.....214
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)
操作方法..... 220
超音波センサー (フロント).....383
超音波センサー (リア)..... 384

テ

テールランプ (尾灯)
スイッチ..... 229
電球 (バルブ) 交換..... 597
W (ワット) 数.....688
定期点検.....576
手入れ
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ.....612
アルミホイール.....609
インストルメントパネル上面 612
外装.....606
外装樹脂部品.....609
ガラス..... 608
革張り部分..... 611
シートベルト.....610
樹脂部品..... 612
洗車.....607
ソフトパッド部.....612
内装.....610
布張り部分..... 611
パネル..... 612
ビニール..... 611
フロントガラスの油膜をとるときは..... 608
ミラー..... 608
ワックスがけ.....608
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF)..... 408
ディーゼル (燃料)
使用燃料、容量.....677
ディスプレイ
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ.....200
ディファレンシャルオイル
推奨オイル、容量.....683
電球
電球 (バルブ) 交換..... 597
W (ワット) 数.....688
点検整備について.....574
電源ソケット..... 556
電源ポジション..... 129
電動格納ミラー
ドアミラー..... 69
電動格納ミラー (ドアミラー).....69
電動スライドガラスサンルーフ..... 90
電動ミラー
ドアミラー..... 68
電動ミラー (ドアミラー).....68
電動リアウインドーサンシェード 568

ト

ドア.....30
チャイルドプルーフ.....36
ドアミラー..... 68
パワードアロック.....35
リアゲート..... 37
ドアミラー..... 68
角度調節..... 68
格納.....69
曇り取り..... 244
盗難防止システム..... 97
トノカバー.....41
ドライバー・アテンション・アラート (DAA).....284
ドライバ選択..... 198

ドライビングポジションメモリー機能 53
ドライブセレクション.....218
トラクションコントロールシステム (TCS).....248
TCS/DSC 作動表示灯.....248
トランク.....44
開けかた.....44
開けられなくなったとき.....675
閉めかた.....46
トランクルームランプ.....554
トランスファーオイル
推奨オイル、容量.....684
トランスミッション
オートマチック.....205
マニュアル.....203

ナ

夏にそなえて.....615
ナンバープレートランプ (番号灯)
スイッチ.....229
電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688

ニ

荷室を作るとき.....58
日常点検.....576

ネ

燃費モニター.....149
燃料
給油するとき.....93
使用燃料、容量.....677
燃料切れしたとき.....645

ハ

パーキングブレーキ
操作方法.....220
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC).....255
ハイビーム (ヘッドランプ上向き)
切り替え.....232
電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688
ハイマウントストップランプ
W (ワット) 数.....688
ハザードランプ (非常点滅灯)
スイッチ.....236
電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688
発炎筒.....623
バックガイドモニター.....392
バックミラー
ルームミラー.....70
パッシング合図.....232
発進補助装置.....145
バッテリー
あがったとき.....641
型式.....687
点検.....586
冬にそなえて.....613
バニティミラー (化粧鏡).....549
バルブ (電球)
電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688
パワーウインドー.....87
パワードアロック.....35
番号灯 (ナンバープレートランプ)
スイッチ.....229
電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688

ヒ

非常点滅灯
スイッチ.....236

電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688
尾灯 (テールランプ)
スイッチ.....229
電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688
ビニール
手入れ.....611
ヒューズ.....589
エンジンルーム内ヒューズボックス.....591
室内ヒューズボックス.....589
ヒューズ点検、交換.....589
表示
クルーズコントロール表示 (緑).....386
クルーズメイン表示 (白).....386
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 表示 (緑).....293
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示 (緑).....307
マニュアルモード表示.....209
表示灯
DSC OFF 表示灯.....251
i-stop 表示灯.....143
TCS/DSC 作動表示灯.....248
車線逸脱警報システム OFF 表示灯.....265
スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) OFF 表示灯 332
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) OFF 表示灯.....347
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 表示灯 (緑)....257
表示/表示灯
TCS/DSC 作動表示灯.....657
電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯.....657
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) OFF 表示灯...657
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA) (坂道発進補助機能).....246

フ

ブースターケーブルのつなぎ方... 642
フォグランプ
リア.....237
フォワードセンシングカメラ (FSC).....374
吹き出し口 (空調).....418
フック
けん引.....649
踏切内で動けなくなったとき.....622
冬にそなえて.....613
冬用タイヤ (スノータイヤ).....614
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM).....267
プリクラッシュセーフティ技術... 253
ブレーキ.....220
ブレーキ液 (フルード)
交換時期、推奨液.....684
ブレーキペダル
点検基準値.....686
ブレーキランプ (制動灯)
電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ.....385
フロントシート.....48

ヘ

ヘッドランプウォッシャー.....241
ヘッドランプ (前照灯)

切り替え..... 232
スイッチ..... 229
電球 (バルブ) 交換..... 597
パッシング合図..... 232
レベリング..... 234
W (ワット) 数..... 688
ヘッドレスト..... 62

ホ

ホーン..... 244
ホイール
サイズ..... 690
手入れ..... 609
方向指示器
電球 (バルブ) 交換..... 597
レバー..... 235
W (ワット) 数..... 688
ボトルホルダー..... 561
ボンネット..... 576

マ

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)..... 290
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))..... 302
停車保持制御..... 313
マツダコネクト..... 426
Bluetooth®をご使用の前に..... 511
Bluetooth® ハンズフリー..... 523
アンテナ..... 447
オーディオソースの使いかた..... 458
トラブルシューティング..... 543
マツダコネクトでできること..... 426
マツダコネクトの設定..... 457
マツダコネクトの操作方法... 448
マツダコネクトをご使用の前に..... 430
マツダコネクト 4 つの操作方法..... 428
マニュアルトランスミッション... 203
ギア･シフト･インジケーター (GSI)..... 204
マニュアルトランスミッションオイル..... 682
推奨オイル、容量..... 682
マニュアルモード..... 209
マルチインフォメーションディスプレイ
メッセージが表示された..... 665

ミ

ミラー
手入れ..... 608
ドアミラー..... 68
バニティミラー..... 549
ルームミラー..... 70

メ

メーター..... 153
メーター (タイプ A)..... 154
メーター (タイプ B)..... 174
メーター (タイプ A)..... 154
オドメーター..... 159
外気温表示..... 162
警告表示..... 165
警告表示/警告灯..... 166
車間認知支援システム表示... 164
瞬間燃費表示..... 163
水温計..... 159
スピードメーター..... 154
走行可能距離表示..... 162
タコメーター..... 155

トリップメーター.....159
燃料計.....160
パネルライトコントロール...161
表示/表示灯.....169
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示.....163
平均燃費表示.....162
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示.....164
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示.....164
マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A).....156
メンテナンスモニター.....163
予熱表示灯.....173
レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示.....165
レンチ表示灯.....173
メーター (タイプ B).....174
オドメーター/トリップメーター.....178
外気温表示.....180
クルーズコントロール設定車速表示.....184
警告表示.....184
警告表示/警告灯.....185
車間認知支援システム表示...182
車線逸脱警報システム表示...183
瞬間燃費表示.....182
水温計.....178
スピードメーター.....174
走行可能距離表示.....181
タコメーター.....175
低水温表示灯.....192
燃料計.....179
パネルライトコントロール...180
表示/表示灯.....188
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示.....182
平均燃費表示.....181
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示.....183
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示.....183
マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ B).....175
メンテナンスモニター.....182
予熱表示灯.....193
レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示.....183
レンチ表示灯.....192
メンテナンスモニター.....409

ラ

ライセンスプレートランプ (番号灯)
電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688
ラゲッジフック.....564
ラゲッジルーム.....564
ラゲッジルームランプ.....554
ランプ
カミング・ホーム・ライト...233
消し忘れ防止チャイム.....232
スイッチ.....229
電球 (バルブ) 交換.....597
点灯しないとき.....595
リービング･ホーム･ライト...233
レベリング.....234

W (ワット) 数.....688

リ

リービング・ホーム・ライト.....233
リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA).....286
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....242
リアゲート.....37
開けかた.....38
開けられなくなったとき.....674
閉めかた.....39
リアコートフック.....567
リアシート.....57
リアフォグランプ
電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688
リアワイパー.....241

ル

ルームミラー.....70
ルームランプ.....550
スイッチ.....550
電球 (バルブ) 交換.....597
W (ワット) 数.....688

レ

レーダーセンサー (フロント).....379
レーダーセンサー (リア).....382
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム 317
冷却水
交換時期、推奨液、容量.....685
冬にそなえて (濃度の調節)...613

ロ

路上で動けなくなったとき.....620

ワ

ワイパー
寒冷地用ワイパーブレード...613
スイッチ.....237
フロント.....238
リア.....241
ワックスがけ.....608

MEMO

MEMO

お問い合わせ、ご相談はお近くのマツダ販売店または、
下記へお願いいたします。

マツダ㈱コールセンター

全国共通フリーダイヤル

0120-386-919

受付時間

平日　　9:00～17:00

土・日・祝日　9:00～12:00 13:00～17:00

携帯電話からもご利用になれます。

弊社における個人情報の取扱いは、
弊社ウェブサイトに掲載しています。
(http：//www.mazda.co.jp)

発行元 マツダ株式会社

〒 730-8670 広島県安芸郡府中町新地 3-1
発行　2018 年 4 月
印刷　2018 年 12 月
717 頁 3 版